早くも加熱! 大晦日格闘技大戦、先取り特報!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAG

enterbrain MOOK

2005
93
880yen



初体験、(ハッスルデビュー)

快感フォー!!

超ド級のカード続々決定!!
大晦日格闘技戦争の行方!

フジテレビ番組ディレクターが語る
『PRIDE男祭り』

K-1プロデューサーが語る
『Dynamite!!』

ミルコ、サクがSTARTING OVER!
『男祭り』での
対戦相手は誰だ!?

ROAD TO 男祭り
PRIDE.30 3大インタビュー
セルゲイ・ハリトーノフ
"ランペイジ"ジャクソン
ズール親子

『Dynamite!!』出場決定!
"ZSTの女神"と特別対談
所英男×小野寺愛

11·5『HERO'S』&K-1コリアMAX
韓国現地潜入リポート!

"プロ筆下ろし"大成功!
独占ロングインタビュー
レイザーラモン
HG

ついに大ブレイク!
11·3
ハッスル・マニア
総力特集!!

11·23『U-STYLE Axis』直前
特集なぜ、いま"U"なのか?
田村潔司×
イリューヒン・ミーシャ
ジョシュ・バーネット/川田利明

格闘評論新次元
音楽界とお笑い界の論客が激突!!
菊地成孔×水道橋博士

伝説の"フッカー"が語る真のプロレスリング
ダニー・ホッジ

独占告白「私がハッスルした理由」
和泉流二十世宗家
和泉元彌

WWEで大変身! ハッスルマニア
助演男優&女優賞はこの二人だ!!
鈴木健想
&浩子

一部で話題沸騰!
"マッスル"とは何なんだ!?
全11Pどう考えてもやりすぎ大特集!

kamipro 2005 93
ついに大ブレーク、フォー!
ハッスル・マニア総力特集!

2005年12月3日発行
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社

enterbrain


自毛を7倍に。
スポーツしても
シャンプーしても
ひっぱってもOK

緊急決定!!

小川直也 vs 吉田秀彦

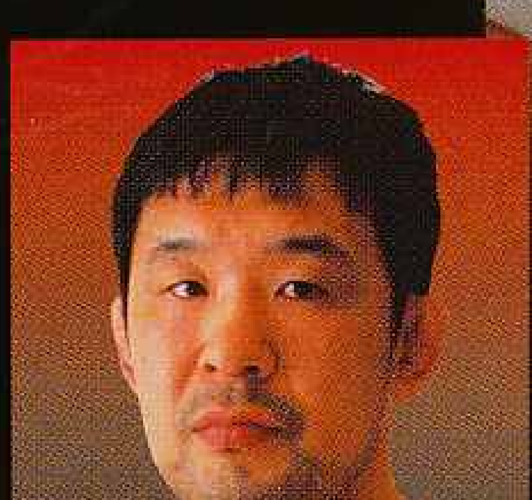


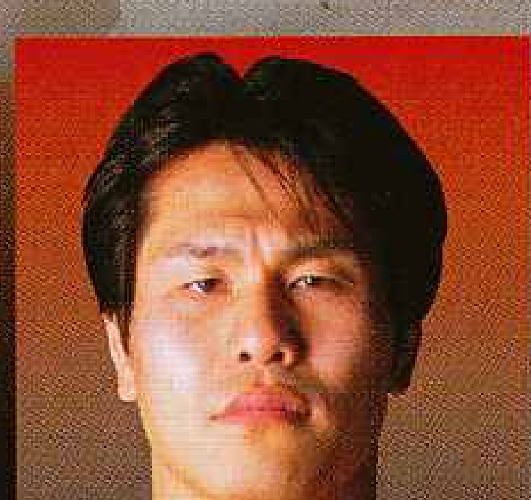
超因縁の対決が本当に実現!!

頂上決闘

PRIDE男祭り2005 ―頂―
ITADAKI

小川直也vs吉田秀彦の"禁断の日本人·頂上決闘"が実現?　消滅?　大晦日『PRIDE男祭り2005ー頂　ITADAKIー』の目玉として、水面下で交渉が進められていたスーパーウルトラプレミアムダイナマイトカード。ところが正式契約前の11月11日、一部スポーツ紙が先行報道してしまったため、締切現時点でカード自体が吹っ飛ぶ可能性が出てきた。報道を受けて緊急会見を行なったDSEの榊原代表は、「心ない新聞報道により、いまはいろんなものがうしろに向かって進んでいます」――いったいどうなる!?　詳細については12月21日発売予定の大晦日大展望ド直前号にて。そして今年こそ桜庭vs田村は実現するのか……?　乞うご期待!





そして桜庭vs田村は
今年こそ実現するのか――?



ア
レイクを読む!!

Can you dig it?
これが理解できるか？

!! KYORAKU PRESENTS

ハッスル・マニア 2005
ファイティングオペラ

40ページ ブチ抜き大特集!!
フォ～ッ!!

ハッスル・マニ
大ブレ





1・3『ハッスル・マニア2005』は
プロレスが〝脱・宗教〟した記念日だ!!

ハッスル イベントプロデューサー兼（たまに）本誌編集長・山口日昇が語る

今回の『ハッスル・マニア2005』は「おもしろい！」「つまんない！」「革命だ」「愚弄だ」といったさまざまな意見があるだろうね。ただ、ひとつ言えるのは、プロデューサーという立場というか、作り手側としては、非常に手応えを感じたよね。

成功したかどうかはファンやマスコミに判断してもらうしかないんだけど、当日の客席の熱の帯び方や、その後の一部マスコミや一部ネットでの議論も含めて、窓を大きく開けて空気を入れ替えられたという手応えはあったよね。

いままでのプロレスの文脈から考えると、HGやインリン様や和泉元彌は完全にNGでしょ。にも関わらず、試合の前後にワイドショーやニュース等で大きく取り上げられた。取り上げられればいいってものではないにしても、世間に挑戦してる感というのは確実にあって、この〝世間に挑戦してる感〟というのは最近のプロレス界にはなかった感覚だと思うんだよね。

なぜNGだった世界が今回は受け入れられたのか、ということなんだけど、『ハッスル・マニア』は、時代性の中でのプロレスというジャンルの場面転換をわかりやすく大きく切り取って見せたという側面があると思う。

その場面転換の一つは「誰もがプロレスに真剣にトライできる場所」ができたということを満天下に提示したことだと思うんだよ。いま「誰もが」ってあえて言ったんだけど、誰もが脚光を浴びることができるっていうことではなくて、当然、奥には厳しさがあるということに変わりはないわけ。でも、タレントであっても、狂言師であっても、女子であっても、真剣に取り組む気があればプロレスに挑戦できる場があるということを切り取って見せたのが『ハッスル・マニア』の大きな意味合いの一つだと思う。

いままではプロレス界に関わるには、選手であれば新弟子として入門して、丸坊主にして、ちゃんこを吐くまで食べて、先輩のイジメに耐えて、ようやくデビューして、そしてその奥にあるケーフェイの芯を細胞レベルで把握するまで何年、何十年とかかった。ある種のイニシエーションを受けなければならなかったわけでしょ。それはプロレスファンもプロレスマスコミも一緒で、「プロレスの経典」を隈なく読んでイニシエーションを受けた者たちだけが〝共犯意識〟を持って世界を形成していた。

そういう中で、昔の「芸のためなら女房も泣かす」というような芸人像と一緒で、プロレスラーの特殊な技術や生き方、あるいはプロレスラー像・プロレス観が支持されてきたわけでしょ。つまり、世間一般から遮断されてるがゆえに、特殊な空間の中で培われた凄みが出たり、色気が滲み出たり、狂気性がいい方向に作用したり、クリエイティブなものができてたんだよね。

それは、「プロレス」という世間一般からは振り向いてもらいづらいジャンルを世間に対して訴え続けてきたからこそ、なんだよ。力道山や猪木さんのプロレス、馬場さんのプロレス、猪木プロレスから派生したUWF。みんな形は違えど、胸を張って提示できるポイントを暗中模索しながら、プロレスというものを世間に提示して発信してきた。要するに世間に対して挑戦してきたわけですよ。だからこそ、イニシエーションを受ける側にも意味性や必然性があった。

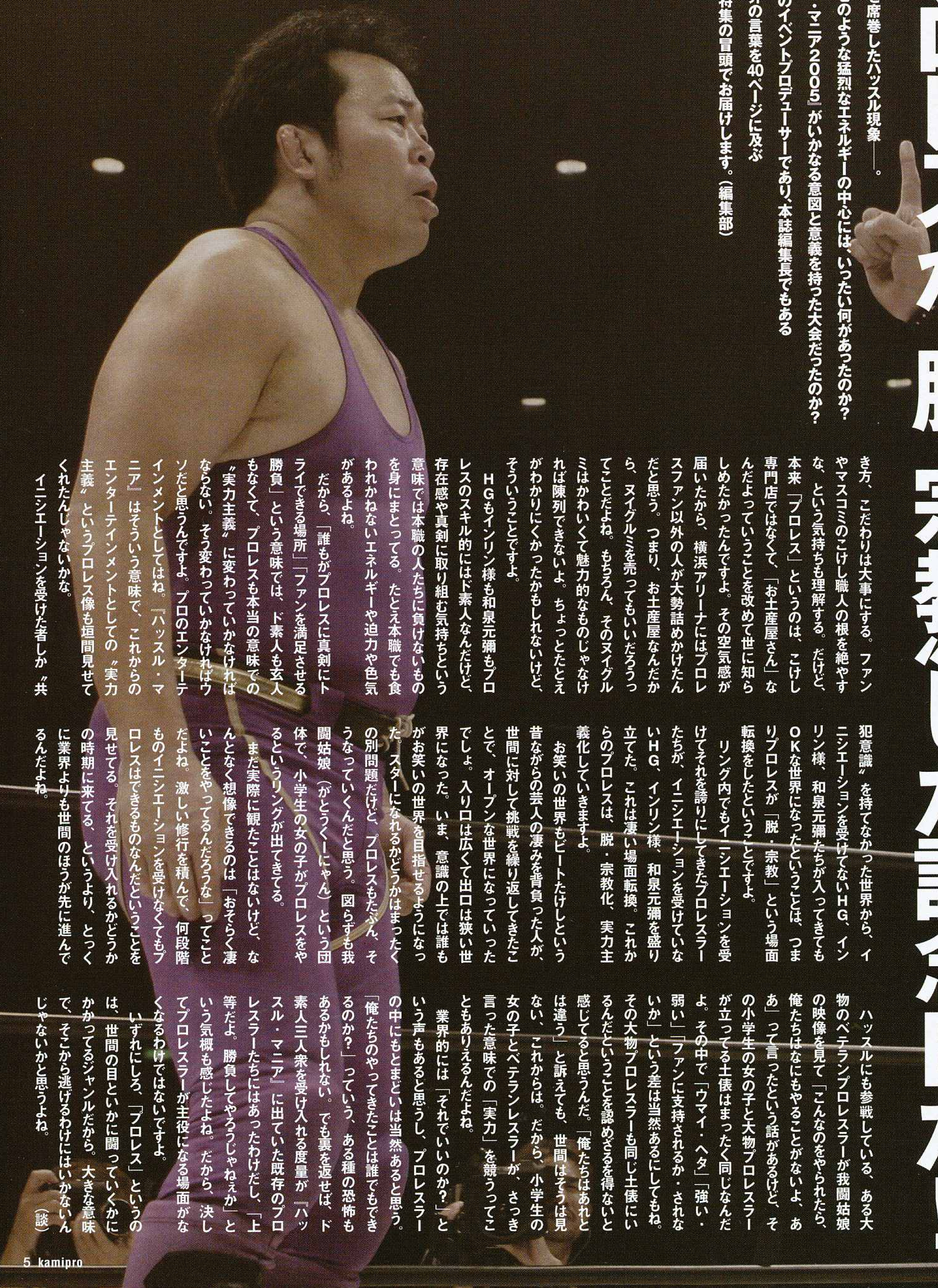
でも、いつの頃からか、選手も関係者もマスコミもファンも「胸を張る部分」がイニシエーションの強度になっていっちゃった。で、そのイニシエーションの強度、つまりはプロレスをいかに愛しているかっていうことを業界の中で競い合っていくようになっていった。世間に対して挑戦していくという気概がなくなってしまったわけですよ。

たとえば、プロレスラーがこけしをつくる職人だったとする。「オレのこけしの彫り方はここが凄いんだ」「オレの使ってるノミの研ぎ方は誰にも負けない」ってやってるようなもんで、世間の人から見たら、閉ざされた世界の出来事で、その差にあまり意味は感じない。ファンやマスコミも、いつの間にか「あの職人の彫り方の微妙なニュアンスはオレにしかわからない」とか「あの色使いは彼にしか出せないもので、それをわからない奴は素人」とか「あのノミは●●製で、そんじょそこらにあるものであるものではない」とかを競うようになって、〝共犯意識〟がどんどんどん内に内に向かっていっちゃったよね。それが閉塞感を生んだ要因だと思う。

いつの間にか「こけし屋さん」になってたんですよ、プロレスが。だからハッスルは、こけし職人のプライドや生

11・3『ハッスル・マニア2005』はプロレスが"脱・宗教"した記念日だ!!

日本中を席巻したハッスル現象――。
その竜巻のような猛烈なエネルギーの中心には、いったい何があったのか?
『ハッスル・マニア2005』がいかなる意図と意義を持った大会だったのか?
ハッスルのイベントプロデューサーであり、本誌編集長でもある
山口日昇の言葉を40ページに及ぶ
ハッスル特集の冒頭でお届けします。(編集部)



き方、こだわりは大事にする。ファンやマスコミのこけし職人の根を絶やすな、という気持ちも理解する。だけど、本来「プロレス」というのは、こけし専門店ではなくて、「お土産屋さん」なんだよっていうことを改めて世に知らしめたかったんですよ。その空気感が届いたから、横浜アリーナにはプロレスファン以外の人が大勢詰めかけたんだと思う。つまり、お土産屋なんだから、ヌイグルミを売ってもいいだろうってことだよね。もちろん、そのヌイグルミはかわいくて魅力的なものじゃなければ陳列できないよ。ちょっとたとえがわかりにくかったかもしれないけど、そういうことですよ。

HGもインリン様も和泉元彌もプロレスのスキル的にはド素人なんだけど、存在感や真剣に取り組む気持ちという意味では本職の人たちに負けないものを身にまとってる。たとえ本職でも食われかねないエネルギーや迫力や色気があるよね。

だから、「誰もがプロレスに真剣にトライできる場所」「ファンを満足させる勝負」という意味では、ド素人も玄人もなくて、プロレスも本当の意味での"実力主義"に変わっていかなければならない。そう変わっていかなければウソだと思うんですよ。プロのエンターテインメントとしてはね。『ハッスル・マニア』はそういう意味で、これからのエンターテインメントとしての"実力主義"というプロレス像も垣間見せてくれたんじゃないかな。

イニシエーションを受けた者しか"共犯意識"を持てなかった世界から、イニシエーションを受けてないHG、インリン様、和泉元彌たちが入ってきてもOKな世界になったということは、つまりプロレスが「脱・宗教」という場面転換をしたということですよ。

リング内でもイニシエーションを受けてそれを誇りにしてきたプロレスラーたちが、イニシエーションを受けていないHG、インリン様、和泉元彌を盛り立てた。これは凄い場面転換。これからのプロレスは、脱・宗教化、実力主義化していきますよ。

お笑いの世界もビートたけしという昔ながらの芸人の凄みを背負った人が、世間に対して挑戦を繰り返してきたことで、オープンな世界になっていったでしょ。入り口は広くて出口は狭い世界になった。いま、意識の上では誰もがお笑いの世界を目指せるようになった。スターになれるかどうかはまったくの別問題だけど、プロレスもたぶん、そうなっていくんだと思う。図らずも我闘姑娘(がとうくーにゃん)という団体で、小学生の女の子がプロレスをやるというリングが出てきてる。

まだ実際に観たことはないけど、なんとなく想像できるのは「おそらく凄いことをやってるんだろうな」ってことだよね。激しい修行を積んで、何段階ものイニシエーションを受けなくてもプロレスはできるものなんだということを見せてる。それを受け入れるかどうかの時期に来てる、というより、とっくに業界よりも世間のほうが先に進んでるんだよね。

ハッスルにも参戦している、ある大物のベテランプロレスラーが我闘姑娘の映像を見て「こんなのをやられたら、俺たちはなにもやることがないよ、ああ」って言ったという話があるけど、その小学生の女の子と大物プロレスラーが立ってる土俵はまったく同じなんだよ。その中で「ウマイ・ヘタ」「強い・弱い」「ファンに支持されるか・されないか」という差は当然あるにしてもね。その大物プロレスラーも同じ土俵にいるんだということを認めざるを得ないと感じてると思うんだ。「俺たちはあれとは違う」と訴えても、世間はそうは見ない、これからは。だから、小学生の女の子とベテランレスラーが、さっき言った意味での「実力」を競うってこともありえるんだよね。

業界的には「それでいいのか?」という声もあると思うし、プロレスラーの中にもとまどいは当然あると思う。「俺たちのやってきたことは誰でもできるのか?」っていう、ある種の恐怖もあるかもしれない。でも裏を返せば、ド素人三人衆を受け入れる度量が『ハッスル・マニア』に出ていた既存のプロレスラーたちにはあったわけだし、「上等だよ。勝負してやろうじゃねぇか」という気概も感じたよね。だから、決してプロレスラーが主役になる場面がなくなるわけではないですよ。

いずれにしろ、「プロレス」というのは、世間の目といかに闘っていくかにかかってるジャンルだから。大きな意味で、そこから逃げるわけにはいかないんじゃないかと思うよね。(談)

HG

いつ、何時、誰の挑戦でも
バッチコーイ！


アイ・アム・プロレスラー！　プロレス界の明るい未来が見えない現代の日本において、吉本興業生まれ、『ハッスル』育ちのピープルズチャンピオンがついに誕生！　「完璧に旬なお笑い芸人」と「センスあるプロレスラー」の融合という、本来合致するハズのない二つの才能を持ち得た奇跡の男を「プロ筆下ろし」が完了したハッスル・マニア翌日に独占キャッチ！　救世主（メシア）、フォー！

聞き手／堀江ガンツ、真下義之
撮影／菊地茂夫　試合撮影／平久幸雄、山口比佐夫
designed by matsu（TwoThree）



プロのリング「初体験」翌日、
独占キャッチ、フォー！

時代と腰を動かす男が、マット界の価値観を塗りかえた!!



当日は、本当に緊張しましたね～。ダウンタウンさんと絡む以上の緊張

――昨日はハッスル・マニアでの念願の〝プロ筆下ろし〟おめでとうございます！

HG いや～ありがとうございます。シャンパンまで用意していただいて、今日も下半身中心になんでも聞いてください～。祝杯フォー！（腰をカクカク動かしながら）

――ダハハハ！ それにしてもメインイベントは凄まじい盛り上がりでしたね。まずはメインイベンターという大役を務めた感想を改めてうかがえればと思うんですが。

HG いや～ワタクシ、ゲイ人を8年間やってきて、一番嬉しく、楽しい仕事だったんですけど、その反面一番痛い仕事でしたね～。真性のハードMの快感を遥かに通り越した、シビれる激痛の連続でしたね～。

――試合後のコメントルームではご自身で試合を評されて、「全然ダメ。10～20点くらいの出来」という厳しい採点をおっしゃってましたけども。

HG いや～ワタシなんてプロレス界では、チェリーボーイですし。それに、試合前は股間の高鳴りを感じるどころか、極度な緊張でガチガチだったんですよ。

――あ、そうだったんですか!? 緊張しているようには見えなかったですけどね。

HG ボクは滅多に緊張しないタチで、普段ガチガチなのは股間だけなんですけど、昨日だけは緊張しましたね。ダウンタウンさんや、吉本の大師匠と絡む仕事や漫才の賞レースよりも全然緊張しましたから。

――やっぱりあの舞台は特別なものがありますか。草間GMなんて、挨拶だけでメロメロでしたからね（笑）。

HG アレは、お客さんのヤジを聞きすぎでしょう！（笑）。でも、リングイン後も視点が定まらなくて、キャプテンとあちち先輩から声を掛けてもらいましたね。そこで男同士の優しさがビンビン感じて、やっと冷静になりましたね。

――大谷さんは、最後のマイクでもHGさんを絶賛されてましたよね。

HG そうですね。あちち先輩にはギリギリまでずっと声を掛けていただいて。「HGよ、落ち着け、落ち着け」と。「落ち着いて、腰を振れ！」と。

――ワハハハ！

HG さすがに腰のことは忘れなかったですけど。そんな基本アドバイスをしなきゃならないほど、ガチガチで。

――それにしては、腰振りが止まりませんでしたね。いつも以上にハードに腰を振ってた気がするんですけど。

HG いやいや～、試合後のマイクでも「腰を取ったら何も残らない」と言いましたけど、腰を振らなかったら、冷静ではいられないですからね。腰を振ってると、心拍数もドンドン落ち着いて。どんどんクールダウンする作用があるんですよ。

――ワハハハ！ 普通は腰を振っていると一番落ち着かないモンですけどね（笑）。そんなHGさんは、厳密に言うとプロレスバージンではないわけですが、やはりプロのリングの感触は違いましたか？

HG 全然違いましたね～。私は学生プロレスを4年間やってましたけど、技やムーブを誰にも教わることなく、録画したビデオをスローモーションで見て研究したり、完全な独学状態だったんですよ。それが今回、道場であちち先輩や石狩さんといった諸先輩たちと練習させていただいて……これまで8年間、謎だったことが解けていきましたね。

――プロレスの謎の部分が解けましたか！ 具体的にはどういう部分なんでしょうか？

HG いやいや～具体的には想像にお任せしますけども。ただ、「学生の頃やってたことは浅かったな」と痛感しましたね。プロレスの世界はやはり恐ろしく深いですよ。

――I編集長が「プロレスは底が丸見えの底なし沼」と書いてましたけど。

HG その言葉を実感しましたね……（突然）底なし、フォー！

――ワハハハハ！ では昨日の試合を振り返っていきたいんですが、最初に驚いたのが入場シーンなんです。まず大谷さんが入って来た。で、2番目にHGさんかと思ったら、2番目にキャプテンが入場してきた……。

HG いやコレは恐縮しましたね～。

――コール順も最後でしたし。普通のプロレスで発生する格の配慮や「入場があとなら、コールは先に」とかも関係なくて。

HG ハッスルのスタッフが舞台を設定してくれたので、試合を純粋に楽しめたというか、非常にやりやすかったですね。

――まさにハッスルの価値観を観客に提示

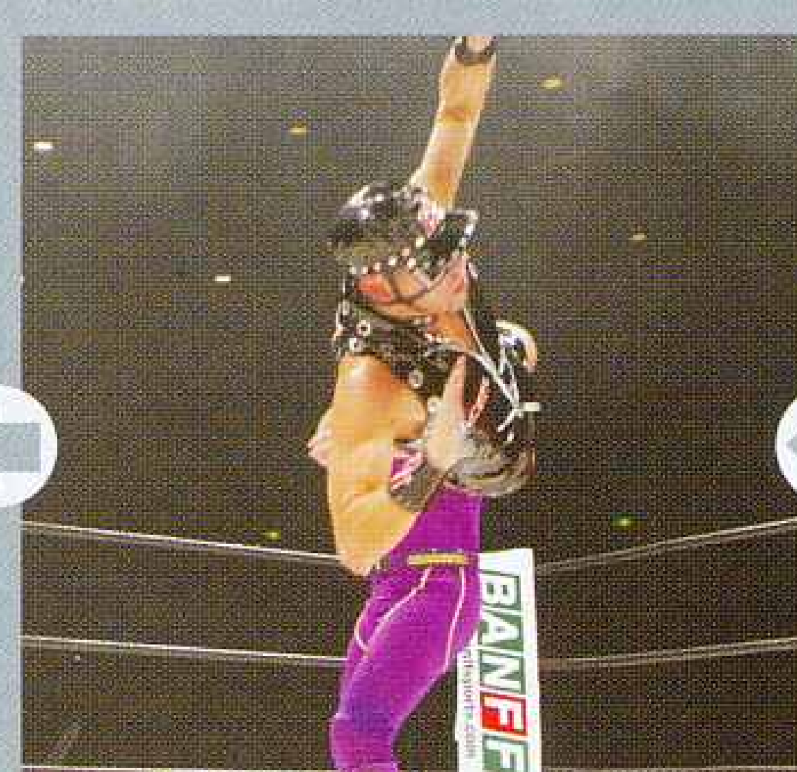


試合の翌日の午前中、しかも『笑っていいとも!』のテレホンショッキング出演直前！ という状況下で取材を受けていただいたHG選手。だがいたってマイペースを崩さず、自分が取り上げられたスポーツ紙を冷静に熟読する大物ぶり。

HG驚愕のデビュー戦をフラッシュバック！



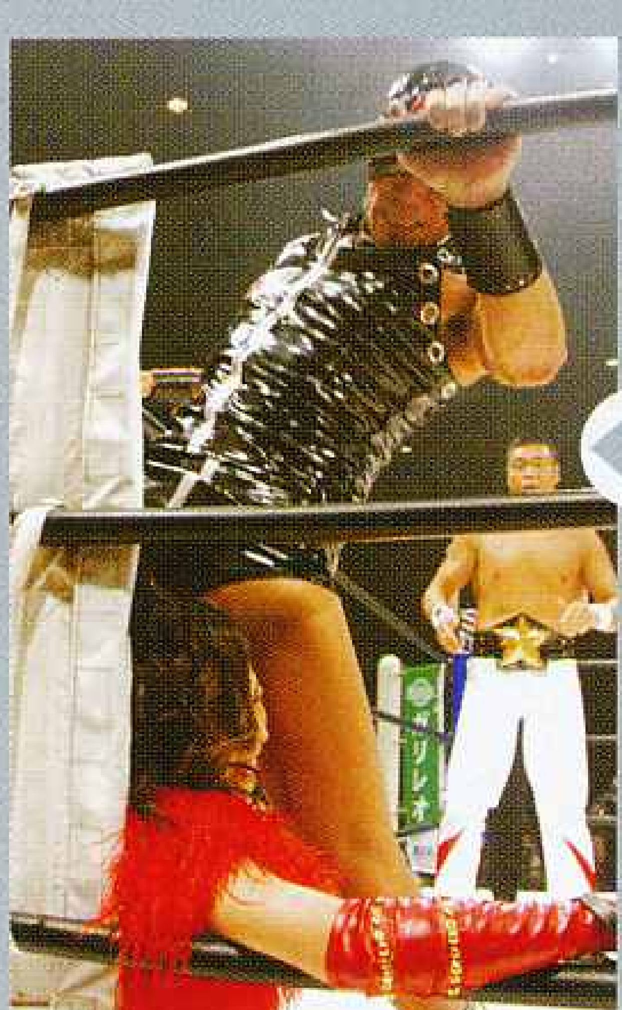
メインの6人タッグは交互にひとりずつの入場。大谷→アン・ジョー→小川→川田→HG→インリン様の順で、HGは大声援の中、腰を激しくグラインドさせつつ入場。



本人が「学生時代から固執していた」と言う開始直後のドロップキックはアン・ジョー司令長官へダグ・ファーナスばりのクリーンヒット！ ロープワークからのリーブフロックからというクラシックな攻防に名勝負の予感が充満。



"モンスターK" 川田のリングインに、HGも「セイ！ セイ！ セイ！」と突っ込んだ、危険な初遭遇シーン。ロープに飛んでエルボーを叩きこむも、川田は涼しい顔。逆にHGの胸元へ強烈な水平チョップ一閃！ 会場をどよめかせる。



大谷が十八番〝顔面ウオッシュ〟で、場内を大爆発させた後、インリン様をコーナーで捕獲したHGは、己の股間をインリン様の顔面へ叩きつける秘技「PW」を披露して場内騒然！ これを真正面から受けたインリン様も凄すぎる！



インリン様に股間を押し付ける秘技「PW」を成功させたHGに、「調子に乗るな!」とばかり、強烈なキックを浴びせた川田。HGが「もっともエクスタシーを感じた」一撃であり、中盤戦のハイライトだった。

したシーンでしたね。開始直後にはリープフロッグ（かえる飛び）からドロップキックまでのムーブで客の心を完全につかみましたが、そのときの気持ちは？

HG　その流れは、学生時代からの得意パターンなので、感激しました。あの～僕は「ドロップキックが綺麗に出せる人は、プロレスがうまい」という勝手な持論がありまして（笑）。学生時代から、ドロップキックは徹底的に練習してましたから。今回、出せるチャンスがあって、かつて体験したことないエクスタシーがありましたね。

――いきなり絶頂寸前だったと（笑）。この後、アン・ジョー司令長官や川田選手との攻防があるんですが、じつは以前、HGさんにインタビューしたとき、デビュー戦は「ハードヒットを受けることはできない。リック・フレアーばりにノラリクラリ行くしかない」とおっしゃってましたが、実際はかなり技を「受けて」ましたよね？

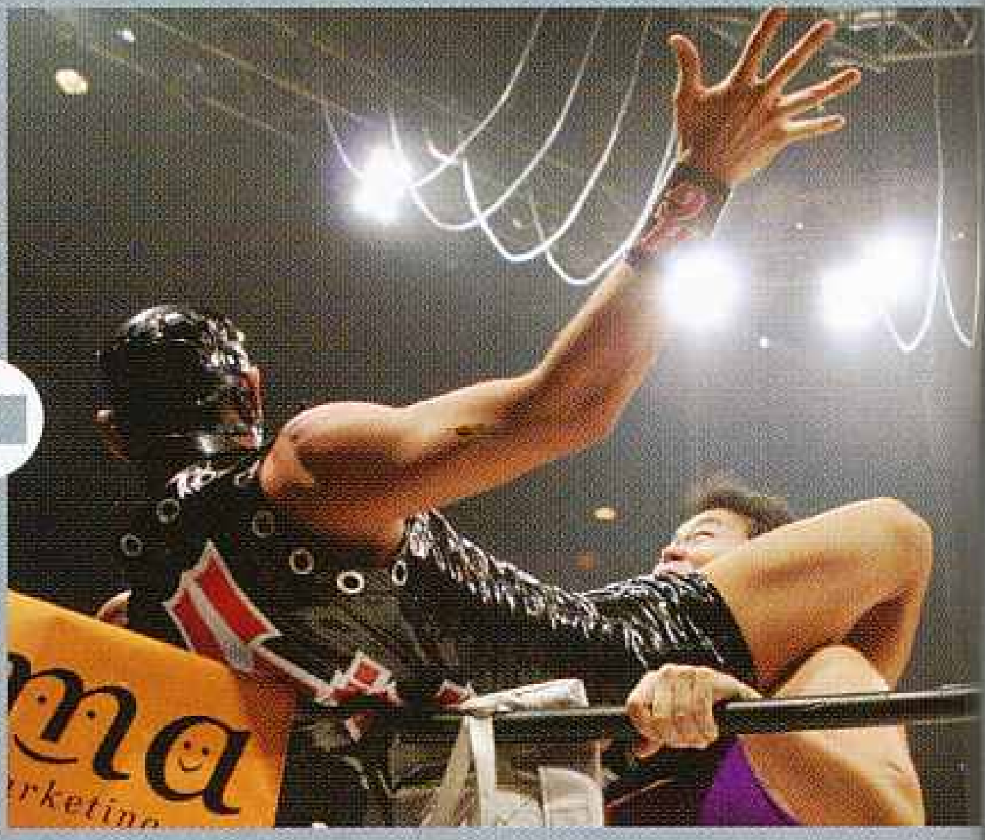
HG　一旦、リングに上がったらやはり逃げ回る訳にもいかないですし。ただやっぱり……川田さんの攻撃は、本当にキツかったですね（笑）。

――川田選手の胸元へのチョップで、胸板が赤く腫れあがっていたようですが。

HG　あのチョップはプロレス界の洗礼であり、通過儀礼でしょうね。最初、川田さんがこっちに向かってくるから、もう「セイセイセイ！」と（笑）。すぐタッチしたかったんですが、キャプテンが「行けー」と言うから仕方なく。

――実際の川田選手の感触はどうでした？

HG　いや～最高でした。本当にプロのマナーを教えられたというか。試合中盤の背中への蹴りも強烈で、全身に電気が走りましたし。息が詰まって、昇天しそうになりました。



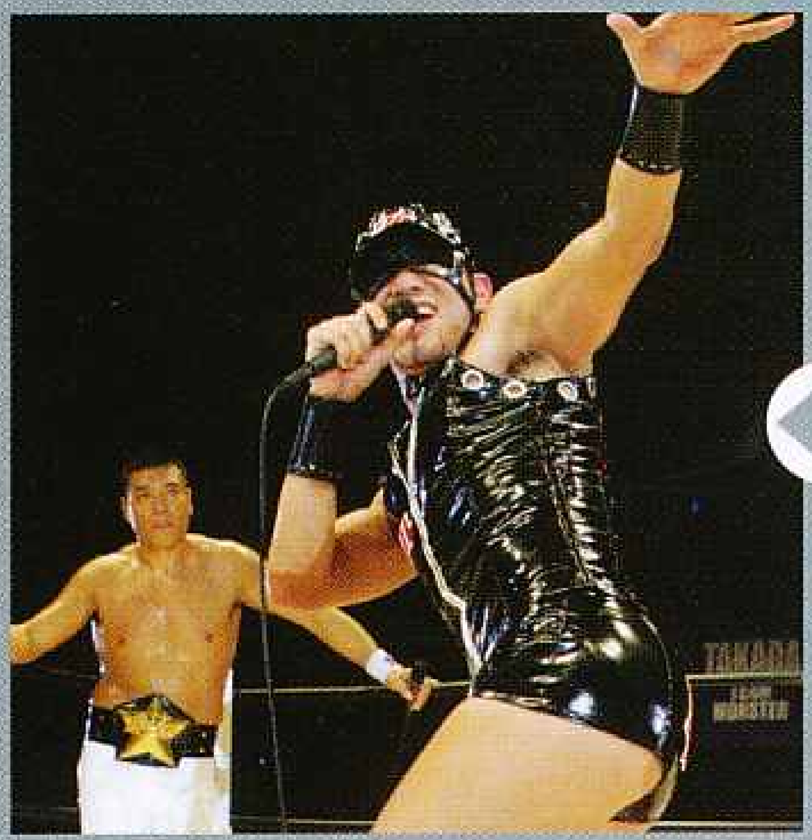
試合中盤、アン・ジョー司令長官の老獪なインサイドワークに翻弄されるHGだっが、コーナーに振られたところをHG三角絞めで捕獲!　顔面の目前で腰を振りアン・ジョーに精神ダメージを与えた後、フランケンシュタイナーが炸裂!



ついにクライマックス!　インリン様とHGの二人だけが残ったリング上はヒートアップ。腰を振るHGにインリン様は強烈なハリ手一閃!　HGにボディースラムの体勢に捉えられるも、瞬時に丸め込む、大反撃を見せる。



HG三角締めでインリン様を捕獲したHG。腰を激しくグラインドさせた数秒間は、両者の意地が交錯した名場面だった。HGは動きの止まったインリン様を「掟破りのM字固め」でカウント3奪取!　デビュー戦を自らの勝利で飾った。



試合後は高田総統とのマイク合戦が展開。HGを「おかま」呼ばわりする総統に、HGは下ネタ連発で対抗。総統が「今日はちびっ子も来てるんだぞ!」と心配したり、「俺、ちょっと今日は負けてるぞ」と口走るなど、マイクでも互角に対峙。



ハードゲイの僕には「セクシーさ、ゼロ」だけど
インリン様はプロレスラーとして百点満点。
「闘うに値する人」だったと思います。

——それで、『ハッスル・マニア』の焦点としては、やはりインリン様という非プロレスラー同士の激突だったんです。まず中盤で、インリン様の顔面に股間を擦り付ける、PWという必殺技を繰り出すわけなんですが。このPWと技はなんの略なんでしょう。

HG　いわゆる、「ペ●ス・ウォッシュ」ですね。海綿体フォーッ!!

——ガハハハ！　やっぱりペ●スのPですか？　このPWはインリン様にかなりハードヒットで、受けたインリン様も凄いなと思ったんですけど、インリン様の印象は？

HG　事前に舌戦をくりひろげたように、ハードゲイの僕にとっては「セクシーさ、ゼロ」なんですけど、技の受けっぷりやリング上でのたたずまいを見たら、いちプロレスラーとしては百点満点じゃないですかね。

——百点満点！　ホントにリング上で、HGさんとインリン様だけになったときは、「ここから何が始まるんだ！」というクライマックス感が館内に充満して凄かったです。

HG　インリン様はリング上で完全に目がイッてましたし、「この人、正気じゃないな」と身の危険を感じました。ただ最後のHG三角絞めは、残念ながら勃起不全だったんですけど。

——相手が女性だけに完全に勃たなかったと（笑）。

HG　勃起できなかったから、腕を入れて、通常の三角絞めにもってったんですけど。実際、疲れ果ててたんで相手が男子でも勃たなかったでしょう。ただ、結果的に「闘うに値する人」だったと思いますし、これもひとつのSADAMEだったのかなと。

——そのあと、リング上で髙田総統との舌戦が繰り広げられたんですけど。こちらも凄い長丁場の闘いというか。

HG　ワタクシは、ほぼ下ネタしか言ってないんですけど（笑）。

——髙田総統も「今日はちびっ子もたくさん来てるんだぞ！　場所をわきまえろ！」とか、言ってましたもんね。たしかに、セイザーXを見てる子どもたちの前で「夢精、フォーッ！」ってのはどうかと思いましたけども（笑）。

HG　でも、子どもたちには早く夢精の気持ち良さを知って欲しいですね。

——ワハハハ！　夢精の良さを伝えたいですか！（笑）。

HG　夢精ってなかなかできないじゃないですか。人生のうちで限られた期間しかできないモノなので、子供たちにもできるだけ早く、そして長く体験してもらいたいですね～。そういういい意味でのメッセージを込めてます。

——どんないい意味ですか（笑）。この展開を受けて、髙田総統が珍しく「おい、今日は俺ちょっと負けてるな！」と言ってました。

HG　いやいや総統はそういいながら、畳み掛けるようにドンドン返されて、圧倒されましたね。

——でもハッスルで初めて、髙田総統のマイクに互角に張り合った人ですよね。それに、試合をやったあと、あれだけ長くしゃべれるというのは凄いですよ。

HG　いや、あれも試合直後だったらダメでしたね。その前の場面でインリン様の埋葬の時間があって。じつは、あれで気持ちや息を整えられる余裕ができたんですよ。

——あの「もののけ姫」の曲がかかったあたりがちょうどいい休憩時間になったと。それから、今回、もの凄く多忙な中の試合だったと思うんですけど、現実的にはどのくらい練習時間は取れたんでしょうか？



HG　本当なら2ヵ月間は仕事をストップして集中したかったんですけど、実際は週1回……くらいですね。ただ、3日前から、集中して受け身の練習に費やしました。

——お～、そんな時間があったんですか？

HG　でも結果的に身体も充分にできず、恥ずかしいボディをお見せすることになっちゃいましたね～。

——いや、十分いい身体だと思いますけどね。HGさんの肉体に負けている現役レスラーはたくさんいるんじゃないかって。

HG　いやいや、筋肉芸人仲間のなかやまきんに君とも話したんですが、我々の身体が痩せているときは、「芸能の仕事が忙しい」と思ってください～。その反面、身体がパンパンに仕上がってるときは、芸能の仕事が減ってきてんだなと（笑）。

——肉体が忙しさのバロメーター（笑）。時間があれば、パンプアップに集中できると。そういう意味で鈴木浩子さんに「吹けば飛ぶような身体」と揶揄された和泉元彌さんは、けっこう危険だったと思いますが、そのあたりの意地とか対抗意識はありました？

HG　対抗という気持ちはなかったですが、ワタクシは曲がりなりにも学生プロレスのリングで4年間やってましたから。プロレスリスペクトも今回はハードヒットな攻撃をあえて受け続けることで、自分自身「プロレスを舐めんなよ」と言い聞かせる意味もありましたね～。

——和泉元彌選手の試合はご覧になりましたか？　いろんな仕掛けやアイディアが盛り込まれた試合でしたが。

HG　ハッスル・マニアの場にふさわしい試合というか。完璧なエンターテインメントでしたね。元彌さんは動きにキレもあったし。さすがは宗家だなと。

——あと、健想さんの評価も高くて、WWEスタイルを踏まえて、素人の和泉元彌選手相手に見事に試合を構築したんですけど、健想さんはどのように見ましたか？

HG　正直、新日本時代の健想さんには、あまり注目してなかったんですけど。いまは身体も本当にデッカいですし。ワタシはアメプロを90年代からずっと見てますんで、WWEのリングに上がったのは心から羨ましいです。あと、アメリカの家がスコット・ホールの家と近いというのが非常にうらやましい（笑）。

——ワハハハ！　レイザーラモン・マニアだけにそれは気になりますねえ。今後、健想さんとの対戦の可能性もあるかと思いますけども。

HG　いや～ハードゲイ的には「バッチコイ」ですけれども。試合相手としてはなるべく避けたい相手ですね～。

——昨日も元彌さんにもの凄いバックブリーカーやってましたもんね（笑）。昨日、「世界へ」という話もありましたが、アメプロマニアのHGさんとしては、いずれはWWEの舞台も視界に入れてるんでしょうか？

HG　いやいやいやいや、現実的には非常に難しいとは思いますけど。ただ、もしかして『ハッスル・マニア』のビデオを副社長のジョニー・エースが見たりしたら……。

——ワハハハ！　でも、その可能性はゼロじゃないでしょうね。これだけ日本で話題になったらビンスは確実に見ると思いますよ。



髙田総統は「ゲイ界のカリスマ」。是非、頂上対決したいですね～

ＨＧ　それは凄い夢ですね。ただ昨日の会見でも言いましたけども、その前にハッスルをＷＷＥに負けないコンテンツにしていきたいという気持ちもあります。

――今回、『ハッスル・マニア』という大会名だったんですが、初期の『レッスル・マニア』というのは、まさにプロレスと芸能のミックスだったじゃないですか。

ＨＧ　そうですね。ミスターＴが出たり、シンディー・ローパーが出たり。

――そういう意味で、まさに『レッスル・マニア』日本版だった。ただ、明らかな相違点は、ミスターＴやシンディー・ローパーは、あくまでホーガンの添え物的な形だったんですけど、今回は「ＨＧさんが完全な主役」になっている、これはどんなお気持ちなんだろうなと。

ＨＧ　う～ん……凄いことですね。それに今回、パンフレットの表紙にもしていただきましたし。で、裏表紙がインリン様じゃないですか。もうハッスル関係者の頭は「柔らかいのにも、程がある」というか。僕の場合、ホントにプロレスをリスペクトしているがゆえに、やっぱり恐縮する部分が大きい。その反面、インリン様はホントにプロレスの世界を知らないから、知らないがゆえに突き進める怖さがありますよね（笑）。

――今回の反応も、非常に好意的な意見が多いんですけど、ネットでも「ＨＧは救世主だ！」というような書き込みが多発してますね。それで、プロレスファンにありがちな傾向として、夢のカードが続々とリストアップされていて。「ＨＧ vs 小橋」とか（笑）。

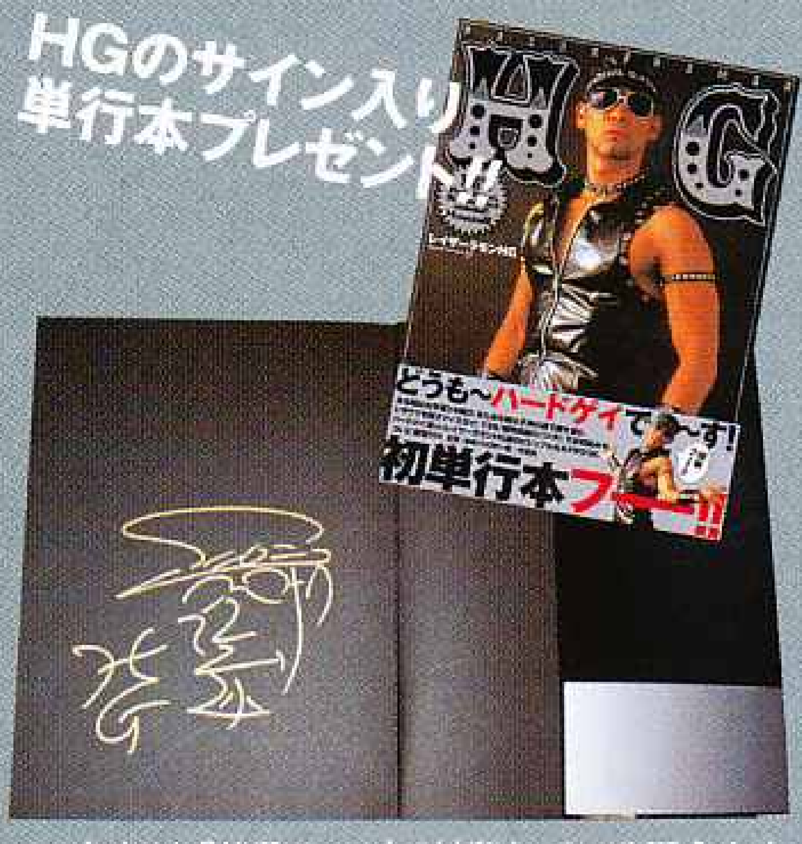
ＨＧ　いやいやいや～（笑）。

――どうでしょう。小橋さんの豪腕チョップを打たれるたびに、腰を振るとかは（笑）。

ＨＧ　それは……いくらでもプロレス界に相手はいますけど、僕にも選ばせてください。

ＨＧ、デビュー戦直前トピックス！

HGのサイン入り単行本プレゼント!!



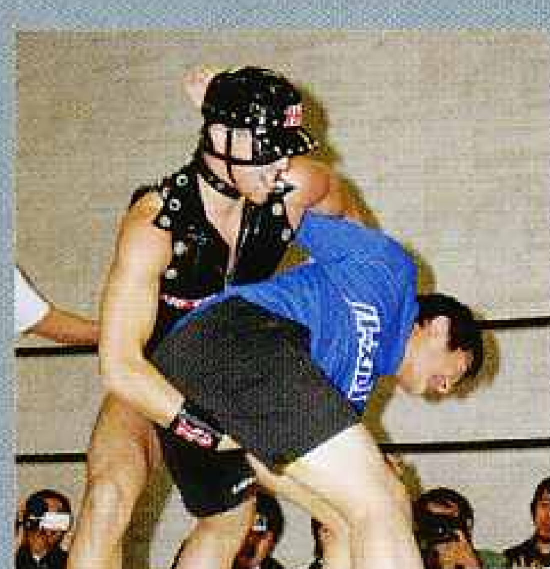
HG自身が「普段テレビで封印している下ネタも全開で、表現の自由を出し切りました!」と激賞するHG初の単行本『HG』（竹書房）を、3名様にサイン入りプレゼント!　【竹書房提供】
応募方法は、P154の読者プレゼントページ「kamipro PRESENTS」の応募要項を各自参照!



ハッスル・マニア前日の11月2日、HGの初単行本『HG』刊行を記念し都内書店でサイン会を開催。HGは翌日の大会に関し「早く試合がしたいですね」とヤル気まんまん。最後は相方の出渕氏もふんどし姿で乱入し、気勢を上げた。



練習終了後の会見は多くのマスコミ陣がHGを取り囲む。練習を振り返り「これで69％ですから。当日は100％に持っていきます」と宣言。インリン様に「恥骨を折って、二度とM字ビターンが出来ない体にしてやる」と挑発!



10月31日、HGは都内某所でプロレス用の新コスチュームで、石狩とスパーリング敢行。股関節をも極める必殺技“コマラツイスト”、股間を押し付ける“69ドライバー”など新技を次々に披露した。

ただここまで、足を突っ込んじゃいましたから。もうタダでは帰れない気がしますね。

――このままプロレス道を邁進する覚悟はあると。

HG いや〜、本当に勝ち逃げは許されないでしょう。

――そこは、やっぱりプロレスファンは確実に見てますからね。元彌さんは、お母さんの意向もあって、今後のプロレス活動に関してはまだ未定のようなんですけども。

HG そうなんですか? そういえば、インリン様はどうなんですかね?

――今回、ああいう形で総統が「しばらく休ませる」ようなことを言ってましたね。

HG そうですか……。あの〜もしかして、僕、ひとりだけ取り残されましたかね?。

――ワハハハハ! ハッと気づいたら、「オレ、ひとりか!」って(笑)。

HG じゃあ、仕方ないので相方でも呼びましょうかね。昨日もチケット自腹で買って、大阪から来てたみたいですけども。

――今後の『ハッスル』に関して言うと、昨日も髙田総統への対戦を示唆されてましたけども。

HG もう髙田総統はゲイのあいだ、いわゆるゲイ界ではハンパじゃない人気なんですよ。

――ワハハハ! そういう話は聞きますよね(笑)。

HG ホント、僕ももう嫉妬するくらいのカリスマですよ〜。スタイルも完璧だし、顔も整ってる。そこにあのヒゲ、そして短髪ですからね。ゲイに愛されるカリスマ的要素をすべて持っていらっしゃるんでね、ホントに二つの意味で「ヤリたい」ですね〜。

――ある意味、ゲイ界の最強をキメる頂上対決だと(笑)。で、興行の予定的にはハッスルは12月24日、25日に後楽園ホールでの『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』があるんですが。

HG これは、『ハッスル』さんからオファーは頂いている状態なんですが、あの〜……じつは『M-1グランプリ』の決勝戦が25日にあるんですよね。もしも決勝に残れば難しいかもしれませんね。

――髙田総統が昨日も言っていた、「本業はどっちなんだ?」という段階に早くも来てしまったわけですね。そのお笑いとプロレスで進路を悩まれた時期があるとうかがってますが、実際、本当にプロレス入りしようという気持ちはあったんですか?

HG ありましたありました。お笑いの道よりも先にプロレスラーになりたいという気持ちがありましたね。

――ちなみにどこの団体志望だったんでしょうか?

HG 全日本プロレスだったんですけども。

――あ、新日本じゃない。年代的にはいつ頃ですか?

HG 当時は、ジャンボ鶴田選手が現役でちょうど世代交代の時期で、三沢選手が鶴田選手からピンフォール取ったりした時代から、プロレスを見出したんですね。僕が入ろうと思っていた頃は四天王プロレスの全盛時代で。

――じゃ、もしかしたら、今頃はNOAHのリングに立っていた可能性もあると(笑)。

HG そうなっていたら、確実にハードゲイは生まれてなかったでしょうね。まさか、全日本でハードゲイをやってるわけにもいかないでしょうし。

人生のレールを踏み外したと思ったけど
ハッスルという新しいレールに出会えた

――「馬場さん、ばっち来〜い!」とか(笑)。

HG それはシャレになってないですね〜(笑)。今回の試合は「ハードゲイあってのこと」だと思うし。「ハードゲイやっててよかった」と、しみじみ思いましたね〜。

――ただ、ファイティング・オペラを標榜する『ハッスル』にとっても、本当に『ハッスル』を体現する選手がついに登場したという印象がありますね。いままでは、存在としては、髙田総統なりインリン様なり象徴的な人がいたんですけど。ハイレベルな身体能力を持ちつつ、流暢にマイクを操れる選手というのはまさにジャストですよ。

HG いや〜自分は「人生のレールを踏み外した」とも思ってたんですけどね。いわば進学校を出て、大学に行った同級生は今や就職、結婚もしてますから、それで僕はハードゲイというね……脱線どころか、もうメチャクチャな状態で、銀河鉄道みたいに空飛んでいっちゃったみたいな(笑)。

――もう踏み外したどころか、線路自体がどこにあるかもわからないような(笑)。

HG そこで今回は、ハードゲイ、そして『ハッスル』という思いもよらなかった新しいレールに恵まれましたからね。

――もう銀河鉄道に乗り込んだ鉄郎みたいな話ですよね(笑)。最後にこれはぜひ、聞いておきたいんですが、HGさんが学生プロレス時代に巻いて名勝負を繰り広げていらっしゃった「京都統一ヘビー級」のタイトルマッチ。この再現、リベンジマッチをいま、相当の数のプロレスファンが本当に期待しているんですが。

HG それは……いわゆるT選手ですね(笑)。

――これはいまや、プロレス界を代表する夢のカードですよ! 某老舗団体チックに言うと、この試合こそ〝故郷〟というタイトルに相応しい闘いというか(笑)。

HG 当時使ってたハリボテのベルトも復活させましょうか〜(笑)。まぁ正直、僕はそれほど意識してないんですが、僕の周囲は「やれよ!」と盛り上がってますね。

――周囲というのは……学生プロレス時代の同級生とかですか?

HG いや、DSEの方々なんですけど(笑)。

――ダハハハ! DSEが煽ってますか。じゃあ、HGさんからもアピールしたらどうですか? 「T選手、もう女はコリゴリでしょ〜、ハードゲイとヤリませんか〜!」とか(笑)。

HG セイセイセイ! ただ、T選手とは最近、連絡が途絶えっぱなしなんですよ……『kamipro』から聞いといてください〜。

――いや、ウチも某老舗団体とは連絡が途絶えっぱなしなんで(笑)。まぁ、そういった夢も含めて、これからの活躍に期待してます。今日は本当にありがとうございました!

HG 終わり、フォー!

【05年11月4日/新宿「スタジオR」にて収録】



えいちじー■1975年12月18日、兵庫県出身。同志社大学で学生プロレスラーとして活躍後、「今宮こどもえびすマンザイ新人コンクール」福笑い大賞受賞。相方・出渕誠とレイザーラモンとして活動。特技はイラスト。身長185cm、体重85kg。ハッスル・マニアでのプロデビュー戦を果たし一般世間を巻き込んで大ブレイク中!



狂言和泉流二十世宗家

和泉元彌

ハッスル参戦の真実を語る



聞き手／坂井ノブ
撮影／山口比佐夫
平工幸雄
写真提供／DSE
designed by hisa (Two Three)

日本全国の話題をかっさらった世紀の一戦の翌日、本誌は狂言和泉流二十世宗家・和泉元彌に独占インタビューを敢行した。勝ち負けを超えて横浜アリーナを大きな衝撃と感動で包み込んだ名勝負から一夜明けて、和泉元彌はハッスルの舞台で何を感じ、何を得たのか!? 取材前にあらためて試合の映像を見てもらってからインタビューを開始した。

——映像をご覧になっていかがでしたか？

和泉 舞台とは違った観客の皆さんの反応が初めてわかりました。本当に私は幸せ者だなと思いましたね（しみじみ）。

——観客の声援は聞こえましたか？

和泉 断片的に印象に残っている感じですけど、最初に聞こえた声援が印象に残ってますね。健想選手と見合ってるときに、「この試合は期待していいんですか～？」って丁寧に聞かれてしまって（笑）。（自分の試合を）どういうふうに観戦すればいいのかわからなくて、そういう声になったんじゃないかと思います。自分でも「（観客に）どういうふうに受け入れられるんだろう？」と思ってた部分とリンクして、すごく印象に残る言葉になってしまったんですけど（笑）。

——結果的には期待して大正解だったという感じでしたよね。まず登場のシーンから度肝を抜かれました（笑）。



和泉 降りながら、暴露してしまいましたけどね（笑）。「開場前からずっと上で待ってた」って（笑）。

——「遅刻でもダブルブッキングでもない」という言葉もありましたね。

和泉 ええ。数年前にマスコミの皆さんから「ダブルブッキング」「遅刻」って言われたとき、口を開く機会がなかったんです。で、ハッスルはいろんな意味で世の中の風刺みたいな部分もありますよね。狂言も昔から伝統的に風刺という要素があるんです。人が触れたいけど触れてはいけない部分だったり、本当は腹の中では思っているけど面と向かって言えない、それを公衆の面前でやってきたのが狂言なんです。そういう部分で共通点はありますよね。厳しい上下関係とか身分制度があった時代の中で、狂言の舞台の中では身分の高い人やその時代の権力者が笑いの対象になる。チャップリンの映画みたいな部分があるんです。

——ヒトラーの真似をして大衆を笑わせていくような（笑）。ハッスルにもプロレス界の権威と言われてるものを茶化して笑いにしていこうみたいな側面もありますね。

和泉 ワイドショーが権威かどうかはともかく、こちらの意見を聞かないまま一方的に作られちゃうじゃないですか。ヘリコプターで降りて来るという作りごとの中で自分の意見を言えたのが気持ちよくて。（笑）

——狂言的なやり返し方ですね（笑）。

和泉 でも天井で待ってるあいだの理事長のマイクパフォーマンスには泣きそうになりましたね。〝言わされている感〟のあるセリフを一生懸命言っている母に「ああ、頑張ってくれてるな」と胸が締めつけられる思いでした。

——「宗家は遅刻もダブルブッキングも致しません！」という。

和泉 そうです。でも、泣きそうになる思いを断ち切って、会場に出て行きました。そこは「プロの仕事をするしかない」と腹をくくりました。私が参戦を発表したところから前哨戦含めてマスコミの皆さんもいろんな方向に煽っていただいてましたから。中には「和泉元彌をボコボコにしてしまえ」みたいなものもありましたけど。

——言ってましたね。フジテレビ『とくダネ！』で小倉智昭さんが（笑）。

和泉 でも、登場したときにそこで観客の皆さんがウェルカムな空気でいてくださっ

和泉元彌ハッスルデビュー戦までの歩み





10月27日
ハッスル・ハウスvol.10@後楽園ホール

健想と浩子はリングに登場すると元彌を挑発！ すると、どこからともなく狂言の謡いが流れ、バルコニーに和泉元彌が登場！ 「そなたには明るい未来が見えぬぞよ」「弓矢八幡討って捨て申す」と狂言調でやりかえした。激怒した浩子は「ボコボコにするつもりはございません。お命、頂戴致します！」と宣告。両者の因縁は最高にヒートアップした。



10月25日
初の公開練習

都内某所でコーチのAKIRAとトレーニング。軽やかな動きで報道陣からは驚嘆の声が挙がった。また、健想の妻・浩子に挑発された母・節子さんもセコンドでの参戦を表明した。



10月18日
対戦相手指名会見

多くの一般マスコミが集まる中、元彌はハッスル側から提示された大物芸能人とのエキジビションマッチを拒否！ 対戦相手に世界のスーパースター・鈴木健想を指名した。



10月12日
和泉元彌ハッスル参戦会見

この日の朝、新聞各紙が一斉に和泉元彌のハッスル参戦を報じたことで、急遽羽田空港で会見が行なわれた。ここで初めて「空中元彌チョップ」の存在が明らかになった！



狂言和泉流二十世宗家
和泉元彌

たんで、それはもう、リングに向かうあいだでもひしひしと感じながら、背中を押される思いでした。

——天井から下まではけっこうな高さだったと思うんですけど、何メートルぐらいあったんですか？

和泉　20メートルです。

——20メートル！　そんな高さから吊られた上に、さらに1万4573人の視線が一気に集中するわけですから、そこでもヒリヒリする緊張感があったかと思うんですけど、いかがでしたか？

和泉　お客さんの数で緊張するという感覚はなかったですね。というのは、見なければいけないのは健想選手ですから。舞台上では自分がやるべきことをしっかりとやっていくというのを、小さいときから師匠に叩き込まれていますので。

——試合はいかがでしたか？

和泉　練習の中で少しでもプロレスの経験を積もうと思っていたんですけど、私を支えてくださったスタッフの方々から「自分本来の世界を作ったほうが、試合としてしっかり見せることができると思う」とアドバイスをいただきまして。自分で思っていた以上に、私の中にある狂言の要素を引き出していただけました。実際、試合での間の取り方は、すべて狂言の間でしたから。所作とか払いとかも狂言の世界のままでやらせていただけたので、自分を保てたかなと思いますね。プロレスの間で勝負してしまったら、プロレスラーが勝ちますから。相手の間を崩すと同時に自分の間で闘うことを意識しました。

——対戦相手となった健想さんは元彌さんについて「新しいなにかを始めたいという気持ちが伝わってきた」と言ってました。

和泉　そうですか。今回、対戦相手もコーチという形でリングに立たれた健想選手も、ＡＫＩＲＡ選手も、ハッスルのスタッフの皆さんも信じることができる方々だったから、私は今回の試合ができたんだと思っています。信じることができなかったら絶対に入り込めない世界じゃないですか？

——ムリですね。プロレスの基本が相手との信頼関係という部分もありますから。

和泉　試合の中で、身体を預けないといけない部分がありますからね。だからこそ健想選手が真のエンターテイナーなんだなということが改めてわかりました。まあ、最初からわかってはいましたけど（笑）。

——リングで闘ったからこそ芯の部分までわかり合える、と。

和泉　ええ。いろいろなところでいろいろな経験を積んで、それを全部あの大きな体の中に詰め込んで、なんでも飲み込むことができるプロのレスラーだなって。じつはすでに私のホームページの日記には「昨日の敵は今日の友」という言葉とともに感謝をしていますという内容を書いたんですけど（笑）。

——試合が終わって充実感がなければ書けない言葉ですよね。

和泉　試合を観るまでは観客の皆さんも半信半疑だったと思うんですよ。「何が狂言力だ？」と思っている方もいらっしゃったと思うんです。今回、プロレスの世界で命を懸けている第一線の方々の中にいきなり飛び込むわけですから、「狂言師ってあんな気持ちで物事に取り組んでるの？」と思われたくなかった。真剣に取り組んで相手のことを知りたいし、自分のこともわかってほしいという思いでした。周りのスタッフの皆さんと、リングに上がっていた我々と、1万4573人の観客の皆さんがひとつの輪になったと思うんですよ。

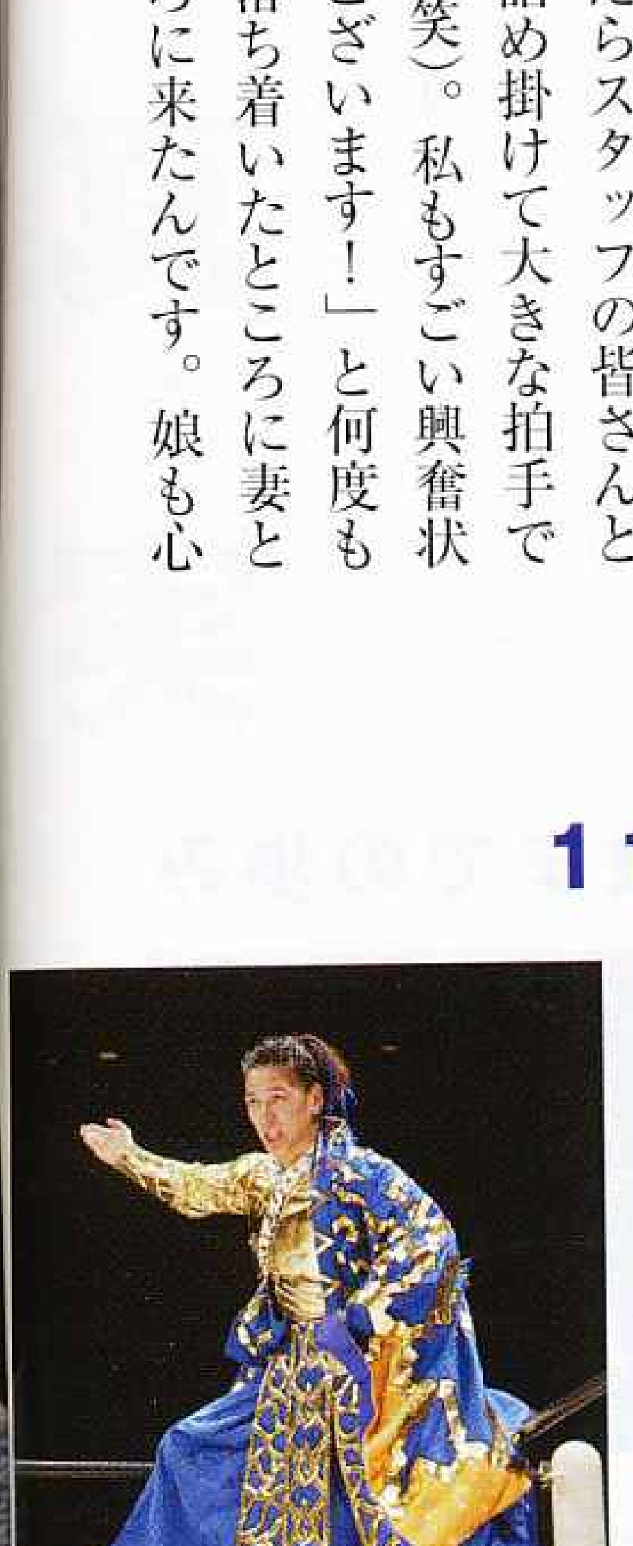
——だからこそ試合が決まった直後のスタンディング・オベーションになったんでしょうね。

和泉　私がずっと言ってきた「狂言力」というのは、ひとりだけが持ちうるものではないと思うんです。狂言は600年ものあいだ、親から子へと受け継がれていく中で「いいものじゃないか、楽しいものじゃないか」とそれぞれの時代の中で皆さんにサポートしていただきながら続いてきたんです。そういう人の輪で残ってきたんです。人の思いが人の心に伝わって大きな輪になっていくという、それこそが「狂言力」なんです。

——なるほど！　あの勝利の瞬間はプロレスの理想的な形だなと思ったんですけど、それは600年前から存在していた狂言力だったということですね!?　勝った瞬間の気持ちはいかがでしたか？

和泉　勝って元彌コールを聞いたときには、「いま生きてる中で僕は一番幸せ者だ」と思わせてもらいました。その後、バックステージに帰ってきたらスタッフの皆さんとか選手の皆さんが詰め掛けて大きな拍手で迎えていただいて（笑）。私もすごい興奮状態で「ありがとうございます！」と何度も言いました。少し落ち着いたところに妻と子どもが私のところに来たんです。娘も心

11・3『ハッスル・マニア2005』和泉元彌vs鈴木健想ダイジェスト



視界を失なった健想は浩子にスピアーを誤爆！　その隙にコーナー２段目に登った元彌は健想の肩に飛び乗り、チョップを4連打！　これで崩れ落ちた健想から3カウントを奪取！



ミスター鬼瓦とAKIRAのサポートでピンチを脱した元彌。そこに待ち構えていたのは浩子のパウダー攻撃！　しかし、これを元彌が軽やかに身をひるがえすと健想に誤爆！



健想は170センチ、63キロの身体を徹底的に痛めつける。コーナーに叩き付け、ネックハンギングツリーで持ち上げ、シュミット式バックブリーカーで背骨を折らんばかりに攻め立てた。



前ページの写真のように空中から登場した元彌は、狂言の謡いで花道を歩いて登場。健想とのにらみ合いを繰り広げると張り手を見舞う。しかし、これで逆に健想の怒りに火がついてしまう。



ジュディ・オングの『魅せられて』に乗って和泉流宗家会理事長・和泉節子さん率いるセッチー鬼瓦軍団が登場した。節子さんは「宗家は遅刻もダブルブッキングもしない」と力説した。



人の思いが人の心に伝わって
ひとつの大きな輪になる
それこそが「狂言力」なんです

配してましたね。でも遠くから「私がついてるから大丈夫よ」と応援していてくれたみたいなんです（笑）。

——素晴らしいなぁ（笑）。いま、おいくつですか？

和泉　3歳です。

——勝って娘さんに迎えられるって、最高の瞬間ですよね。そんな映画みたいなシーンを体験できる人っていないですよ！

和泉　そうですよね。勝負をして勝利を勝ち取った人が感じるであろうことを、私はハッスルの中で健想選手と闘って少しでも感じさせてもらえたんだなと思うと、絶対的に世の中の人が言うことは正解なんですよ。「和泉元彌がプロレスをやるって、バカなことを言ってるんじゃない」って。その通りなんですよ。これはハッスルだから成り立ったことで、ハッスルだから私もあのリングに上がれたんです。主催がドリームステージエンターテインメントさんですよね。日本語にすると「夢舞台」、そんなことを帰りの車の中で話しました。お客さんに対しても「夢舞台」でしょうし。作っている人たちも夢を見てるんですよね。いい会社名だなと思いました（笑）。

——そうですね、みんなが同じ夢を見てるんだなって、昨日の和泉さんの試合を見て僕も感じました。

和泉　今回は、いろんな意味で、考えさせられたり感動させていただく場面が多かったですね。後楽園の前哨戦のときも、なにが一番うれしかったって、狂言の音楽が流れたときにあれだけ多くの人が「これは狂言だ！」って思うわけですよね。それが和泉元彌につながってるというのが、うれしかったです。



足元にちゃんと根っこを張りながら、違うところに花を咲かせてもらえた



全試合終了後、ハッスルとしては異例の試合後の会見が行なわれた。世間の注目度の高さはTVカメラの数で一目瞭然だ！



狂言和泉流二十世宗家
和泉元彌

——後楽園でプロレスファンの前に初めて出てみていかがでしたか？　空気感も独特ですよね。

和泉　はい。後楽園ホールが格闘技の聖地だということは話にも聞いてましたし、それは重々承知していました。あそこを経験せずにプロレスファンの前に初めて立つのが横浜アリーナだったら、もっと緊張していたと思います。私が出る前に浩子さんが煽っていましたよね？「マザコンのもやし野郎」みたいな（笑）。そしたらお客さんが「そうだそうだ！」みたいになって（笑）。このあと、私が出るんだけど……出ていいのかな⁉とか思いながら（笑）。

——ハハハハ！　でも、大歓声でしたよね。ちなみにあのとき流れたのは狂言の曲ですか？

和泉　そうです。『菖蒲酒（あやめざけ）』という私が生まれた初節句のときに、父と祖父が謡いを作ってプレゼントしてくれた自分にとっては特別な曲なんです。

——じゃあ、あの声は……。

和泉　プロレスファンでもあり、後楽園ホールにもよく通っていた父の謡いです（笑）。恰幅が良かったんで帰りのタクシーとかで「今日はお疲れさまでした」と言われて、本物のレスラーだと思われていたそうですけど（笑）。横浜アリーナで流れた『蝉（せみ）』というのも父の謡いなんですよ。それこそ何千人、何万人という中で、父の謡いで送り出されたというのはすごく嬉しかったですね。足元にちゃんと根っこを張りながら、違うところに花を咲かせてもらえたかなという感覚です。

——ちなみに『蝉』という謡いには何か意味があるんですか？

和泉　松の木に留まった蝉をカラスが寄ってたかって食べてしまったと。で、地獄に堕ちて、様々な苦しみを受けるんだけれども、最後はお坊さんになって、つくつく法師になりますという幸せな謡いなんですよ。だから、苦行のあとに救われるということで、闘いに向かっていく苦しみと、その後に待っている喜びっていうようなことが謡われているんです。

——試合のテーマに沿ったものをということで曲を選ばれてるんですね。深いなぁ。ところで話はガラッと変わるんですが、HG選手の試合はご覧になりました？

和泉　控室で完全にバテてまして、モニターで拝見させていただきました。本当にショッキングでした！（しみじみと）。

——ハハハハ！

和泉　どちらかというとウブな方だと思うので、これは放送されるのだろうか？という心配がまず頭をよぎりました（笑）。キャラクターの部分とちゃんとしたプロレスラーの部分を即時に切り替えながら、やっておられたじゃないですか。あれは凄いなぁと思いました。もしこれからハッスルに参戦する機会があったとしても、HG選手や

インリン様とマッチメイクされたら、あちらの不戦勝です（笑）。

――見たいですけどねぇ（笑）。狂言という前提から外れて試合をするのは難しい部分もあるでしょうが……。そういう意味では健想選手という対戦相手は絶妙でしたね。

和泉　たとえばお芝居を作る場合でも、キャスティングはすごく重要ですよね。見る人が最初に「（このキャスティングは）受け入れられない」ってなってしまったら、どんなにいい演技をしても興味を引かないじゃないですか。そういうことで言えば、私は健想選手と闘うことができて、狂言を引き出していただいたり、反対にプロレスの厳しさというものも教えていただいたのでよかったと思います。

――試合をしてみてプロレスに対するイメージは変わりましたか？

和泉　この試合で、プロレスって本当にプロレスなんだなって思ったんですよ。いろんなルールがあって、いろんな縛りがある中で、これだけの闘いを見せなさいっていうのは、プロにしかできないことじゃないですか。アマチュアだったら本当に相手を痛めつけてしまうでしょうし、下手をすれば大ケガをさせてしまうかもしれない。プロはそれを何十試合、何百試合と重ねていくわけです。打撃もするし、投げ技もするし、逆に攻撃を受けながら、人を感動させたり、ショッキングな思いをさせたりする。それがプロの仕事、プロレスなんだと思ったんです。

――今回の試合には賛否両論ある中で、否の意見も和泉さんの耳に入ってきたかと思うんです。

和泉　ええ。自分のホームページの書き込みには批判的なものもありましたね。「プロレスで金儲け」とか「今度はAV出演」とか書いてあるんです。私はそういうものは削除したいんですけど、「これは受け入れておこう」と思って残しておいたんですね。自分はプロレスは素晴らしいものだと思ってますし、ハッスルに参加したことで新しいものを作ったり、新しい貴重な体験ができると思っているのに、そういうふうにしか見られていないのが悔しくて、「いまに見てろ！」という気持ちになりました。



いずみ・もとや■1974年6月4日生まれ。A型。父は和泉元秀（和泉流十九世宗家・重要無形文化財保持者・銀杯賜与）。姉は和泉淳子（史上初女性狂言師）、十世三宅藤九郎。母は和泉節子（和泉流宗家宗家会理事長）。1歳半から修行を始め、3歳で初舞台。先代が急逝した後、21歳の若さで二十世宗家を継承。タレント羽野晶紀と2002年に結婚、長女・采明（あやめ）、長男・和泉流二十一世宗家継承者である元聖（もときよ）を授かる。11月3日のハッスル・マニア2005でハッスルデビュー、鈴木健想に勝利。

――それをあえて残すのが凄いですよね。和泉さんは、いままでいろんな悪意にさらされてきたと思うんですよ。それこそ何年も前から。それでも悪意を受け入れながら、自分の肥やしにしてるわけですから、もの凄く強い精神力ですよね。

和泉　今回ハッスル参戦のきっかけになった橋本（真也）さんにも「あなたは強い男だ」と、同じようなことを言ってくださったんです。

――たまたま1年以上前に飛行機で隣の席に乗り合わせた橋本さんとお話をされたということでしたよね。

和泉　そうです。そういうふうに見てくださっている橋本選手がいるハッスルというところは絶対いいところだと思っていたんです。

――不思議な因縁ですよね。

和泉　私は小さい頃から「死んでしまったならば伝統が残らなくなってしまう」と言われながら育てられたんです。書物を読んでも本物の芸は受け継げないですから。目と目を見て一対一で師匠と弟子が向かい合うからこそ本物の芸を受け継ぐことができるんだと言われて、毎日稽古をしてきたんです。狂言を守りたいと思っている自分が、誹謗中傷に負けて命を捨ててしまったならば、自分の役目を放棄していることになってしまいますから。絶対に弱くはなれないですし、強くならざるを得なかったんです。

――攻撃的な強さではなくて、どんなに打たれても立っている受けの強さですよね。

和泉　そうですね。今回は珍しく私から攻撃に出たかなっていう気もしてますが（笑）。

――ワイドショーはワイドショーの立場でおもしろおかしく取り上げようとして、和泉さんは、本当に言いたかったことを言った。それを見ている観客がどっちを支持したかといえば、今回は和泉さんだったと思うんです。健想選手が攻撃すればするほど、和泉さんが1発返したときの声援が大きくなる。それが「またハッスルで和泉元彌を見たい」という声につながっていくと思いますし（笑）。

和泉　私たちは、一発の打ち上げ花火的なものが嫌いなんですよ。一回の舞台に1億円のお金かけて大きな打ち上げ花火を上げて「ハイ、これで終わり！」というのが嫌なんですね。一度やったあとはまた次につなげてこそ、ですから。ひとりでもふたりでも「よかったよ」と言ってくださったならば、本当に頑張った甲斐があったなと思いますね。

――また、ハッスルという夢舞台で、拝見できることを楽しみにしてます。

和泉　ありがとうございます。そんな皆さんの声があると頑張れる気がします（笑）。

【05年11月4日、DSE事務所にて収録】

和泉元彌直筆サイン入り!

『ハッスル・マニア』パンフレットをプレゼント!!



『ハッスル・マニア』の感動をお手元に！ 狂言和泉流二十世宗家・和泉元彌の直筆サイン入り『ハッスル・マニア2005』大会パンフレットを2名様にプレゼント！
応募方法はP154を参照のこと。



世界に羽ばたくスーパースター夫婦

鈴木健想&浩子

和泉元彌戦で見せたかったこと

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄　designed by matsu（TwoThree）



日本中が注目した和泉元彌の『ハッスル・マニア』参戦。プロレス史を揺るがしたこの世紀の一戦で和泉元彌の対戦相手を務めた二人のプロフェッショナルに対する賞賛の声は非常に多い。プロレスファンはもちろん、普段あまりプロレスになじみのない人たちにも彼らのスキルはしっかりと伝わっていた。その二人とは、『NEWSWEEK』誌で「世界で尊敬される日本人100名」にノミネートされた鈴木健想と妻・鈴木浩子だ。

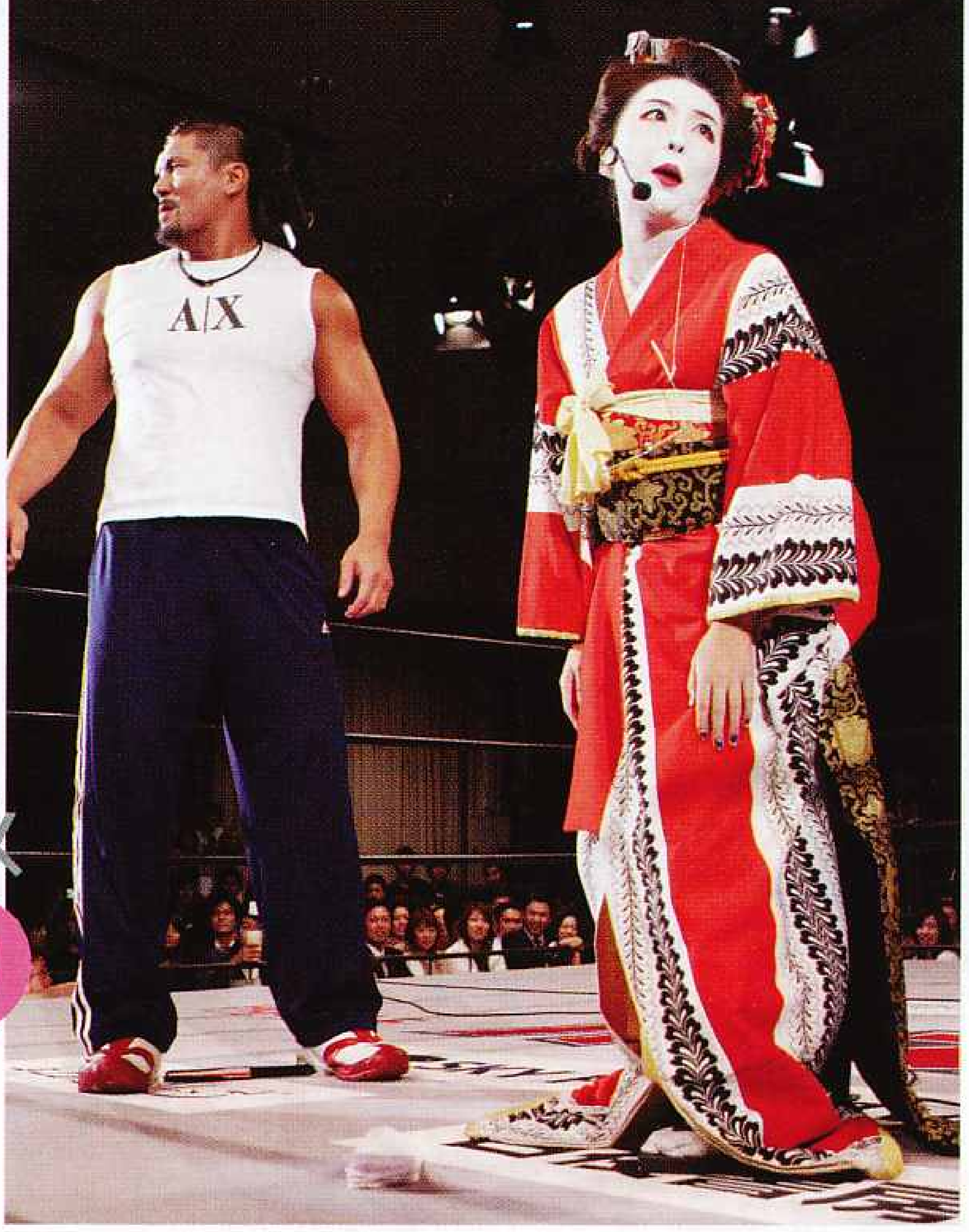
彼らが帰国第一戦に選んだのはハッスルのリングだった。10月21日の帰国会見では和泉元彌から対戦の指名を受けたことを知らされ、健想は「なんで俺が素人と試合しなきゃいけないんだよ！」とド迫力で怒りを爆発させ、浩子は「お母様が出てくればいい」と言ってのけた。プロとしての誇りと意地、そしてケレン味というアメリカでしか得られないであろう華を身にまとった姿はプロレスファンに大きな驚きを与えた。

同27日の『ハッスル・ハウスvol.10』では、バルコニーに登場した和泉元彌に「そなたには明るい未来が見えぬぞよ」と狂言調マイクアピールで挑発されてしまったが、浩子は「ボコボコにするつもりはありません。お命、頂戴いたします！」とやり返してさらに因縁がヒートアップ！

そして迎えた11月3日、『ハッスル・マニア2005』ではさらに大きなドラマが待っていた。浩子はセッチーこと和泉節子さんとの舌戦で試合前から盛り上げ、健想は厳しい攻めで和泉元彌への声援を集中させ、最後には浩子へのスピアー（タックル）誤爆から空中元彌チョップを受けてフォール負けを喫するまで、観客をハラハラさせ続けた。

この試合で健想と浩子が果たした功績は非常に大きい。試合の勝ち負けを超えた部分を世間一般に伝えるという非常に難しいミッションを見事にクリアしたのだ。裏を返せば、この試合は彼らにしかできないプロレスだったと言える。

世紀の一戦の翌日、本誌は健想と浩子を成田空港でキャッチした。



KENZO & HIROKO

——本当に凄い大反響でしたね！　スポーツ紙でも一面を飾ってますよ！

浩子　ええ、ちょっとだけ見ましたけど。

健想　（新聞を見ながら）僕はホウキとでも試合ができるってことをアメリカで学んできたので。それをお見せできたかな、という感じですね。

——お二人がアメリカでやってきた3年間を一番わかりやすい形で、ド派手に表現していたと思います。最高の凱旋試合じゃないですか？

浩子　エンターテインメントの本場アメリカを回っていく中で、常にいい相手とだけ試合ができるわけじゃない。いろんな選手がいますからね。どんな状況だろうと試合をしなきゃいけない。だからといって、言い訳はできないのが一流の世界なんです。

——なるほど。どんな条件下でも常にベストなものを提供しないといけないんですね。

浩子　そうです。どんな相手でも、どんな状況でも、お客さんが拍手をして納得してくださるものを提供しなければいけないんです。今回、帰国第一戦をやるにあたってそういうところでプロレスをやってきて成長した部分を出せればいいと思ってましたから。

——浩子さんはアメリカではマイクアピールに関してはそれほどクローズアップされてなかったので気付かなかったですけど、しゃべりのうまさとか迫力が本当に素晴らしいと思いました。

浩子　そうですか？　日本語になると英語でやるよりもハードルが低くなりますね。演技の部分だけに集中すればいいわけですから。間やどこを強調するかっていうのはジョン（・シナ）やスティーブ・オースティンのプロモ（マイクアピール）を見て学んだ部分もあります。

——今回、和泉元彌さんとのプロモの中で、どんな部分を強調しようと思ってましたか？

浩子　彼のバックグラウンドに注目がいくようにすることですね。そうすることで、逆に健想が生きてくると思ってましたから。彼がプロレスラーではないこと、長い歴史のある狂言の一家の生まれであること、宗家と言われるいい家柄であることとか。

——普通に考えれば、そこは和泉元彌さんのいい部分なんですけどね（笑）。

浩子　予備知識として見てる人の頭の中に入れておきたいことをアピールするように考えてます。たとえば「狂言600年の歴史」という部分を強調したいから「（健想と闘うのは）600年早いんじゃボケ！」というセリフがあるんです。ストレートに説明するんじゃなく、人の印象に訴えかけたいんです。

——なにかに引っ掛けて転がしていくということですね。和泉元彌という人とリングで闘ってみて、いかがでしたか？

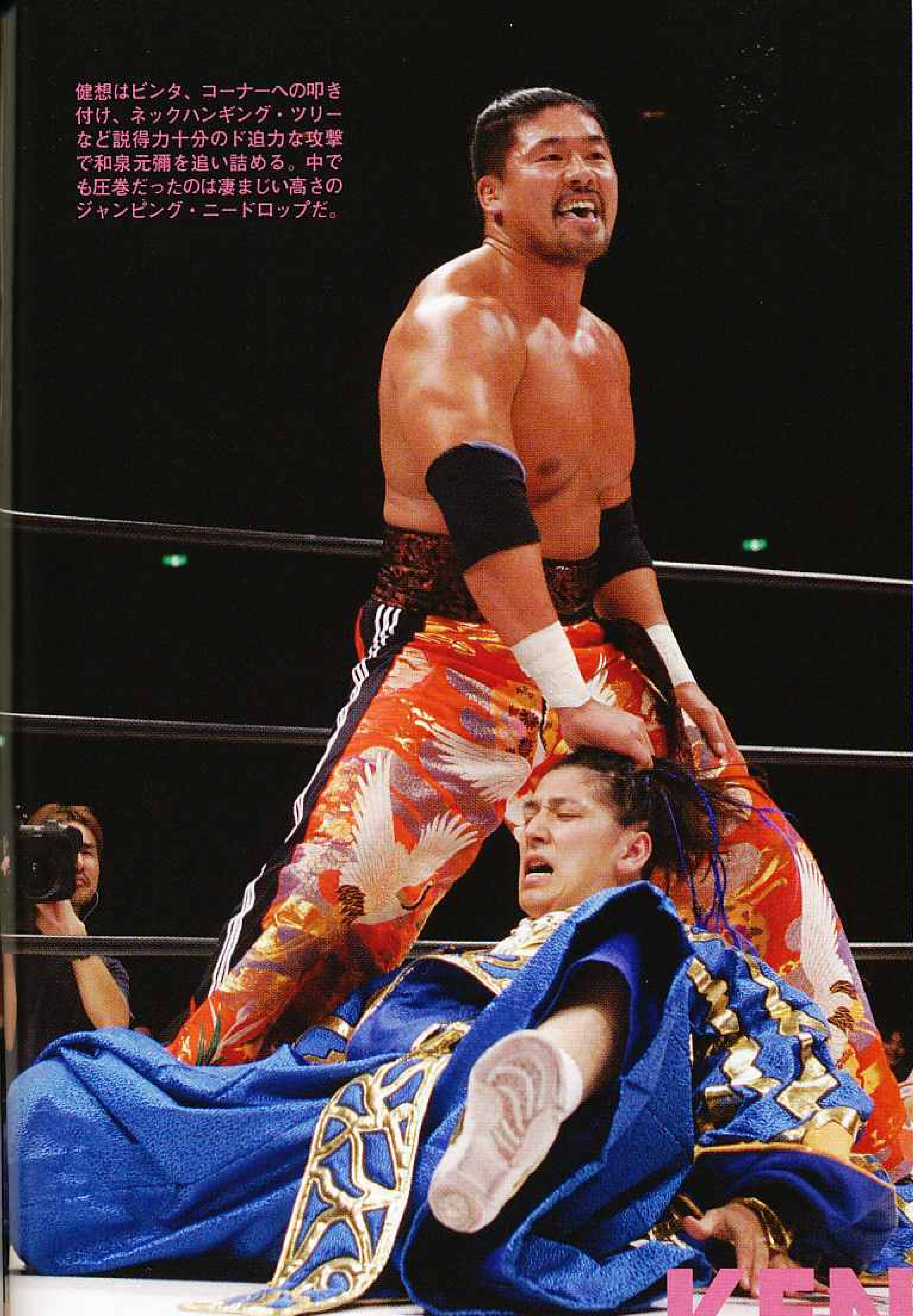
健想、なにか新しいことを始めたいんだな、という熱意は伝わってきましたね。それが新しい狂言なのか、新しいレスリングなのかはわからないですけど。

——元彌さんを引っ張って試合を成立させた健想さんの度量の大きさも際立ってましたよ。

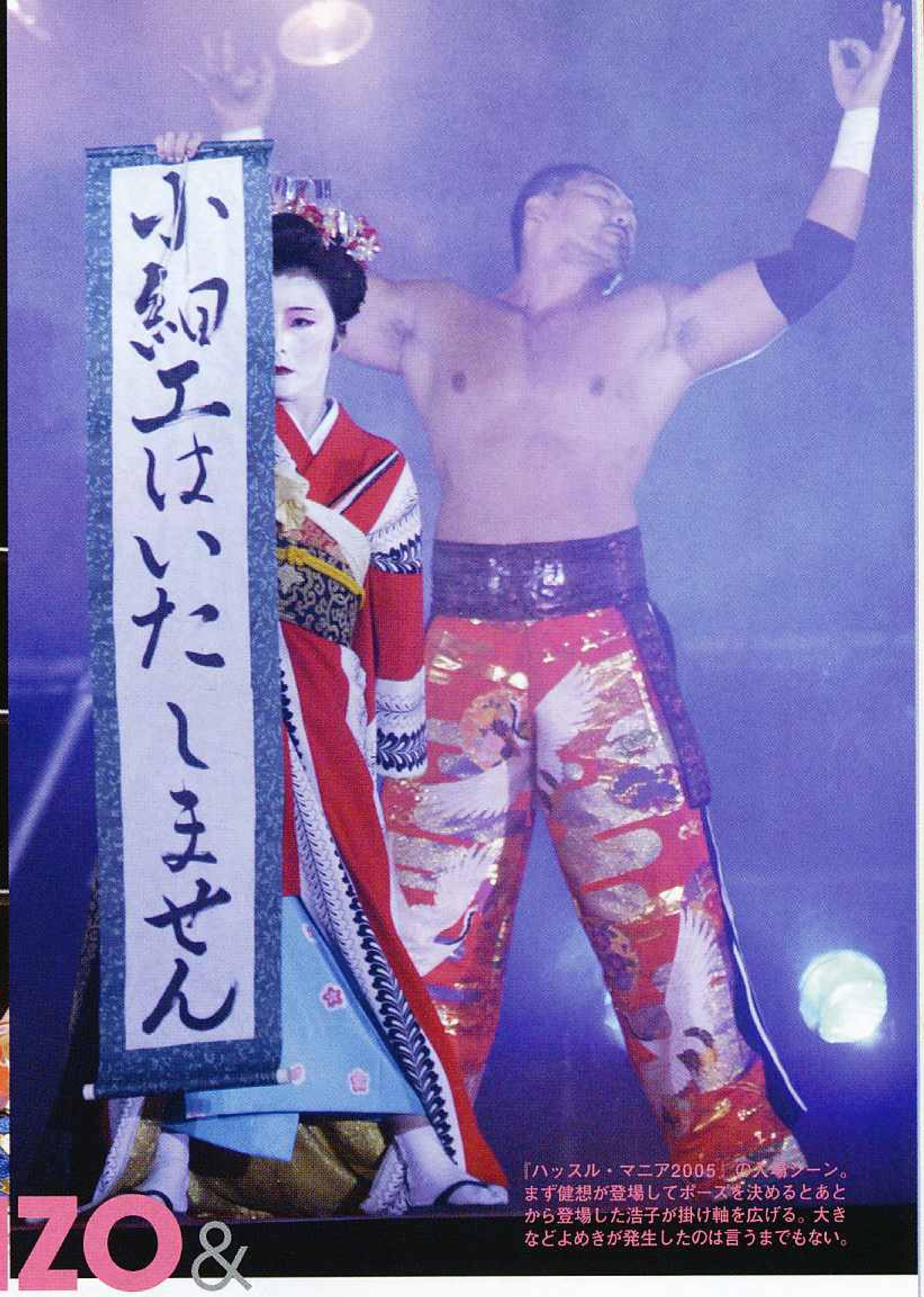
健想　アメリカではそうやって結果を残さないと、翌週には仕事がこないという状況でしたから。いい勉強になりましたね。も



10月27日、後楽園ホールで行なわれた『ハッスル・ハウスvol.10』でバルコニーに和泉元彌が出現。健想と浩子のうろたえた仕草とその直後の「お命、頂戴いたします」というマイクアピールは「さすがWWE帰り!」と目の肥えた観客をもうならせた。



健想はビンタ、コーナーへの叩き付け、ネックハンギング・ツリーなど説得力十分のド迫力な攻撃で和泉元彌を追い詰める。中でも圧巻だったのは凄まじい高さのジャンピング・ニードロップだ。



『ハッスル・マニア2005』の入場シーン。まず健想が登場してポーズを決めるとあとから登場した浩子が掛け軸を広げる。大きなどよめきが発生したのは言うまでもない。

KENZO & HIROKO

ちろん、すぐ収入にも響きますから。

——自分からどんどん意見を出して、プロモでもなんでも改善していくのもアメリカで学んだものですか？

健想　いろいろ考えて一番おもしろいと思うものを常に探しながらやってました。

浩子　今回もスタッフの方には迷惑をかけた部分もあると思うんです。本番寸前のギリギリまで「プロモの内容を変更してください」とか「こっちのほうがいいんじゃないですか？」ってことをずっと言ってましたから。おそらくスタッフの皆さんも「え〜っ!?」と思ったんじゃないかと思うんです。日本の中にはそういうことをする方はいらっしゃらないと思うので。

——アメリカではそれが日常的にバックステージで行なわれてるわけですね。

浩子　私たちも恥をかきたくてやってるわけでもなければ、つまらないことをやりたくてやってるわけでもないんです。やるからには最高のショーを作りたいと思ってやってるんです。そこをわかっていただけたのがハッスルだったんじゃないかと思います。

——僕の個人的な感想ですけど、帰国第一戦が新日本プロレスだったら、ここまでお二人の魅力が出る試合にはならなかったと思います。ハッスルというイベント全体の感触はいかがでしたか？

浩子　異色ですね（キッパリ）。

健想　同感ですね。

浩子　奇をてらっているのか、新しいものなのか、まだわからないです。でも、ここにしかない空気がある団体だなと思いました。

——日本の団体にもアメリカの団体にも？

浩子　ないと思います。ＷＷＥともまったく違うと思います。

——ああ、そうなんですか。なんとなく似てるのかなぁと思ったんですけど。

浩子　全然違いますよ！　ＷＷＥはプロレス団体ですから、プロレスラーが一番です。リングの上、試合が大事なんです。でも、ハッスルはそれを超えたところにあるエンターテインメントだと思います。メインマッチの出場者のうち半分が芸能人ですから。それはＷＷＥは絶対にやらないことです。そういう意味で新しいことをやっている団体だと思いますね。正直、あの試合を見たらプロレスラーの方は憤慨するかもしれない。ファンの方でも「いい試合だった」と言ってくださらないかもしれない。「プロレスをナメるな」と思うかもしれない。そういう意見もすべて踏まえた上で、私たちがアメリカでやってきたことを考えると、決して悪い試合ではなかったと思います。

——いや、むしろ素晴らしい試合でしたよ！

浩子　健想がこれから進む方向にも合ってると思うんです。それをハッスルが受けとめてくれた結果、ああいう試合になったんだと思います。

——そうですね。誰もがこの試合をできるかといったら、決してそうじゃないですからね。

浩子　それは健想がアメリカで培ってきたスキルを証明した形になったんじゃないかと思います。

——健想さんを最後に取材させていただいたのはアメリカに行く前、ＷＪに在籍していた時期だったんですが、あの頃とはまっ



浩子のパウダー誤爆が、さらに健想のスピアー誤爆を招いてしまう。健想のスピアーをまともに食らった浩子だが「(ダメージは) 大丈夫です!」とタフな答えが帰ってきた。

たく違いましたね。完全に吹っ切れてたと思います。

健想　そうですね（笑）。自分の夢に少しでも近づけるように努力をしてますから。

——やりたいことができなくてストレスがたまっていく状況と、やりたいことに少しでも近づこうともがき苦しむ状況では全然違うものですか？

浩子　あの頃に比べると、いまはやりたいことができてるように皆さんの目には映ってるかもしれないですけど。

健想　いまはいまで、やりたいことがドンドン出てくるんですよね。いい意味での貪欲さというか野望が大きくなってます。

浩子　ただ、それがなかなかできないんです。そうやって少しずつでも向上していくのかなとは思ってますけど。

——なるほど。その〝やりたいこと〟の中のひとつが、アメリカでの自主興行なんですね。

浩子　そうですね。来年の1月か2月になりそうです。

——もう内容は固まってるんですか？

浩子　いま、いろいろ計画しているところです。私としては「在米日本人は頑張ってるよ！」ということを発表する場がほしいと思っていて、音楽界でも演劇界でもみんな歯を食いしばって生きてるんです。そういう人たちが一致団結して何かを発表できる場があるといいねという話をすると、みなさん協力を申し出てくださるんです。

——いわゆるショー・ビジネスの世界で頑張ってる方々ですね。

浩子　ただ、私は「プロレスはプロレス」だと思っているんです。いい試合をするのも感動する試合をするのも、プロレスラーがリングの上で作り出すものですから。その部分だけはしっかりしたものにしたいと思ってます。すりあわせをしながら、時間はかかってもいいものを作りたいですね。決まったらお知らせはしますので。

——では、最後の質問なんですが、帰国第一戦で明るい未来は見えましたか？

浩子　どうでしょう？（と健想を見る）。

健想　明るい未来は……見えた、かな？



すずき・けんぞう■1975年7月25日、愛知県出身。明治大学でラグビー日本代表にも選ばれる。新日本プロレス〜WJを経て渡米。WWEではタッグ王者に。ハッスル参戦後はメキシコに渡り闘龍門メキシコに約1週間入門した。193cm、120kg。

すずき・ひろこ■1975年2月14日、千葉県出身。明治大学卒業後、福島中央テレビにアナウンサーとして入社。その後フリーに。健想と2003年に結婚。WWEではディーバとして活躍。

——これからも活躍を期待しています！

【05年11月4日、成田空港にて収録】

このインタビュー直後に行なわれた記者会見では、今後のハッスル参戦についても注目発言が飛び出した。「誰かの下に付くのは嫌ですね。ハッスル軍ともモンスター軍ともつるまない」「ハッスルには付け入る隙がある」「鈴木軍を作りたい」と、浩子は堂々と言い放った。健想も「（HGに）腰を振られてみたいですね」と語り、二人の頭の中ではすでに様々な計画が始まっている模様。今後も目が離せない！





ハッスル・マニア2005 ファイティングオペラ

狂騒曲

対世間!を視野に入れたプロレスイベントとしては、近年に類を見ないほど、お茶の間に届きまくり。さまざまな意味で、ワイドショーや各メディアの話題を独占した『ハッスル・マニア2005』。この騒動を様々な媒体、様々なリアクションを含め、一気に振り返ります!

構成／真下義之　写真撮影／平工幸雄、山口比佐夫
写真協力／DSE　designed by matsu（TwoThree）

試合後の記者会見に登場して、喜びいっぱい、勝利のフォー！　を爆発させたHG。集ったマスコミ各社のフラッシュがいっぺんに焚かれた。左はじにいるレポーターは『サンデージャポン』（TBS）から派遣されたゴージャス松野氏。

『ハッスル・マニア』まで1ヵ月切った10月12日、狂言師の和泉元彌が突如、『ハッスル・マニア』に参戦表明！　ここからハッスルメディア狂騒曲はスタートした。

以降、和泉元彌ネタは朝、昼、夜のワイドショーの「定番モノ」としてお茶の間に定着。芸能とプロレスが融合する『ハッスル』と、ワイドショーがスイングし始める。ハッスルは、記者会見をスキットに見立て、ネットや新聞でドラマ展開する方法論を確立させていたが、ここに猥雑なニュースを好むワイドショーが参入、TVという舞台でもハッスルの世界が広がり始める。

また和泉元彌の会見当日、インターネットサイト、〝Yahoo〟のトップページのニュースに「和泉元彌、プロレス参戦で会見」と「レイザーラモンのマネは危険?」（腰振りモノ）と2つのハッスル関連ニュースがリストアップされる異常事態が発生した。

一般誌にもハッスル効果波及！『FRIDAYダイナマイト11／1増刊号』（講談社）では『オトコ袋とじ』としてHGグラビアとチェンジングカード付録付き！　さらに『FRIDAY 11／11号』（講談社）では、HGが表紙をジャック！　さらに「インリン様の撮りおろしグラビア」も掲載したハッスル号。『BRUTUS』（マガジンハウス）の11月15日号「買いモノ人生に悔いなし!?」の表紙もHGが登場した。S記者フォー！

連日ワイドショーを盛り上げる和泉元彌騒動は、ゴッドねえちゃん、和田アキ子にも波及！　10月23日放送の「アッコにおまかせ！」（TBS）

ハッスル・マニア会見狂騒曲

全国地上波放送のないハッスルにとって記者会見はストーリーを保つ有効手段。『ハッスル・マニア』では和泉元彌、HGの参戦で、ワイドショーとの連動に大成功！　そんなハッスルのメディア戦略をフラッシュバック！



9月22日／東京・恵比寿
インリン様の会見中に、HGが乱入し『ハッスル・マニア』にて対戦要求！　インリン様は机をひっくり返して激怒するも両者の対戦が決定!



9月1日／都内ホテルにて
『ハッスル・マニア』にて、HGのプロレスデビューを発表。昔からの夢が叶ったHGは「夢、フォーー!」と感無量。キャプテンも一緒にフォーー!



8月18日／東京・東宝スタジオ
映画『超星艦隊セイザーX』の撮影に、総統が来場。映画プロデューサーにビターン敢行し、髙田総統本人役として出演決定。



8月14日
東京・代々木公園のイベント内で『ハッスル夏祭り』開催。『ハッスル・マニア2005』の開催を発表。ハッスル軍に『超星艦隊セイザーX』が加入。



10月16日、ビッグカメラ有楽町店で、髙田モンスター軍がトークショーを開催。髙田総統、インリン様、アン・ジョー司令長官に島田二等兵ら髙田総統一座が勢揃い。オールスターで『ハッスル・マニア』へむけ怪気炎！



10月25日、狂言師の和泉元彌の記者会見が行なわれ、元彌ママこと・和泉節子さんも同席し、当日はセコンドにつく〝セッチー鬼瓦軍団〟の結成を宣言。元彌はAKIRAを相手に初スパーリングを披露。

で、草間GMが和田アキ子に「『ハッスル・マニア』を見にきてください！」と招待状送付！　和田は「ワタシが出たら強いと思うよ！　ある程度イケると思う」とアピール。これを受け、10月26日の『東京スポーツ』紙面では「ハッスル、元彌の次は和田アキ子＆デストロイヤー組vs北斗＆健介組が実現？」と一面展開、草間GMは「芸能界最強の腕を思う存分、発揮してほしい」とラブコールを送った。（以上、『東京スポーツ』10月26日号より）

ついに迎えた、『ハッスル・マニア』当日、600名以上のマスコミ（主催者発表）が大挙押し掛ける超大盛況！　基本的にコメントを出さないハッスルも今回は試合後の記者会見を実施。各社入り乱れて取材合戦が白熱。とくにTBSのバラエティ『サンデー・ジャポン』では、プロレスラー、ゴージャス松野氏を派遣。何度も質問する松野氏に、HGも「セイセイセイ！　質問しすぎじゃないですか～」と半ギレ状態。

『ハッスル・マニア』の翌日も、朝からハッスル三昧。元彌一面の『日刊スポーツ』を見ながら「いいかげんにしろって言いたいね！」とみのもんた氏が毒づいたり（TBS『みのもんたの朝ズバッ』より）。フジテレビの朝の顔、大塚範一キャスターが健想の試合を見て「これは急所をはずしてる感じですね～」と発言したり（フジテレビ『めざましテレビ』より）、さらに「ボクが作家なら、最初の対戦は場外乱闘か、両者リングアウトか、次回持ち越し！　これしかない！」とうかつな発言を連発していた小倉智昭氏は、大成功のリポートを受けて「これはショウとしてつくり方が上手かったということでしょうか？」とハッスル容認の方向（フジテレビ「とくダネ！」より）だ。

スポーツ新聞各紙も『ハッスル』がジャック！　まず『日刊スポーツ』が「面白過ぎハッスル　元彌！　HG！」と一面展開すれば、『デイリースポーツ』は一面＆裏面構成で勝負！　『スポーツニッポン』も中カラー2Pで大々的にフィーチャーし、老舗『東京スポーツ』も「狂言力で劇勝！」と一面と裏面で立体特集。

こうした世論の高まりから、プロレス業界誌も危機感をつのらせる。『週刊プロレス』は「（ハッスルを）プロレスとして取り上げていたから困る、世間が見て、これがプロレスだと思われたらたまったもんじゃない」と心情を吐露（『週刊プロレス』No.1289）ここへ笹原前GMこと、エージェント・ケイ・ササハラ氏が反撃！　ハッスルの公式ブログHPで「悪意に満ちているとしか思えません」と猛抗議した。

また新日本プロレスの成瀬昌由は「バスの移動中にビデオで『ハッスル・マニア』を観たが、元彌と健想の試合は見入ってしまった。何が純プロレスで、何が不純プロレスなのか分からなくなってきたな」（成瀬昌由公式BLOG「自由人」より）と自分の行く末も見えない様子だ。

最後に、PRIDEの髙田延彦総括本部長が見た、『ハッスル・マニア』の感想を紹介しよう。「ハッスル・マニアをスカパーで見た。（中略）DSEのスタッフによると、舞台裏では心地よく張りつめた緊張感がメインに向けて高まっていったと聞く。（中略）あの髙田総統と国際電話で話したんだ。（中略）総統は『君に言うのも気がひけるが、ハッスルがPRIDEを超える日がやってくることを断言しよう』とも言ってたよ」（11月9日『デイリースポーツ』より）とのこと。

ハッスルの地熱は髙田本部長にも伝搬した！　芸能とプロレスが交錯するハッスルのリングから今後も目を離すな！





写真上の『FRIDAYダイナマイト増刊号』（講談社）で、HGが袋とじグラビア登場＆カードつき。写真左の『FRIDAY11/11号』（講談社）ではHGがついに表紙に初登場。インリン様の特写グラビアも掲載！



11月2日／横浜アリーナ
『ハッスル・マニア』前日に小川直也の呼びかけでハッスル軍が決起集会！　欠席者が続発するなど足並みの揃わない会見となり不安を残した。



10月29日／新横浜ラーメン博物館
健想と浩子夫人が横浜アリーナ下見についでに新横浜ラーメン博物館で会見。「あのマザコンをボコボコにする！」とラーメンすすりつつ抹殺宣言！



10月26日／都内某所
ジャスティライザーが、プロレス用のモンスターバトルスーツを披露。ここにセイザーXが乱入し、モンスター軍、ジャスティライザーを蹴散らす。



10月21日／成田空港
成田空港に鈴木健想と浩子夫人が帰国。『ハッスル・マニア』でデビューする和泉元彌からの対戦指名に、健想は激怒！　浩子はお母様を挑発！



10月14日／神奈川・茅ヶ崎
小川が念願の道場を設立。道場開きを行い、ハッスル軍のオーディションのプランも。「自分としては元彌ママがハッスル軍に欲しい」と発言。



いかないで!! インリン様

――ぼくらはこんなにインリン様のことが好きだった！

「インリン！　お前はここまで存分に役目を果たした」ＨＧの三角締めで瀕死状態に陥り、モンスターＫに抱えられたインリン様に向かって髙田総統がねぎらいの言葉をかける。すると１万４５７３人から一斉に「ええ〜っ!?」と落胆の声が上がった。

やがて映画『もののけ姫』の主題歌が静粛に流れる中、インリン様はステージに出現した棺（？）に横たわり、スモークの中、ゆっくりと下降し、その姿を消した……。

この瞬間、僕らは大事な何かを失なった気がした。これまで感じなかったような巨大な喪失感。そう、いつの間にかインリン様という存在はこんなにも急激に膨れ上がっていた。

ＨＧや和泉元彌の初参戦で爆発的成功を収めた『ハッスル・マニア』だが、この成功は〝ファイティング・オペラ〟という前例のない巨大な実験に身を投じたインリン様を抜きに語ることはできない。ここ一年、献身的と言っていいほどの熱量でハッスルに取り組み、いまやインリン様は「ハッスルのエース」と言っても過言ではないほどの圧倒的な存在感を発揮するまでになった。

インリン様は変幻自在に僕らを楽しませてくれる。艶やかな衣裳。堂々たる身のこなし。そして神業的ムチさばき。そのすべてが完璧に洗練され、妖しい魅力に満ち満ちている。

『ハッスル・マニア』での闘いはインリン様初！　と言っていいほどアグレッシブに攻めまくり、豪快に相手の技を受けまくるというインリン様史上に残る名勝負が展開!!　とくにＨＧの秘技ＰＷで股間を押し付けられながらすべてを受けきった壮絶シーンや、フィニッシュのＨＧ三角絞めで、上下に激しく振られ、意識を失なってゆくクライマックスは、インリン様の突出した表現力によって観客の心に鋭く突き刺さっていた。



これまでプロレス界でプロレスラーではない女性の役まわりと言えば、〝主役の添え物としてのマネージャー〟や〝官能性をアピールするディーバ〟のような、限定範囲でしかありえなかった。だがインリン様はこういった重力からも自由な、完全に前例のない突然変異として誕生した。いきなりトップレスラーである〝キャプテン・ハッスル〟小川直也のライバルとしてキャスティング。だが、インリン様はこの難しい役どころを完璧にまっとうしてみせた。こんな全身プロ意識の塊のようなインリン様が、ハッスルからフェイドアウトするなんてあまりにも惜しい。

11月3日、ハッスルマニアの会場を突如襲った巨大な喪失感は、インリン様による洗脳が、現時点で完全に完了していたことの証明だろう。

「ホントに洗脳しちゃうわよ？」というインリン様のお言葉どおり、気がつけば僕らはこんなにもインリン様に魅せられてしまっている。

全知全能の髙田総統には、必ずやインリン様を〝蘇生〟させてほしい。「インリンよ！　お前はこの私が、必ず〝再生〟させる！」と語った髙田総統のモンスター級のクリスマスプレゼントを心待ちにしたい。

（真下義之）

好きよキャプテン

小川直也を見続けるということ。

ハッスル1年10ヵ月の集大成イベント『ハッスル・マニア』の主役は、発足当初からイベントを支え続けてきた〝キャプテン・ハッスル〟小川直也や、川田利明らプロレスラーたちではなく、お笑い芸人でプロデビュー戦をその日に迎えたHGや、狂言師・和泉元彌だった。

彼ら芸人が主役を張ったことで、某プロレス専門誌は「これでいいのかプロレス!?」という表紙コピーで違和感を煽っていたが、バカボンのパパ風に返答すれば「これでいいのだ!」である。その時々で主役を張れる人間が、堂々とメインを張るだけの話です!

ただ、今回は〝脇役〟に徹してはいたものの、ほんの一年前、世間に一躍ハッスル・ブームを巻き起こした小川直也の存在感が当時と比べて格段に薄くなっているのは紛れもない事実である。

髙田総統のように「小川はしょっぱい」と指摘をする人もいるだろう。読者のガチンコ投票で決定する本誌のプロレス大賞で昨年はMVPに輝いたが、半年後となる今年の同大賞・上半期集計ではワーストMVPにノミネート。なんていう急降下!

いつ何時でも毀誉褒貶が激しいのは小川直也の宿命だが、くじけながらもがき苦しむ小川直也の胃が痛くなるような魅力をいま感じないでいつ感じるんだ?

本来、主役を張るべき男の一挙手一投足を、胸に不安を抱えながら見続けるという行為。思い返してみれば、我々が小川直也という存在にショックを受ける瞬間は、誰もが役回りを演じるファイティング・オペラという空間の中で、ひとりだけ素が剥き出しになっているときだった。

「恥ずかしがらずにやれよ〜!」というわりに、いつも恥ずかしそうに腰を振っていた。髙田総統のマイクをただひとりだけ居心地悪そうに聞いていたのも小川直也だった。

しかし、キャプテンにとっても集大成となる『ハッスル・マニア』では、



ファイティング・オペラの中に溶け込んだ姿をやっと見ることができた。小川がインリン様のM十字固めでロープエスケープしたシーン。思わず観客からは「オガワ!」コールが発生したが、インリン様のM十字固めで悶え苦しむ世界選手権5連覇の柔道王に、大声援を送る観客! ……って、冷静に考えなくても本当に馬鹿馬鹿しい! 呆れるほどモンスター軍に虐げられ、インリン様に二度もフォール負けするという身体を張ったことが『ハッスル・マニア』につながった。そしてオープニングでも、小川直也にピタッとはまったポジションがあった。

ドリフターズのいかりや長介よろしく「♪エンヤ〜コラヤット ♪ドッコイジャンジャンコ〜ラヤ」と歌って踊ったシーン。『8時だョ! 全員集合』でおなじみのこの歌。エースの座は志村けんに譲ってもあの歌を真ん中で歌うのは、長さんでなければならない。

コントでは常に〝権威〟の象徴としての役柄を演じ、他のメンバーから笑い飛ばされながらも、グループのリーダーとして矢面に立ち続けていた長さん。当時の長さんと、いまの小川がダブって見えるのは決して気のせいではないはずだ。

次、行ってみよ〜! （ジャン斉藤）



暴発寸前!! ハッスル・マニアたちが横アリ集結!!

『ハッスル・マニア』開場前にあわや暴動騒ぎ!?



『ハッスル・マニア』危うく暴動寸前？　この日の開場時間は午後3時30分。期待に胸を膨らましたファンが続々と集結……だが、開場時間を過ぎても一向に開場されずに、会場前の観客数は、異常な数に膨れ上がる。ついに怒号まじりの「開けろ」コールが発生し、不陰なムードへ。小雨も降り出すなど、観客のイライラのピーク一歩手前で、状況を察知した主催者が客をロビーまで入場させたことで危機一髪。なんとか事なきを得た。

チケット自腹でレイザーラモン出渕氏も来場!

11月3日は『ハッスル・マニア』記念日！　ハッスル立ち上げから1年8ヵ月。多くの苦難を乗り越え、『ハッスル』が横浜アリーナに帰還！　元彌＆HG効果が追い風となり、この日は1万4573人（満員＝もうすぐ超満員！）という『ハッスル』横浜アリーナ大会で過去最多の動員！　ハッスル最大の祝祭を迎えたハッスル・マニアたちで会場前は熱気爆発。そんな会場周辺のファンの声をトピックスとして、一挙にお届け、フォーッ！





















HG、元彌以外も ハッスル!! ハッスル!!

『ハッスル・マニア』には、HG、元彌の他にも豪華ゲストがぞくぞく登場！　負けずにハッスルした選手たちを一挙紹介。



大ハヤブサの弟こと天龍源一郎が「サンダーストーム」に乗り、安田のタッグパートナーとして初参戦!　「ハッスル・スーパータッグ王座」獲得を獲得し、今後の参戦も示唆した。



らっせーらーらっせーらー♪　となぜか『ハッスル・マニア』に出没した猫ひろしは、田中、金村組のセコンドにも登場!　にゃ〜!



セイザーXとの闘いに敗れ、会場の「ジャスティ!　ジャスティ!」の声に押されるように髙田総統の洗脳から解放され、ついに正義の心を取り戻したジャスティライザーの勇姿。



長州力のパートナーXは、なんと藤原喜明だった!「ワルキューレの騎行」ではなく、長州と「パワーホール」で入場した藤原は、坂田に強烈なヘッドバッド一閃!



デビル夫人の旧敵？　髙田アマゾネス軍に加入した恐怖の姐さんの正体は、ジャガーYだった！　怪しげな猫パンチ、語尾に「ニャ〜！」とつける言動でハッスル軍を幻惑！



オープニングハッスルは経験豊富な、ジミー・ヤン＆カズ組に、若手レスラー有望株の飯伏幸太＆石森太二が激突し、大空中戦を展開。最後はヤンタイムでピンフォール!



「空中元彌チョップTシャツ」200枚や「セッチー鬼瓦前餅」100個が完売するなど脅威の売上げを見せたグッズ売り場。開場前の出張店舗も好調な売り上げをマーク!

10·30『ハッスル13』TOPICS

ハッスル現象は青森にも波及 会場の観客動員記録を更新!!

インリン様、おいらん姿で青森県民を完全洗脳!!







初めて和風の衣裳で登場したインリン様はM字台の上でバランスを崩しながらも、完璧なM字ビターンで青森県民の洗脳に成功した。昼間ですら9℃しかない本州最北端の地が熱く燃え上がった。

会場の青森産業会館には4370人もの人が詰めかけ、チケットが買えずに帰った観客もいたほどの大盛況となった。地元の人によるとプロレスでこんな事態が発生したのは20年ぶりだとか。おそるべし、ハッスル現象！高田総統に「地味でしょっぱい県民性」と揶揄されながらも、東京や名古屋に負けず劣らず熱い声援が客席からわき上がった。観客の熱は選手にも伝わり、じつにハッスル度の高い大会となった。中でも青森県民を燃え上がらせたのは、おいらん姿のインリン様だ。「どーですかッ、お客さ〜ん!?」と黒田哲広ならずとも絶叫したくなるこの艶やかな姿は、青森県民の網膜に焼き付いているはずだ。



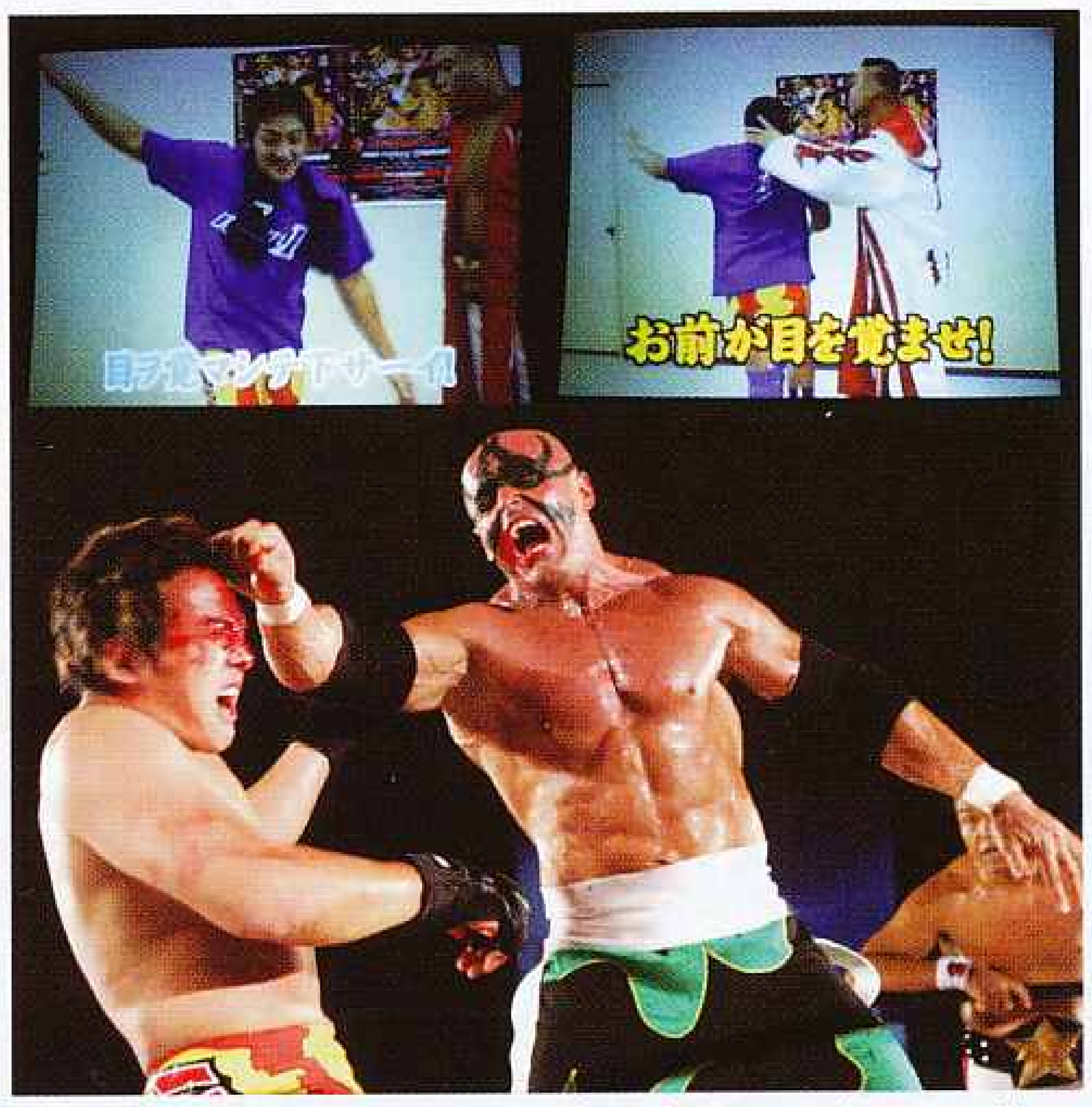
青森テレビの美人女子アナが勢揃い! オープニングのオーディエンスタイムにはリングに上がって「ハッスル! ハッスル!」。その後もリングサイドで最後まで観戦して熱い声援を送った。



マーク・（アル）コールマンは青森の名産「田酒」でダジャレを披露。試合中も酒は控えて勝利に貢献。しかし、試合後はなぜか田酒ではなくビールでカンパ〜イ!



口寄せでさまざまなプロレスラーの霊を降臨させる恐山からやってきたモンスター、その名も恐（きょう）イタコ！ 生きてる人まで呼んでしまったため動揺して敗れ去った。



川田の目を覚まさせたい石狩にキャプテン小川はオープンフィンガー・グローブをプレゼント。調子に乗った石狩は小川のモノマネで怒られる。しかし、試合では大流血しながらもハッスルしてハッスル軍の勝利を呼び込んだ。



青森テレビでの放送効果か、『ハッスル・マニア』の熱が青森まで伝わったのか、とにかく会場にはギッシリと人が詰めかけ、ものすごい熱気! グッズも飛ぶように売れていた。



おなじみとなった髙田総統のモノマネ＆ご当地ネタは青森でも冴え渡る! 青森の名産を聞かれ、G馬場さんのモノマネ（英語）で答えたかと思えば津軽弁も披露。まさに全知全能!



青森県民が品種改良しまくったリンゴの恨みを晴らすべくモンスターとなって登場したリンゴ・ブラザーズ（赤リンゴと青リンゴ）だったが、ジミー・ヤンのヤンタイムに散った。

10·27『ハッスル・ハウスvol.10』TOPICS

天龍の双子の兄も出現!!



安田忠夫の助太刀になんと"ミスター・プロレス"天龍源一郎の双子の兄である大ハヤブサが突如、登場！『ハッスル・マニア』に弟が参戦することを電撃予告した。



「A.H.E」（アへ：当たれば百発百中エルボーの略）効果で急浮上中の藤井軍鶏侍に弟がいた!? その名も藤井男魂（おたま）。マスクはおたまをイメージしたもの。兄より先にエルボードロップも命中させた。



Erica乙女軍と髙田アマゾネス軍の些細な言い争いが、最終的になぜか草間GMが両軍に「ハゲ」と罵倒される展開に。カベジュラ・コントラ・マスカラ戦の結果、アリシンZがマスクを剥がれた。

石狩、後楽園でついにハジける



「川田さん、目を覚ませ!」という石狩の悲痛な叫びが後楽園ホールに響く！ 川田は表情ひとつ変えずに石狩を痛ぶり続ける。パワーボムで沈んだ石狩だったが、キャプテンはその何かが弾けたような石狩のハッスルぶりを認め、締めのハッスルポーズを託した。石狩は「川田のバカヤロー!」と叫んで2200人の後楽園ホールの観客とともにハッスルポーズを決めた。



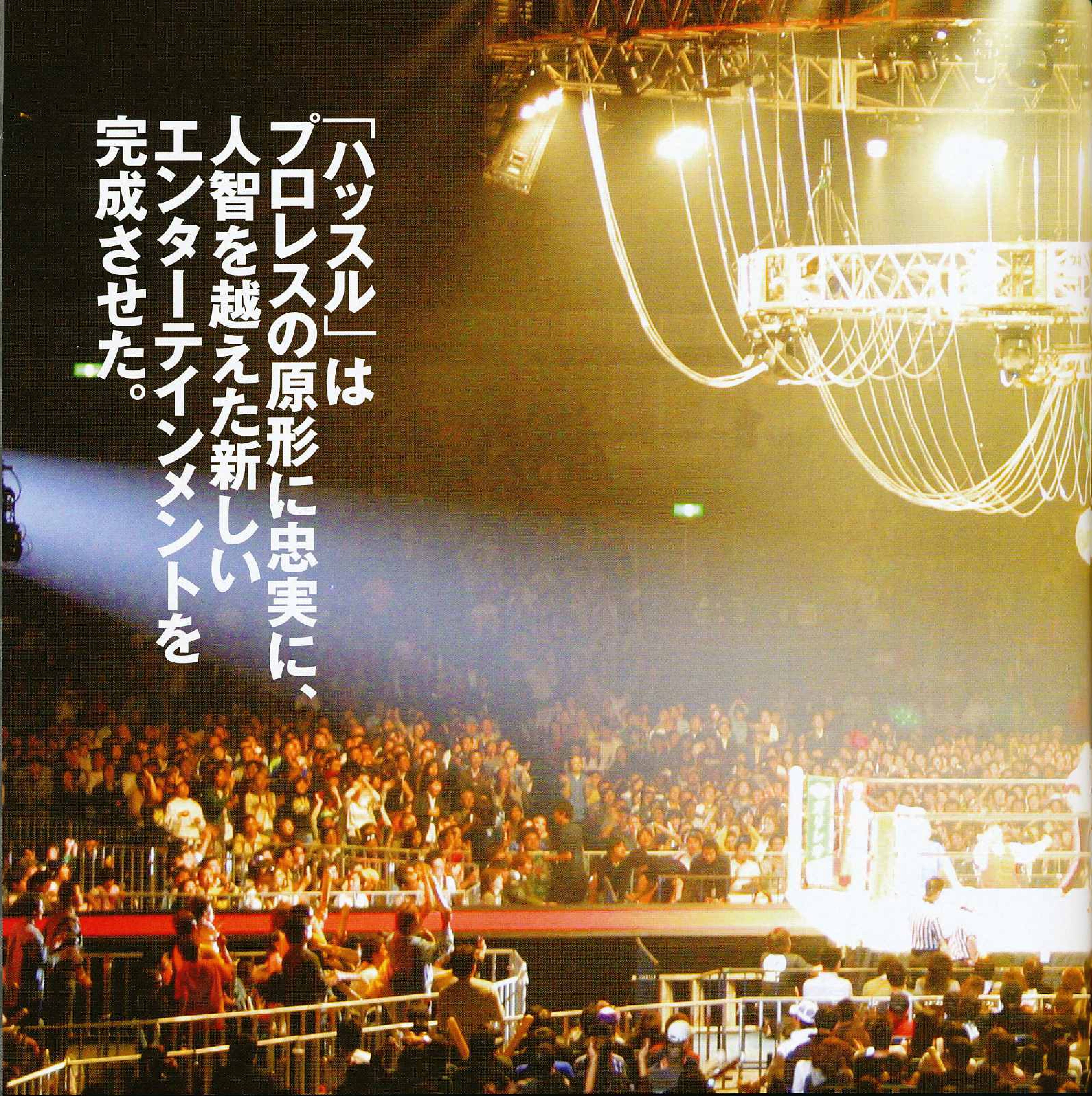
［特別寄稿］

音楽家、菊地成孔が見た、ファイティング・オペラ

たくさんのチビっ子たちが見守る、つまりはファミリー対応にまで成長したリングで、ハードゲイを明言するニューヒーローがもたらす多幸感溢れるハッピーエンディング。

ＨＧへの祝福と認知は、この国に於けるゲイカルチャーやナチズム、ＳＭなどの奇妙な無毒性（ドイツ人の友人は中島美嘉の『ＮＡＮＡ』のコスチュームを見て「これが日本で３００万枚以上売れて1位なんだ」と言うと苦笑したが、御存知の通り、ＨＧとＮＡＮＡの帽子は同じ物だ）がなければ立脚不可能な物であるが、本来プロレスとは、社会的に有毒な順に戯画化され、憎悪と浄化をかき立てるジャンルで、今なら例えば北朝鮮のスパイ。といったキャラクターが生み出される伝統だったのだし、20年前のＴＰＧ（たけしプロレス軍団）は「村落の外から来たよそ者」として暴動と放火によって迎えられたのであるからして、こうしてここでは旧来的なプロレスの意義が総て転倒したかのように見えるが、そもそもプロレス自体が意義の転倒によって浄化をもたらす芸能の一端なので、要するにこれは山口日昇によるレコンキスタ（失地回復）パラダイムシフト（価値の刷新）だろう。「ハッスル」がプロレスの原形に忠実に、人智を越えた新しいエンターテインメントを完成させた事は間違いない。

そういった物は多く歴史の捏造や修正を含むとはいえ（何せこの興行は「狂言に於ける所作には〈尻を開く〉と言って、田植えから来る肛門突き出しのポーズがあり、また地団駄をドーンと踏んで音を立てるのはストンピングの原形であるからして、ハッスルこそが真の伝統芸能だ」とかいった妄想を駆り立てる力すら、全く無い。というわけではないのだ）、驚くべき事に「ハッスル」は何らかの凄まじい情熱（僕が見る限り「個人史の中の新日本プロレス」への、愛憎入り乱れた攻撃／批評／無価値化。がその大きな一翼を担っている様に思える。「ＵＷＦの次の革命」という欲望論もあるはずだ）によって、約2年間で達成した。その功罪は、総てのパラダイムシフト



「ハッスル」はプロレスの原形に忠実に、人智を越えた新しいエンターテインメントを完成させた。

がそうであるように、局所的な断罪や祝福よりも、肥沃な定着を招くだろう。

僕が知りたいのは、82年頃のマジソン・スクエア・ガーデンに居た旧来的なプロレス・ファンのコメンタリティだが、それはＷＷＥ専門家のコメントを待つこととして、こうした、歴史主義が必然的に包含する物としての商品価値の消費。という快楽／恐怖が「ハッスル」には満ちている。

陶然とするような美しい死（と「再生」もしくは「改造」の予感）を見せたインリン様も、あと数年で小川菜摘（ダウンタウン浜田夫人）に見えてしまうかも知れないし、僕の臨席の、メインハッスルでは立ち上がって絶叫していた女性は、長州のストンピングを見ながら、連れに「ほんとだ〜。小力にそっくり」と小声で笑いかけ、天龍の試合中には無心にメールを打っていたが、何にせよ、髙田の唖然とするほどの千両役者ぶりと、小川の「強そうな気配以外は完全な空洞」という正反対の価値（ヒステリー）にすっぽりと挟殺され、従来のプロレスの歴史総体は、必死に掴んでいた掌をこじ開けられてしまう。

ハッスルは「植物人間の延命装置を外す勇気と昂揚」に満ちて、変わらず麻薬的で、とても分かり易い。唯一の難問は「メインまでは全く喜びが無い→メインに多幸感の完全な集中がある」という、余りに極端な構造の意味と評価だろう。

ＤＳＥ帝国の陶酔と恐怖については拙著『サイコロジカル・ボディ・ブルース〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜』（白夜書房）に詳しいので御参照されたい。



菊地成孔（きくち・なるよし）
1963年生まれ。音楽家/文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとしての活動を行う一方、精神分析学から音楽理論史まで、膨大な知識を駆使した異形の批評家として音楽、映画、料理、ファッション等に関する著作多数。今年、初の格闘技批評書「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜」（白夜書房）を出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師（音楽理論史）。

昭和プロレスから見たハッスル

文／井上義啓（週刊ファイト元編集長）

平成プロレスが生んだ異端児『ハッスル・マニア』

「ハッスルとは、とがった鋭さだ」と〝大阪のバカ〟は言う。「何のこっちゃ？」となるが、「それは、ありふれた食材でありながら、これまでとは違った味で、一口食べた客が、ウン？　と箸を置いて考え込む新食感である」と続けられると、少しはわかったような気になるのである。

「kami-pro」はブレイクした『ハッスル・マニア2005』（11月3日、横浜アリーナ）を指して、「混沌の中から生まれた新しいプロレス」と称した。〝大阪のバカ〟に問い直してみると、ハッスルは、次のように定義される。

「それは昭和プロレスの一部であるが、それから脱皮して、鋭くとがったものに昇華した、平成プロレスの存続していく姿である」

力道山は〝おちゃらけプロレス〟をひどく嫌った。その中には、女子プロレスも含まれており、「あんなストリップショーと同じシロモノと書いたら承知せんぞ！」と凄んだ。私など新参者はいっぺんに震え上がり、「ハイーッ！」と、恐る恐る力道山の顔を下から見上げたもんだが、こうしたエピソードからもハッスルめいたプロレスが昭和プロレスの中に鎮座ましましていたことがわかる。突然、目の前に現われた〝まったく新しいプロレス〟ではないのである。

「しかし、それはあまりにも泥臭く、アングラでスマートなものとは程遠いシロモノだった。ハッスルと大きく区別される点がこれだ」

昭和初期（終戦直前まで）、コミックソングはすでに存在していて、『ああ　それなのに』とか『見ないでちょうだいお月様』とかいう歌が巷ではもてはやされていた。だが戦後、植木等の『スーダラ節』を始めとする青島幸男（作詞）、萩原哲晶（作曲）コンビによるコミックソングがドカーンとヒットして、時代の違いを痛感させた。それまでの泥臭さとはまったく違った〝とがった鋭さ〟が東京感覚でバーンと目の前に突き出されたからだ。



♪あなただけが生き甲斐なの
お願い　お願い　捨てないで
てなこと言われて
その気になって
女房にしたのが大間違い
炊事　洗濯　まるで駄目
食べることだけ一人前
一言文句を言ったれば
プイと出たきり
ハイ　それまでよ

私がウーンとうなったのは♪プイと出たきり　ハイ　それまでよ——の絶妙さで、逆立ちしたって、この文句は書けないと思った。

言うまでもなく才人・青島幸男が成した業で、ハッスルにも笹原元GMの異才がモノを言っている。

「しかし、ハッスルには今日的な大きな意味がある」と私はあえて言う。「それは『昭和プロレス』の中で生じたコミックプロレスが〝プロレスの死〟をまったく考えずに生きて行けたのに反し、平成プロレスでのそれは〝死ぬかもしれない〟との恐怖の中で、生き残りを模索した末に生じた」ということだ。この激痛の中から必死になってはい上がってきたプロレス、それがハッスルだったのである。

平成プロレスにはふたつの断面がある。ひとつは真剣勝負への道しか残されていないことであり、もうひとつが、とことんエンタメ・プロレスに走るとのふたつ。ハッスルは後者を選択し、その判断の的確さが正着だったことを実証した。ハッスルは昭和の中で生まれ平成の時代になって昇華した。これは動かしようのない歴史なのである。



ハッスルを斬る!!

ハッスルは日本を代表する娯楽スポーツになった！

WWEの場合、『RAW』や『SMACKDOWN』で点と線を結び、PPVで闘いを見せているが、ハッスルの場合は不定期の興行のため、点と線を見出しにくい。それに笑いに走りがち。バックステージのスキットばかりに眼が行ってしまい、肝心のリング上には闘いがなく、興行で闘いを提供するのは現実的に難しい部分があった。だが『ハッスル・マニア』では和泉元彌やHGを使ってワイドショーに話題を提供。ここで点と線を確立させることに成功。世間に話題を振りまいた後は、当日どんな闘いを提供するのか？　という部分だけになった。

その真価が問われたのが鈴木健想と和泉元彌の試合。和泉元彌の入場シーンも抜群だったが、肝心の試合も芸能人がリングで闘ったという次元を超えるものを提供してくれた。

この原稿を書いている最中『アッコにおまかせ！』を見た。話題はもちろん『ハッスル・マニア』。アッコは番組で「いまの和泉元彌なら、私でも勝てる」だの「あれはガチンコなの？」だの、まったくナンセンスな会話を終始繰り広げていた。

鈴木健想と和泉元彌の試合にはアッコのように異論を唱える人間は多い。正直、最初は「この二人で試合が成立するのか？」と心配していたが、観衆を乗せる技術をWWEで身に付けた健想は、日本でプロレスをやっていた頃と比べ、格段に進化していたということが立証された。

その健想が醸しだした雰囲気が観衆に伝わった。斜に構えて見ている人間、プロレスを普段観ない一般人から〝元彌コール〟を引き出したのは事実である。

かつてWWEはマイク・タイソンをリングに上げ、そこから大躍進を遂げた。WWEには勝負論がないという固定概念で敬遠していた人間までもタイソンが参戦したことを機会にWWEを見始め、やがてはその魔力と魅力に引き込まれていったという事例がある。

今回の『ハッスル・マニア』にもWWEの成功事例に酷似している部分がある。世間を取り込み、話題を作り、肝心なイベントで第1試合からメインまですべて闘いを見せた。プロレスにまったく興味のない人を巻き込み動員につなげるのは、いまの世の中できない事である。



また娯楽とは幅広い層に楽しんでもらってこそ意味がある。WWEが一番大事にしているのはファミリーで番組を楽しめるようにすること。そのため登場人物も練りこまれている。ハルク・ホーガンやリック・フレアー、ディーバやジョン・シーナなど、一見統一感のないメンバーだが、番組内で個々の役割を完璧にこなしている。『ハッスル・マニア』もまさにそう。女性にはイケメン、昔プロレスを見ていたオールドタイマーには長州、天龍、ジャガーY、デビル夫人、幼年層にはジャスティライザーとセイザーX。プロレスを知らない層にはインリン様やHG。子どもからお年寄りまで詰めかけたこの日はリピーターを生み出すには格好の内容だった。

プロレスを超えたのが〝ファイティング・オペラ〟。その〝ファイティング・オペラ〟は日本発の娯楽スポーツになったと誰もが思ったはずだ。

ちなみに和泉元彌が天井から降りてくるシーンを見て、『レッスルマニア12』で滑車でロープを滑り降りたショーン・マイケルズとカブって見えたのはボクだけだろう。

アメリカンプロレスから見たハッスル

文／阿部タケシ（フリーライター）

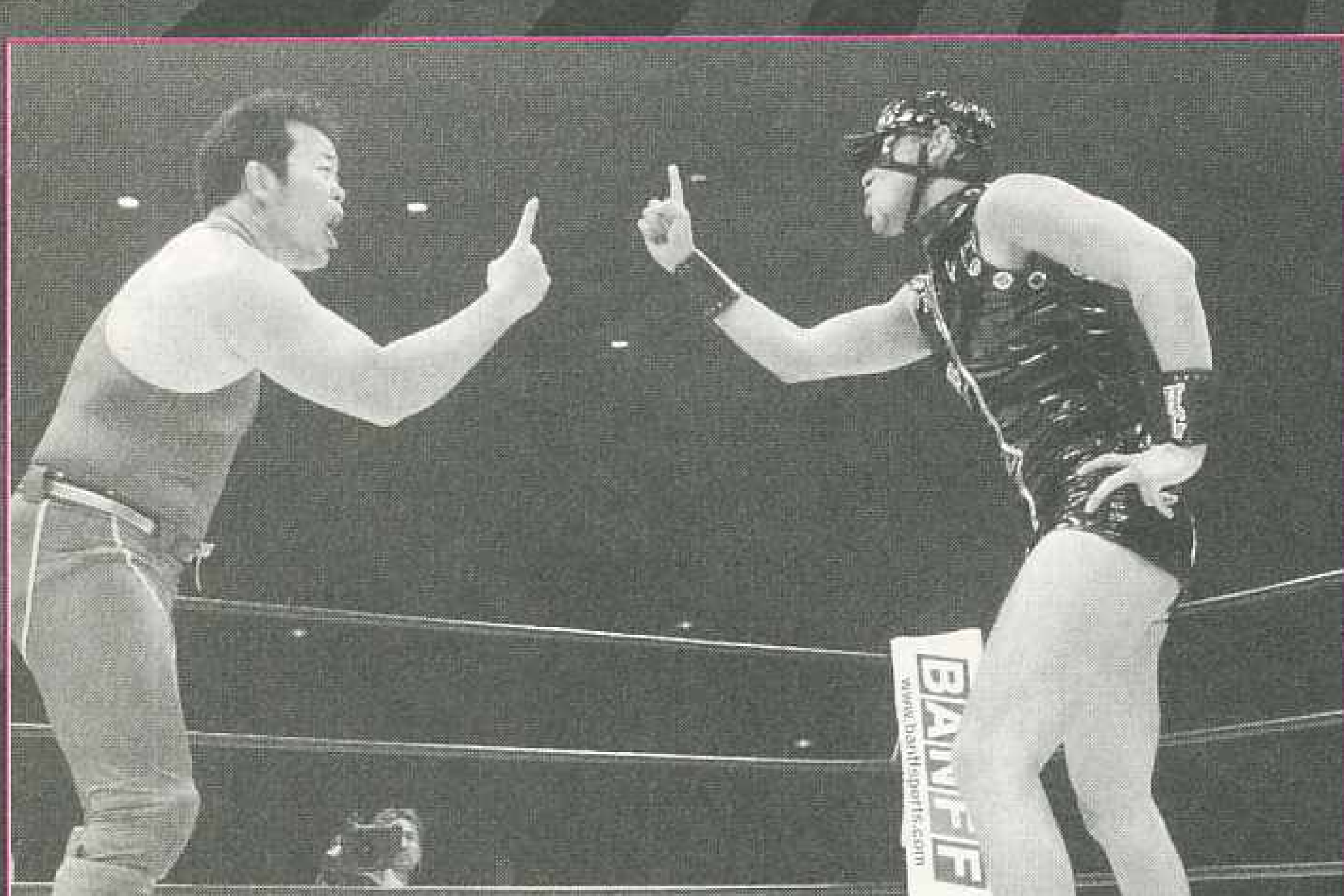
誰もが語りたくなる『ハッスル・マニア』の大爆発！

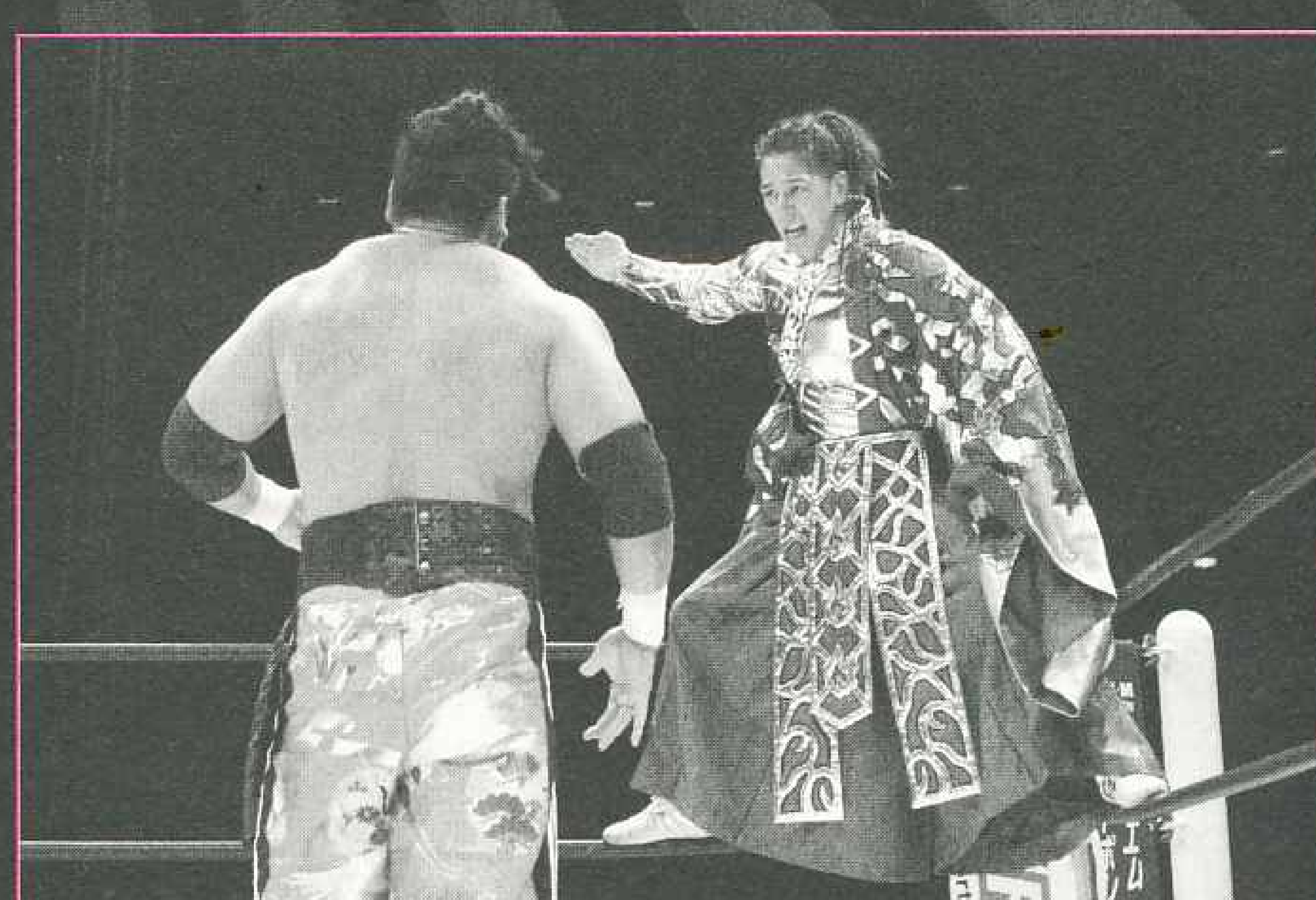


ハッスルとは 講釈プロレス である

ついに大ブレイクした『ハッスル・マニア』を語ろう！　かつて“ハッスル宣教師”を名乗っていたターザン山本！が“ターザン山本SG（ソフトゲイ）！”として登場！　当初は本誌鬼畜編集長・山口日昇と対談形式で収録するハズだったが、ソフトアップしたターザンの独壇場に！　『ハッスル』、ヒュ〜!!　なインタビューを読め！

聞き手／編集部　構成／ジャン斉藤　designed by bun-chan (Two Three)





ターザン山本SG！（以下SG）（いきなり）山口さ〜ん！　今日は山口さんに『ハッスル・マニア』の素晴らしさを語りにきましたよォォ!!

山口日昇本誌鬼畜編集長（以下山口）　それはどうも（笑）。ボクは『ハッスル・マニア』のことは客観的に語れない部分があるので、ここは山本さんに全面的にお任せします！

SG　まったく問題ないよぉ。なにしろ俺が『ハッスル』だからね！（キッパリ）。

山口「ターザンだけのハッスル」！（笑）。じゃあ、まずはやっぱり、ハードゲイについて語ってもらいましょうか。

SG　う〜ん、ボクはどちらかというと、ソフトゲイだからねぇ……。

――ターザン山本SG！（笑）。

SG　そうですよ！　俺はターザン山本SG！なんですよぉ。（いきなり立ち上がって）ハッスル、ヒュ〜ッ！

――山本さん、「ヒュ〜ッ！」じゃなくて「フォー！」です！　それじゃ転落しちゃってるみたいじゃないですか（笑）。

SG　（無視して）とにかく、もう『ハッスル』のことなら俺に任せろですよ！　だって山口さんは『ハッスル』の人間でしょ。つまり作り手の立場だから、ボクのような見る側の発想はないと思うんだよねえ。違う？

山口　いや、見る側からの発想は当然あるんですけど、今日は山本さんの感想を聞きたいので、ボクはおいしい食事をいただきながら、文字通り聞き役に徹します。うちのノブやガンツを相手に『ハッスル・マニア』の総括を存分にしてください！　それからノブ、誌面にするとき、山本さんがしゃべってるところは「山本」じゃなくて「SG」にしといて（笑）。

――はい、わかりました（笑）。

山口　じゃあSGさん、どーぞ！

SG　最初にハッキリ言うよ。『ハッスル・マニア』の大成功は、〝活字プロレス〟の復活でもあるんですよォォ!!

――〝活字プロレス〟の復活！　つまり、『ハッスル・マニア』は語れるプロレスだったということですか？

SG　だってさぁ、今回主役を張ったのは、和泉元彌とHGとインリン様の3人でしょ？　みんなプロレスの世界では素人も素人、ズブの素人だよ！　そんな3人があんな素晴らしいプロレスをやったわけだから、これを語らずに何を語るんだってことですよぉ！

――〝プロレスとは何か？〟という永遠の命題を深く考えることができるきっかけではありましたよね。

SG　いまのプロレス界の試合はさぁ、内容はみんなこってりしすぎだし、技の攻防も多様化しているんだけど、まったく記憶化してないんだよねぇ。すぐ忘れちゃう！　でも、こないだの『ハッスル・マニア』はしっかり記憶化している。つまり、小手先だけのテクニックで見せてるんじゃなくて、各々プロ根性ともいえる存在感とアピール度が強烈だったからなんですよ！

――たしかに場面場面がフラッシュバックしてくるインパクトがありましたよね。

SG　こういう経験は久しぶりだよ。もう最初から最後まで印象的でなおかつお祭り騒ぎときている！　そういう意味では、じつは開場時間が大幅に遅れたこともポイントになってるんだよねぇ。

――予定より45分近く遅れましたね。雨がポツポツ降る中、多くのファンが入り口で待たされて暴動寸前でした（笑）。

SG　あ！　それは「早く開けろ！」とお客さんが騒いでいて、それを端で煽っていたのは俺ですよぉ（なぜか自慢げに）。

――何をやってるんですか！（笑）。

SG　もうイライラしてたからねぇ。ところが、開場した途端、マスコミ受付にも興奮したファンが押しかけてきて大変な騒ぎになった。俺も被害者なんですよォォ！

――自業自得ですね（笑）。

SG　でも、開場が遅れたことで結果的にかつての〝昭和・新日本〟的雰囲気ができあがったんだよね。つまり、予定を予定どおりにしないことが、ファンに非日常的感覚をもたらすわけですよ。開場が遅れた結果、黒山の人だかりができて、そこに雨も降ってくるという光景。そこはもう非日常的な空間になっているわけだよ。

元彌、インリン様、HGの3人には、絶対に恥をかきたくないという、プロ意識の凄みを感じた！



――熱狂的なお祭り感が膨れあがったというか。

SG　そういう非日常的な場では、ある程度のミステイクは許されるわけだよ。一種の〝ええじゃないか〟状態！

――ああ、だからグダグダだった草間GMの開催宣言も微妙に盛り上がったんですかね？（笑）。

SG　（急にテンションが下がって）……あれは無茶だよねぇ。イベントの出だしであんなにとちった挨拶をやっていたら、普通はGM解任だよ、解任！　でも意外と怒る気持ちはないんだよね。イライラはするけど、サラッと流せるというかさぁ。

――『ハッスル3』ぐらいまでは、とにかく足を引っ張ってやろうっていう客層や、そういう雰囲気だったじゃないですか？　でも、『ハッスル・マニア』は草間GMのグダグダの挨拶ですら観客がサポートしてましたからね。

SG　ということはね、現段階で『ハッスル』にファンはまだ完璧なものを求めてないんですよ。それに俺の目当てはHG、インリン様、和泉元彌の3人だけだったから！

――だからあとの試合は寝ていたと？（笑）。

SG　ほかの試合はスイッチを切るんですよぉ。それって俺の自由だもん！（かわいらしく）。

――たしかにそうですけど（笑）。でも、それは真実の側面がほんの少しだけありますよね。その日の目的がハッキリわかっているわけじゃないですか？

SG　そうなんだよ!!　俺は昔から興行の



メインハッスルでのHG爆発はこの試合が導火線になったともいえる。『ハッスル・マニア』中盤戦のハイライト、元彌vs健想の素晴らしさ！　元彌のプロ意識をビンビン感じる独占インタビューも必読だ！

ポイントと焦点は絞っていたからね。猪木さんやタイガーマスクとか、スーパースターしか興味がないんだよ。要は、ボクはずっとプロレス界で仕事をしているけど、意外にも簡単に初心者というかミーハーになれるんですよ。普通はみんな業界的な思考になってしまうでしょ、GK（『週刊ゴング』プロデューサー・金澤克彦氏）みたいにさ。その点、ボクは永遠のピュア・ハートなんだよなぁ……。

山口　クックック。

――大統領（山口日昇のアダ名）、何かありますか？

山口　モグモグモグ、いや、なんでもない。

どーぞ続けてください。

“見られる”ということのプロ意識

――で、山本さんのお目当てだった和泉元彌、インリン様、HGの3人はどうご覧になったんですか？

SG　そんなもん、素晴らしいのひと言に決まってますよ！　おもしろいのはさぁ、彼らは素人だから、いわゆるプロレス流の純粋な攻防ができないわけ。だから自分たちのできることしかやらない。そこだけ稽古に稽古を重ねて一点突破の精神で臨んでいたから、まるで蜷川（幸雄＝演出家）さんの舞台を見るような完成度があったんだよねぇ。

――とくにインリン様とHGのフィニッシュに至る流れは完璧でしたよね。

SG　インリン様はよくぞあそこまで受け身を取ったよォォ！　ビッグバン・ベイダーとやったアントニオ猪木の受け身を超えたよ、インリン様は！

――そこまで絶賛しますか（笑）。

SG　元彌は元彌で、600年の歴史を持つ狂言師なんだけど、リングは自分のテリトリーではない。それでも客前で絶対に恥をかきたくないという、その強いプロ意識に凄みを感じたよ！

――普通だったら、「他のジャンルだから失敗してもしょうがない」という気持ちがあってもおかしくないと思うんですよ。

SG　それこそ現在のプロレスラーが持ち併せていないプロ根性なんですよ！　そのプロ根性がどうして湧きあがってくるかといえば、「恥をかきたくない」「ナメられたくない」「馬鹿にされたくない」という思いがあるから。つまり、彼らは「見られる」ということに関して、非常にプロフェッショナルでそこの部分が優れているわけなんだよ。

――あの3人には佇まいだけでも銭が取れるものを感じますよね。

SG　それは衣装だけ見てもわかるんだよ。ファッションやデザインの美的感覚がいまのレスラーとは比べ物にならない！

山口　モグモグモグ、あ～、今日の山本さんのピンクの帽子も素晴らしい美的感覚ですよね（笑）。

SG　さすが山口さんはわかってるねぇ。この帽子を被っていれば100メートル先から、ターザン山本！だってわかるんだよ！　この俺やインリン様と比べたら、いまのレスラーなんて単なる裸族ですよォォォ！

――単なる裸族！（笑）。とにかく、インリン様や和泉元彌は普段から“見られる”ということを意識しているってことですね。

SG　だから、これまでプロレスラーは大きな誤解をしてたんですよ。要するにレスラーというのは、自分が主役の舞台を与えられて喜ぶ親分体質だったわけだよ。ファンやマスコミがまるで俺の子分だというノリで、自分たちのやることを黙って受け入れてくれると思い込んでいた。でも、それは大きな間違いで、逆にあの3人はファンに観られるということが、凄いことで、素晴らしいことで、そしてとんでもなくプレッシャーがかかる恐ろしいことだということをよく理解しているんですよ！

――舞台の素晴らしさ、そして過酷さもわかっていると。

SG　その部分はインリン様が一番、強く感じているはずだよ。だってさ、インリン様は女性でしょ？「プロレスなんて本当にやって大丈夫かしら？」って、常に不安と闘って迷っていると思うなぁ。そこがまたたまらないんだよねぇ……くぅ～～っ！

――和泉元彌も伝統を背負っている狂言師ですから、内面の葛藤は絶対にあったはずですよね。

SG　HGだって学生プロレスをやっていたから、逆に大きなプレッシャーがあったんだ

ハッスルマニアの爆発！プロレスの講釈復活!!

よ！　そしてそれを跳ね返して、ボクらをスタンディング・オベレーションまで導いた。3人とも甲乙付けがたいことやってくれたよ！　ただ、ワイドショーでのプロモーションという意味では、元彌の存在は偉大ですよ。だって、大会翌日の朝のワイドショーが全局、元彌を取りあげてるんだよ。一般視聴者がプロレスに興味を持つ入り口になったわけですよ！

——プロレスのとば口が和泉元彌というのも凄い話ですよね（笑）。

SG　HGやインリン様はお色気というか、イロモノの要素があるから、それがまた反世間的でいいわけだけどね。要するに『ハッスル』は和泉元彌という存在のおかげで人々の口にのぼるワイドショー化に成功したわけですよ。そしてこんな爆発的なプロモーションは、最近のプロレス界ではありえなかった。いまは『PRIDE』やK—1ばかりが世間の陽に当たって、プロレスというジャンルは暗くジメジメした日陰者ですっかり忘れられていたじゃない。

——和泉元彌がプロレスに光を当てた。

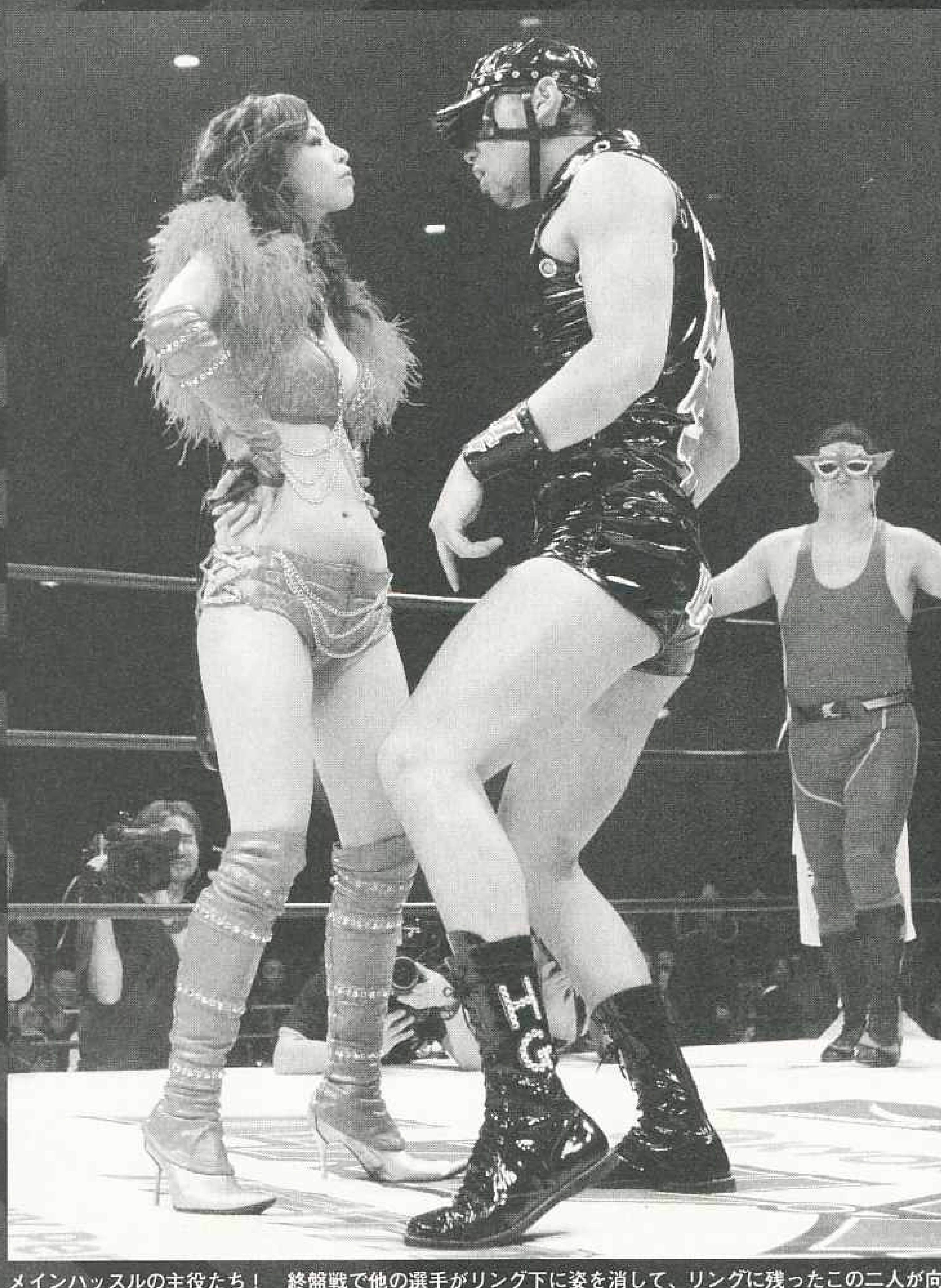
SG　完全な救世主だよ！　これはもう2005年のプロレス界は元彌に感謝しなきゃいけないよ。プロレス大賞のMVPが元彌で、HGに新人賞、インリン様に殊勲賞をあげるべきですよォォォ!!

——『ハッスル』で三冠達成ですか（笑）。しかし、その3人の活躍で逆にプロレスラーの影が薄かったという声もあります。

SG　たしかにメインの見せ場で、小川直也、川田利明、大谷晋二郎、アン・ジョー司令長官はみんな脇役に回ってたんだよね。でも、彼らがあえてその持ち味を封印していたことこそが、真のプロレスなんですよ！

——もちろんそこには主役を引き立てる技量があったわけですよね。

SG　つまり、あのメインには〝猪木流のプロレス〟が成立していたわけ。猪木さんの試合のときは、ストロング小林も坂口征二も周りはみんな一歩も二歩も引くじゃない。そうやって猪木さんを引き立たせる。だから『ハッスル・マニア』にはプロレスの原点というべき風景が見えたわけですよ。俺は「この風景こそがプロレスだ！」と、声を大にして言いたいよ!!



メインハッスルの主役たち！　終盤戦で他の選手がリング下に姿を消して、リングに残ったこの二人が向かい合った瞬間、地鳴りような歓声が沸き起こった。フィニッシュ直前、インリン様の三角絞めの受けっぷりはとくかく必見です！　歴史に残る失神劇！

——和泉元彌は〝猪木流プロレス〟の主役を張れるぐらいの器量があったということでもありますよね。

SG　もちろん！　元彌の研ぎ澄まされた目つき、一点の曇りもない集中力、あの声の大きさと滑舌のよさ、会見でも理屈を立てて会話ができるシャープな頭の良さ、さらに鮮やかで透明感溢れる身のこなし。和泉元彌、お主は100点満点じゃ！　バンザ〜ヒィ!!（裏返った金切り声で）。

——バンザ〜イ！（笑）。

SG　要するに和泉元彌という人間を結論づけると、彼は自己演出ができる素養を持っていて、もちろん従来のレスラーもセルフプロデュースすることが要求されているんだけども、元彌は狂言の世界やワイドショーで散々揉まれてきてるでしょ？　もう段違いにスケール感が違うんだよ！

——会見で芸能レポーターから意地の悪い質問が飛んでも、見事に切り返してましたもんね。

SG　それがまた目の覚めるような返し技なんだよねぇ。かならず理路整然としていて、自分の意図や考えを一瞬にしてパッと口にできる。おまけにまったく言葉に詰まったりもしない。自分の得意でもないプロレスというジャンルで、あれだけ整合性のあることを誰が言えるのかって話ですよ！

エンターテインメントと時代性

——ただ、今回の『ハッスル・マニア』の成功で、〝これはプロレスなのか？〟という議論が起きる気配はありますよね。

SG　……まったくくだらない話だよなぁ（あきれた口調で）。『ハッスル』は完全にプロレスですよ、プ・ロ・レ・ス！　プロレスという言葉がただ『ハッスル』に変わっただけで、れっきとしたプロレスだよ！　でも、どうして〝これはプロレスなのか？〟という疑問が出てくるかといえば、みんなプロレスにコンプレックスやトラウマを持ってるわけ。だから旧『W—1』のゲスト解説をやったときなんて、TVスタッフから「プロレスという言葉を使わないでください」とか言われたけどさ、そんなものはしゃらくさいよ！

——『W—1』ではプロレスという言葉がNGで、「ファンタジーファイト」という言い方を要求されてましたね。

SG　な〜にを寝言を言ってるんだってことだよ！　そうやってすり替えること自体がフェイクですよ、フ・ェ・イ・ク!!　コンプレックスを持たずに「これはプロレスである！」ということを堂々と主張すればいいんだよ！　そうしないと、元彌のおもしろさ、凄さ、楽しさだってわからなくなる。そうやって俺たちが正面から元彌と向き合えば、彼がもっと広い視野に立っていて、狂言であるがゆえに、伝統があるがゆえに、この時代のなかに自分をブチ込みたいという、彼の野望を感じれるはずなんだよぉ。

——時代のど真ん中に立つ野望がある！

と。

SG　つまりぃ、『ハッスル』というものも、我々はプロレスという限定された領域だけで業界的に語ってはいけない。時代のひとつの現象として語ることを頭に叩き込まないといけないわけですよ。たとえばプロ野球でも、いまの大衆にとって時代性があるかといえば、なくなってきてるわけでしょ。

――かつての人気は見る影もないですよね。

SG　そこに時代性が存在しないということが一番寂しいことであり、エンターテインメントを提供する人たちは、あるジャンルが現代の消費者につながる何かがあるのかどうか？　そこにニーズがあるのか？　求められているのは、じつはこの一点だけなんですよ！　たとえばボクからすれば、野球よりキャバクラに時代性を感じる。だってキャバクラのほうがプロ野球よりおもしろいもん！

――どんな時代性ですか！（笑）。

SG（無視して）時代に支持されることが絶対的なキーワードですよ！　かつて観世栄夫という能楽師がいて、彼はいろんな映画に出たりして積極的に他ジャンルに関わっていたんだけど、「狂言や能というのはたしかに伝統である。でもいまという時代のなかで大衆から支持されないのなら、たとえ芸術として残っていても、なんの意味もない寂しいことである」と言ったわけ。元彌が『ハッスル』に出てきたということは、狂言という枠を超えただけではなく、いまという時代を生きていくために、より大きな舞台に出たいということですよ。新しい時代や観衆とかかわっていきたい。これぞアーティストの原点！　横浜アリーナという大きな舞台に立つこと自体が、もうプロレスラーや狂言師やタレントという枠組みを超えてるわけですよ。それを元彌は今回、意識的かつ確信犯的にやってるわけですよ！

――実際、和泉元彌は紅白歌合戦の司会や大河ドラマの主役を張ったり、その時代のなかで……。

SG（さえぎって）いや、それはまったく違う！　紅白や大河ドラマはあらかじめ世間から認知されたものでしょ。『ハッスル・マニア』のように認知外の領域に出て行くところに元彌のすばらしさがあるわけですよ！　認知外の未知の領域に勝負を挑んだのが、つまりは元彌の美意識の高さ。紅白



『ハッスル』は、時代のひとつの現象として語ることを頭に叩き込まないといけない

でも大河ドラマでもなく『ハッスル・マニア』に出たということは、もう世間を超えてはるかに一歩踏み出したというか、アーティスト根性が大爆発したわけですよ。それを評価しない奴はまったく論外ですよォォ!!　そういう奴はプロレスを二度と語るなと俺はそう言いたい！

――失格の烙印を押しますか（笑）。で、その和泉元彌は本誌のインタビューで「600年前に生まれた狂言というものは、表だって時の政治家やお上に言えないようなことを風刺に仕方てて表現する」ということを言ってたんですけど。

SG　要するに狂言というものは、最下層階級のストレスや欲望を背景にしていた、反社会的エネルギーを備えていたんですよ。

――それで和泉元彌自身もここ数年あったいろいろな問題を、『ハッスル』の舞台でいい形で清算することができたことが本人的にも満足だったそうです。

SG　彼の一番凄いところはね、宗家に生まれて狂言が持っている形式や型や規則とかつまり約束事をすべて身につけてきてるわけじゃない。自分の外側に存在してるルールを全部受け入れて、つまり規定演技の上に自由演技があるわけですよ。その自由演技が時代を読むいうことだよ！　そのことをわかってるのが、しゃらくさいというかねぇ、クゥ〜〜！

――もう褒めてるんだか、けなしてるんだかわけがわからない（笑）。

天龍に時代のシルエットが見えた

――それで山本さん。和泉元彌の相手になった鈴木健想と浩子も彼らがアメリカで培ってきたことを見事に出し切ったなと感じたんですけど。

SG　健想は元彌とパーフェクトにスイングしてたねぇ。健想が新日本を選ばず、『ハッスル』に上がったのは大、大、大正解ですよォォォ！

――いまの新日本だと、WWE帰りの健想をうまく活かしきれなかった恐れがありますよね。

SG　でも、俺たちは心のどこかで心配してたんだよ。だって頭の中には、新日本やWJの頃の健想の姿しかなかったわけじゃない。

――同時にWWEでエンターテイメントのエッセンスをどれくらい吸収したんだろう？という興味もありました。

SG　そうそう。健想はWWEでは新日本で培った自我をいったん破壊して、生まれ変わって、そして今回の『ハッスル・マニア』という土壌で花を咲かせたわけですよ！　もっと言うなら、WWEに行ってなかったら、今回『ハッスル』で元彌とやるにしても、それを受けて立つ技量には恵まれなかったはずだよ！

――WJ末期の頃はオカマをセコンドに付けたりして、そんな素養はあったんですけど、まさかここまで拡がるとは誰も思ってなかったですね。

SG　俺流に断言すると、健想の道のりはすべて偶然の賜物！　でも偶然に巡り逢う人間は確実に時代に乗れるし、そしてその偶然が奇跡に繋がっていく。そうして今回のように成功を収めるわけだよね。

――健想と同じく初参戦になりますが、天龍源一郎という昭和プロレスの象徴のような存在も『ハッスル』に登場しましたよね。

SG（なぜか小声になって）天龍さんはス〜っと『ハ

ハッスルマニアの爆発！
講釈プロレスの復活!!

ッスル』のリングに入ってきたじゃない？　あの感覚は素晴らしい！　そこにプロレスラーとしての究極の存在感が見えたよ！　だって、並のレスラーだったらオファーを拒否してそのことで逆に自分の存在をアピールするのが妥当じゃない。要は拒否もせずに、ス～っとその場に入っていく。そのセンスにシビれたんだよ、俺たちは！

――でも、天龍は予告編となった後楽園の『ハッスル・ハウス』で、伝説の大ハヤブサに扮して出てくるぐらいだから、やる気は満々に見えますよ。

SG　やっぱりレスラーとして時には違ったプロレス心を見せたいというか、自分の存在をたまにはフェイントしたいという気持ちが心の奥にあるわけじゃない。いままでのプロレス観だったら、『ハッスル』を認めるか・拒否するかのふたつにひとつ、0か100かという世界だったわけですよ。それは団体側にも確実に根付いてた論理なんだけど。

――運営側にも〝異分子〟を受け入れることができる度量があったということですね。

SG　いままでだったらレスラーvsレスラー、レスラーvs団体の陣地取りでかならず揉めて、イデオロギー的な争いが起きてきたじゃない。『ハッスル』はそこをすんなり超越していたんだよ！　とくに『ハッスル』という世界観が確立している状況で、ス～っと入ってこれた天龍さんは、初期から参戦している長州さんより時代性がある。だって普通だったら入ってこれないもん！

――そこで躊躇しないことが逆説的にプロレスラーだという証でもありますよね。

SG　天龍さんは、もう時代は変わってしまっていることを強くわかってるんだけども、自分たちの存在をまだ見せたいというか、見せておきたいんですよ。『ハッスル』のなかに自分の存在を一滴だけ落としておきたいわけ。そういう願望を無言でアピールする姿を観たときに、またHGや元彌とは別のプロ根性を感じたよ。もう天龍さんは立派な時代の影ですよ！

――時代のシルエット！

SG　俺はシルエットとして見たね、天龍さんを！　その時代のシルエットを活かした『ハッスル・マニア』は本当に素晴らしいよ！　それがなかったら『ハッスル・マニア』は屁みたいなもんですよ。



『ハッスル・マニア』唯一の剛速球的切り札だったのが、まさかの天龍源一郎参戦。長州力は新日本プロレスの現場監督就任後も『ハッスル』には継続登場している。この二人の存在は『ハッスル』に何をもたらすか？

――ただの浮かれたイベントになってしまう恐れはありましたよね。

SG　で、長州さんは長州さんなりの『ハッスル』観があるんだよね。長州力というキャラクターを、自分のなかでアイデンティティとしてしっかり持っていて、何があろうとそれを頑なに演じきってるクソ根性がそこにはあるんですよ。だから周りからは「あの人は同化しないでいつも勝手なことをやって……」という目で見られるわけだけど、でもそれが長州力の闘いなんだよね。だから長州の『ハッスル』での生き方というか戦略は、たったひとつしかないわけですよ。それは絶対に『ハッスル』からイジられたくないという姿勢のみ。絶対に自分という殻を脱ごうとしない！　長州さんは蓑虫（みのむし）なんですよ、あれ！

――蓑虫！　前は「メスカブト」って呼ばれてましたけど（笑）。

SG　蓑虫の殻を破ってそのまま外に出てきて『ハッスル』で試合をしている人は、そのぶん自分という存在が『ハッスル』に吸収されてしまうわけですよ。長州は非常に消極的だけれども、ギリギリのところで〝長州力〟という存在を守っている。だからどんなに望まれても、皆と一緒にハッスルポーズをやらないで花道を帰っていくでしょ？　あれこそが蓑虫的行動であり、長州力なりのギリギリの抵抗の仕方なわけですよ！

――つまりHGが腰を振ったり、インリン様がM字するのと一緒なんですね（笑）。

SG　一緒、一緒！　そしていまの時代性という意味合いでは、長州力というレスラーは『ハッスル』からすると規格外なんだけど。『ハッスル』が横軸として時代のなかで人々に広がりつつあるとき、どうしてもその一方に縦軸のものが必要になるじゃない。

――縦横に拡がってこそ大きく見える。長州や天龍によって、彼らとはある意味真逆である『ハッスル』の世界観が際だつという側面はありますね。

SG　だからこそ、長州さんや天龍さんには存在意義があるんですよ！　決してHGやインリン様のように強く存在を主張するわけでもなく、ただそこにいるだけで、彼らは輝いているんだよねえ。でも、俺としては長州さんのほうがおもしろいわけよ。

――さっきは天龍のほうが時代性があるって言ったばかりじゃないですか（笑）。

SG　（言葉に詰まって）こ……刻一刻と、俺の時代というか考えは動いてるってことだよねえ。

――ダハハハ！　動きすぎです！

田上火山はなぜ大噴火したのか？

――今回の主役はHGであり和泉元彌でしたが、『ハッスル・マニア』に至るまで1年10ヵ月を支え続けてきた小川直也はどうご覧になってるんですか？

SG　小川の功績はとてつもなくデカイよ！　『ハッスル』という言葉を短期間で一般化し、『ハッスル』のプロモーションという役割は

小川しか考えられなかったからね。でも、いまや元彌やHGが現われて、『ハッスル』の今後のベクトルを示した瞬間に、世間にプロモーションするという『ハッスル』第一期は幕を閉じた。『ハッスル』の面白味はここにありということをHGが「ヒュ〜〜〜ッ！」とやったわけだよな！　ヒュ〜〜〜ッ！（HGの「フォー！」ポーズを決めて）。

——だから「ヒュ〜〜〜ッ！」じゃなくて「フォー！」です（笑）。

SG（無視して）『ハッスル』という概念がまだ海のものとも山のものともわからなかったとき、小川というネームバリューは凄く重要だった。でも、小川はソフトの内容をより具体的にしていくという作業でつまずいてしまって、結局、それを示したのがHGというのは衝撃的な結果だよなぁ。

山口（いきなり大声で）山本さん、甘いですよ！

——な、なんですか、いきなり（笑）。ずっと黙って食べているかと思ったら。

山口 たしかにそうなんですけど、ボクからすれば、小川直也はこれからがおもしろい存在なんですよ。最近のファンやマスコミは表層的に現われたことしか語らないから、水面下でキャプテンがどれだけ蠢いているか見てないんですよ。だからその時々の主役はHGや和泉元彌であってもいいわけですけど、その脇役に回る・回らないということよりも、キャプテンは『ハッスル』と「プロレス」が同化されること、『ハッスル』が世間に認知されることに一番のプライオリティーを置いている。そんな銀メダリストは世界に一人しかいない（笑）。そういう小川直也のいい意味での変態性というか、そこに可能性を見出していかないと、普通に「しょっぱい」という形容で終わってしまう。それこそプロレス者としてしょっぱいですよ。

SG（まったく聞かずに）……山口さん、俺は1・4新日の東京ドームに『ハッスル』をブチかましてほしいんだけどなぁ。

山口 まったく人の話を聞いてない（笑）。もう、いいや。ボクは引き続き食事をしてます。

SG いやいや、『ハッスル』には決定的な形で新日本に歴史的勝負をかけてほしいんだよねぇ。時代性をとことん失った新日本と、時代性の真っただ中にある『ハッスル』のガチンコ対決。いまの時代を見極めるビッグチャンスですよ、これ！　いまこそ1・4興行決戦をやるべきですよ！　そして古びた時代の幕を閉じてほしいなぁ。そうすれば、ボクは自由になれるのに……。

——ここまで自由奔放なのに（笑）。で、興行戦争という匂いはしませんでしたけど、結果的に『ハッスル・マニア』とNOAH武道館大会は二日違いでニアミスしましたよね。

SG（急に小声になって）そういう意味での問題は、11・5NOAHと11・3『ハッスル』をプロレス専門誌がどう扱うかということですよ。そこは興味あるよねぇ……答えはわかってるけど！

——ダハハハ！　わかりますか！

SG そんなの、『ハッスル』よりNOAHの武道館大会、その主役の田上明を大々的に扱うに決まってますよ！

——武道館のGHCタイトルマッチの力皇vs田上は〝田上火山〟が大爆発したみたいですけど、山本さんは観戦されたんですよね。

SG 観た、観たよ。（再び小声になって）驚いたことにさぁ、田上が勝ったとき、お客さんはみ〜んな立ち上がって大拍手ですよ。あの盛り上がりは俺には信じられなかった。ファンの純粋で一途なプロレスへの思い入れが、武道館に来ていた全ファンに一点集中したんだろうなあ。

——それほどまでに凄い光景だったと？

SG でも、これってじつは『ハッスル』効果なんだよね。つまり、このままマット界の中で『ハッスル』が突っ走ると、従来のプロレスファンは困るわけですよ。自分たちが培ってきたプロレスへのイメージが失なわれるんじゃないかという危機感を最後の砦としてのNOAHに託したいわけですよ。『ハッスル』効果が、もの凄く保守的なプロレスファンの感覚を喚起させてるんだよねぇ。

——防衛本能の最後の砦が田上明というのは、一般には理解しがたい話ですけど（笑）。



連動した『ハッスル・マニア』とNOAH。プロレスはまだ生きているということですよ！

SG いや、田上明という人の空気のような存在感だから成立したところもあるんですよ。これがもし三沢光晴だったらあそこまで盛り上がらない。三沢光晴という概念vs『ハッスル』というのは、ありきたりでちっともおもしろくない。田上明のようなレスラーを持ち上げているところは、まさしくプロレスファンにしかない発想なんだよな。

——誰でも楽しめるHGの真逆に、NOAHファンしか楽しめない田上がいるというか。

SG いや、もう「NOAHファン」とも言わない。いまはNOAHや新日本や全日本とか、そういうすべての団体を超えてプロレスファンがひとつになってるから。

——じゃあ、すべてのプロレスファンは田上明に救済されたってことですね。

SG ところがさぁ、それって一瞬だけの救済だったんだよねえ。きわめて刹那的な救済なので、武道館を出たとたんに、99パーセントのファンはまた落ち込むわけですよ。武道館の帰り道に余韻はほとんどなかった！　もう線香花火的な救済ですよ、あれ！

——ダハハハ！　パッと光って最後に落ちるっていう（笑）。

SG でも、今回のNOAHと『ハッスル・マニア』はたしかに連動していた。連動してるってことはそのジャンルはまだ生きてるということですよ！

——ちなみにその防衛反応を働かせてる人たちっていうのは、マイノリティーなんですか？　それともマジョリティーなんですか？

SG マイノリティーに決まってるよ、そんなもん！

——そういうファンを読者層にして成り立ってるプロレス雑誌が、『ハッスル』じゃなくて田上明を推すのは当たり前ですよね。

SG だから週刊誌的には表紙や誌面内容的には田上がバ〜っとくるだろうね。そう

いう田上明のような存在を光らせたところに、『ハッスル』の時代に対する稼働力が見えるわけですよ。

――そういえば、あの谷川さんまで『ハッスル・マニア』の成功に慌てていたそうですからね。『Dynamite!!』とカラーが被る『ハッスル・マニア』を大晦日にぶつけられたら困るっていうことを言ったとか言わないとか（笑）。

SG ……いまの言葉は谷川氏の凄さを証明してるねぇ（目を丸くして）。そういう感覚を持っているということは、プロデューサーとして超一流であるという証。彼は潜在的な危機感を察知できる能力に優れていると断言するよ！

――『ハッスル・マニア』と『Dynamite!!』のカラーが被っている危機感を抱く防衛本能も見事です（笑）。

プロレスという風景

――ちょっと根源的なことをうかがいますけど、『ハッスル』と他のプロレス団体の違いってなんだと思いますか？

SG 全然違うよ！　言わなくてもわかる。見ればわかるよ！

――いや、ぜひ教えてください（笑）。

SG そうだねえ。まず『ハッスル』は不特定多数を相手にしてるでしょ。インディーは極めて特定少数を相手にしている。その中間にNOAHがあるわけよ。わかりきっているけど、大衆は断然『ハッスル』のほうが入りやすいんですよ。だって大衆はいつも過去に無関心で対象のデータはまるでないんだから。インディーというステージは過去のデータが知識として必要な世界だからね。

――データを理解していないと楽しめないところはありますよね。

SG でも、いまの大衆には『ハッスル』は必要最低限のデータがすり込まれているわけじゃない。元彌がいる、HGがいる、小川が「ハッスル、ハッスル！」してるってさあ。ワイドショーにしても、プロレスをよく知らないはずのコメンテーターが健想と浩子を讃えていたでしょ？　一般の人たちもズブの素人に負けた健想と浩子を「プロフェッショナル」と褒めちぎっている。これは革命的なことですよ！　これまでボクらが口にしていたようなことをド素人がどんどん発言しているんだから！

――ある種、ワイドショーがプロレスのカミングアウトをいい形でしていたところはありましたよね。

『ハッスル・マニア』は大衆の誰もが講釈を垂れたくなるプロレスだった！



SG そこで一番重要なのは、一般の人たちにプロレスをわかったような気分にさせることなんですよ。そうすることによって、"プロレスのいかがわしさ"を公認させるわけだよ！　むかしはその材料として『週刊プロレス』があったから"プロレスのいかがわしさ"が世間に届いたんだよ。活字プロレスという方法論がまんべんなくファンのあいだに浸透していたんだよねぇ。

――いまの話を聞いて思ったのは、自分だけが講釈を垂れるんではなくて、みんなが講釈を垂れるように広げるかどうかがメジャーとマイナーの違いだと思いました。それは団体側だけじゃなくて、二次加工するボクらマスコミにも問われてくることですけど。

SG 俺はそれをI編集長や村松（友視）さんから学んだんですよ。プロレスで語る。プロレスを定義する！　いつだって講釈を垂れるためにプロレスを見て、そこには講釈を垂れたくなるプロレスがあったわけ。で、今回の『ハッスル・マニア』はもう猛然と講釈を垂れたくなるプロレスだったんだよ！

――極端な言い方をすれば、『ハッスルマニア』はプロレスを知らなくても講釈を垂れたくなる内容でしたよね。

SG それにそもそも人間というものは、講釈を垂れたがるんだよね。そして他人よりも自分の講釈の方がうまいと思いこんでるわけですよ！　ほら、I編集長なんて猪木さんの講釈師を自認していたでしょ？

――猪木さん本人よりアントニオ猪木のことを深く考えてましたからね（笑）。

SG いかにして講釈が垂れるような見方ができるか？　これからはそこが問われてくる！　結局さ、いままで俺たちはプロレスを"観戦"してきたわけでしょ？

――山本さんが言うと"プロレスに感染した"って聞こえますね（笑）。

SG（無視して）観戦の"観る"は見物の"見る"じゃなしに、文字通り"観て戦っていた"んだよ。観るという行為でプロレスと戦って、プロレスファンもライターも記憶に記してたわけ。でも、よく振り返ってみれば、俺たちは猪木のプロレスを"観戦"してきたんじゃないんだ。アントニオ猪木という風景を"鑑賞"してきたんだよ！　猪木さんのプロレスは全部、鑑賞プロレスだったから、観て戦うことなく記憶されたんですよ。これからのプロレスも、「和泉元彌の風景」「HGの風景」を鑑賞するという価値観にガラッと変えないとダメなんだよねえ。

――『ハッスル』も鑑賞しないと楽しめない！　と。

SG そう！　だから『ハッスルマニア』のおもしろさは、"鑑賞プロレス"、ひいては誰もが講釈を垂れたくなる新時代の"活字プロレス"の復活なんですよォォォ!!　違う、山口さん？

山口 モグモグ、素晴らしい！　でも、ひとつだけ注文をつけると、全盛期の『週刊プロレス』で猪木さんのプロレスは"観戦するもの"で、馬場さんのプロレスは"見物するもの"だと言ったのは山本さん、あなたです（笑）。

SG ……（急に小声になって）つ、つまりぃ、本当の答えというのは変動相場制なんですよぉ。その時その場所で、答えは違うんだよねえ。だからプロレスはおもしろいんですよ！

山口 自分に都合がいいように変える変動相場制ですね（笑）。

SG と、とりあえず、俺は講釈師として『ハッスル』のおもしろさを語り継ぎますよォォォ！『ハッスル』、ヒュ〜〜〜〜ッ!!

【05年11月6日／新宿・某店にて収録】





菊地成孔×水道橋博士

君はこの二人の話に、ついて来れるのか？

格闘評論新次元

「新しい五味、前田、そしてkamipro論」

現代の『私、プロレスの味方です』として話題の書『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～』(白夜書房)を書いた菊地成孔氏。この本を読み、自身のWEBサイトで菊地氏を絶賛した水道橋博士による運命の対談が実現！　各界で注目を浴びる二人がまったく新しい視点で切り開く、格闘技評論の新次元。君はどこまでついてこれるか？

構成／堀江ガンツ、真下義之　撮影／平工幸雄　designed by shiraki (TwoThree)

いう田上明の
に、『ハッスル
えるわけです
――そういえ
スル・マニア
すからね。『D
被る『ハッス
られたら困る
ないとか（笑
SG ……い
明してるねぇ
覚を持ってい
ーとして超一
的な危機感を
と断言するよ
――『ハッス
te!!』のカ
く防衛本能も

プロレスと

――ちょっと
けど、『ハッ
いってなんだ
SG 全然違
見ればわかる
――いや、ぜ
SG そうだ
定多数を相手
は極めて特定
中間にNOA
ているけど、
が入りやすい
過去に無関心
んだから。イ
のデータが如
――データを
ところはあり
SG でも、

対談実現までの経緯

――今日は異色の組み合わせなんですが、じつはお二人はもう既に一度対談してるらしいですね？

博士 まず、メールのやりとりがあってから、俺が「会いましょうか？」って書いたら「実際には会いたくない」なんて、どちらかと言うと失礼なやりとりがあったの（笑）。

その後、俺が菊地さんのラジオ番組にゲストに呼ばれて、そのブースの中が完全な初対面。で、FMのジャズ番組なのに格闘技の話、どころか『kamipro』の話ばっかりしていたという。

菊地 お会いしたくないと書いたのは（笑）、水道橋さんのメールが、「いつか会いましょう。その際には○○も○○もご紹介します。インサイドへようこそ。」みたいな感じだったんで（笑）。批評の仕事は、つきあいが出来ちゃうと好きなこと書けなくなるじゃないですか。で、お気持ちはうれしいのですが、せっかくですが。と丁重にお断り申し上げたんですよ（笑）。僕、いろんなモノの評論やってますが、インサイダーである場のはやってないですから。とはいえ、水道橋さん御本人とだけなら、という事で対談やラジオ番組へのオファーをさせて頂いたんです。これ結構、今日の重要なテーマになってくると思うんですけどね。

博士 俺的には、「オマエの世界に触れたんだから、今度はオマエが触れろ！」（笑）って、とにかく、「またげよ！」ってことだから（笑）。

――博士のWEB日記にも書いてありましたけど、なぜかボク（ガンツ）のことを話していたとか（笑）。

博士 そう。何故、ガンツはロシアで前田日明にドツかれたのかって話を延々と（笑）。完全にリスナー無視、いったい誰に向けて喋っているんだって（笑）。

菊地 対面するなり、お互い火がついたみたいになって（笑）。「ガンツがやられて」「エカテリンブルグで」って。局の人も不思議な顔してました（笑）。

――じつに光栄です（笑）。で、今回、対談を組ませていただいたのは、菊地さんの著書『サイコロジカル・ボディブルース解凍～僕は5年間だけ格闘技を見なかった～』（白夜書房）を博士がWEBの日記で評価されてたことが、きっかけなんです。プロレス・格闘技評論は、ここ数年間、同じようなメンバーで展開されていたんですが、菊地さんは久々に新しい論客の登場というか。

博士 重要なのは、この本は業界に「ぶら下がってない」人が書いてるってこと。それに今後も「ぶら下がる」気配は微塵もないことなの。菊地さん自身は、この本がマット界関係者にどうとられようが困らないじゃない？

だって菊池孝さんじゃない、菊地成孔さんの本なんだから（笑）。本業の音楽家活動には何の支障もないからさ。だから、そういう意味でも25年前の村松友視さんの『私、プロレスの味方です』【註1】以来と言われる理由はそこにあると思うんですよ。

――「こんなに思ってることズバリと言っちゃっていいの？」というくらいに非常に生々しい意見が出てるというか。

菊地 そうですね。まあただ、僕的には特別シュートだとは思っていないんですけど、一方で自分も常に批評される身じゃないですか。全然知らない人にものすごいこと書かれる。というのが日常です。

博士 あとさ、プロレスファンにはなじみのない精神分析学の専門用語、タームが多すぎて生々しいというより難解だろうと（笑）。東大で教えている先生がプロレス本を書くって。そういう点じゃあ松原隆一郎先生以来じゃない。

菊地 視座や口調に新しいスタイルを入れようと思っただけで、難解だともあんまり思わなかったんですけどね。「現代思想」の2002年のプロレス特集なんて、ふき出しちゃうほど難しいですよ（笑）。

僕は大学で授業持ったりしてますけど、アカデミシャン先生の手慰み本みたいにはならないように……。というか、僕はアカデミシャンではないので（笑）、自分なりにファンとして真摯に、かつ新しく。というのを心がけて書いたんですが。

――そういう意味でも、博士との対談でプロレス・格闘技について、新しい発見が出てくるんじゃないかと。

博士 俺と菊地さんとは同世代なので。今まで見てきたプロレスそのもの、それを報じてきたマスコミ、いわゆる活字プロレスの台頭を同じように見守ったと思う。それこそターザン山本の栄枯盛衰の物語であるとか（笑）、『私、プロレスの味方です』の出現や、衝撃を受けた感じとか。プロレスがサブカルになっていく過程であるとか、それこそ『紙プロ』の登場であるとかね。

菊地 見てきた風景が一緒。という同世代感は、格闘技を介さなくても、水道橋さんの、それこそ「本業」であるテレビでのお仕事ぶりを見ているだけで感じてました。

40過ぎると、メディアの中に同世代感が漂ってくる。っていうのは……犯罪の犯人とかも含めて。だけど、まあ当たり前のことも言えると思うんですよ。ただ、僕は個人的な理由によって5年間、まったく完全に、格闘技の世界に触れなかったんです。

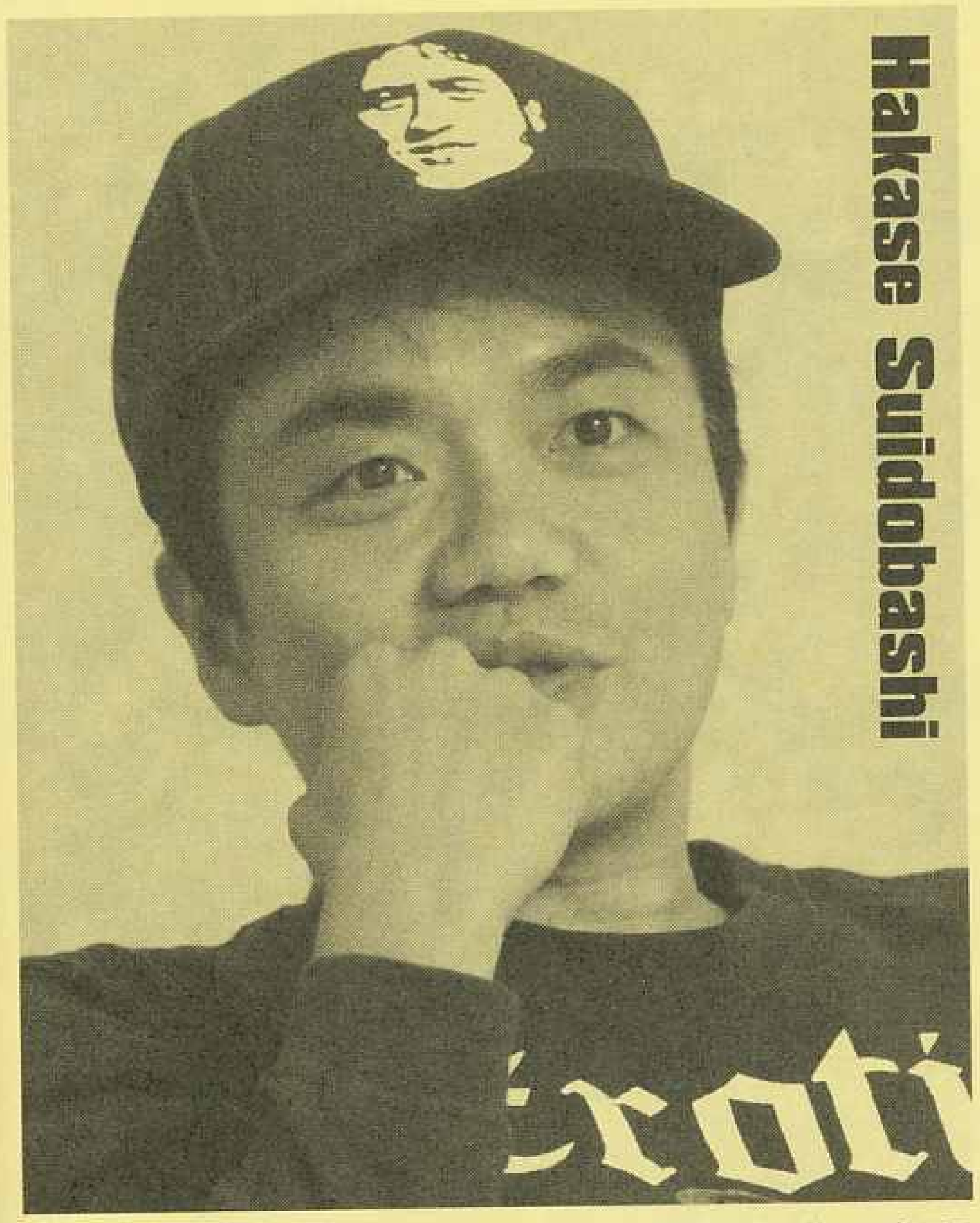
それで本を出せと言われて強制的に（格闘技の世界に）戻されたんですね。その経験自体が、格闘技を越えて面白いかなと思って本を出したんですが。その時偶然、音楽家にして東大の講師だっただけで。

――ボクも最初、菊地さんの著作は難しいのかな？ と思ってたんですけど、読むと共有体験がすごく多い。ただ、同じ体験でも捉え方がボクらとは全然違うなと。博士は、具体的にはどの辺でピンときましたか？

博士 初期リングスへの偏愛とか個人的にかぶるし、自分をヘルマン・レンティンギストと名乗ってみたり……。それに印象的なフレーズは無数にありますよ。1・4のドームの『アルティメット・ロワイヤル』における猪木の夢の具現化を、「ヒステリー型からアルツハイマー芸術への移行」と呼んだり。

この本は、04年の『PRIDE男祭り』の観戦記で始まるんだけど、五味vsパルバー戦で、五味選手の顔を、女子顔だけど、性同一性障害の「おなべ系ホスト」っていう見立てで書いてて、「プロフェッショナルは顔だ」って言い切ってしまう感

この本は「業界にぶら下がっていない」人の本。だから刺激がある（博士）



すいどうばしはかせ■1962年生まれ。ビートたけしに弟子入り後、87年に玉袋筋太郎と漫才コンビ・浅草キッドを結成。91年『浅草キッドのオールナイトニッポン』92年テレビ東京の『浅草橋ヤング洋品店』で人気を博す。その広い守備、行動範囲はスポーツ界、政界、財政界に及び、格闘技全般にも見識が広い。著書『お笑い男の星座2』（文藝春秋）は大宅壮一ノンフィクション賞候補に。最新刊は『本業』（ロッキング・オン）。

ゃなくて「どうしよう。も
でもありますから。ボクシングファ
に見えました。いわゆるカソリック





きくちなるよし■1963年生まれ。音楽家/文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとしての活動を行う一方、精神分析学から音楽理論史まで、膨大な知識を駆使した異形の批評家として音楽、映画、料理、ファッション等に関する著作多数。今年、初の格闘技批評書「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜」（白夜書房）を出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師（音楽理論史）。

僕も批評される身なので、特別シュートな内容とは思わない（菊地）

じとかは強烈だよね。

——誰しもがどっかでは思っていたけど決して書かない「五味って唇が赤いな」とかそういう部分ですよね（笑）。

「五味絶対時間」とは何か？

菊地 五味は『男祭り』ではじめて見たんですけど、出会い頭にハートを鷲掴みにされました。格闘家の顔にも系列いろいろあるんだけど、ファイティング原田系ですよね。

絶滅寸前だったというか。いわゆる、ここ最近の「イケメン」という美意識を根底から覆す、最高の面構えです。しかもこの一年ですっかり小林旭というか。まぁ小林旭の物真似する片岡鶴太郎にも似てるんですが（笑）。

博士 大滝詠一の『熱き心に』が聞こえてきそうな……（笑）。

——『男祭り』で5年ぶりに解凍して、約一年が経ったわけですよね。

菊地 「像」として一番強烈な印象は刺青の定着です。昔はバンバン・ビガロのギミックだったわけですけど（笑）。ただ、解凍後一年で水道橋さんとお話させていただくにあたって、編集部にお願いして、今年一年の『PRIDE』をまとめて見たんですけど。4月から、『PRIDE・30』まで。でも突出してるのは……僕にとって五味だけです。

もうDSE帝国はローマ帝国と同じで（笑）、優れた拳闘士を山ほど持ってんだけど「五味の試合だけでいいやもう」という。

——五味の試合を見て、体に変調をきたされたとか。

菊地 感動とか、そういうレベルじゃなくて「どうしよう。もっちゃう」感じというか。五味の試合は「もうPRIDEとかそういうことじゃない」っていう、髙田の解説も聞こえない（笑）。

博士 「五味絶対時間」というかね。

——菊地さんが、五味に注目されたのは、いつぐらいからですか？

菊地 さっき言ったとおり、何の情報もなく、去年の『男祭り』でいきなり最初に見たんだけど、プレスキット見たら木口道場出のアマレス基調のパウンダーって書いてあって、元シューターだと。だから入場を見た段階で「ああ、プレスキットが一試合間違ってるんだな」と思いました。

要するにボクサーにしか見えなくてね。試合もボクシングテクニックしか使ってないように見えた。だから大興奮しながらも、メディア的な錯誤感というか「これはボクシングなのか？ 何なのか？ この二人はライセンスないんだからボクシングだとしたらアマチュアだよな。総合って何なんだ？ すげぇな」っていう。

博士 五味の通う、相模原ヨネクラの会長も「五味は日本ランカークラス」って言ってますね。

菊地 『ボクシングマガジン』の宮崎さんと対談した際に真っ先に聞いたんですよ。あれはボクシングとどの程度違いますか？ って。

宮崎さんはヒョードルに見えるボクシングの残滓の方が興味あったようですけど。僕はボクシングファンでもありますから。ボクシングファンの心情というのは、常に非常に奇妙な形で抑圧されてるんです。現在の格闘技界において「ボクシングとどう折り合うか？」という問題は、最も重要で危険な、急所みたいなポイントです。五味は、そのポイントにすら何かを突き刺しているんですね。無意識的に。前田も「黄金のミドル級」発言とかで、やっぱり無意識的に突き刺してますけど。

博士 今後の五味の展開として、越境という意味では体重差を越えてvsシウバ戦もあるんだろうけど、選択肢としてボクシング世界王者の道っていうのもあるかも知れないよね。

逆コースで総合からボクシングへ行った選手もいないでしょう。ボクシングの亀田（興毅）選手は、いつか（山本）KIDともやりたいと言ってて。そこに五味が入ってくると面白いよね。そうなると、もはや現実感を超える世界って。これは誰の夢の具現化なんだって（笑）。

菊地 ボクシング界を囲む線は、「リメス」って言いますけど、国教や国境に等しい。越境できない一線。その中でも、もっとも痛切な物です。水道橋さんが五味vs川尻の試合を見て「辰吉vs薬師寺」戦に見立てておっしゃいましたけど、ボクシング側がその発言をどう聞くか、というスリルも、五味の豊かさが生んだ物で、そういうシミュラクラっていうか、「何かに見えちゃう力」ってのは啓示的というか、今の五味に宿ってるオーラはそういう力がある。

この前のルイス・アゼレード戦の後半に、五味が足関取るシーンで、アゼレードの出血が、綺麗に五味の目尻に垂れるんですよ。カメラが一瞬だけとらえる。それが「血の涙」に見えました。いわゆるカソリックの……。

博士 ハハハハハハ！ 日本の格闘家に〝聖痕〟が現れたって……（笑）。

菊地 昭和とかボクシングとか武士道とかいった国枠も突破してる（笑）。水道橋さんは「目の中に炎が見えた」とも、おっしゃっていて……。

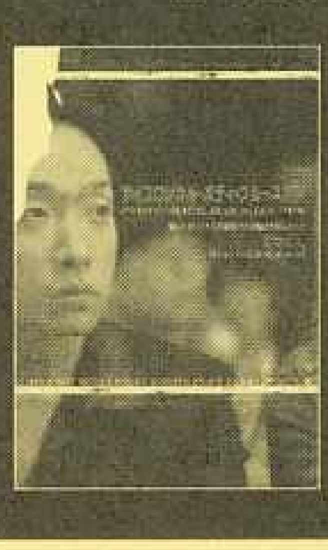
博士 ああ、確かに見えた！ 本当にリングから「神への階段」が通じているって言うか、それくらいの神聖さがあったよね。

宗教観のない日本人には、おたくが「キタ————ッ！！」って言うネットレベルで使われる『降臨』じゃなく、これが海外だったら、本気で「神の降臨」「奇跡」とか絶対言うよね（笑）……なんか、43歳の俺が26歳の五味にさ、膝まずき、ひれ伏す気持ちに襲われた。「五味絶対時間」を作っている力に対してさ、本当に手を合わす、ああいう神聖さを作り出す瞬間って、たとえば、辰吉の昔の試合ではありましたよね。

菊地 トランスや降臨や死などが、むしろ絵文字が行き交うネット空間の中でもてはやされるという現状は、僕個人はどうしようもないと思って

サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍
—僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった—

菊地成孔 著（白夜書房） 定価2,000円（税込）



5年間、プロレスや格闘技から遠ざかっていた著者が「解凍され」た、5年後のプロレスと格闘技の世界を描いた気鋭の評論集。04年末の『PRIDE男祭り』や、「贅沢なキッチュ」としての新日本ドーム、『ハッスル』における山口日昇の「神になること」への恐怖と震え、「前田日明原理主義者の復活祭」としての『HERO'S』など、濃い内容の観戦記と、対談（安田大サーカス、宮崎正博）で構成。

五味の試合には「良い過去」が見えるんです（菊地）

ますが、まあ故無きことではないし、いまさら変えようもないんでしょうけど、そういうレベルを突き抜ける凄まじいリアル、死闘というその、シンプルな殺し合いではない全存在を賭けた消耗戦によって神聖さを醸し出すというのは格闘技の可能性の原型ですよね。

博士　ああいう神聖さを帯びることが『武士道』でも起きた。ミルコやヒョードルの試合で徹底的にボコったとしても、日本人が「凄ぇ！」とか興奮しても、あそこまでスピリチュアルにひれ伏すことはできないじゃん。良質のエンターテインメントとして感動するし。「おもしれぇ！」という言い方はできるけど、今回は五味だし、そこに日本人としての美意識の一貫性、拘束性が強いから、完全にひれ伏しちゃったね。

菊地　あとは日本社会が五味をどう認識するか、っていう問題が残ってますけども。

博士　翌日のスポーツ紙の扱いも本当に小さかったしね。

菊地　まだ社会はポストモダンに懲りてないというか、濃密だった過去のフラッシュバックによって、古典的な心情になるっていう価値観に慣れてないんじゃないかと思います。五味とは正反対なのは、佐竹だと思うんですよ。

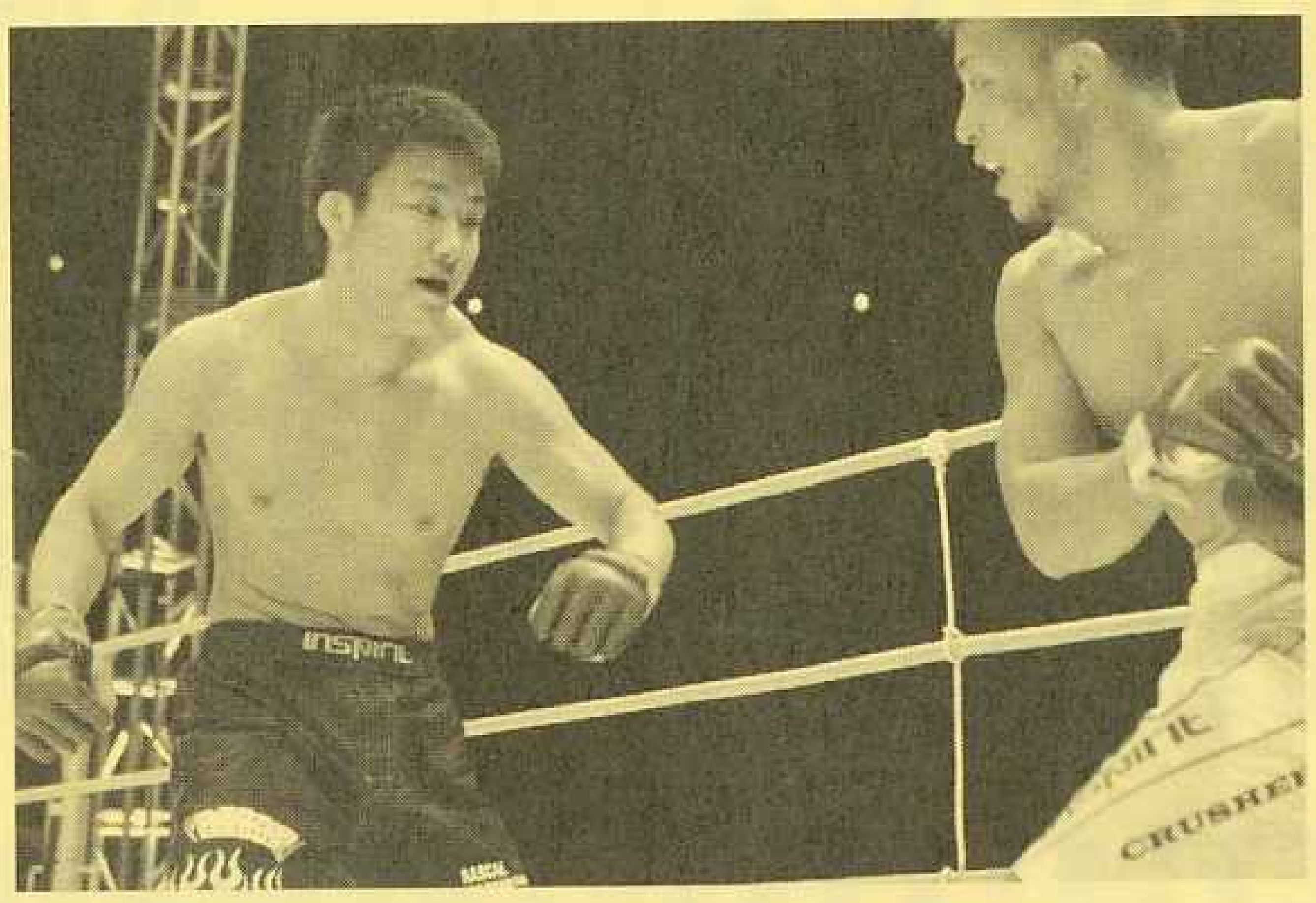
90年代初頭に、空手家で武道家なのに、フィギュアやソフビ人形のマニアで、マンガによって技を考えるというキャラクターで登場して、佐竹が時代を変えるという感覚があったし、異様にマスコミ受けした。

ポストモダンですよね。でも今回、五味が出てきて、宗教画をみるようなすごい幻像を見るわ、「昭和の感じ」もするわ、武道にまで還元して想いたくなるような。プレモダンっていうか、フラッシュバック系じゃないですか。そういう感じは、まだ一般的には咀嚼が悪いんじゃないですかね？　10年前には目新しかったポストモダンが、いまや当たり前になってて。っていう転倒ですけど。

博士　なるほどね。でも五味は付帯する条件が少なすぎるでしょう。「昭和の感じ」と言っても、五味は、不良物語もない。刑務所でボクシングの手ほどきを受けたわけでもなし、ましてや600年の狂言の歴史もないし（笑）。永ちゃん崇拝っても、かなりアナクロだしね。でも、五味の『武道性』を強化、喚起するには、テレビは、まだまだやれるし、『SRS』チーム、（佐藤）大輔なんかがサブリミナルに映像であおれば、いくらでも物語は紡げるし、懐かしくも新しい古典的心情も一般にも咀嚼できますよ。

『PRIDE』ヘビー級はサーカス化していくのか？

菊地　それからヒョードルvsミルコの試合は、『kamipro』の原稿にも書かせていただいたんですけど、一瞬だけ、ほんの数秒だけど、会場がボクシングの世界タイトルマッチの会場に見えるんです。すぐ『PRIDE』の画に戻っちゃうんですけどね。何にせよ、『PRIDE』が……これはハッスルもそうだと予想されるんですが（※対談時には未見。菊地氏によるハッスル・マニア観戦記は、本誌P30参照）、夢のようなポストモダンの新しさじゃなくて、分厚くてリアルな「過去の新しさ」というか、昔UWFがスローガンにした「原点回帰」とか「復興」とかいった概念を、完全にやっちゃってる感じがします。ただ、終わったばかりの『PRIDE・30』の映像を見たんですけど、急速にヘビー級がサーカス化してる（笑）。



博士　いや、それはテレビ局的な観点でいうと、「ヘビー級が」というより、大晦日に向けてサーカス化するんですよ。大晦日にジャイアント・シルバが出るとしたら、相手はズールだろうとか（笑）。紅白歌合戦に、まず小林幸子の大仕掛けの衣装を準備するような展開になっちゃう。

菊地　ただ、去年の『男祭り』って、それほどサーカス感がなかったんです。逆に「大晦日でこんなに〝オリンピック〟で良いわけ？」って。『Dynamite!!』のサーカス感のが大晦日っぽくない？　って思って、でも「そっちはハッスルでやってるんだな」って二極化の視点で見たんだけど。ただ『PRIDE・30』は、その前の興行で五味の試合が、「サーカスじゃない喜び」をみんな食っちゃったんで、残る喜びが「サーカスしかない」んだと。はからずもそうなったように見えてしまう。あのミルコの試合（vsジョシュ・バーネット戦）さえ、サーカス性の緩さを感じてしまうんですよ。比較効果なんだけど。

——それは、軽量級のK-1 MAXの登場で、K-1のヘビー級が急激にサーカス化していった構造とも酷似してますよね。

菊地　K-1ヘビー級のサーカス化は、谷川さんの内的欲望で、最初からそうしたかったように見えますけど、とにかく『PRIDE』も五味があああゆう風になると、否が応でもK-1みたいになるんじゃないか？　という気がしないでもないですね。突出した才能。

博士　これからの格闘技界は、例えば、チェ・ホンマンとセーム・シュルトが優勝を争うような2メートルを超えたモンスター性の競い合いが見たいのか、それとも五味とかKIDとか、等身大の日本人が、英雄になる物語を見たいのかさ……。まぁ、両方見たいのかな。

菊地　両方見たいと思いますよ。

博士　でもね、これってエスカレートしていきますよ。「強い」となったら、馬でも人間でも、「曙とディープ・インパクトと戦わせちゃぇ」ってのが谷川イズムだしね（笑）。

それに大晦日はテレビ業界のいわゆる主婦層、F層対策っていうか、放送も長時間やるし、視聴率狙いのテレビコンテンツの宿命として、お祭りムードのなかで、オリンピック的な競技化だけじゃ済まないってところは関係者は四苦八苦してますよ。まぁ「桜庭vs田村」戦というマニア垂涎のゴールデンカードが決まったとしても、それはお茶の間の視聴率と直結しませんからね。

「桜庭という物語」の功罪

菊地　サーカスだとしても日本人のリアル・ヒーローとしても桜庭は本当につらい位置にいますよね。ピーク時にその二つを奇跡的に両立していたからこそ、ですけど。この前のシャムロック戦は世論的には「良かった良かった。すごいな。強くなった」ってなってるんですか？

——結構、そうなってますね。

菊地　なってるのか。それは……しょうがないですね。

——楽しめるか楽しめないか別として、桜庭選手のストーリーが今までと違う章に入った感はありますね。

菊地　これは良い意味なんですが、アローナ戦の試合後の顔がすごく酷くてインパクトがあって、それがスポーツ紙の一面を飾った。で「桜が赤く散った」とか書かれたけど、僕は「生まれたての赤ちゃん」に見え



43歳の俺が26歳の五味に素直にひれ伏してしまう（博士）

たんです。要するに血だらけで、オギャーオギャー泣いてる顔。出産に立ち会ったら分かるけど、赤ちゃんって目が開いてないし、横たわって血だらけで泣いてる。だからあの試合後の像を見てると、なんか桜庭が出産されたような気分になった。

桜庭は「再起」という、何のひねりもないストレートな方向に進むしかないという状況で、「奇をてらえない」という状況が桜庭にとって苦しいのか、あえて立ち向かわないといけないのか、それこそ再生出来ないのかはともかく「リング上で再び出産された」というイメージは、ダメージと引き替えに、手に入れた物としては大きかったと思います。久しぶりで桜庭が、桜庭をずっと苦しめていたパブリックイメージ肥大の問題から楽になったような気さえしました。

博士　それは菊地さんが指摘する『さくぼん』問題【註2】のこと（笑）。

菊地　そうです（笑）。それがアローナによって「出産」されて、ひっくり返った。

――再生の流れに、感情を乗せて盛り上がれるという。

菊地　ただ、桜庭がシュートボクセ修行で出直しするって、いい話過ぎてギリギリに思えました。シウバとの友情とか。凄く素敵なんだけど。

博士　確かに興行を彩るストーリーとして「いい話」に見えるけど、実際には桜庭はブラジルの無名の練習生にとっても賞金首のわけだから、スパーリングからシュートを仕掛けられるわけでしょ。だから出稽古って言っても、段取りでは済まない、桜庭にとっては、大きなリスク、本当に危ない橋っていうか。俺自身は、まだ熱烈に、魅入られますけどね……。

菊地　ただ、それを経て見せなくちゃいけないのは、フック一発の説得力ですよ。桜庭が説得力のないKOを獲ったとする。せっかくアローナ戦で出産を思わせるような形で顔面まで腫らしたのに、そら最悪だよなと。そしたら、実際にその通りに（笑）。これどうしようかなと。

博士　そうかな？　あれがそんなに最悪だとは思わない。最悪の現実は何度も経験してますよ。だいたい髙田延彦がヒクソンに負けることから始まって、最近じゃあメインで桜庭が負けることが多くて、観客は泣きながら帰る、お金払ってなんでこんな目に遭わなきゃいけないんだっていう（笑）。でもそんな安全紐のついてないバンジージャンプみたいなスリルを味わいたいって、ヒーローに対してアンビバレンツな感情と期待が裏腹にあるじゃない？

菊地　これは皮肉ではないけど、それこそが桜庭のIQレスリングだったと思うんですよ。期待に応え続けるのがヒーローだ。とか、いやヒーローは絶望も与えてくれるもんだとか、そういう古い価値観を知的にひっくり返し続けたと思うんです。ピーク時の桜庭は。

博士　そう。桜庭には「もう勝つか負けるかわかんない相手とはやらないでくれよ」って祈るような思い、「このまま安心して大晦日に行かせてくれよ」とか、思うじゃない？

この格闘会場にあるまじき「非情なき、やさしさ」って観客の視線も、桜庭の功績に対する感謝だろうし、一部には予定調和的であっても、カタルシスを希求するプロレス者の回顧もあるだろうし、そこを俺が言うと、図らずも誌面に於けるPRIDE応援団の代表的意見になっちゃうけど。その部分では、本気で桜庭に身を焦がす思い入れがあるよ。でも反対に、菊地さんみたいなサディスティックな意見も実は客席にはあるんだろうね。

――桜庭が本当に活躍してた頃って、4～5年も前なんですよね。それ以降、本当に凄い名勝負がないにもかかわらず、いまだにこの期待感って凄いことだと思いますよ。

菊地　その「期待」の中には相当なサディズムもあると思いますけどもね。サディズムも喚起しなくなったらおしまいだけど。桜庭は生け贄に見えます。そして、多くの日本人は、生け贄という存在を受け入れがたく、だからこそ内心でサディスティックになると思いますね。

博士　それは逆にマゾもあるよ。阪神が日本シリーズでロッテに4タテ喰らって、30点以上差をつけられても、ファンとしたら身もだえするくらいに〝最悪の歓喜〟なんだと思うけど……。

菊地　桜庭の功罪のうち……もちろん、「功」は計り知れないほど巨大ですよ。だからこそ、その「罪」の部分に対する気持ちを観客が共有するのは自然なことです。それを桜庭一人の罪にするのは気の毒だし、だからこそイライラさせられるところでもあるんだけど。それこそ『さくぼん』の、まさに出版当日から起こる問題じゃないですか。僕は桜庭は、大雑把に、さっき言った「佐竹の系列」と言って良いと思うんですよ。

――桜庭は佐竹の系列ですか？

菊地　まあ、あくまで大雑把にですけど、佐竹が出てきたときの胸にゾワゾワくるっていうか、期待と共にある嫌な感じ。でも一時的にポストモダンによって成功をかっさらった。で、佐竹はまあ、いろんなファクターが重なったんだろうけど、今はああいう風で。桜庭はあのラインの大成功例だと思います。たくさんの人の移入を誘って、山口日昇さんの移入も誘ってさ。サンボマスター美学というか「ブサイクだけど強い」みたいな、いろんな形の移入も含めて。しかもピカピカに新しかった。古さがあるとしたら『さくぼん』みたいに、幼児退行性としてだけ入ってくる。「子供のままで良い」っていう「日本人が大人になれない問題」も含んだあたりも重要だと思うし。

――いわゆるアダルトチルドレンの問題ですね。

菊地　そうです。それがまあ、だんだんああいう風になって、つまり老成や本格化みたいなモノを拒んだ構えのままキャリアが重なって、桜庭も観客も鬱屈してくる。ポストモダニズムのどんづまりというか。それを五味が一気に晴らした気がします。これは、前々号にも書いた「良い過去」を蘇らせる。ルネサンスの方向ですね。だって小林旭なんだからさ（笑）。五味は「スーパースターになりたい」ってわけだから。桜庭が現役である限りは、この問題と闘わないといけない。

――菊地さんの5年間の沈黙は、桜庭和志の風景も変えていたと。

〝解凍〟された後の前田日明に関して

博士　菊地さんの本が象徴的なのはさ、5年振りに目覚めると、いわゆるDSE王国が生まれてて、神話的に言えば〝髙田は王であり、父である猪木を追い出し〟自ら君臨している、その一方で、前田日明は沈黙者であった。で、本のキーワードであり、文字通り、前田も『HERO'S』で「解凍される」ところで終わる。すごく象徴的だよね。

前田日明って、30～40代くらいの人は、自分の人生と平行して照らし合わせてきた部分もある。僕らの世代は新日からUWFやリングスたって人生の記憶と共に前田がある わけじゃない？　だから俺も雌伏の立ち上げとかさ、そのすべてにわした前田日明に会いたくて、ファイティングTV「SAMURAI」に企画を持ち込んで始めたトーク番組に出てもらうんだけども。そこでは『PRIDE』側の仕事をしていて、『PRIDE』を崇拝している立場の俺たちと言葉がかみ合わなくて、結果的に本番中に前田日明に叱られてしまうっていうこともあった。そういう軋轢、圧倒的なストレスを含めて前田的であり、我々が待ち望む前田体験でもあるわけでしょ。たとえば、ガンツがロシアで前田にド突かれることは、一生の勲章であるように。

――その通りですよ。

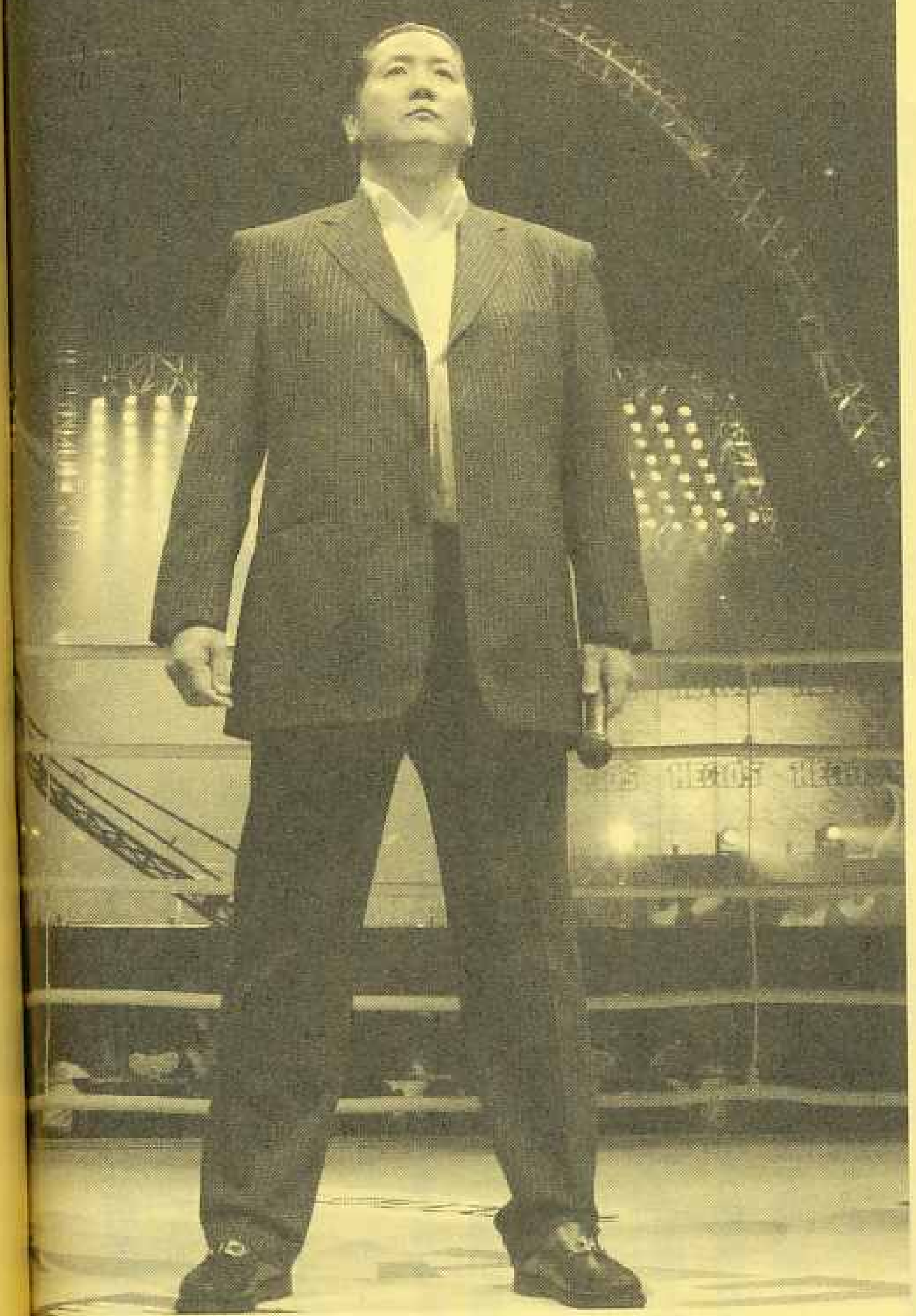
博士　でも、そういう軋轢を体験したことがない人は、俺としては単純に「記念に殴られて欲しいな」って（笑）。

だから、そのためには前田日明に菊地さんの本を渡して、菊地さんと前田日明との対談を是非、実現し

いう田上明の
に、『ハッス
えるわけです
――そうい
スル・マニア
すからね。『
被る『ハッス
られたら困る
ないとか（笑
SG　……
明してるね
覚を持ってい
ーとして超
的な危機感を
と断言すると
――『ハッス
te!!』のカ
く防衛本能も

プロレスと

――ちょっと
けど、『ハッ
いってなんだ
SG　全然違
見ればわかる
――いや、ぜ
SG　そうだ
定多数を相手
は極めて特定
中間にNOA
ているけど、
が入りやすい
過去に無関心
んだから。イ
のデータが知
――データを
ところはあり
SG　でも、



てほしいよね。
菊地　まあ……あらゆる楽観的な可能性を駆使して……殴られると思いますね（笑）。
博士　実際に殴られた人がここにも一人いますからね（笑）。いや絶対に面白いと思うよ。前田なら菊地さんと同じボキャブラリーで、絶対喋れるからね。
――前田日明は絶対張り合おうとしますからね。そこが美しいですよね。
菊地　「前田が好きだ」って自分で分かった段階で、「前田に傷付けられる」ってことも同時にわかってるんですよ。そういう風に思わせる対象というのは、本当に素晴らしいです。例えば船木を好きだとして、船木に傷つけられるとは思わない。むしろ船木は「どっかに行ってしまうんじゃないか」「消えてしまうんじゃないか？」というイメージがある。
博士　俺は前田日明に何回かサインをもらってるんだけど。通算3回目のサインかな？　サインにさ「俺を見るな!」って書いてあった（笑）。
菊地　ハハハハハ!
博士　すごく前田的だよね。「敬愛してます!」って言ってサイン求めてるのにさ。「俺を見るな!」って、突き放されるんだもん。
菊地　前田自体は、どんどん周囲との関係性が切れてくわけじゃないですか。一番愛し合ってる人とも切れてく。集合離散は世の常とはいえ、前田が我々に与える痛みは別格です。で、ファンはそれでもいいわけです。『HERO'S』が旗揚げされたときも前田完全復活と、髙田に対する拮抗勢力という風に祭り上げられたけど、ここまでポジティブに展開してゆくとは誰も思ってなかったじゃないか。きっと、また孤立するに違いない。物凄いキツいバックステージを見せられるんじゃないかと。でも、それでも構うもんか、それでいいんだ。という力が、前田ファンの力ですよ。
　僕は『HERO'S』の旗揚げしか行ってないですけど。いま『HERO'S』は安定的じゃないですか。とはいえ本当の前田ファンなら、前田がこの状況を維持できるわけはない、やがて泥沼をまた見せられる、その泥沼を共有させられる予感というのがあって、そんな気分で前田を追っかけていくんだなという強烈な喜びと憂鬱。それによる大前田コールがあったんだと思います。
――その意味で、『ビッグマウス・ラウド』は、来年以降の前田の場所を作るためのものなんでしょうけど。
菊地　見てないからわかんないですけど。簡単に言うと、「髙田と田村を孤立させたUWFの同窓会」っていうか、まあ野合と言っても良い。今のところ、あまり嬉しい感はないですよね。田村が大会一回でDSEと切れて、前田の元に走ったら、グッと身を乗り出すと思いますけど（笑）。髙田が孤立して、残り全員が組む。という構図になったらこれは面白いです。
博士　俺的には、今の髙田は武将であり英雄であり、三国志の雄、神輿に乗る人だと思いますよ。前田はは沈黙期間、中国の史書五経を読んでいたんだって。しかも何が凄いって、原書の漢文で読んだんだって（笑）、そこから戦術的な人間関係を学んだって。ただ現実的に言えば……おそらく来年以降、大きな山が動いて、格闘技界の地図がドッと動き出す空気はありますよ。そのマグマの予感は大きいですよ。
――なにかをきっかけに大きく動きだす予感はすごくしますよね。

いま格闘技批評を行なう困難さ

博士　そういう驚天動地の時こそ、雑誌の反響、役割はすごいと思うよ。で、菊地さんの本に話を戻せば、旧『紙のプロレスRADICAL』にも言及してて、『紙プロ＝カイエ・ドゥ・シネマ』って見立てて、フランスの映画雑誌の気鋭の編集者達がこぞって映画を撮る側に廻る形で、編集者が格闘技のプロデューサーになっていく物語っていう部分を書いた。『紙のプロレス』は手前味噌になるから、自分たちでは敢えて書かなかった部分をね。水面下で、ファンの間ではその物語を共有してきたけど誌面には反映されてこなかった。そこが面白いよね。小泉政権を語るときに飯島秘書官の暗躍を語り、今回の選挙を語るのにさ、自民党のゲッペルスと言われる世耕議員率いるコミュニケーション戦略チームの人が、選挙を全部仕切って、自民党圧勝のシナリオを作ったり、いわば、裏の仕掛け人を類推する面白さがあったけど、マット界を語るのに、谷川さんは語られても、柳沢、山口らの黒幕を言及しているのは少なかったもん。
菊地　インターネットが出てきて、ヤバイ話は全部そっちっていう。活字はどんどんヤバく無くなっていってる。それは格闘技に限ったことじゃなく、今後の言論は、批評という行為自体が難しい状況になってゆく。僕自身も音楽やってるから批評にさらされるわけじゃないですか。吉田豪さんが『ゴン格』の「書評の星座2」っていうコーナーで、（僕の本を）採り上げて下さったんですが。
博士　豪ちゃん書いてたね。でも好意的でしたよ。
菊地　僕的には、吉田さんっていうのは神話の世界の人なんで、書いてくれただけでヤッターって感じだったんですけど。内容に関しては、さっき言った「批評の難しさ」という事が、僕にも吉田さんにも等しく覆っているのだなと思いました。
博士　あの文章を読んでね、菊地さんによる山口日昇への言及を吉田豪が、最後に引用していて「これもシュートだ!」っていうくだりは、菊地さん的に言うと豪ちゃんの『紙プロ』への深層心理がよく表われているとは思うけど。
菊地　吉田さんは僕の本を評して「資料にあたってないから、惜しい。格闘技は、やって本人に『それ違うよって』言われたら終わりだから」って書いてるんですが、ここは本当に批評の難しいところで、音楽やってるとよく分かるんだけど、こっちがやってること分かって批評してる人なんて一人もいないですよ。コード一個、フレーズ一個について、完全に了解できるのはフロイディズムで言ったら、やった本人にも無理です。
　音楽とスポーツに同じ批評法を使って良いのかどうか？　というのも難しいところですけど、吉田さんのような知性豊かな方ですら、格闘技に於ける一挙一動を蓋然的な、物理的な事実として、資料を見て理解しないと批評にはならない。と言わずにいられない。というのが批評の難しさでもあるし、今、水道橋さんがおっしゃった吉田さん個人に帰属する何かなのかも知れませんけどね。メディアか個人かを含めて、格闘技を新鮮に面白く批評することが難しくなってる。
　山口日昇さんのような識者が「も

菊地さんには是非、前田日明と対談してほしいよね（博士）

う自分で作っちゃえ」ってのは、必
て、そこを雑誌で吐露する、そこを
事のすべてですよね。ただ僕自身は
すよ。そこが水道橋さんのエネルギ

註釈



う自分で作っちゃえ」ってのは、必然です。だから僕の本は、最初に言ったとおり、5年遮断されて、いきなり世界に連れ戻される。何かを書くのに情報が一切ない。という行為が新鮮で、少しは面白い批評が書けるかな？　という動機の本なんですけど。

——でも、菊地さんはインターネットはあまりご覧にならないとか？

菊地　はい。

——それが逆に良いんでしょうね。その一方で、お二人とも、インターネットを使ってのアプローチというのが、共通項かなと思うんですが。

菊地　とはいえ水道橋さんがやってることを見ると、インターネットというメディアを利用して。とは思わないですけどね。どんなツールを使おうと、発するオーラやポリシーは一緒で、ある種フェティシズムというかロマンティシズムというか、一貫してる。それで手を変え品を変えてるっていう。一種のジャーナリズム精神だと思うんですけど、メディアに関してはどうですか？

博士　確かにインターネット全盛だけど、一方で『kamipro』が、いまだ役割があるのかというとさ、匿名であるネットに比べて編集者のキャラ化というのをずっとやっていたじゃない。雑誌のコンセプトとして、世界のプロレス化、誌面のリング化というものを想定して、自分たちの物語のリングを紙の中に作ったわけじゃない？

だからガンツが前田日明に殴られて、そこを雑誌で吐露する、そこを伏せないことに意義があるし。インターネットで裏情報として書かなかったことも意義がある。俺たちが『紙プロ』を買ってきたのはそういう部分。単なる専門誌、業界誌とは違うわけだし。インターネットじゃないとこで『kamipro』が対抗するとしたら、ますます業界にも巻き込まれなきゃダメだしさ（笑）。

前田日明を好きなことが前田日明をイラだたせる（菊地）

関わることで現実が変わるか？

博士　ただそこで俺は書物に当たる、資料に当たるっていうより、「人に当たる」っていう主義だからさ。

格闘技の上でのタブーを含めて、それはメディアやネットでは得られない部分への枯渇なのね。俺しか得ることのできない情報っていうのを選択してるね。

——新刊の『本業』【註3】のなかでは、ボブ・サップが語る、ジョシュ・バーネットの話を書いてますよね。

博士　書評本でも、本からだけではない、実際、会った人の発言の引用が多くなっちゃう。

菊地　やっぱジャーナリズムですよね。古き良きジャーナリズムというか。ジャーナリストというのは業界の秘密を抱える仕事で、人間関係の束に絡め取られる仕事で、捏造と報道の狭間でもがき苦しむ仕事で、肝の中に「言っちゃいけないこと」がバンクされてる仕事で、それをどの程度、暴露するか。というさじ加減と覚悟がジャーナリストの仕事のすべてですよね。ただ僕自身は全然それがないから（笑）。まったくそういう発想ない。人に会うことで、見えなくなることもありますし。

博士　ま、俺はジャーナリストではないけど（笑）。だけど、本を出すって、既に業界にコミットするし、菊地さんも、最初は「会わない」って言ってる俺とも会ってるわけですよ。だから結論としては、やっぱり「巻き込まれていくんだ」っていうことを証明したいんですよ。

菊地　僕は僕で逆に「絶対に関わらない」ってことをね。証明したいわけですよ（笑）。

博士　アハハ、頑固者、ホント思想する田村潔司みたいなもんだ（笑）。僕も菊地さんのスタンスはわかってるんだけど、じゃあ、想像してみて。誰とも会わずに部屋にいて原稿を書いている菊地さんにノックする人が居るわけだよ。ピンポーンとチャイムが鳴る。で、菊地さんがドアを開けて「なんだ、水道橋さんじゃないですか」と出てくる。そこで僕は「実はちょっと今日は、前田さんを連れてきたんですよ。」ってね（笑）。

——ハハハハ、ほとんどドッキリの世界ですね（笑）。

博士　そういうことが起こるんですよ！

菊地　いや、そっちの方がエントロピーあがるわけだから、そっちが自然でしょう（笑）。閉じて持ちこたえようとする力より、開いてる力の方が自然で強い力だから。今回も、『kamipro』の誌面に載るということで巻き込まれていくわけだし。

ただ、人と人は、出逢ったら深まるに決まってる。というのは、ジャーナリズム精神というか、関係性に関する感性が極論的だと思うんですよ。そこが水道橋さんのエネルギーだと思いますけど。一種の運命論的なロマンチシズムというか。関係主義というか。

博士　僕が書いた『お笑い男の星座』【註4】っていう本はそこをテーマにしてるんだけど。もともと星座なんてないのに、恣意的に人間が星を見えない線で結んで、形を作り、物語を当てこんでいく、その偶然には必然がある。

菊地　極端に言ったら、僕の個人的な欲望は、むしろ関わりたいくらいなんです。でもなぜかそうならないんです（笑）。僕は仕事柄、芸能界を除けば、水道橋さんと同じぐらいたくさんの人と会って対談したり仕事してると思うんですが、いままでまったく繋がって来なかったんですよ（笑）。音楽界でも批評界でも学界でも、自分の現場の人間以外とはつきあいないですから（笑）。

博士　僕はキャスターの草野仁さんを見て「絶対この人はバラエティに出ない人だなぁ」って見てた。一生、俺と縁が無い人だろうって。でも「草野さんってWWEの会場にいるのか？　もしかしたら、なんとかならないかな」って潜在的に思う。そうしたら一年後には何故か一緒に番組やってるわけだしね（笑）。

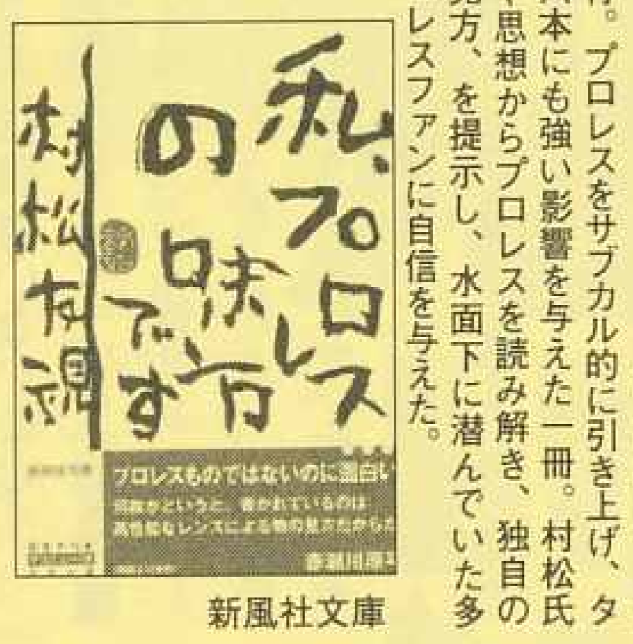
この前も「長州力は絶対、長州小力に絶対会わないんだなぁ、テレビ界のタブーなんだぁ」って言ってたら、3週間後には長州小力と長州力がタッグ組んで、自分の番組（『草野キッド』）に出てるじゃんって（笑）。これって、俺が見ている夢の世界の具現化なんですよ。

菊地　上田馬之助の名言に「大きい（身体の）人は流される」というのがありますが。逆に言えば小さい

註釈

註1　『私、プロレスの味方です／村松友視』

80年発行。プロレスをサブカル的に引き上げ、ターザン山本にも強い影響を与えた一冊。村松氏の理論や思想からプロレスを読み解き、独自のモノの見方、を提示し、水面下に潜んでいた多くのプロレスファンに自信を与えた。



新風社文庫

註2　『さくぼん』

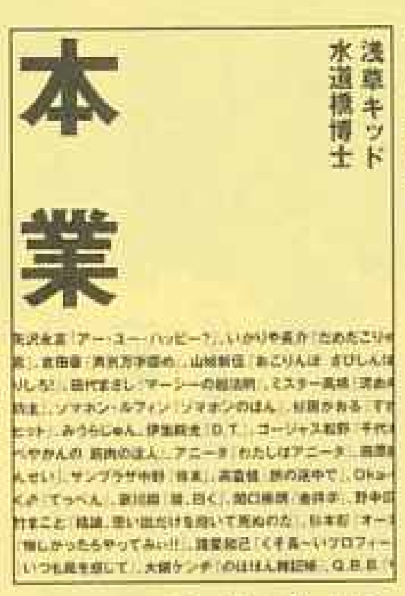
01年発行。『kamipro』編集長こと、山口日昇が当時絶好調だった桜庭和志の公式マガジンとして全面編集。70年代の『少年マガジン』風の表紙や装丁まわり。紙相撲やステッカーなどの付録もついた、ノスタルジックな構成。



ワニマガジン社

註3　『本業／水道橋博士』

芸能人のいわゆる「タレント本」の書評集ではあるが、タレント本を通して、その芸能人の生き様や盛衰の法則などを、対象に十分な愛情や尊敬の念を抱きつつ、その実像や虚像に深く切り込む、リアルな伝説集。



ロッキング・オン

註4　『お笑い男の星座2／浅草キッド』

各方面から絶賛され、大宅壮一ノンフィクション賞候補にも上がった代表作。格闘業界から鈴木その子、そして自身の変装免許証事件の真相まで、芸能界に潜入するルポライターという位置から、浅草キッドが送る傑作活字漫才。



文藝春秋

「巻きこまれる」ってことを証明したい（博士）
僕は「関わらない」ってことを証明したい（菊地）

人は流されない（笑）。僕の本でも、安田大サーカスの団長さんと「チビの執念は凄いんだ」という話をしているんですが。水道橋さんから感じるパワーは凄いですよね。でも、僕もチビで（笑）。執念深いですから（笑）、自分の非・関係主義みたいな物を夢として信じてるんですよ（笑）。

博士　俺なんか、K—1の会場じゃあ、ホビット族で有名ですよ（笑）。

菊地　ただおそらく水道橋さんの啓蒙むなしく、僕の本は格闘技ファンからは、黙殺されることになるんですよ（笑）。書いたときは繋がりたくて書いてるんだけど、出来上がったものを読むと、これは遮断だよなと思いました（笑）。

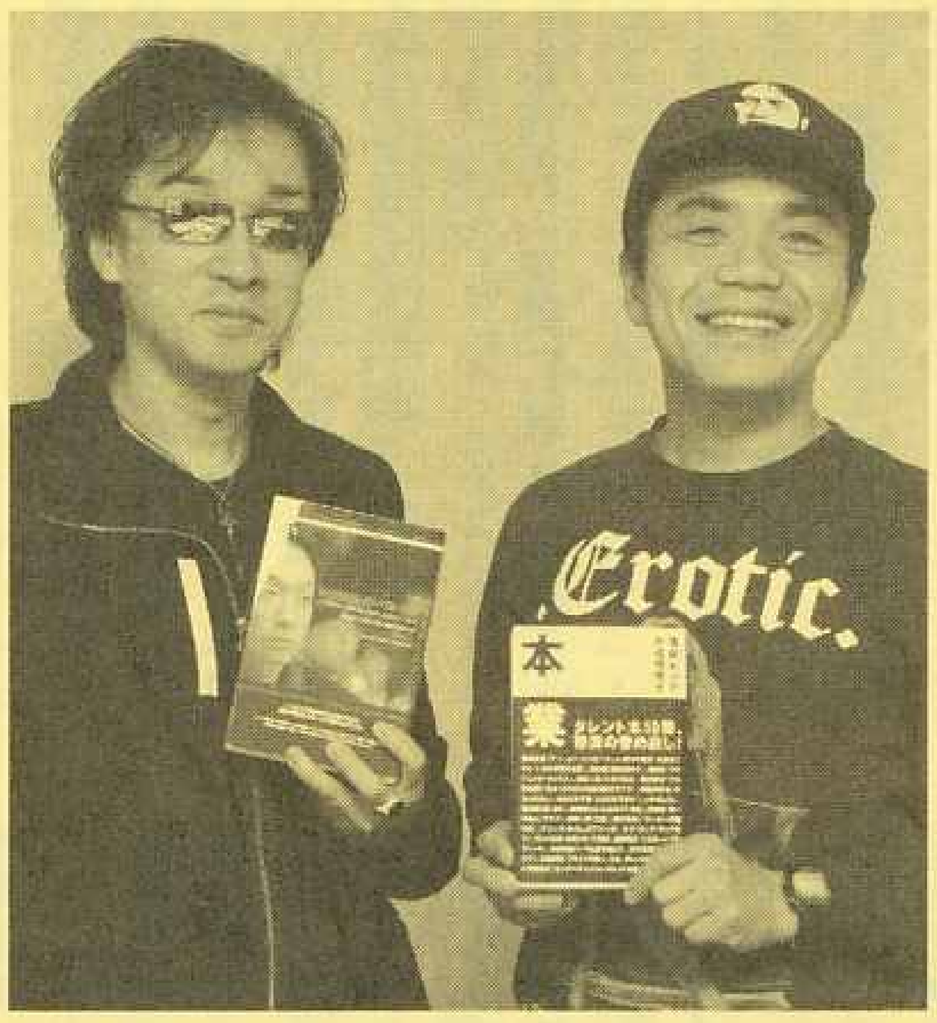
——プロレスファンって保守的な人たちですから。部分的にそういうことはあるかもしれないですけど。

菊地　まあでも鋼鉄の水道橋イズムによって変わるかも知れない（笑）。関わってくことで現実が変わる。

　理論物理的には、存在が認識されただけで世界が変わるわけです。『本業』っていう本は、水道橋さんの「発掘し、関係し、転がす」という、もうひれ伏すしかない圧倒的な技術と情熱の塊であると同時に、文字通り「関係者」である水道橋さん御本人の「本業とは何なのか?」ひいては「俺とは誰なのか?」という問いを、膨大な関係の束にからめ取られてもがき苦しむマゾヒズムと共に問うてゆく本になっていると思いました。良くできた洒落。というのは、多く、気が付かないウチに自分自身の問題を言い表している物です。水道橋さんの師匠であり唯一神であるたけしさんが持っている属性と相同的とも言えますよね。何にせよすごい本であって、多くの人々と関係してゆく本ですから……まあ、それは数字が証明しますよ（笑）。『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』は、ボクの著書でこれだけ反応がなかったことはないというぐらいに、何もないんですよ（笑）。

博士　いや、ウチの近所の本屋「高円寺文庫センター」ではえらい騒ぎだけどね。なぜか俺の日記がポップとして勝手に引用されてるし（笑）。レジのところには全部、バーッと菊地さんの本が並んであってね。

菊地　しかしまあ「関係」の問題は深いですよね。お聞きしたいんですけど、堀江さんくらい強烈な前田信者だった人が、実際に前田に殴られるとどんな気分なんですか?



——前田日明物語の端役ながら登場人物になれたかなということで、光栄だな、と（笑）。

菊地　うれしいわけね。

——ただ、何度も物語に登場したいとは決して思いませんけどね（笑）。

博士　僕も仕事で揉めたりして、土下座する瞬間とかあるんですけど、

　「俺やっぱ土下座を求めて、こういうしんどいことに関わってきてるんだな」と結構哀しくて好きなんですよ。人と会っていると、句読点が土下座ってことにもなってくる。

菊地　謝罪無きジャーナリズム、土下座無き男の世界なんて屁でしょう。僕は女の子に土下座はするけど（笑）。

博士　やっぱ俺は、Mっ気が強いんだろうなって。その土下座まで含めて『男の星座』だって思ってる。土下座からの出直しってところあるもん。

菊地　土下座はね。あれはエクスタシーありますからね。

『kamipro』の未来とは

博士　出直しで言えば、『kamipro』って、今後は、どうなっていくの。

菊地　これはいまさら言うことじゃないけど、日々、機関誌化してるわけじゃないですか。当初はミニコミ的な武器としても、ある種の美学としても、編集部のデスクの並びさえ読者に夢想させていた。編集者の顔が出ていた。編集者の顔とは、まだ出てるとはいえ……。

博士　徐々に薄くなってますよ。

菊地　もうあと一押しすれば、完全な機関誌化として、匿名の雑誌として、インタビュアーの名前が出なくても成立する。インタビューの内容が良いから。

　でもそれは堕落とかつまんなくなったとかを意味してるんじゃなく、まあ大人になったというか。

博士　でも、匿名でインタビューを録って成立していくんだったら。他の専門誌と同じじゃない?　って思っちゃうけどな。

——プロレスファンって誰が書いてるかっていう部分にすごい執着してるところがありますしね。

菊地　良質の機関誌っていうのは一種のタブーと背中合わせとも言えます。ナチスの機関誌とかは凄く良質なものだったし。「『報知新聞』は巨人の機関誌。のようなものだ」って言ったりするじゃないですか。

博士　一時期の『週刊ゴング』は長州の機関誌だって言われてたしね。

菊地　『週刊プロレス』がUWFの機関誌。のような物。だった時期もあったけど。でも、DSEと『kamipro』の関係はそういった事とは違うように見る。強大なエンパイアの中にエリートとして取り込まれていく。僕が見た5年後の世界。というのは、刺青の定着を除けば（笑）、DSEの一人勝ち。という風景で、その一人勝ちっていうのは、企業規模でも、文化的にもです。

『ハッスル』と『PRIDE』を持ってるってとこで世界の両端を押さえてるわけだから。

　強い批評性を持ったミニコミが巨大なエンパイアにコミットして、優れた機関誌になっていくっていうのは、話としては解るけど、僕はリアルタイムで見ることは無かった。凄く古くて、強くて、懐かしくて、新しいです。五味、ヒョードル、ミルコの在り方と一緒ですね。

——DSE系がさらに大きくなったらそうなるかもしれないですけどね。でも、ボクらは「面白い」とか「応援したい」と思ってることをやってるだけなんですよ。いままで応援してきたところが、残念ながら大きくなりきれなかっただけで。もしバトラーツが大きくなってたら、いまごろ「バトラーツの機関誌」と呼ばれてたかもしれないですし（笑）。

菊地　詭弁に聞こえなくもないですけどね（笑）。

博士　しかし『ハッスル』って、繰り返し、旧「紙プロ」の中で語り続けた、山口日昇の見た夢の具現化そのものだろうし、『アンドロイドが電気羊の……』たとえで言えば「山口日昇はドリフの全員集合の夢を見るのか?」そのものでしょう（笑）。まぁ、『kamipro』がその夢の検証になるのは間違いないことだし。

　たとえば今号はやっぱり和泉元彌のインタビューぶち抜き8ページとかあるんだろうな。袋とじ、和泉節子ヌードとかさ（笑）で、何なんだよコレ、なんでインリンじゃねぇんだ！　って言いながらやっぱり読むんだろうな（笑）。

——『kamipro』になっても引き続き、がんばります！　今日はありがとうございました。

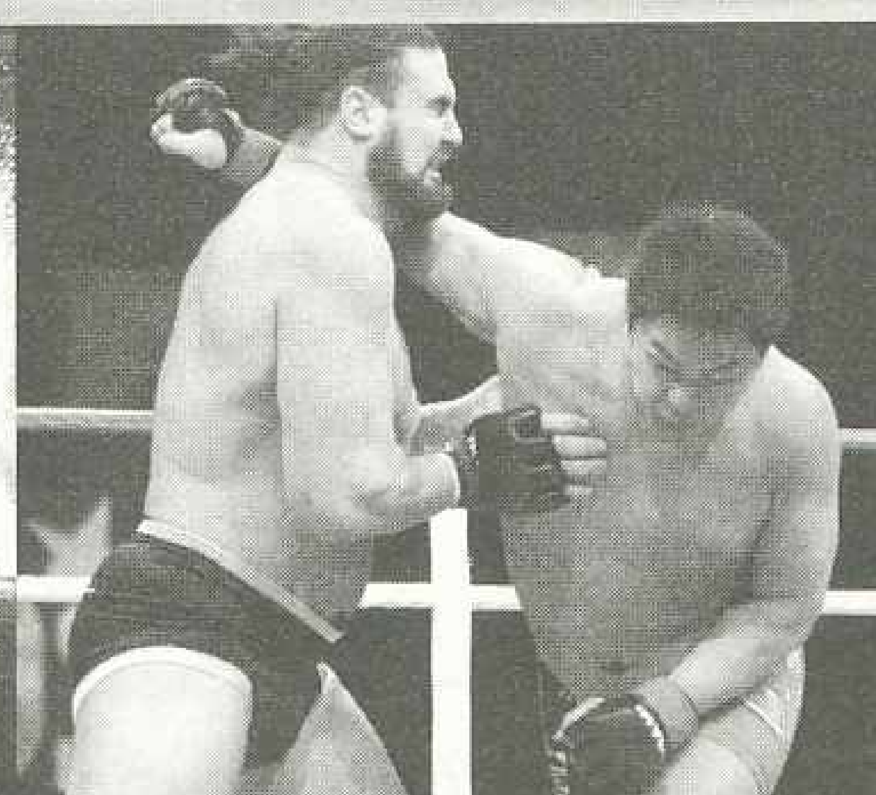
【05年10月26／新宿歌舞伎町・ルノワールにて収録】



熱狂と混沌

11·5『KOREA MAX 2005』,『HERO'S in SEOUL』徹底レポート大特集

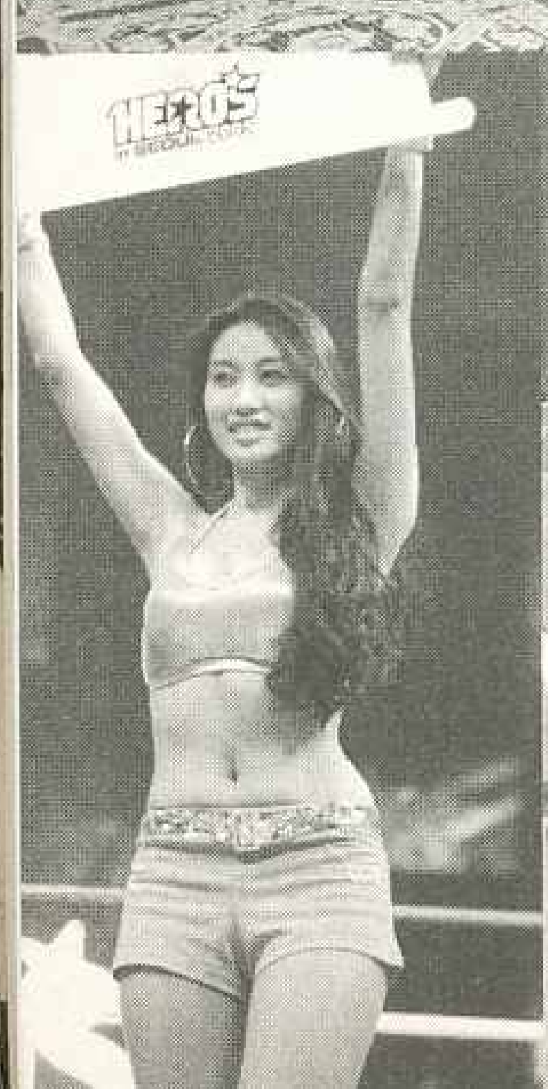














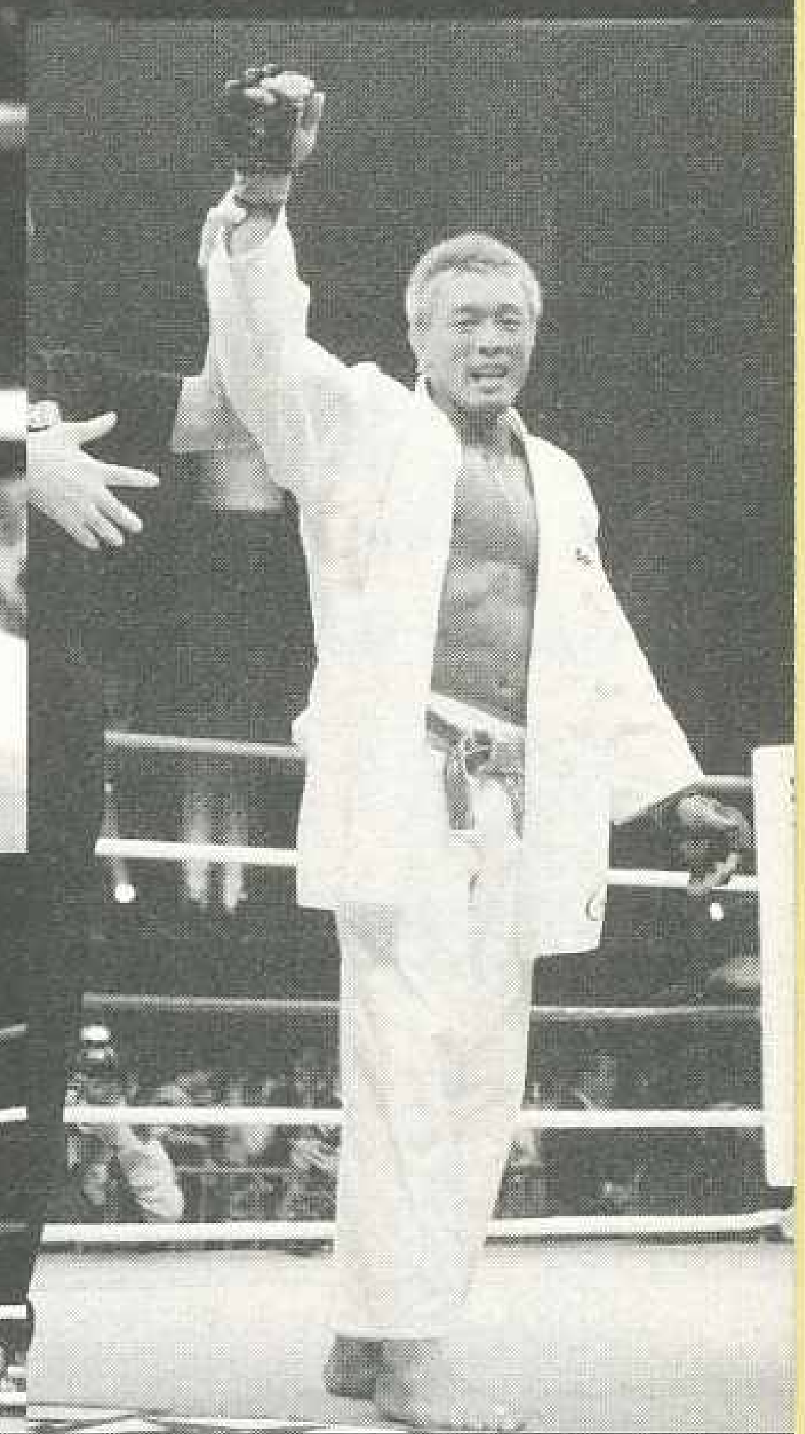
韓国格闘技界の真実を見た!!

韓国がいまモーレツに沸いている!! K-1、PRIDEなど、世界の格闘技情報が大量に流れ込んでくると同時に、チェ・ホンマンら韓流ビッグスターが続々と登場する韓国国内。9·23『K−1 WORLD GP』のチェ・ホンマンvsボブ・サップのテレビ放送時には、なんと"人通りが3分の1"になったという噂も(真実は54ページ以降で明らかに!)。いっぽう、国内で誕生する興行は旗揚げ&撤退などドタバタの繰り返し。いったいどうなってるの? というわけで、11·5『KOREA MAX』&『HERO'S』から韓国の格闘技事情までをダダダ大特集!!

構成/松下ミワ 撮影/乾晋也 designed by nogu (Two three)

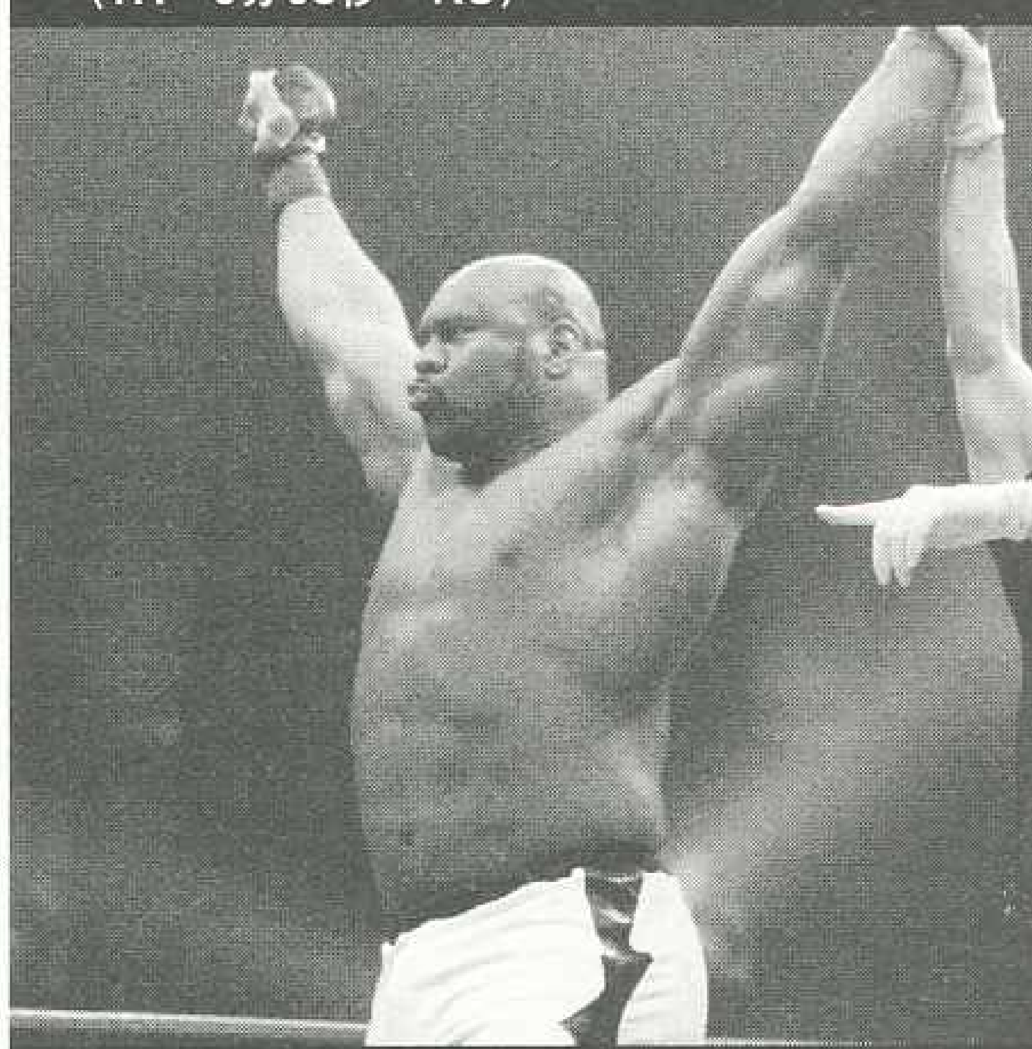
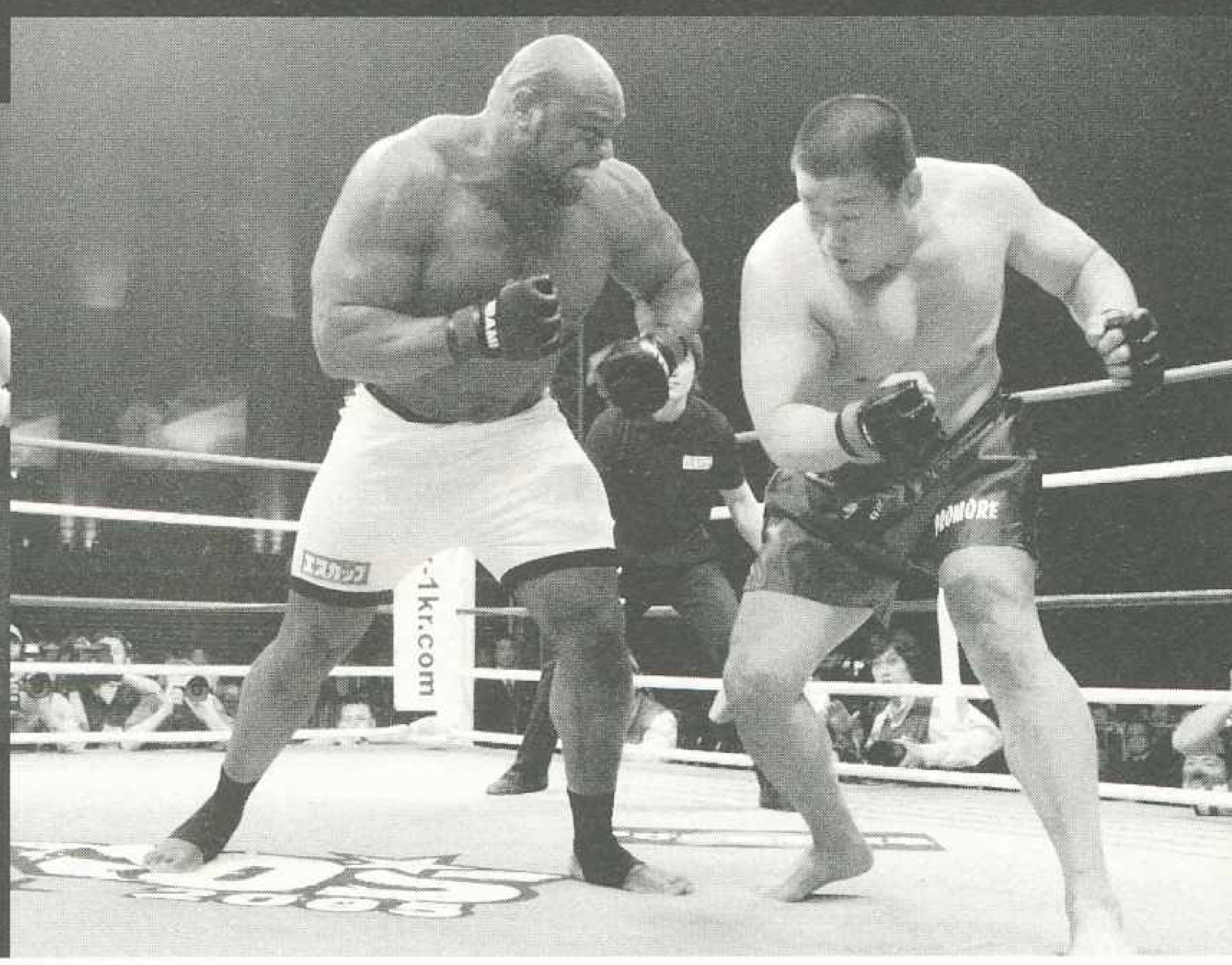
秋山の強烈なパウンド連打で観客総立ち

○秋山成勲 vs 奥田正勝×
（1R　3分31秒　TKO）

メインでは秋山成勲が奥田正勝に激勝！　道衣に日韓両国の国旗を縫い付けてリングに上がった秋山は、十字を仕掛けた奥田を持ち上げてマットに叩き付け、さらにパウンド連打を浴びせて失神に追い込んだ。「久々に韓国に帰ってこれて嬉しかった」とコメントした秋山。大晦日のホイス・グレイシー戦に向けても大きな弾みをつけた。

○ボブ・サップ vs キム・ジョンワン×
（1R　0分08秒　KO）

韓国総合格闘技のパイオニアとも言うべきキム・ジョンワンは、なぜか“チェ・ホンマンからの刺客”としてボブ・サップと対戦。だがゴング直後の打撃戦でロープ際に後退すると、立ったままカメ状態に。さらにヒザ蹴りを食らうとあっさりダウンして8秒で敗北。韓国では初の試合となるサップには、新鮮さゆえかかなりの歓声が。今後のサップの生きる道はこっちか？

「韓国のMAXが中止になりそうなんだって？　スポンサーが逃げたらしいじゃない」

大会の一週間前くらいだろうか。ある関係者がそんなことを話しかけてきた。さすがにK－1でそれはないだろうと思ったが、じつは現地でも似たようなことが言われていたらしい。『KOREA MAX』は正規のK－1イベントではなく、現地のプロモーターが主催する大会をFEGがバックアップする『K－1ファイティング・ネットワーク』のイベント。だから〝MAXが韓国に進出〟というのとは、ちょっと意味合いが違う。

運営も現地スタッフの仕切りだから後手後手というかゴタゴタというかグダグダというか。対戦カードにしても内部情報として伝わってはいたものの正式な発表はついぞされず、前日の記者会見でようやく知ったという状況である。で、そのカード表を見たスタッフが「あ、カード決まったんだ」と言ってたらしい。情報発信源となるはずの公式ウェブサイトも更新されず、現地のファン、関係者のあいだでも「どうすんのこれ、ホントにやるの？」、「なんか（大会前日に中止が発表された）『グラジエーター』に雰囲気が似てる」と囁かれていたとか。計量では『HERO'S』出場の大山峻護の相手、ホ・ソンジンが3・7キロオーバーで失格処分に。3・7キロオーバーって。しかも再計量でもビタ一文体重が落ちてなかったというからおそろしい。

大会当日、会場入口に行ってみると日本人スタッフが「せめて言われたことだけはやってくれよなぁ」と頭を抱えていた。韓国人気質を象徴するという言葉「ケンチャナヨ」は直訳すると「大丈夫」、「気にすんな」だが、より正しくは「オレは知らねぇ」って感じになるらしい。開場は11時30分の予定だったが、その時間になっても絶賛機材搬入中。さすがである。会場内で読プレ用に大会Tシャツでも買おうと思ったが物販コーナーはなし。パンフレットも作られなかったという（『HERO'S』では売られていた）。

韓国のヒーロー、ミンスの劇的勝利に熱狂度ピーク!!

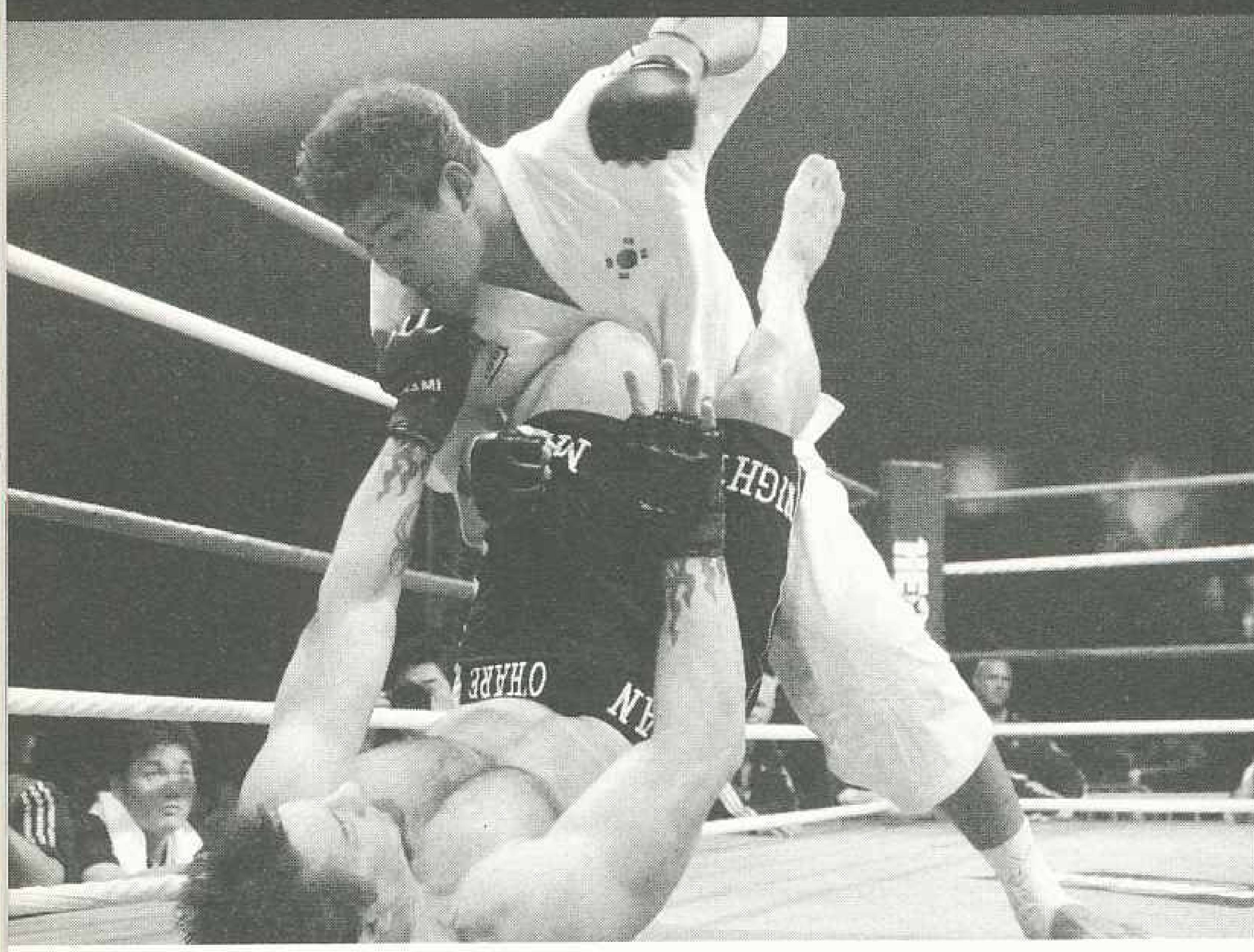
○ザ・プレデター vs チェ・ムベ×
（2R　判定3-0）



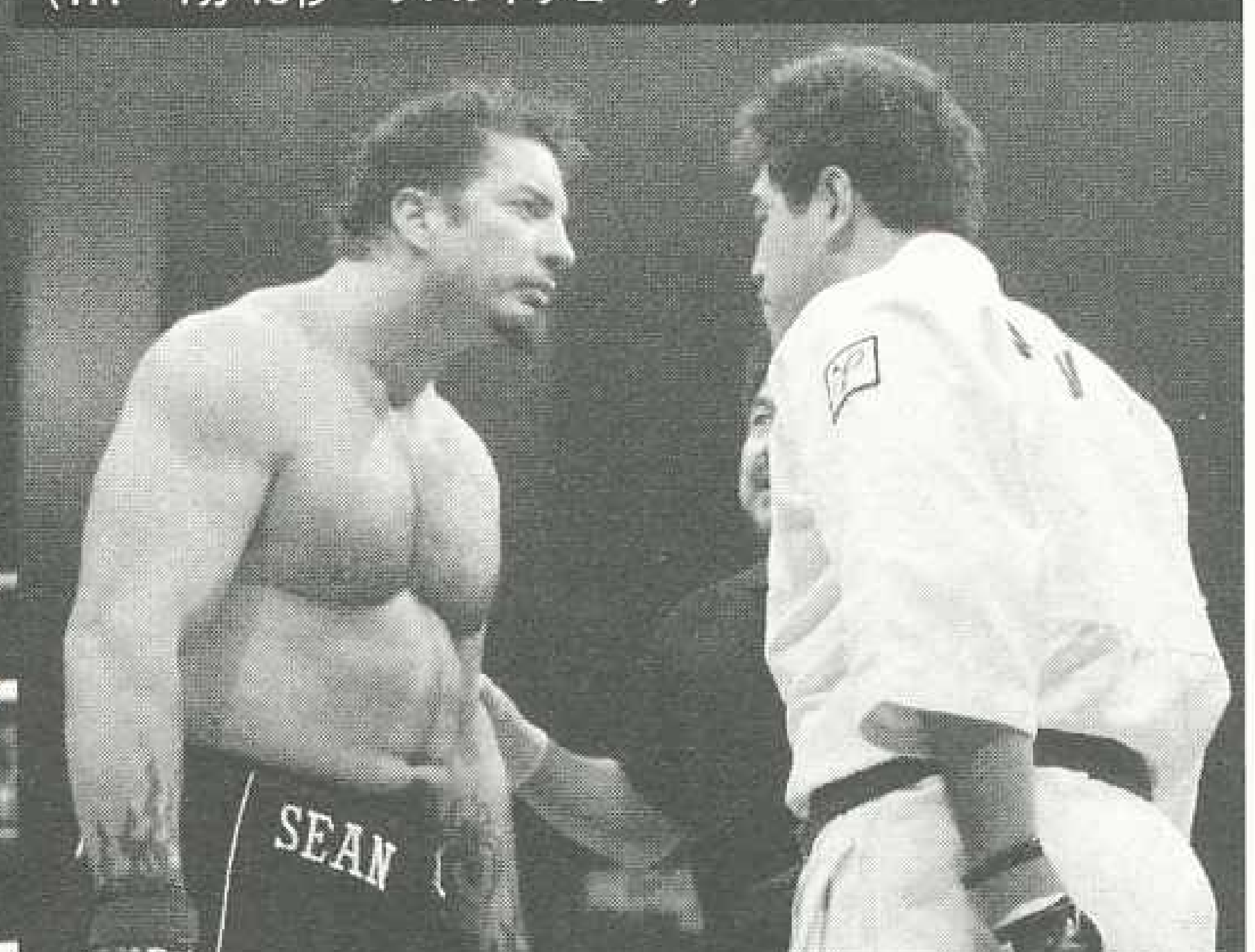


韓国の総合ファイターとしては実績ナンバー１と言えるチェ・ムベが『HERO'S』に参戦。セミでザ・プレデターと対戦した。序盤は真っ向からのパンチの打ち合いなど見せ場のあったムベ様だが、パワーに押されてか１Ｒ後半には早くもヘロヘロ状態に。２Ｒにはマウントからアームロックを極めかけられ、判定３－０の完敗となった。





○キム・ミンス vs ショーン・オヘア×
（1R　4分46秒　フロントチョーク）



柔道五輪銀メダリスト、キム・ミンスが韓国で涙の初勝利！　序盤から積極的にパンチを飛ばしたミンスは、交互にグラウンドで上になる一進一退の攻防の末、スタンドでのフロントチョークで一本勝ちを決めた。観客の大喝采に、ミンスは「柔道から転向して２連敗……本当に辛かったけど、ついにやった！」とマイクで絶叫！

でも、そういう状況なのにプレスルームにはお菓子や果物、ドリンクがたんまり用意され、記者の人数分以上に速報用のLANケーブルが引かれていたのである。プレス対応用のスタッフもとにかく親切。「行き届いてんなぁ」と感心したのだが、しかしそのあいだも大会の準備は順調に遅れ、結局11時30分開場、13時開始の予定が13時開場、13時30分開始に。日本で取材する感覚でいると頭がクラクラすること確実な状況。まぁどっちがいい悪いの問題じゃなく、これがこっちのスタイルなんだからケンチャナヨである。

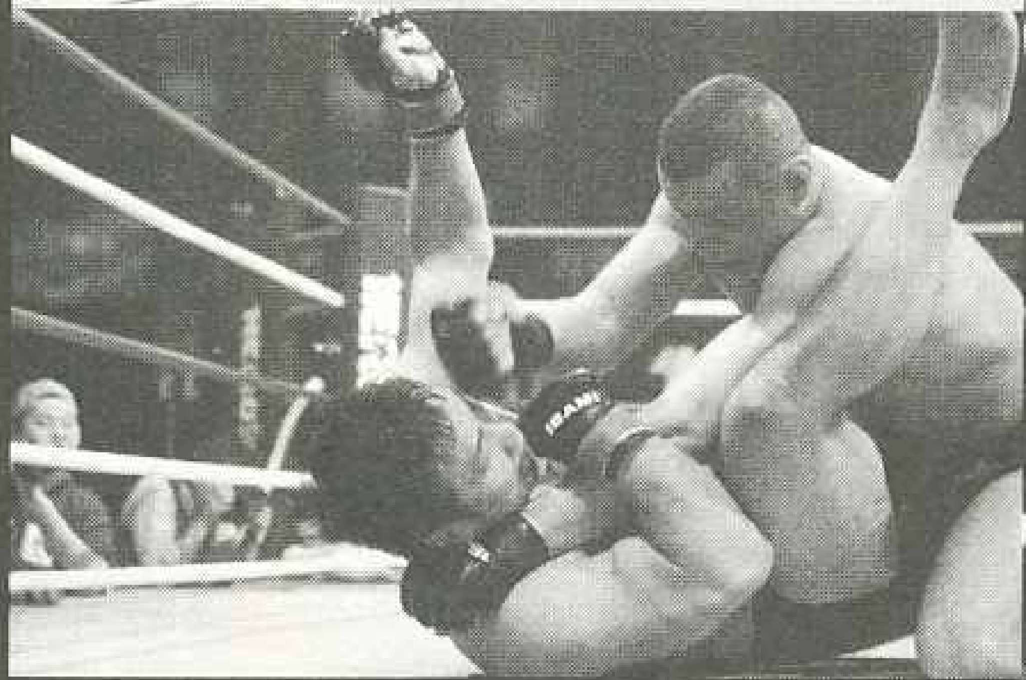
で、いざ大会がスタートしてからの進行はどうだったかというと、これがじつにスムーズなのであった。なんの滞りもなく、どんどん試合が進んでいく。去年の（開催されたほうの）『グラジエーター』でも感じたのだが、修羅場になってから無理矢理に帳尻を合わせる馬力みたいなものが凄いんだろう、韓国の人は。

隻腕選手チェ・ゼシクがハイキックからバックブローという鮮やかなコンビネーションで新空手王者の欽士をKO。レミギウス・モリカビュチスは韓国でもトップクラスに位置するというイ・スファンの長身から繰り出す左ストレートに手こずりつつも4度ダウンを奪ってKO勝ち。メインではアルバート・クラウスが〝韓国の魔裟斗〟ことイム・チビン（向こうの言い分だと魔裟斗が〝日本のイム・チビン〟らしいが）に判定勝ちを収めた。最後は貫禄勝ちといった感じだったが、試合前半に見せたイムの闘いぶりも見応えがあった。いつものムエタイスタイルではなく、前傾姿勢でパンチ勝負。それでクラウスと互角以上に渡り合ってみせたのだ。日本でも数多く試合をしてきたイムだが、まだまだ底を見せていない気がする。

『KOREA MAX』が無事終了し、夜はFEG直轄イベント『HERO'S in SEOUL』である。会場設営が済んでいたこともあってか、こちらはほぼ予定通りのスタート。観客数もMAXの4380人から7340人（主

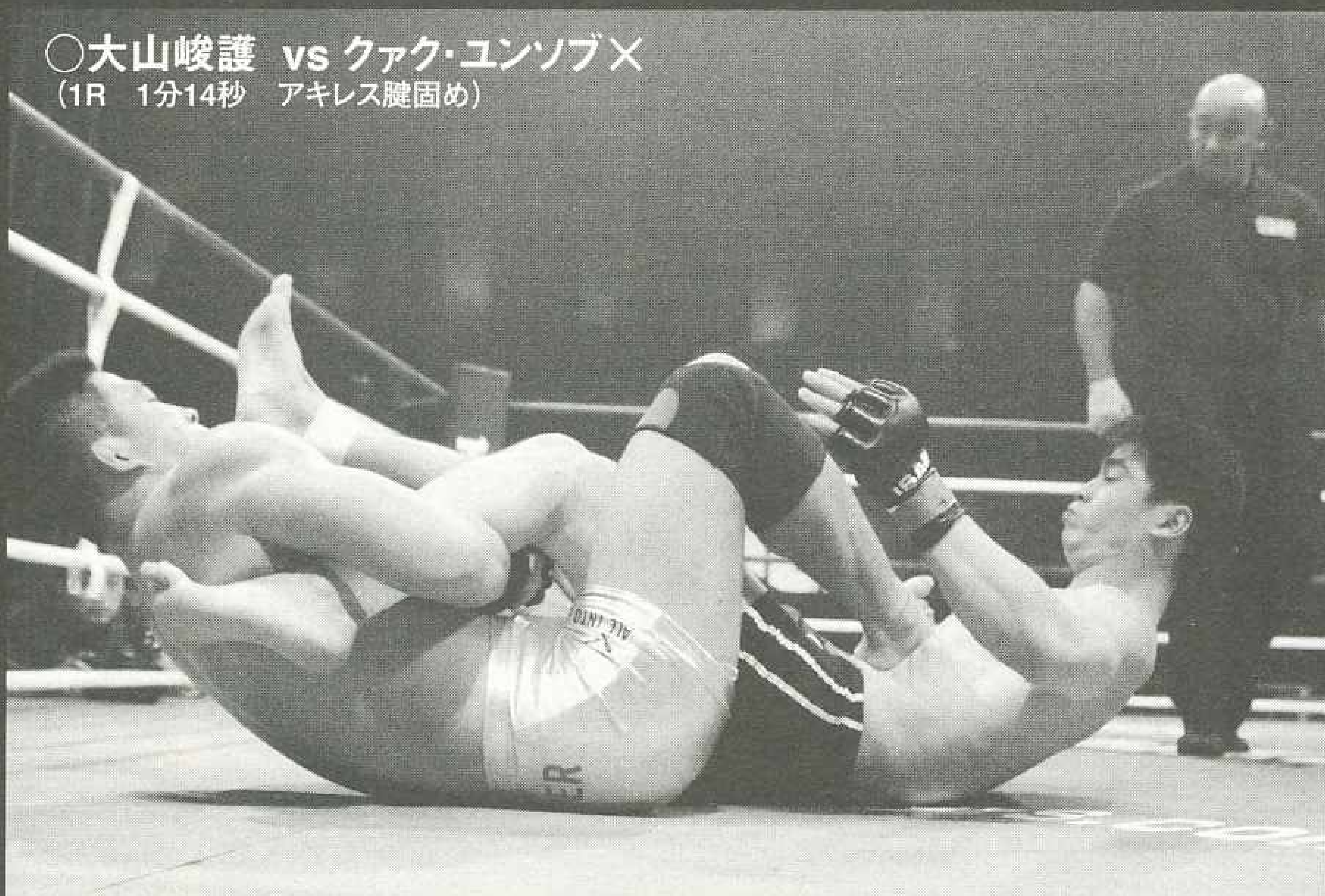
「VS世界対抗は負け越し」その実績以上に韓国人ファイターのインパクト大!?

○ハリッド"ディ・ファウスト"vs 金原弘光×
(2R　判定2-0)


『HERO'S』初登場の金原弘光はスーパーファイトでハリッド"ディ・ファウスト"に判定負け。1Rは十字を極めかけるなど圧倒したが、2R終了間際にパウンドのメッタ打ちにあってしまった。それでも全体的な主導権は8割方金原が握っていたように見えたのだが……判定はなんとハリッド。帰国した金ちゃんの怒りとボヤキは別コーナーでどうぞ！

○大山峻護　vs クァク・ユンソブ×
(1R　1分14秒　アキレス腱固め)




大会前日、相手のホ・ソンジンが計量オーバーで失格。急きょクァク・ユンソブとの対戦に変更となった大山峻護だが、落ち着いて蹴りをさばきテイクダウンに成功、「狙っていた技」だというアキレス腱固めを極め秒殺勝利。クァクはキックボクサーだけに、いきなり足を取られてパニックになったのか超高速タップだった。



もちろん前田日明スーパーバイザーも来場し、休憩明けに挨拶。アラン・カラエフ、宮田和之もリングでマイクを握った。また山本KIDもセコンドとして会場に。



韓流ラウンドガールは結構なハイレベル。パンフには特写ポートレートも。そういうとこはやけに準備がいい韓国格闘技界であった。




会場前の横断幕は出場選手中もっとも知名度の高いサップをフィーチャー。場内は写真の通りスタンド席にかなりの空きがあったが、熱狂度はかなり高め。韓国人選手が勝利を収めるたびにスタンディング・オベーションが送られた。昼間のMAXより『HERO'S』の方が観客数はアップ。MAXが"昼間の前座"と見られたフシも……。

催者発表）に増えていた。スタンド席には相当な空きがあったのだが、それは会場がデカすぎるから（フルキャパで2万人）。3月のK－1ソウル大会でここが満員になったのは、チェ・ホンマンという特例中の特例があってのこと。むしろ今回の客入りが韓国格闘技ブームの正味のところなんだろう。だいたい日本だって、5000人入る大会がどれだけあるか。

空席は目立ったものの"単位面積あたりの興奮度"は相当なものだった。チェ・ムベを入場テーマに合わせた"テーハミング（大韓民国）"コールで出迎え、韓国人選手が勝てば総立ちで大喝采。とりわけ凄まじい盛り上がりを見せたのは、第7試合のキム・ミンスVSショーン・オヘア戦だった。正面からの殴り合いで沸き、キム・ミンスがピンチになれば大コールで後押し。そしてフロントチョークで劇的な勝利を収めると、会場はもう大爆発だ。『HERO,S』でキム・ミンスがヒーローになって場内大爆発……日本じゃ信じられないようなシーンが見られるから、海外取材は面白い。一瞬、あの堀江ガンツ似の男がカッコよく見えたもの。

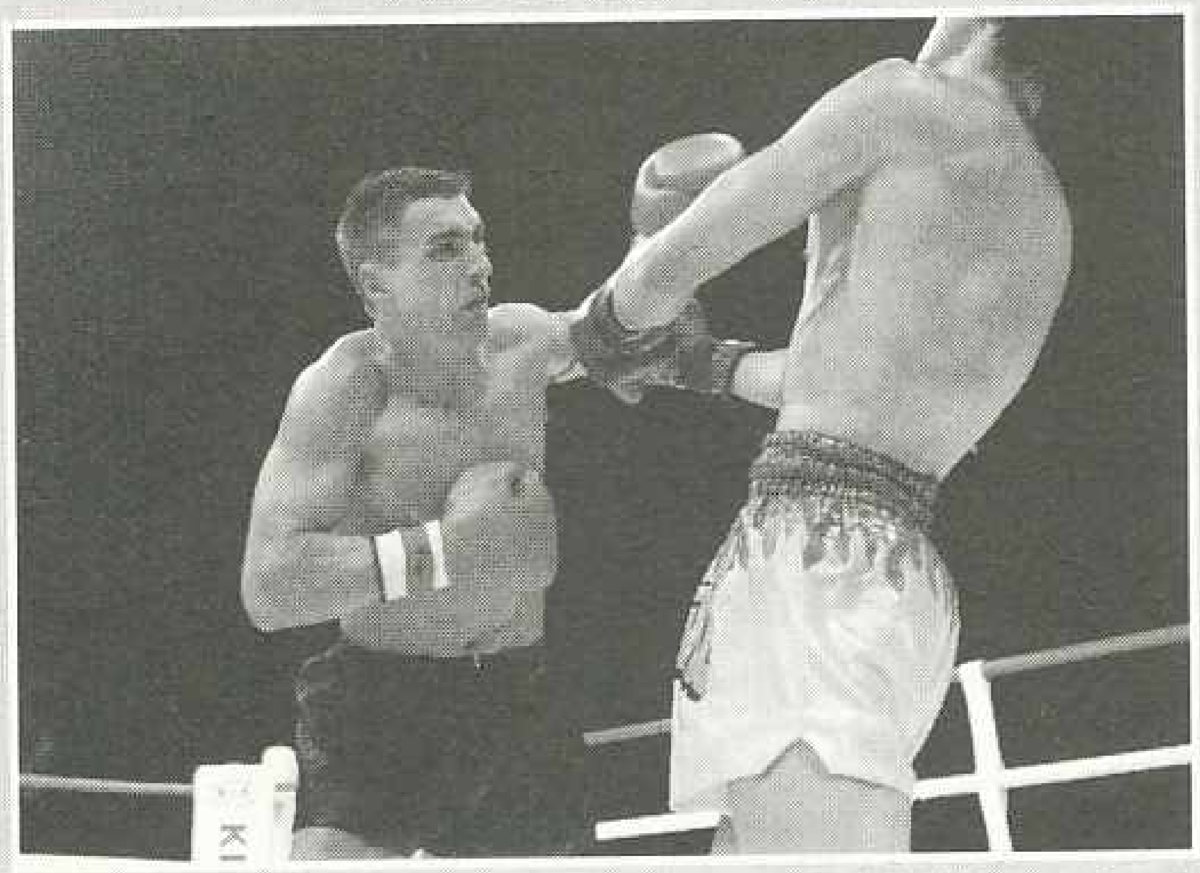
メインでは秋山成勲が韓国名チュ・ソンフンで登場。ソウル在住の親戚も応援にかけつけ、"秋山マンセー！"な試合になるかと思いきや、対戦相手である奥田正勝にも声援が。奥田は数年前から韓国に道場を設立、地元の試合に出場してファンの評価を得てきた選手である。日本で活躍する秋山が韓国側で、現地で認められた奥田が敵側。ちょっと入り組んだシチュエーションである。

前日会見でも「日本に帰化した身で韓国チームとして出場することについてどう思うか」という質問があった。秋山は「日本も韓国も愛している。愛国心をもって闘いたい」と答えたのだが、現地のマニアやメディアには複雑な思いがあったのかもしれない。場内の雰囲気も一般人気の秋山VS総合マニアが後押しする奥田といった感じ。韓国人ファンからの"奥田コール"も起こっていた。

K-1 FIGHTING NETWORK KIA MOTORS 와 함께하는 KOREA MAX 2005 **11.5**

レミギウスのパンチが爆発!! クラウスはイム・チビンに苦戦

○レミギウス・モリカビチュス vs イ・スファン×
（2R　2分50秒　TKO）



昼の『MAX』セミに登場したレミギウスは今回も豪打爆発！　リーチ差にやや苦しみながらもすべて左のパンチでイ・スファンを２Ｒで計４度ダウンさせ、レフェリーストップでのＴＫＯ勝利となった。

○アルバート・クラウス vs イム・チビン×
（3R　判定3-0）



ボクシング技術が急上昇したイム・チビンに手こずったクラウスだが、右ハイでダウンを奪い貫禄の判定勝ち。

○チェ・ゼシク vs 欽士×
（1R　2分04秒　KO）



韓国の隻腕戦士チェ・ゼシクは予想以上の強さを披露、バックブローで鮮やかにKO勝利。首相撲もうまかった!

前田日明のコメント



驚いたのは、KILLER BEEの選手が2連敗したこと。高谷君とやった選手もガンガン打ち合って、山本君に勝った選手も、パウンドを雨あられのように打ってたね。山本君の4分の1か5分の1の量で決めてしまった。ガッツだとか根性だとかと違う何かがあったと思います。軽い選手のほうが、レベルが高いですね。重い選手だとバックグラウンドに中途半端に頼ったり活かせてなかったり。軽い選手は徹を踏まえている。ちゃんとした指導者がいたら、相当伸びるんじゃないですかね。僕が指導？　日本にビッグマウスラウドの道場ができるので、そこでやるのか自身で行くのかはわからないですけど。

○高谷裕之 vs キム・ドヒョン×
（2R　判定3-0）



高谷裕之は得意のパウンド全開でキム・ドヒョンに圧勝。だが観客を沸かせたのは、最後までフィニッシュを許さなかったドヒョンの精神力と粘り。「相手は気持ちが強かった。ああいう選手は簡単に倒れてくれない」と試合後の高谷。

○國奥麒樹真 vs チョ・ジョンファン×
（1R　2分01秒　チョークスリーパー）



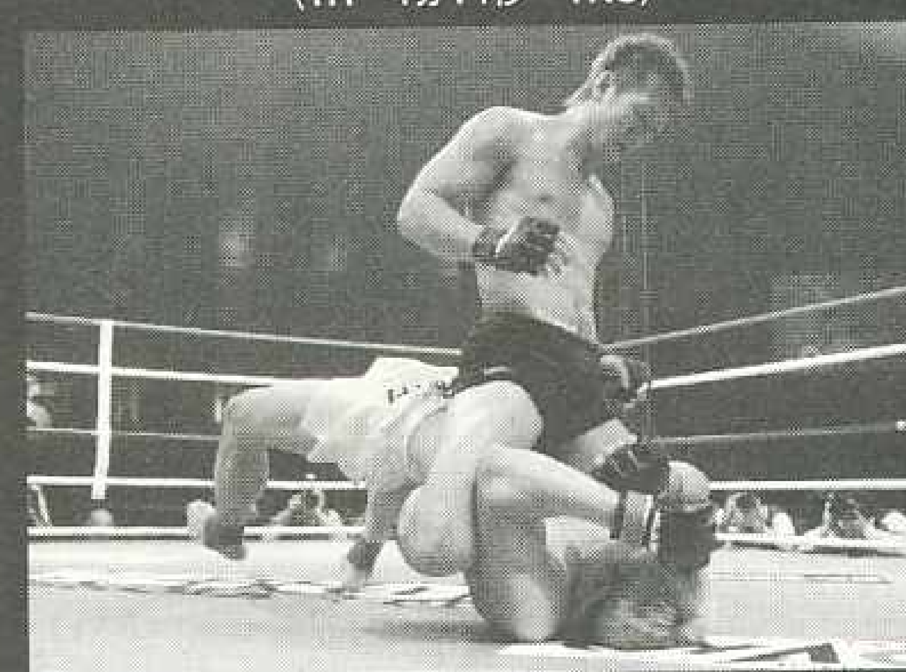
元パンクラス２冠王・國奥麒樹真はチョ・ジョンファン相手に『HERO'S』３戦目で初勝利。テイクダウンしてハーフからパンチで痛めつけてバックを奪い、最後はチョークを極める絵に描いたような完勝ぶりだった。

○キム・ジョンマン vs 山本篤×
（2R　4分25秒　TKO）



山本篤と対戦したキム・ジョンマン（韓国軍特殊工作員養成部隊出身）は1Rにチョークを極めかけられ、2Rもマウントを取られと劣勢だったが、終了間際にパウンド連打で大逆転勝利!

○岡見勇信 vs イ・ミョンジュ×
（1R　4分14秒　TKO）



『HERO'S』初登場の慧舟會・岡見勇信はイ・ミョンジュをマウントパンチ葬。第３試合の大山VSクァクからこの第６試合まで韓国勢は４連敗で客席はお通夜状態に。

その他の試合結果

［HERO'S］
○クリストフ・ミドゥ“ザ・フェニックス”vs イム・ジュンス×
（1R　0分50秒　TKO）

［KOREA MAX］
○ウルチクフトガ・ガントゥモ vs ホン・ウンテク×
（3R　判定3-0）
○チェ・ジョンユン vs チョン・カンス×
（3R　判定3-0）
○パク・ソンファン vs ハン・チュン×
（1R　2分16秒　TKO）
○キム・クッファン vs ソク・ヒョン×
（3R　判定2-1）
○ムン・ジョンウン vs イム・サンス×
（2R　2分40秒　KO）
○小次郎 vs キム・ゼキ×
（3R　判定3-0）

　ただ、豪快なバスターからのパウンド連打で秋山が勝利すると、やはり観客は総立ち。試合後はマイクを握り「日本に帰化はしましたが、自分の心と血は韓国人です！」と抜群のアピールでさらなる喝采を浴びた。〝二つの祖国〟を背負い、決してシンプルとはいえなかった観客の視線を力で束ねてみせた秋山。取材していた感覚でいえば、秋山に送られていたのは〝注目〟だった。だがこの試合で、彼はそれを〝熱狂〟に変えてみせたのだ。大会当日に発売された現地の格闘技雑誌『Ｈｏｌｏｓ』は秋山が表紙。キャッチコピーは〝ヒーローの条件〟だった。記事の中身まではわからなかったが、それがどんな条件であれ、この日の秋山は見事にクリアしたといっていい。

　大会全体を見て、韓国人ファイターに強く感じたのはハートの強さだった。実力差のあるマッチメイクも多く対抗戦では負け越したが、インパクトを残したのは間違いなく韓国側。彼らは関節を極められることはあっても、殴られて心が折れる場面はなかった（ボブ・サップに8秒で負けたキム・ジョンワン以外は）。とくに高谷裕之にボコボコにされながら最後まで粘りぬいたキム・ドヒョンと、チョーク、マウントパンチと2R後半まで圧倒されながら、ワンチャンスをものにして山本篤を失神させたキム・ジョンマンの二人には驚かされた。根性というか精神力というか〝技術はともかく、気合いでなんとかなるんならどうにでもしてみせる〟という闇雲なパワー。今はまだ総合格闘技が〝輸入文化〟だが、もう何年もしないうちに日本ともアメリカとも、ブラジルやロシアとも違うコリアン・スタイルが格闘技界を席巻する日がくるかもしれない。

　韓国の食べ物は辛い物はとことん辛く、甘い物はメチャクチャ甘い。で、それが美味いのである。大会運営、選手の質、その他すべても同様。微妙なニュアンスなんてものはどっかの島国に任せておけばいい。我々を虜にするのは、舌がシビレるくらいの〝さじ加減の極端さ〟なのだ。

（橋本宗洋）



韓国格闘技界 ウワサの真相!!

仰天 韓国では 格闘技＝チェ・ホンマン なんです!!

聞き手／橋本宗洋　撮影／乾晋也・黒田史夫

数年前から格闘技ブームが沸き起こり、昨年からK—1も進出した韓国。だが延期や中止になる大会も多く、黎明期ならではの混乱状態でもあるようだ。その実情を探るべく、韓国唯一の格闘技専門誌『Holos』の理事にしてブッカー＆プロモーターでもあるチャン・ジュシク氏にインタビュー。いま、韓国格闘技界では何が起こっているのか。そして「サップ戦中継時には市内の交通量が半減した」というホンマン人気の実態とは!?

——今回の韓国取材では、韓国格闘技界の実情を知ろうということで、『Holos』理事であり、日本の格闘技界ともパイプの太いチャンさんにインタビューをお願いしました。よろしくお願いします！

チャン　こちらこそよろしくお願いします。

——韓国では数年前から格闘技ブームだと聞いているんですが、そのきっかけはやっぱりテレビなんですか？

チャン　そうですね。ケーブルテレビでK—1を放送するようになったのが大きかった。ただケーブルと言っても、日本とはイメージが違います。2代前の大統領が「これからはデジタルの時代だ」ということで田舎の隅々までインターネットの回線を引いたんですよ。

——それで韓国がネット大国になったわけですね。

チャン　そのときに、ケーブル回線も一緒に導入したんです。だからネットに加入するのとケーブルテレビと契約するのがイコールという状況なんですよ。韓国では地上波とケーブルの区別はほとんどないと言えると思います。

——日本ではケーブルやCSは熱心なファンがチェックするという感じですけど、韓国ではもっと普及していると。

チャン　そこでK—1を初期の大会から繰り返し放送して、人気が高まっていったんです。『PRIDE』も人気がありますし、他の大会も放送していますよ。最近では韓国の選手がK—1や『PRIDE』に出ることが多くなったので、さらに人気は上がっていますね。今回の『KOREA MAX』と『HERO'S』も、スーパーアクションというチャンネルが6時間の枠で中継します。格闘技は国民性に合っていたんでしょうね。韓国人は「火事とケンカは仕事を放り出しても見る」と言われてますから（笑）。

——やっぱり人気があるのは韓国人選手な



韓国初の格闘技雑誌『Holos』。写真は11・5『HERO'S』韓国大会当日に発売された最新号だ。内容は、韓国国内の選手・大会はもちろん秋山成勲インタビューにはじまり、『PRIDE』、K-1、UFC、大山倍達まで網羅。



チャン・ジュシク■ブッカー、プロモーターとして活躍し、今年4月に『Holos』（左写真参照）を創刊、理事を務める韓国格闘技界に精通しまくる人物。日本と韓国の橋渡し役として、日本の格闘技イベントにも頻繁に来場。東京とバンコクにもマンションを持ち、3カ国を飛び回る超多忙な日々を送っている。

火事とケンカは仕事を放り出してでも見に行ってしまう国民性ですから

んですよね？

チャン　一般的にはそうですね。自国の選手が出ていると、関心の持たれ方も違いますから。日本でいい成績を残した選手の人気が上がる、という傾向はあります。

――一般的な知名度という点ではどうなんですか？

チャン　人気を支えているのはもちろんマニアなんですが、韓国でもチェ・ホンマンやボブ・サップはみんな知ってますね。

――へぇ～。チェ・ホンマンVSボブ・サップ戦のあとに、谷川さんが「韓国では中継の時間帯に交通量が半分に減った」って言ってたんですけど、ホントなんですか（笑）。

チャン　それはちょっと大げさですね（笑）。でも、まったくの嘘ではないですよ。

――まったくの嘘ではない！（笑）。そんなに注目されてたんですか。

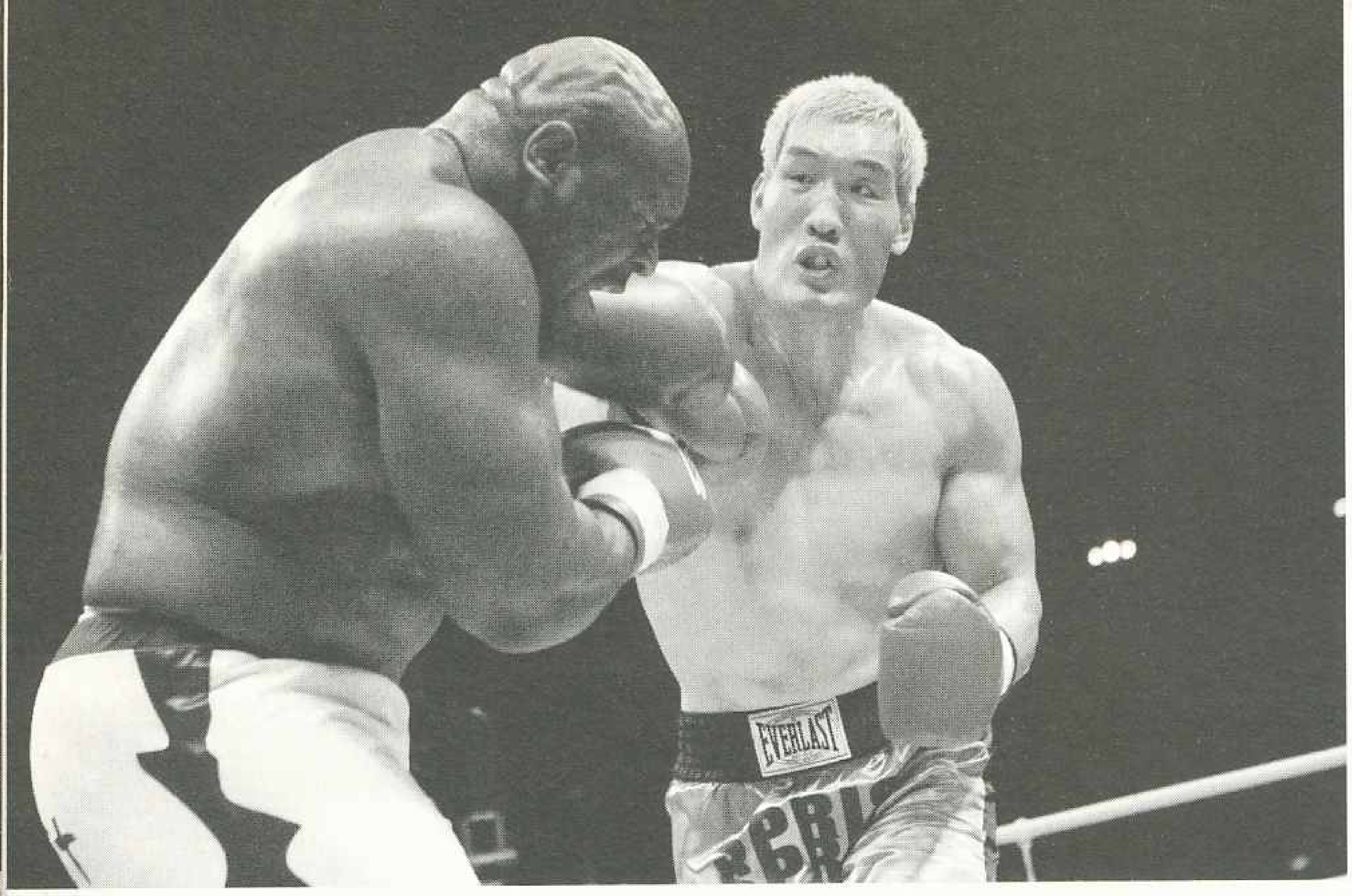
チャン　チェ・ホンマンはK－1に入ったときから話題になっていましたからね。「国技を捨てるのか」という批判も多かったですし、K－1で活躍できるのか半信半疑の人もいましたよ。

――全国民をあげて応援していたわけではないというわけですね。

チャン　そうです。ボブ・サップ戦でも、ほとんどの人は負けると思ってましたから。「いままでは身体が大きいだけで勝てたけど、今度はそうはいかない」と。

――あ、そうだったんですか（笑）。

チャン　でも勝ったので、みんなびっくりしたんですよ。それで人気はさらに上がりましたね。次のK－1　GPも一緒ですよ。チェ・ホンマンがボンヤスキーに負けると思っている人は多いです。ただ、勝ったらもの凄い熱狂するでしょうね。



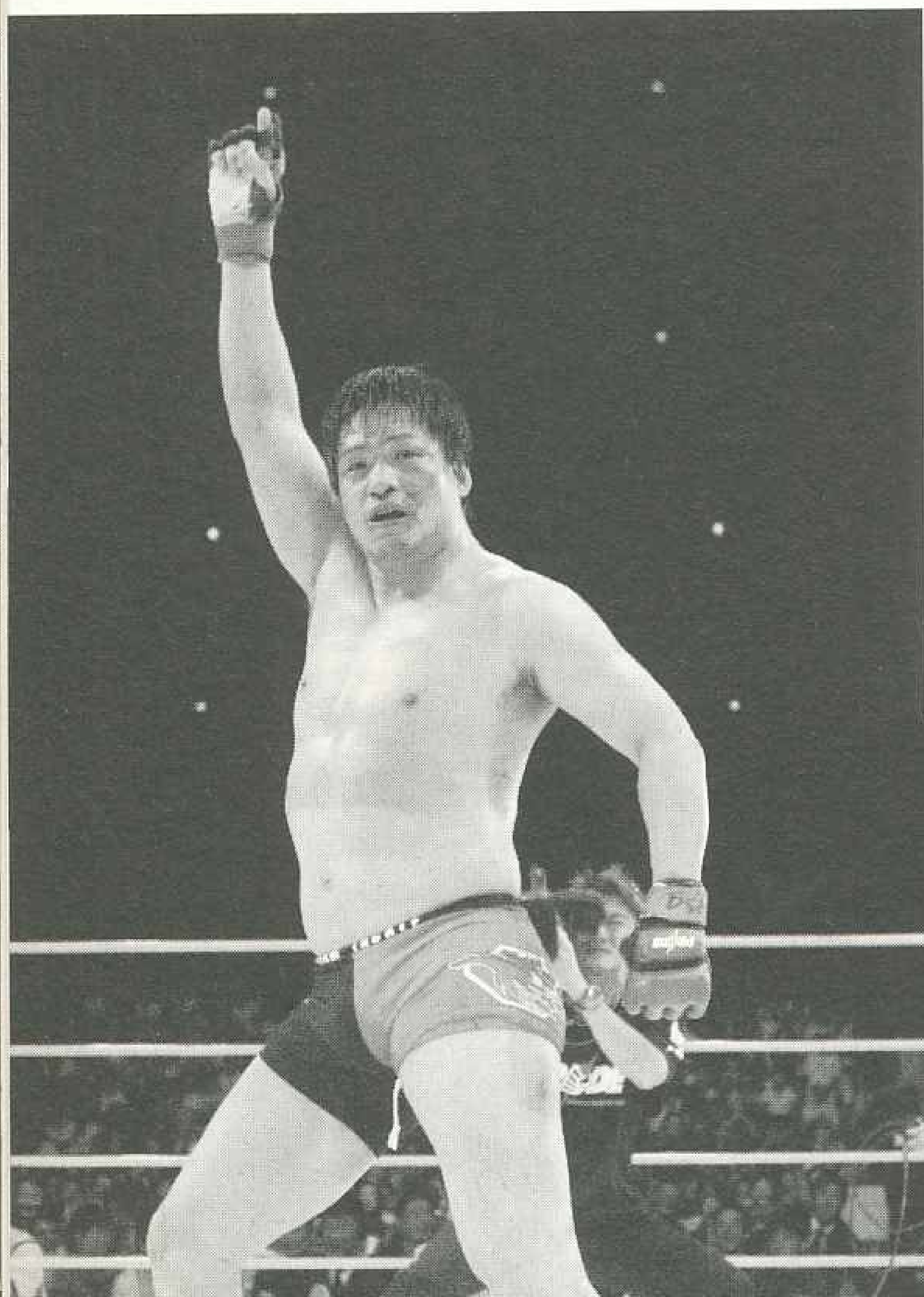
「通りから人が消えた……」と話題騒然だったチェ・ホンマンvsボブ・サップがやはり視聴率トップ!!　韓国の"ミスター格闘技"の死闘に国中が熱狂している光景が目に浮かぶようだ。以下、韓国人ファイターのカードが多いものの、ヒョードルvsミルコはしっかり2位にランクイン。国は違えど、気になる試合は万国共通!?

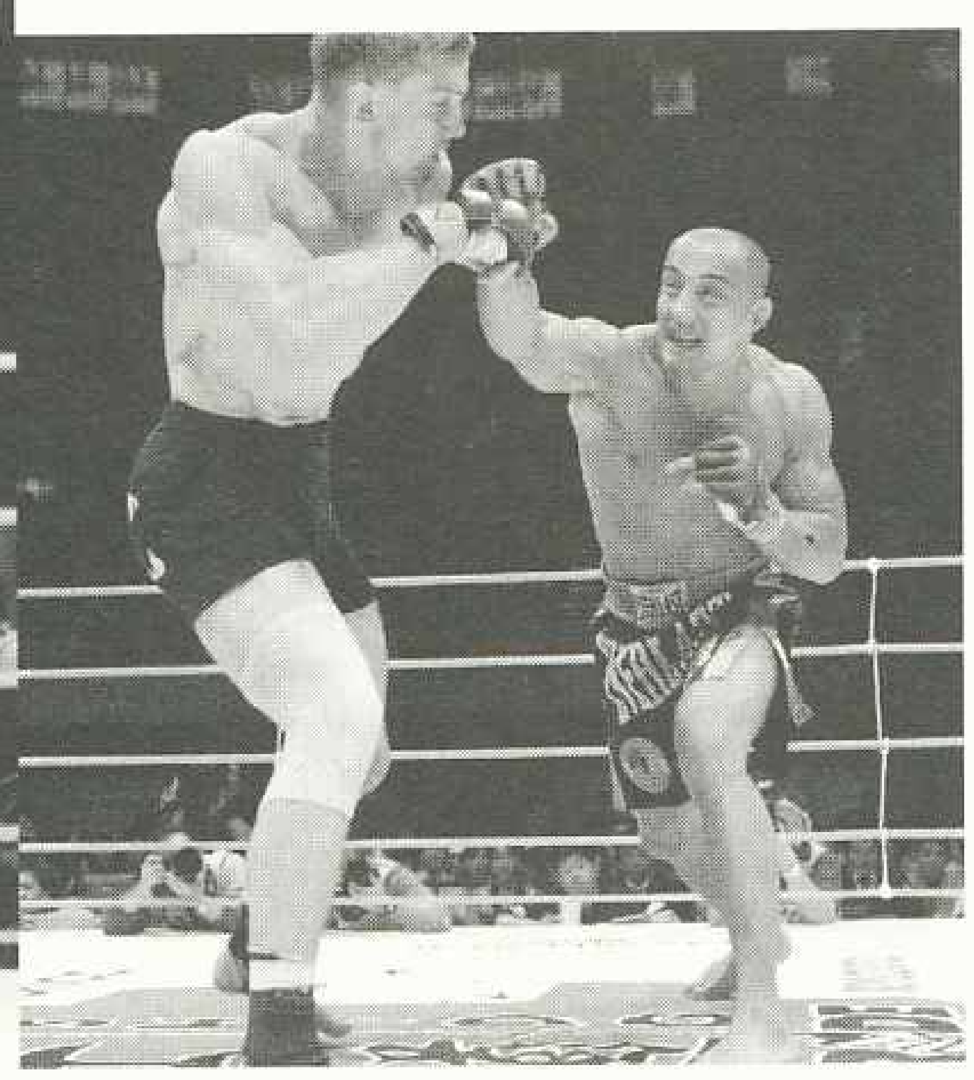
韓国格闘技界視聴率 ベスト5

1. チェ・ホンマンvsボブ・サップ
(9･23『K－1 WORLD GP 2005』大阪大会)
2. エメリヤーエンコ・ヒョードルvsミルコ・クロコップ
(8･28『PRIDEミドル級GP決勝』)
3. チェ・ホンマンのデビュー戦
(3･19『K－1 WORLD GP 2005』ソウル大会)
4. デニス・カーンvsアンドレイ・シモノフ
(7･17『PRIDE武士道・其の八』)
5. アンディ・フグが出場している初期K－1のどれか

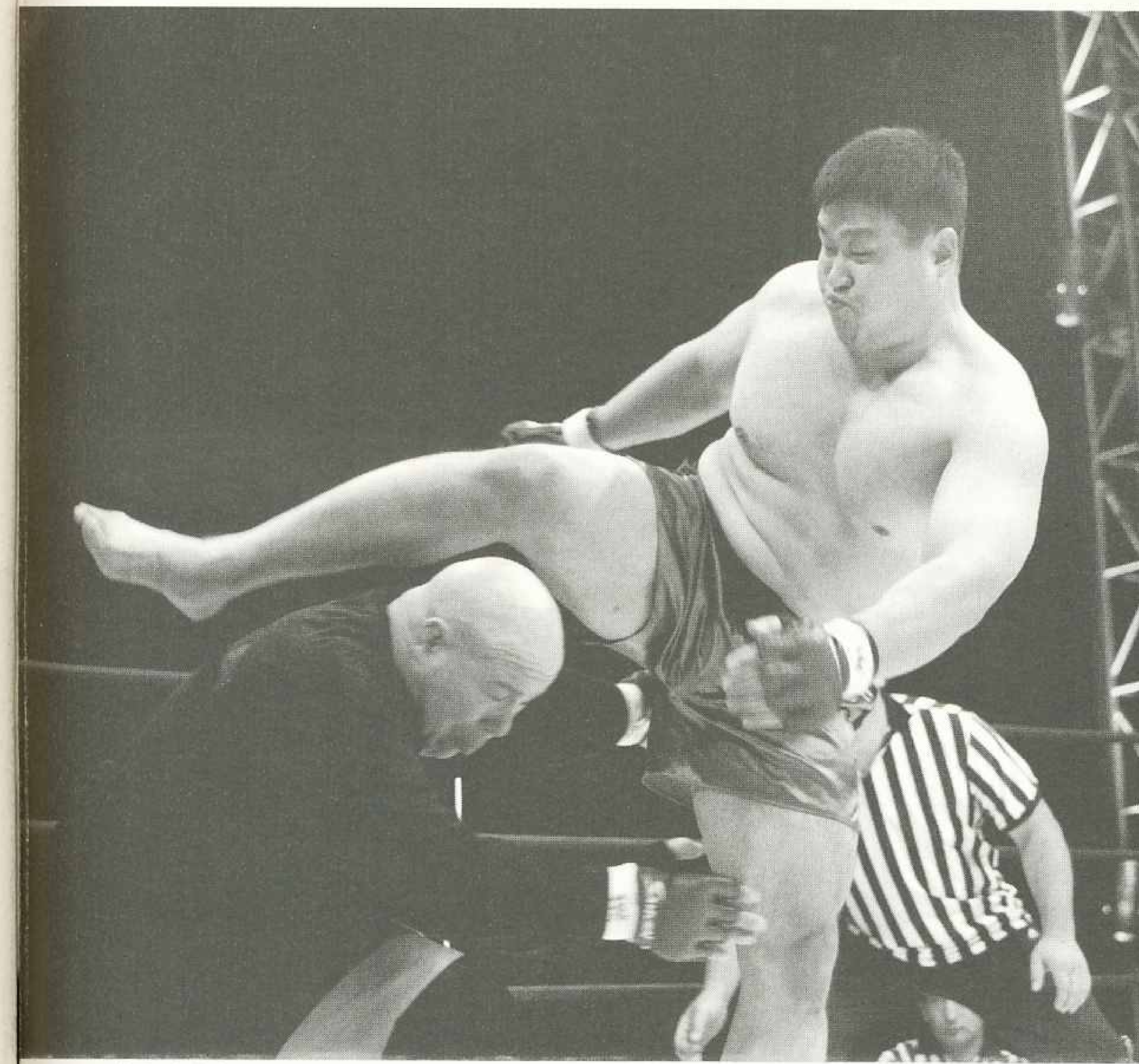
人気ファイターランキング

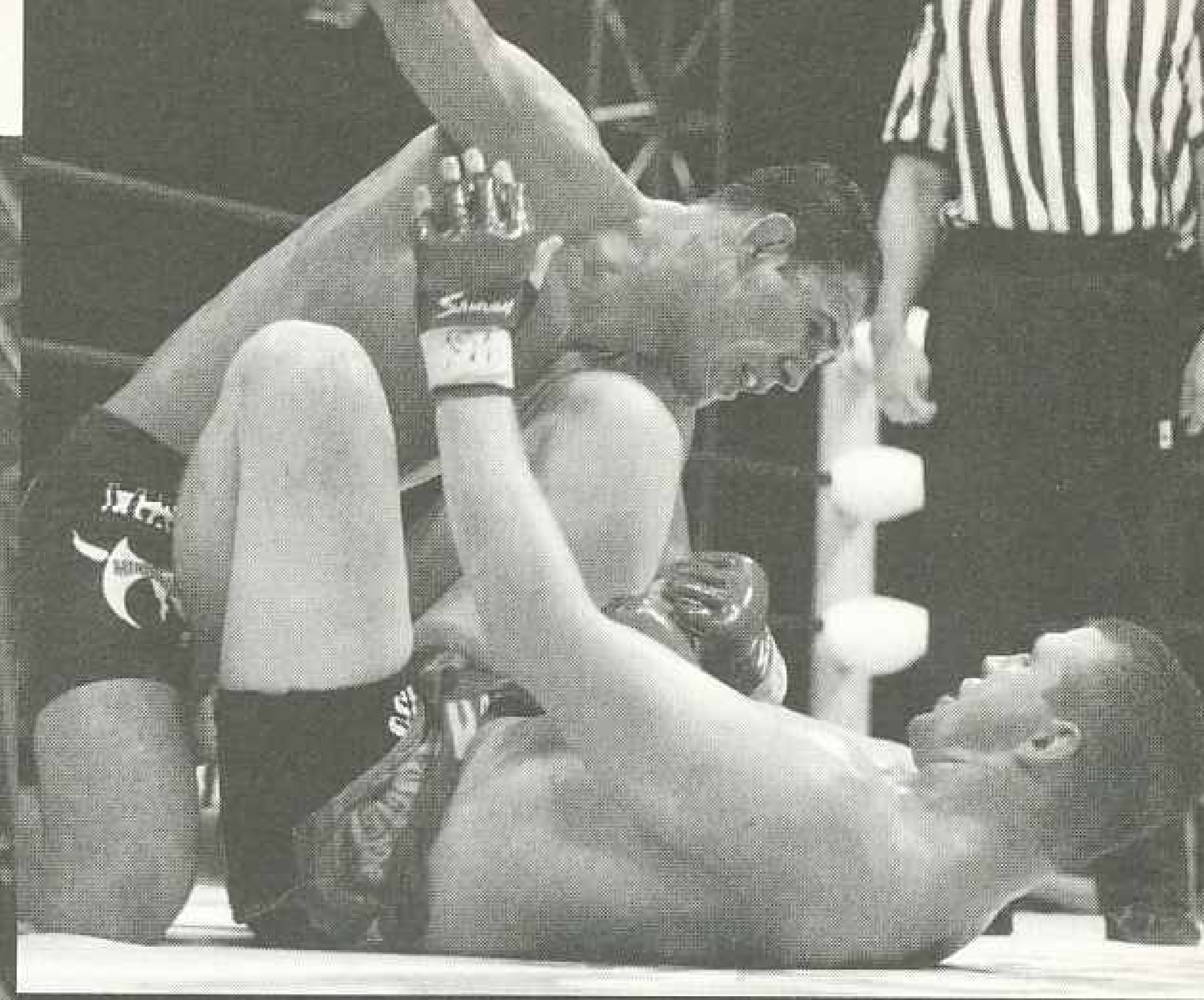
1. チェ・ホンマン
2. エメリヤーエンコ・ヒョードル
3. ミルコ・クロコップ
4. デニス・カーン
5. チェ・ムベ

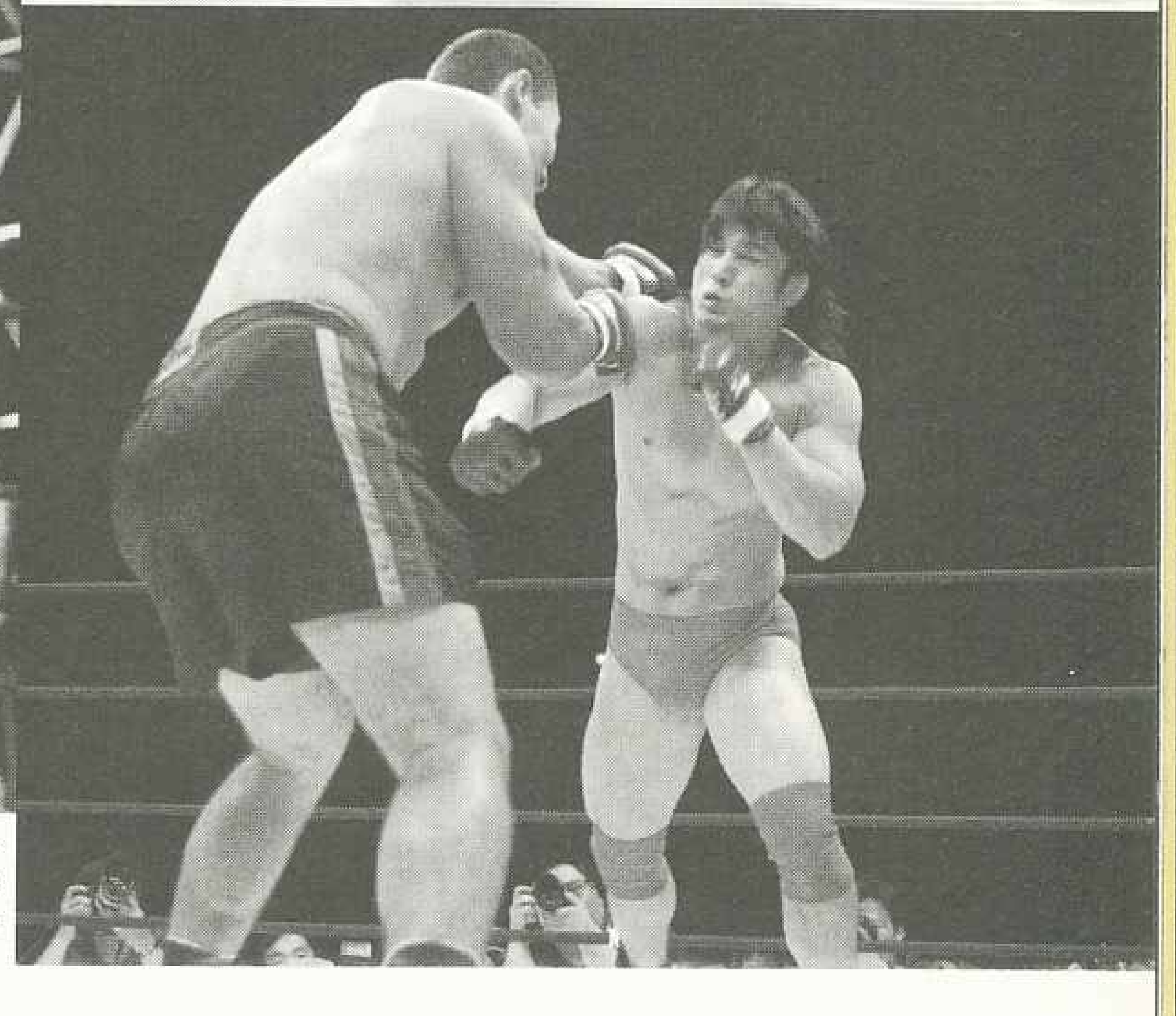




トップはもうダントツ!!　こうなると韓国の格闘技人気はチェ・ホンマンに左右されると言っても過言ではないだろう。以下、ヒョードル、ミルコに続いて4位にランクインしたのは韓国系カナダ人で『PRIDE武士道』にも出場しているデニス・カーン。スポンサーについているスポーツブランド「SPRIS」のショップCMにも出演、「SPRIS」の店頭ではデニスのフィギュアもディスプレイされている。そして、フィーバーポーズでおなじみのムベ様もちゃっかり5位に。やっぱり日本で活躍している選手が強いみたい。







韓国の実業家キム・インテ氏と日本側のスタッフ（CMA諸岡秀克会長やDEEP佐伯繁代表）が提携し、昨年6月26～27日と2日間にわたって開催された大イベントが『グラジエーターFC』。美濃輪育久やノゲイラ弟、パウロ・フィリォらが参戦・活躍。チョークで見事な一本勝ちを収めたキム・ジョンワン（左写真）ら韓国勢も会場をヒートアップさせた。今年も開催が発表され、選手も現地入りしていたが大会前日の会見で中止が発表されるという異常事態に……。

韓国格闘技界ウワサの真相!!

チェ・ホンマンVSサップの注目度は間違いなくオリンピック以上でした

—応援するにしても半信半疑にしても、みんな見ることは見る、という感じですか。たとえばサップ戦の盛り上がりはオリンピック並みとか、そんな感じですか。

チャン　いやいや、間違いなくオリンピックより注目されてましたよ。

—オリンピック以上ですか！　じゃあ一般的には『PRIDE』よりもK—1のほうが人気が高いわけですか？

チャン　チェ・ホンマンが出ているぶん、K—1のほうが人気はありますね。でも『PRIDE』の人気も凄い。とくに人気が高いのはヒョードルとミルコですね。

—8月のヒョードルVSミルコ戦の視聴率も凄かったらしいですね。

チャン　ケーブルは視聴率の計算方法が違うので正確なことは言えませんが、ホンマンVSサップの次くらいの視聴率のはずです。映画館を借り切って生中継を流して、みんなで応援するイベントもあったんですよ。

—いわゆるクローズド・サーキットですね。

チャン　なぜヒョードルVSミルコがここまで盛り上がったかというと、テレビ局がもの凄く力を入れたんですよ。カッコいいプロモーションビデオを1カ月くらい前から何度も流したし、他の番組でも画面の隅に『ヒョードルVSミルコまであと○日』というテロップをずっと出していた。前日には前煽り番組も放送しました。ヘビー級GPと同じ『60億分の1』というキャッチコピーもウケましたね。さっきも言いましたが、韓国人はケンカが大好きですから（笑）。

—ヒョードルVSミルコは地球規模のケンカだったと（笑）。K—1と『PRIDE』では、人気の質にも違いがあるんですか？　日本のファンには、シビアな闘いを見せる『PRIDE』と、バラエティー色の強いK—1というイメージもあるんですが。

チャン　イメージの違いは韓国でもありますね。K—1は選手を育てて使う。逆に『PRIDE』は最初から強くないと通用しない、という。それから『PRIDE』はやっぱり残酷だというイメージがあるので、テレビとしてはどうかなという問題がありますね。

—はいはい。そのへんは日本と似てますね。

チャン　だから、日本ではK—1でデビューしたいという選手が多いですね。

—K—1だったら扱いがいいだろうと。まあチェ・ムベ選手にしても、『PRIDE』では最初は『武士道挑戦試合』で査定されて、勝ったと思ったら5戦目でハリトーノフですからね（笑）。シビアはシビアでなんじゃないでしょうか。

チャン　ただ、どっちに出るにしても実力がなければ評価されないのは一緒ですね。ファンの中には「ピーター・アーツやアンディ・フグが活躍していた以前のK—1のほうがレベルが高かった」と言う人もいます。

—そこも日本と似てるような（笑）。

チャン　韓国人は正直ですからね。それに変なことをやったらすぐに批判されますよ。昔、あるプロレスラーが「プロレスはショ

もっと格闘技が盛り上がれば、軍隊が格闘技チームを持つかもしれない

ーだ」と暴露したんです。それで韓国のプロレスは一気に下火になってしまいましたから。それだけみんな真剣に見ていたんですね。「プロレスはサギじゃないか！」とまで言われました。

――そこまで極端にいきますか。

チャン　いまケーブルで放送しているWWEは、みんなショーとして楽しんでますけどね。

――いま韓国には、団体はどのくらいあるんですか？

チャン　名前だけでいえば20くらいはありますが、定期的に大会を行なっているのはキックの『KOMA』と総合の『スピリットMC』くらいですね。もちろん小さなキックの大会はたくさんやってますけど。やっぱり一般的に有名なのはK―1と『PRIDE』ですよ。

――韓国では消滅したり、途中で開催中止になった大会も多いですよね。パンクラスの韓国大会が取りやめになったり、『グラジエーター』も大会前日に中止になったり。これはどういう理由で……。

チャン　『KOMA』も一回目の大会はトラブルがありましたね。

――大会翌日、選手が泊まっているホテルに主催者が現われずにチェックアウトできなかったという（笑）。まあ最後はなんとかしたみたいですが。

チャン　あれはお金がなかったんでしょうね。お客が入らなかったんじゃなく、投資されるはずのお金が入らなかった。いまの『KOMA』は経営者が変わって復活しましたけど。

――トラブルが起こる最大の原因は、やっぱりお金なんですか。

チャン　お金と、それから準備不足ですね。結局、最初から派手なことをやりすぎるんですよ。K―1や『PRIDE』を見て格闘技に進出するので、最初からあのレベルのものを目指してしまうんです。目がK―1、『PRIDE』に慣れてしまっているから。そして途中でお金や準備期間が足りなくなってしまう、と。

――お金がないなりに地道な大会を、とはならないわけですね（笑）。

チャン　新規参入する人たちはそうですね。地道に、着実にやっている人たちもいるんですが、それはK―1や『PRIDE』と比較されて評価されない場合もあります。韓国人の性格として、やるからには派手にやりたい、という思いが強いんですよ。

――『グラジエーター』はビザの発給の問題だと言われてますよね？

チャン　ある大会が観光ビザで何人か選手を呼んだのがバレて、締め付けが厳しくなったんです。だから『グラジエーター』でも、ほとんどの選手にはビザが下りていたと思いますよ。そこはちゃんとやっていたはずです。何人かは間に合わない選手もいたでしょうけど、それ以外の選手だけでも大会はできたと思います……お金があれば。

――やっぱりそこですか（笑）。

チャン　他にもいろんな話があるんですが、雑誌で言えるのはこのくらいですね（笑）。





ケーブルテレビでの放送とともに人気が急上昇した格闘技。韓国では、当初から放送されていたK-1ヘビー級大会の人気が非常に高く、つづいてPRIDEなどの総合格闘技、K-1中量級大会という順に盛り上がりを見せているという。K-1は04年7月17日に韓国国内初の興行が開催されており、初大会ながら観衆はなんと1万338人。05年4月7日に韓国で行なわれたユン・ドンシクPRIDE参戦記者会見でも約100名のマスコミを集めており、地元の人気の高さがうかがえる。

――なるほど（笑）。韓国での格闘技人気なんですが、これからもっと上がっていきそうですか？

チャン　そうなるでしょうし、私としてもそうなってほしいですね。人気が上がれば雑誌も売れますから（笑）。それを支えるのは、やはり選手の頑張りだと思います。チェ・ホンマンはもちろんですけど、それ以外にも知名度の高い選手がどんどん出てきてほしいですね。

――これから人気が出そうな韓国人ファイターというと、誰になるんですか？

チャン　何人かいるんですが、私がブッキングする選手もいるので教えられません（笑）。チェ・ホンマンの活躍を見て、シルムや各スポーツ界からプロ格闘家になろうという人間がたくさん出てきているんですよ。一流アスリートばかりを集めた格闘技チームを作ろうかというプランもあるんです。問題があるとすれば、兵役ですね。

――20代の貴重な時間を取られるのはキツイですよね。

チャン　でも、もっと格闘技が盛り上がれば、軍隊が格闘技チームを持つようになるかもしれない。韓国軍には『特攻武術』という白兵戦用の格闘術がありますし、特殊部隊の格闘技の実力は世界でも一番じゃないかと言われているんですよ。

――チーム・シルミドですね（笑）。それはちょっと楽しみですねぇ。

チャン　ブッキングの面でもメディアの面でも、もっと韓国の格闘技を盛り上げたいですね。

――今日はホントにありがとうございました。これから韓国に来る機会はどんどん増えると思うんで、今後ともよろしくお願いします！

【05年11月4日／韓国某所にて収録】

なんでそ〜なるの？ 韓流凄事件

韓国格闘技界のあゆみに見る

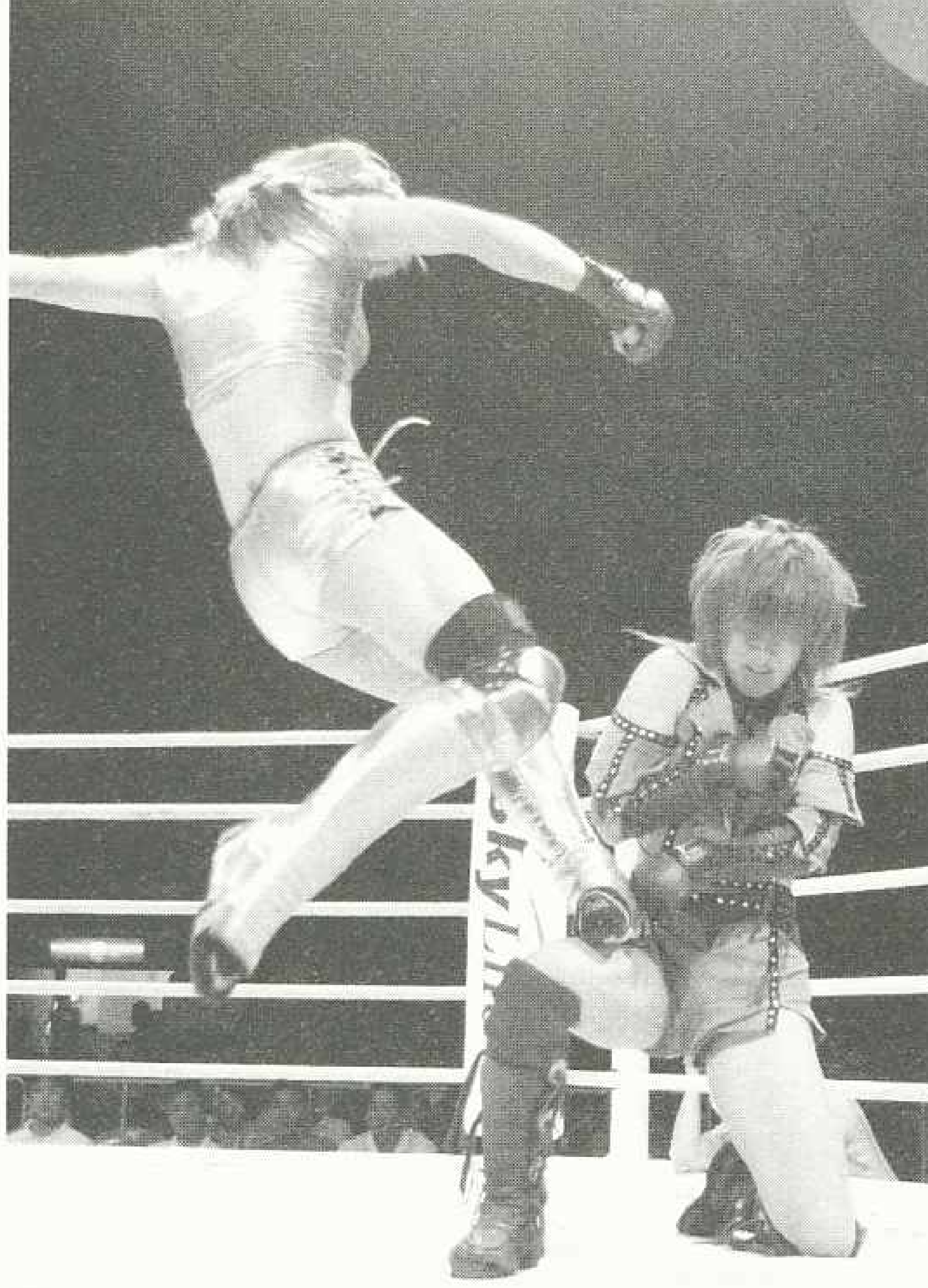
プロローグ

2003年に総合格闘技元年を迎えた韓国。それ以後数多くの団体が生まれたが、その多くが信じられないような事件を起こしたり、ドタキャンするなどしてその姿を消していった。ここでは現在生き残っている団体を含めてそのドタバタ劇を紹介しながら、韓国格闘技団体の盛衰について触れてみたい。

「女子プロレスはニセモノ発言勃発」事件

Spirit MC

Spirit MC1　2003年4月

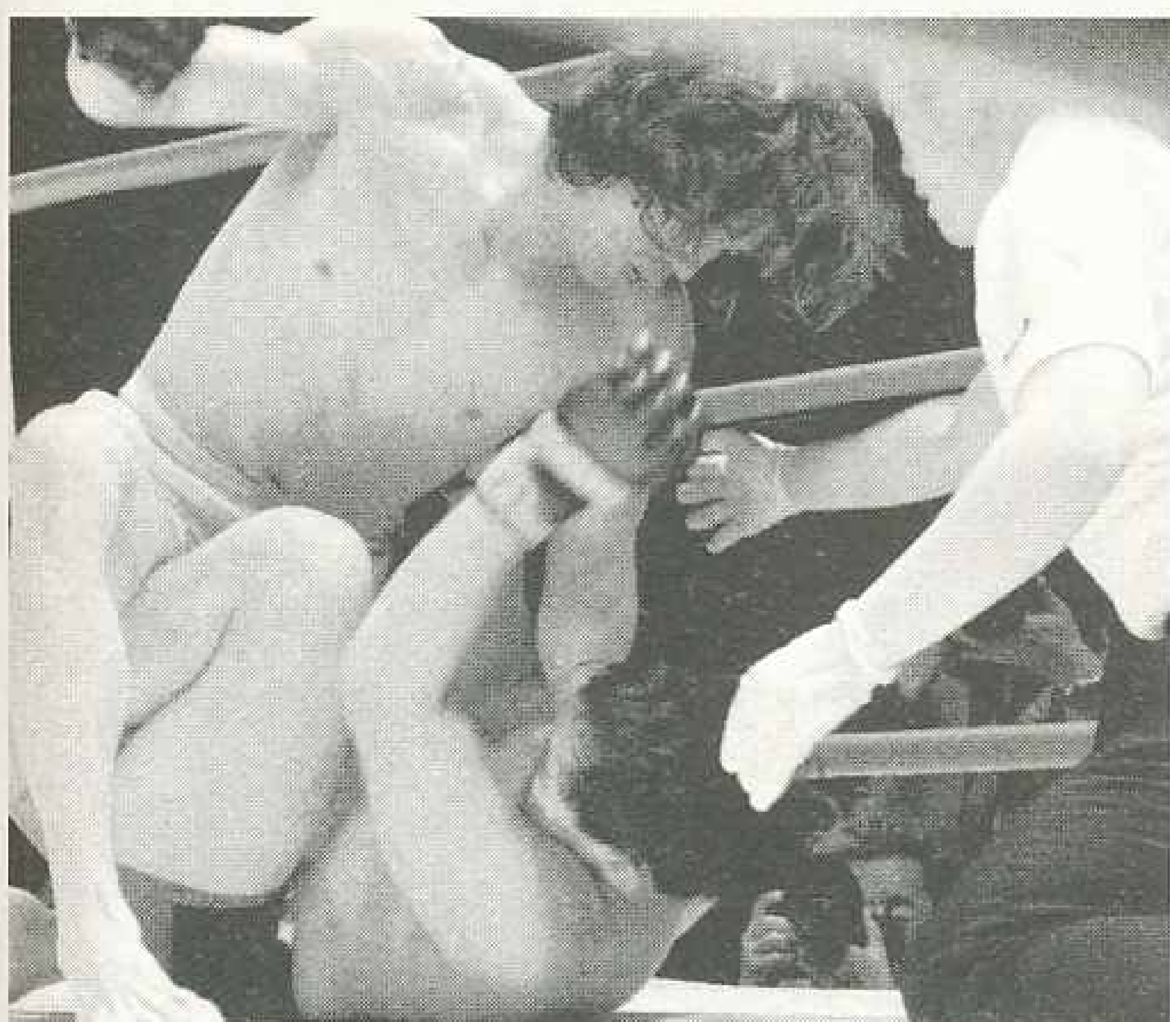


2003年4月に旗揚げした『スピリットMC』は、総合格闘技のパイオニアにして現存する国産唯一のメジャープロMMA団体。しかしこの団体も旗揚げ戦で笑えない事件を起こしている。この旗揚げ大会には無差別級トーナメントの他に、CMA諸岡会長ルートで女子プロレスの試合が組まれていたが、この試合が終わった後、リングアナが「我々がやろうとしているのは、このようなニセモノではない。本物の真剣勝負です」と掟破りのアナウンスをし、反感を買った。現在は無事に更生を果たし(?)順調に活動を続けている。

「鼻血でTKO負け」事件

Neo Fight

NeoFight2　2003年12月



『NeoFight』は『スピリットMC』の内部分裂でできた団体だが、とにかく事件の多い団体として有名。この団体の衰亡を運命付けたのは、第二回大会に行なわれたミドル級トーナメントの決勝戦、奥田正勝対ホン・ジュピョのあからさまなひいきレフェリングだった。試合中、奥田がバックからチョークをかけているにもかかわらずブレイクを命じたり、下になった奥田がホンにパウンドをもらって鼻血が出た程度で、即TKO負けにするなど、あまりにも酷い行為がファンの猛烈な反感を買った。大会後にはホームページへの批判と抗議の書き込みが後を絶たず、以後団体は規模を縮小せざるを得なくなった。現在は一年に一度、地方大会を開くのみとなっている。

もうひとつの韓国総合格闘技シーン『バーファイト』とは？

韓国格闘技界には光と陰の舞台がある。光の舞台とは『スピリットMC』などのメジャー大会を指し、陰の舞台とはナイトクラブや飲み屋でのバーファイトのことを意味する。ここ韓国ではこれまでに驚くほど多くのバーファイトが出現した。たとえば、バーファイトのパイオニア『Gimme5』やケージバーファイトを行なう『X-3』、ヴァンダレイ・シウバを招聘したインチョンの『Silva7』、スマックガールも大会を開催したソウル近郊の『Dream Tower』、ナムサックノーイ対イム・チビンが行なわれた地方都市テジョンの『X-Fighter』など、地方のものまで入れればとても数え切れないほどである。韓国ではまっとうな舞台での大会が少ないため、毎日試合が行なわれるバーファイトに出場し続けて日銭を稼ぐファイターこそが、実質的にプロファイターだった時代があったのだ。

現在では、出場選手の死亡事件が起こったり、バーファイトに出ていたロシア系の選手がビザの切れる直前で行方不明になった問題などによってほとんどが消滅しており、一時期に比べれば下火になっている。しかし韓国ではテレビ局がこうしたバーファイトを中継しているケースも少なくなく、陰の舞台とは言えバーファイトは韓国格闘技界からは消すことのできない歴史の一部であるといえよう。

韓国で格闘技が異様に盛り上がっているという事実は前ページでお伝えした通り。が、韓国格闘技界にはもうひとつの顔があった。国内で主催される格闘技イベント周辺では、なぜかトラブル＆パニックという事態が頻繁に発生し、数々のイベントが直前でダメになるという不可解きわまりない事件が勃発しているのも一部では有名な話。その珍場面を国内格闘技界の変遷とともに韓国在住ライター大川氏にズズラっと並べてもらった。ん～、韓国凄すぎ!!

文／大川義之　写真／Y.J.CHO

「放映権契約に勇み足」事件

Korea Fight

KoreaFight1 2004年8月

『NeoFight』の営業面の失敗は、テレビ局に自分たちがお金を払って放映してもらうという契約をしたことであった。このため『NeoFight』運営陣は、別のテレビ局と高い放映権契約をするために新しい団体を作った。



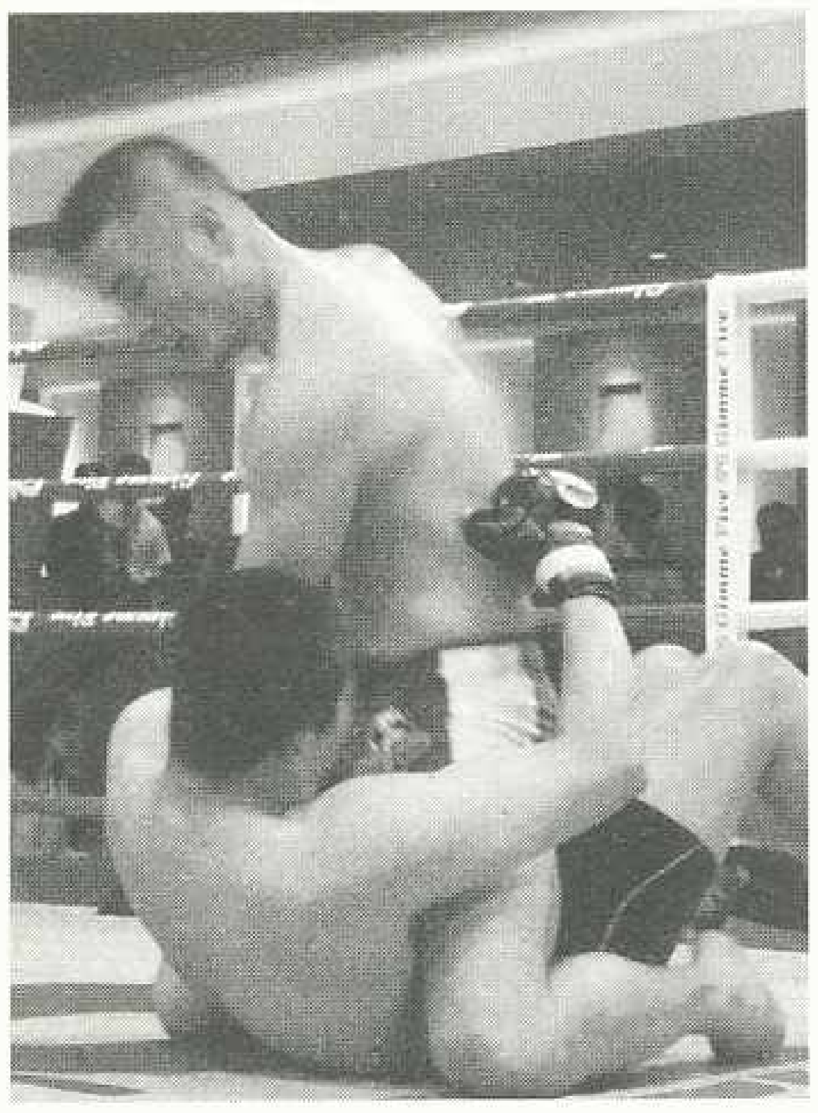
それがこの『KoreaFight』である。しかしロゴから運営陣まであまりにも『NeoFight』と同じであったため、記者会見で、格闘技記者たちに「つーか、おまえらNeoだろ」と言われたという笑い話がある。メインカードに奥田正勝対ホン・ジュピョのリベンジマッチを企画するが、奥田側に根回しがまったくできていなかったために頓挫し、開催直前に延期を発表しそのまま大会は消滅した。

「出場選手死亡」事件

Gimme

Gimme5 2005年5月13日

『Gimme5』は『NeoFight』の関連団体で、バーファイトをさせる組織として誕生した団体。最初から大手のテレビ局が試合を放送するなど順調だったが、2005年5月13日、試合に出場した選手が試合後呼吸困難を訴えて病院に緊急移送され、一時間後に死亡するという惨事が起こった。選手の死因は試合のダメージによるものではなく、持病によるものと判断されたが、試合前後の健康診断や安全管理の面で不備が指摘されるなど、新聞・テレビなどの批判が高まり、活動休止に追いやられた。



「大会前日にドタキャン」事件

Gladiator FC

Gladiator FC“生死決-Episode 2” 2005年6月

ドタキャンした『KOKing FC』の失敗を繰り返されないためにCMA諸岡会長とDEEP佐伯社長の全面的なバックアップのもと、旗揚げされたのがこの『Gladiator FC』。2005年6月4日の第二回大会のために、海外からの選手は全員入国し、前日記者会見が行なわれた。しかしここで発表されたのは、なんと大会を中止するという内容だった。これほど大きな大会が前日に中止されるのは韓国でも前代未聞のこと。表向きは観光ビザで試合をさせようとしたことが当局にバレたという理由だったが、実際には資金繰りのめどが立たなかったことなどが原因とされる。大会中止後も松井大二郎ら数選手は出国を禁止され、数日ソウルに滞在させられることになった。以後、グラジ開催の噂はない。



番外編 Pancrase Korea パンクラスはえらい!

2004年7月

古くからキム・ジョンワンやハン・テユンらをリングに上げるなど、韓国選手と太いパイプを持つパンクラス。そのパンクラス、2004年7月17日に韓国での大会を予定していたが、一ヶ月前になっても韓国側の主催者から選手のギャラの半額が支払われないため、二週間前になった時点でパンクラスの尾崎社長が延期の声明を出した。しかし中止になった他の大会とは違い、パンクラスの対応は誠実だった。パンクラスは、韓国大会に出場するために契約した選手を日本のパンクラスに来日させ、契約した内容をすべてクリアし清算した。こういう日本の団体の誠実さを韓国の大会主催者はぜひ見習ってもらいたいものである。

総評と今後の展望

2005年現在の韓国格闘技界は、総合格闘技のバブルがはじけた状態である。2003年の総合元年には1000万円もの優勝賞金を出す大会があったが、いまでは総合のプロ大会はひとつしかなく、どこかの団体が大会開催を発表しても、当日まで本当に開催されるかは出場する選手でさえ不安な状態だ。今後韓国格闘技界に必要なのは、日本の格闘技ビジネスの華やかな部分を見ることではなく、愛情を持ってこのスポーツを育てていく地道な努力と、入念な準備をして実際に大会を成功させていくことである。そうでないと韓国格闘技界は世界から信用を失い続けるだろう。

50号記念企画てんこ盛り号



no.50 '02.05 880yen

「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!／ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立



no.51 '02.06 880yen

両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談／新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!



no.52 '02.07 880yen

全身プロレスラー・高山善廣／USAの波世人ドン・フライ／『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム／戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!



no.53 '02.08 880yen

ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・ガファリ／爆裂! 川村社長ガチンコ語録!／偽道王の知られざる半生!

『Dynamite』を大総括!



no.54 '02.08 880yen

"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット／純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!



no.56 '02.10 880yen

田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦／蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山／『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号



no.57 '02.11 880yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ／北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!



no.58 '03.01 880yen

夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×高阪／Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健／カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸



no.59 '03.02 880yen

いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス／爆発!! WJマグマ語録／吉田道場の秘密兵器 中村和裕／UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!



no.60 '03.03 880yen

ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気／あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし／全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!



no.61 '03.04 880yen

裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン／プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!



no.62 '03.05 880yen

ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介／現役復帰間近!? 船木誠勝／藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル／新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!



no.63 '03.06 880yen

「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!／憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー／芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!



no.64 '03.07 900yen

"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー／ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!



no.65 '03.08 880yen

"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル／"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ／吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司／闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!



no.66 '03.09 880yen

緊急独占インタビュー! ミルコ／マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮／"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦／『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!



no.67 '03.10 880yen

ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー／アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!



no.68 '03.11 880yen

大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦／曙とは何者か!?／一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志／"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林聡

ハッスル1開催、ド直前!!



no.69 '03.12 900yen

出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也／『泣き虫』著者登場! 金子達仁／大晦日直前インタビュー! 田村潔司／アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

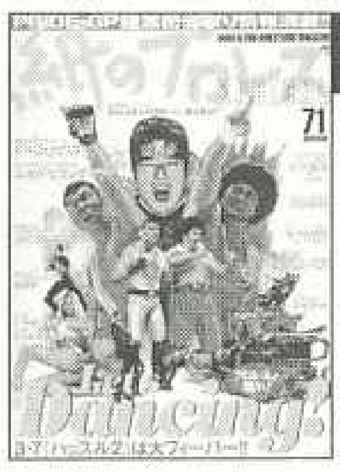
紙プロ大賞'03発表!!



no.70 '04.01 880yen

PRIDE征服宣言! ミルコ／シウバに宣戦布告! 近藤有己／ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶／発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!



no.71 '04.02 880yen

『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／待望の『紙プロ』初登場! 川田利明／理想のプロレスを追い求める! AKIRA／幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!



no.72 '04.03 840yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁／全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!



no.73 '04.04 880yen

GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド／キックの名伯楽登場! 伊原信一／魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!



no.74 '04.05 880yen

PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー／掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!



no.75 '04.06 880yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 高田総統／インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン／年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!



no.76 '04.07 880yen

小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦略を進む! 桜庭和志／新連載『月刊PG談(仮)』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!



no.77 '04.08 880yen

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ!! ミルコ／サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号



no.78 '04.09 880yen

衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 高田延彦／K-1のトップが小川を語る 谷川貞治／壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!



no.79 '04.09 840yen

キャプテンに休息なし! 小川直也／特別付録・高田総統ポスター／谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』／ビビッたか!? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!



no.80 '04.10 880yen

独占ロングインタビュー ミルコ／ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也／新連載! 佐山サトルの右流々ン探訪紀／袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!



no.81 '04.10 880yen

ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／スーパーひとし君登場! 草野仁／佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!



no.82 '04.12 890yen

"道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪／伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!



no.83 '05.01 880yen

『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!／蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝／『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!



no.84 '05.02 880yen

"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司／"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!



no.85 '05.03 860yen

PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦／パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己／HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号



no.86 '05.04 860yen

大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!／PRIDE GP&K-1 MAX出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!



no.87 '05.05 860yen

敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫／蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

幻想大国ロシアに潜入!!



no.88 '05.06 880yen

狼魂伝承対談! ハン×ハリトーノフ／メヒコで大激白!! 初代タイガー×ウルティモ・ドラゴン／新生『武士道』大爆発! 五味隆典／ADCC 17ページぶち抜き大特集!!

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文　②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

…ニア館／チャンピオン／タコシェ／レッスル池袋／書泉ブックマート／書泉ブックタワー／書泉グランデ／グレートアントニオ／東京イサミ

祝! ハッスル・マニア大爆発!

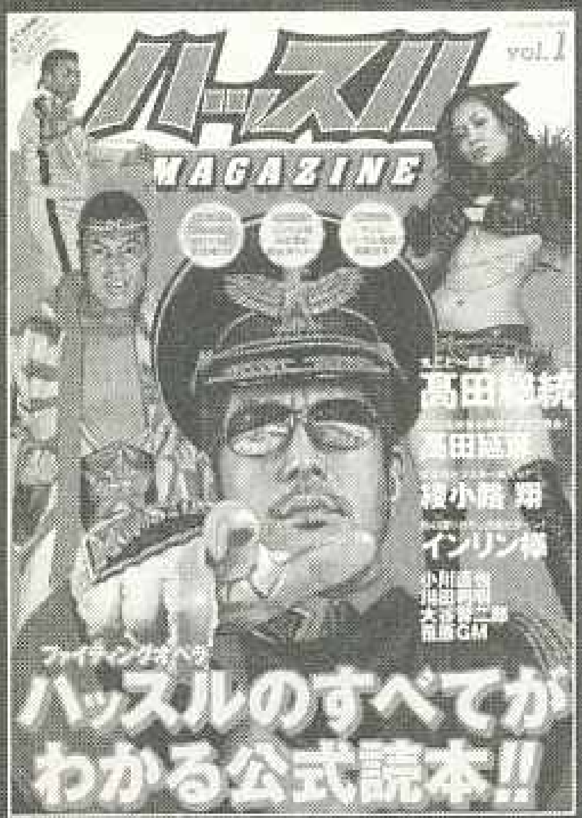
&高田モンスター軍(アン・ジョー司令長官+島田二等兵) M-1予選1回戦突破!!

そして、やっぱり2回戦失格……



ハッスル読むならハッスルMAGAZINE ヤッホー!ヤッホー!

ワイドショーも驚愕! 唯一無二の公式読本!!



ハッスル MAGAZINE Vol.1

- ◆三大特別ふろく(❶高田総統のありがたいお言葉CD ❷インリン様のM字固め特大ポスター ❸マンガ『ハッスル物語』特製豆本)
- ◆高田総統×高田総括本部長
- ◆高田総統×綾小路翔
- ◆インリン様洗脳グラビア
- ◆『ハッスル』ポスターコレクション 他

1600 yen

新装刊『kamipro』前史を読むなら、no.91までの紙のプロレスRADICAL ヤッホ〜 ヤッホ〜

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

平日15:00〜22:00
販売元:(株)ダブルクロス

本誌 Back Number

特集 神秘とは何か?



no.14

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲



no.15

あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K−1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK−1三兄弟(当時)インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮



no.17

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野/バトの原点はここにある! 「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本



矛・盾

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

純プロ王国NOAHに迫る!!



no.29 '00.07 840yen

三沢、秋山『紙プロ』初登場!!/プロレススーパースター列伝 仲野信市/本誌独占ジャンボ鶴田夫人最愛の夫の真実を語る!!/TKおかん

"新"プロレスとは何か?



no.32 '00.10 840yen

田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村/"和製カレリン"本田多聞

純プロレスを徹底検証!



no.35 '01.02 840yen

ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/"ノアの怪物"杉浦貴/UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!



no.36 '01.02 840yen

ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言/W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く/吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!



no.37 '01.04 840yen

安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!/アブダビコンバット01一大探検記!/シュート活字×ファンタジー活字/比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か?



no.38 '01.05 840yen

忘れ物の正体は——。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル/プロレススーパースター列伝 阿修羅原/死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か?



no.39 '01.06 840yen

前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男/プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは?



no.40 '01.07 880yen

蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎/プロレススーパースター列伝 グラン浜田

"最後の黒船"WWF来襲!!



no.41 '01.08 880yen

リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!/W☆INGの真実・茨城清志/毒舌知能犯 秋山準語録

アントンパワー大爆発!!



no.42 '01.09 880yen

ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実"辻よしなり/蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!



no.43 '01.10 880yen

ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会/野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来



no.44 '01.11 880yen

その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴/ハンス・ナイマン&ディック・フライ/闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!



no.45 '01.12 880yen

悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談/プロレススパースター列伝 グレート小鹿/語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!



no.47 '02.02 880yen

"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!/プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!



no.48 '02.03 880yen

奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光/伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

究極の格闘技大戦争勃発!



no.49 '02.04 880yen

和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田/アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?/破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

紙のプロレスRADICAL BackNumber常備店 アイドール新宿店/新宿ファイター/プロレスマニア館/

チャンピ

月刊！語録で振り返るマット界

マット界がボンヤリ見えなくもないニュースまとめ読みコーナー

誌面からこぼれ落ちた見逃せない話題をしっかり完全フォロー！……というよりは、マット界の態勢に影響がありそうであまりなさそうな事件やニュースを語録とともに振り返る、このコーナー。リニューアル2号目からの中途半端なスタートになりま～す！

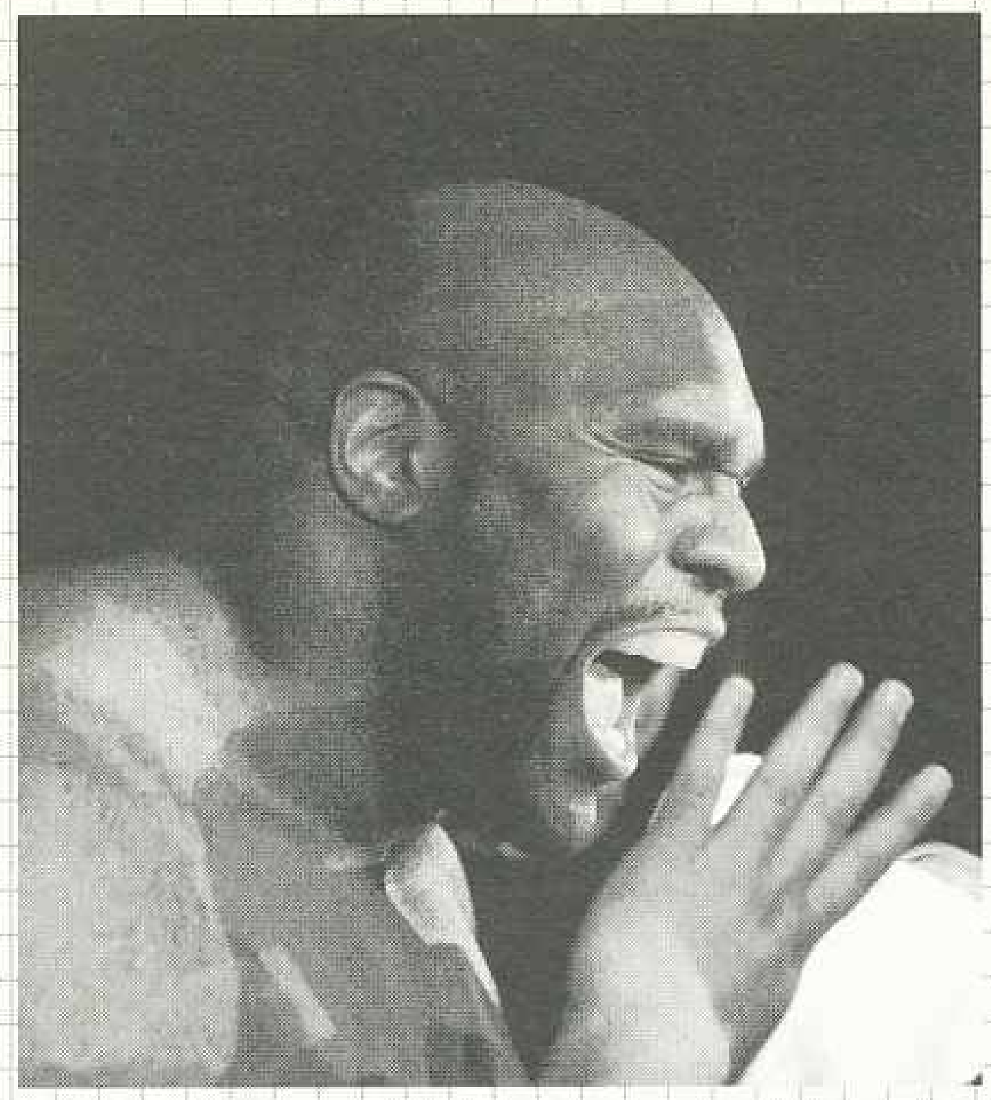
構成／ジャン斉藤

「キム・ジョンワンをキムチに巻いてペロリと喰ってやる！」（ボブ・サップ）

▶11月6日／『HERO'S』韓国大会

サップ、韓国初上陸！

誰かサップに最近のキムチ事情を教えてやれよ！



「髙田さんと闘いたいです」（ジェームス・トンプソン）

▶10月23日『PRIDE・30』

トンプソン、なぜか髙田本部長戦を熱望

興奮のあまり顔面をピクピク振るわせ、戦略なんてお構いなしのゴング&ダッシュで突進する無軌道なスタイルが大受けのジェームス・トンプソン。ところがアレクサンドル・ユング戦ではゴングと同時に飛び出しもせず、石橋を叩いて渡らないかのようなファイトぶり！　ダッシュしないトンプソンなんて、M字を封印したインリン様みたいなもんなのに……。こうして信者を心底ガッカリさせてしまったトンプソンだが、最後の最後で「大晦日は髙田さんと闘いたいです！　ウガー!!」なんて、とんでもないこと吠え出した！　その無茶な姿勢を試合で出してほしかったが、とりあえず大晦日『男祭り』は、本部長とフンドシ暴れ太鼓で対決してもらいたい。

「だってないんだもん！」（髙田総統）

▶10月27日『ハッスル・ハウスvol.10』

髙田総統、葉巻を忘れる

正確には総統の秘書が忘れたとのこと。ないもんはしょうがない。

「永源さんの唾は総合向き」（鈴木みのる）

▶11月6日／『東京スポーツ』

みのる、永源にパンクラス参戦要請

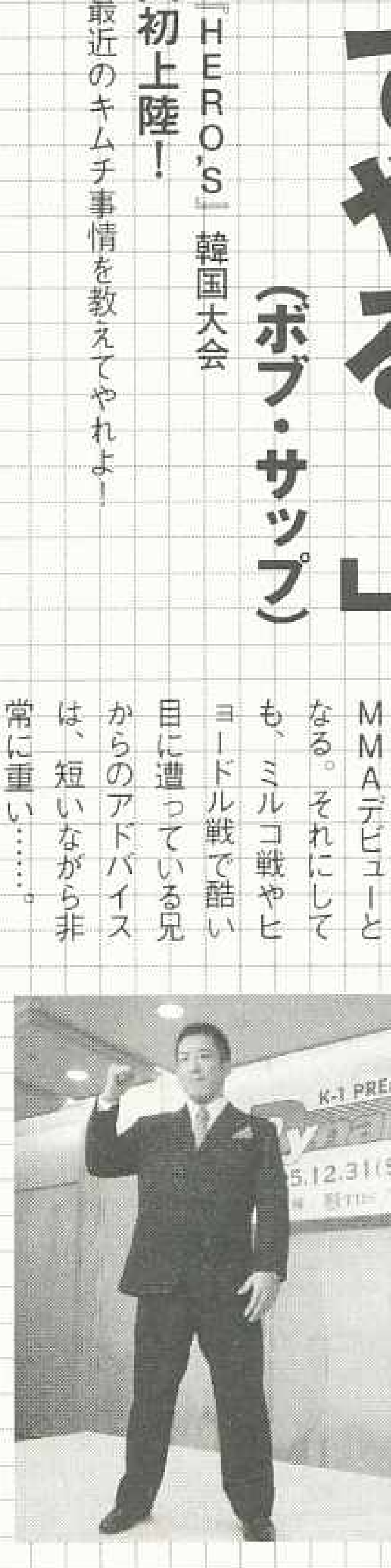
NOAHに継続参戦中の鈴木みのるが、永源遙のパンクラス参戦をブチあげた！「プロレスルールじゃ当たり前だから、うちのルールでやってもらおう」とみのる。そんなみのるが〝うちのルール〟じゃない闘いをパンクラスでやってるわけだが、そんなことはどうでもいい。なぜならこの仰天プランがもし実現すれば、永源遙vs竹内出、ヤノタクなどの超異次元カードが目白押しで、まさに〝ハイブリッド〟なパンクラスが完成するから！　ここはみのるの手腕に期待しよう！

「厳しい世界だが、とにかく頑張れ」（永田裕志）

▶10月30日／『Dynamite!!』記者会見

永田、大晦日に参戦！

「大晦日といえば、永田さん」という格闘方程式が頭に叩き込まれているナガタマニアの心が踊る見出しが紙上を飾った！　……が、ところがどっこい弟の永田克彦のほう。見たいのは文句なしに兄のほうだが、弟のポテンシャルには要注目。克彦はバルセロナ五輪のレスリング銀メダリストの肩書きを引っさげてのMMAデビューとなる。それにしても、ミルコ戦やヒョードル戦で酷い目に遭っている兄からのアドバイスは、短いながら非常に重い……。



「佐伯はミニ・ブッチャーorキマラだ！」（ジョシュ・バーネット）

▶10月24日／U-STYLE Axis記者会見

五十歩百歩な番外戦

〝青い目のケンシロウ〟ことジョシュ・バーネットが念願だった〝U〟にアクセス！　その象徴である田村潔司との対戦に名乗りをあげた。しかし大会プロデューサーを務める佐伯さんは「ミルコ戦を見たが、お腹が非常に気になるね。プロレスラーとして、身体を見せるのもプロ」。ジョシュのトレードマークであるポヨポヨ腹に不安の色をのぞかせるが、案の定ジョシュ以上のガファリ腹を突っ込まれた佐伯さん。どんな言い争いだよ。

「いよいよボクの前に現われましたね（笑）」（長州力）

▶11月1日／テレビ朝日『草野☆キッド』

小力、長州力を電撃訪問！

たとえ美川憲一本人をよく知らなくても、コロッケの美川モノマネで爆笑できた時代があったが、きっといまの長州力と小力の関係も似たようなものだ。そんな二人が〝HBK〟草野仁と浅草キッドがパーソナリティを務める『草野☆キッド』で衝撃の初対面！　長州はキレることなく「よくテレビで見

新日本で〝死ネコラ問答〟勃発！

「テメエも死ね！」長州力

新日本プロレスで蘇ったコラコラ問答！（この事態が生じた因縁は勝手に各自調査してください）。破壊王役の蝶野や天山がいまいちパワー不足で馬鹿馬鹿しさが足りないのが率直な感想だが、長州は相変わらず切れ味ならぬコラ味が抜群！　読め、コラ！

【試合終了後、控室に戻ろうとする蝶野と天山を通路で待ち構える長州】

長州　（いきなり大声で）テメエ、何この野郎！　調子のいいことぬかしてんじゃねェぞ、コラ！

【天山に小力ばりのストンピング！】

天山　なんやっ、コラァ！

【長州に蹴り！】

長州　なぁ？　調子のいいことぬかしてんじゃねェぞ、コラ！　何がぁ挑戦だ、コラ！

天山　おい、やったるぞ、コラ！

長州　何ィコラ！　やるならやってみろ、コラ!!

天山　好きなようにさせんぞ、タコ!!

長州　なぁ、テメエもとっとと死ね!!

天山　（突然の死亡宣告に）ふざけんな、コラ～!!

【隣にいた平田マシン（前・現場監督）にも噛み付く長州】

長州　テメエも死ね、コラ！　この野郎、いままでこんな状態にしといて、コラ！

平田　やるのかや……。

長州　（さえぎって）じゃあやらしてみろ、コラ!!　コラァ！　この状況でテメエ、なにができるんだぁ？

蝶野　オマエは中邑、棚橋に気を遣って

てますよ。あんなふうにしているか？」と小力に笑顔で語りかけたのだ！　はい、あんなふうにしてます！　そして恐縮しまくりの小力に「俺がお前の世界に触ったんだから、今度はお前が俺の世界に触れ」と事実上のリキプロ参戦を要求！　タッグ結成の際には長州がパラパラを踊って小力の世界に完全に触ってほしい。あとダブル長州のコラコラ問答もやってくれ！

「最後になるだろう」（サイモン社長）

▶11月8日／『日刊スポーツ』

新日本、東京ドーム大会撤退！

恒例の1月4日東京ドーム大会が来年で15年という節目を迎え、同一ドーム大会開催記録をギネスブックに申請することになった新日本プロレス。ところが、この記念大会を最後に東京ドーム大会から撤退する意志を固めていることをサイモン社長が明らかにした！　ギネス記録打ち止め！（そもそも記録を受理されるかは知らないが）。低迷する観客動員が主な原因だが、サイモン社長がキッパリ断言したわけではないので、いつになっても店じまいしない「永遠の閉店セール」になる予感も……。とりあえず、1・4は「ラストドーム」という事態が最大の煽りになりそうだ。

「試合はガチンコ。台本なんか一切ない。もちろん勝つつもりでやった」（東城えみ）

▶10月30日／『探偵ファイル』

サスケのコメントも聞きたい！　東城えみ、AV騒動の真実を語る

一度は引退したものの、リングへの情熱を捨てきれず、今年の8月4日に「勝てば復帰、負けたら即AVデビュー／ランバージャックデスマッチ」という条件で、ドレイク森松と対戦した東城えみ。"汁男優"がリングを取り囲む異様な雰囲気の中、東城は善戦するも敗北！　即AVデビューという約束のためそのまま"神聖"なリング上で濡れ場を展開し、業界中から大バッシング。リングを貸し出したJDスターがビデオの販売差し止めを請求するなど一大騒動に発展したが、当事者である東城が沈黙を破って『探偵ファイル』で独占告白。

東城いわく「たかだか、プロレスラーがAVに出たぐらいでゆるがないでほしい。オタついて、吼えて寂しい限り」「団体に迷惑をかけたつもりはないし、なんならお手伝いしますよ（笑）どんどん（こういう物を）利用すればいいのに。ちゃんとプロデュースしろよ、小せえな」と反論。一連の批判に対して、スキャンダルをビジネスに転がすアントンイズムで吠え返した。カッコイイ！

それでも、どうしても許せない業界関係者やレスラーはいるかと思われるが、ちょっと落ち着いてほしい。どうやら「試合はガチンコ」だったそうなので、これはもうしょうがないAV出演だったのだ！

「タイソンの試合をしたい」（ヤン・ミュンギュTMG代表）

▶11月5日／『HERO'S』＆『KORIA・MAX』直前会見

毎度お騒がせしま～す！

忘れた頃にやってくるものといえば「天災」になるが、マット界では、「ドラゴンの引退宣言」、「永久電機の完成間近ニュース」、「イズマイウの暗躍」、そしてマイク・タイソンのK－1参戦問題に決まっている。FEGと友好関係にあり、KORIA　MAXを主催したTMGのヤン・ミュンギュ代表が「タイソンの試合をしたい。K－1側からも強い要請が来ている」と発言！　来夏にでも実現したいことを明かした。K－1ルールでもMMAのどちらでもタイソンはぜひ見たいので、首をなが～～～～～～くして実現を待とうか。

「いまから、お前たちを殴る！」（大森隆男）

▶11月7日『ZERO－1MAX』新木場

大森が若手育成ユニット「アックスボンバーズ」結成！

大森隆男と聞いただけで、ご飯が何杯も食べられるアックスボンバーな野郎に朗報だ！　なんと大森が若手選手育成を目指すユニットのプロデューサーに就任！　そのうえユニット名は、どストレートに「アックスボンバーズ」と付いたから、もう三日三晩寝ないで語り合いたい大事件勃発である。参加選手は、U－FILE CAMPの田村和宏、ユニオンプロレスのisami、726（なつる）、666の宮本裕向の4名。しかし、彼らヤングアックスはお披露目試合で不甲斐ない姿をさらけ出してしまい、大森は大激怒！「いまから、お前たちを殴る！」と、「スクールウォーズ」の山下真司ばりに鉄拳を振るった！　きっと大森の目には、109対0で相模一高に惨敗したぐらいの試合内容に映ったんだろう……。大森先生の7年戦争は始まったばかりである。

「モンスター、モンスター、ヤッホ～、ヤッホ～♪」（島田＆アン）

「…………」（観客）

▶11月6日／新木場1stリング

島田＆アン・ジョー、やっぱりM－1落選

髙田モンスター軍の島田二等兵＆アンジョー司令長官が『オートバックスM－1グランプリ2005』二回戦に登場！　一回戦は二度目の挑戦でやっとこさ突破したが、案の定観客を爆笑させることなく敗退！　世界一幅が広い芸達者で知られるコンビもやはり漫才の壁は超えられなかった。モンスター軍の看板に泥を塗った二人に髙田総統からどんなお仕置きをするか、クリスマス二連戦が非常に楽しみである。



「松井秀のボクサー転身？フフフ……。それは面白そうだな」（ドン・キング）

▶10月26日／『サンケイスポーツ』

谷川さんも食指？　ゴジラ松井がボクシングに参戦!?

芸能人・スポーツ選手のマット界参戦が話題を呼ぶ中、海の向こうであのドン・キングがなぜかゴジラ松井に目を付けた！　球界屈指のAVコレクターというキャラを『東スポ』で恥ずかしげもなくかっ飛ばす松井だけに、おそらく裸の攻防もお手のものに違いない。ドン・キングが手を出す前にぜひ谷川さんに清原vs松井を『Dynamite!!』でマッチメイクしてほしい。もうやるしかない！

「1月4日は行かない。触ってないから、わからない」（アントニオ猪木）

▶11月1日／『東京スポーツ』

アントンの「触ってない」宣言が早くも出た！

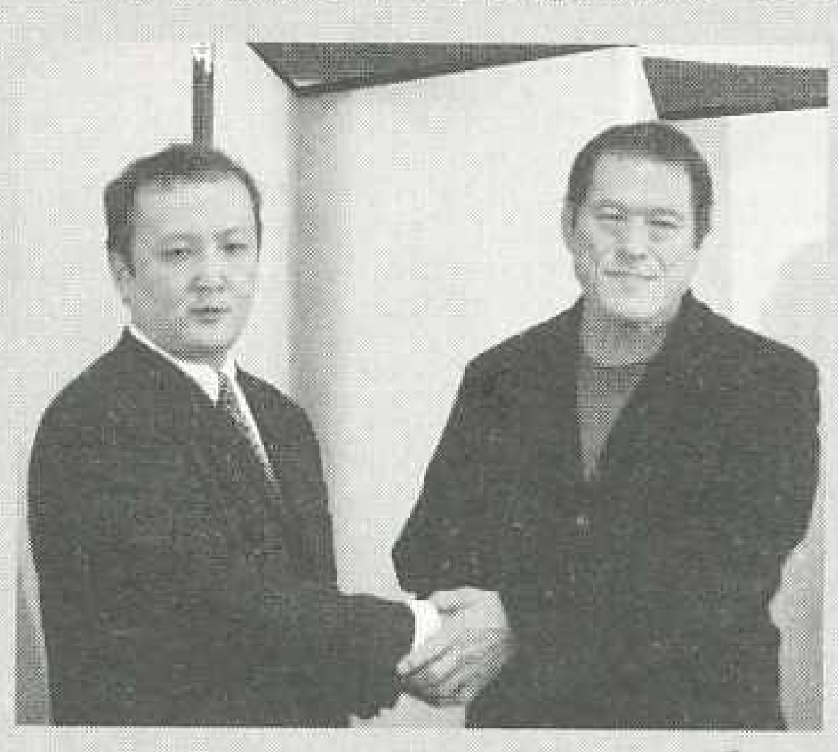
まだ開催2ヵ月前なのに！　早過ぎるよ！

んだろ、エェ、オラァ！
長州　言っとくけどな、テメェらもっとしんどい思いさせてやるからなぁ。覚悟しとけ、コラ！
蝶野　しんどい思いしてきてんだ、オラ！
長州　やらしてみろ、コラ！
平田　わかった！
長州　（返事を無視して）調子こいてんじゃねぇぞ、コラ！　なぁ？



来月の語録予報　この人物を要マーク！

サダハルンバ谷川さん、アントニオ猪木さん



来月はこの二人の発言に要注意！　本誌インタビューでも匂わせていた大晦日『Dynamite!!』の隠し玉に自信満々の谷川さんと、ドーム興行が来年の1月4日でラストになる新日本プロレスのオーナー、アントン総帥。とくに新日本はゴタゴタ続きなので、アントン魔性のアクセル全開が予想される。ちなみに写真は昨年の『Dynamite!!』記者会見のものです。ンムフフフ！

DEEP 21th IMPACT
05・10・28 後楽園ホール

撮影／平工幸雄



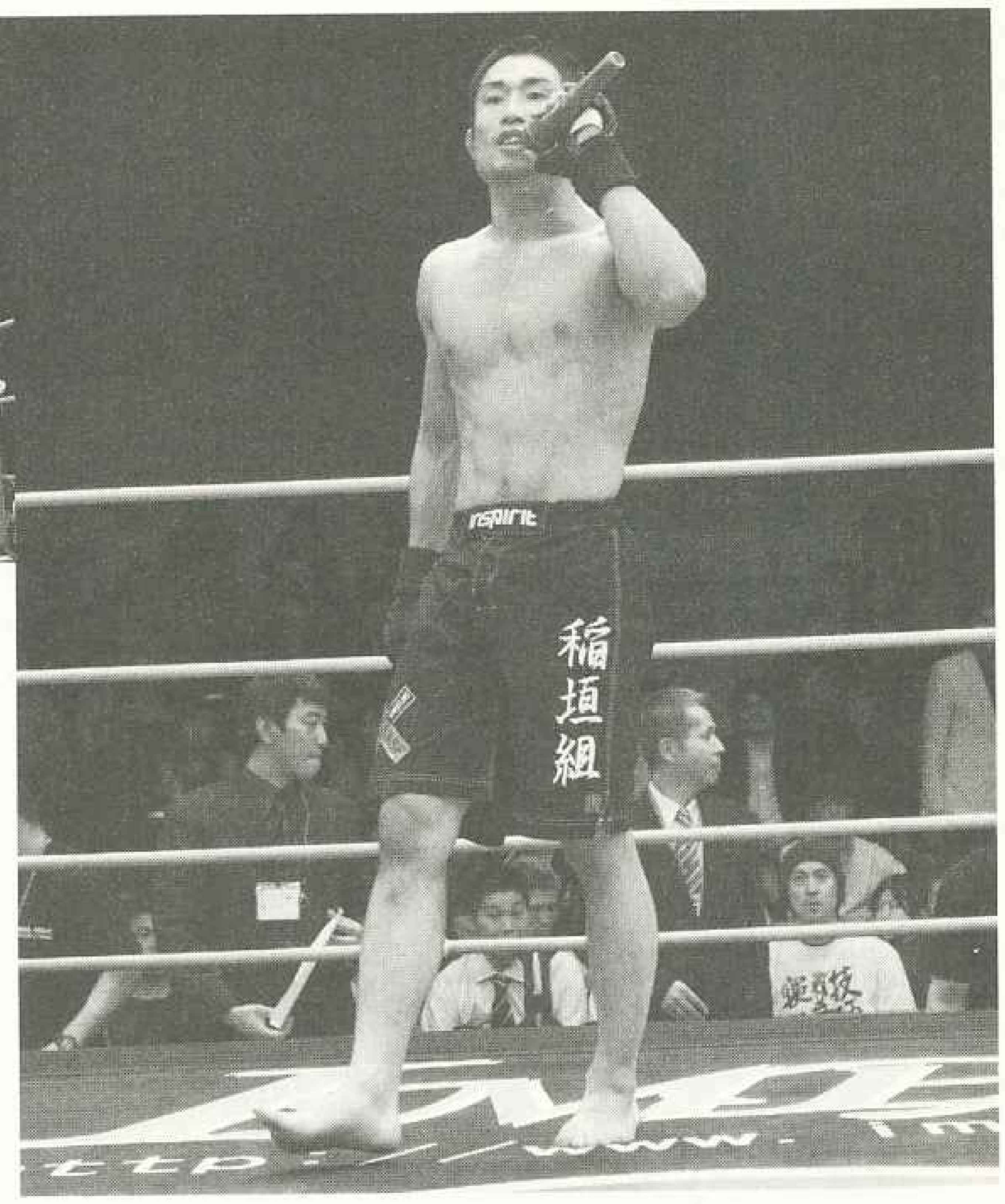
［フェザー級トーナメント一回戦］
●ムアンファーレック・キャットヴィチアン vs 坪井淳浩×（2R 1分32秒 KO）

序盤、ヒールホールドを狙った坪井だったが、それを逃すと逆にムアンファーレックの反撃開始。ムアンはグラウンド状態の坪井にかかと落とし、パウンドを次々と叩き込み、最後は顔面に強烈な蹴りをお見舞い。総合初参戦ながらラジャダムナン・フェザー級王者の実力を見せつけた。



［フェザー級トーナメント一回戦］
●前田吉朗 vs TAISHO×（1R 0分32秒 KO）

勝っても負けても総合引退を表明していたTAISHO。開始早々左ハイを繰り出すが、これに怯むことなく前に出た前田は右フックを顔面にヒットさせ、さらに左ハイでとどめ！　わずか32秒で劇的に試合を終わらせた。試合後のマイクでは「決勝で今成をしばいてチャンピオンになります」と早くも挑発。





［フェザー級トーナメント一回戦］
●今成正和 vs ファビオ・メロ×（3R 判定 3-0）

グラウンドに引き込みたい今成に対し、誘いに乗らず打撃を当てようとするメロ。猪木アリ状態が続き、度々ブレイクがコールされるが、終盤には今成が積極的に足技で応戦し、判定勝ち。

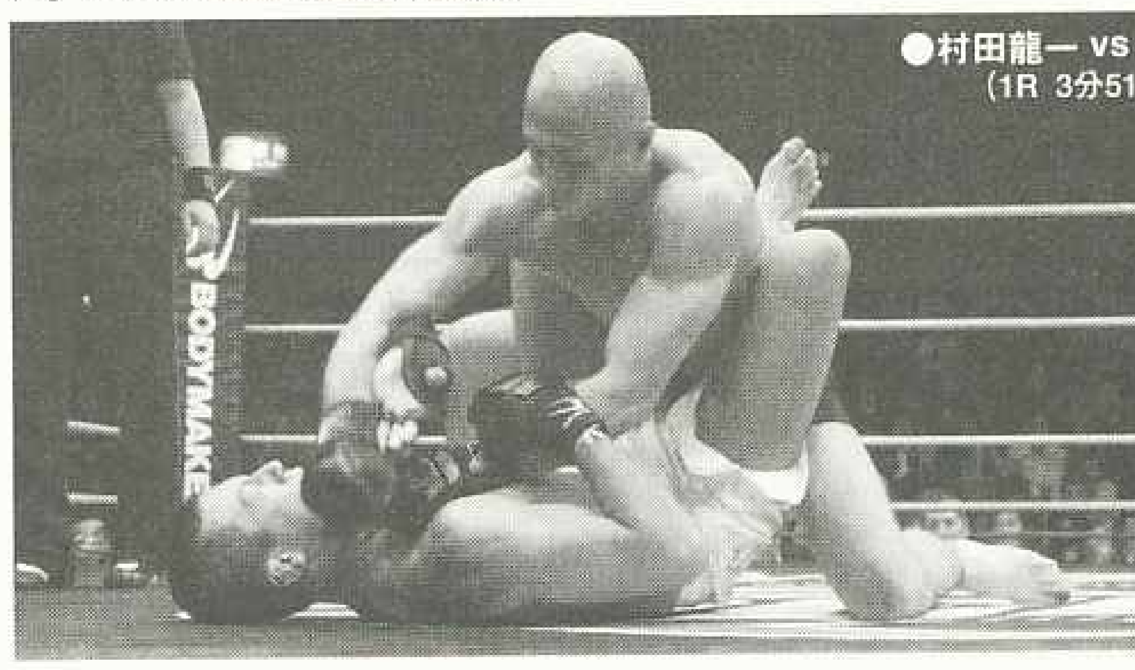


［フェザー級トーナメント一回戦］
●マイク・ブラウン vs 山崎剛×（3R 判定 3-0）

スタンドでは首をつかんでのパンチ、グラウンドでは強烈なパウンドラッシュと、試合は終止ブラウンのペース。これをしぶとく防いだ山崎に対して決定打は出せなかったものの、ブラウンが判定で勝利！

フェザー級GP優勝候補筆頭の前田が左ハイで32秒KO勝利！今成も判定勝ちで2回戦へ

リングサイドで吉田が見守る中、村田が快勝！　佐藤がミドルを放ちバランスを崩したスキにパウンドを叩き込み、見事、総合初勝利を上げた。これには吉田も満面の笑み。



●村田龍一 vs 佐藤隆平×（1R 3分51秒 KO）





●滑川康仁 vs ムン・ジョン・ヒョク×（1R 2分33秒 ギロチンチョーク）

7月のタイトルマッチで桜井隆多に敗れた滑川が、韓国の活武合気道強化選手を相手に、きれいにギロチンチョークを極め見事勝利！　次は梁正基地戦だ!!



●クリスチアーノ上西 vs 大場貴弘×（1R終了時 ドクターストップ）
※眼下底骨折疑いのため

体格がひと回り違う相手の抑え込みに、大場は身体を回転させ、これを凌ぐ。が、1R終了時、眼下底骨折の疑いで、健闘むなしくドクターストップ。



●ミルトン・ヴィエイラ vs 長岡弘樹×（2R 判定 3-0）

『武士道・其の七』でマッハに惜敗したミルトンが、今回は長岡にがぶり＆マウントパンチを見舞い、辛くも判定勝利。セコンドのブスタマンチも大喜び！

DEEP 22th IMPACT
～DEEPフェザー級 初代チャンピオン決定トーナメント 準決勝・決勝～
後楽園ホール　12月2日（金）試合開始18:30（開場17:30）

【フェザー級トーナメント準決勝】
前田吉朗 vs ムアンファーレック・ギャットヴィチアン――A
今成正和 vs マイク・ブラウン――B
※決勝はAの勝者 vs Bの勝者
【フェザー級トーナメントリザーブマッチ】山崎剛 vs 松下剛士

【対戦カード】
滑川康仁 vs 梁正基　帯谷信弘 vs ミルトン・ヴィエイラ
中村大介 vs 長谷川秀彦　梅田恒介 vs ジェイソン・チェンバース

［チケット料金］
VIP 15,000円（最前列）／SRS 10,000円／指定A 8,000円／指定B 6,000円／指定C 5,000円　※当日は500円up

［問い合わせ］DEEP事務局　052-339-0303
http://www.deep2001.com/

7月に開幕した『HERO'Sトーナメント』、9・25『武士道GP』に続き、10・28『DEEP』ではフェザー級（65キロ以下）初代王者決定トーナメントがスタートした。トーナメントの他にワンマッチ、フューチャーファイトも含めると全15試合という長い闘いの中で、きっちりメインを飾ったのはトーナメント優勝候補筆頭の前田吉朗だった。この試合で総合引退を宣言していたTAISHOと対戦した前田は、試合前の会見で「きっちり引導を渡したい」と神妙にコメント。その実行を急ぐかのごとく、試合開始ゴングからわずか32秒の早業でTAISHOをKOに沈めた。試合後、「決勝で今成をシバいてチャンピオンになります！」と堂々と優勝宣言した前田。もちろんこの時点では二回戦のカードは決まっていなかったが、後日、前田vsムアンファーレック、今成vsマイク・ブラウンという組み合わせが正式発表され、前田の思い描く優勝へのシナリオは現実味をおびてきた。

が、そういう前田の二回戦の相手も簡単ではない。元SBランキング1位の坪井との試合で見せた、相手が立っていても寝ていてもとにかく蹴りまくるというファイトスタイルはまさに脅威。そして二回戦を勝ち上がったとしても、軽量級らしからぬ弾丸パンチでGRABAKAの山崎剛を破ったマイク・ブラウン、実力派・今成正和の勝者が待っている。

冒頭に挙げた2大GPが成功している中で、ワンマッチを含む今回の『DEEP』も中軽量級の盛り上がりに拍車をかける形になった。そして、12月にはこれまで行なわれてきた中軽量級トーナメントの決勝ラッシュが訪れる。一番最初に結末を迎えるのは、今大会でスタートしたフェザー級トーナメント。この盛り上がりを決勝に残った4人がどういう結末でシメてくれるのか。12月の大会に期待したい。

ついに大ブレイク! 総力特集全40ページ!!

『ハッスル・マニア』快感フォー!!

2005 No.93 CONTENTS

kamipro



未完の苦しみと輝き

Mirko & SAKU
Road to Reproduction

10.23 PRIDE.30 STARTING OVER

［PRIDE.30］
○ミルコ・クロコップ vs ジョシュ・バーネット×
（3R 判定 3-0）

〝STARTING OVER（再出発）〟とサブタイトルが付けられた10・23『PRIDE・30』は、その名のとおり、桜庭和志とミルコ・クロコップが再起を懸けた大会。

桜庭は6月の『PRIDEミドル級GP』2回戦でヒカルド・アローナに血だるまの完敗を喫し、ミルコも8月に〝人生最大の一戦〟との決意で挑んだヒョードル戦に敗れた直後。それだけに、もしここで負けるようなことがあったら、この『PRIDE』が誇る2大スターが決定的なダメージを被ってしまう非常にリスキーな闘いでもあった。

この一戦を前に桜庭はブラジルに渡り〝宿敵〟ヴァンダレイ・シウバの所属するシュートボクセ・アカデミーに入門。いち門下生としてブラジルのハングリーな若手に交じり練習漬けの毎日を送り、ミルコもその生き様を見せつけるかのように、敗戦後、休むことなく難敵ジョシュとの対戦を選択した。

結果、桜庭とミルコが見事揃って勝利！ 無事、再起の第一歩を記すことに成功した。

たしかに桜庭もミルコも〝完全復活〟と呼べるような試合ではなかったかもしれない。しかし、それでいいのだ。今回は完全復活を証明する場ではなく、あくまで再び上を目指すための第一歩を踏み出す場。

しかも桜庭、ミルコともに、これまでの自分のスタイルを一度捨てて、新しい自分のスタイルを再構築する過渡期での闘いである。当然、完成するまでの〝産みの苦しみ〟がともなうのは覚悟の上。だから今回は自分が目指す方向が間違っていないことをたしかめることが肝心で

あり、そういった意味で、2人にとって









［PRIDE.30］
○桜庭和志 vs ケン・シャムロック×
（1R 2分27秒 KO）

あり、そういった意味で、2人にとってこの日の勝利は非常に意義深いものだったと言える。

早くもシュートボクセでの打撃特訓の成果を見せた桜庭だけでなく、苦戦をしいられたように見えたミルコにも大きな収穫があった。その収穫とは弱点の克服。

先のヒョードル戦で露呈したミルコの弱点といえば、相手が前に出て距離を積められると得意の打撃がなかなか当てられないこと。それから2ラウンド以降、スタミナが切れてくると、そのままズルズルと後手に回ってしまうことの2点。

今回のジョシュ戦では第一の課題である「距離を詰めてくる相手への打撃」という面では完全ではなかったものの、思うようにならない試合展開の中でも気持ちが切れることなく、スタミナが残り少ない中で3ラウンドに逆襲に転じ、判定勝ちを収めたのは大きかった。

じつはこの終盤での盛り返しというのは、ミルコにとってK—1時代から数えても初めてと言ってもいいこと。これはもはやミルコは勢いで勝つだけでなく、序盤を絶え抜いてから逆転できる地力が携わってきていることの証明である。来年のモデルチェンジが完成したあとの〝新生ミルコ〟誕生に向けた、確実な第一歩を記したといっていいだろう。

この日の闘いをクリアしたことで、桜庭、ミルコとも大晦日の『男祭り』出場が確定的となった。注目の対戦相手は桜庭が田村潔司との3年越しのSADAMEの一戦。ミルコはマーク・ハント、ノゲイラ、ハリトーノフのいずれかとの大勝負実現が濃厚だ。

『PRIDE』が誇る2大スターは、大晦日、さらなる輝きを放つ！

ARITONOV

「ヒョードル、ミルコと闘う準備はもうできているよ」

打倒ヒョードルへの“最後の刺客”として期待されるハリトーノフが、10・23ファブリシオ戦を苦しみながらもクリア。ケガの状態次第では、早ければ大晦日の『PRIDE男祭り』でヒョードル、ミルコらとの大一番が組まれるとも噂される渦中のハリを直撃した!!



柔術王ファブリシオに辛勝
次はいよいよ“大一番”か!?

聞き手／堀江ガンツ
撮影／菊池茂夫
試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

――腕を吊っていますけど、ケガのほうはどんな状態なんですか？

ハリトーノフ　まだかなり痛いよ。昨日の試合開始直後に背中の筋肉を痛めてしまって、試合後、ドクターに応急処置は施してもらったけど、まだ病院には行ってない。レントゲンを撮ったりといった精密検査や、具体的な治療はモスクワでしてもらうつもりだよ。

――そのケガというのは、ファブリシオのテイクダウンをこらえたときに痛めてしまったんですか？

ハリトーノフ　テイクダウンをこらえたというより、自分から投げ技を仕掛けていったんだけど、そのときに痛めてしまったんだ。でも、スポーツにはこういったアクシデントがつきものだからね。今回のボクにとっての最大の目標は「勝つ」ということだったから、ケガを負いながらも最後まで闘い抜けたので、その意味では、目的は果たせたかなと思っている。

――ケガをした1ラウンド以降、左腕は動いたんですか？

ハリトーノフ　動かないことはなかったけれど、かなり痛みを気にしながらの闘いになってしまったので、なるべくスタンドで闘うようには務めたよ。もしグラウンドになったら、背中に負担がかかって、さらに悪化させてしまう危険性があったからね。

――対戦相手のファブリシオはブラジリアン柔術の達人ですけれども、もしアクシデントがなければ寝技での攻防もやっていましたか？

ハリトーノフ　もちろん、やっていたよ。今回もグラウンドで上になって攻めていける場面がいくつもあったけど、ケガをしたまま、彼と寝技をするのは、かなりのリスクをともなうので、スタンド勝負にしたんだ。

――ハリトーノフ選手の唯一の敗北は昨年のノゲイラ戦ですよね。そして今回、ファブリシオに苦戦したことで、ブラジリアン柔術家が苦手なんじゃないかという見方もありますが、本人的にはそういった意識はないわけですか？


ハリトーノフ　柔術家に対する苦手意識というのはとくにないよ。今回はケガのせいであういう闘いになっただけだし、ノゲイラにもべつに極められたわけじゃないしね。こういうことを言うと、言い訳に聞こえるかもしれないけど、今回は試合の2週間前にインフルエンザと扁桃腺をともなう病気にかかってしまって、本当は試合をキャンセルしようとも思っていたんだ。でも、パコージンさんと相談して、ボクの試合を楽しみにしているファンのために、リスクは承知でがんばろうということになったんだけど、やっぱり自分の思い通りに身体が動かなかったのは確かだよ。

――では、実際に闘ってみて、ファブリシオはどんな印象を持ちましたか？

ハリトーノフ　非常にいい選手だとは思うけれど、今回、ボクは彼にケガを悟られないように、なるべくコンタクトの回数を減らしたので、完全な評価をくだすことはできないね。本当なら自分としても、もっと攻めていきたかったんだけど、そういう状態にあったことを理解してほしい。

――今回、ハリトーノフ選手らしからぬ闘い方をしてでも、勝利を優先させたというのは、やはりタイトルマッチに到達するまで、負けることは許されないということからだったんですか？

ハリトーノフ　チャンピオンシップというのは、すべての選手にとって大きな目標でし



SERGEY KA

セルゲイ・ハリトーノフ

ょう。そこに到達するまで絶対に負けたくないというのは、当たり前だよ。

——ファブリシオはミルコのチームに所属しているので、次はミルコとセルゲイ選手にやってほしいというような話を試合後してましたけども、セルゲイ選手自身は、タイトルマッチへの〝最終関門〟としてミルコとやりたい気持ちはありますか？

ハリトーノフ　ミルコとも闘いたいし、ノゲイラとも闘いたいし、もちろんヒョードルとも闘いたい。誰とでも闘う準備はできています。ただ今はまずロシアに帰って、ドクターと相談しながらケガを治すことが先決だと思う。ケガさえ問題なければ、誰とでも闘うよ。

——では、ケガの状態が良ければ、大晦日に闘いたい気持ちはありますか？

ハリトーノフ　大晦日までに完璧な状態にできるようなら、もちろんやりたい。ただ、やるなら中途半端な状態ではなく、100%の万全な体調でやりたいという気持ちのほうが強いね。その相手がミルコやヒョードルといった素晴らしいファイターであるならなおさらだよ。

——いずれにせよ、セルゲイ選手が今後闘うべき相手はミルコであり、ヒョードルだと思うんですけど、8月にやった二人の闘いというのは、ご覧になりましたか？

ハリトーノフ　いや、まだ見ていないんだ。もちろん結果は知っているけどね。

——結果は予想通りでしたか？

ハリトーノフ　スポーツでは何が起こってもおかしくはないけど、ヒョードルが勝つだろうと予想はしていたよ。

——その予想の根拠はどこから導き出されたんですか？

ハリトーノフ　具体的に理由は言えないけど、ミルコとヒョードルのこれまでの試合を見てきて、ヒョードルとは一緒に練習してきた経験も踏まえて、ヒョードルが勝つだろうという予感はしていたよ。でも、ミルコも本当に強い選手だし、トレーニングも相当積んでくるだろうから、ミルコにも勝つチャンスは十分あるとは思っていたけどね。まぁ今回、『PRIDE』のスタッフにその試合のVTRをもらって、ロシアでじっくり見てみるよ。

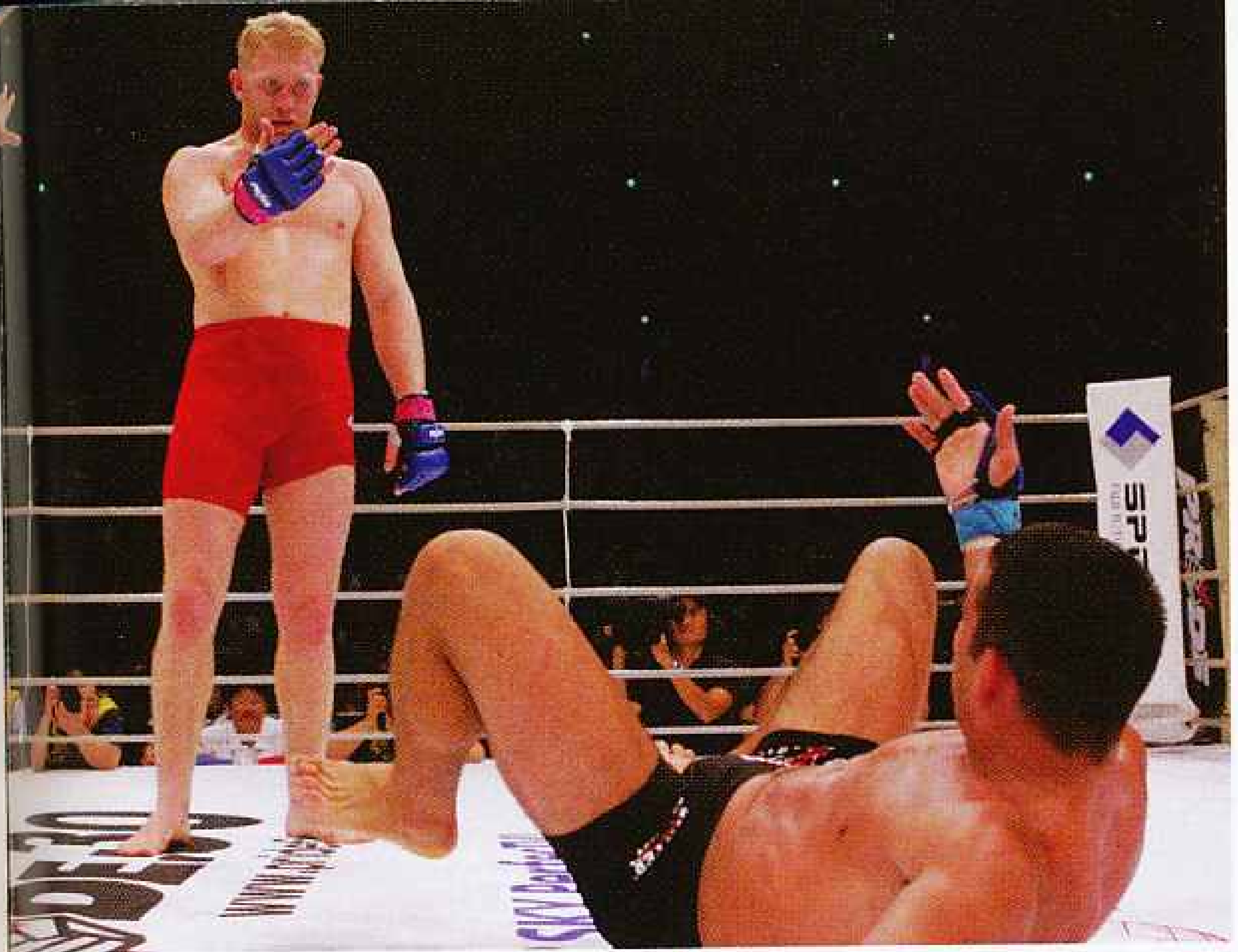
——それはもちろん将来の対戦に向けて？

ハリトーノフ　もちろん。

——チャンピオンになるために、ご自分ではあと何が必要だと思っていますか？

ハリトーノフ　じつはいま来るべきヒョードル戦を見据えて、グラウンドテクニックを磨いているところなんだ。

——グラウンドですか？　ヒョー



［PRIDE.30］

○セルゲイ・ハリトーノフ vs ファブリシオ・ヴェウドゥム×

(3R 判定 2-1)

PRIDEヘビー級王座次期挑戦者をうらなう意味合いもあった、マニア注目の一戦は、ハリがスタンド、ファブリシオがグラウンドと自分の"陣地"だけで闘おうとする噛み合わない展開に。ほぼ、互角の内容だったが、3ラウンドにようやくクリーンヒットしたハリの右フックが勝敗を分けたか。

SERGEY KARITONOV



ブラジリアン柔術に対する苦手意識はない ケガがなければ寝技で勝負してもよかった

ドルはいま打撃がかなり上達してますけど……。

ハリトーノフ　だからこそ寝技が必要なんだ。ヒョードルはスタンドの動きが速いのでKOするのはなかなか難しいだろうし、寝技の展開になるのは避けられない。そのためにエカテリンブルグのリングス・センターでニコライ・ズーエフ、アンドレィ・コピィロフ、アレクサンドル・ヒョードロフというサンボ界のレジェンドに集中特訓を受ける予定で、今回のファブリシオ戦もグラウンドでやってみたかったんだけれど、ケガのおかげでできなかったということだね。

——今回も試合前にエカテリンブルグで練習を積んできたんですか？

ハリトーノフ　ああ、エカテリンブルグでもトレーニングを積んできたし、それとは別に最近引っ越しをして、ニンシンアウトスクというところでもトレーニングをしてきたよ。

——そのニンシンアウトスクというのはどのへんにあるんですか？

ハリトーノフ　シベリアだね。モスクワから3500キロぐらい離れていて、飛行機で3時間ぐらいのところにある。でも、引っ越しした場所はこれまで住んでいたトゥーラと比べると非常に寒くて、まだ環境に慣れてないので風邪をひいてしまったんだと思う（苦笑）。

——体調不良の原因は引っ越しにありましたか（笑）。

ハリトーノフ　でも、すぐに適応できると思うから、次回は必ずファンに喜んでもらえるような試合をするつもりだよ。

——ちなみになんで急に引っ越ししたんですか？

ハリトーノフ　じつはそこに新しいスポーツセンターが完成して、トレーニングする環境が整ったということと、ボクが住むためのアパートをプレゼントしてもらったんで、今後はそこを拠点にしようと思ったんだ。

——アパートは誰からプレゼントされたんですか？

パコージン（RTT総監督）　じつは以前、セルゲイと同じ空挺部隊に所属していて、現在はビジネスで成功している大人物がいるんだが、彼はセルゲイの友人であり大ファンでもあるので、セルゲイのサポーターのような形でプレゼントしてくれることになったんだよ。そこにできたスポーツセンターも非常に素晴らしい建物なので、ぜひまた日本から取材に来てほしい（笑）。

——それはぜひ行きたいですねぇ（笑）。

パコージン　周りは自然がたくさんあって石油もたくさんあるので、きっと気に入ってもらえると思う。

——石油は関係ないと思います（笑）。

パコージン　ニンシンアウトスクにはもう一つ良い点があって、それはエカテリンブルグからあまり離れていないということが挙げられる。だから今後セルゲイは地元でもトレーニングできるし、エカテリンブルグでもトレーニングができるようになる。

——では、いよいよチャンピオンになるための環境が整ってきたと。

パコージン　そういうことだ（笑）。

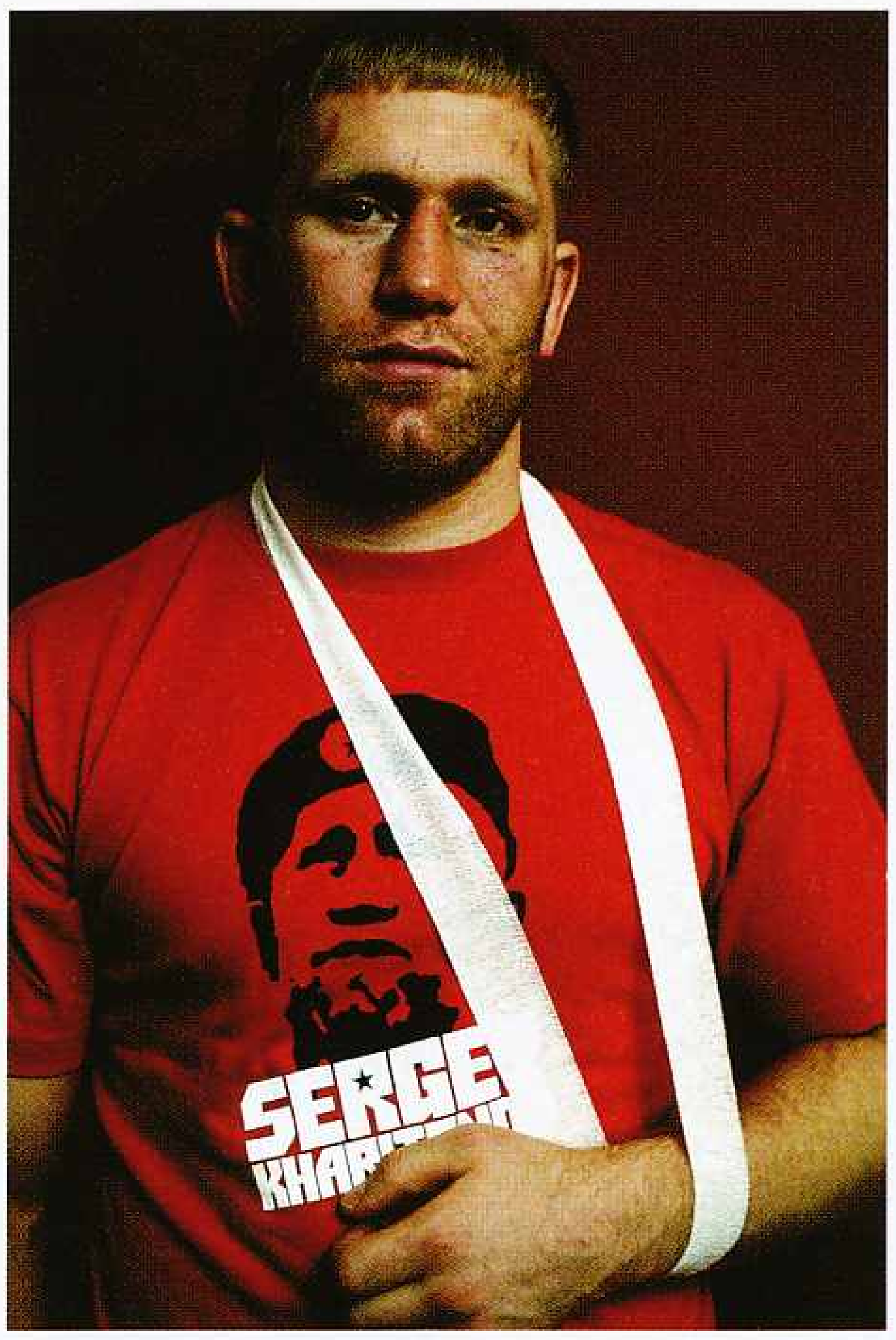
——ところでハリトーノフ選手と並んでロシアン・トップチームの2大エースと言われるヴォルク・アターエフが日本に来る予定はないんですか？

パコージン　近々、日本で試合をさせるつもりだよ。じつはアターエフは先月もシベリアで総合格闘技の試合をして強い勝ちかたをしたばかりだ。これからアターエフもセルゲイ共々、エカテリングルグで特訓を積む予定なので期待してほしい。

——わかりました。期待してます！

【05年10月24日／都内・某ホテルにて収録】

じつはいま、来るべきヒョードル戦に向けて寝技の技術を磨いているところなんだ



1980年8月18日、ロシア・アルハンゲリスク出身。"ロシア軍最強の男"の異名を持つRTTのエース。その任務を淡々と遂行するような情け容赦ない闘いぶりは、多くの対戦相手から怖れられている。来年はいよいよ因縁のヒョードルに挑戦か。192cm、106kg。

10.23 PRIDE.30 DIGEST



○瀧本誠 vs ユン・ドンシク×
（3R 判定 3-0）
日韓柔道王対決。瀧本は袖の短い柔道着、ユンは上半身裸で登場。1Rはハイレベルな寝技の攻防で沸かせたが、2～3Rで膠着が目立ち、瀧本は判定勝ちするも客席からは厳しい反応。



○ジェームス・トンプソン vs アレクサンドル・ルング×
（1R2分13秒 TKO）
柔道等で脅威の実績を誇るルーマニアの組技王ルングがトンプソンと怪獣対決。いきなり豪快なフックでダウンを奪うも、すぐにスタミナ切れを起こし、ガフアリっぷりを見せつけた。



○ムリーロ・ニンジャ vs ムラド・チュンカエフ×
（1R3分31秒 ヒールホールド）
ゴールデン・グローリー所属のロシアのレスラー、チュンカエフが初参戦。実力者ニンジャを相手に予想以上の善戦するも、最後は流れるようなヒールホールドにタップアウト。



携帯サイト「紙のプロレスHand」も、
12月1日よりリニューアルして生まれ変わります!
プロレス&格闘技情報量No.1携帯サイトがさらにパワーアップ!!

kamipro Hand

フォーッ!!

月額 315円(税込)

プロレス・格闘技のニュースを続々配信! 初心者からマニアまで満足するHandオンリーのコラムも毎日更新中!!
本日の「ハッスル・マニア」詳報ほか、Handでしか手に入らないイラスト待画を取りそろえてお待ちしてます!!









携帯サイト「紙のプロレスHand」への簡単アクセス方法

1. QRコードでクイック・アクセス!!
2. http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス
3. hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

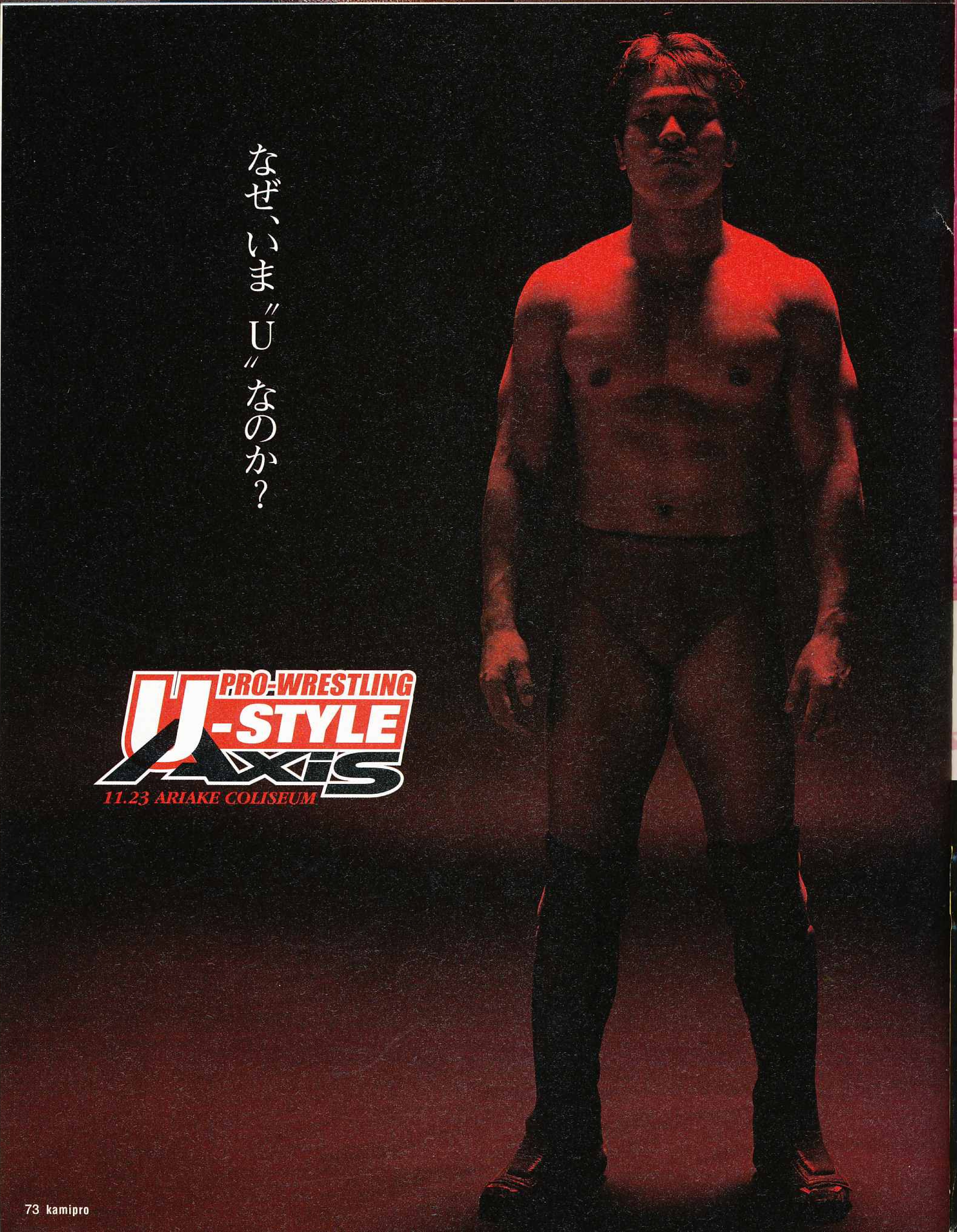
DoCoMo	iMenu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

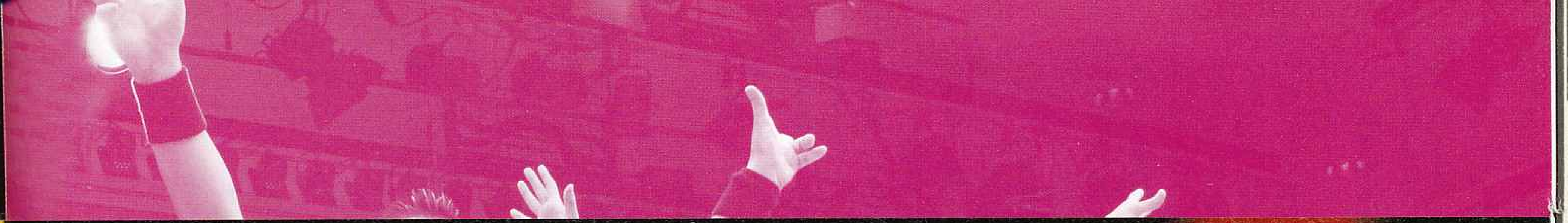
kamipro Hand

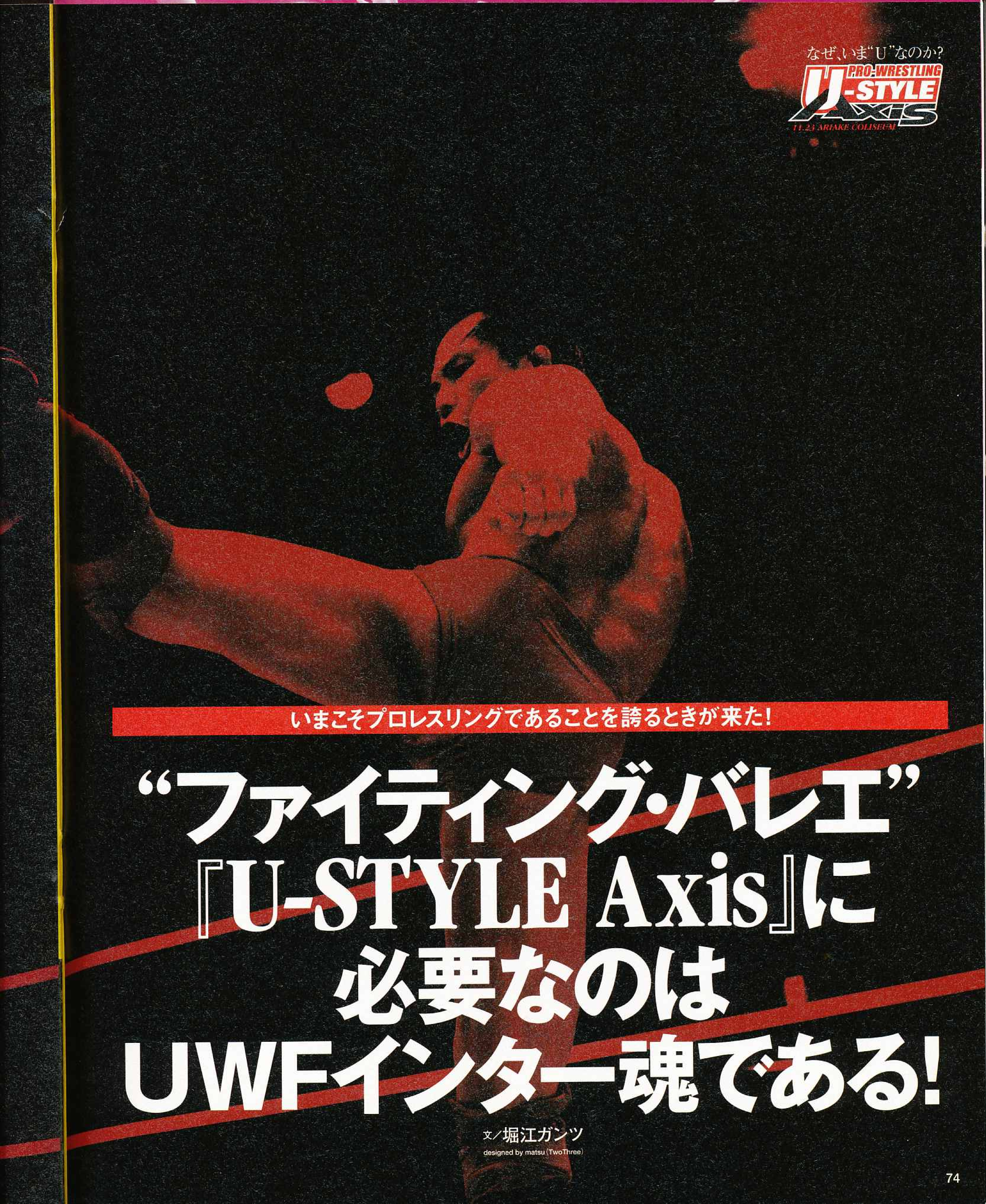
[QRコード]

リニューアルを記念して超豪華プレゼントを企画中! 『PRIDE男祭り』チケット予約もHandでチェック!!

[お問い合わせ] (株)ダブルクロス 03-5368-1795


なぜ、いま"U"なのか?
PRO-WRESTLING
U-STYLE
AXIS
11.23 ARIAKE COLISEUM





いまこそプロレスリングであることを誇るときが来た!

"ファイティング・バレエ"『U-STYLE Axis』に必要なのはUWFインター魂である!

文/堀江ガンツ

designed by matsu (TwoThree)

なぜ、いま〝U〟なのか?

DSEが協力する形で11月23日に『U―STYLE Axis』という大会を有明コロシアムで開催すると発表された時点で、そう疑問に感じた人は少なくないだろう。

U＝UWFとは、そもそもプロレスの原点回帰としてスタートし、真剣勝負へと変わっていく過渡期のものと思われてきた。それがUWFが団体というより、〝運動体〟と呼ばれたゆえんだ。そして、それはパンクラスの出現、さらには現在の『PRIDE』の隆盛によって、〝運動体〟としての〝U〟の役目を終えたと言える。

その役目が終わったはずの〝U〟をいままた蘇らせるのは、時代に逆行しているのではないか。『PRIDE』が隆盛を極め、ハッスルがついにブレイクしたいま、UWFとはすでに時代の〝遺物〟であり、必要とされていないものではないのか、そんな意見も数多く聞こえてくる。

そういった疑問を解消する上でも、『U―STYLE Axis』は旗揚げ前にハッキリと宣言しておくべきだろう。我々がやろうとしているのは、UWFの〝復活〟ではありません、と。

これまでのU系というのは、プロレスでありながらも、真剣勝負へと〝進化〟していくというベクトルを持っていることがアイデンティティであった。だからこそ、『PRIDE』という真剣勝負のメジャーな舞台が浸透したとき、時代の中での役目を終えて消えていったと言える。

しかし、今回の『U―STYLE Axis』に〝真剣勝負への進化〟というベクトルはそもそも存在しない。逆にプロレスリングであることにこだわることで、格闘技の技術の攻防を〝魅せる〟という部分を進化させていこうというのだ。

じつを言うと、〝回転体〟と呼ばれる田村潔司独特の動きも、そういった〝魅せる〟ことを前提とした技術の進化によって生まれてきたものである。右腕を取ると見せかけて、素早く逆の左腕を取る。その急カーブでギアを次々とチェンジさせるスポーツカーのような闘いぶりは、確実にUWFをスペクタクルなものに進化させてきた。ヴォルク・ハンの変幻自在な関節技の数々もまた同じである。

ただ、そういった動きは、グレイシー柔術や、バーリ・トゥードの普及によって〝無駄な動き〟であるという見方が広がってしまった。

たしかに関節技を極める、または勝つことだけが目的であるならば、相手の動きを制し、最小限の動きで極めるのがもっとも機能的であり、高度な技術なのであろう。

では、〝回転体〟やハンの複雑怪奇なサブミッションは高度な技術ではないかと言えば、もちろんそんなことはない。バーリ・トゥード向きではないというだけで、間違いなく至高の技術なのである。

〝バーリ・トゥード〟、〝真剣勝負〟といったフィルターがあることで、こういった高度な〝U〟のテクニックが正当に評価されない。そのジレンマを解消するために生まれたのが、〝真剣勝負への進化〟というベクトルを捨て去った、〝プロレスリング〟U―STYLEなのである。

つまり『U―STYLE Axis』が復活させようとしているのは、真剣勝負への道という〝Uの概念〟ではない。UWFの持っていた〝スタイル自体の価値〟を復活させようとしているのだ。

ヴォルク・ハンはリングスが〝U〟の流れを汲んだスタイルから純総合格闘技であるKOKに変わったとき、「美しい技が見せられなくなる」と嘆いた。これはハンが、リングスで「勝つ」ということより、「魅せる」ということを上位において闘っていたことの証拠である。

このヴォルク・ハンのように総合格闘技でも勝てる実力と技術を持った選手たちが、試合によってその技術の芸術点を競う場。それが『U―STYLE Axis』なのである。

だから、このU―STYLEを「真剣勝負にもエンタメにも針を振り切れない中途半端なもの」と言うのは間違いだ。U―STYLEは格闘技の技術をエンターテインメントとして観客に魅せることにしっかりと針を振り切っているのである。

誤解を恐れずに言えば、U―STYLEのベクトルは『PRIDE』ではなく、ハッスルと同じ方向を向いていると言ってもいい。ハッスルが言葉のやりとりと闘いで物語を紡ぎ出す〝ファイティング・オペラ〟ならば、U―STYLEは言葉を必要とせずに感情や意思を表現する格闘芸術、〝ファイティング・バレエ〟とでも言うべきものなのである。

さて、その11・23『U―STYLE Axis』だが、チケットの売れ行きは苦戦しているらしい。

それはそうだろう、いまは田村潔司の〝ファイティング・バレエ〟の鑑賞の仕方をわかっている人にしか向けていないのだから。

U―STYLEがかつてのUWFのように、多くのファンを熱狂させるためには、逆説的ながら〝闘い〟〝ケンカ〟〝勝負〟という要素を取り戻すしかないだろう。ただ、それは『PRIDE』のような闘いをするというのではなく、ケンカをプロレスに昇華させるという方法。

そう、かつて新日本に挑戦を迫り、一億円トーナメントなどで各団体にケンカを売った、UWFインターナショナルの〝ケンカ術〟こそ、いまのU―STYLEにもっとも必要な要素である。

そして、『PRIDE』でもハッスルでもない、プロレスによる大きな意味での闘いの場という、〝三角形の一角〟を作り出す。それこそがプロレスラー・田村潔司の使命であるといえるのだ。

11月23日、かつての〝U〟でも、従来のプロレスでも、総合格闘技でもない新ジャンル『U―STYLE Axis』が誕生する瞬間を見届けよ!



田村潔司

イリューヒン・ミーシャ

ロシアン・トップチームがU—STYLE Axisに全面協力!

11月23日、有明コロシアムに

リングスが立ち上る!

かつてリングスの頂点、『メガバトル・トーナメント』決勝を争った二人が再会! 11·23『U-STYLE Axis』に“ヴォルク・ハンの愛弟子”イリューヒン・ミーシャの参戦が決定。再び田村潔司と同じリングに上がることとなった。田村の“回転体”とミーシャの“コマンドサンボ”テクニックで、有明コロシアムに“リングス”が立ち上る!!

なぜ、いま“U”なのか?

PRO-WRESTLING U-STYLE Axis
11.23 ARIAKE COLISEUM

聞き手/堀江ガンツ
撮影/乾晋也
designed by matsu (TwoThree)



ミーシャは普段おとなしいのに、いざ試合になると強い。そのギャップが凄いよね（田村）

―今日は『U-STYLE Axis』旗揚げを前に、日本とロシアを代表する旧リングススタイル（UWFスタイル）のエキスパートである田村選手とミーシャ選手にお集まりいただきました！ お二人がお会いするのはいつ以来なんですか？

田村 いつかなぁ～。

ミーシャ もう長いこと会ってませんでしたよね。

田村 『PRIDE』の会場で見かけたりはしたけど、それぐらいだからね。

ミーシャ ボクたちはもともと一緒にお酒を飲みに行ったりするわけじゃなく、リング上での交流でしたから、試合が組まれないとなかなかお会いできませんよね。

―じゃあ、ちゃんとこうやってお話をするのは久しぶり……、というか、ちゃんとお話をしたことはあるんですか？（笑）。

田村 言葉が通じないからねぇ。ミーシャって何語だっけ？

―そりゃ、ロシア語でしょう（笑）。

田村 あ、そうか（笑）。

―でも、言葉は通じなくても、リング上では技と技の〝会話〟がすごくスイングしていた印象があるんですけど。

ミーシャ それは間違いないですね。ボクたちは目を合わせただけでわかるという感じです。タムラさんは非常にいい選手で、テクニックもスタミナもあったので、いつも奇麗な試合ができるので、闘うのが楽しみでした。いまも、『PRIDE』でタムラさんの試合があるときは見ていますし、応援してます。

田村 あ、ありがとうございます。

ミーシャ そして今回、ボクたちが愛したリングス（に近い）ルールでの大会に、ロシアを代表する選手としてオファーしていただいて本当にうれしく、光栄に思っています。オファーをいただけたというのは、ボクを信頼してくれたということだと思うので、その信頼を裏切ることのないよう、素晴らしいテクニックといい試合を見せようと思っています。



田村 ミーシャはまだカードは決まってないんだよね？

ミーシャ ええ。でも、誰とでも闘う準備はできています。

―会見では「髙阪選手と闘いたい」と言ってましたけど。

ミーシャ はい。コーサカとは一番闘ってみたいですね。彼はタムラさんと並んで、このスタイルのマスターですから。素晴らしい技術が見せられると思います。

田村 髙阪とミーシャの試合は凄い見たいなぁ。

―田村さんも見たいですか！

パコージン ミーシャはここ数年、試合はあまりやっていないが、毎日ハリトーノフと練習しているので、常に身体ができていて、いつでも準備万端の状態にあるんだ。いまも遠慮して脱がないが、いい身体をしているんだよ（笑）。

田村 締まってるもんねぇ。リングスの頃より、ちょっと絞ったりしたんでしょ？

ミーシャ そうですね。セルゲイと激しい練習をしているので、自然と落ちました。いま凄く動きやすいので、これがボクのベスト・ウェートだと思いますよ。

田村 いま何キロ？

ミーシャ 92キロです。

田村 おお！ 昔はもっと重かったよね？

ミーシャ たぶん、前は96～7キロだったと思います。

田村 試合から離れてても、きっちり絞ってるのはえらいなぁ。

―田村さんはリングス時代のミーシャさんの印象というのは？

田村 印象は、おとなしい人だなって感じ。普段は目立つタイプじゃないんだけど、いざ試合になると、サンボのテクニック、とくにグラウンドがうまいから、そのギャップが凄いよね。

―ミーシャ選手はハンやコピィロフみたいに、リングを降りたら下ネタばっかりって感じじゃないですもんね（笑）。

田村 ハハハハ、そうね（笑）。

パコージン ハンとコピィロフはいまも変わらず口を開けば下ネタばかり言っているよ（笑）。

―となると、田村さんはハンに近いタイプかもしれませんね。リング上では素晴らしい闘いを見せても、ジムでは35歳のセクハラ指導員ですからね（笑）。

（通訳さんがミーシャとパコージンに通訳する）

田村 そんなこと通訳しなくていいよ！（笑）。

―それはいいとして、田村さんとミーシャ選手といえば、97年にリングス・メガバトル・トーナメントの決勝を争ったんですよね。

田村 そうだね。

―あの試合は、お二人にとっても思い出深い試合ですか？

ミーシャ とても心に残っています。そのときは負けてしまったんですけど、ぜひ再戦したいです。

パコージン 当時、ミーシャは打撃があまりできなかったが、最近、セルゲイとの練習でかなり向上しているので、次に闘ったら、もっといい試合になると思うよ。

―田村さんって、ロシア勢との名勝負が多いですよね。

田村 そうねぇ。ミーシャでしょ、ハンでしょ。あといたっけ？

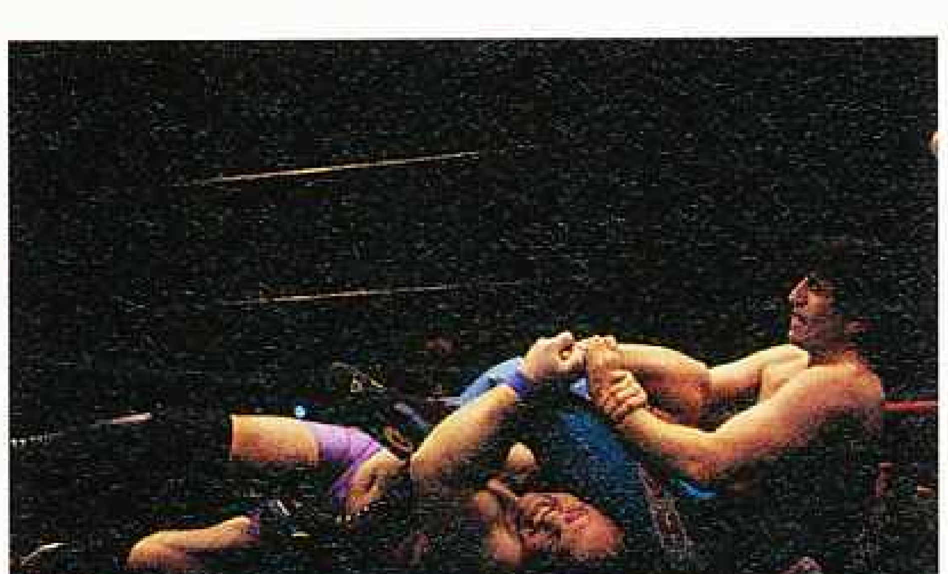
―ニコライ・ズーエフとの試合も良かったですし。

田村 ああ、有明でやったやつ。

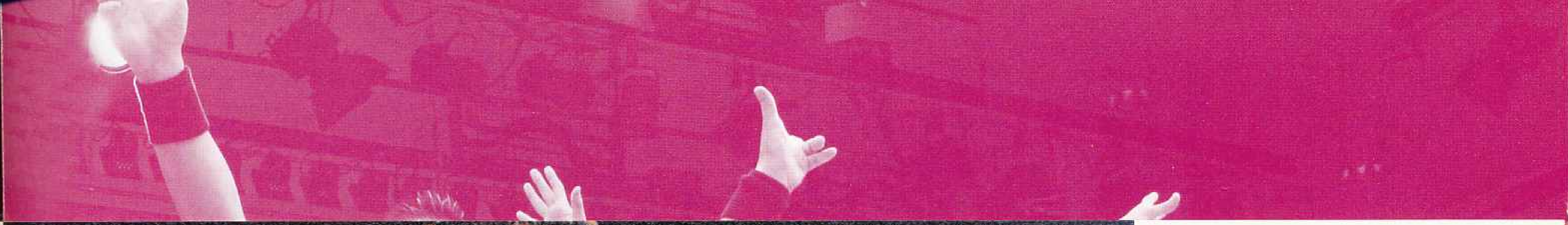
パコージン ヴォルク・ハンはまだ太ってもいないし、コンディションもいいから、ビジネスのスケジュールさえ合えば、試合に出られるかもしれない。2日後にモスクワで会う予定なので、そのときに話してみるつもりだよ。

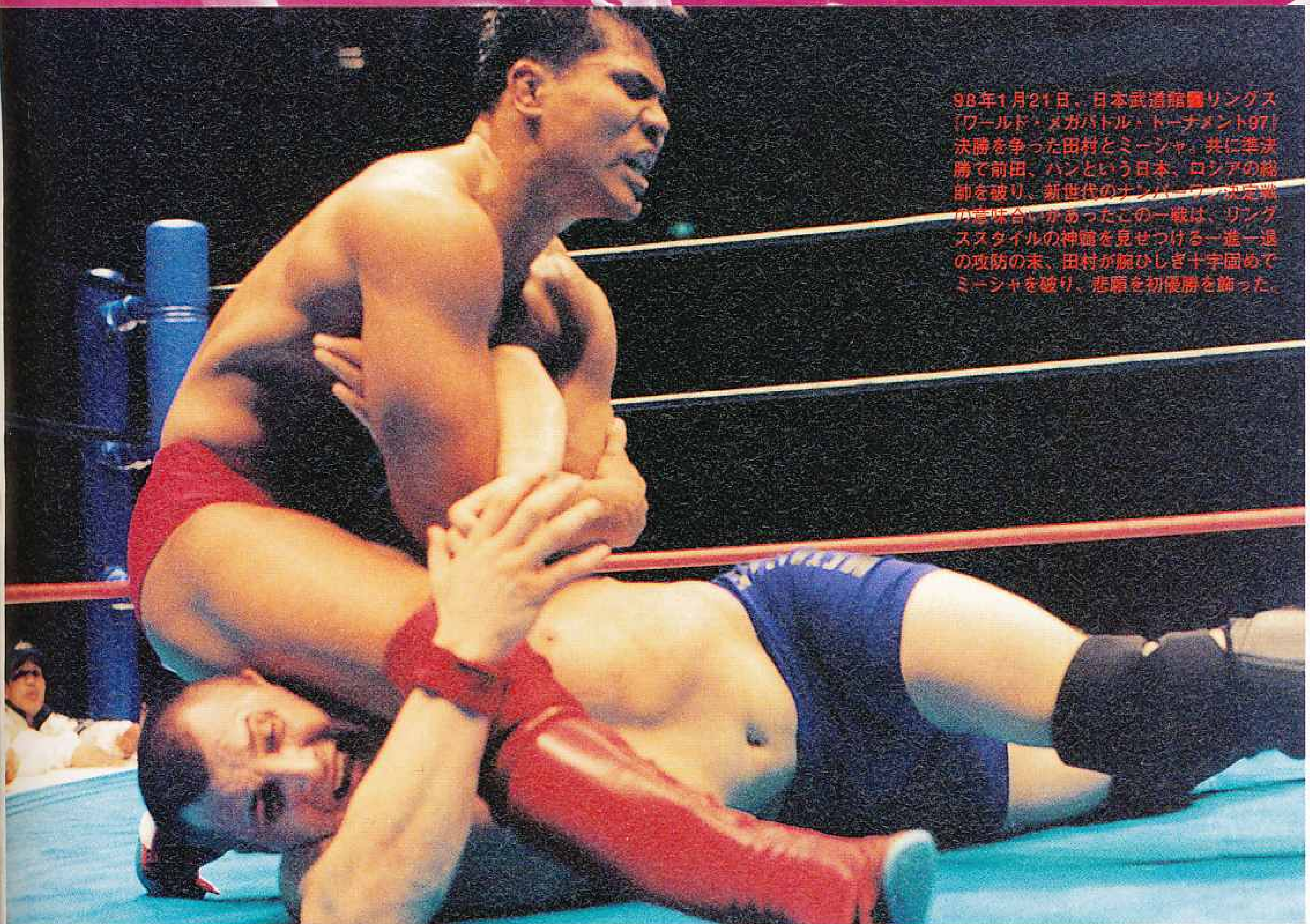
―それは楽しみですね！

パコージン でも、ズーエフはビジネスマンとして頑張っているが



02年2月15日、リングスラスト興行で最後の“リングススタイル”を魅せたハンとコピィロフ。今後、ファン待望の『U-STYLE Axis』参戦はあるのか!?





98年1月21日、日本武道館 リングス「ワールド・メガバトル・トーナメント97」決勝を争った田村とミーシャ。共に準決勝で前田、ハンという日本、ロシアの総帥を破り、新世代のナンバーワン決定戦の意味合いがあったこの一戦は、リングスタイルの神髄を見せつける一進一退の攻防の末、田村が腕ひしぎ十字固めでミーシャを破り、悲願を初優勝を飾った。



優勝した田村は初代リングス無差別級王座を獲得。翌年に引退を控えた前田日明（ハンを破り3位）に代わり、田村が名実共にリングスのエースとなった瞬間だった。

なぜ、いま"U"なのか?
PRO-WRESTLING U-STYLE Axis
11.23 ARIAKE COLISEUM

残念ながら体型が変わってしまって、もう試合はできない。いまはすっかり〝スモー〟だよ。

田村　スモー?　あ、相撲ね（笑）。でも、ズーエフさんは凄い建物（リングスセンター）を造ったんですよね?

パコージン　そう。エカテリンブルグに立派なスポーツ複合施設を造ったんだが、ズーエフの素晴らしいところは、あの施設を人々のため、ロシアのため、そして総合格闘技というスポーツの発展のために造ったということなんだ。そこが素晴らしい。今後、あの施設は全ロシアからスポーツ選手が集まって、トレーニングをするようになるだろうし、いま現在そういう面もある。ミーシャもそこでトレーニングするようになるし、そこで育った若い選手をU―STYLEのリングに送り込めたらと思っているよ。

――田村さんも、U―STYLEを大きくするにあたって、ロシアン・トップチームの協力があるのは、非常に心強いんじゃないですか?

田村　うん、そうね。

パコージン　ズーエフもタムラのことを非常に評価しているので、ぜひ我々もサポートしていきたいと思います。

――ところで、今回『U―STYLE　Ax·is』で旧リングスルールに近い試合が久々に行なわれると聞いて、率直な感想というのを聞かせていただけますか?

ミーシャ　自分たちのテクニックを見せる舞台ができたことに、まずうれしさでいっぱいです。凄く、大きな未来が開けてきたと思います。こういった大会を続けていけば、昔のファンだけでなく、新しいファンも徐々に増えていくと思います。

――ミーシャさんやハンさんを始めとするロシアの選手は、リングスが昔のスタイルからKOKに変わったとき、「昔の方がよかった」と。そういうお話をよくされてたんですけど、かつてのリングスタイル、U―STYLEの良さというのはどこにあると思いますか?

パコージン　私からいいかな?

ミーシャ　どうぞ（笑）。

パコージン　やはりこのルールの一番の素晴らしさは、ロープエスケープとダウンがあるということだね。どんな格闘家にも間違いを犯す権利はある。だから試合中に犯したひとつの間違いで試合が終わってしまうのではなく、その間違いを回復し、なんとか組み立て直して復活するというのは、選手にとっても観客にとってもいいことだと思う。

――ハンさんも、ロープエスケープがあることで、いろいろなテクニックを観客に見せることができるからいい、と言ってましたね。

パコージン　その通り。

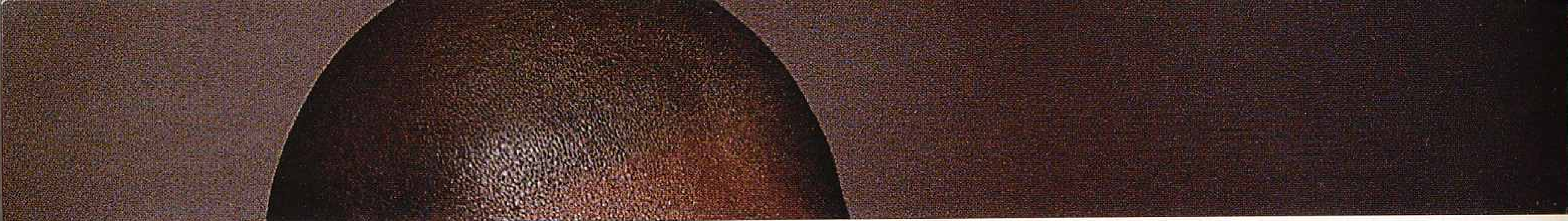
――田村さん的にはそのへんは同じような気持ちですか?

田村　う～ん、そうね。言葉の表現がちょっと違うだけで、思ってることはほぼ一緒だと思う。

ミーシャ　リングスタイルを経験した選手は、みんなわかり合えると思います。

――でも、ミーシャさんにしても、ハンさんにしても、コピィロフさんにしても、もともとサンボの国際大会とかで負けたら終わりというシビアな勝負の世界で生きてたわけじゃないですか。リングスだと、勝負も大事なんですけど、それ以上に試合内容が重要になってくると思うんですけど、そのあたりで最初は違和感はありませんでしたか?

ミーシャ　最初にリングスに上がったときは、やはり新しいスポーツなので慣れない部分はありましたけど、ボクにとっては違和感というより「こんな世界があったのか」という喜びのほうが大きかったですね。いま『PRIDE』だけで闘っている選手がこのリング（U―STYLE）に上がったら違和感があるかもしれませんが、ボク自身はリングスで慣れ親しんだルールだし、このルールのほうがスポーツ選手としての可能性を広げてくれるチャンスが多いと思う。たとえば、昨日の『PRIDE』でも1回のダウンで自分の良さを出す前に負けてしまった選手が何人かいましたよね。一度のミスが命取りになる、そこが『PRIDE』の厳しさであり、良さだと思うんですけど、昔のリングスだったら、10カ



ウント以内で立ち上がれば、もう一度チャンスが与えられ、その選手の良さを出すことができる。それだけ、試合も見応えあるものになると思うんです。

――選手の長所をより表現できる場であるということですね。田村さんは、なぜこのスタイルにこだわっているんですか?

田村　難しいこと聞かないでよ。さっきミーシャが、俺が思ってることを言葉で表現してくれたから、それでいいでしょ。

パコージン　ミーシャが言ったことにひとつ補足させてほしい。いま世界中で殺し合いだとかいろんなむごいことが起こってしまっているが、いま我々が出場している『PRIDE』のリングも一歩間違えたら、そういったことが起こり得る危険なルールです。でも、今回のU-STYLEはそこまで危険ではない。そして、世界中の多くの観客はむしろU-STYLEのような試合のほうが好きなんじゃないかと思う。

――それはどういったことでですか?

パコージン　たとえば、10年近く前、純粋なリングスとしての試合をエカテリンブルグで開催したとき、ロシアのファンはこのスポーツを本当に気に入ってくれたんだ。しかし、2000年に開催したときは、当時のリングス・ジャパンに合わせて新しいルール（KOK）で大会を開いたら、観客はあまり喜んでくれなかった。そして実際、面白くなくなったという意見があったんだよ。

――旧リングスルールに比べると、攻防が地味になりましたからね。それで引いちゃったと。

パコージン　だから8月にエカテリンブルグで大会を開いたときは、全試合の半分はエスケープのある旧リングスルールで行なったんだ。ハリトーノフ、アターエフはPRIDEルール、ミーシャはリングスルールといった形で観客に喜んでもらえたと思う。

ミーシャ　このルールの良さとして、もうひとつ言えるのは、何かに秀でた格闘家なら、誰でも参加できるということが、挙げられると思います。『PRIDE』だと寝技が得意でも打撃ができないと、すぐに試合が終わってしまう。その逆も言えて、要はあらゆる技術を身につけていなければならない。でも、昔のリングスはダウンとエスケープがあることで、空手家やサンビスト、ボクサーなど、いろんなジャンルの選手が参加できた。その一方でダウン、エスケープを5回も奪わなければならないので、それだけの技術を持っていなければなりませんけどね。

ミーシャが俺の考えを喋ってくれたから今日はいいや(笑)

このルールは選手の良さを引き出すことができる



たむら・きよし
1969年12月17日、岡山県出身。第2次UWF第一回入門テストに合格。以後、Uインター、リングスを渡り歩く生粋のU戦士。元リングス無差別級、現U-STYLE無差別級王者。180cm、87kg。

ウラジミール・パコージン
ロシアン・トップチームの総監督。一見、単なる冗談好きのロシア親父だが、本国では国家スポーツ省格闘技委員会副委員長、ロシア・サンボ連盟副会長を務める要人だったりする。

イリューヒン・ミーシャ
1966年11月21日、ロシア・トゥーラ出身。コマンド・サンボを武器にリングスで活躍したヴォルク・ハンの愛弟子。現在はRTTのヘッドコーチも務めハリトーノフらを鍛える。178cm、93kg。

――どんなジャンルの格闘家でも上がれる一方で、本当にテクニックを持っていないと上がれないリングであるということですね。

田村　ミーシャ、いいこと言うねぇ。全部ミーシャとパコージンさんが言ってくれたの、俺はもういいや（笑）。

――ちゃんとしゃべってくださいよ！　では、今度の『U-STYLE Axis』でどんな闘いを見せたいかということをお二人にうかがって終わりにしましょう。

ミーシャ　まず、タムラさんに「信頼してくださってありがとう」と感謝の気持ちを述べたいと思います。U-STYLEという方向性は多くのファンに支持される可能性を秘めているものだと思います。だから、ボクたちはいい試合を見せてファンを増やして、視聴率も高くなるように、協力していきたいと思います。

パコージン　私からもひと言いいかな？　ハン、ミーシャら衰えを知らないベテランだけでなく、今度ロシアに帰ってまた新しいファイターを発掘したいと思います。ただ10年前のロシアといまとでは変わってしまったので、いい選手を探すのは難しくはなっているけれども、絶対にこのスポーツに参加したいという優秀な選手はいると思うので、タムラやDSEの信頼を裏切らないよう、私も頑張るつもりだよ。

――では、最後に田村さん。

田村　頑張ります。

――最後にそれだけですか⁉（笑）。

田村　もうパコージンさんがたっぷりしゃべってくれたから十分でしょう（笑）。

パコージン　なんだったら、もう1時間ぐらい話そうか？（笑）。

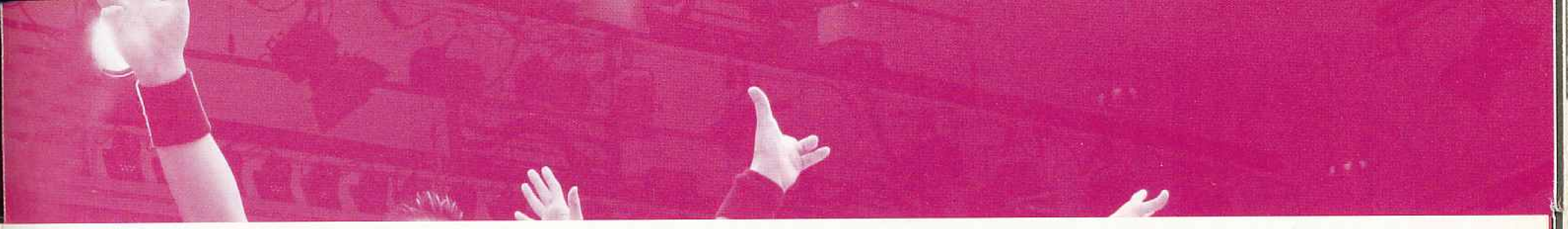
――いえ、それはまたの機会に（笑）。では、11月23日の試合に期待してます！　パコージンさんは、ぜひヴォルク・ハン選手を連れてきてください。

パコージン　2日後に会うのでスケジュールを聞いてみよう。そして、もしハンが来られなかったら、私が代わりにリングに上がろうと思う（笑）。

――ダハハハハ！　期待してます！（笑）。

【05年10月24日／青山・DSEにて収録】





――ジョシュ選手には前号で電話インタビューさせていただきましたけど、『kam・ipro』では、こうやってちゃんとインタビューするのは凄く久しぶりなんですよ。

ジョシュ　それはボクがシンニホンと契約してるからでしょ?

――あ、よくご存知で(笑)。でも、今回は『PRIDE』、U-STYLE仕切りということで、久々に念願のインタビューをさせていただきたいと思います!

ジョシュ　OK!

――では、11・23『U-STYLE Axis』の話をする前に、昨日のミルコ・クロコップ戦について少しうかがいたいんですけど。残念な結果に終わってしまいましたが、ご自身としてはどのような感想を持ちましたか?

ジョシュ　昨日のミルコ・クロコップ戦は自分がいるべきところまで体力的な面で追いついていない、それを痛感させられた試合だったね。『PRIDE』のトップクラスで闘うには、まだまだやらなければいけないことがたくさんあると思ったよ。ただ、それは時間をかければ解決することだから、来年春の『PRIDE GP』までには100%のコンディションに戻して、今回ガッカリさせてしまったプロレスファンを今度こそ喜ばせたい。

――昨日の試合についてはいろんな評価がありますけど、負傷明けの1年ぶりの試合でミルコと互角に闘ったというのは、改めてジョシュ・バーネットのポテンシャルの高さを証明したとは思いますよ。

ジョシュ　たしかに昨日の試合はケガからの復帰戦としては非常にタフな相手だったと思う。事実、多くの人から「まだ早いんじゃないか」と言われたけれど、ボクとしては「いまリングに戻らずして、いつ戻るんだ」という気持ちで戻ってきたんだ。そして、この試合に備えてモーリス・スミス、マット・ヒュームといった素晴らしい先生たちと一緒にトレーニングしてきたので、ミルコの打撃に対応する準備は完全にできていた。ただ、ミルコと闘える準備はできていても、勝つためにはそれ以上のものが必要だったと思う。それはケガからの回復もあるし、自分のスタイルの改善も必要でしょう。逆にボクから聞きたいんだけど、昨日の試合内容は率直に言ってどう感じました?

――そうですねぇ、ミルコとジョシュだったら、もっとエキサイティングで面白い試合にできるんじゃないか、思ったより地味な展開になっちゃったなというのが正直な感想ですね。

ジョシュ　なるほど。おっしゃる通りだと思う。ボク自身、勝てなかったことはもちろん残念だったけど、それ以上に、ファンがわくわくドキドキするよう







なぜ、いま"U"なのか？

PRO-WRESTLING U-STYLE Axis
11.23 ARIAKE COLISEUM

"青い目のU信者"ジョシュ・バーネットが語る

真説 UWF論

UWFとは物理的なものではない。概念であり、情熱である——

自らを「UWFの大信者」と公言するジョシュ・バーネットが、ついに"U"のリングに登場！ 11・23『U-STYLE Axis』で、いきなり田村潔司と"U魂"をぶつけ合うことが決定した。ある意味、UWF出身の選手以上にUに対するこだわりがあるジョシュ。"青い目のU信者"にUの魅力と、その定義について、おおいに語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

designed by matsu（TwoThree）

な試合にできなかったことが悔しいんだ。みんなの望んでいるジョシュ・バーネットを見せられなかったことが一番つらいね。

——やはりお二人ともに「負けられない」という意識が大きかったからなんでしょうか？

ジョシュ　まあ、正直言ってそういう気持ちがなかったとは言えない。でも、「負けないための試合」というのはプロのファイターがもっともやってはいけないことだし、勝つためには「負けられない」という感情以上のものが必要不可欠なんだと思う。それがわかっていながらできなかったのは、やっぱりトレーニング不足、準備不足というのが一番の原因でしょう。だから今回の敗因は試合中よりむしろ、試合前にあったと思う。

——では、来年のGPこそ、勝ちにいかないと、上にはいけない大会ですから、本来のジョシュ・バーネットを期待してますよ。

ジョシュ　ありがとう。昨日のミルコ戦というのは、これからの自分の再起をかけた道のりの第一歩だと思う。だからこの負けを糧として、次に決まった11・23『U－STYLE Ax·is』では、さらに自分の持っている潜在能力を発揮できるように頑張るよ。そしてファンにはこのU－STYLEで私が何者であるか、まだファンが見ていないボクの新しい面を見てもらいたいと思っているし、ボクの持っているUWF魂というものをお見せしたいと思う。

——わかりました。では、ここからは『U－STYLE Ax·is』について聞いていきたいと思います。

ジョシュ　OK。UWFについてなら、いくらでも話せるよ（笑）。

——ジョシュ選手が大のUWFファンだということは有名ですけど、もともとどんなきっかけで好きになったんですか？

ジョシュ　1994年のUWF・I（インター）『プロレスリング・ワールド・トーナメント』。これを観た瞬間からUWFに夢中になってしまったんだ。ボクが最初にビデオで見たのは、その準決勝であるタカダvsゲーリー・オブライト、タムラvsベイダー、この2試合がボクのその後の人生を変えたと言っても過言じゃない。

——そこまで大きな衝撃を受けましたか（笑）。

ジョシュ　だってそれが、いまのプロレスラー、ジョシュ・バーネットに繋がっているんだからね。あの2試合を観て以来、ボクはUWFに関するものは、知らずにはおけない、もう集めずにはい





られなくなって、UWF・Iだけじゃなく、シンセイUWF（新生UWF）、リングス、フジワラグミとUの遺伝子を継いだものはすべてビデオテープを取り寄せて、ずっと観てきたんだ。

――その中でもUインターがナンバーワンなんですよね？

ジョシュ　YES！　ただ、UWF・Iがナンバーワンではあるけど、それはあくまで94年末までの〝前期〟の話であって、後期はタムラvsサクラバなど素晴らしい試合も中にはあったけど、6人タッグとかUWFらしくない試合が多くて、「どうしちゃったんだ⁉」って感じだったよね。

――あ、ザ・コブラやWAR勢が出ていた後期はお気に召さない（笑）。

ジョシュ　やっぱりUWF・Iはミヤト時代が一番だよ！

――ダハハハ！　宮戸優光さんがマッチメイカーだったことも知ってるんですね（笑）。

ジョシュ　当たり前だよ（笑）。ミヤト時代はタカダを頂点にオブライト、ベイダーなど、日本人、ガイジン両方ともいい選手がたくさんいて、マッチメイクも素晴らしかった。あのころのUWF・Iはボクにとってパラダイス、楽園みたいなものだね。面白いものがなんでも揃っていて、ホントにわくわくしたんだ。

――たしかにあのころのUインターはメンバー的にも充実していたし、団体にエネルギーが溢れてましたよね。

ジョシュ　あの時代をリアルタイムで観られた日本のファンが本当に羨ましいよ（しみじみと）。キミはその頃、観ていたの？

――もちろん観てました（笑）。

ジョシュ　いいなぁ～。どの試合が一番好きですか？

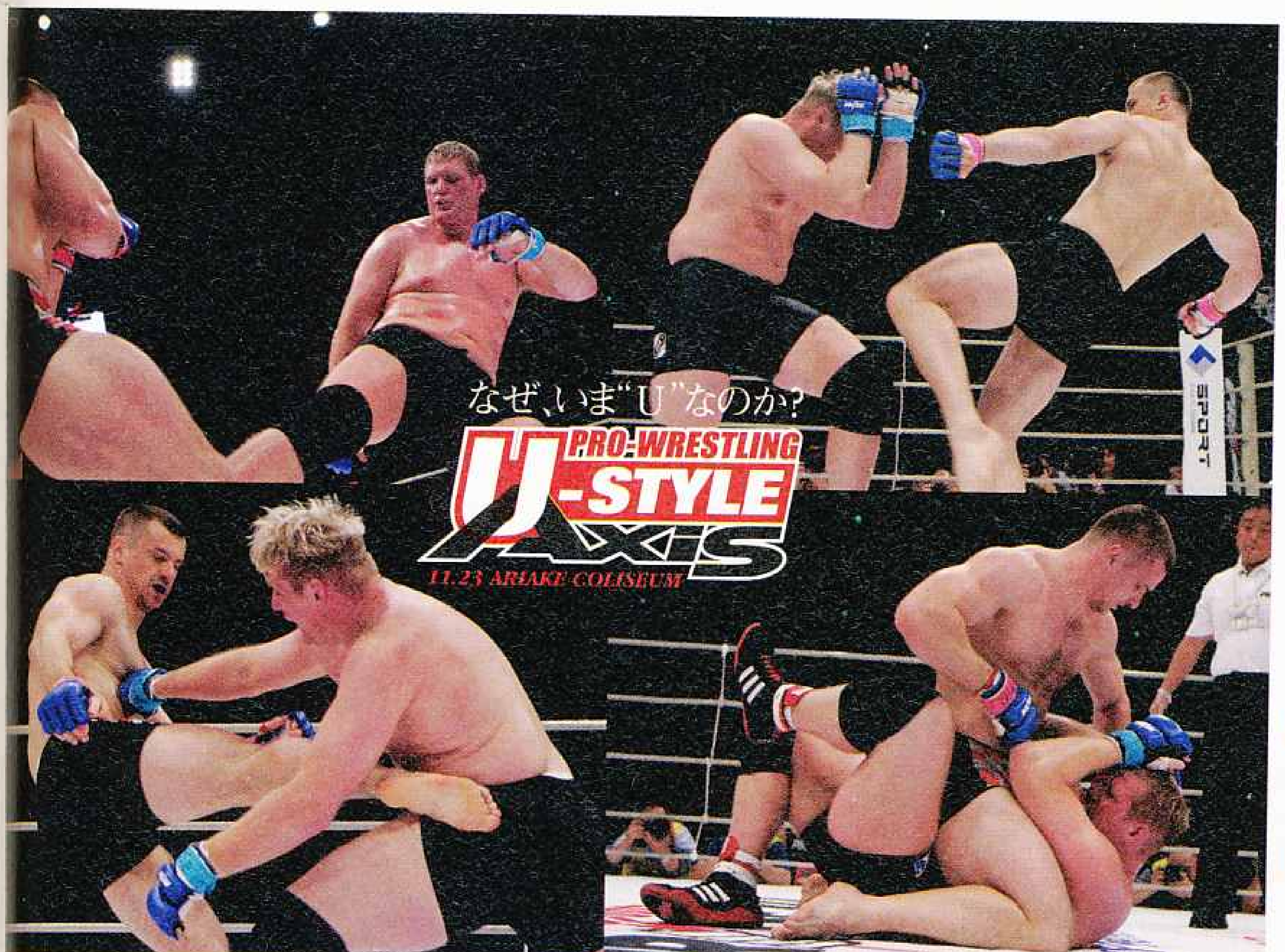
――あ、ボクですか？　そうですねぇ……ボクは高田vsオブライトが一番好きですね。

ジョシュ　いつのタカダvsオブライト？

――92年の9月に大阪でやった、髙田さんが勝って、プロレスリング世界ヘビー級王者になった試合です。

ジョシュ　ああ、あの試合は凄かったよね！　でも、ボク個人的には94年のワールド・トーナメント準決勝が一番だな。タカダがハイキックでオブライトをダウンさせて、そのまま腕十字を極めた、あのフィニッシュのムーブは

ミルコ戦は結果以上にファンがわくわくドキドキするような内容にできなかったのが悔しいよ



ジョシュにとっては1年ぶりに巡ってきたリベンジの機会。前回同様、ミルコの間合いを潰して、打撃を殺していったが、そのから先の攻め手がなく、フルラウンド闘っての判定負け。しかし、1年ぶりの試合でミルコ相手にここまでできるジョシュへの期待感は、さらに高まったとも言える。

最高だよ！（興奮気味に）。

――フィニッシュのカッコ良さでこちらが上ですか（笑）。

ジョシュ　それから、サクラバとカキハラが組んでスティーブ・ネルソン&ジーン・ライディックと闘った試合。あの試合で見せたサクラバのジャーマン・スープレックス！　あれはテレビの前で歓声をあげてしまったよ！

――そのタッグマッチが出てくるのは、相当なマニアですよ（笑）。

ジョシュ　あとねあとね、シンセイUWFのハカタ（博多）でやったフナキvsナカノ！　も～う、あれはホントにスゴイマッチ！（日本語で）。

――あの掌底でバシバシやり合った試合ですね（笑）。

ジョシュ　そうそう！　ナカノが鼻血をぶぁーっと出してね。あれは興奮したなぁ（遠い目で）。

――じゃあ、そんなジョシュさんが選ぶ、UWF名勝負ベスト3はなんですか？

ジョシュ　そうだなぁ……、まずタカダvsオブライトでしょ。それからマエダvsタカダ、ブドーカンでやったタカダが1年ぶりのリマッチで勝ったやつね。

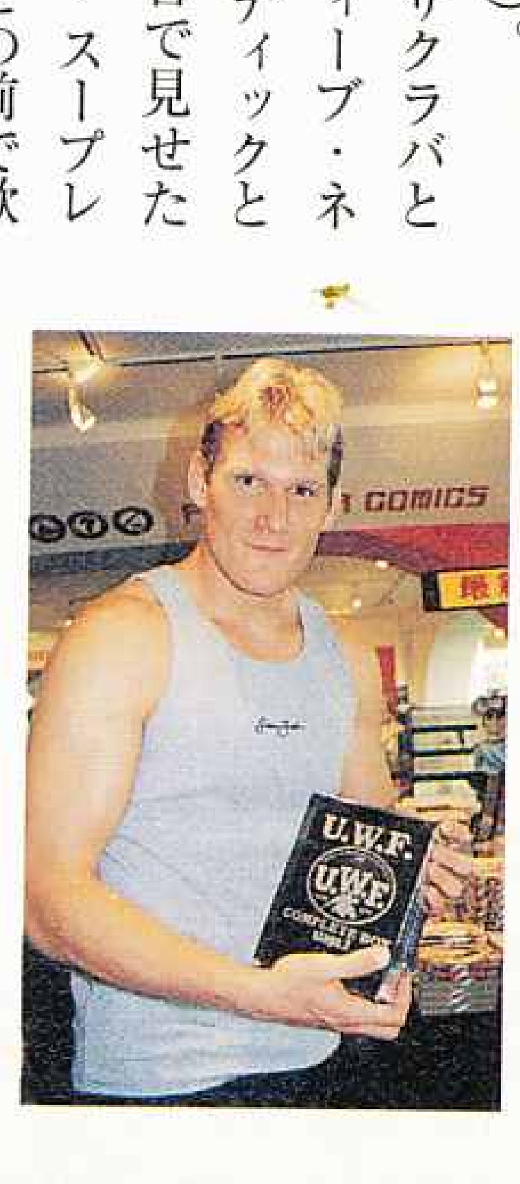
――あの裏アキレス腱固めで勝ったやつ（笑）。

ジョシュ　YES！（笑）。あともう一試合は……ムズカシイね。たくさんあるからなぁ……でも、やっぱりさっき言ったカキハラとサクラバがタッグを組んだ試合かな。

――以前はワールド・トーナメント決勝の高田vsベイダーが一番だと言ってませんでしたっけ？

ジョシュ　ああ、それもあったな！　あの試合も凄い試合だよ。ボクはタカダの大ファンなんだけど、あのときタカダが絶対に勝つと思ってたのに、ベイダーハンマー（腕パンチ）の連発でベイダーがTKO勝ちしたんだよね。たぶんあの頃のベイダーは一番コンディションも良くて、彼がUWFの中で一番輝いた時期だったと思う。とにかく素晴らしい試合が多すぎて、どれかひとつを選ぶというのは非常に難しいんだ。ボクはいまでもUWFのDVDを毎回毎回観ているので、質問されたときの一番最近観た試合を選びがちなんだよ（笑）。

――ジョシュさんのU信者ぶりはよ～くわかりました（笑）。でも、80年代末から90年代前半にかけて全盛を極めた〝U〟が、いま下火になってしまったのは『PRIDE』やUFCが出現したことが一番の原因だと思うんですけど。そういった時代の流れをジョシュ選手はどのように感じていますか？



以前、日本に来たとき、UWFのDVD BOXを発見し、大喜びしていたジョシュ。今度リングスのBOXが発売されることを教えてあげると、「絶対買うよ！」と大興奮していた。





やっぱり"ミヤト時代"のUインターが一番！ ボクは"ミヤト祭り"を開きたいくらいなんだ

ジョシュ　たしかに、あんなに面白かったUWFが日本では下火になってしまったよね。その原因はなぜかと言えば、まずUWF・Iについては、ミヤトを使わなくなったことが大きな原因だと思う。途中で経営方針が変わってしまったのかもしれないけど、ミヤトが離れて以降、試合自体の面白さという純粋なものがだんだん失われていって、UWFが変質してしまったんじゃないかと思う。

――やっぱりキーパーソンは宮戸さんなんですね（笑）。

ジョシュ　ホントにミヤトのマッチメイクや選手の使い方はバツグンだった。ミヤトが離れてしまったのは、UWF・Iにとって ホントに大きな損失だと思うよ。しかも、ミヤトは引退試合もせずにリングを降りてしまったから、ボクはどうしてもミヤトに引退試合をやってほしいんだ。そのためにボクは『ミヤト・フェスティバル』というイベントを開きたいと思ってるくらいだから。

――ダハハハ！『猪木祭り』ならぬ『宮戸祭り』！

ジョシュ　ミヤトはそれぐらいUWFの歴史では重要な人だと思うよ。

――なるほど。では、リングスはどうですか？

ジョシュ　リングスがダメになった理由は個人的にはまったく思い浮かばないな。でも、人によってはマエダが引退してしまったからじゃないかと言われているので、たしかにそういう面もあるかなと思う。そして、いま騒がれている『PRIDE』やUFCに関しては、『PRIDE』というのは、ボク個人の考えではUWFの"分身"だと思っているんだ。

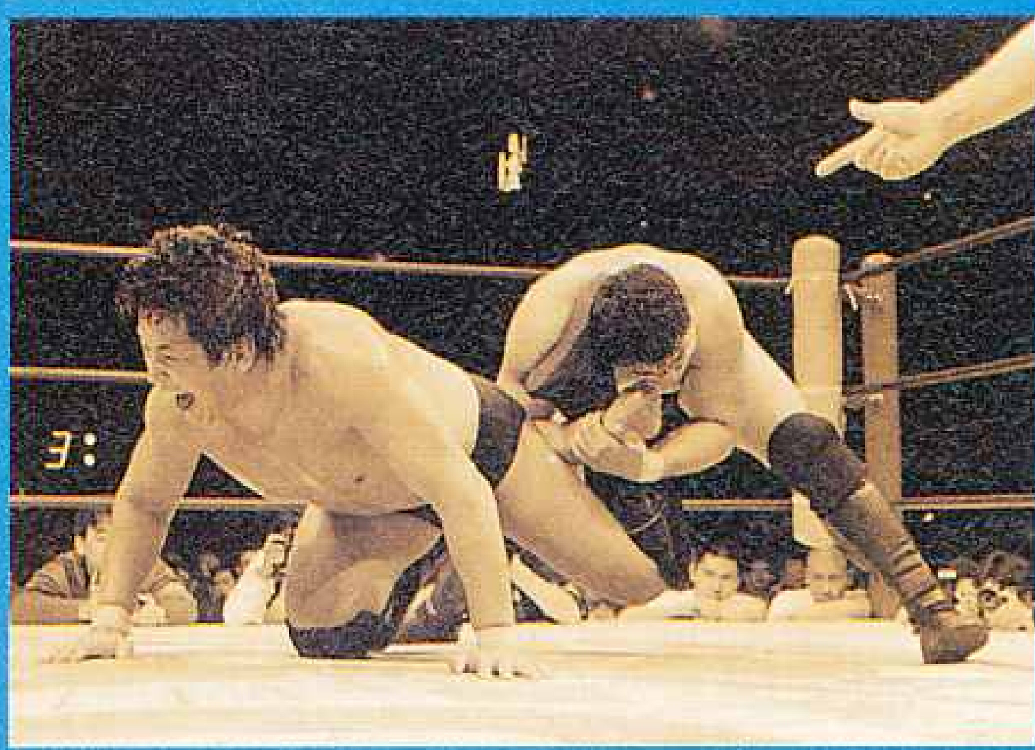
――UWFの分身ですか？

ジョシュ　うん。『PRIDE』はUWFから発生し、UWFが築いた基礎があったからこそ、成功したと思うんだ。一方、UFCについては、総合格闘技を志すファイターが目標にしている大会のひとつではあるかもしれないけど、ボクから見ると、『PRIDE』のようなUWFの流れを汲んだ大会とは、あらゆる意味でレベルが違うものだと思う。

――『PRIDE』がUWFを基に存在するイベントだということは、もともとが高田延彦vsヒクソン・グレイシーを実現させるために立ち上げられたイベントなので、多くのファンが理解していることだと思うんですけど、『PRIDE』とUWFインターや旧リングスの一番の違いは、『PRIDE』があくまで格闘技であるのに対し、UWFは「プロレスリング」にカテゴライズされることだと思います。シュート・ファイトでありながら、プロレスのエッセンスを持った『PRIDE』がこれだけ人気を誇る中で、シュート・ファイトのエッセンスを持ったプロレスリングであるU―STYLEは、もう一度輝きを取り戻せると思いますか？

ジョシュ　ちょっと抽象的な表現になってしまうかもしれないけど、いま行なわれている総合格闘技、プロレスリング、双方とも非常に優秀な選手が揃っていると思う。ただ見せ方として、『PRIDE』のような大会は試合そのもののクオリティもそうだけど、それ以外の選手の人物像であるとか、その選手にまつわる背景、ストーリー性というものが売り物になっている。一方、UFCのような大会は単にケージの中に選手を突っ込んで、どっちが勝つか、どれだけ暴力的かを訴えているだけの大会だよね。そして今回行なわれるU―STYLEというのは、たしかにプロレスであり、総合格闘技である『PRIDE』とは区別されてカテゴライズされるけど、ボクにとっては、選手そのものと選手が背負った背景を見せるという点で、U―STYLEも『PRIDE』も広い意味で「プロレスである」という共通項を持っていると思うんだ。だから、U―STYLEというのは、ファンの心の奥底にある気持ちを取り上げて実現し

"U信者"ジョシュが選ぶ UWF名勝負BEST3



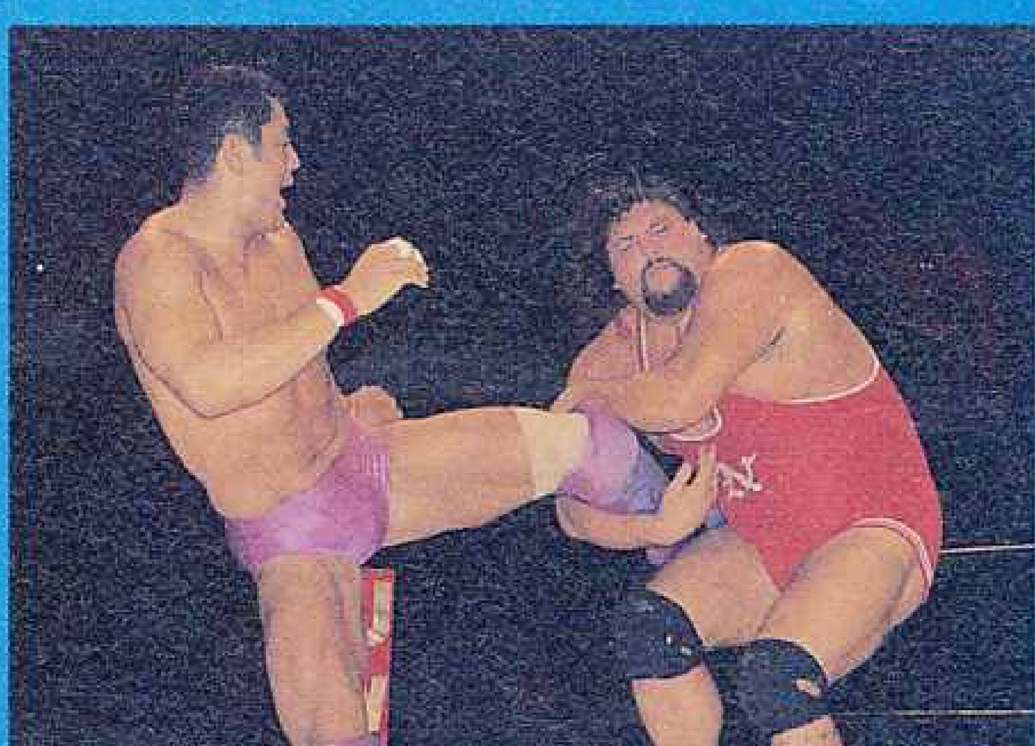
第二次（新生）UWF

90.1.16　日本武道館

○高田延彦vs前田日明×

［23分4秒、裏アキレス腱固め］

前田、高田、藤原、船木、安生、宮戸、鈴木、田村……とにかくクセモノ揃いだった当時の新生UWF。しかし、この中でも前田日明は大エースであり、3年目を迎えたUWFで前田が敗れたのは、この1年2ヵ月前に高田にTKO負けしたのみだったが、この日初めて、UWFで前田日明がギブアップ負け。Uが前田、高田の2大エース制になるかと思われたが、1年後にUWFは解散。3派に分裂した。



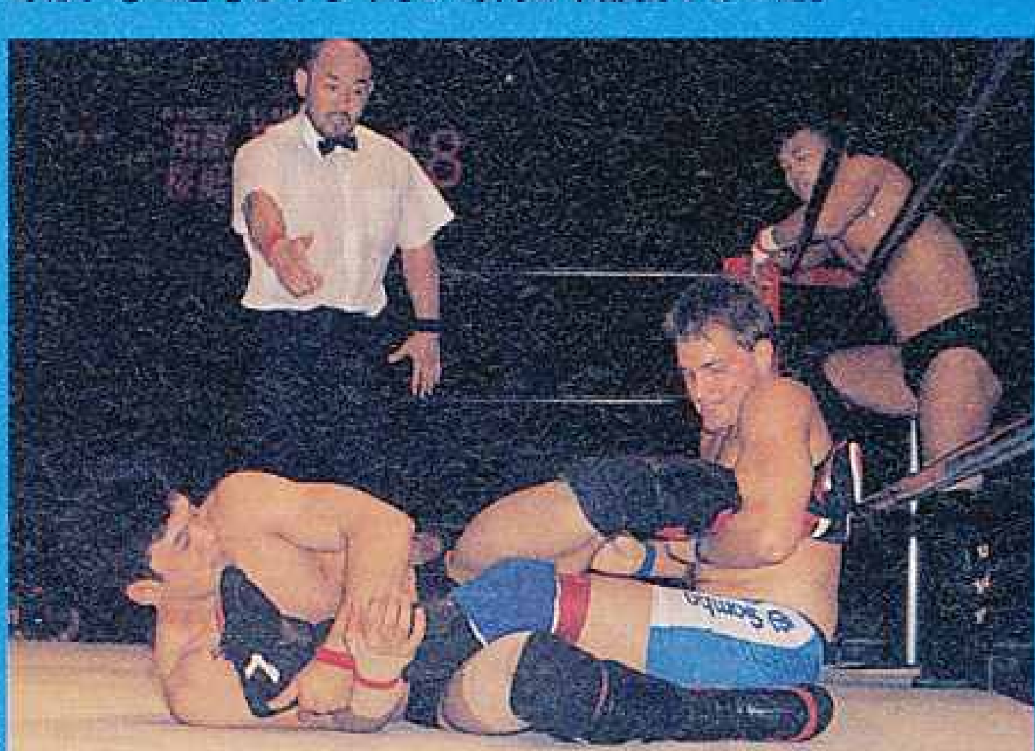
UWFインターナショナル

94.6.10　日本武道館

○高田延彦vsゲーリー・オブライト×

［16分36秒、腕ひしぎ逆十字固め］

開催発表の時点では、各メジャープロレス団体のトップに"招待状"を送り、優勝賞金1億円を謳ったものの、結局、他団体の参戦は一人もいなかった、通称・1億円トーナメント。その準決勝として行なわれたこの一戦は、エース高田が、ベイダー参戦により外人ナンバー2に"格下げ"されたオブライトに、格の差を見せつけての圧勝。高田ファンにとっては最も格好良く、アンチにとっては、もっともしゃらくさい時代の本部長であった。



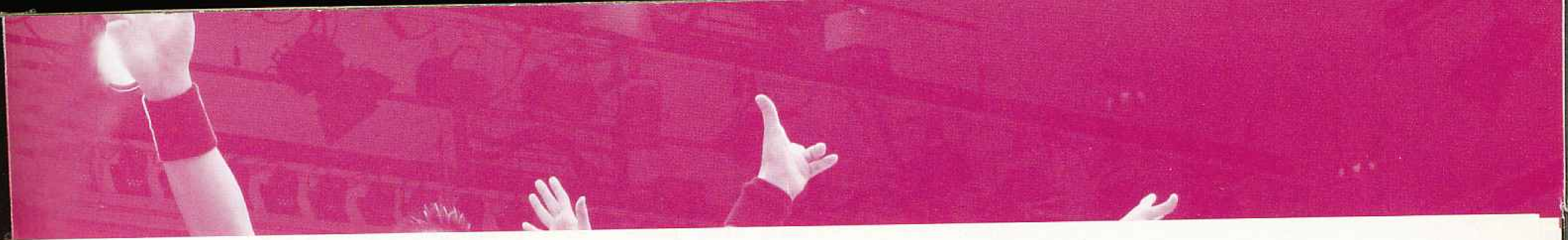
UWFインターナショナル

94.6.10　日本武道館

○ジーン・ライディック スティーブ・ネルソン vs 桜庭和志 垣原賢人×

［16分8秒、KO勝ち］

上の高田vsオブライトの前座で行なわれたこの試合。桜庭はこの時点でデビュー10ヵ月。ダブルバウト（タッグマッチ）初体験とあって、"やられ役"のようにジーン・ライディックのスープレックスの餌食になっていたが、桜庭自身もいまでは見ることのできない美しいジャーマンを披露するなど健闘。最後はライディックの高角度ジャーマンでKO負けとなったが、試合内容は高く評価され、これ以降、上のほうで組まれることが多くなった。



大切なのはリアルかどうかじゃない。ファンにエネルギーを与えられるかどうかだよ

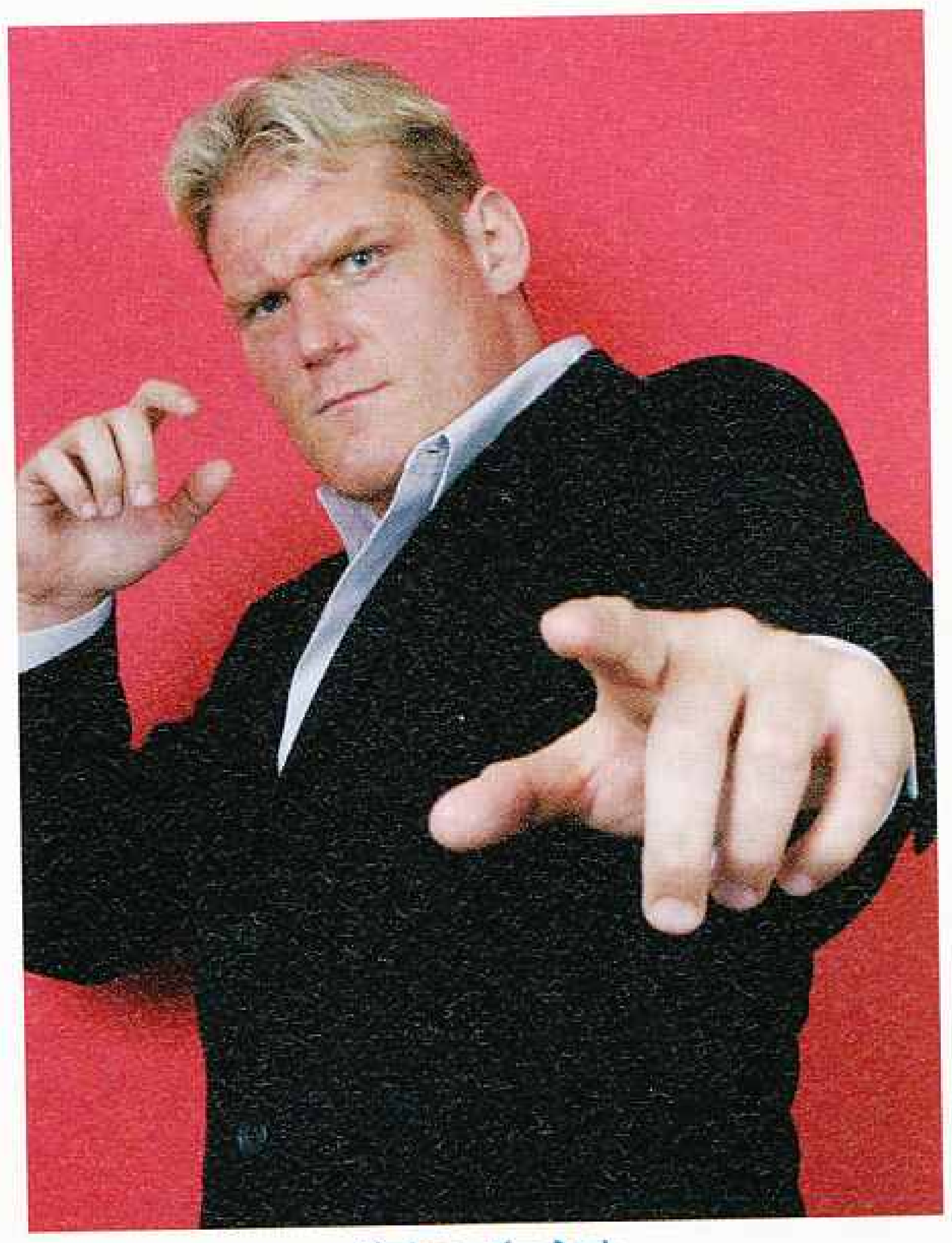
てあげる新たな場所だと思う。

——ただ、いまのファンというのは、「リアルじゃない」というひと言で切り捨ててしまう人が多いと思うんですよ。そういう時代の中でU-STYLEがアピールできるものはなんだと思いますか？

ジョシュ　リアルかリアルじゃないかだけで言ったら、映画だって本物じゃないよね。『バットマン』や『バトルロワイヤル』を見て、「こんなのニセモノの話じゃないか」と言う人はいないでしょ？　プロレスについても同じことがいえると思う。たしかにいまのファンはプロレスがリアルじゃないと理解している人も多いだろうけど、どこまでが本当でどこまでが違うかなんて、誰にもわからない。それにU-STYLEや『PRIDE』だけじゃなく、ベースボールでも、ミュージカルでも、あらゆるエンターテインメントを見に来るお客さんというのは、裏のことはそんなに気にしていないと思う。ファンというのは、純粋な心で選手や演者からエネルギーをもらいにくるのだから、重要なのは現実か現実でないか、リアルかリアルでないかではなく、どれだけのエネルギーをファンに与えられるかどうかだよ。だから、そのエネルギーを与えることができれば、U-STYLEは成功すると思う。そしてそのとき、UWFを切り捨てた人たちに言いたい。プロレスラーヲ、ナメンナヨ！（日本語で）。

——やっぱりジョシュさんには、プロレスラーとしての誇りがあるわけですね。

ジョシュ　U-STYLEに限らず、プロレスというのは選ばれた者にしかできないと思うんだ。それは、これまで数々の格闘家やバスケットボール・プレイヤーなど、他の業界から「プロレスなんて俺にだってできるよ」といって飛び込んできた人たちが、必ずしも成功しているとは言えないことでもわかるでしょう。彼らがなぜ成功しなかったか、それはいかにプロレスが難しいか、本当のプロレスというのをわかってないからだと思う。そしてUWFこそが、ボクにとっての"本物のプロレス"だと思ってるんだ。



ジョシュ・バーネット
1977年11月10日、アメリカ出身。96年、19歳でプロ格闘家デビューし、02年に史上最年少でUFCヘビー級王座を獲得。03年にはキング・オブ・パンクラシストに輝いている。プロレス、UWF、そして日本のオタク文化をこよなく愛する"青い目のケンシロウ"。191cm、122kg。

——ジョシュ選手は以前から「もし田村潔司がUを復活させるんなら相手は自分しかいない」と言ってましたけど、改めて田村選手をどう評価していますか？

ジョシュ　タムラについては、ボクがどうこうコメントするまでもなく、これまでの彼の闘いぶりを観てきた人にとっては、素晴らしい"U戦士"であることはご存知でしょう。そして今回、ボクがタムラと闘いたいという理由は、ボクとタムラは同じ目標を共有していると思うからなんだ。それはUWFを復活させたいという熱い思い。世の中にはいくつか燃やさないと終わらないものがあると思うけれど、それがまさしくボクとタムラの試合であり、ボクらがリング上でそのUWF魂をぶつけ合うことで、現在における新しいUWFを作りあげることにつながると思う。

——田村vsジョシュから、新しい"U"の歴史がスタートする、と。

ジョシュ　やっぱりUWFというのは、単にリング上で闘うスタイルや、なにか物理的なものを指しているのではないと思う。UWFとはあくまで概念であり、気持ちであり、情熱だと思うんだ。だからボクとタムラがぶつかり合うことで何かが生まれると思うし、その熱い感情というものを会場に来てくれたファンは感じ取ってくれると思う。

——そうなると、"U"が復活できるかどうかは、（10月24日時点では）まだ正式には決定してませんけど、田村vsジョシュにかかっていると言っても過言じゃないですよね。

ジョシュ　11月23日の重要性は自分でもよくわかっているよ。ファンにどこまで伝わるか、怖い部分もたしかにある。やっぱりタムラはUWFの生え抜き選手であり、今日のUWFスタイルというものを作り上げてきた選手。それに対し、ボクは外側からUWFを応援してきた人間であり、むしろファンの代表みたいな存在だと思うんだ。そんなボクが"U"の再興に携われるのは光栄であり、またプレッシャーでもあるよね。

——「選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり」というやつですね（笑）。

ジョシュ　でも、逆に言えば、ボクという存在を通してUWFを知ってくれるファンもいると思うんだ。やっぱり見てもらわないことには話にならないから、タムラvsジョシュ・バーネットという試合をひとつの目玉にして、UWFを知らない人にもたくさん会場に来てもらって、UWFへの興味を高めていってもらえたら嬉しいね。

——では、最後に田村選手にメッセージをお願いします。

ジョシュ　OK。「タムラ選手、私は11・23有明コロシアムはUWFを作り出す大きな"溶鉱炉"だと思っています。そこにUWFの魂というものを注ぎ込めば、ひとつの作品として固めることができる。でも、溶鉱炉には"炎"が必要です。ですから、ボクとタムラ選手が闘うことでその炎を生み出し、UWFを形にしようじゃありませんか。タムラ選手、あなたはこの地獄の炎に立ち向かう勇気がありますか？」そんなとこかな。

——わかりました。では、11月23日、U-STYLEという熱き炎に期待してます！

【05年10月24日／青山・DSEにて収録】



俺だけのAxis

軸

いま、最も振り幅の広いトップレスラー
ハッスル、NOAH、新日の次は"U"だ!!

川田利明

今年3月に全日本を退団しフリー宣言して以降、インリン様と闘ったかと思えば、その直後に三沢光晴、藤田和之らと激闘を展開したりと、いま日本一振り幅の広い活躍を見せる川田が、今度はU-STYLEに登場! 96年のUインター神宮球場以来の"U"のリングで、川田は何を見せるのか。

なぜ、いま"U"なのか?

PRO-WRESTLING U-STYLE AXIS

聞き手&撮影/堀江ガンツ

designed by matsu (TwoThree)



俺は馬場さんの考えから外れたことばっかりやってきたけど、軸になる部分は絶対にズラさないから

——先ほど『U—STYLE Axis』参戦発表記者会見が終わったばかりですけど、川田さんと田村さんのツーショットというのは、もの凄く新鮮でしたね（笑）。

川田　いままでまったく接点がなかったからね。

——まともに言葉を交わすのも今日が初めてぐらいですか？

川田　うん。だいたいハッスルに出るまでは、UWF系で接点があったのは（全日本に出ていた）安生選手ぐらい。あとは本当に接点ないからねぇ。

——では、川田さんにとってUWF系ってどんな印象がありました？

川田　プロレスっていうのは個性が一番大事だって俺は思っているからさ、他の団体と違うスタイルを持つことって大事だと思うんだよね。UWFに関しては、それまでなかったスタイルをやってたわけじゃないですか。そのへんの個性の打ち出しに関しては、凄いなとは思ってましたよ。

——川田さんは全日系でキックを使う先駆けだったと思いますけど、レガースをつけたりするのは、UWFの影響だったりするんですか？

川田　あれはね、当時の全日本にそういう人がいなかったからやってみただけ（笑）。

——あ、それだけ（笑）。

川田　目立つためには人と違うことをやろうと思って。それで当時、スーパータイガージム出身の北原（光騎）っていたでしょ？　彼に試合前の練習のときに付き合ってもらって。

——ミット持ってもらったりして、蹴りをものにしていったわけですか。



1日に行なわれた川田の参戦発表記者会見で田村との新鮮なツーショットが実現。「誰とやっても胸を借りるつもり」と謙虚なコメントを残した川田だが、将来的には二人の一騎打ちも期待される。

川田　いや、教えてもらってました（真剣な表情で）。

——教えてもらってたんですか（笑）。でも、川田さんって本当に謙虚ですよね。後輩の北原選手に「教わってた」って正直に言ったり、さっきの会見でも、「胸を借りるつもりで」とか、とてもプロレス界の大物とは思えないような発言が出てましたけど。

川田　まあ、今回はとくに向こうの〝庭〟で闘うわけだからね。それを考えると、やっぱりそういう「胸を借りる」って言葉になるよね。

——川田さんが蹴りを使い始めた当時（80年代後半）、UWF式の蹴りを試合で使うのに周りの反発はなかったんですか？　外国人レスラーに嫌がられたりとか、馬場さんから何か言われたりとか。

川田　俺は馬場さんの考えから外れたことばっかりやってたからね。

——あ、そうですか（笑）。

川田　俺は、全日本にいても全日本らしいことをあんまりやってきてないんでね。その代わり、元を辿ると基本はやっぱり全日本にあって、その太い芯、軸になる部分というのはズレないんだよ。というか、自分の中にあるその芯の部分は絶対にズラさない。その代わりそっから出てる枝なり葉なり、まあ花も出てくるかもしれないけど、そういう部分を変えていく。芯を変えちゃうと、まったくバラバラで違うもんになっちゃうからさ。

——川田さんの場合、その芯があるからこそ幅広く活動できると。

川田　そう。だから若い選手とか芯なしで幅を広げようとする選手がいるみたいだけど、そういうのは絶対ダメだと思う。

——芯があればちょっと外れても振り子のように戻ってこれますけど、芯がなかったら行きっぱなしになっちゃうと。

川田　だから、その芯というのは凄く大事だと思うよ。

——じゃあ、川田さんは20年間全日本プロレスでやってきましたけど、これからはもっといろんな活動をやっていきたい、という気持ちなんですか？

川田　そうだね。でも本来ならもっと前というか、15年ぐらい前にいろんなことをやってみたかったと思ってるんだけどね。この年齢でこの先どれだけできるかわからない状態でやるより、15年前にやってたほうがもっともっといろんな発展があったと思う。正直、いまからだと大して発展はできないかもしれないけど、幅を広げることはできるだろうからね。だから今年はハッスルを始め、いろんなことをやってきたし。

——なんと言っても、インリン様と試合してますもんね（笑）。

川田　それができるのも自分だけだと思っているから。だからU—STYLEに関しても、あれって本当に格闘技系でしょ？　そういうリングにインスタントな状態で上がるのはキツいかもしれないけど、オファーが急だったからしょうがない。ま、急なオファー

〝引きこもり〟返上！
川田利明
狂い咲きロード2005



7・15『ハッスル11』。6人タッグでインリン様と激突した川田は、必殺〝M字固め〟をエビ固めで切り返しフォール勝ち！しかし試合後、インリン様の〝身体の一部〟であるムチがロープにかかっており無効試合に。



vsインリン様戦の3日後、7・18ノア東京ドーム大会で三沢光晴と5年ぶりの一騎打ちを行なった川田。真の先輩超えをはたすべく厳しい攻めを見せたが、尻丸出しで奮闘する三沢の前にフォール負け。



8・14新日本・両国国技館。興行のテコ入れのため、ジョシュに代わって急遽G1に出場した川田は、“夏の主役”との言うべき大活躍。準決勝で藤田に敗れたが、再戦が期待される激闘を演じてみせた。



9・10『ハッスル12』では、試合中に小川直也を裏切り、まさかのモンスター軍寝返り。〝モンスターK〟として高田総統とガッチリ握手。「チキン、そういうことだよ。バッドラック！」と吐き捨てた。





96年9月11日、神宮球場■川田は全日本プロレスのレスラーとして、初めて"U系"のリングに登場。当時はあり得ないと思われたUインターvs全日本実現に、チケットはバカ売れ。川田のジャンピングハイキックで終わったこの試合は内容も良く、のちの高山全日本入りにもつながる一戦となった。

はいつものことだけどさ（笑）。

——ＤＳＥ関係のオファーはいつも急なんですか？

川田　っていうより、おたくの編集長だよ！（笑）。

——あ、遅いオファーをしてるのはウチの山口（日昇）でしたか（笑）。

川田　これちゃんと書いといてよ。いつもおたくの編集長が急にオファー出してくるって。普段は引きこもりのくせに！

——ダハハハハ！

川田　俺、普段ハッスルで〝引きこもり〟って言われてるんだけどさ、おたくの編集長のほうがよっぽど引きこもりなんだよね。すぐ出てこなくなるでしょ？

——そうですね（笑）。

川田　でさ、たまに出てきて電話かかってきたって思ったら、そんな急な話だよ。どこへ引きこもっちゃうのかわからないけど、連絡が取れなくなっちゃうっていうのが本当に痛いんだよな。そんな男が俺と歳いっしょだからね！

——でも、そのとんでもない要求に全部応えてる川田さんっていうのは、やっぱりそれだけ懐の深さがあるというか。

川田　ま、それだけ山口さんのことを信用しているんだけどね。でも、急であってもそういうふうに動いてくれてる人がいるから、俺みたいな選手が幅を広げられるんであって。だから感謝してますよ。

——なるほど。

川田　だからさ、若い選手とかに言いたいのは「自分がやりたいなと思った時にはなんでもやれ」ってことだよね。全日本にいた河野真幸なんかもさ、俺、気持ちわかるからとくにそう思ったよ。そりゃ失敗するか成功するかは、まったく未知だからわからないよ。でも、河野にも自分がやれるときにやっとけと言ったし。何年かあとに「あのときやっときゃよかったな」って後悔するのは一番ダメ。俺がそう思ってた時代と違って、いまはやりたいことができる時代なんだからさ。

——川田さんがいろいろ動きたかった15年前というと、ちょうど超世代軍がスタートしたぐらいですよね。

川田　そうだね。でも、もっと前からなんでもやってみたかったよね。当時、新日本は武藤とか橋本とか蝶野とか若手でも活躍できる場所があったのに、全日本に関して言うと、そういうのってまったくなかったでしょ。若くて実力もある人間がリングに上がりたくても上がれないという状況があったからね。だからU－STYLEに関しても急ではあるけれども、断ったら「出ときゃよかったな」ってあとで思うかもしれないから、何秒間か真剣に考えて決めたよ。

——何秒かで結論出しましたか（笑）。では、対戦相手はまだ（この時点で）決まってませんが、川田さんはU－STYLEでどんな自分を出してみたいと思いますか？

川田　いや、さっきも言ったように、芯の部分というのは変わってないんですよ。そこのリング行ったらそこのルールがあるだろうし、そこの会場、そこのお客さんがある。そういうものが自分の幅を変えてくれると思うんですよ。それは自分で意識して「こう変えなきゃいけない」と思ったことはないんだよね。

——その状況、状況で、自分の一番いいところを出したいという感じなんですね。

川田　そうそう。新日本だったら新日本。U－STYLEだったらU－STYLE。それに自分から合わせたつもりはなく、自然とできてしまったというか。その場で身体に肌に感じて試合する。そういうものが、長い間やってて自然と身に付いてきたんじゃないかな。長年のプロレスの経験がなかったら、こういうものは見せられなかったんじゃないかなってのはあるよね。

——初めて川田さんがU系のリングに上がった、96年Uインター神宮球場での高山善廣戦のときは、どんな気持ちでしたか？

川田　どんな気持ちっていうか、あれもね、急な話だったんだよ。本当は俺じゃなくてハンセンが高山とやる予定だったんだから。

——あ、そうだったんですか⁉

川田　でもハンセンがイヤだって言うから、代わりに出てくれって頼まれてさ。まぁ、俺も馬場さんにはお世話になってたし。

——へぇ～、ハンセンだったんですか。その急に「川田やってくれ」って言われたときは、川田さんからすると「待ってました！」って気持ちだったんですか？

川田　全日本以外でやってみたい、っていう気持ちはあったからね。でも、正直なんにもわからない状態で試合に出たんだよね。

——それでもちゃんと評価が高い試合になったっていうのは、それこそ、それまでに積み重ねてきたものがあったからですよね。

川田　プロレスラーはキャリアが影響する試合というのが必ずあると思うんですよね。自分がやってきたことでわかるものが。

——では、『U－STYLE Axis』に関しても、自分のキャリアで対応できる自信はあると？

川田　今回はホント急だからま



俺が知ってるのは酒席での〝Uスタイル〟だけ。今度はちゃんとリング上で体感しますよ（笑）

だなんとも……正直言って、その前に『ハッスル・マニア』があるから、気持ちがそっちにいってないし。俺、基本的に1個のことしか考えられないからさ。『ハッスル・マニア』が終わって一段落しないと考えらんないんだよ。一個目標を達成して、また次の目標って感じで、目の前のものをこなしていかないと先のことに考えがいかないんだよ。

――幅を広げようとして全部いっぺんにやっちゃったら、全部中途半端になっちゃうタイプなんですか？

川田　そうなんだよ。大阪でインリン様と試合した3日後に、東京ドームで三沢さんと闘うってことがあったじゃない？

――ありましたね（笑）。

川田　でも正直、インリン様との試合終わるまで三沢戦には集中できなかったからね。

――気持ちを入れる方向がまったく違いますもんね（笑）。では、あえて先の先の話を聞きますけど、今年の前半ぐらいに、〝川田利明、『男祭り』出場か？〟ということで、ちょっと騒がれた時期がありましたけど、今回のU－STYLEの先にそういうものがある可能性もありますか？

川田　さあ～、どうでしょうね。わかんない。未知の世界だね。

――やるやらないは別として、興味はありますか？

川田　まだ、そういうことを言うような段階じゃないからね。でも、〝ネバー〟ではない。

――可能性はゼロではないと。では、最後に、U－STYLEのリングで試合するにあたって何かひと言お願いします。

川田　まだルールがわかんない！

――まだその段階（笑）。



かわだ・としあき
1963年12月8日、栃木県下都賀郡出身。"俺だけの王道"を旗印にデビュー以来20年以上、全日本一筋で闘ってきたが、今年、フリー戦士に転向。ハッスルを中心に新日本、ノア、K-DOJOなどで、クオリティの高い闘いを提供している。180cm、105kg。

川田　俺が知ってる〝UWFスタイル〟って、酒席での〝UWFスタイル〟だけだから（笑）。

――ダハハハハ！　酒癖が悪くて有名な〝UWFスタイル〟だけ知ってますか（笑）。

川田　あれは凄いよ。でも、あれはね、酒癖が悪いんじゃなくて酒の飲み方を間違っている！

――酒飲み道にもとる飲み方をしてますか（笑）。

川田　でも、この業界いろんな団体がありますけど、中にはサラリーマン的な団体もある中でさ、UWF系は昔ながらのレスラーというか、ハチャメチャなのが揃ってるよね。やっぱりサラリーマン的で守りに入ってる選手っていうのは、あんまり飛躍が考えられないような感じがするんだよ。それを考えるとハチャメチャなUWF系っていいのかなとは思ったりもするけど。でも、実際関わるようになって思ったのは、さっきも言った通り、酒癖が悪いんじゃなくって、酒の飲み方が悪い！　スイッチで言うなら、ONかOFFしかないんだもん。

――中間なし（笑）。

川田　調整が利かないんだよね。せめてホテルのエアコンみたいにハイとミドルとローぐらいはあったほうがいいと思うんだけどな。

――飲み始めたら即マックスになっちゃうと。川田さんもけっこうONかOFFかっていう噂を耳にするんですけど（笑）。

川田　いや、それはみんなと飲むときだけ！　やっぱ合わせなきゃいけないときもあるからね。

――酒席でも芯をズラさずに対応できるわけですね（笑）。

川田　まぁ、UWF系の飲み方はこのあいだの青森（ハッスル13）のあとでもやったばかりだけど、今度はちゃんとリング上でUWFを体験しますよ（笑）。

【05年11月1日／青山・DSEにて収録】

U-STYLE Axis

有明コロシアム
2005年11月23日（水・祝）
開場14:00　開始15:00

［決定分対戦カード］
田村潔司vsジョシュ・バーネット
川田利明vsイリューヒン・ミーシャ
フランク・シャムロックvs中村大介

［出場予定選手］
ヒカルド・モラエス／藤井軍鶏侍／大久保一樹／伊藤博之／三島☆ド根性ノ助／佐々木恭介／坂田亘／滑川康仁／他

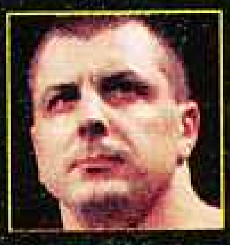
［チケット料金］
VIP（記念グッズ付）――20,000円
RS――10,000円
スタンドS――7,000円
スタンドA――4,000円

［問い合わせ］
DSE■03-5464-1531

［注目カード］

"俺だけの王道"がコマンドサンボと遭遇！

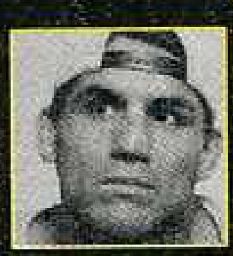
川田利明 vs イリューヒン・ミーシャ

佐々木恭介戦が噂された川田利明の相手は、なんとミーシャに決定！　これまで振り幅の広い闘いを展開してきた川田にとっても、コマンド・サンビストと闘うのはもちろんこれが初めて。未知のサブミッションに対して、川田はどう闘うのか？

忘れた頃にフランクがひょっこり登場！
迎え撃つはU-FILEの実力者・中村だ!!

フランク・シャムロック vs 中村大介




『PRIDE』参戦表明から早5年。いつまで経っても表舞台に出てこない大物フランクが唐突に『U-STYLE Axis』参戦！　相手は『武士道』でも善戦したU-FILEの実力者・中村。この一戦の先には田村vsフランクの決着戦も見えてくるのか？

［噂のカード］

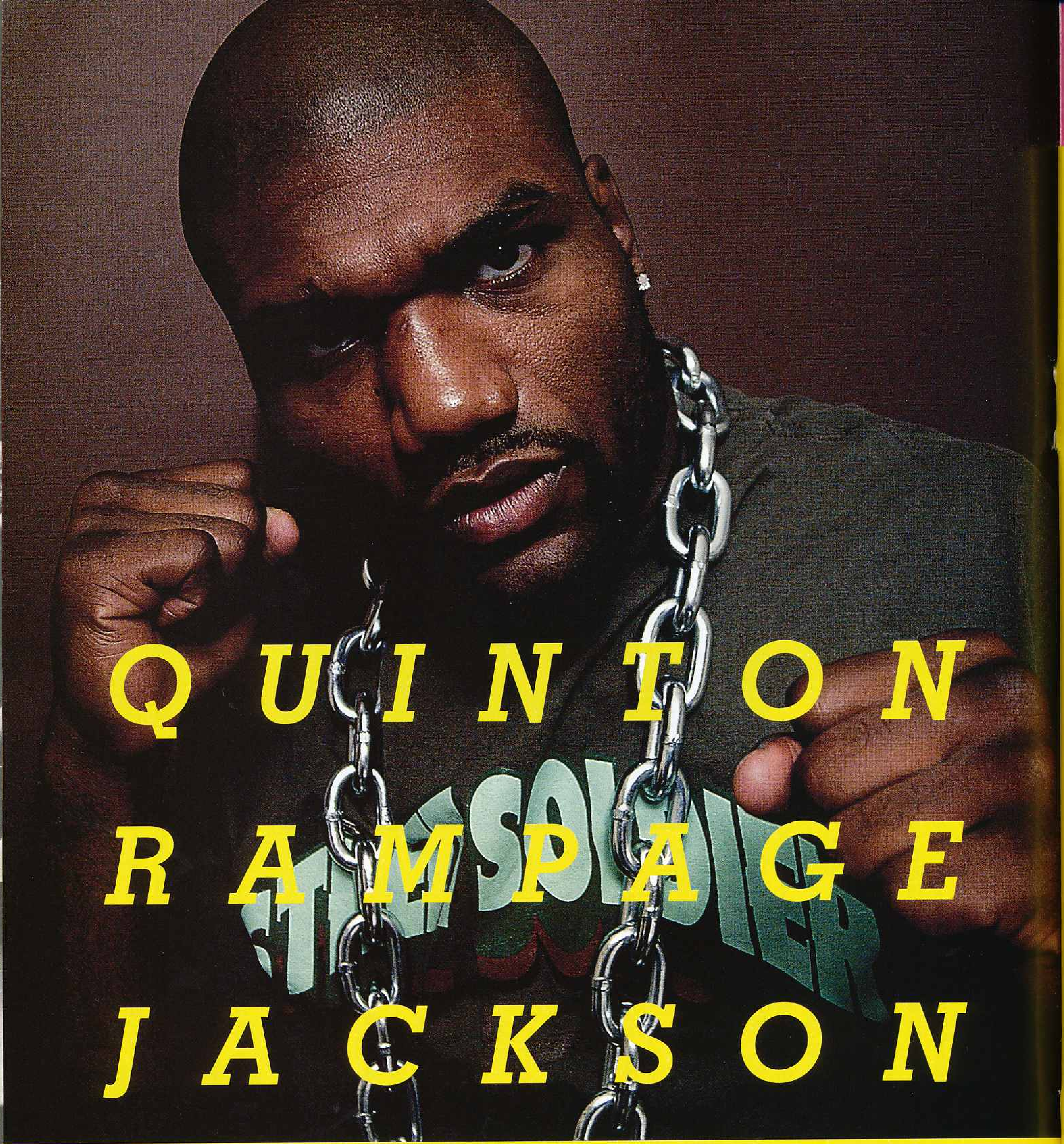
元リングスvsパンクラスMISSION
因縁の坂田―みのるが実現か!?

坂田亘　滑川康仁 vs 鈴木みのる　冨宅飛駈






締め切りの時点（9日）で正式決定ではないが、興味深いカード情報が飛び込んできた。タッグながら鈴木みのると坂田が、どっちが"世界一性格の悪い男"か決定すべく、因縁の初対決をタッグながら行なうというのだ。決定すれば、近年稀に見る危険なカード。"プロレス道にもとる"ような闘いにならないとも限らない！



UFCに逆輸入!? “スターティング・オーバー” 早々、ランペイジが衝撃発言!

「PRIDEとUFC、どっちが楽かと考えたらな……」

「スターティング・オーバー」のサブタイトルが付けられた『PRIDE・30』で横井宏孝に快勝! ショーグン戦の悪夢を吹き飛ばしたランペイジが、「チーム・オオヤマ」からの離脱、噂されたUFC登場のついて語った! なおページの都合上、彼自身がリリックし、インタビュー中に歌ってくれたラップは全面カットしております。残念!

聞き手/ジャン斉藤 撮影/菊池茂夫 試合写真/乾晋也

designed by hisa (Two Three)

――久しぶりの『kamipro』インタビューということで、今日はよろしくお願いします！

ランペイジ （いきなり日本語で）スグオワラセマス。

――すぐは終わらないですよ！　またやっかいな日本語を覚えましたね（笑）。

ランペイジ （しつこく日本語で）スグオワラセマス。

――（無視して）え〜、復帰戦となった『PRIDE・30』の横井宏考戦は快勝されましたけども、ご機嫌のほうはいかがですか？

ランペイジ （素に戻って）グ〜レイッツ！　俺はヨコイ戦に向けておそろしくハードな練習を積んできたから、それが報われたよ。ヨコイは日本のサムライらしい強い心を持ったファイターだからこそ、かならずKOしてやろうと拳に力が入ったんだ。

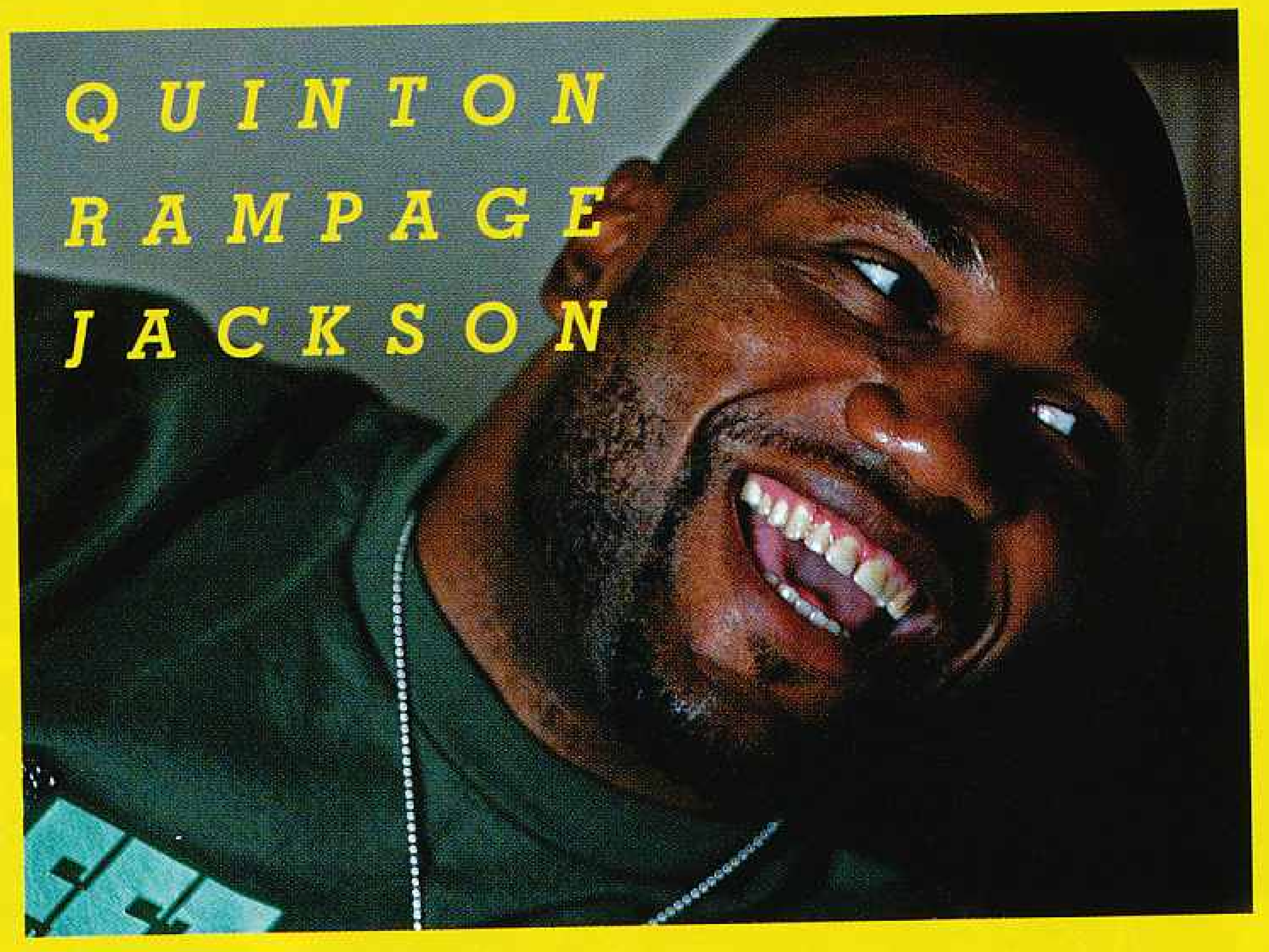
――ランペイジさんらしい破壊力満点の試合内容でした。

ランペイジ ただ俺はヨコイを凄く尊敬している。なぜかというと、試合前に日本人選手はもちろん外国人選手もみんながヨコイを「ナイスガイだ！」と褒めていたからだ。今回はリングの上で敵同士になってしまったが、ぜひヨコイをアメリカに招いて一緒に練習してみたいね。

――再出発の見事な滑り出しは、ランペイジさんの練習環境が変わったことも大きな要因になったんじゃないかと思うんです。いままでの所属チームだった「チーム・オヤマ」から離れたのは何か理由があったんですか？

ランペイジ （急にテンションが下がって）その件のことか……。きっかけはミドル級GPのマウリシオ・ショーグン戦なんだが、

UFCからオファーがあったのは事実だ。
強力なスポンサーがUFCについて、状況は変わりつつある。



テレビで放送しているのにも関らず、コーチの俺に対する言葉は酷いものだった。まあ恥ずかしい話だが俺はそうとう傷ついて、コーチとの関係は崩れてしまったんだ。

――パートナーシップが崩壊するほどのことがあったと？

ランペイジ そうだな。いままで「チーム・オオヤマ」でともに闘ってきたことには感謝しているが、ファイトすることは俺にとってビジネスなんだよ。いまの環境が俺にストレスを与えるように機能するなら、それを変えていくまでだ。それに俺のファイターとしてのキャリアを総合的に見つめたうえでも、まさに環境を変える時期だと感じたよ。実際、チームを変えたいまは理想どおりの環境が整ったと言えるな。

――傷ついた場面には帰りたくないと思うので恐縮ですが、具体的にはどのようなシチュエーションでどういったことをコーチから言われたんですか？

ランペイジ それは言えない。俺はクリスチャンだから、汚い言葉をもう言えないんだ。

――それぐらい酷いことを言われてしまったんですか？

ランペイジ リングサイドとロッカールームでな。試合自体を振り返ってみても、ショーグンと組み合った瞬間にヤツのほうが俺を上回ってるなと感じた。もう気持ちで負けていたんだな。俺だってファイターとして「負けた」ということは言いたくなかったが、肋骨も折れて、もう身体のコントロールが利かない状況だった。そんなときコーチの口から出てきた言葉はそりゃ酷いもんだったよ。

――さっきは傷ついたという表現をされましたけど、怒りは湧いてきませんでした？

ランペイジ どっちかというと怒りよりも悲しい気持ちのほうが大きかった。コーチのことは父親のように信頼していたし……。『PRIDE・GP』という大きな舞台で負けてしまったことに対して、さらに追い討ちをかけるような身内からの攻撃に俺は耐えられなかったよ。しかもコーチは俺に敗者の烙印を押したが、俺のほうからすれば試合に対する準備不足で負けたという気持ちが強かったんだ。

――チームからの離脱もあって、ランペイジさんはもう『PRIDE』のリングには上がらないんじゃないかという憶測ものぼってたんです。

ランペイジ 実際、UFCからオファーがあったのは事実だ。UFCに強力なスポンサーがついて、俺がチャック・リデル戦をやるならファイトマネーは100万ドルだという話が囁かれたりもしたよ。

――リデル戦で100万ドル！　『PRIDE』からUFCへの選手派遣が進まないひとつの要因に、UFCの財政体力問題がありましたけど……。いまはリアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター』人気で活性化しているそうですね。

ランペイジ あの番組は大嫌いだが、フリーテレビの影響力は強いだろうな。

『ジ・アルティメット・ファイター』とは、『サバイバー』を起源とする、かつてアメリカでブームを生んだ一種のドキュメント番組（＝リアリティショー）の格闘技版。ランディ・クートゥアとチャック・リデルにそれぞれ率いられたアマチュアの格闘家8名が共同生活をしながらプロを目指す。05年1月から『Spike TV』で地上波放送され、それまでPPVでしか目にすることができなかったUFCの存在を一般視聴者へアピールすることに成功。UFCに史上最高の好景気をもたらしている。しかし、先に挙がった「チャック・リデル戦で100万ドル」という話は、選手間のファイトマネーのバランスが保てなくなるので眉唾モノとしてとらえたほうがいいだろう。なお『ジ・アルティメット・ファイター』は、現在セカンドシーズンに突入している。



［PRIDE.30］
○Q・“ランペイジ”・ジャクソン vs 横井宏孝×
（1R 4分45秒 KO）

試合開始早々、横井のタックルを防いで上のポジションをキープしたランペイジ。一時は横井の三角絞めからのオモプラッタ（これがまた見事な流れ！）でサイドポジションを奪われるが、ランペイジはパワーで跳ね返し、逆にサイドを奪取！　そのまま横井の左腕を足で押さえつけ、無防備な状態のまま拳を連打！　最後は立ち上がってのサッカーボールキックでKOした。これでPRIDE.3連敗を喫してしまった横井は「下の大会で頑張る」と出直しを誓った。日本人では貴重な逸材だけに横井に懸かる期待は大きいのだが……。

ランペイジ　だから、アメリカの状況も変わりつつある。俺の立場的にはUFCに出たほうが恵まれることになるんじゃないかという思いがあるんだ。

――といいますと？

ランペイジ　昔だったら日本のマーケットが一番だという価値観が当たり前だったが、いまアメリカではUFCにスポンサーがついたり、フリーテレビになったことで凄く収益が上がってるんだ。で、俺のキャラクターにもスポンサーがつきやすい状態になっている。黒人のコミュニティーに対するアピールになるからな。それに俺のファイトスタイルはケージ向きだよ。

――パワーで金網に押し込むというスタイル。ズバリ、オクタゴンのほうが実力を発揮できるでしょうね。

ランペイジ　しかもUFCには弱いファイターしかいねえんだ！

――それは言い過ぎですよ！（笑）。

ランペイジ（無視して）スポンサーがつきそうで、しかも弱いファイターがたくさんいるUFCと、強いファイターばっかりいて俺にスポンサーがつきそうにない『PRIDE』。俺にとってどっちが楽だ？　って考えるとだな……。

――いや、ランペイジさんほどの男だったら、やっぱり厳しい道程を選ぶでしょう（笑）。

ランペイジ　ガハハハ。たしかに俺はUFC出場にはあまり気乗りがしねえんだ。なぜなら、彼らは俺がチャックに勝つストーリーを望んでないからな。チャックとの試合になれば、俺がちょっとスリップしただけでレフリーストップがかかるだろうよ。

――ランペイジさんの台頭は望まれてないんじゃないかと？

ランペイジ　信頼関係の部分はさすがに『PRIDE』とのほうが強いよ。俺はもともとアメリカの『キング・オブ・ザ・ゲージ』で闘っていたところをミスター・サカキバラ（榊原DSE代表）にスカウトしてもらったんだ。だから彼には義理がある。『PRIDE』はアメリカのFOX　TVとの提携が決まったし、今後アメリカで『PRIDE』の人気が伸びて、いいマーケットができるならぜひ協力したい。いまのアメリカでは、ボクシングが総合格闘技よりも格上というふざけた風潮がまだあるが、そんな環境もぜひとも変えていきたいんでね。

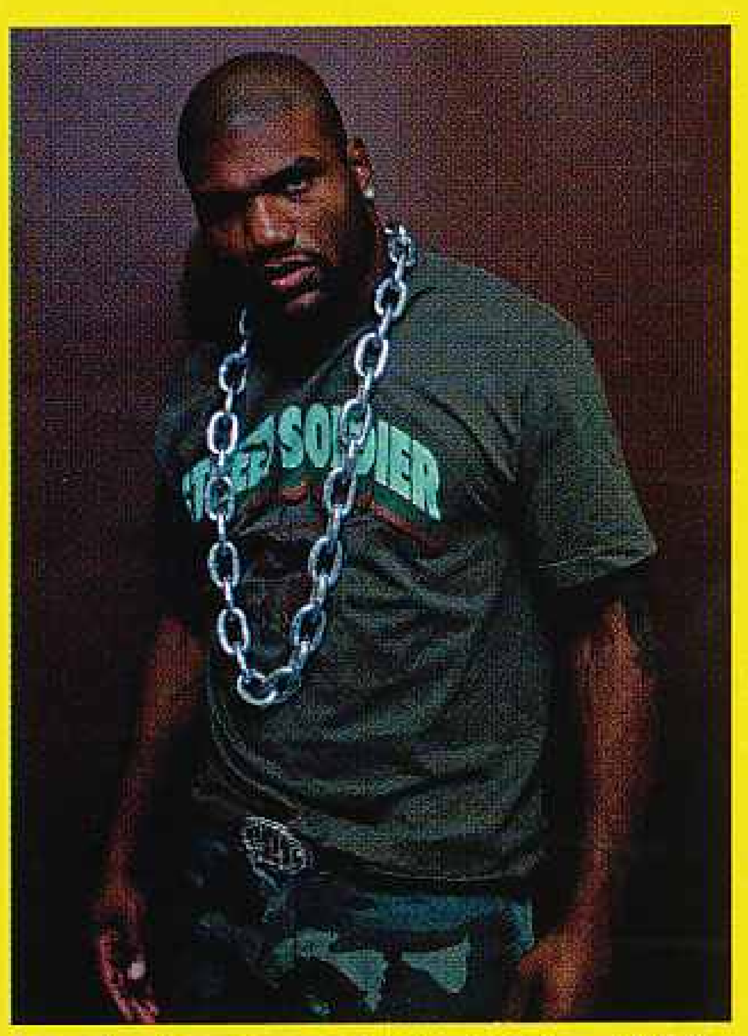
――まぁいろいろあるんでしょうけど、今後も『PRIDE』でご活躍されることを期待してます！

ランペイジ　じゃあお前が俺のスポンサーを探してこいよ！

――なんでボクが探さないといけないんですか（笑）。

ランペイジ　じゃあ、ファンのみんなにお願いするよ。じゃないとどっかに行っちゃうぞ（笑）。

【05年10月24日／都内某ホテルにて収録】



1978年6月20日、アメリカ・テネシー州出身。怪力を活かしたファイトスタイルが信条。K－1ルールでシリル・アビディを二度も破ったボクシング技術も持つ。昨年、「子どもが口からエクトプラズムを吐いた」「ラジオから悪魔の声が聞こえた！」と衝撃告白。神に救いを求めてクリスチャンに転身した。185cm、92.9kg。



ZULU Family

ブラジル奥地マラニャオン州で“VT黎明期の怪物(ズール親父)”はいまだに闘っていた!!

魔神の真実

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

designed by hisa (Two Three)

プロレス界で〝リビング・レジェンド〟として崇めるに相応しい男といえば、テリー・ファンクやリック・フレアーになるが、MMAの世界では、この男をそう呼ぶべきだ。ヒクソン・グレイシー最大のライバルとして名を残した、〝ブラジルの魔神〟ズールのことである。

驚くことに、このズール親父。59歳の高齢にしていまだ現役バリバリのファイター！　かつての威光にすがることなく、ローカルイベントで闘い続けている。

そのズール親父は、10・23『PRIDE・30』で日本デビューを果たした彼の息子ズルジーニョ（リングネームはズール）のセコンドとして来日。大会翌日、いちおう親子対談という設定でインタビューを試みたが、内容のほとんどはズール親父のエピソードに終始（同席したズルジーニョの「……俺には質問しねえのかよ」とでも言いたげな、鋭い眼光にはビビったが）。

話を聞けば聞くほど、前号本誌に掲載され大反響を呼んだトレーニング写真どおりの、格闘ファンタジー爆発な男だったのだ。

──〝伝説の魔神〟として知られるズールさんにお会いできて光栄です！

ズール親父　こちらこそ、こちらこそ。まぁ、わしのことはどうでもいいから、ズルジーニョの話を聞いてやってくれ。ブワハハハ！（豪快に笑って）。

──今日はズールさんの魔神ぶりに迫りたいと思っているんですが、もちろん息子さんにも話を聞かせていただきます！　まずは昨日の戦闘竜戦のことなんですけど、日本デビュー戦を見事白星で飾りましたね。

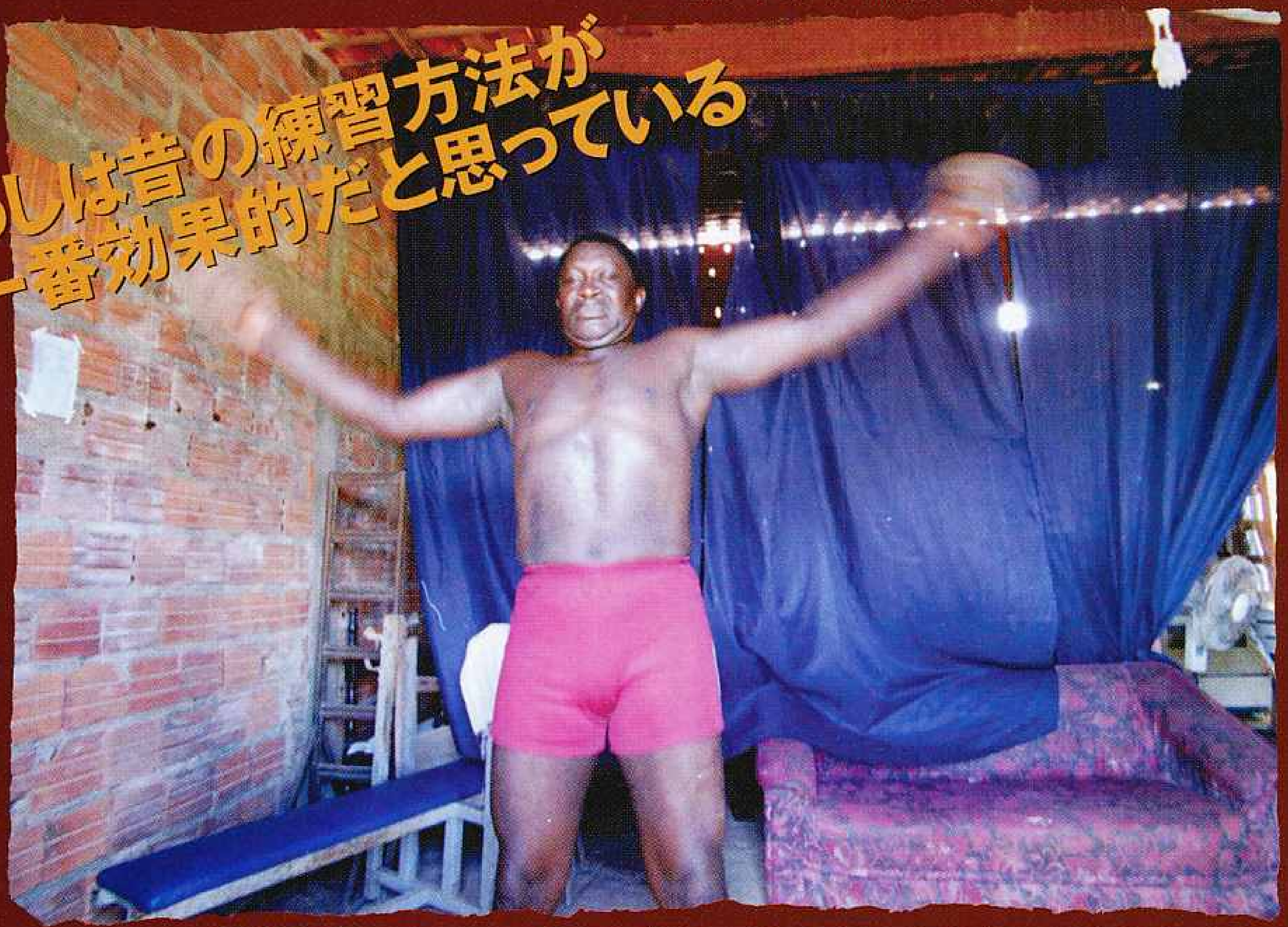
ズール息子　ありがとう。結果的に勝てたのは凄く嬉しいけど、試合タイムが短かったから俺のすべてを出せたってわけじゃねえんだ。

ズール親父　うんうん、ズルジーニョはまだまだできる（うなずきながら）。

ズール息子　これからも、『PRIDE』のリングにチャレンジしていきたいからよ、もっともっとトレーニングを励んで100％の力を発揮できるよう俺は頑張るよ。

──親父さんは息子さんの試合をどうご覧になりました？

提供／〝ブッカーK〟川崎浩市　撮影／Luca Atalla/Gracie Magazine



前号本誌でご紹介したモーレツなトレーニング写真！　「かっ飛ばせ〜、かっ飛ばせ〜！　ズ〜ル!!」と吠えているかのような応援団員スタイルになっているが、丸石を振り回して鍛えているのだ。

ズール親父　まぁ、ズルジーニョが言ったとおりだよ。あの試合で〝ズールの血〟のすべてを見せられたとはわしも思ってないから、次はより強い相手とアグレッシブなファイトをせねばならん。そうすればお客さんにもズルジーニョのとてつもない強さがわかるだろうからな。

──親父さんから見て、息子さんには何が足りないと思いますか？

ズール親父　そりゃまだまだたくさんあるな。強化するというわけではないが、もっと体重を減らさにゃならん（ズルジーニョのお腹を眺めながら）。

──太っているせいなのか、試合中パンツが脱げそうになってましたね（笑）。

ズール親父　このお腹がへっこめば、いままで以上にスタミナが付くことになるさ。まあ、いまのところはそんなもんだろう。もっともっとトレーニングを積むことが一番だ。

──トレーニングといえば、前号の本誌に掲載した親父さんのトレーニング写真が大反響だったんです！　巨大タイヤを引っ張ったり、石を振り回したり、現在のトレーニングからはかけ離れた方法ですよね。

ズール親父　いや、べつに驚くことではない。ああいう練習はわしが大昔からずっとやってきたことさ。大きなタイヤを引っ張れば足腰が強くなる。石を振り回せば腕力が付く。そうやって自分の力を鍛えていったんだ。

──ズルジーニョさんも親父さんと同じトレーニングを？

ズール息子　もちろんだ！　……と言いたいところだが、いまの俺にはフィジカルトレーナーってやつが付くようになったし、器具を使った筋肉トレーニングもやっているんだ。ボクシングなんてナショナルチームで練習してるんだぜ。

ズール親父　……わしは昔の練習方法が一番効果的だと思っているがな（キッパリ）。

──ダハハハ。でも、ズルジーニョさんも親父さんの闘う姿を見て、いつかリングに上がりたいと思ってたわけですよね。

ズール息子　（即座に）当ったり前じゃねえか！　親父がいたからこそ俺もいつかプロのファイターになろうと決めていたし、この〝ズール〟という偉大な名前を受け継ぎたいと強く思ってきたんだよ。親父はブラジルの英雄だからな（自慢げに）。

──そんな親父さんの戦歴は何年ぐらいになるんですか？

ズール親父　10歳でトレーニングをはじめて、18歳になったときにプロとしてリングに上がったよ。わしはいま59歳だから、41年のキャリアになるな。

──キャリア41年！　新日本の東京ドーム開催記録よりも、親父さんをいますぐギネスブックに申請すべきですよ（笑）。ちなみにいままで何試合ぐらい経験されてるんですか？

ズール親父　う〜ん……（考え込んで）。はっきりとした数字は覚えてないが、たしか268戦ぐらいだな。

──やけに具体的ですね（笑）。でも、それも間違いなく世界記録ですよ！

ズール親父　これからも増えていくだろう(笑)。歳を取ってからはそれほどでもないが、若い頃はよく闘ったもんだ。一週間に3試合もやったことがあるぞ。

――タフだったんですね(笑)。しかもいまだにリングに上がっていると聞くから驚きます!

ズール親父　ああ、たまに闘っているよ。一番最近の試合は、9月27日のことだ。

――ほんの一カ月前じゃないですか(笑)。

ズール親父　当然勝ったよ(キッパリ)。いちおうエキシビジョンマッチとしてやっているんだが、それは相手がまだまだプロとは呼べない若い連中だからさ。実際は真剣勝負でやっているんだ。

――スポーツ紙では「1万円のファイトマネーで生計を支えている」なんて報道されてますけど、それは本当なんですか?

ズール親父　いやいや、いまはズルジーニョがわしに代わってズール一家を支えてくれている。わしは近くで大会があるときや、まだVTが行なわれたことのない町や村で、ルタ(ポルトガル語で格闘技の意)の素晴らしさを伝えるためにリングに上がっているだけだよ。

――戦士の鑑ですね!

ズール息子　みんなも俺と同じように親父の闘う姿を見て、ルタにチャレンジしてくれれば嬉しいなあ。

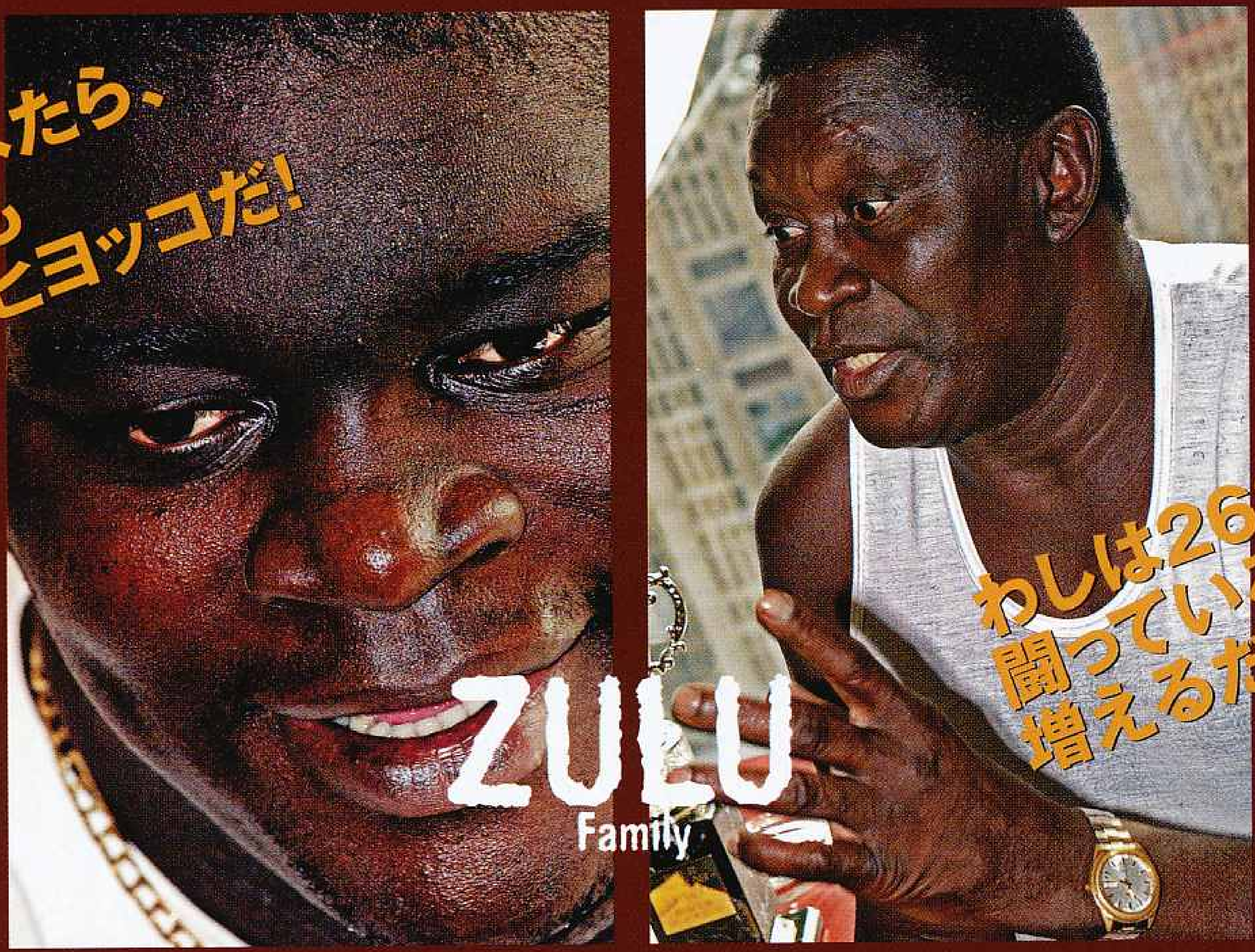
――ズルジーニョさんは親父さんの試合をどれくらいご覧になってるんですか?

ズール息子　じつは親父の試合をあんまり見たことがないんだよ。

――2~3試合ぐらいとか?

ズール息子　いやいや、20~30試合ぐらい。

――ワハハハハハ!　それでも並の選手の一生分ですね(笑)。



ズール息子　ブワハハハ!　親父に比べたら、どんな野郎だってヒヨッコだな。

――そもそも親父さんのバックボーンって何ですか?

ズール親父　「アタハカ」だよ。

――アタハカ?　それはどういう格闘技ですか?

ズール親父　アタハカとは、わしが生まれ育ったマラニョン州に伝わるバーリ・トゥードの闘い方なんだ。打撃あり、寝技あり、投げありで、いまのバーリ・トゥードでは禁じられている肘打ちや、頭突きの攻撃と対処法なども含まれている。言うなれば、すべてのルタに通じるものだな。

――ブラジルといえば柔術が有名ですけど。

ズール親父　柔術を習ったことはないな。わしはアタハカの技術だけで闘い抜いてきたんだ。わしの親父や兄もルタをやっていたが、とても強かった。おそらく血筋の良さもあったんだろう。

――そうしてブラジル一の戦士としての地位を築くことになったわけですね。

ズール親父　闘いを求めて、ブラジル中を旅して回ったよ。わしが生まれ育ったマラニャオン州のベクマンは小さな村だったから、強い相手と闘うためには故郷を離れるしかなかったんだ。20歳のときにベクマンを飛び出して、ブラジルの町から町へ、村から村へと闘いの旅を続けていた。

――まるで腕に覚えがある剣豪のようですね!

ズール親父　その土地の腕自慢やボクサー、カポエイラのファイターたち、いろんな町や村で様々な相手と闘ったが、わしが負けることは一度としてなかったな。

――ちなみに当時はどれくらいのファイトマネーだったんですか?

ズール親父　金額はとくに決まってなかった。その日のお客さんの入りによって、勝者にいくらとか分かれていてな。だから大会が始まってみないことには、その日いくら貰えるのか見当も付かなかったよ。

――とんでもなく安いギャラで闘ったことも?

ズール親父　ある。一生懸命闘ったのに何も貰えなかったことだってあったな。ブワハハハハ!

――ただ働きですか(笑)。

ズール親父　あるとき、その町のアイドルファイターをわしが倒したことで、暴動が起きちまってな。いくらも貰えなかったことがあったんだ。

――むなしいですね……。血汗を流して誇りを懸けて闘ったのに。

ズール親父　本当にそのとおりだよ……。でも、わしはまだ若かったからな。明日は明日の風が吹くという気分で、また次の町で闘えば何の問題もなかったよ。

――そんな無頼な姿勢には凄くシビレるんですけど、生活は不安定だったんじゃないですか?

ズール親父　たしかに貯金をしたり、豪邸を建てられるようなファイトマネーを貰ったことはなかったな。いまのファイターの

一生分ですね（笑）。

ようにスポンサーがいたわけでもない。わしは母親に仕送りをして、残ったお金を次の試合のために使っていたんだ。

——旅費や食費とか。

ズール親父　そうだな。それに当時はマネジャーもいなかったし、情報が広く行き届いてるわけじゃないから、どんどん試合に勝って〝ズール〟という名前を挙げることで未来の道を切り開いていったんだ。だから誰とでも、どんな場所でも闘ったよ。

——対戦相手がわからないままリングに上がったりなんてこともざらですか？

ズール親父　まぁ、相手のことはまったく気にならなかったよ。なにより自分の力を信じていたし、アタハカがどこまで通用するのか、わしは試したかったんだ。



［PRIDE.30 オープニングファイト］
○ズール vs 戦闘竜×
（1R 1分31秒 TKO）

ズールとの圧倒的な体格差をもろともせずに打撃で攻める戦闘竜だが、2メートルの長身を誇るズールの顔に届かない！　ならばとタックルで組み付くも、逆にガブられて頭に膝蹴り！　その攻撃で戦闘竜が崩れ落ちたように見えたところでレフェリーストップの裁定が入ったが、これがスッキリしないタイミング。まだやれたと激怒する戦闘竜、拍子抜けの結末に観客はブーイング。ズール息子は勝利したものの、〝魔神Jr.〟ぶりが見えない日本デビュー戦になってしまった。

——とにかく自分の腕を試したかった気持ちがあったと。かつてブラジルはプロレスも盛んだったと聞いてますけど、プロレスにチャレンジしたことはなかったんですか？

ズール親父　それはなかったな。わしの興味はバーリ・トゥードだけだったから。

——その昔、イワン・ゴメスというルタ・リブレのチャンピオンがプロレスを勉強するため新日本プロレスに留学したことがあったんですよ。

ズール親父　ああ、イワン・ゴメスのことならよく知っているぞ。彼はルタのチャンピオンで、わしらは友人だった。だからわしもイワン・ゴメスと一緒に日本へいく予定があったんだ。

——そうだったんですか！

ズール親父　ゴメスが日本でプロレスを学んでから帰国して、また日本に渡ろうとしたときのことだ。だがゴメスは体調を悪くしちまって、そのまま亡くなってしまったよ。それでそのプランも幻になったんだ。

——もし実現していたらマット界の歴史は大きく変わっていたでしょうけど、もちろん試合をするための来日だったわけですよね？

ズール親父　そうだ。でも交渉はゴメスがイノキ（アントニオ猪木）さんとやっていたから、わしには詳しいことはよくわからんがな。

——あ、猪木さんのことをご存じなんですか（笑）。

ズール親父　ああ、もちろん。イノキさんがブラジルに住んでいたことや、ブラジルでプロレスのイベントを何度か行なったことも知っているぞ。ただ直接会ったり、興行を観に行ったわけじゃないから、よく知っているというのではないな。

——ゴメスが猪木さんと交渉していたということは、来日先は新日本プロレスだったんですかね？

ズール親父　さあな。もう20年前のことだから、どこのリングなのか、誰が相手だったのか……。ひとつだけわかっていたことは、バーリ・トゥードの試合をやるということだけだよ。

——新日本プロレスでバーリ・トゥード！　にわかに信じがたい計画ですけど、それはおそらく、猪木さんの〝格闘技世界一決定戦シリーズ〟の相手としてリストアップされていたんでしょうね。

ズール親父　まぁ、わしにはブラジルでやらなければならないことがあったし、日本に行けなかったことはそれほど残念ではなかったよ。

——やらなければならないこと？

ズール親父　それはグレイシー一族と闘うことだった。詳しくは知らなかったが、いろんな人間からグレイシーは強いと聞いていて、どれぐらい強いのか闘ってみたかったんだ。そういった衝動は戦士の仕事であり、性（さが）だと言えるがな。

——その相手がヒクソン・グレイシーだったわけですね。しかし、親父さんは20歳で村を出て、ヒクソンと闘ったのは40歳の頃だそうですけど、およそ20年近く経ってますよね。

ズール親父　そのあいだブラジル中でずっと闘い続けていたんだよ。

——20年間、闘いっぱなし！

ズール親父　グレイシーに限らず、強い奴と闘うためには名のある戦士を倒し続けて、わしの存在をアピールする必要があった。そして多くの試合をこなしたのちに、ようやくグレイシーと闘うことになったんだ。でも、わしはとくにヒクソンを希望していたわけじゃなかったよ。ただグレイシー一族と闘いたかったんだ。

——グレイシーの代表がたまたまヒクソンだったわけですね。

ズール親父　当時のヒクソンはまだ若く、格闘家としての名前もそれほど売れてなかった。つまり、無名の柔術家だったわけだ。逆にわしの名前のほうが有名で、立場的にはヒクソンが〝ズールの刺客〟といった感じだったな。

——それだけ親父さんはこの世界で目立つ存在だったんですね。

ズール親父　名前の〝レイ〟は王様という意味で、自慢するわけじゃないが、当時のブラジルでルタの第一人者といえば、わしのことだったんだ。

ズゲエ！ 90年代末期、50歳の魔神はオタービオやブラガ、エンセンと闘っていた！

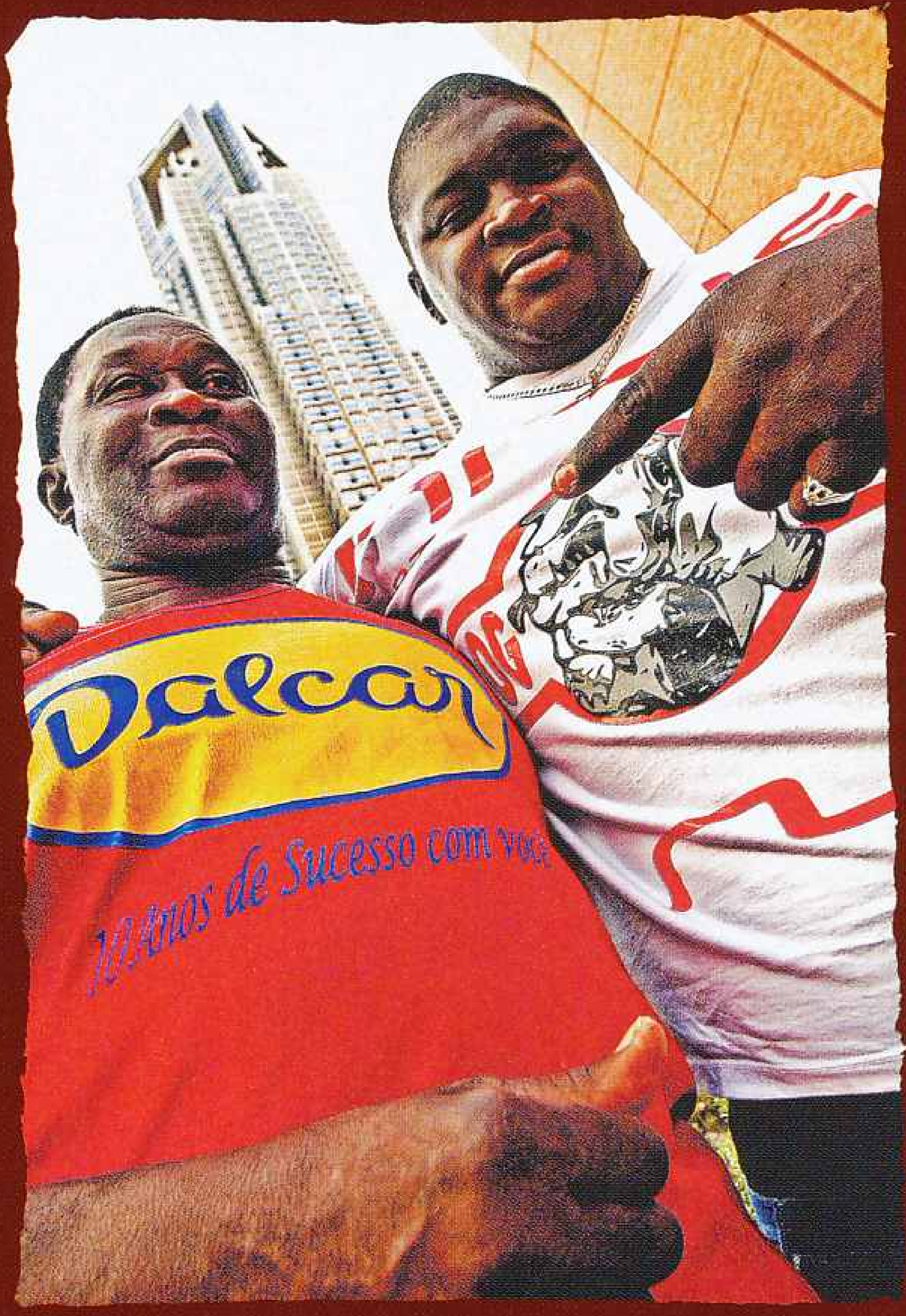
いちいちオリエンタルラジオのネタになりそうなズール親父の武勇伝ぶり。40歳にしてヒクソンの挑戦を受けたことも凄いが、52〜53歳の頃には、元・横綱の北尾を破ったペドロ・オタービオや、PRIDE初期に活躍したエベンゼール・フォンテス・ブラガといった、当時ルタ・リブレの一流ファイターと対戦している。日本では1997年4月6日の修斗後楽園ホール大会に初登場し、エンセン井上と対戦。リングインするや奇声を発しながらマットに腹這いなり、ジタバタするミステリアスなパフォーマンスを披露した。いずれも敗戦しており、「高齢だし無謀だよ！」なんて声があるかもしれないが、そんなつまらない正論は聞きたくない！

——つまり、VTといえばズール！　イズマイウも似たようなことを吠えてましたけど、ズバリ、言葉の重みが違いますね（笑）。
ズール親父　ああ、イズマイウのことは知ってるぞ。彼はタフな格闘家であり、立派な実業家らしいな。
——まぁそう言えなくもないですけど……（笑）。そういえば、イズマイウは息子さんをプロモートする話があったとか。
ズール息子　いや、そういうわけじゃねぇんだ。イズマイウさんとはマナウスの『ジャングル・ファイト』で知り合っただけで、直接オファーされたってわけじゃないよ。ただ、『ジャングル・ファイト』で俺の存在がクローズアップされたことで、いろんなとこから試合のオファーが飛んできた。イギリスの金網で暴れることもできたし、今回『PRIDE』で試合をすることができたのも『ジャングル・ファイト』があったおかげだな。
——あのイズマイウが役に立つんですね（笑）。話を戻しますが、実際にヒクソンと闘ってみていかがでしたか？　2試合にわたる死闘で、親父さんには〝ヒクソン最大のライバル〟という肩書きも付いたわけですけど。
ズール親父　わしはグレイシー柔術がどういうルタなのか何も知らなかったが、実際に闘ってみてヒクソンは強い戦士であることがわかったよ。
——親父さんのあまりの強さに、ヒクソンがラウンド中のインターバルで「もう闘えない」と漏らしたといわれるほどの激闘だったみたいですね。
ズール親父　いい試合だったなぁ！　わしは生まれて初めて試合に負けてしまったが、何度かヒクソンをブン投げることができたよ。ただ、ひとつだけ不満があるとすれば、打撃が制限されたグラウンド中心の、ヒクソンに有利なルールになってしまったんだ。二度目の闘いもわしに不利なルールでレフェリングもアンフェアだったが、まぁ、ヒクソンがとても強かったことにかわりはないな。
——残念ながらリベンジ戦も敗れてしまったわけですが、バーリ・トゥード第一人者の地位をヒクソンに奪われたことの悔しさはありませんでしたか？
ズール親父　いや、とくにそういう感情は湧いてこなかったよ。わしは強い奴と闘いたくて試合を続けてきたし、そのおかげでヒクソン・グレイシーという素晴らしい戦士と肌を合わせることができた。それにヒクソンに敗れたからといって、わしがやってきたことが失われるわけではない。
——心からリスペクトできる生き方だと思います！
ズール親父　ありがとう。それにわしはバーリ・トゥードが多くの人間に認知されることを願ってきたから、『PRIDE』のような格闘技イベントの繁栄は、本当に喜ばしいことだ。大きな会場にたくさんのお客さんが座って、イベントや選手にスポンサーもたくさんついて……。わしが少しでも力になれたんなら嬉しいよ。
——そういう舞台で息子さんも活躍することになって。
ズール親父　わしは普段あまり村から出ないんだが、息子が頑張っているから、これからはちょくちょく顔を出そうと思うんだ。
——お歳を召してますけど、『PRIDE』で闘ってみたい気持ちはありませんか？
ズール親父　あるぞ、それはあるぞ。昨日のズルジーニョの試合を見ていたら、血が騒いできた！（笑）。
——ワハハハ！　真面目な格闘技ファンには怒られそうですが、ぜひ親父さんの勇姿が猛烈に見たいんです！　やっぱり誇りと意志を持ってこの道を歩んできたわけですから。
ズール親父　そういうチャンスがあればしっかりトレーニングをするが、相手は50歳以上のファイターに限定させてくれ……。ブワハハハ！
——では、グレイシーにリベンジということで、エリオなんてどうですか？
ズール親父　それはいいアイデアだな（笑）。
——ひっそりと期待しております（笑）。インタビューはこれでおしまいですが、最後に外で撮影をよろしいでしょうか？
ズール親父　そうか、そうか。では、ちょっとシャツを着替えさせてくれ。いいかな？
——はい！　その白いタンクトップも激シブなんですが、問題ありません（笑）。
ズール親父　わしのスポンサーのシャツをぜひ着たいんだ。スポンサーもマネジャーもおらず、ただただ闘いに明け暮れていた昔を考えたら、まるで夢のような話だからなぁ……。

【05年10月24日／都内某ホテルにて収録】

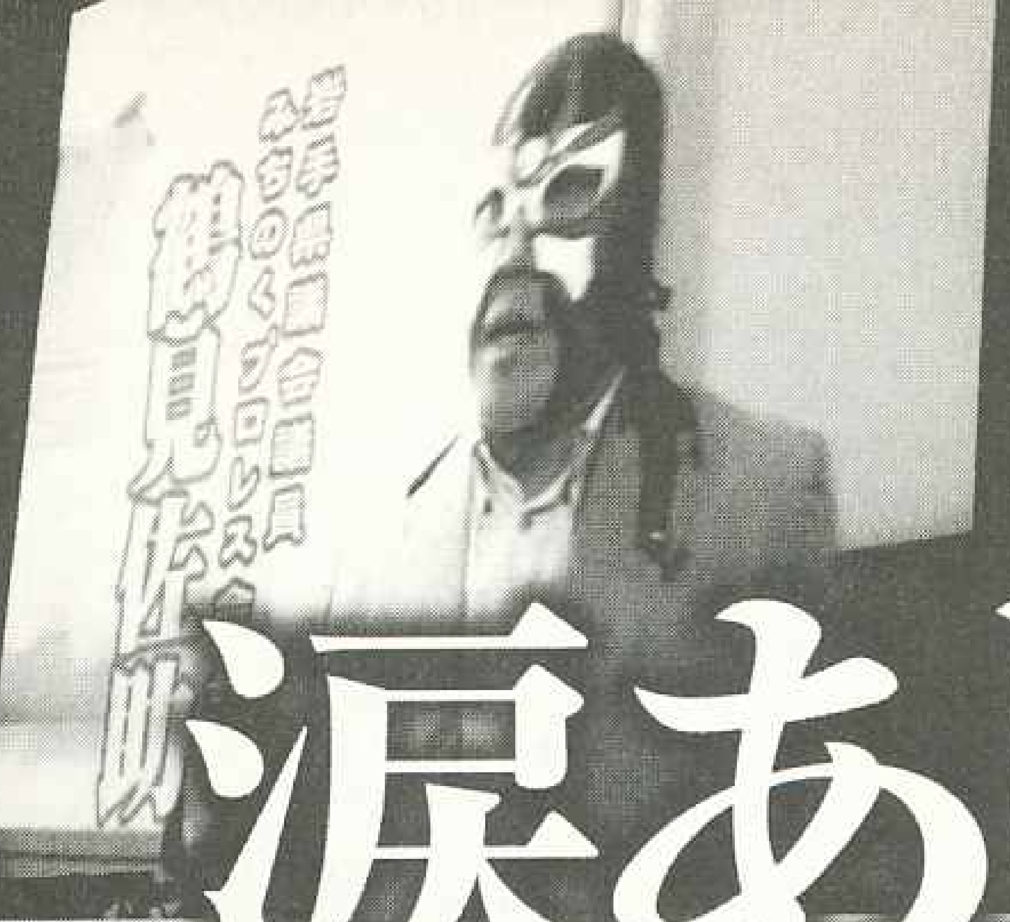
ZULU
Family

ズルジーニョの試合を見ていたら、血が騒いできた！（笑）



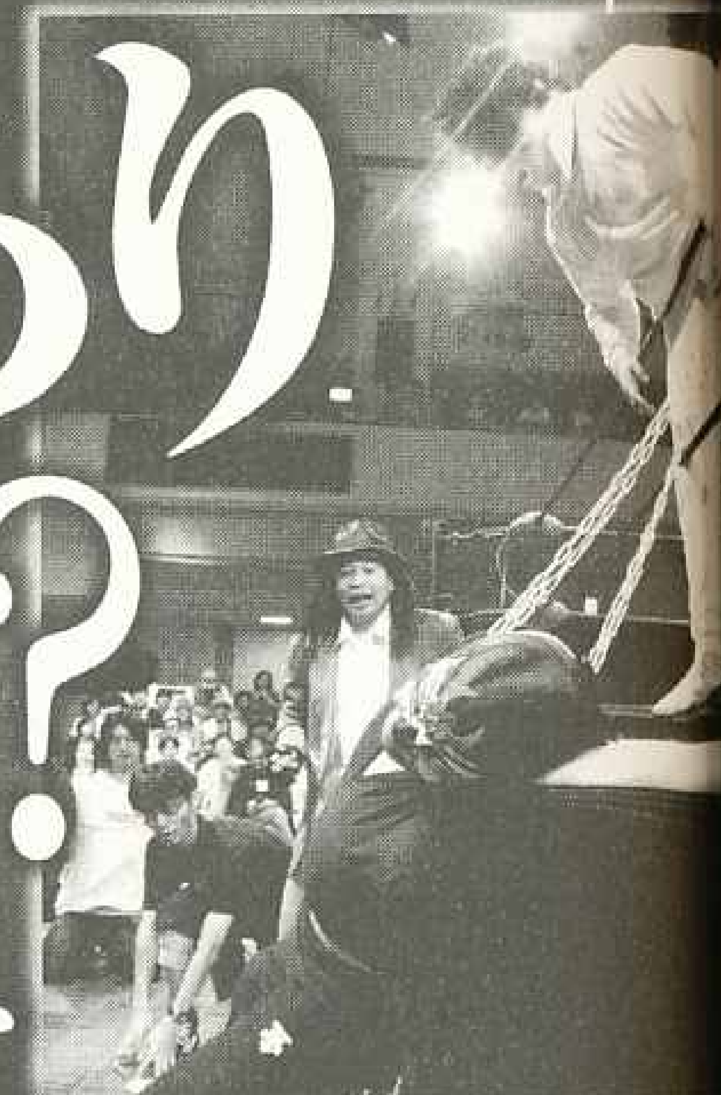
レイ・ズール
1946年6月23日、ブラジル・マラニャオン州出身。いまだ現役の59歳。ズールというリングネームは、アズール（ポルトガル語で「青い」）が由来。お兄さんが青い鳥を飼っていたことから名付けられたそうだ。

ズール息子
1978年5月19日、ブラジル・マラニャオン州出身。ブラジルのローカル大会で35戦全勝。柔術は紫帯でボクシングはブラジルナショナルチームでトレーニングを積んでいるが、最大の武器はこの巨体。200cm、184kg。

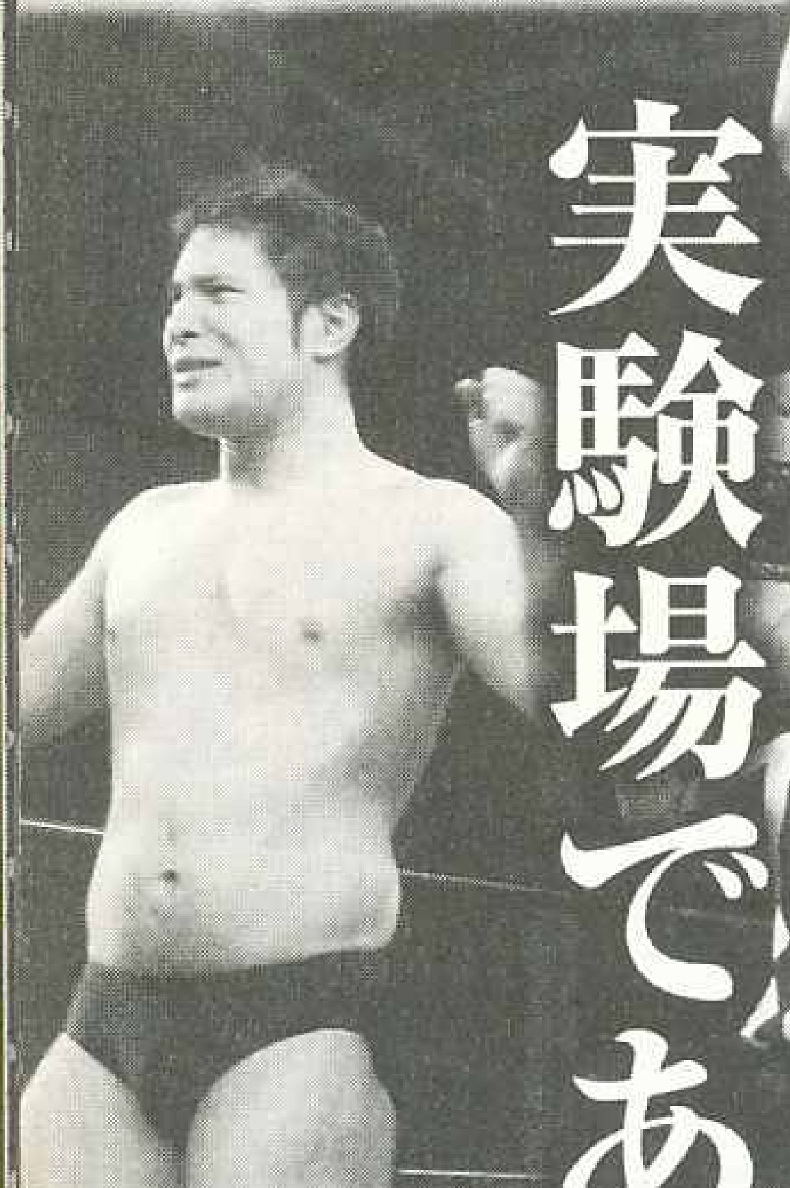


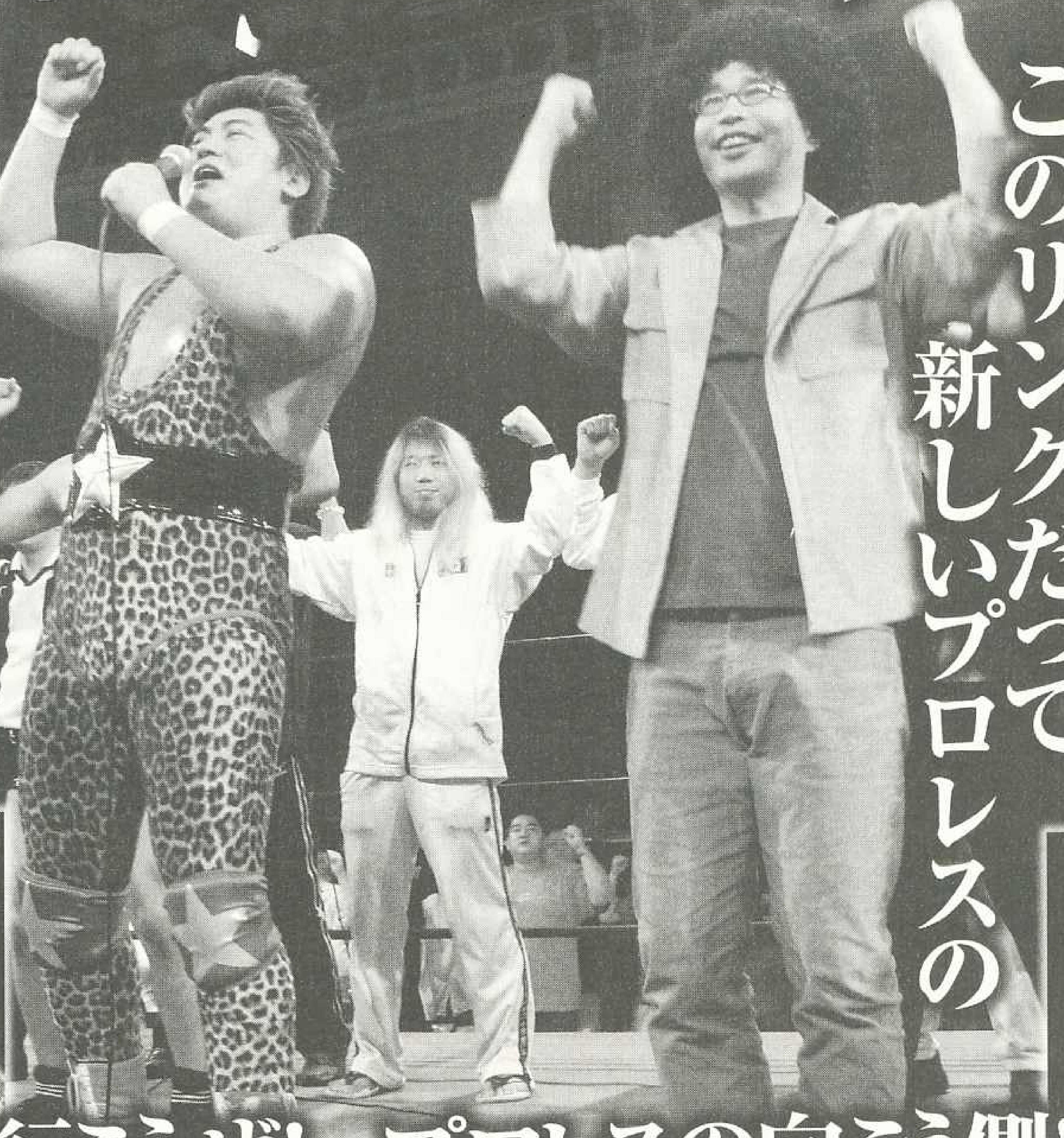
岩手県議会議員＆“東北の英雄”ザ・グレート・サスケも熱烈推薦!!



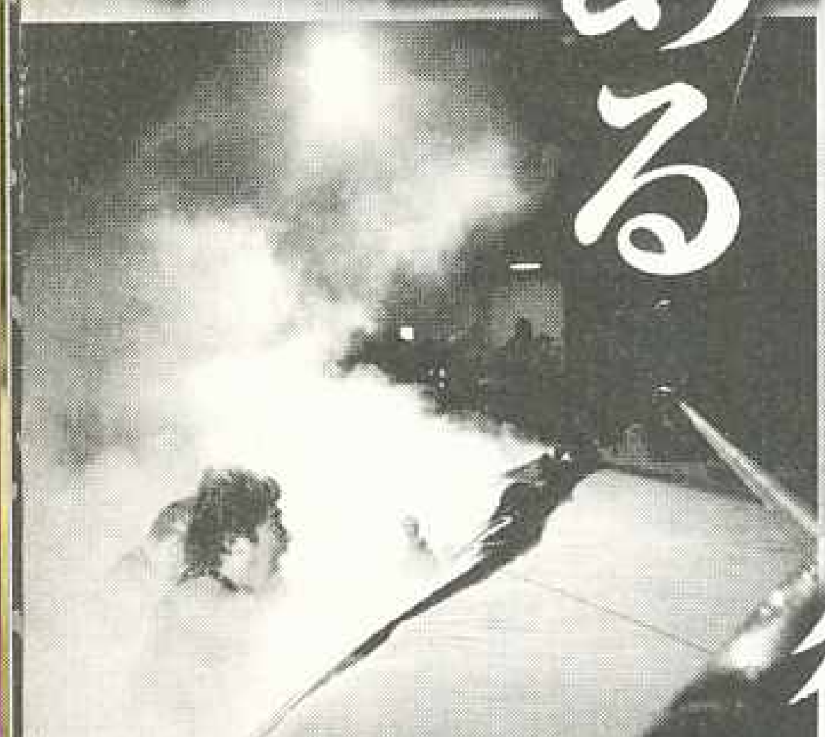


涙あり 笑いあり 台本もあり!?











このリングだって新しいプロレスの実験場である

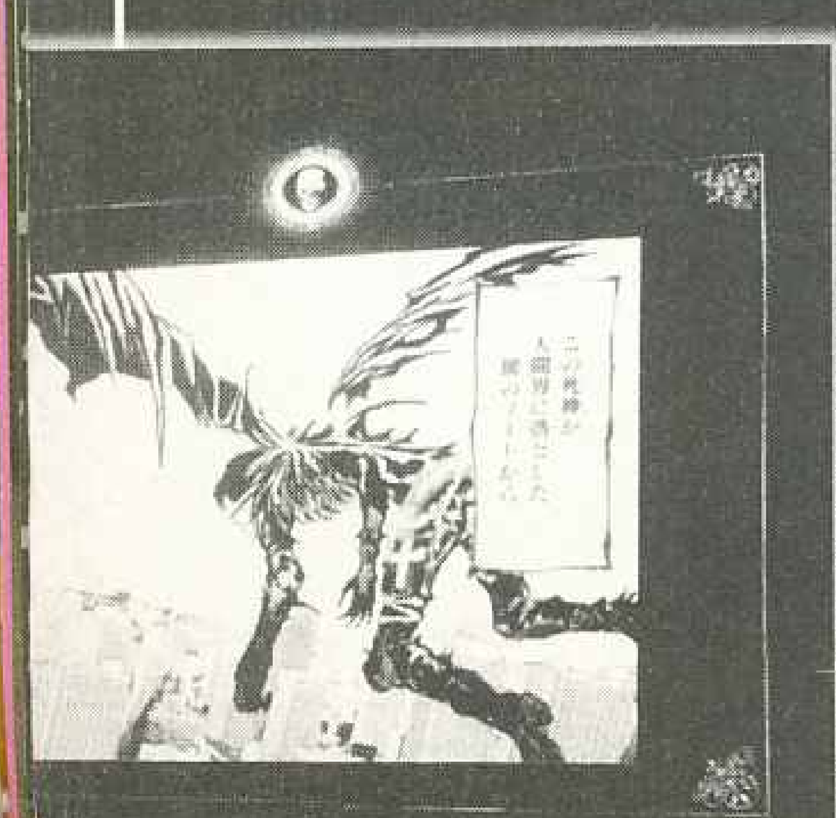
行こうぜ！ プロレスの向こう側!!

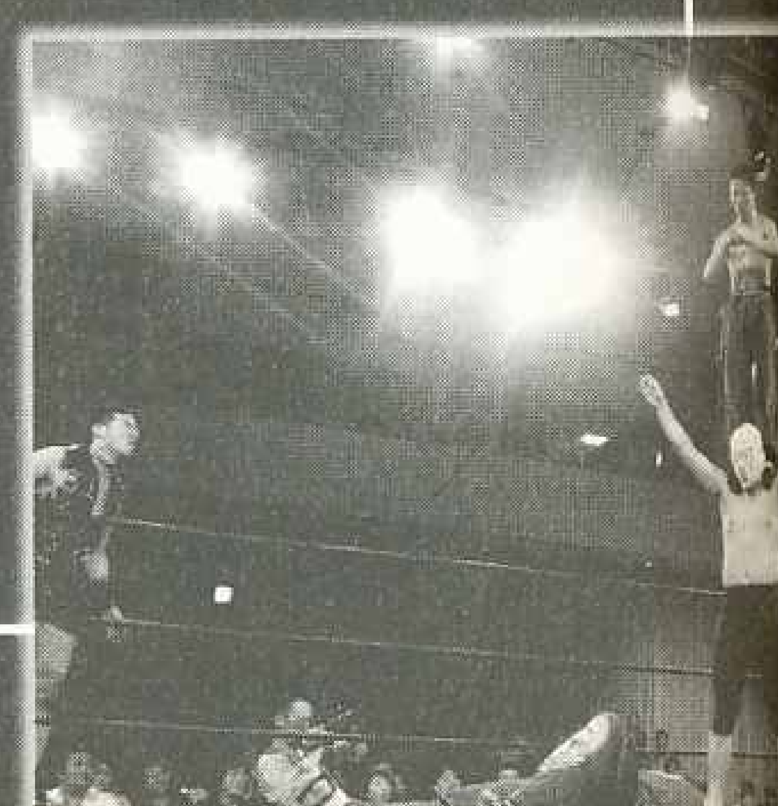
マッスル徹底解剖

ブチ抜き11Pでマッスル！ マッスル!!

11･3横アリ大会でついに大ブレイクした『ハッスル』。その向こう側で地道に活動を続け、たいした宣伝もせずに後楽園ホールに満員の観衆を集めたのが『マッスル』。某老舗団体でも後楽園を満員にするのが難しくなってきた昨今、ほぼ口コミだけで埋めてしまった『マッスル』とはいったいなんなのか？ 涙あり、笑いあり、台本もあり!? なんでもありの無法地帯！ 一部で話題騒然の『マッスル』を徹底解剖！

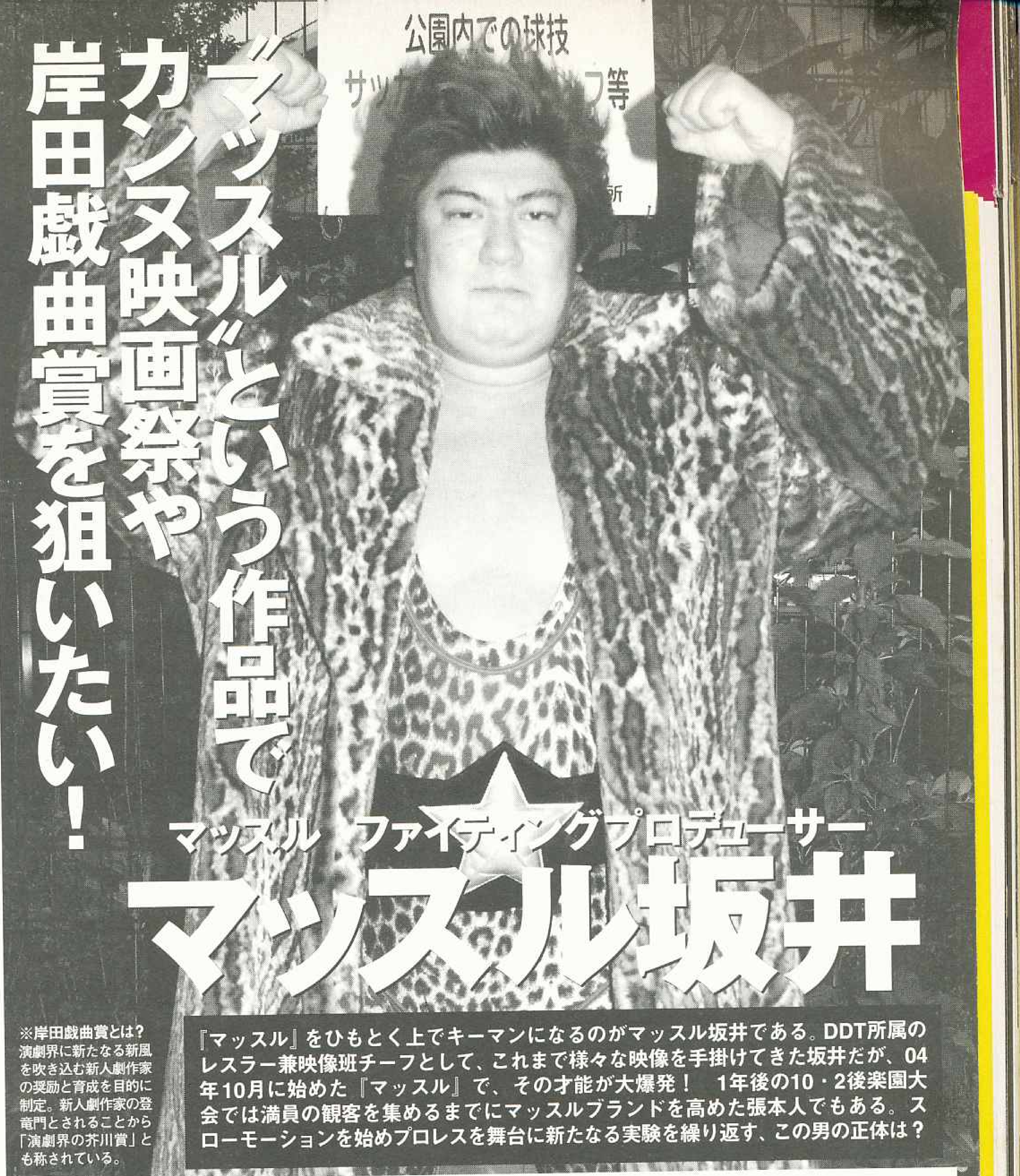
構成＆撮影／松澤チョロ design by さおとめの事務所





何度かヒクソンをブン投げることができた

たわけですが、バーリ・トゥード第一人者



“マッスル”という作品でカンヌ映画祭や岸田戯曲賞を狙いたい！

マッスル ファイティングプロデューサー
マッスル坂井

『マッスル』をひもとく上でキーマンになるのがマッスル坂井である。DDT所属のレスラー兼映像班チーフとして、これまで様々な映像を手掛けてきた坂井だが、04年10月に始めた『マッスル』で、その才能が大爆発！ 1年後の10・2後楽園大会では満員の観客を集めるまでにマッスルブランドを高めた張本人でもある。スローモーションを始めプロレスを舞台に新たなる実験を繰り返す、この男の正体は？

――こないだの『マッスル・ハウス』では第3のプロレス専門誌『週刊リング』のターザン鶴見編集長が「いまのプロレスマスコミはホントに面白いものを面白いと伝えていない」と言われてましたが、『kami-pro』というか、ボク的には、いま一番面白いプロレスは『マッスル』だと思いましたので、今回11ページの大特集をしてみようと。

坂井 じゅ、11ページ！ それはありがたいんですけど、いくらなんでもやり過ぎなんじゃないでしょうか？

――巻頭カラー50ページで大特集した『週刊リング』には及びませんけど（笑）。

坂井 特集してくれたとは聞くんですけど、いまだに事務所にも送られてきませんからね（笑）。

――そうなんですか（笑）。で、『マッスル・ハウス』が大成功に終わって、ウチの読者でも『マッスル』という単語を耳にする機会が増えたとは思うんですけど、まだまだ「『マッスル』ってなんなの？」っていう声が多いと思いますので、そのへんをお聞きできればと思ってます。

坂井 よろしくお願いします！

――早速ですが、簡単に……まあ簡単には説明できないとは思うんですけど、何なんでしょうね、『マッスル』って？

坂井 『マッスル』っていうのは……プロレスのですね、新しい形ですよね。

――『マッスル』には「行こうぜ！ プロレスの向こう側!!」という気志團チックなキャッチフレーズが付いてますけど、これは坂井さんが考えたんですか？

坂井 そうです（笑）。僕は、いま世間一般で言われているプロレスというものと、現実のプロレスというものは、またちょっと変わってきてると思うんで。いまのプロレスはスポーツ的な部分で凄いクローズアップされてしまってるところがあるような気もするし。もともとは、リングの上でやるものは全部プロレスだと思うんですよね。だけど、日本だとやっぱり「キング・オブ・スポーツ」という言葉が大きいというか、かつてはもっと、リング上でいろんな表現があったと思うんですよ、たぶん。その歴史がどこかで変えられてるはずなんですよ。

――いまは、たとえば『PRIDE』だったり総合格闘技の影響もあるでしょうし。

坂井 それもあると思います。で、最近はやたらクルクル回転してるじゃないですか。ケブラータがムーンサルトになったり、さらに540度になったり。あとは技のスピードが早くなったりとか、血が流れる量が多いとか、いろいろとあるんですけど。だから感情の部分ですよね。みんな技術的な方向にばかり広がっていってる感じで、なんか感情の部分がおざなりになってしまったんじゃないかなって。

――リング上で表現できる感情っていうのは、まあ限度はあるでしょうからね。

坂井 あると思いますよ。

――従来のプロレスでの怒りの表現っていうと、やっぱり長州さんの「何コラ、タ

※岸田戯曲賞とは？
演劇界に新たなる新風を吹き込む新人劇作家の奨励と育成を目的に制定。新人劇作家の登竜門とされることから「演劇界の芥川賞」とも称されている。

マッスル坂井が解説する“マッスルの住人”たち



ツルティモドラゴン

いわずと知れた鶴見五郎。茅ヶ崎で日本最古のプロレスラー養成学校・ツルティモ・ドラゴンジムを経営している。過去にプロレスの主要タイトルを獲ったこともある名選手。ジムからは高木三四郎、健心、森谷俊之、佐々木貴、菊澤光信、奥村茂雄ら錚々たるレスラーを輩出している。最近、近所に小川道場ができ、ちょっと焦り気味？



鶴見亜門

ツルティモ・ドラゴン校長の甥。アメリカで本場のエンターテインメントを学んだ演出家。『マッスル』をWWEやWCWのようなエンターテインメントの団体にするためツルティモ校長から呼ばれて来日。メガネに触られることを非常に嫌がる。『マッスル』には「4」から登場。そのマイクアピールは天下一品。トレードマークは校長譲りのアフロ。



サイモン鶴見

ツルティモ・ドラゴン校長の娘婿。アメリカでは清涼飲料水（ペプシコーラ）を販売していた。現在は足立区にロス足立道場（通称ＬＡ道場）というジムを構え、格闘家との親交が厚い。アメリカナイズされた合理的な経営理念の持ち主でガチンコ志向が強い。『マッスル７』では、「しゃべり場」をプロレス界に導入、一気に８人を闘わせた。



ターザン鶴見

『マッスル・ハウス』で初登場となったが、最後の最後に鶴見亜門の別人格だったということが発覚。要は武藤敬司とグレート・ムタのような関係。一応、ツルティモ・ドラゴンの甥にあたる。第３のプロレス専門誌『週刊リング』の初代編集長。リング上でサスケを射殺するなど、ハードボイルドな一面も持つ。今後は必要に応じて出場予定。



アントーニオ本多

イタリアにおいて新日本プロレス中継が直撃した世代の人物で、見よう見まねでプロレス活動をしていた猪木信者。日本のプロレスに憧れ浜ロジムと勘違いして、ツルティモジムに入門。マザコンでドケチ、髪が薄いのを気にしている。最近の決め台詞は「マンモス、うれピッツア！」。『マッスル』の世界では坂井と同志でありライバルでもある。

ココラ！」がマックスのような気もしますし。

坂井　それも、技術としては限られた人にしかできないものなんですよね。ですけど、たとえばスローモーションとかだったら、見てもらうとわかると思うんですけど、ここはちゃんと感情移入して見るとこだとか、闘いがいま一番盛り上がってる、佳境に差しかかってるとこだって、一発で伝わるもんだと思うんですよ。

——そのスローモーションですけど、知らない方も多いと思うんで説明すると、『マッスル』のリングでは強調したい部分というか、試合のハイライトシーン的な場面でリング上がスローモーションになるんですよね。

坂井　ある種、それも演出の一つですよね。まあ、ぶっちゃけた話をしますと、自分らっていうのは、たとえばプロレスラーじゃないわけですよ。プロレスラーを目指す素人なわけですよ。

——『マッスル』の中での設定はそうなってますよね。プロレスラーになるためにツルティモ・ドラゴンジムに入門するところから始まってるわけで。

坂井　そうなんです。逃げ道と思われたらあれなんですけど、まだ、ちゃんとしたプロレスはできないと。ヘタなんで。

——そうなんですか（笑）。

坂井　そうなんです。それに、たとえば、「1、2……2・9！」みたいなカウントのシーンって、スローモーションで見えるときがあるじゃないですか？

——それはありますよね。

坂井　自分の中で。で、一流のレスラーって、表情とか汗の量とかで全部見せれるじゃないですか。痛がる顔とか、起き上がるときの仕草とか、そこから繰り出す技とか、その人の感情とか、それまでの二人の闘いとかストーリーとかを全部背中や技術で語れなければいけないんですけど、それを我々はできないんです。

——それができて、初めて一流のプロレスラーって言われるわけですからね。

坂井　それが僕たちはできないけど、興行をやらなければいけなかったと。そしたら、それ以外の表現方法を使って見てもらうしかないんですよ。だから逆に言うと『マッスル』は一流のプロレスラーに出てもらっちゃいけないんですよ。プロレスの技術に長けた人に出てもらったら、スローモーションなんかやらせる必要ないですから。

——まあ、そういうことですよね。

坂井　それに、僕らはあれをやったら面白いとか、シュールだからとか、ギャグでやってるわけじゃなくて、興行としてどうやったら成り立つかとか、お客さんを満足させられるかとか、プロレスをやることでお客さんが得られる効果と同じことを出すために、そういう演劇的な手法を取り入れざるを得ないんですね。

——逆にプロレスに演劇的な手法を取り入れたくて『マッスル』を始めたっていうわけではないと？

坂井　ないです、ないです。その手法を、たまたま僕が知ってたから取り入れただけなんで。数ある手法の中から、そういう方法を選んだっていうことですね。たとえば、そこが悲しげな場面だったら悲しげな音楽が流れたり、より注目してほしいからスローモーションにしたりとか、必殺技が出て、「1、2……2・99！」で肩を上げるその瞬間で、彼のそれまでの心情が流れたら、お客さんに伝わりやすいと思うんですよね。

——いま言ったものは、これまでの『マッスル』でだいたい披露されてますが、いままでそういう形のプロレスはなかったわけじゃないですか。ＷＷＥでもスローモーションとか試合に映像が挿入したりとかってなかったと思うし。逆にそういった手法は、お客さんにウケるなっていう自信もあったんですか？

坂井　ウケるなっていうか、僕はスローモーションを初めてやったとき、もっと涙だと思ってたんですよ（笑）。ホントは感動して「ワーッ！」ってなってほしいとこがあったんですけど、結果は「ギャハハハ！」だったと。そこが僕の至らなさですよね。まあでも、逆に笑ってもらって、それが作品として成立すれば、それはそれでありかな、と。表現者としてはやっぱり、プロレスっていうものは一番受け入れられやすいというか、誰もが憧れるものを見せられるはずなんですけどね。

——そういう意味では、プロレスというジャンルは、もっともっと可能性があるんじゃないかと？

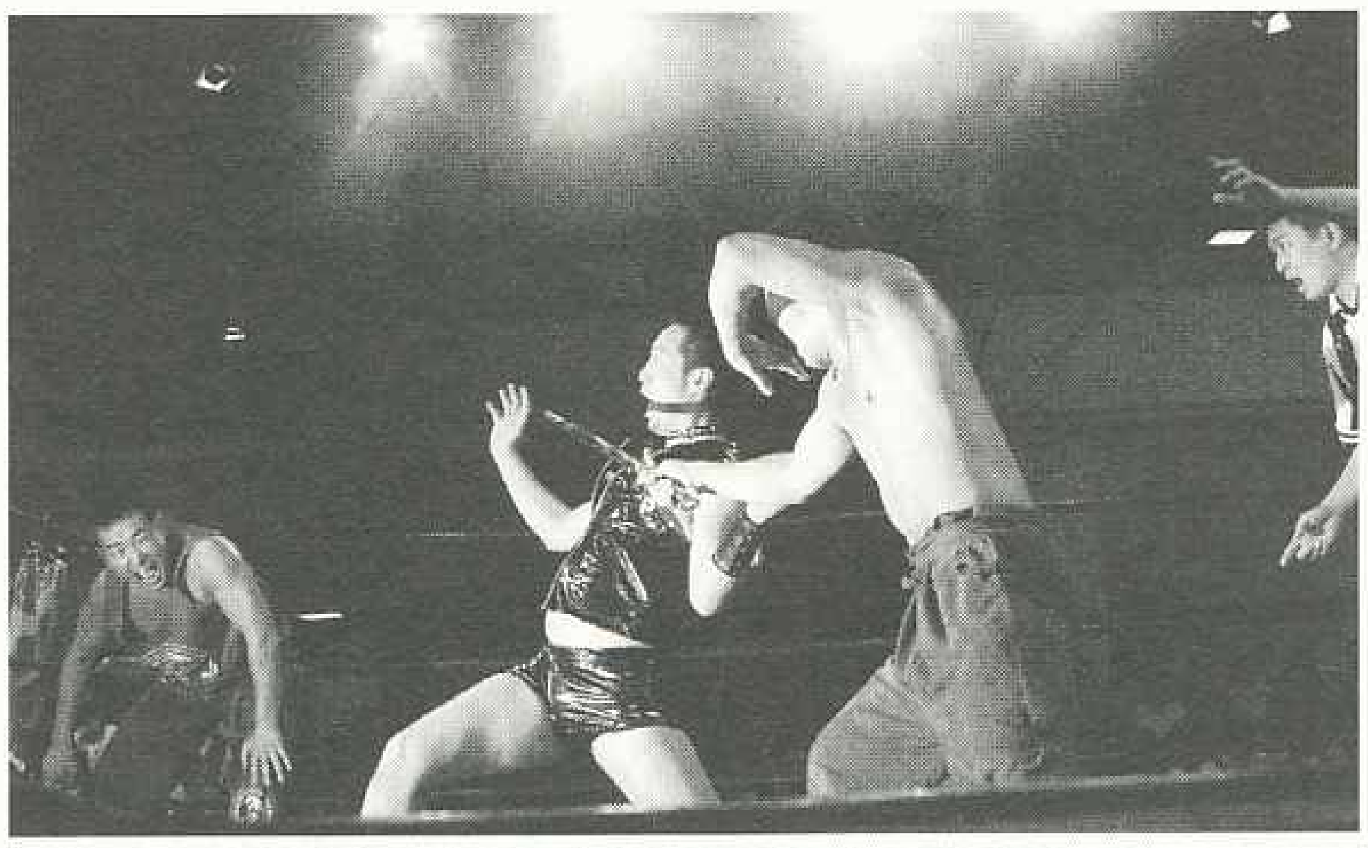
坂井　僕はそう思ってます。最初から『マッスル』をメディアが取り上げてくれる、取り上げてくれないじゃなくて、お客さんとの闘いだと思ってたんですよ。少なくとも会場に来てるお客さんは、あらかた好意的に受け入れてくれる状況ができてきてるんで。実券で後楽園ホールを満員にできるお客さんが来てくれるっていうのは、間違ってはいなかったかなって。

——ただ、後楽園大会の終了後も言ってましたけど、まだまだ満足はしてないんですよね？

坂井　満足じゃないですね。自分らが作りたいものを完全に作れてるわけではな

行こうぜ！ プロレスの向こう側!!
マッスル徹底解剖

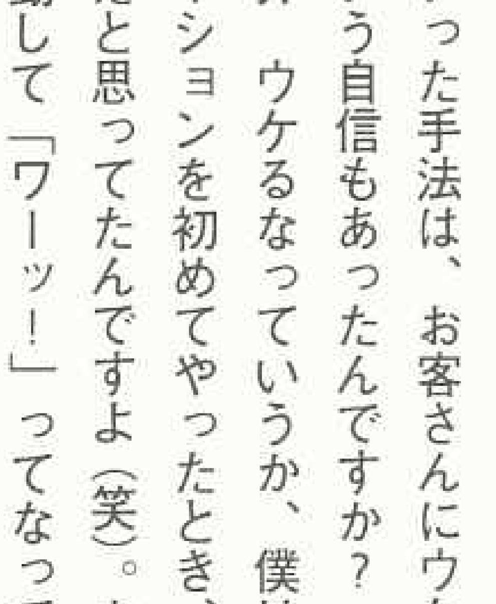
これがマッスルの世界





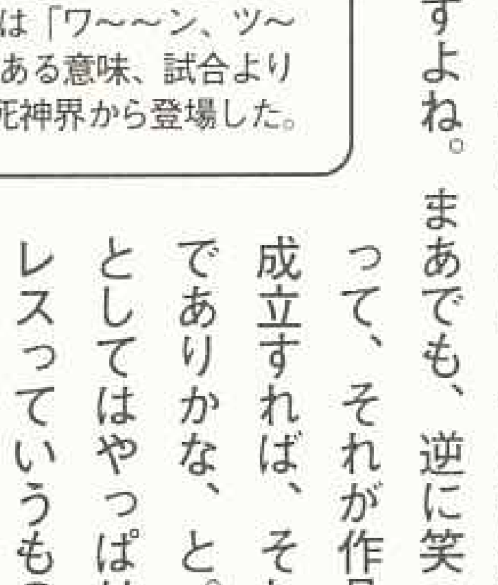
【写真上】こちらが『マッスル』名物のスローモーションシーン。試合のクライマックス時に音楽とともに紙吹雪が天井から舞ってきたらスローモーションの始まりだ。スローならではの高度なテクニックの応酬に酔いしれろ！　レフェリーのカウント時には「ワ〜〜ン、ツ〜〜」とスロー対応するのが望ましい。【写真下】『マッスル』にとって、ある意味、試合より大事なのが映像である。10・2後楽園ではリング上で頭を打った坂井が死神界から登場した。

ペドロ高石



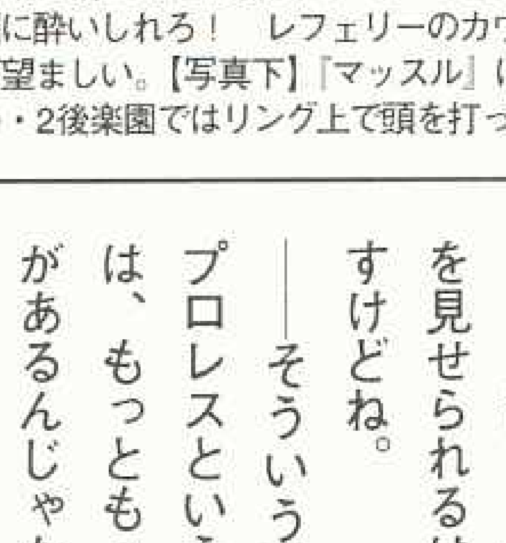
高校時代はアマレスで国体に出場するなど活躍するも、故障によりアマレスを離れる。その後、ブラジルに留学しカポエイラを学ぶ。現在はカポエイラの講師をしつつ様々なインディー団体でも活躍中。昼間の顔は生命保険会社の社員だが『マッスル・ハウス』直前には新宿2丁目のお店で目撃され、思わぬところでカミングアウトする形に。

趙雲子龍



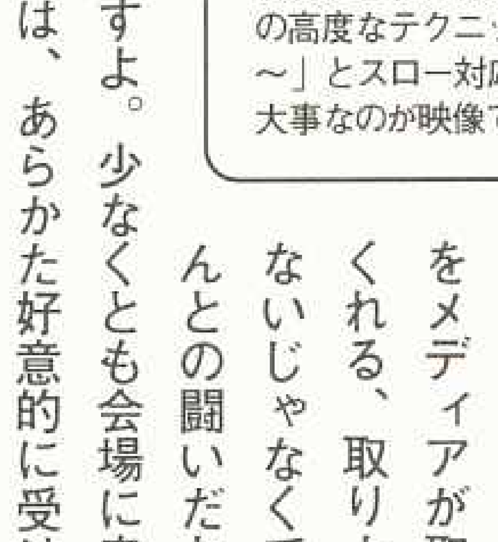
ちょううんしりゅう■中国の北京学院大学のプロレス研究会会長を務めていた。学生プロレスの発祥の地でもある日本に興味を持っていたところ、絶妙なタイミングで『マッスル』のオーディションが開催されることを聞きつけ来日。10・2『マッスル・ハウス』では酒井一圭ＨＧのデビュー戦の相手を務め、あと一歩のところまで追い込んだ。

ゴージャス松野



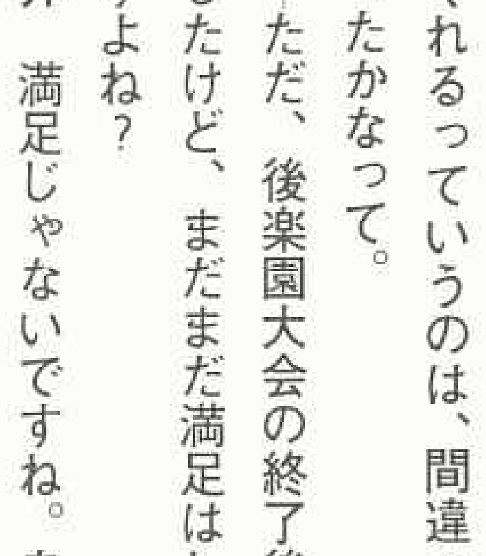
ツルティモ・ドラゴンジムの生徒ではないが、ネームバリュー、実績ともに兼ね備え『マッスル』にレギュラー出場している唯一の大物選手。『マッスル』のリングでは毎回の様にプロ模範試合を披露。どちらかというと試合で引っ張るタイプ。「プロレスに言葉なんていらない！」という姿勢で試合をするツルティモ・ドラゴンジム内の憧れのファイター。

726



726と書いて「なつる」と読む。典型的なダメ人間＆ろくでなし。かつて中学生ギャングのような時代があり、道端にあるバイクを片っ端から盗んでいたという札付きのワル。リングの上ではパラパラとレスリングの融合を目指し、現在もイベントサークルに所属している。大森隆男がリーダーを務めるアックスボンバーズの一員でもある。

藤岡典一（メガネ）



DDTテックの見習い社員で帳簿上で活躍。1989年の全中プロレス選手権覇者で今後はそのキャラクターを全面に押し出していく予定。ライト級全盛時代において、近々立ち上げ予定の『マッスル武士道』では中量級のエースとして様々な総合格闘技の場での活躍に期待がかかる。『マッスル3』では“地底王国の王子”として登場したことも。

いですから。後楽園大会で言えば、やっぱり映像面で課題が残りましたし。ライブではそこそこウケる。でも映像にしたときに全部伝わるかどうかっていう問題があって。今回はそこがちょっとイマイチだったんですよ。

――ボクも後楽園前までは『マッスル』は映像で見て面白いと思って、『マッスル・ハウス』で初めてライブ見たら、やっぱり面白かったんです。ただ、そのあと映像で見たらライブの盛り上がりは伝わってないなっていうのを感じましたね。

坂井 そうなんですよね。僕が思ったのは、プロレス映画で、最近では『いかレスラー』とかありましたよね。あの試合シーンを撮影した会場ってバトルスフィアだったじゃないですか。

――たしか、そうでしたね。解説は吉田豪がやってましたけど。

坂井 河崎（実）監督の『いかレスラー』でもバトルスフィアしか使えないわけですよ。やっぱり、後楽園とかじゃ撮影できないんでしょうね。会場代とかエキストラとかリング借りたりとか、凄いお金かかっちゃうんで。でも『マッスル』という場で映画を作ったら、ひょっとしたらできるんじゃないかって考えてて。

――エキストラにお金払わなくてもいいわけですからね（笑）。

坂井 逆にお金もらえてやりたいことができると。そういう形で撮影して、いままでの『マッスル』とも全然違うストーリーの映画を作ってみたいなって。それを来年の『ぴあフィルムフェスティバル』に出そうかと密かに企んでます（笑）。

――プロレスを題材とした作品ですか？

坂井 そうです。やっぱり将来的には映像として完成したものを目指してるんで。映画というか、ひとつのテレビ番組でもいいんですけど。

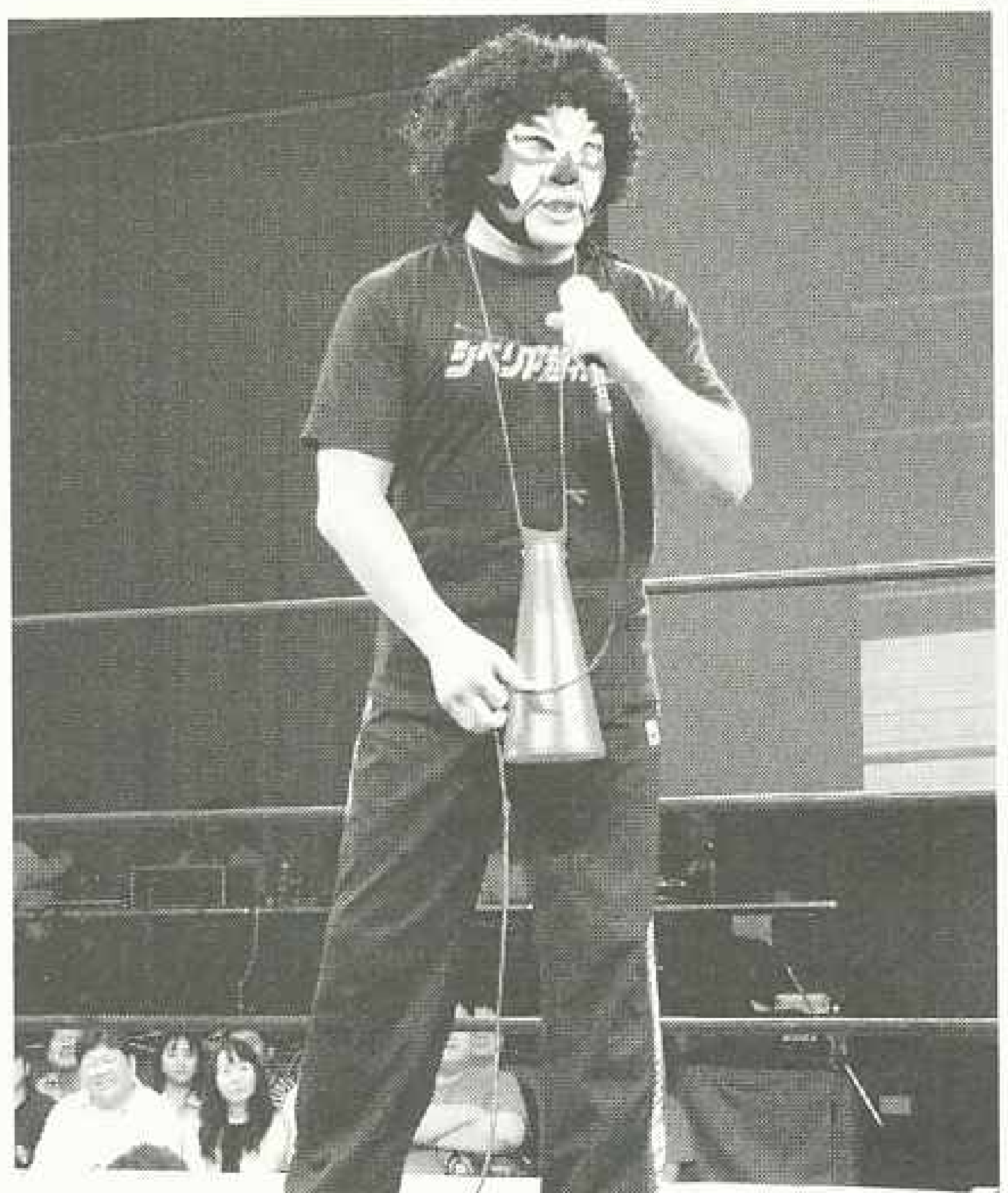
将来的には『マッスル』の脚本を堂々と流出させたいですね

――坂井さんの『マッスル』での夢というか、到達点はどのへんに置いてるんですか？

坂井 やっぱり、やるからにはビジネスとして成功しなきゃいけないと思うんですよ。WWEだって基本的にテレビ撮りなわけじゃないですか？ ハウスショーもありますけど。そう考えると、映像として出来がよければいいわけですよ。会場でウケる、ウケないは別にして、いい映像を作ればいいわけですよ。結果的にそれが一つの作品として2時間のパッケージに収まればいいわけで。そういうものを作っていきたいですね。

――可能性としては、テレビ番組の一つとして『マッスル』で枠を取れたらベストだと？

坂井 そうですね。やっぱり究極的には地上波ですね。いまの『マッスル』の登場人物だったら、僕らプロレスラーじゃない人っていうか、プロレスラーかどうかもわかんないギリギリのラインの人たちを使って、なんとか成立するものを作りたいっていう、それはちょっとマゾヒスティックな状況でやってるんで、逆にそれを普通のタレントとか、アクションできる人とかがやったらいけるんじゃないかなと。そこを替えればいいだけですからね。僕のマッスル坂井っていうキャラクターを、たとえばTOKIOの山口達也がやってくれればいいですよ（笑）。



『マッスル』で演出家を募集したところ、名乗りを挙げたのが我らがサスケ。『マッスル』の演出家になるには鶴見家の血縁者でなければいけないと知ると、早速、婿養子「鶴見佐助」となり、10・2後楽園には鶴見家の象徴のアフロで登場。ご機嫌にマイクアピールをしたまでは良かったが数十分後、銃殺。これもマッスルの世界。

――山口達也がエースの『マッスル』も見てみたいですね（笑）。

坂井 アントーニオ本多とかはそのままでいいんで、それらの脇を固める人たちを俳優とかタレントとかでやっていけたらいいなって。そういう形で『マッスル』がプロレスのドラマとしてできたりしたら、テレビ化というのも不可能ではないと思ってます。

――でも、マッスル坂井としては、自分が主演というかエースとしてやりたいっていう願望も……。

坂井 （遮って）それももちろんありますけど、方法としては、僕が出るのはあくまでも演出の一つとして考えてるわけですよ。それに、やっぱりお客さんは作り手の顔が見たいと思うんですね。試合がレスラーの作品だとすれば、興行はその興行を作ってる、演出家、プロデューサーの作品であると思うんで。パッケージとしてブランド力を持たせるためには、プロデューサーは誰がやってるかをハッキリ見たいわけですよ。

――雑誌もそうですよね、編集長の顔であったり、作り手の顔が見たいっていうのはありますよね。

坂井 そうですよね。で、『kamipro』さんって作り手の顔がわかるじゃないですか。ターザン山本！さんとかだってキャラクターが凄いじゃないですか。

――そうですね。

坂井 僕も、こういうものを作りたい、こういうものをやりたいなっていうのをお客さんにもわかってほしいし、見てほしいっていう願望はありますね。

――最近は『マッスル』も少しずつ露出は増えてますけど、それまでは、ほぼ黙殺状態だったわけじゃないですか？ それは想定の範囲内というか。

坂井 もちろんです。どっちかっていうと我々は演劇のほうに近いと思うんですよね。できあがったものとか受ける印象とかを見たら。たとえば、お芝居とかて、その結果とかって載らないじゃないですか。演劇の雑誌とかって、要は公演までのPRなんです。でもプロレスの雑誌って基本的に結果とかが中心なんで、要は結果中心に伝えるプロレスのマスコミは扱いづらいんじゃないかなと思うんですね。



『マッスル・ハウス』でプロレスデビューを果たしたのがガオレンジャーでガオブラックを演じた酒井一圭。「ガオレンジャーとして子どもたちに夢を与えたい」と意気込むも、鶴見亜門に「時代はハードゲイ」とキャラチェンジを強要され酒井一圭HGに。そんなこんながありながらも試合後にはマッスルマジックが炸裂、感動の結末に！

――そうでしょうね。後楽園大会では、リング上にピストルが持ち込まれて、「サスケ死す！」という表紙を作りたいがためにターザン鶴見さんがサスケさんを射殺してしまったり（笑）、あれなんかも、いままでのプロレス界ではありえなかったことですからね。

坂井 そうですね。あのシーンは、結局ピストルを持ったら一番強いっていうことを伝えたかったというか。

――そういうメッセージも含まれているわけですね。

坂井 全部ありますよ、すべてに。「なんで、ここスルーされてんだ？」みたいなところがけっこうありますからね。

――それこそ、たとえプロレスラーでも、ピストルがあれば反則の5秒どころか1秒で殺されちゃうわけですからね。

坂井 そうですよ。どんなに素速い電光石火の丸め込みよりもロシアンフックよりも速いですからね。そういう部分を表現したかったのと、あと最近、プロレスの持ってる魅力でもある胡散臭い部分がなくなってきてる気がしてて。そういう胡散臭い部分を『マッスル』で一手に引き受けたいんですよね。

――そういう意味ではツルティモ・ドラゴン校長は適任ではありますね（笑）。

行こうぜ！　プロレスの向こう側!!

マッスル徹底解剖

坂井　ホンット胡散臭いですからね。

——そこに引き寄せられるサスケさんっていうのもよくわかるというか（笑）。

坂井　ですよね。だから、後楽園レベルで満足することなく、より多くの人に届けたいですよね。我々のメッセージを。

——あと、『マッスル』の凄さって、ホロリとさせるというか、グッと来る場面があるじゃないですか。どこの場面かって聞かれたら説明しづらいですけど（笑）。

坂井　ありがとうございます。でも、やりようによっては、もっと泣かせられると思うんですよ。だって演劇とか映画だったら2時間で泣けるものってザラにあるじゃないですか。プロレスも2時間で、その中で泣けていいはずなんですよ。なんでそれができないのかなって。……まだいまは、笑わせるっていうか、笑われるの域なんですけどね（笑）。

——お笑いでも「笑わせる」と「笑われる」は違うって、よく言いますからね。

坂井　笑わせるのは……簡単って言ったら違いますけど、要はプロレスのリングの上でおかしなことや、ありえないことをやればいいわけですからね。逆に引き出したいのは、それ以上の感情ですよね。怒ったり悲しんだりとか。やっぱり座布団が舞ったりとかしてほしいですよね、暴動が起きたりとか。

——怒りの感情も引き出してみたいと？

坂井　そうですね。協力して起きるブーイングとかじゃなくて、デルフィンさんが東郷さんの股をくぐったときみたいの とか、そういう感情ですね。

——そういう熱って最近のプロレス会場ではあまり感じられないですからね。

坂井　ないですよね。でも、そういう感情も研究次第では引き出せるようになるのかなって。そういうのも含めて『マッスル』は実験の場というか。ちなみに、どんなツッコミ受けても全部言い訳はできるようにしてますからね、僕（笑）。

——よくプロレスで突っ込まれるのが、台本はあるのかないのかってところだと思うんですけど、ちょっと前に『ハッスル』の台本流出騒動とかあったじゃないですか？

坂井　ちょっとビックリしましたけど、ただの進行表でしたからね（笑）。

——で、坂井さんは『マッスル』では、演出家というか、脚本家でもあるわけですよね。

坂井　まあそうなりますね。

——演出家や脚本家っていうのは、坂井さんが表現したいプロレスの世界には必要不可欠なものなんでしょうか？

坂井　……非常に難しい質問ですけど（笑）、まあ必要と言えば必要ですね。ただ、さすがに『マッスル』でも試合にはシナリオとかはないですから。

——試合だけはガチだと？

坂井　そうです。それ以外はだいたい決まってるんですけど、こうなってほしいなって思ってても、その通りにならないっていうのもあるし。で、演劇とかお芝居とか行くと、台本というか戯曲集をパンフレットみたいな形で売ってるんですよね。そういう感じで、将来的には『マッスル』の戯曲集を作って売ってみたいんですよ。いままでみたいに、悪い意味での流出じゃなくて、堂々と流出させたいというか（笑）。

——堂々と流出させますか（笑）。ただ、戯曲集として読みごたえがあるものを作るには、リング上で、それ相当の内容を披露しなきゃいけないわけですよね。

坂井　ですよね。その脚本を……演劇だと岸田戯曲賞（※正式には岸田國士戯曲賞）って脚本の芥川賞って言われてるのがあって。それをプロレスで獲れたらいいなって。そしたら、プロレスの脚本も、いままでみたいなマイナスイメージじゃなくて、プラスのイメージを持たれるようになると思うんです。

——そうなるでしょうね

坂井　あとはプロレスを使った映像で、たとえば僕がカンヌ映画祭で賞を獲ったら、みんなにありがたがってもらえるわけですよ。一気に価値も上がると思うし。

——それは新しい発想ですね（笑）。

坂井　そっちはそっちで真剣勝負ですからね。だからレスラーが総合格闘技で勝ってプロレスのポジションやギャラが上がるように、そういうふうにやっていければ地上波も取れると思うんですよ。

——『マッスル30』あたりでカンヌのグランプリでも獲っちゃいますか（笑）。

坂井　狙います！……まあ僕の身体が続く限りは（笑）。でも、ホントにそうなったらいいなと思うんですけどね。だからドンドン周りから盛り上げていってほしいですね、僕を！

——もっと俺を盛り上げてくれと（笑）。

坂井　そんな感じで（笑）。あとはプレッシャーや忙しさに負けないで、これまで以上に面白い『マッスル』を作っていければいいなあと思ってます。

——最後の最後は月並みな決意表明、ありがとうございます！（笑）。

【11月2日／都内・新宿『ケンズ カフェ』にて収録】



まっする・さかい■本名・坂井良宏。練習生時代からDDTのリングに上がり（試合数200以上！）、マッスル坂井と改名し、H14年9月にスーパー宇宙パワー相手に初試合。H16年10月に『マッスル』を立ち上げ、これまで9大会を行っている（ちなみに『マッスル5』から『マッスル8』は同日興行）。中退ながらも早稲田大学文学部出身というプロレス界では異色の高学歴ファイターでもある。撮影場所はDDT事務所内にある映像編集ルーム。185cm、115kg

天才プロデューサーの頭の中を探れ！

マッスル坂井に聞く50の質問

1.お名前と、お名前の由来を教えてください。
A. マッスル坂井です。名前の由来って、こうなってほしいみたいな気持ちで親とかが付けるじゃないですか。僕は筋肉質ではないんですけども、マッスル北村のような体型になってほしいという気持ちを込めてマッスル坂井という名前になりました。何年か前に、マッスル北村のビデオとかを事務所でゲラゲラ笑いながら見てたんですね。そしたら、高木さんが勝手にリリースに「マッスル坂井」と書いて流して決まったんですよ。だから、名付け親は高木三四郎ですね。あと、よく『マッスル』は『ハッスル』の亜流なんじゃないかって言われたりするんですけど、やってることも全然違うし、それは納得いかないですね。僕の名前もイベント名も、マッスル北村が元ネタですから。

2.座右の銘（好きな言葉）はなんですか？
A.「仕事で返す」っていう言葉を最近覚えて、それは好きでよく使ってますね。なんかおごってもらったときとかに「仕事で返します！」とか、なんかミスをしたときに「仕事で返します！」みたいな。そういうことを言うようにして、できる人間のフリをしてますね。

3.自分で自分の性格をどう思いますか？
A. あんまり窮地に立たされない性格というか……。プロレスをやってるとレスラー生命の危機みたいなのって、よくあるはずなんですけど、いまのところあまりないんですよ。それって性格で許されてる部分もあると思うし、それは『マッスル』に関しても言えると思うんですけど。……でも、やっぱり自分自身の性格っていうのは完全にひもといたり、ひと言で言えるもんじゃないんだと思いますね。

4.好きな食べ物、嫌いな食べ物はなんですか？
A. 好きな食べ物は……最近、おこわが好きだってことに気づきましたね。モチ米が好きだというか。僕は米どころ新潟出身ということで、常に上質な白米を与えられてきたんですよね。でも、おこわっていうのは、やっぱりちょっと落ちるわけですよ。モチ米とかは正月とかしか食べないですし。普段はもっといいお米があるわけですから、いろいろ混ぜものをしたり、着色した、おこわとかに走る必要はないんですよ。でも、東京に来てみて、東京には東京なりに、やむにやまれぬ状態から、おこわという文化ができたと思うんですよ。で、結論を言うと、僕自身がおこわだと（笑）。レスラーとしても、白米としては食べていただけないというか、自分なりに色を付けたり、豆を入れたり、ゴマを振ったり、山菜でごまかしたり、そういう、おこわのような存在かなと思ってます。それは『マッスル』に関しても一緒ですね。

※残念ながら、スペースの都合で「マッスル坂井に聞く50の質問」はここまで！　続きが読みたいという方は携帯サイト『kamipro Hand』でどうぞ！　エッ、まだ加入してないって？　そんなキミはP72の広告ページをよ～く見て、速攻で加入するべし!!　行くぞーッ！　3、2、1、マッスル！　マッスル!!

元『週刊プロレス』編集長

ターザン山本！

『週刊リング』編集長

ターザン鶴見

プロレス専門誌 新旧編集長対談実現！



10・2『マッスル・ハウス』後楽園大会のリング上からプロレスマスコミ批判をブチ上げると、『週プロ』『ゴング』に続く第3のプロレス専門誌『週刊リング』の発行を宣言したターザン鶴見。これにすぐさま反応したのが他ならぬターザン山本！本人だった。見てもいないのに携帯サイトでは鶴見氏に恋文を送りつけ大炎上！元『週プロ』編集長と現『週刊リング』編集長、奇跡の初遭遇ですよォォォ！

聞き手＆撮影／松澤チョロ　design by さおとめの事務所

with マッスル坂井

――え～、今回は新旧プロレス専門誌の編集長対談ということで、よろしくお願いします！

山本　（司会役のチョロに向かって）コイツの企画はいつもしょっぱいからねぇ。

鶴見　それは不安ですねぇ。

山本　でも、今回の企画は凄くいいよ！

――あ、ありがとうございます！

鶴見　昔、チョロさんは原稿落として何もないページがありましたよね（笑）。

――…………（固まる）。

山本　あったあった！　俺が編集長だったら切腹もんだね。長州力が言うところの糞ぶっかけるというヤツだよ。

――（無視して）というわけで、山本さん。こちらが第3のプロレス専門誌『週刊リング』の編集長……。

鶴見　ターザン鶴見です（頭を下げる）。

山本　キミがそうなの？　パチパチパチパチパチ！（拍手）

坂井　自分はDDTプロレスのマッスル坂井です。『マッスル』では、試合から映像班まで、プロデューサー的な立場でいろいろとやってまして。

山本　へぇ～。やけに大きいんだねぇ！

坂井　一応、185センチありまして、実寸では184センチなんですけども（笑）。

――いきなりカミングアウトですか（笑）。で、山本さん。ターザン鶴見さんが登場したマッスル後楽園大会には行けなかったみたいですけど、いろんな人から反響があったみたいですね。

山本　そうそう。みんな「ターザンの二セ者が面白かった」って言ってくるんだよね。それで、あとから映像で見せてもらったら、いやあ、あれはうまいよ！

鶴見　ど、どうもありがとうございます！

山本　僕はね、てっきり普通の素人がやってるのかと思ったの。だからナメてたというか。要するに真似事というか、学生プロレスみたいにやってるのかと思ったら、全然本格派じゃない？　しゃべってることもそうだし、声も大きいし貫禄もあるし、なんかえらい迫力があったもんね。あれは驚きましたよォォォ！

――炎上して取り乱すところは山本さんに通ずるところがありましたけど（笑）。

鶴見　後楽園のリングに立つなんていいのかなっていうところで、ちょっと舞い上がってましたけどね（苦笑）。

山本　でもあれぐらい研ぎ澄まされたマイクアピールのできる人は、いまのプロレス界にはいないね。マイクの内容も、すべて言ってる通りだもんね。ほとんど正しいよ！　あの発言全部載せてほしいね。チョロ、扉の横のページに大きくバーンと、あの発言載せとけよ！

鶴見　よろしくお願いします！

――二人の編集長命令なら、そうさせていただきます（笑）。具体的に、そのマイクの内容を言うと「いまの週刊誌は団体の顔色をうかがった記事ばかり載せている」と。あと「意味のないレスラーのグラビア、いつまで経っても核心に触れないプロレスの漫画」が目に付くと（笑）。

山本　パチパチパチパチパチ！（拍手）

――コアなプロレスファンにとっては、誰もが思っていたことというか、核心を突いた内容をズバッと言ってくれたということで、拍手喝采だったわけですけど。

山本　プロレス界もそうなんだけど、いまは出版業界そのものが保守的なのよ。まあ、その中で一番ひどいのはプロレス！

鶴見　おっしゃるとおりだと思います。

山本　プロレスマスコミっていうのは、他のジャンルに比べて遅れてるんじゃないに自分たちが好きなプロレスを、ただ守ろうとしてるだけなんだよね。要するにさ、世の中とか社会とか時代の中で、その空気と熱を浴びて変化していかなきゃいけないのに、それを全部シャットアウトして、トンネルの中に入って抱きか

団体の顔色をうかがうだけの記事！ピント外れなレスラーのグラビア！いつまで経っても核心に触れない漫画！面白くもない試合を面白かったと書けるくらいなら、マッチメークから何からマスコミがやりゃあいいじゃねえか!!



追悼号を出したいがためにサスケを銃殺してしまったターザン鶴見。「プロレスに本当に必要なのは演出ではなく、我々の明確な編集方針です！ これからの試合は『週刊リング』の校了スケジュールに則って厳格に進めます!!」と高らかに宣言。自分勝手にマッスルポーズを決めると、死んだはずのサスケもマミーに操られる形で「マッスル！ マッスル!!」とポーズを決めた

かえてるんですよォォォ！

――ターザン鶴見さんはそういった思いから、危機感を持って新しいプロレス週刊誌を立ち上げたわけですね。

鶴見 そうですね。面白いモノは面白いと、業界のしがらみとかは一切関係なく取り上げていこうと思ってます！

山本 キミたちはさ、僕の言えないことを全部言うから気持ちいいよ。いままでは『ゴング』で言えないことなんかを『kamipro』とかで僕が言うって立場だったわけだからさあ。

――山本さんの発言には選手や関係者も、あまり文句は言わないですからね。ある種、治外法権というか（笑）。

山本 そうそう。僕は治外法権的な人間なんで。「ターザン山本！だったら、そのまま言わせとけ！」みたいなとこで、自分がホントに言いたいことを僕に言わせるわけですよ。そういう役割をしてたんだけど、今度は僕が言いたいことをさらに言う人がいたから、凄いよ、これ！

――選手も関係者も、マスコミに対していろいろ言いたいことはあるんでしょうけど、言ったら載せてもらえなくなるとか考えたら本音は言えなくなりますよね。

山本 そうそう。でも、プロレスって、もともとギャグなんだよな。

鶴見 エ――――ッ！ プ、プロレスはギャグ!?（驚きつつも、しっかりメモ）。

坂井 すげえ！ 震えましたよ、いま。

山本 全部ギャグですよォ！ 当然だよ。あとはネタだから。

坂井 うすうす感づいてはいたんですけど、みんな真剣にやってるから言えなかったですよ！

山本 ネタとギャグとパフォーマンスですよ、プロレスは！ 要するにさ、基本はギャグなのに表向きは真剣だってことを伝えるという法則を作っただけですよ、猪木さんがネ。ギャグですよ、馬場さんがやってたことも。ぜぇ～んぶネ、ギャグの伝統ですよ！ だってマットに背中を付いて3回カウントを叩かれると負けって、それ自体ギャグですよ、もう！

坂井 ま、まったく同感です！

山本 川田なんかが『ハッスル』に出るのもギャグじゃない？ 天龍さん、長州さんが揃い踏みで『ハッスル』に出るんですよ。もはや、それって一大ギャグじゃないですか！

坂井 は、はい。

山本 結局、あの人たちもギャグだとわかったんですよ！ 僕が言わなくても、天龍さん、長州さんがもうプロレスがギャグって言ってるわけじゃない？

鶴見 長州さんも小力と一緒にバラエティー番組に出てましたしね。

山本 いまはギャグ黄金時代ですよ、絶対に。ギャグの王道ですよ！ いま、その頂点に立ってるのがギャグのオピニオンリーダーである『ハッスル』ですよ。

――『ハッスル』はギャグのオピニオンリーダー（笑）。

山本 そうですよォ！ いままでのプロレスの歴史っていうのはギャグを真剣勝負に大変換させてきた。それ自体がもう虚構というかギャグだったんだよ。

――それは力道山の時代から変わらず？

山本 力道山の時代は、ギャグとしてのプロレスが真剣勝負に100%転換されてたわけですよ！ 100%のギャグと真剣勝負は表裏一体だったわけ。

鶴見 おぉ～っ！（しっかりメモ）。

山本 表裏一体ですよォ！ だって、ヤスリでどうやって歯を研ぐの？

鶴見 フレッド・ブラッシーですね。

山本 ギャグじゃない？ そんなもん！

坂井 『プロレススーパースター列伝』なんかも凄いギャグマンガですよね。

山本 そう！ だからギャグ花盛りですよ、いま。でも、ギャグになって、やっ

と一皮むけたよ、プロレスも。

坂井　ただ、いま日本のプロレス界はスポーツとしての部分を強調しようとしてると思うんですよ、たぶん。より多く回転したり、より激しくチョップを打ち合ったりすることが凄いこととというか。

山本　そうそう、そういう風潮はあるね。

坂井　僕らはギャグの部分を強調すればするほど、逆に本来のプロレスの姿に近づくんじゃないかと仮定して『マッスル』をやってるんですよ。

山本　正しい！（キッパリ）。要するに自分で正しいプロレスの噛ませ犬になってるわけですよ！

坂井　噛ませ犬！　い、いつの間に!?

山本　噛ませ犬になってギャグをやる。そのことによってプロレスを小バカにしてるっていうことじゃなくて、そこから一転して、本道というかストロングなプロレスに逆光が差すわけですよ。逆に光を当ててるわけですよ。逆光イズムですよ、君たちは！

坂井　僕らは逆光イズム（笑）。

山本　大変なことだよ、それは。楽しみながらギャグをやればやるほど、実は自分たちが信じてきた〝本物のプロレス〟が存在するんじゃないかという幻想を与えてるわけですよ。これからもおおいにギャグをやりまくらないと！

坂井　は、はい。でも〝ギャグ〟って言葉の響きがいいですよね、なんか。

山本　だって、人生なんて全部、オール、すべてギャグじゃない？　もっと言ったら小泉政権なんてギャグの塊ですよォ！　なんとか太蔵という26歳のヤツが出てきたけど、あれだってギャグですよ。

坂井　杉村太蔵ですね。

山本　あんなのが急に出てきてさぁ、小泉政権はもうギャグ内閣というか、メディア内閣になってるんですよ。もっと言うならさ、これはアメリカと同じで広告代理店内閣ですよ。広告代理店が仕掛けをやる頭脳になって小泉の改革とかを演出したわけ。アメリカンナイズされた電通とかの広告代理店が選挙をやってるようなもんですよ。一大ギャグですよ、あれ！　だからワイドショーなんかもいい気なもんで毎日やってるでしょ。

鶴見　毎日やってますよね。

――大仁田さんが杉村太蔵に絡んでるのも、またギャグというか（笑）。

山本　大仁田厚はもうあれ、出遅れもいいとこですよ！　太蔵よりも価値落ちてるもん。太蔵のほうが人気あるんだもん。

坂井　でも、ちゃんとそういう流れに乗っていこうってところがありますよね。

山本　でも相手にされてないでしょ。いまは太蔵のほうが商品価値あるからね。もう大仁田厚はギャグというかネタにもなってないんですよ。必死にネタを作ろうとしてるんだけど、太蔵のほうがもうナチュラルネタになってるんですよ。

坂井　杉村太蔵は天然っぽいというか、ナチュラルですもんね。

山本　あれは新時代に合ったネタですよ！　大仁田なんかはもう旧式だから。

坂井　いまの時代は作為的なものは受け入れられないですからね。

山本　過去には受け入れられた時代もあるけども、時代の変遷とともに変わってきたわけよ。で、ナチュラルネタがそれを凌駕したわけ。そういう意味じゃ太蔵は凄いですよ、あれ！　だって見てくださいよ、いまプロレスラーよりも、プロレスラーじゃなくてプロレスをギャグにしたレイザーラモンＨＧと長州小力のほうが世の中的にははるかに人気があるでしょ。それこそギャグじゃない？

鶴見　おっしゃるとおりです。

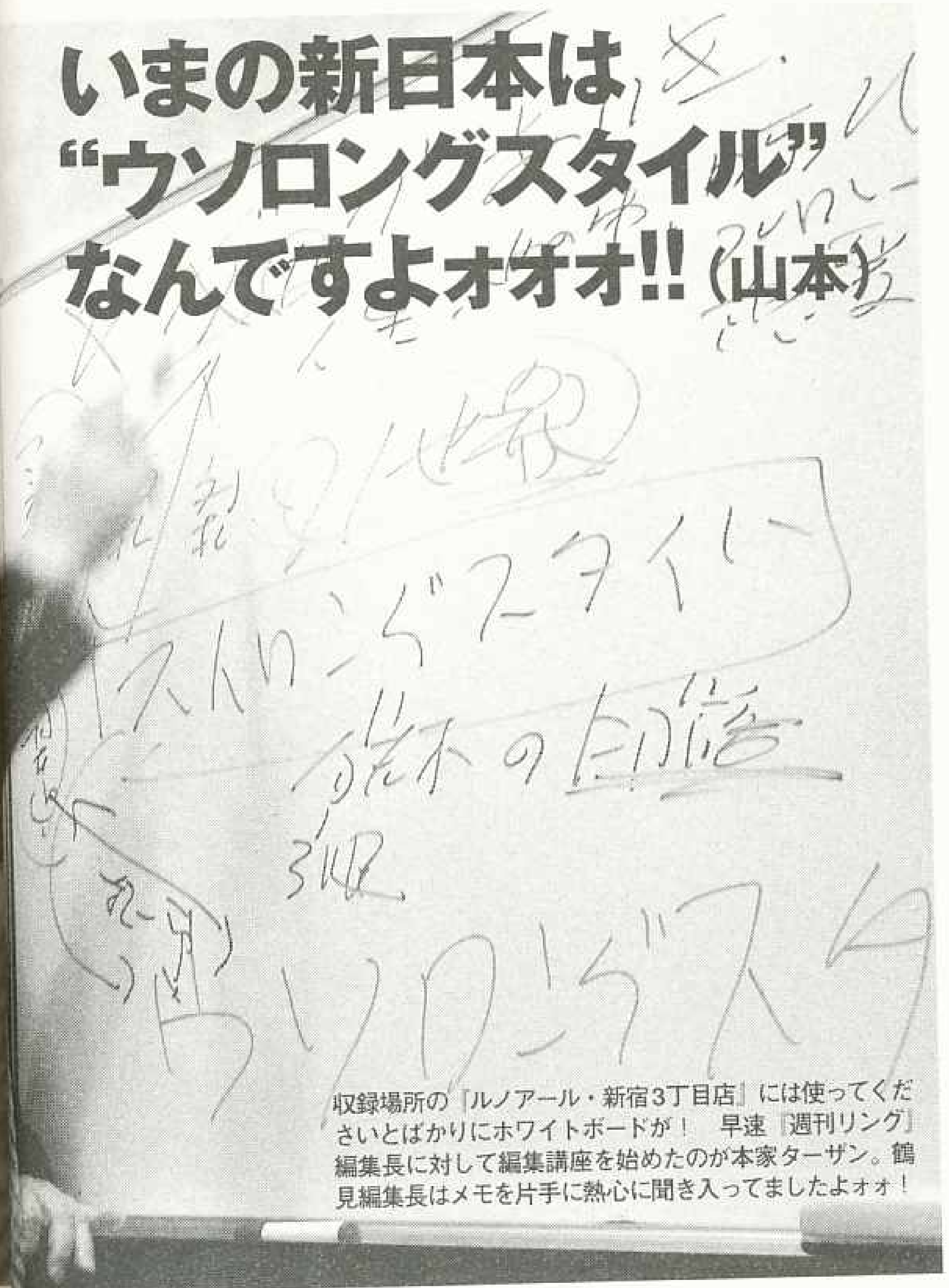
坂井　プロレスラーらしいですもんね、彼らのほうが。ファンタジー性もありますし、キャラクターもしっかり守ってるし。

山本　長州小力のほうが長州よりもプロレスラーっぽいでしょ。レイザーラモンのほうが棚橋（弘至）よりも断然プロレスラーっぽいよォォォ！

坂井　インリン様もそうですよね。

山本　インリンのほうが女子プロレスラーよりもプロレスラーらしいですよォォォ！

いまの新日本は“ウソロングスタイル”なんですよォオオ!!（山本）



収録場所の『ルノアール・新宿3丁目店』には使ってくださいとばかりにホワイトボードが！　早速『週刊リング』編集長に対して編集講座を始めたのが本家ターザン。鶴見編集長はメモを片手に熱心に聞き入ってましたよォォ！

で、もっと言うならば、元彌のほうが健想よりもプロレスラーらしい。そして、ターザン山本！の方がレスラーよりもレスラーらしいんですよォォ！

坂井　ダハハハ！　まあ、レスラーらしい生き方を送ってますよね（笑）。

山本　存在感も、しゃべりもすべて！　もうオーラが違うから！（小声で）最後はオーラだから（ガッツポーズ）。

一同　ダハハハハハ！

――でも、このあいだのマイクアピールを見たら、鶴見さんは山本さんより山本らしく見えましたよ（笑）。

山本　俺からしたら、彼は影武者ですよ。

――影武者でしたか（笑）。ここまで聞いてターザン鶴見編集長的にはいかがでしょうか？

鶴見　いや～、すべてターザンさんのおっしゃるとおりだと思います。

坂井　鶴見さんはターザンチルドレンですからね。

山本　ハッキリ言ったらね、小泉首相なんか僕より30年遅いよ！

――は、何が30年も遅いんですか？

山本　ターザンチルドレンってよく言われるんだけど、あの人も小泉チルドレンとか言ってんでしょ。僕は何年前から言われてるんですか!?って話だよ。

――さすがに30年も前からは言われてないと思いますけど（笑）。

山本　（無視して）僕はＩ編集長（井上義啓）チルドレンなんだよね。Ｉ編集長という変わり者がいて、僕はそのチルドレンになって。まあ、『週刊ファイト』チルドレンなんだよ、要は。

鶴見　『週刊ファイト』チルドレンですか？

山本　そうそう。それが独立してターザンチルドレンを作ったわけだよね。井上さんは東京には行かなかったんで、代わりに僕が東京に出てきたようなもんですよ。どうせ俺たち流れ者っていうかさ、外れ者というかね。金なんて持ってないし、もっと言えば無産階級じゃない？（チョロを指さして）コイツなんか住む家もないんだもん！

鶴見　見事に無産階級ですねぇ（笑）。

――さすがに家ぐらいありますよ！

山本　（無視して）いや、プロレスってジャンル自体が無産階級なんですよ。だって電話ひとつで団体興すんだから。

坂井　それにプロレスって形になるものは何も生み出さないですしね。

山本　そうそう。資本なんかないじゃない？　身体が資本なんだから。無産階級っていうのは身体だけが資本だもん。

坂井　ですよねぇ。なんか……今日はホッとしましたね。なんか、頑張ろうって気持ちになりますよ。

山本　（急に険しい顔になり）「頑張ろう」と言うことが一番ダメなんだよォォ！

坂井　が、頑張っちゃダメなんですか？

山本　頑張ろうというのは、お上を気にしたりとか、まず自分より上の存在がいて、縦社会があって、そのために頑張ろ



左が『マッスル』のしゃべり部門の三銃士的存在。左からマッスル坂井、アントーニオ本多、鶴見亜門（＝ターザン鶴見の別人格）。本職は役者との噂もある鶴見氏のマイクアピールは絶品！　坂井のレスラーとは思えない言語センスと、いつだって前のめり気味の本多のマイクも必見。『マッスル』は映像とマイクが主役とも言えるのだ！

行こうぜ！ プロレスの向こう側!!

マッスル徹底解剖

うという清く正しいということを相手に認めてもらいたいから言うんだよね。だから頑張ろうじゃないんですよ、やるんですよ、シュートするんですよォォォ！

坂井 やりますよ、シュートで！

山本 「頑張ろう」という形でいる限りは、なんの問題の解決にも、なんの役にも立たないよ。それは完璧に自己満足というか、悪者になりたくないとか、いい子になりたいとか、人からいいように思われたいとかいう心情がどっかに残ってるんですよ。去勢されてるんですよォォ！

坂井 ……い、いつの間に!?

山本 去勢されてますよ！ 頑張るっていうのは去勢なんですよ！ 去勢された負け犬根性の無産階級ですよォォォ！

坂井 虚勢された負け犬根性の無産階級……。もう、ただのブタというか、ブタ以下ですね（苦笑）。

山本 だから射精する権利もオナニーする権利も与えられてないわけですよ！

坂井 射精もオナニーする権利もないんですかぁ……（ガックリ肩を落とす）。

山本 頑張るということは、頑張るということをやり続ける頑張りマシーンだから。オナニーもしちゃいけないんですよ。

――「頑張ります」のひと言からここまで言葉責めされるとは（笑）。

坂井 でも、山本さんが言ってることは、なんか、いちいち納得させられますね。

山本 自分で新しいものを築いていかなきゃいけないと思っているんだけど、いまは遠慮してるわけですよ、どっかで。ブレーキかけてるというか、ここまでしかやっちゃいけないとか、その範囲内でやってるんですよ、まだ『マッスル』は。

坂井 言われてみると、たしかに……。

山本 小力でもさ、テレビに出ていいわけですよ。西口の片隅でやってたヤツが表舞台に出てきてブレイクしてるんだから。そう考えると、いまはもう誰だってチャンスがある時代なんですよォォォ！

坂井 そうですよね。頑張……いや、シュートします！

山本 自分以外は信じちゃいけないって、肝に銘じて突っ走らないとダメなんだよ。でも、「世の中すべてギャグだ、何やってもいいんだ！」と思うんだけど、そう言いながらもみんなブレーキかけてるんだよね。アクセルが左にあるのに右のほう踏んじゃうんだよ。ブレーキを踏みながら、アクセルも踏みたいなって、チョコッとアクセルだけ踏むんだけどね。それがダメなんですよ。ガチャッと一気にアクセル踏み込まないと！

坂井 はい！ これからはアクセル全開でシュートしまくります！

山本 パチパチパチパチ！（拍手）。でも、逆に言うと、いまはプロレス界にとって一番いい時代だよね。

鶴見 と言いますと？

山本 いままでのプロレスは新日本的な世界が独裁的に君臨し、その象徴がストロングスタイルだったんだけど、いまは、ある意味、それがウソロングスタイルみたいになってきてるから。

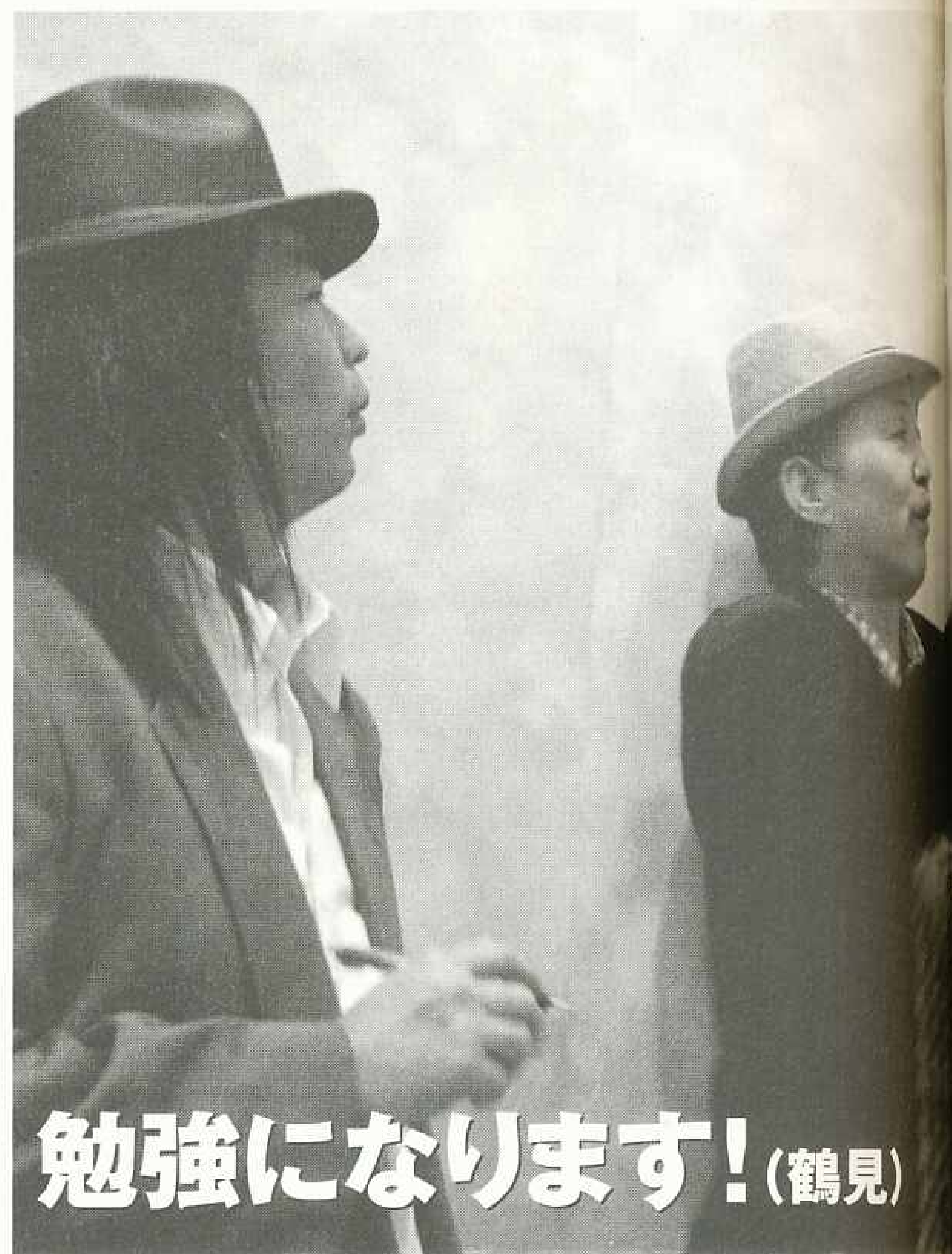
鶴見&坂井 ウ、ウ、ウソロングスタイル!?（必要以上に大げさに）。

坂井 そのワードは初めて聞きましたよ！

山本 もうファンにはそれがウソロングスタイルに見えてるわけ。もしそれを、いいように解釈するんだったら、ウソロングスタイルは猪木スタイルなんですよ。ということは三段論法で言うと猪木さんもウソってことなんだよね。……いや、猪木さんはウソじゃないな。

坂井 いや、でも猪木さんはウソつきですよね（笑）。

山本 でも猪木さんは本物なんだよね。だから猪木さんがいなくなったストロングスタイルはウソロングスタイルになってきてるんだけども、ストロングスタイルの原点は猪木スタイルなの。だから猪木とストロングスタイルは一緒なんですよ。でもストロングスタイルは、もはやウソロングスタイルなんですよ。



勉強になります！（鶴見）

鶴見 ちょっとややこしいですが、やっぱり勉強になります（しっかりとメモ）。

山本 だからといって猪木とウソロングスタイルは一緒じゃないんですよ。そこが猪木さんの素晴らしさであってね。だから新日本も猪木さんがいればストロングスタイルなんですよ。でも猪木さんがいないリングは全部ウソロングスタイル！……そりゃ人気なくなるよな（笑）。

坂井 でもDDTとかではウソロングスタイル的なことが好まれる傾向にありまして。新日本のパロディーみたいのが一番ウケますね。

山本 そりゃ新日本のパロディーやったら大ウケしますよ。それは、みんな、いまの新日本はウソロングスタイルってわかってるから。だからギャグになるの！

坂井 アルティメット・ロワイヤルとか、長州さんが突然、現場監督に復帰したら、泉州力が現場監督になってみたりとか、やっぱりウケるんですよ。

山本 ただ、日本のプロレスというのは、やっぱり新日本プロレスが作ってきたようなもんなんだよね。その繁栄のもとに新日本ファンの俺たちがネズミ算方式に育ったんだよね。だから新日本がリアリティーというか、説得力を失なった途端に、全部のプロレスがギャグになったんだよね。そう考えると新日本って偉いよねえ。いまの『ハッスル』を生んだのは新日本だし、DDTも『マッスル』も、全部、新日本のおかげですよ。新日本に足向けて寝れませんよォォォ！

坂井 は、はい！ 今後は気をつけます。

山本 ギャグというのは茶化すことだから。面白がるということだから。茶化すのは絶対に大物じゃなきゃいけないんですよ。小物を茶化しても意味ないじゃない？ マット界の巨大な現象というか、新日本が一大帝国を築きあげたから茶化せるんですよ。何年か前までは本当に新日本帝国だったんだから。

――茶化してもびくともしなかったですからね。

山本 そうそう。でも、いまはびくともしてるからね（笑）。

坂井 だから僕らにとっては、それが『ハッスル』なんですよね、巨大帝国というか、凄い象徴みたいな存在で。

山本 いやいや、そっちはどうせ金がないんだからさ。茶化すんじゃなしに、金がある『ハッスル』に金がない『マッスル』で真っ正面から対抗するんですよ！

坂井 え、真っ正面から対抗したほうがいいんですか？

山本 そうだよ！ 金がないということを武器にして何ができるかということで頭を使って勝負するんですよ。

坂井 まあ、使う金はそんなにないんで、頭を使うしかないですからね。

山本 そういうことだよ！ ただ、『ハッスル』は凄く金あるもんな。要するにギャグ資本主義ですよ、あれは！

坂井 『ハッスル』はギャグ資本主義！

山本 だって元彌を呼ぶのだってお金かかるでしょ。衣装代とかモノ凄くかかるよ。そっちは衣装代なんかないでしょ。

鶴見 僕のコスチュームなんて1万円ぐらいですから（笑）。

山本 だから『ハッスル』はギャグ資本主義のチャンピオンだね。『マッスル』は貧民街の資本主義よ。やっぱりヒエラルキーがあるんだよね。

坂井 そうなんですよね。そういう意味では、僕はロシア文学のような、そういうプロレスをやっていけたらなと。

山本 ゴーリキーの『どん底』だね。どん底ギャグだよ。

坂井 どん底ギャグ（笑）。でも、プロ

ターザン山本×ターザン鶴見



やっぱり、そこもウソロングスタイルですか(笑)

破壊されないものには真実なしですよォォォ！

勉強になります！

レス＝ギャグという表現はモノ凄く共感するというか。改めて自分は間違えてないと感じましたね。

山本　ギャグと笑いは健康にいいもん。「ワハハハハ！」って面白がると身体の免疫力が高まるんだよ。いままでみたいに試合後、「ああでもない、こうでもない」って難しい顔して考えこんでいたら身体に悪いよ。目を凝らしてと見たりさ、Uの試合みたいに「シーン」となって見るのは、身体に悪いに決まってるよ！

鶴見　「密航しろ！」って言ってたのは山本さんですよね。密航っていうのも身体に悪そうですけど（笑）。

山本　そんなことしたら、まったく身体に悪いよねぇ（笑）。

鶴見　「密航は各駅停車で行かなきゃいけない」とも言ってましたよね。

ターザン山本×ターザン鶴見

山本　よく、そんなこと言ったねぇ！

一同　ダハハハ！

山本　まあ昔は、そういうギャグを真剣に受け取れるという土壌がプロレスにもファンにもあったんだよねぇ。それに、まともに受け取ったほうがじつは人生って逆に面白くなるんだから、いいんですよ。

坂井　密航っていうのは山本さん流のギャグだったんですか⁉

山本　そりゃそうですよォォ！　全部ギャグなんだから。

坂井　まあ、どう考えても山本さんは密航してないですからね（笑）。

山本　俺は飛行機とかで行ってたよ。

坂井　経費で落ちますからね（笑）。

山本　そうそうそう（笑）。でもね、これからはプロレスも観戦するんじゃなくて、鑑賞するわけ。もう観戦っていうのはダメ！

坂井　闘いを見るわけじゃなく、作品を見るような感じで？

山本　そう！　「いい作品だな」って気楽に見ればいいんですよォォ！

——まさに『マッスル』的というか、坂井さん的には『マッスル』という作品でカンヌ映画祭で賞を獲ったりとか、最終的には、そういう野望があるんですよね。

坂井　そうなんですよ。理想を言えば脚本の賞を獲りたいんですよね。

山本　ホントに獲ったら凄いことだよ！

坂井　もう最初から、お芝居だってことにして、『マッスル』のシナリオで賞を獲ってしまえば、プロレスの台本も市民権を得ることができると思うんですよ。いままでプロレスの台本って腫れ物だったじゃないですか？

山本　そうだよ。そんなもん存在しないって言ってきたんだから。

坂井　ですよね。日本人は権威主義的なところが凄くあるので、もし『マッスル』の脚本が岸田戯曲賞みたいなものをスポーツエンターテインメントのひとつの活劇として獲ってしまえば、プロレス界も認めざるを得ないと思うんですよ。

山本　そうなったら手のひら返しで「よくやった！」と言われますよ！

坂井　そこを目指していきたいんですよ。

山本　それは、いいアイディアだよ！

坂井　脚本で賞を獲って認められたら再演とかもできますからね。勝敗は、ちょっと変わるかもしれないですけど（笑）。

——でも、プロレスで再演って、これまでにない発想ですよね（笑）。

山本　これからはプロレスに名勝負なしですよ。試合内容に期待してるヤツはハッキリ言って時代錯誤もいいとこだよ。

坂井　ちょっと先を行かれてますね、山本さんは（笑）。

山本　俺は誰よりも早いよ！　その代わり失望するのも絶望するのも早いから。

一同　ダハハハハ！

山本　失望、絶望は早いけど、早いほうが挫折しないんだよね。

坂井　先に予想がつくわけですからね。

山本　そう。絶望と失望に対して免疫をひと足早く作るからね。まあ僕なんかは、人生を破壊されたから、いまみたいな状態になったわけですよ。だから人生を破壊されてない者には真実がないんだよ。

鶴見　ほう！　「人生を破壊されてない者には真実がない」と！（太字でメモ）。

山本　追放されるとか、嫁さんが逃げるとか、会社を追われるとか、人生をパーにされた人間にしか真実はない。僕はそう思うんだよねぇ……（しみじみと）。

坂井　山本さんは全部プロレスに反映させてますからね（笑）。

山本　そういうことですよォォ！　破壊されないものには真実なしですよ。そんなのぜぇ〜んぶウソ！　それこそウソロングスタイル人生ですよォォォ！

坂井　やっぱり、そこもウソロングスタイルでしたか（笑）。

鶴見　勉強になります（冷静にメモ）。

山本　僕にはそれを言う権利があるんですよォォ！（炎上！）

坂井　絶対ありますよォォ！（つられて大炎上！）

山本　なぜなら僕はある意味で人生の敗者だから。

——山本さんを破壊した一人でもある『週プロ』の鈴木健さんは、『マッスル』を凄いプッシュしてるんですよ。

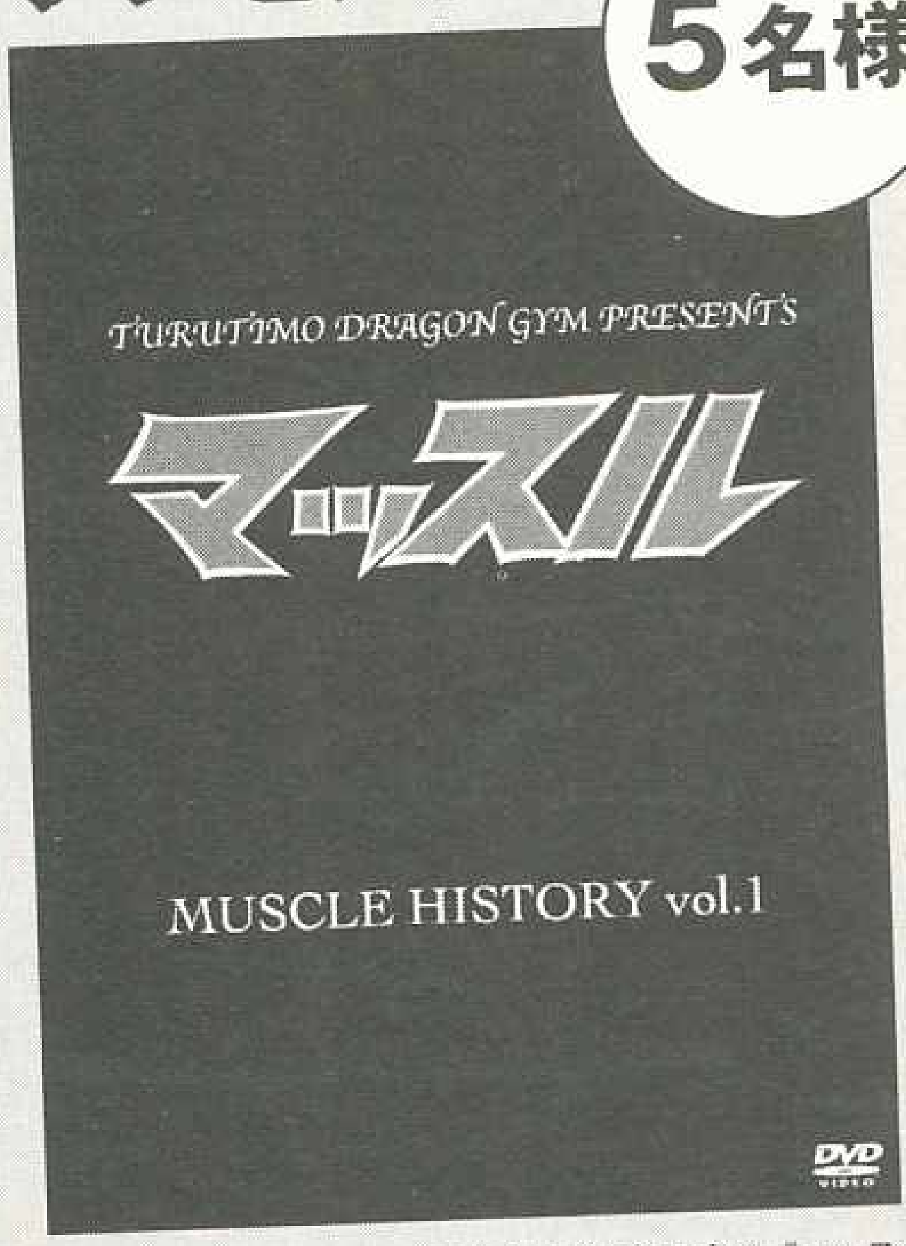
山本　いいことじゃないか、それって。

鶴見＆坂井　……いろいろと勉強になりました。ありがとうございます！

【11月3日／『ルノアール　新宿3丁目店』にて収録】

マッスルDVDプレゼント

5名様



マッスル坂井のご好意により現在バカ売れ中の『マッスル・ヒストリーVOL.1』DVDを、な、なんと『kamipro』読者5名様にプレゼントしマッスル！　内容は『マッスル1』から『マッスル4』までの模様を完全収録＆おまけ付き。宛先はP154参照！　「どうしてもほしい！」という人はこちらまで→　http://www.ddttec.com/

三田佐代子【サムライTVキャスター】

プロレス界が隠していたことを鮮やかな口調で指摘してくれたあなたに惚れたみたい

みた・さよこ■『マッスル』の中継も行っている素晴らしいプロレス格闘技専門チャンネル・サムライTVキャスター。趣味はプロレス観戦、ガンダム、クルマの操縦などなど。三田さんのブログは↓
http://d.hatena.ne.jp/sayokom/

今回この原稿を書くにあたり、マッスル坂井選手からいただいた「マッスルヒストリーDVD」とサムライの中継でこれまでのマッスルを全部振り返ってみたのだが、そこでわかったことが一つある。どうやら私は、鶴見亜門に惚れてしまったらしい。鶴見亜門、というかサイモン鶴見というかターザン鶴見というか、つまりツルティモ・ドラゴン校長の甥で娘婿で天才演出家で、尚かつ第3のプロレス週刊誌の編集長でもある、弁舌爽やかでアフロでメガネで時折ヒゲの剃り跡が青々したあの人に、すっかり心奪われてしまったのだ。

鶴見亜門は唐突に、『マッスル4』の記者会見に現われた。それまでもマッスルは超雲子龍・アントーニオ本多といった新しいスターを生み出してきたし、スローモーションなどの斬新な演出は私たちをとてもドキドキさせてくれた。ところが『マッスル3』の「地底王子」が登場したあたりから、坂井選手は前人未踏の境地に足を踏み込んでいく。そこへ非常にタイミング良く、坂井選手の頭の中にある「プロレスの向こう側」と私たちをつなぐ重要な役目を担って、アメリカから天才演出家・鶴見亜門氏がやってきたのだ。

プロレス界が隠していた、というか誰もが気づいていたのに気づかないフリをしていたこと。なぜプロレスの興行は長すぎるのか。なぜプロレス雑誌が面白くないのか。そもそもプロレスに「演出」は必要なのか。そういった問題点を鶴見亜門は姿を変え名前を変え、オーバーアクションで次々と指摘。それを私たちプロレスファンは、悶絶して嬉しがった。私たちは完全に鶴見亜門の手のひらの上で転がされてしまったのだ。

タイミング良すぎるサイモン鶴見の登場もまた凄かった。どう考えてもその艶やかな声色はアフロでメガネの鶴見亜門なのに、髪の毛を七三に分けてスーツを着て、ヒゲの剃り跡が青々したその姿はどこから見ても「あの」某老舗団体の若社長たる娘婿氏。かつてやったことがあるような気がしないでもないが、一度に複数の試合をリング上で行うという興行の徹底的な合理化に成功し、わずか40分で3興行を行う偉業を達成している。

さらに濃いキャラクターだったのが後楽園に登場したターザン鶴見。懐かしい長髪に帽子姿、「密航」という独特の言葉遣いにやたら高いテンション。マスコミが興行を先導する、という危うい問題提起をしていつの間に亜門に戻っていた。

思えば最初はマッスル坂井をいじめる立場として登場した鶴見亜門だったのが、『マッスル・ハウス』のどうにも締まらないエンディングで坂井選手を救ったのも鶴見亜門だった。いまはもう誰もが、鶴見亜門は本当はイイ人だってことを知っている。次のマッスルでたとえ名前が変わろうと髪型が変わろうと、イイ人だろうと悪い人だろうと、鶴見亜門がマッスルの水先案内人であることは変わらないだろう。とすると、こんな素敵な甥御さんをこれまで隠していたツルティモ校長は、やっぱり凄い人なのかもしれない。

業界内でも中毒患者続出！ マッスルに魅せられた人々

インディーレスラーから超大物レスラーまで業界内でも話題沸騰中の『マッスル』。今回『マッスル』特集のラストを飾るのは、プロレス関係者の中でも『マッスル』に深い理解を持った2人の原稿をお届けしマッスル！

山本雅俊【マット界のマルチタレント】

既存のプロレスマスコミの体制ではマッスルの面白さを完全に伝えきることは到底できない

やまもと・まさとし■元JWPの代表を務め、現在はフリーのリングアナウンサー、MC、団体運営スーパーバイザーなど様々な顔を持つマット界のマルチタレント。
ヤマモブログアドレスは↓
http://blog.livedoor.jp/cjw2005/

先日の『マッスル・ハウス』の中で、ターザン鶴見がマッスルに対するマスコミの扱いが悪いことをネタにしていたが、残念ながら既存のプロレス・マスコミの体制ではマッスルの面白さを完全に伝えきることは到底できない。

しかしマッスルを面白がっているのは、プロレス・ファン。ここにDDTも含めての関係者のジレンマの一切があると思う。以前、僕がDDTのスーパバイズをしていたときに「なぜ、新聞はDDTを扱わないのか」とあるベテラン記者に問いただしたことがあったが「これを（ニュースとして）どう書けばいいのかわからない。但し無視できない存在になったら話は別だ」と言われ、その旧態依然とした姿勢に落胆した覚えがある。

危機感を抱くべきはマスコミ側であって、それだけプロレス・ファンのワイドレンジが広くなっていることを、改めて誌面や紙面に反映させることに本気になって取り組まないと、いま以上の購買率の増加はとても望めない。この所、マスコミが取り上げる選手や団体は異常なまでに　固定化されて、もうその人たちと会社が心中する覚悟なのかと思うほど。

週刊誌媒体のいわゆる「インディー番」の記者の方々の奮闘が、何か虚しく映る。今回の後楽園が満員になったことを受けての渾身のレポートも、与えられたページ数が少ないために文字のサイズが小さすぎて読みにくいことこの上なかった。

あと言いたいことだけ書くが、マッスルの凄いところは登場人物の全員を観客の目線より下の、いわゆる「汚れ」として位置させながらも、彼らを異様に光らせているところ。ゴージャス松野の「ゴージャス・ランブル～夢の架け橋～」（七人の刺客が次々に松野の前に現れ、それぞれと2分1本勝負で対戦するという試合形式）はもちろん。たとえば「お客さんの求めるメインを先にやるんだ」と言ってしょっぱなに行なわれたサスケとツルティモ・ドラゴン（鶴見五郎）の試合などは、実質的には完全な前座試合の役目を果たしていた。

またマッスル坂井とアントーニオ本多が悲哀に満ちたムードの中で「プロレスは試合で見せるものだ」と、〝普通のプロレス〟を必死にやろうとしている姿は、汚れを通り越してシュールそのもので、それは観客に「俺たちは、いままでこんなものを面白がっていたのか」というなんとも言えない虚無感を現出させる。

そのいたたまれない雰囲気の中で、僕は「この後の展開をどうするつもりなんだろう」と、ただただ心配していたが、次の瞬間に、いま自分はマッスルの手の平に完全に乗せられてしまっていることに気づいてハッとしたりもした。

で、マッスルの冗談は、プロレスラーが提供する冗談だから面白いのであって、その意味でマッスルは僕にとってはド真中のプロレスである。演劇だとかパフォーマンスだとか、他のジャンルにはマッスルは絶対に渡さない。

プラチナチケット化必至！
2006・1・17『マッスル9』北沢大会開催決定！
開始は19時、出場予定選手は“メガネ”こと藤岡典一、ほか。詳細は、小出しに発表すると思われます。とりあえず、チケットは早めに押さえておいたほうがいいでしょう、これ絶対！
【問い合わせ】DDTテック TEL.03-5360-6653
HPアドレス→ http://www.ddttec.com/

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド



秋も深まる今日このごろ、みなさまいかがお過ごしですか？　クリスマス&年末に向けてそろそろマット界も盛り上がってまいりました。負けず劣らずハガキ愛ランドもお祭り騒ぎでいきましょう！　それではレッツゴー。3、2、1、わっしょい！　わっしょい！　う～、大転倒!!（はしゃぎすぎ）。

kamipro92号へのお便り紹介

ハッスル・マニア特集、最高！　HGが発言しただけで楽しいです。HG様、愛してます。心から応援しています!!

【大阪府・白河甚平さん・専門学校生・19歳】

⬇前号でHGのイラストを描いてくださった白河さん。今回もお便りありがとうございます。しかしハードゲイに恋心を抱くなんて、ひょっとするとあなたも？　よかったら紹介しますよ、U杉HGとか。

最近、ワイドショーでハッスルのことがよく取り上げられていますが、あれはなんとかなりませんか!?（怒）。オーちゃんよりも、HGやインリン様が主役であるかのようなレポートをしたり、高田総統のことを「高田延彦さん扮する高田総統」と報道したり。もう我慢なりません!!

【茨城県・和田智裕さん・学生・22歳】

⬇まさに世間はハッスル騒動で大ハッスル中！　さらにさらに『ハッスル・マニア』はスポーツ紙の一面を飾る大騒動になりました。もう、こうなったらハッスルしたもん勝ち!?（腰を振りながら）ハッスルゥ、ハッスルゥ、フォー!!（腰痛）。

五味選手のインタビューは最高！　あんな凄い試合をした人間の内面がちゃんと感じられた。五味ストーリーの完結編として、決勝戦も頑張ってもらいたい。

【東京都・松浦正剛さん・漫画アシスタント・30歳】

⬇『男祭り』は五味かマッハか？　読者のみなさまからのアンケートを見てもまさに賛否両論。年末まできっちりチェックだ！

桜庭和志とフジマール会長のインタビューが面白かった。他ではぐらかしまくりのサクインタビューも、『kamipro』では10～20％の本音が読めるので楽しいです。

【東京都・荻野平馬さん・会社員・33歳】

⬇ケンシャムに見事勝利した桜庭選手、大晦日の『男祭り』も出場濃厚!?　そして相手はあの男!?　などなど年末に向けて桜庭選手近辺はどんどん盛り上がっていきそうですね。

I編集長は今回も最高でした。ケロちゃんをもっと大事にしてほしいと言ったI編集長の気持ちがとてもうれしかったです。

【神奈川県・佐々木学さん・会社員・40歳】

⬇前号の喫茶店トークは、かなり厳しい意見が多かったようですね。しかし、それも愛情の裏返し？　I編集長のご指摘で、今後ケロちゃんがどう活躍してくれるのか、動向を見守りましょう！

『中華 紅蘭』のマスターのインタビューがいちばん面白かった。闘魂棒の開発者が、まさか中華料理屋の店長だったとは。でも、ぼくがいちばん衝撃的だったのは、マスターが水島新司に似ているということでした。

【新潟県・あぶさん・土産売り場・31歳】

⬇たしかに!!　眼鏡の感じといい、ヒゲの形といい。貴重なご意見ありがとうございました。ちなみに、気付かなかった人のために。マスターの写真はコチラ!!



猛烈にズール親父の試合が見たくなりました。ズールのヘブンぶりをブラジル国内にとどめておくのはもったいない！　実力は申し分ないはずだから、出してください!!

【大阪府・阪本昌嗣さん・専門学校生・22歳】

⬇出してください！　と懇願されたので、出ちゃいました、『kamipro』に。今号のインタビューでは、ズール親父にばかり質問するもんだから、息子は偉大な父親を前にすねっちゃったとのこと。詳しくは92ページの凄まじいインタビューを読め!!

92号では、ミルコのヒョードル戦後、初のコメントが聞けてよかったです。でも、ミルコ、五味、HGが同じ雑誌に載ってるなんて……。『kamipro』だからそれもアリなんですかね。

【新潟県・加藤洋平さん・会社員・24歳】

⬇もう、なんでもありの大運動会。それにしても、前号は凄い。和泉元彌に中華料理屋のマスターまで登場。本当になんの雑誌からわからない！

ドン・中矢・ニールセンを取材してくれてありがとう！　凄く懐かしかったが、カイロプラクティックで成功しているようなので、本当に良かったと思う。

【広島県・寺戸和之さん・会社員・41歳】

⬇かつてのシャープな印象とはちがって、(風貌からか？)穏やかさが滲み出ていましたね。ちなみに、この取材でタイに行った上杉HGは、ニールセンに焼肉をおごってもらったそうです。

『武士道』ウェルター級に激ツヨのオヤジ旋風！　が面白かった。前号で「この人のコラムが読みたい」アンケートをとっていましたが、僕はダン・ヘンダーソン選手のコラムが読んでみたいと思います。

【千葉県・清水崇仁さん・学生・17歳】

⬇それはありがとうございます。清水さんのおハガキには非常に救われた思いです。しかし、私はダン・ヘンダーソン選手のコラムが読みたいかと言われると、非常に複雑な心境です。

裏表紙の吉岡美穂ちゃんのドアップ広告は凄い！　切り抜き用にもう一冊買いました。

【大阪府県・山内義久さん・ケニアでkamipro伝導中・37歳】

92号・面白かった記事ランキング

1位 五味隆典特集

2位 ドン・中矢・ニールセン インタビュー

3位 ミルコ・クロコップ インタビュー

桜庭和志インタビュー

須藤元気インタビュー

今回は五味インタビューがダントツ一等賞!!　川尻戦のインパクト&ハガキの反響は本当に凄い。つづいて前田日明戦等々について語ったニールセン・インタビューが第2位。タイまで行ってつかんだ栄光だ!!　さらにさらに、衝撃のヒョードル戦後、はじめて自らの口で思いを語ったミルコ・インタビューがランクイン！　同率で桜庭選手、須藤選手のインタビューが3位に入りました。さあ、今号のランキングはどうなるんでしょう？　ん～、楽しみ!!

年末のビッグ対決 読者予想 五味VSマッハ 元気VSKID



前号のハガキでご意見を募りました年末の2大対決大予想（『男祭り』の五味隆典VS桜井"マッハ"速人、『Dynamite!!』の須藤元気VS山本"KID"徳郁）。たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。理由になってるもの、なってないものいろいろありましたが、ここで一部ご紹介!!

『PRIDE男祭り』



理由

- 絶頂期にいる男には誰にもかなわない（会社員・33歳）
- 勢いあまって短時間でKOしそう（自営業・36歳）
- 須藤元気の言葉を借りて言うと、空気を読めない男はいざというとき強い！（会社員・37歳）
- 最近、弱点らしい弱点が見当たらない！（営業・40歳）
- 一発で沈めるパンチ力は脅威！（デザイナー・35歳）
- 若い分、体力があるかなと思う。一発さえくらわなければ（美容師・34歳）
- もう日本人は誰も五味を倒せない（アルバイト・33歳）
- 武士道のエースはエースのままでいてほしい（会社員・30歳）　ほか多数



理由

- 五味のパンチをかわす→高速タックル→パウンドで決まり！（会社員・37歳）
- 茨城人は強い！　マッハさんが絶対勝つ（会社員・26歳）
- マッハの判定勝ち！　ここ一番の運を持っているから（kamipro伝導士・37歳）
- 浮き沈みを経て戻ってきたマッハの経験勝ち！（主婦・32歳）
- 弟が道場に通っているから（会社員・27歳）
- フランク・トリッグ戦が忘れられないから（格闘家・24歳）
- 往年のファンに勝利を捧げてほしい（記者・23歳）
- 元修斗ミドル級チャンピオンが負けるわけがない（フリーター・39歳）　ほか多数

『Dynamite!!』



理由

- リーチの差があるし関節技は元気のほうがうまいと思う（小学生・12歳）
- トリッキーパワーで判定勝ちしそう（フリーター・24歳）
- 経験&試合運びのうまさで元気の勝ちと思うから（大学院生・25歳）
- この前サインをもらったから、勝ってほしいと思う（豆腐売り・24歳）
- 入場パフォーマンスが面白いから（自営業・38歳）
- 頭と気持ちがあればエリートにも勝てる姿をみせてほしい（無職・50歳）
- やっぱり体格の違いがものを言うと思う（会社員・26歳）
- 五味との約束を果たしてくると思うから（保育士・27歳）　ほか多数



理由

- 最近、本当に神が宿っている感じがするので（会社員・19歳）
- 瞬発力で一気にKO勝ちしそう（販売・41歳）
- 負ける姿が想像できない！（公務員・22歳）
- レスリング力&パンチ力両方あるから。（靴職人・45歳）
- 苦戦するかもしれないけど、最後は左フックで失神KO（高校生・17歳）
- 準決勝で宇野薫に勝ったから勝つでしょ！（鳶職・28歳）
- 稀代のカリスマの輝きを見て新年を迎えたい（サラリーマン・26歳）
- じつは自分より大きい相手のほうが得意なんじゃないかと思うから（フリーター・33歳）　ほか多数

スクープ! ザ・目撃!!

●10月22日に東京都文京区の**高級外車を取り扱うディーラー店**から、元WWEの**鈴木健想選手**が出てくるのを見かけました。**肌寒いのにノースリーブ**、ジャージの出で立ちで高級車と並ぶ姿は、ある種異常でプロレスラーらしかったです。【安藤哲也さん】

➡11・3『ハッスル・マニア』では奥さんの浩子に粉攻撃をうけたり、元彌にチョップくらったり。いろんな意味で本当に凄かった!!

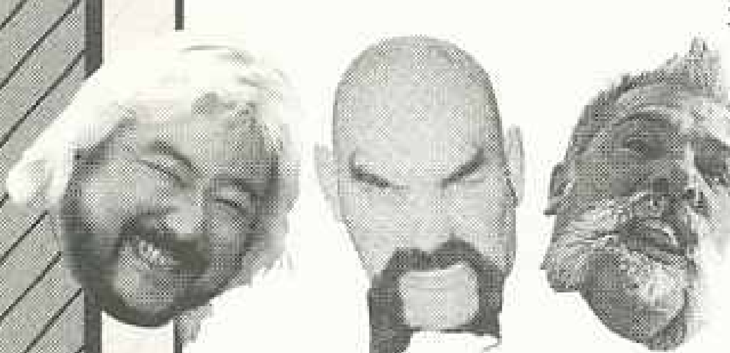
●先日、都内の**某メイドカフェ**にて、**チョロさんに似た人を発見**しました。オムライスを注文していたチョロさん似のその人は、ケチャップを持ったメイドに、なんて書きましょうか？ と聞かれると**「なるべくいやらしいことを書いてください」**とオーダーしていました。そして、あんまりかわいくないメイド（店員）に真顔で「それはできません」と断られていました。【東京都・匿名希望さん】

➡同じ職場で働く人間として、それがチョロさんでなかったことを祈ります。

●PRIDE.30の会場で、PANCRASE**チーム玉海力の玉海力剛選手**を見かけました。ちょっと本人だったかだどうか自信がないのですが、**ヒゲが生えていた**ので、たぶんそうではないかと思います。
【東京都・ヒゲで蝶むすびさん・27歳】



➡一口ヒゲといってもいろいろあります。オックス・ベーカーも、ティム・カタルフォも、映画「孕み」に出演中の矢口壹琅だって、ヒゲは生えてます。ってわけで、本当に玉海力選手だったのか、写真で確認しよう!



●都内のブラジル料理店に入ったら、**ジャイアント・シルバとマーク・コールマン、ダン・ボビッシュ**が一緒に食事をしているところに出くわしました! それだけではありません。なぜかわからないのですが、その店には**吉田秀彦選手**もいたのです!! 一度に4人のファイターに会った僕にとっては、非常にお得な思いをした一日でした。【東京都・ボボさん・33歳】

➡それはかなりド迫力の面子ですね。しかも、誰一人として関係ないのにブラジル料理店にいるというのが摩訶不思議。サクが「うまい」といって話題になったシュラスコ目当て？ 今度、そんな素晴らしい光景を目にしたときは、ぜひ写真を送ってください!!

今月の衝撃写真!!



【写真提供者:某フライデー仙波さん】
某フライデー仙波さんから、フライデー本誌でボツになったHGとのツーショット写真をご投稿いただきました。仙波さんによると、このマスク、'86年1月にマスカラスが二代目タイガーマスク戦で使用したホンモノだとか。それにしても、素晴らしく職権乱用？

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構！ お便り、お待ちしています！
こんな情報お待ちしています！
●ザ・目撃!! ●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、読者ページでやってほしい企画

★マット界にまつわる川柳も大募集!!★
次号から、新コーナー「マット界・斬り斬り（ギリギリ）川柳」を開設。とんちを利かせた素敵な川柳をお待ちしています！
（例）
新道場
茅ヶ崎だって いいじゃない
【ペンネーム・道場王さん】

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5・16・6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部 「セイ、セイ、セイ」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。



【東京都・YAーさん】
➡ノリノリファイターのツーショット。それにしてもインリン様のハッスル13のおいらん姿は凄すぎ。洗脳されてもおかしくない!! 所選手は『Dynamite!!』での活躍に期待。注目の相手はいったい誰でしょう？



【神奈川県・葉チャンさん】
➡かっこいい桜庭選手のイラストありがとうございます。『PRIDE.30』で見事復活を遂げた桜庭選手。今後の活躍にも期待しましょう!! しかし桜庭選手の入場シーンの湧き具合といったら、何回見ても凄い!



【埼玉県・大崎洋二さん】
➡本誌発売日の19日にレイ・セフォーはセーム・シュルトと対戦。というか、これ、シュルトのほうが似てないすか？ それか、チェ・ホンマン。



【福岡県・江本洋さん】
➡蝶天タッグは史上最多記録5度目の王座獲得を達成。やっぱり、サングラスをかけた男はどこの世界でも強いのか!?（タモさんも）。

➡裏表紙の恋愛相談広告に反応したハガキ多数！ ここがリニューアル感ダントツ一位かも。切り抜き用があるなら、ランニング&赤パン姿の美濃輪選手の写真（前号45ページ）も切り抜いちゃってください。あとケニア伝導頑張ってください。

STAND BY MEを読んで、ミャンマーラウエイは凄そうと思った。読者プレゼントは「kamipro福袋」を希望！ 職場がヨン様ブームなのでほしいです。
【東京都・村田卓実さん・無職（?）・24歳】

➡元『紙プロ』投稿者にして、現在は格闘家の村田卓実選手、おハガキありがとうございます！ 先日は11・4『パンクラス後楽園大会』の試合、お疲れさまでした～。それにしても、職場はいまヨン様ブーム？ じゃあハードゲイブームは1年後？

編集部の皆様、先日は懸賞品をいただきまして誠にありがとうございました。しなしさんのハガキは凄く嬉しかったです。リニューアルされた誌面を凄くステキに感じました。これからも良い誌面をよろしくお願い致します。
【東京都・世良享さん】

➡プレゼント喜んでいただいてありがとうございます。読プレ、意外と当たるので、みなさんもどんどんハガキ送ってください。ただし、電話番号を忘れずに記入しろ！ 電話番号がないハガキには送りたくても送れないのだ!!

kamipro内部事情

山口日昇が新聞に登場!!

なんと、我らが鬼畜編集長・山口日昇が柔和な表情で10月29日の東京新聞に登場!! 本文冒頭の文字をデカくしたのはワザと？


メディアウオッチ
異彩面談
真剣勝負と娯楽重視
古いプロレス嫌う
格闘技の総合専門誌
MEDIA WATCH

インリンさんの写真集をなぜ、ささきぃが!?





編集部を何気なく徘徊していたときに発見してしまいました！ インリンさんのとっても過激な写真集。しかも、ささきぃさんのデスクで！ なぜ?? しかも、ページをめくるとちゃんとサインまで!! もはやハードゲイならぬハードレズ？（疑惑）。

チョロプレ

なんだかんだ言って、みんな見たいでしょ？ 東城えみAVプレゼント!!

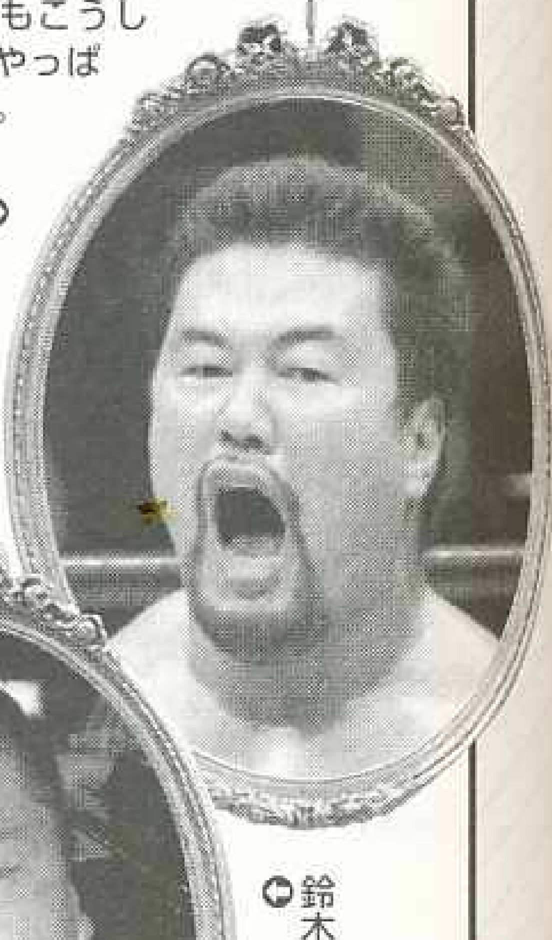


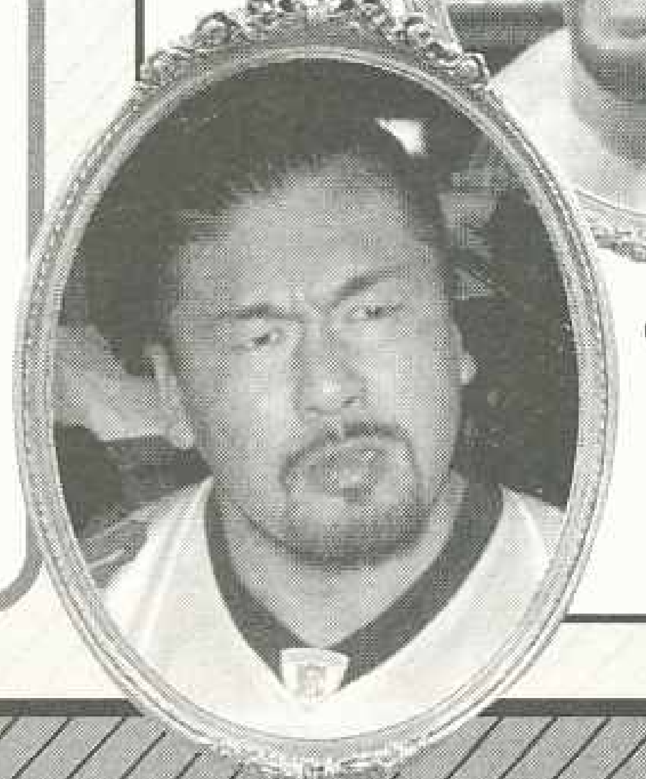
一連のAV出演騒動で、すでにプロレス界からは黙殺状態の東城えみ。この度、新たに撮り直し無事に（?）AVデビュー、フォーッ！ すでに新作の撮りも行なっているとの噂ですが、『kamipro』のエロ番長ことチョロから読者1名様に『元女子プロレスラー東城えみ 電撃AVデビュー』DVDをプレゼント！ ライターの橋本さんを見習って自腹で購入した、このDVD。「前戯フォーッ！」どころか「本番フォーッ！」もバッチリ決めてくれてますよ。ご希望の方（ハードゲイでもバッチコイ！）はドシドシご応募くだされ。宛先はP154参照！ 3、2、1、強行発売ッ!!

そっくり!! 鏡の中のキミとボク

Q 僕はハッスルからプロレスを見始めたんですが、健介選手は凄いですね！ でも、最近奥さんが変わったんでしょうか？ 元女子プロの北斗さんだったと思ってたんですが。『kamipro』さん、無知なボクに教えてください！
【岐阜県・顔芸さん・学生・18歳】

A セイ、セイ、セイ。ちょっと待ってくださいぃ!!（HG風）。たしかに間違いやすいポイントではありますが、ハッスル・マニアに出ていたのは元WWEの鈴木健想選手（奥さんは浩子）で、佐々木健介（奥さんは北斗）とは別人です！ でもこうして見ると、やっぱしそっくり。


➡佐々木健介選手


⬅鈴木健想選手

W-1GP、初代王者は誰になるんだ!?

『WRESTLE-1 GP2005トーナメント準決勝・決勝』

★日時　12月10日(土)試合開始 未定　★会場　神奈川・横浜アリーナ

★決定対戦カード

【WRESTLE-1GP2005準決勝】ボブ・サップ vs グレート・ムタ=A　ジャマール vs 鈴木みのる=B

【WRESTLE-1GP2005決勝戦】Aの勝者 vs Bの勝者　※参戦予定選手:曙 その他強豪選手

★問　WRESTLE-1製作委員会　03-3234-0969

“不動心” vs “東洋の神秘”が実現!!

『SEGA SAMMY Presents PANCRASE2005 SPIRAL TOUR』ism主催興行

★日時　12月4日(日)試合開始16:00　★会場　東京・ディファ有明

★決定対戦カード

【キャッチレスリングルール 無差別級戦　5分2ラウンド】近藤有己(パンクラスism) vs 矢野卓見(烏合会)

【ライトヘビー級戦 5分2ラウンド】

[パンクラスデビュー戦]川村亮(パンクラスism) vs 小谷野澄雄(烏合会)

※出場予定選手　伊藤崇文、佐藤光留、大石幸史、金井一朗、WINDY智美

★入場料金　SS ¥12.000、RS-A ¥8.000、RS-B ¥6.500、RS-C ¥4.000

※当日券は500円up、立見席は大会当日のみ¥4.000で発売

★問　パンクラス　03-5792-0815　★HP　http://www.pancrase.co.jp/

12・9 ゴング vs くどめ、興行戦争ボッ発!!





「インディー・サミットに女子プロレスが入っていないことに疑問を感じる」として、アパッチプロレス軍の伊藤豪プロデューサーと、工藤めぐみが、現在マルプロのオーナー・今井良晴氏の協力を得て、同日同時間帯に新宿FACEにて『インディー・トライアル』の開催を発表した。見たいのはどっちだ!?

週刊ゴング主催『インディー・サミット』

★日時　12月9日(金)試合開始18:30　★会場　東京・後楽園ホール

★決定対戦カード

【エンターテインメントマッチ】男色ディーノ&チョコボール向井(予定) vs X&XX

【大日本vsアパッチ軍】

伊東竜二&沼澤邪鬼&アブドーラ小林 vs 葛西純&マンモス佐々木&佐々木貴

【新世代8人タッグマッチ】大石真翔(K-DOJO)&旭志織(K-DOJO)&景虎(みちのく)&岸勝也(IWA) vs PSYCHO(K-DOJO)&遮那王(みちのく)&タイガースマスク(大阪)&飯伏幸太(DDT)

【新人6人タッグ】杉山俊喜(IWA)&小峠篤司(大阪)&佐々木翔(みちのく) vs 井上勝正(大日本)&小幡優作(K-DOJO)&中澤マイケル(DDT)ほか

★問　ミックエンターテイメント　0120-840-429(月～金の13時から18時まで)

『インディー・トライアル』

★日時　12月9日(金)試合開始18:30　★会場　東京・新宿FACE

★出場選手　Hikaru、高橋奈苗(来場)、以下、工藤めぐみより随時発表

★問　キャッシュボックス　03-5340-8177

11・29スマック後楽園で女版ミルコ vs ノゲイラが決定!!



『SMACKGIRL2005～最軽量記念日～』

★日時　11月29日(火)試合開始18:30

★会場　東京・後楽園ホール

★決定対戦カード

【メインイベント スマックガール初代フライ級女王決定戦 5分3R】

しなしさとこ(フリー) vs 大室奈緒子(和術慧舟会東京本部)

【フライ級 5分2R】渡辺久江(フリー) vs 茂木康子(ストライプル)

【フルコンタクト空手特別試合 2分2R延長2分】小林由佳(西山道場) vs 山本清子(拳成会)

【無差別級 5分2R】前川久美子(フリー) vs タラ・ラローサ(米国)

【ライト級 5分2R】風香(JDスター) vs 黒田エミ(S-KEEP)

【ライト級 5分2R】吉田正子(NATIVE SPIRIT) vs KM−MAKI(ケムマキ/RFC)

【ミドル級 5分2R】篠原光(電撃ネットワーク・チーム南部) vs せり(SOD女子格闘技道場)

★問　スマックガール実行委員会　03-3331-7426



女子プロにもエンタメの波が! 11・23GIRLS DOOR発進!!

株式会社EWF(エンターテインメント・レスリング・フェデレーション)主催

『GIRLS DOOR』

“女子プロレス構造改革”をキャッチフレーズとした女子プロレス新イベントがスタート! 代表は元AtoZの鶴賀義紀氏、CEOはスマックガール代表の篠泰樹氏が務めるエンタメ系の大会だ。何が飛び出すのか、まずは11/23の旗揚げ興行に注目!!

★日時　11月23日(水/祝)試合開始18:30　★会場　東京・新宿FACE

★決定対戦カード　伊藤薫&渡辺智子vs 浜田文子 &X

※出場予定選手　前川久美子、吉田万里子、大向美智子、栗原あゆみ、藪下めぐみ、篠原光、横瀬いつか、羽柴まゆみ、佐藤綾子 他　※スーパーバイザー　グラン浜田

★問　株式会社EWF　03-5338-4044

マット界の掲示板 kamipro

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

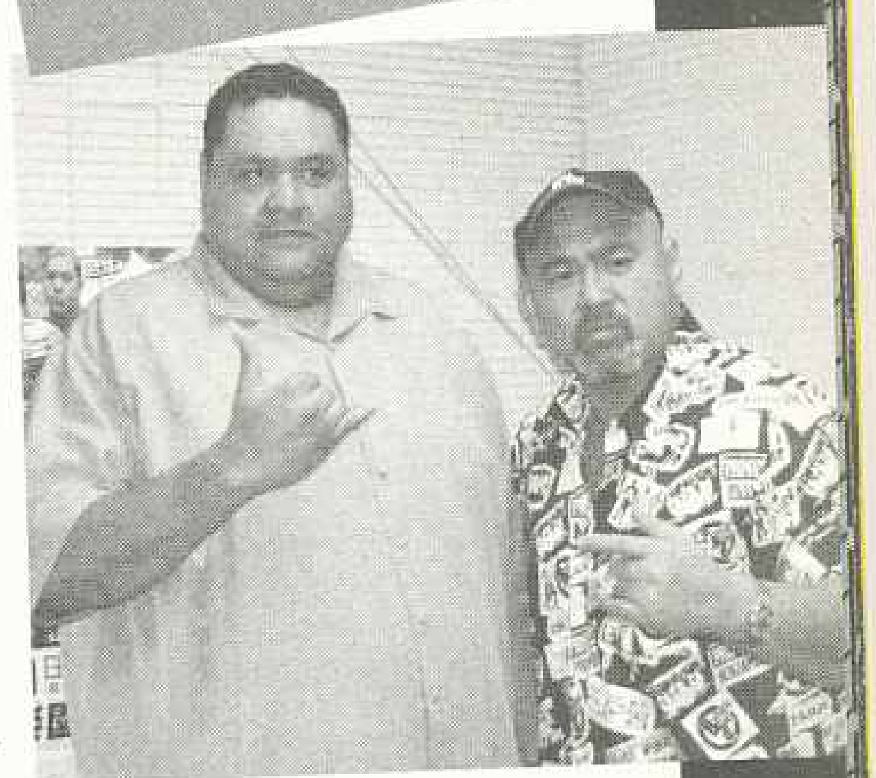
ハミ出し情報局

11月下旬から年末にかけて様々な大会が開催されるが、中でも熱いのが女子プロ。ゴング主催興行にぶつけてきた、くどめプロデュース興行に、11・23旗揚げの『GIRLS DOOR』、掲載できなかったが、ミミ萩原のパフォーマンスが行われる12・4女帝興行も見逃せない。担当の斎野退社につき今回の担当はチョロです。女ッスル! 女ッスル!!

Fight & Tichet

11・19小島 vs 健介が三冠戦で激突!

20日からは武藤&曙出場の最強タッグが開幕!!



全日本プロレス『SKY PerfecTV! LIVE SPECIAL THE UNCHAINED WORLD』

★日時　11月19日(土)試合開始18:30

★会場　東京・国立代々木競技場 第2体育館

★主要対戦カード

【三冠ヘビー級選手権試合】

[王者]小島聡 vs 佐々木健介[挑戦者]

【武藤部屋 vs ブードゥー・マーダーズ】

曙 vs ジャイアント・バーナード　グレート・ムタ vs グレート・ルタ

【RO&D vs チーム3D】

ジャマール&ディーロ・ブラウン vs ババ・レイ&ディーボン

【“brother” YASSHI復帰戦】

本間朋晃&諏訪間幸平 vs 近藤修司&“brother” YASSHI

『2005世界最強タッグ決定リーグ戦』

【開催要項】

◎Aブロック参加チーム:太陽ケア&ジャマール(2年連続出場、2004年度優勝チーム、現・世界タッグ王者チーム)、武藤敬司&曙(初出場)&TARU&ジャイアント・バーナード(初出場)、嵐&AKIRA(初出場)、本間朋晃&諏訪間幸平(2年連続出場)

◎Bブロック参加チーム:小島聡&カズ・ハヤシ(3年連続出場、2003年度優勝チーム)、佐々木健介&中嶋勝彦 (2年連続出場、現・アジアタッグ王者チーム)、ブキャナン&ディーロ・ブラウン(2年連続出場)、ババ・レイ&ディーボン(初出場)、近藤修司&“brother”YASSHI(初出場)

※11月20日後楽園より、12月3日長岡市厚生会館までの日程で、上記10チームがA・B各ブロックに別れ総当りリーグ戦を行い、各ブロックの得点1位チームが12月5日大田区体育館大会にて優勝者決定戦を行う。

【大会日程】

◎11月
- 20日(日)東京・後楽園ホール　試合開始12:00
- 23日(水・祝)京都・京都KBSホール　試合開始17:00
- 26日(土)滋賀・長浜市民体育館　試合開始18:30
- 27日(日)埼玉・本川越ペペホール　試合開始17:00
- 28日(月)福島・いわき市総合体育館　試合開始18:30
- 29日(火)宮城・宮城県スポーツセンター　試合開始18:30
- 30日(水)青森・八戸市体育館　試合開始18:30

◎12月
- 1日(木)岩手・岩手県営体育館　試合開始18:30
- 3日(土)新潟・長岡市厚生会館　試合開始18:30
- 5日(月)東京・大田区体育館　試合開始18:30

★問　全日本プロレス　03-3288-0610　★HP　http://oudou.b2p.jp/

タッグ王者・日高&藤田が炎武連夢と激突!! ZERO1・MAX『MAX Around』

★日時　11月23日(水・祝)試合開始12:00　★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カード

【NWAインターコンチネンタルタッグ選手権試合】

日高郁人&藤田ミノル vs 大谷晋二郎&田中将斗

【『Xtasy』US無差別級選手権試合3WAYダンス】

アレックス・シェリー[王者] vs クリストファー・ダニエルズ vs サンジェイ・ダット　高岩竜一 vs 村浜武洋

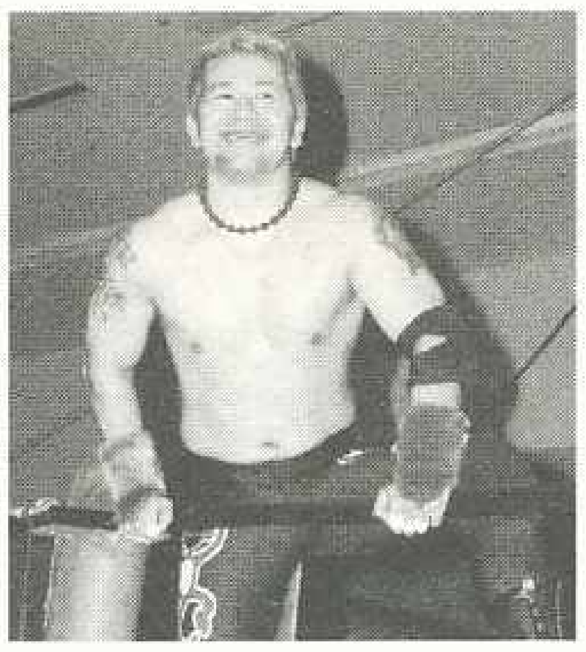
【12月シリーズ】

◎12月
- 2日(金)『まんぷくプロレス』福井・福井ワシントンホテル3階特設リング　試合開始18:30
- 3日(土)『一華開 解散式』岐阜・美濃加茂市中央体育館プラザちゅうたい　試合開始18:00
- 4日(日)埼玉・深谷市民体育館　試合開始17:00
- 11日(日)栃木・那珂川町小川体育館　試合開始18:00
- 23日(金・祝)『年内最終興行』東京・後楽園ホール　試合開始18:30

★問　ZERO1-MAX　03-5730-3966　★HP　http://www.zero-one-max.com/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

Monkey



病気療養中の葛西に届け！ アパッチが特別興行を開催!!

アパッチプロレス軍特別興行『MONKEY MAGIC』

★ 日時　11月23日（水）試合開始18:00　★ 会場　千葉・Blue Field
★ 主催　アパッチプロレス軍
★ 協力　大日本プロレス、K-DOJO、（株）キャッシュボックス
★ チケット　全席指定4000円（税込）
★ 問　アパッチプロレス軍　03-5340-8177、大日本プロレス　045-321-1598、K-DOJO　043-214-6960

Others

いまなら、まだ間に合う！ ハッスル好きなら行っとけ!!

ハッスル・イラストレーター金子ナンペイがフィギュアイラストレーターのデハラユキノリと『メンペ展２～エロが溢れて止まらない～』を開催!!（※“メンペ”とは金子氏とデハラ氏が設立した「東京メンズペインティング協会」の略です）

★ 会場　東京・原宿LAPNET SHIP（03-5411-3330）11:00～21:00［入場無料］
★ 期間　11月20日（日）まで。
20日の13：00から14：30まで金子ナンペイ初の画集出版を記念して同会場でサイン会を開催。その他、イベントの詳細やメンペの活動などは金子ナンペイHPをチェック!!
★HP　http:// www.nampei.net/



狂い咲きT－1ロード！　伝説のあの大会がDVDに！ 記念サイン会、そして第2回大会も決定ッ!!

一部マニアの間では今年度のベスト興行とも言われている、8・23女子プロオールスター戦「T-1グランプリ」後楽園大会が、ついにDVDに！

試合はもちろん、必見はオープニングでシャウト、メイン後は前川久美子と金網越しに舌戦を繰り広げた二見代表だ！　このガチロ論を完全ノーカット収録しているほか、試合終了後「ことの重大さを自覚していないコメントを出した（by二見代表）」前川のインタビューもノーカットで公開。はたして、悪いのはどっちなのか!?　このDVDを見て判断を下せ!!

★ 販売価格　5500円（税込）カラー181分
★ 発売日　11月23日（※ふた・み）からT－1で発売！



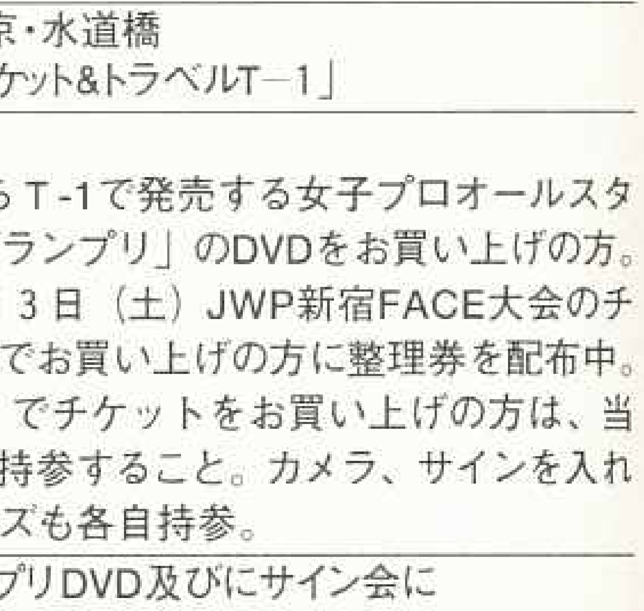


某月某日、都内で行われた打ち上げで二見代表の口から第２回「T－１グランプリ」が来年早々にも開催されることが発表となった。次回大会のテーマは“リベンジと魂”！　はたして、次はどんな伝説が生まれるのか？　そして、因縁の二見代表vs前川は実現するのか？　詳細については、動きがあり次第随時お知らせしま～す！

『T-1グランプリDVD発売記念イベント』
T-1マスク（コマンド・ボリショイ）&
T-2マスク（米山香織）

★日時　11月23日（水/祝）16:00～
★ 場所　東京・水道橋「チケット&トラベルT－1」
★ 参加方法
11月23日からT-1で発売する女子プロオールスター戦「T-1グランプリ」のDVDをお買い上げの方。もしくは12月３日（土）JWP新宿FACE大会のチケットをT-1でお買い上げの方に整理券を配布中。すでに、T-1でチケットをお買い上げの方は、当日チケットを持参すること。カメラ、サインを入れてほしいグッズも各自持参。
★T－1グランプリDVD及びにサイン会に関する問い合わせ
チケット&トラベルT－1　03-5275-2778
★HP　http://www.t-1.jp

Hand



雑誌『Kamipro』リニューアルにともない、携帯サイト『紙のプロレスHand』も12月１日から『Kamipro Hand』としてリニューアル！　携帯サイトNo,1の情報量はそのままに、内容はさらに見やすくパワーアップ！　『PRIDE』と『ハッスルコーナー新設の上、雑誌『Kamipro』と携帯サイト『Kamipro Hand』の両方を読んでいる人だけが楽しめる「秘密の部屋（仮）」コーナーも新設！　今月の入室キーワードは……「HGデビュー」。さらにさらに……リニューアルキャンペーンとして着声の全員プレゼントもアリ!!　写真は11月更新のアントニオ猪木＆小猪木待画です!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲	紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技	
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

kamipro calendar



November

19 SAT.

K-1 WORLD GP■東京・東京ドーム（17:00）
全日本■東京・国立代々木競技場第2体育館（18:30）
DRAGON GATE■東京・八王子市民会館（18:30）
IW♥GP■東京・新宿FACE（19:00）
ニュー女子■栃木・鹿沼総合体育館（18:30）
リアルリズム■大阪・Zepp Osaka（17:00）
UFC.56■米国・ラスベガス

20 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
NOAH■東京・ディファ有明（17:00）
DRAGON GATE■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（15:00）
みちのく■鹿児島・ニシムタ可世田店特設会場（14:00）
どすこいプロレス■東京・西調布アリーナ（12:30）
M's style■東京・新木場1stRING（18:00）
NJKF■東京・後楽園ホール（17:00）

21 MON.

NOAH■宮城・宮城県スポーツセンター（19:00）
みちのく■長崎・諫早市体育館（18:30）

22 TUE.

NOAH■新潟・新潟市体育館（18:30）
DRAGON GATE■石川・七尾総合市民体育館（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

23 WED.

U-STYLE Axis■東京・有明コロシアム（15:00）
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
全日本■京都・京都KBSホール（17:00）
NOAH■岩手・サンレック北上（17:00）
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール（12:00）
DRAGON GATE■石川・県産業展示館2号館（15:00）
みちのく■大分・大原総合体育館（18:00）
GIRLS DOOR■東京・新宿FACE（18:30）
ZST■東京・Zepp Tokyo（17:30）
NKB■東京・ディファ有明

24 THU.

NOAH■青森・弘前市河西体育センター（18:30）
みちのく■大分・イベントホール大分（18:30）
dragon door■東京・後楽園ホール（19:00）

25 FRI.

みちのく■福岡・小倉北体育館（18:30）
シュートボクシング■東京・後楽園ホール（18:00）

26 SAT.

新日本■埼玉・桂スタジオ（18:30）
全日本■滋賀・長浜市民体育館（18:30）
NOAH■北海道・メディアパーク・スピカ（17:00）
DRAGON GATE■愛媛・アイテムえひめ（18:30）
みちのく■徳島・那賀町鷲敷体育館（19:00）
HERO'S■リトアニア・ビリニュス

27 SUN.

新日本■神奈川・藤沢市秋葉台文化体育館（18:30）
全日本■埼玉・本川越ペペホール（17:00）
NOAH■北海道・メディアパーク・スピカ（16:00）
DRAGON GATE■徳島・鳴門市市民会館（17:00）
DDT■愛知・中村スポーツセンター（15:00）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ（14:00）
NEO■東京・キネマ倶楽部（13:00）
JWP■東京・キネマ倶楽部（17:00）
格闘美■東京・新木場1stRING（12:30）
J-NETWORK■大阪・マザーホール
コンバットレスリング■東京・国士舘大学多摩校舎（10:00）
ANGEL'S■東京・伊原道場（14:00）

28 MON.

全日本■福島・いわき市総合体育館（18:30）
WWS■群馬・伊勢崎第二市民体育館（18:30）

29 TUE.

全日本■宮城・宮城県スポーツセンター（18:30）
NOAH■秋田・秋田市立体育館（18:30）
ニュー女子■長野・塩尻市立体育館（18:30）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:30）
スマックガール■東京・後楽園ホール（18:30）

30 WED.

新日本■群馬・館林市民体育館（18:30）
全日本■青森・八戸市体育館（18:30）



December

1 THU.

全日本■岩手・岩手県営体育館（18:30）

2 FRI.

ZERO1・MAX■福井・福井ワシントンホテル（18:30）
みちのく■福島・いわき市総合体育館（18:30）
DDT■東京・新木場1stRING（19:30）
チョコボール向井自主興行■東京・新宿FACE（19:00）
DEEP■東京・後楽園ホール（18:30）

3 SAT.

新日本■京都・京都市体育館（18:00）
全日本■新潟・長岡市厚生会館（18:30）
ZERO1・MAX■岐阜・美濃加茂市中央体育館（18:30）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
みちのく■山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
大阪プロレス■大阪・IMPホール（18:00）
大日本■岐阜・岐阜商工会議所大ホール（18:00）
JWP■東京・新宿FACE（18:30）

4 SUN.

新日本■広島・広島グリーンアリーナ（18:00）
NOAH■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
ZERO1・MAX■埼玉・深谷市民体育館（17:00）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
大日本■愛知・JR稲沢駅前特設リング（15:00）
国際■神奈川・茅ヶ崎青果市場（18:00）
女帝興行■東京・新宿FACE（13:00&18:30）
パンクラス■東京・ディファ有明（16:00）

5 MON.

全日本■東京・大田区体育館（18:30）
全日本キック■東京・後楽園ホール（18:30）

6 TUE.

新日本■広島・県立ふくやま産業交流館（18:30）

7 WED.

新日本■山口・周南市総合スポーツセンター（18:30）
DDT■東京・新木場1stRING（19:30）

8 THU.

新日本■愛媛・テクスポート今治（18:30）

9 FRI.

新日本■徳島・徳島市立体育館（18:30）
インディーサミット■東京・後楽園ホール（18:30）
インディートライアル■東京・新宿FACE（18:30）

10 SAT.

WRESTLE-1■神奈川・横浜アリーナ（17:00）
新日本■大阪・大阪府立体育会館（18:00）
DRAGON GATE■岐阜・商工会議所大ホール（18:30）
NKB■東京・後楽園ホール

11 SUN.

新日本■愛知・愛知県体育館（18:00）
ZERO1・MAX■栃木・那珂川町小川体育館（18:00）
DRAGON GATE■兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
大日本■埼玉・桂スタジオ（17:00）
NEO■東京・後楽園ホール（12:00）
新日本キック■東京・後楽園ホール
D.O.G■東京・ディファ有明

14 WED.

DDT■東京・新木場1stRING（19:30）
K-DOJO■東京・後楽園ホール（18:30）

16 FRI.

新日本■沖縄・県立武道館（18:30）
リアルジャパン■東京・後楽園ホール（18:30）
IWAジャパン■東京・新宿FACE（19:00）

17SAT.

DRAGON GATE■香川・高松シンボルタワー（18:30）
SPWF■東京・西調布アリーナ（18:30）
修斗■東京・新宿FACE（16:00）

18 SUN.

DRAGON GATE■静岡・アクトシティ浜松（18:00）
大日本■静岡・ツインメッセ静岡（15:00）
バトラーツ■埼玉・桂スタジオ（17:00）
FUCK!■和歌山・県立体育館（18:30）
フラッシュ7■東京・新宿FACE（18:30）
JWP■東京・キネマ倶楽部（13:00）
R.I.S.E.■東京・ディファ有明
新日本キック■山梨・甲府小瀬スポーツ公園武道館

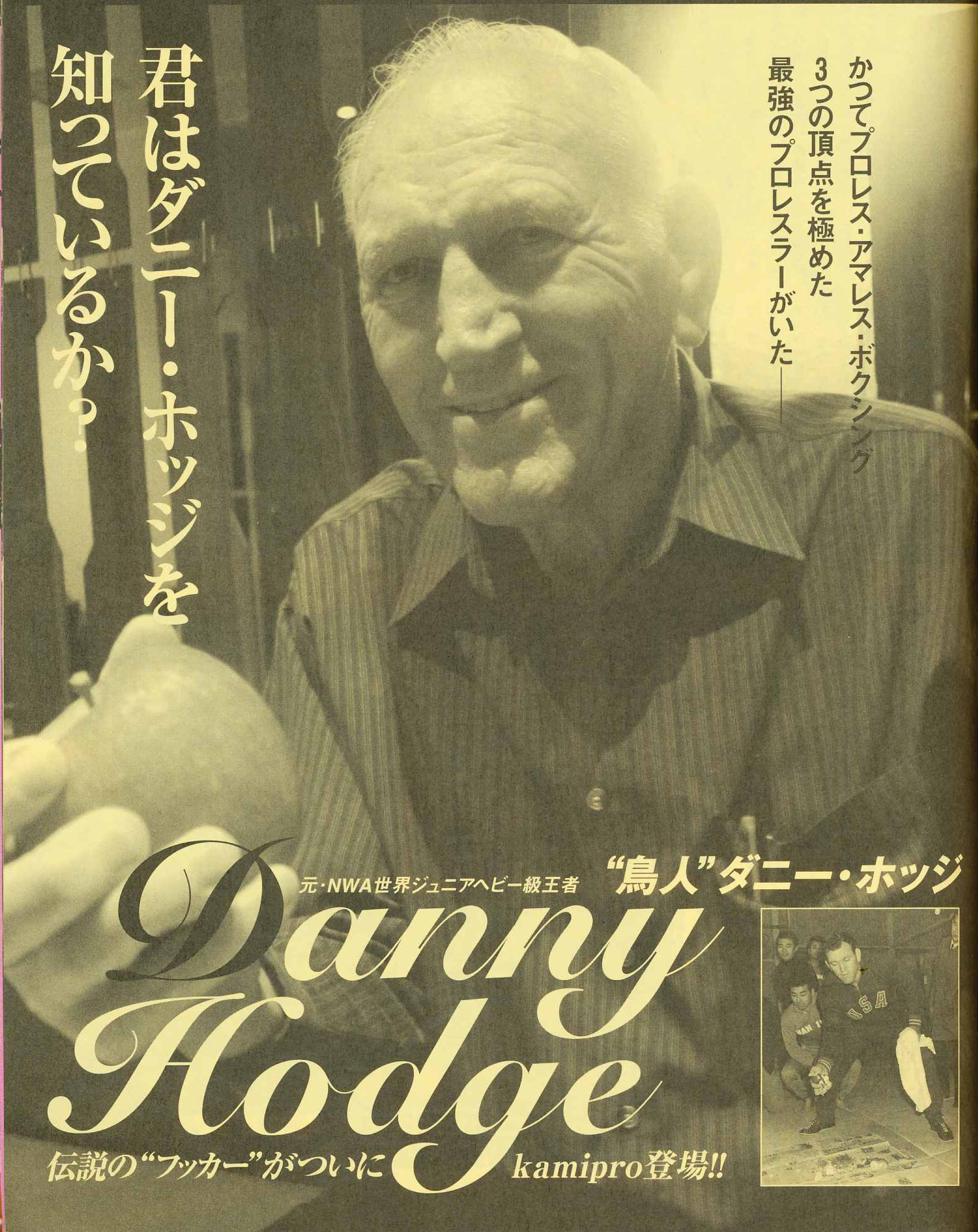
※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。



リアルゲイ=RGから、小学生レスラーまで、ギネス級のおもしろさ!

イラスト◎師岡とおる

PRO-WRESTLING CLASSICS　kamipro LEGEND INTERVIEW



君はダニー・ホッジを知っているか?

かつてプロレス・アマレス・ボクシング
3つの頂点を極めた
最強のプロレスラーがいた——

元・NWA世界ジュニアヘビー級王者

"鳥人"ダニー・ホッジ

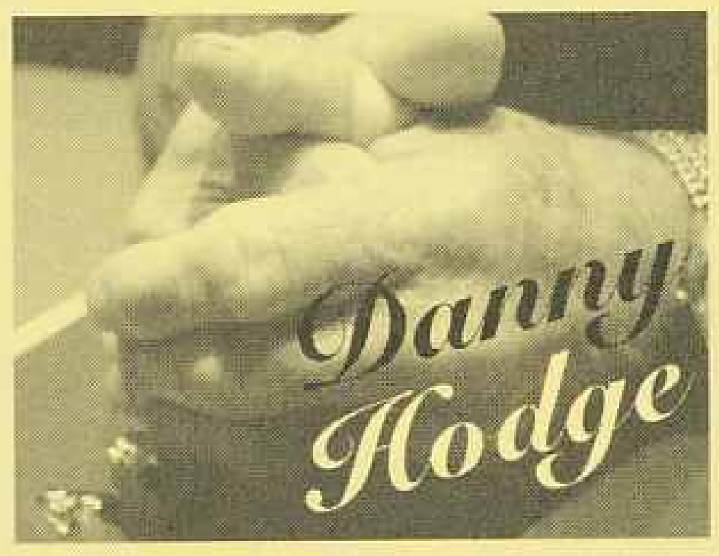
Danny Hodge

伝説の"フッカー"がついにkamipro登場!!

君はダニー・ホッジを知っているか？

去る10月15日、元UWFインター宮戸優光のジム『UWFスネークピット・ジャパン』が主催するトークショーに出演するために、"鳥人"ダニー・ホッジが久々に来日した。

若いファンはご存知ないかもしれないが、ダニー・ホッジといえば、ジュニアヘビー級史上最強の名をほしいままにする伝説のプロレスラー。アマチュアレスリングで、52年ヘルシンキ、56年メルボルンと二度オリンピックに出場（メルボルンでは銀メダル）。さらにアマチュアボクシングでゴールデン・グローブ・ヘビー級全米王者になり、プロレス転向後はデビュー2年目でNWA世界ジュニア王者となり通算12年5ヵ月もの間、王座に君臨。アマレス、ボクシング、プロレス3つのジャンルで頂点を極めるという、まさに"元祖・リアル格闘王"と呼ぶに相応しいスーパーアスリートなのである。



しかも、単にスポーツマンとして優れているだけでなく、かの鉄人ルー・テーズをして「もし、ヒクソン・グレイシーが全盛期のホッジとオクタゴンに入ったら、彼は耳をちぎられ、鼻をもがれるまで檻から出られない」と言わしめるほどの"シュート伝説"の持ち主でもあり、その幻想はまさに底なし。

そんなホッジが今回、齢73にして再び日本を訪れ、真のプロレスリングを伝えるべくトークショーだけでなく、ビル・ロビンソンと実戦さながらのスパーリングまで披露するというスーパー爺さんぶりを披露。とても交通事故によって再起不能となって引退したように思えない、鳥人ならぬ超人。それがダニー・ホッジなのである。

プロレスと格闘技の棲み分けが進み、プロレスに強さは不要とまで言われる風潮が広がりつつある現在だからこそ、プロレスファン、総合格闘技ファン両方に、かつて本当に強いプロレスラーがいたということを伝えたい。そんな思いで、本誌はトークショー翌日、この伝説のプロレスラーにインタビューをこころみた。

（聞き手／堀江ガンツ）

──今日は伝説のレスラー、ホッジさんにお会いできて光栄です！

ホッジ　ドウモアリガトウ（ニッコリ）。

──ウチの雑誌は『kamipro』というプロレスリングとMMA（ミックスド・マーシャルアーツ＝総合格闘技）を両方載せている雑誌でして、じつはいまファンのニーズとしてMMAの割合のほうが増えてしまっているんですよ。でも、かつて本当に強いプロレスラーがいたということを、いまの格闘技しか知らないファンに伝えるために、今日はインタビューさせていただきたいと思います。

ホッジ　OK。ただ、MMAというのは93年までは存在しなかったじゃないか。だから、さすがに私もMMAで闘った経験はない（笑）。

──そりゃそうですね（笑）。

ホッジ　それまで、ああいった闘いは、キックボクシングだけだった。そしてMMAに先駆けて日本ではシュート・レスリング（※ホッジはUWFスタイルのことをこう呼ぶ。これはアメリカでのUインター中継の番組タイトルが『シュート・レスリング』だったから）が出現した。そして私自身、92年にUWF・I（インター）に来て初めてシュート・レスリングの試合を見て、「ああ、こういう風潮のレスリングが現われたのか」と、レスリングシーンの移り変わりというのをここ日本で知った。だから、キミが聞きたいような答えを導き出せるかどうかはわからないが、私の知っていること、思っていることを話すことにするよ。

MMAでライオンと奴隷を闘わせるような試合には嫌悪感を覚えるね

──よろしくお願いします。ここ数年、プロレスラーがMMAで負けるたびに、「もしホッジが若かったら……」というエクスキューズで必ずホッジさんの名前が語られてたんですよ。そういった感じで、いまだに名前が出ることについて、ご自身ではどのように思っていますか？

ホッジ　プロレスかMMAかという問題ではなく、私自身の考えでは、勝敗というのは個々の問題だと考えているんだ。ボトムラインとしてはコンディショニングの問題もあるしね。まぁ、私自身がアマチュア・レスリング、プロボクシング、そしてプロレスリングという3種類の競技でチャンピオンになっているので、その二次的な産物として私が「MMAで



ホッジといえば、握力を誇示するリンゴ潰しのパフォーマンスが有名。今回もトビラ撮影用にリンゴを持ってもらったら、レスラー魂がうずいたか、なんと軽く握り潰してしまった！ 大きくて固いリンゴだったのに……怖るべき73歳だ！

リアルゲイ=RGから、小学生レスラーまで、ギネス級のおもしろさ!

イラスト◎師岡とおる





90年代前半にはプロレスリング世界ヘビー級選手権の立会人として、UWFインターにたびたび来日。ルー・テーズ、ビル・ロビンソンとともに、このタイトルの権威を高めるのにひと役買っていた。

おそらく強かったであろう」という答えが導き出されたのであって、私自身はMMAで闘ってみようと思ったこともないので、若干ピンとこないな。

——でも、いまのMMAで強い選手というのは、レスリングがベースであり、サブミッションが強く、それでありながらボクシングの技術がある選手なんです。それってまさにダニー・ホッジのような気もするんですよ。

ホッジ　まぁ、私は自分自身の実力を信用し、その実力を元に作り上げてきたプロジェクトを次に作り上げることだけを考えて生きてきた結果だからね。それをいまのファンに評価してもらえるということに関しては悪い気はしないよ。

——ホッジさん自身は、このMMAという競技をどのようにご覧になっていますか?

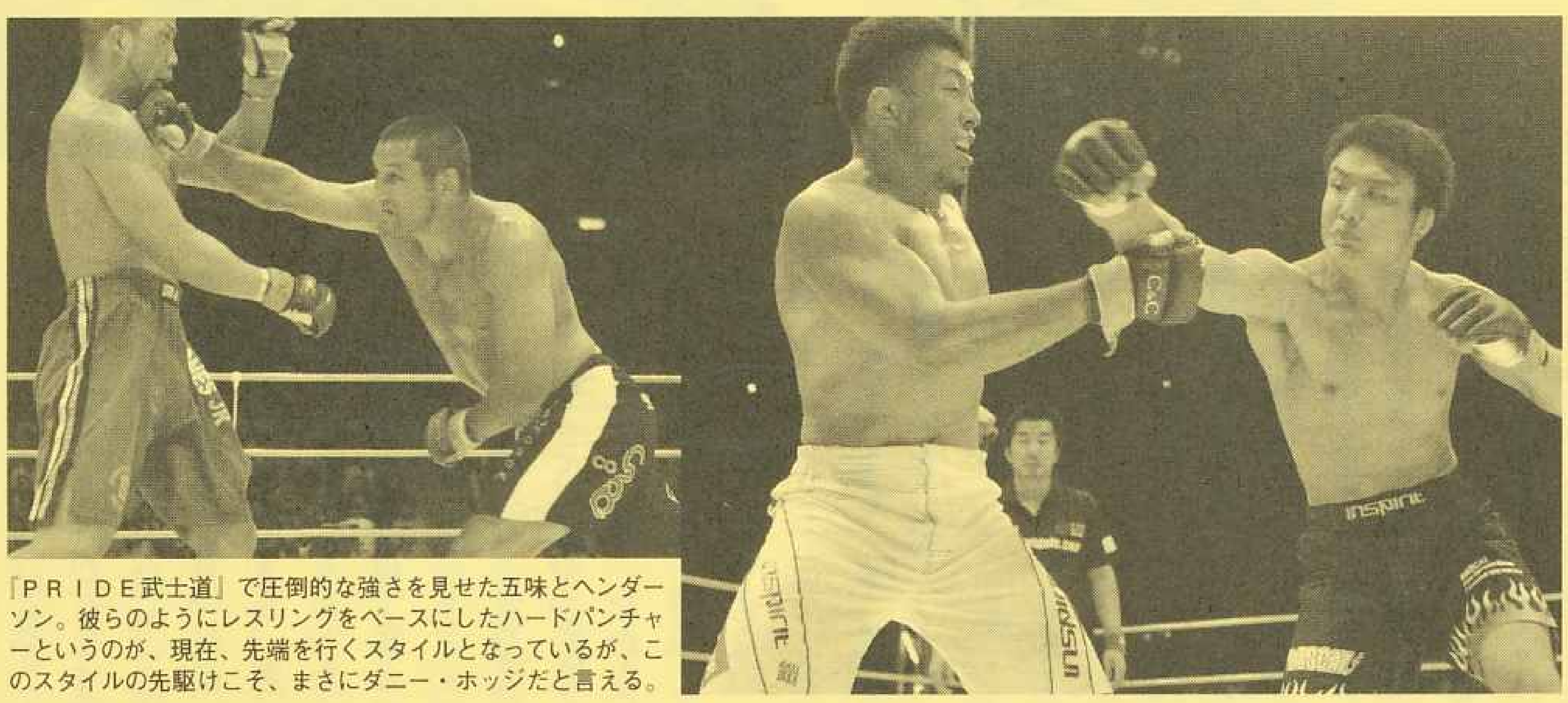
ホッジ　じつを言うと私はオクラホマ州で数多くのMMA団体から、「コミッショナー」という立場を要請され、実際に何回か就任し、リングサイドで観戦もしている。その中で私が一番感じていることは、この競技がまだ是認されていないということなんだよ。

——是認されていない、ですか?

ホッジ　どういう意味かというと、MMAに関わっている関係者で、ある人は「こうしたらいい」別のある人は「いや、こうするべきだ」といった感じで、ひとつのMMAという競技に関して、関わっている人間がみんな違う意見を持っているということで、いまだ統一性がなされていないという状況に戸惑いを感じることがあるよ。

——たしかにイベントごとに若干ルールが異なり、どこまでノールールに近づけたらいいのかは、まだ結論が出ていない状態ではありますよね。

ホッジ　しかし、ようやくMMAという競技がアメリカの南端オクラホマ州にも進出してくるまでになったんだなぁという実感はあるよ。でも、やっぱり競技として未熟な部分を感じるので、まず私のような人間がやるべきことは、大ケガをしないウチに試合を止めることかな、というのが実感だよ。もうひとつ、統一性がないというのは、MMAというのはラ



『PRIDE武士道』で圧倒的な強さを見せた五味とヘンダーソン。彼らのようにレスリングをベースにしたハードパンチャーというのが、現在、先端を行くスタイルとなっているが、このスタイルの先駆けこそ、まさにダニー・ホッジだと言える。

ンキングがないせいか、片方の選手が10勝している選手で、もう片方が2勝もしていないような、明らかに実力差があるマッチメイクが突然組まれることがある。そのへんの統一性のなさが、競技としての未熟性を感じずにはいられない。

——たしかにそういったマッチメイクは、いまだに見受けられますね。そういった面もありますが、MMAの試合自体は面白いとは思いますか？

ホッジ　古代ローマ時代に戻ったような気分にはなるね。優秀なアスリートが参加し始めているのもたしかだ。ただ、やっぱりライオンと奴隷の闘いのような（実力差のある）マッチメイクには嫌悪感を覚えるね。それから、自分としてはどうしてもキックボクシングの変形にしか見えないんだ。それがなんとなくアルティメット・ファイトと呼ばれるものに変形してきたような気がするよ。

——日本ではキックボクシングの延長というよりも、プロレスリングのシュートマッチの進化型として語られる場合が多いのですが、そうは思いませんか？

ホッジ　その意見については、たとえばMMAは五輪代表の選手がそのまま出ているケースがあるよね？　五輪選手がそのまま出られるようなものは、プロレスリングの次のフォーマットとは言えないんじゃないかなぁ。自分としてはプロレスリングの新しいフォーマットというのは、アルティメットのような形ではなく、その競技について鍛錬した同等のレベルの選手が競い合って、ひとりが勝ち抜くといった正当な形でない限り、レスリングの〝進化〟とは言えないのではないかと思う。

——では、MMAとプロレスリングのシュートマッチの一番の違いというのは何ですか？

ホッジ　MMAというのは、以前はともかく、いまはルールを整えて、新しいスポーツとして歩もうとしてるんだろう？

——そうですね。

ホッジ　でも、シュートマッチはそうじゃない。自分がレスラーであるという背景がある以上、タップアウトさせる、首の骨を折る、いかなることをしても、その相手を〝処理〟せざるを得ない。シュートマッチというのは、そういう〝状況〟なんだよ。

——〝処理せざるを得ない状況〟ですか……。

ホッジ　いいかい？　ボーイ。わかりやすく話そう。シューティングマッチというのは、俺が死ぬかお前が死ぬか、それだけだよ。本当にただそれだけなんだ。でも、俺は死にたくはないよ。そして俺は相手が「生きていたい」って言うなら、生かしてやるよ。

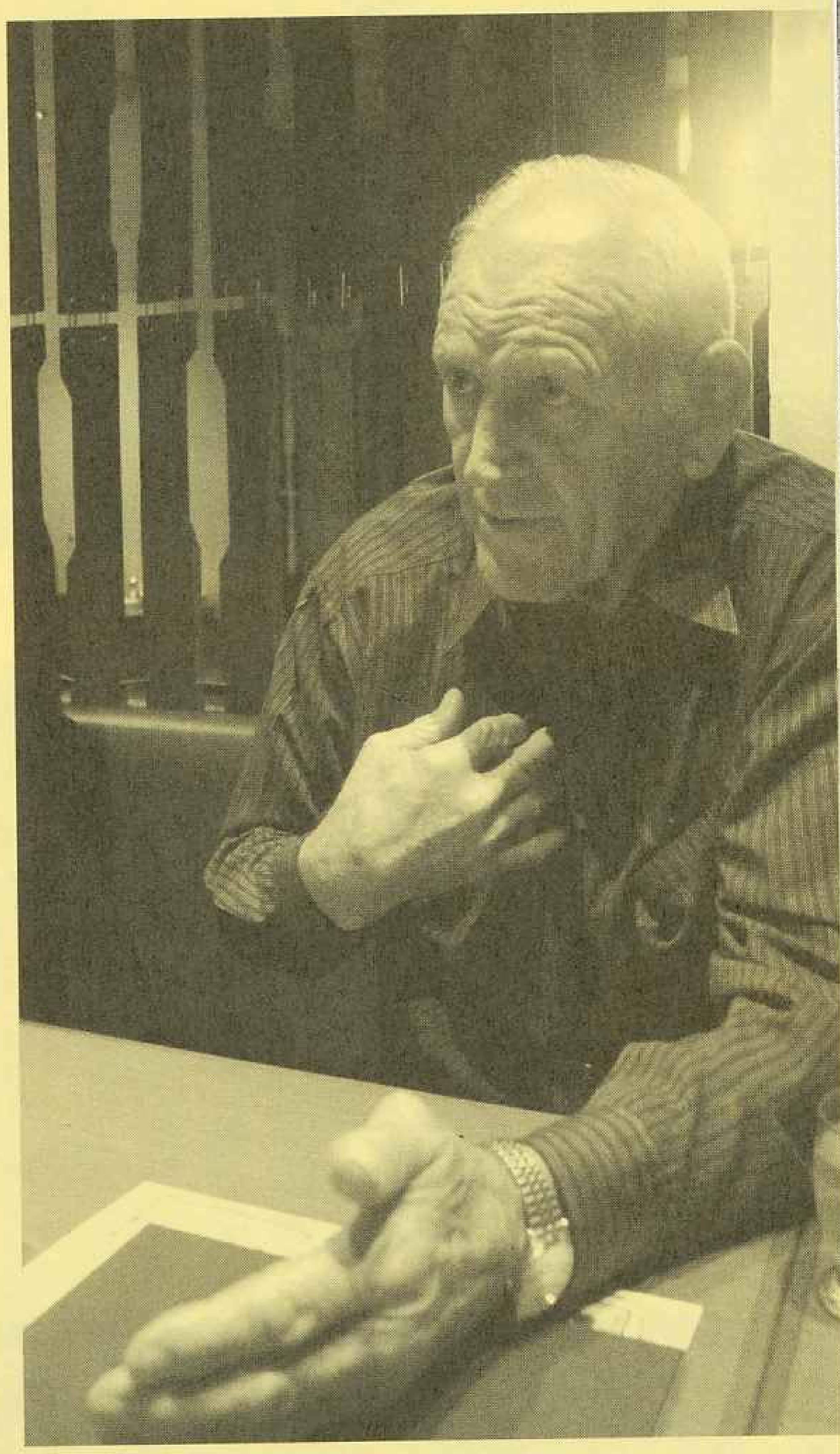
——……。

ホッジ　リングに上がる前に、相手がこういうことを仕掛けてくる、それを知っていたら俺だって対処の仕方は全部知っているよ。そういった競技がMMAなのだろう。でも、シュートマッチは違うんだよ。

——ルー・テーズさんは、UFCのホイス・グレイシーvsダン・スバーンの試合をビデオで見ながら、「この試合が本当にノールールだったら、ガードポジションを取っている相手の耳でも鼻でももげる」とも言っていたらしいんですよ。

ホッジ　ハハハハ、それは論外だなぁ。

いいかい、ボーイ？　お前が死ぬか俺が死ぬか、シュートマッチとはそれだけだよ



そりゃあ、できるけれど、それをやったら終わりじゃないか。ハッキリ言って、私は握力で水道管のパイプを折ることができる。君は「耳をちぎれる」と言ったけど、鼻に手をかけて鼻と顔面の皮を剥ぐことなんて、すごく簡単なことなんだ。でも、それをやったら終わりじゃないか。だからノールールという〝競技〟っていうのは、ありえないんだよ。

——そこまでいくと、もはや競技じゃないでしょうからね。

ホッジ　私はそういったものを見せようと思わないし、それを誇ろうとも思わない。私は73歳になったいまでもコーチやコミッショナーの仕事で忙しい身なのだが、今回は、昔のUWF・Iのときから私を呼んでくれたミヤト（宮戸優光）が、ビル・ロビンソンといっしょにレスリング・スクールをやっているということで、私のプロレスリングを教えるために、やってきたんだ。曲がってきたプロレスリングの風潮の中で、私の知っているプロレスリングを日本の人々に伝えるために来たんだよ。

——いま、プロレスリングが曲がってきたとおっしゃいましたけど、今年、ホッジさんはWWEのRAWのリングにゲストで招かれていましたよね。いまのアメリカのレスリングシーンはどのようにご覧になっていますか？

ホッジ　昔、我々がやっていたプロレス

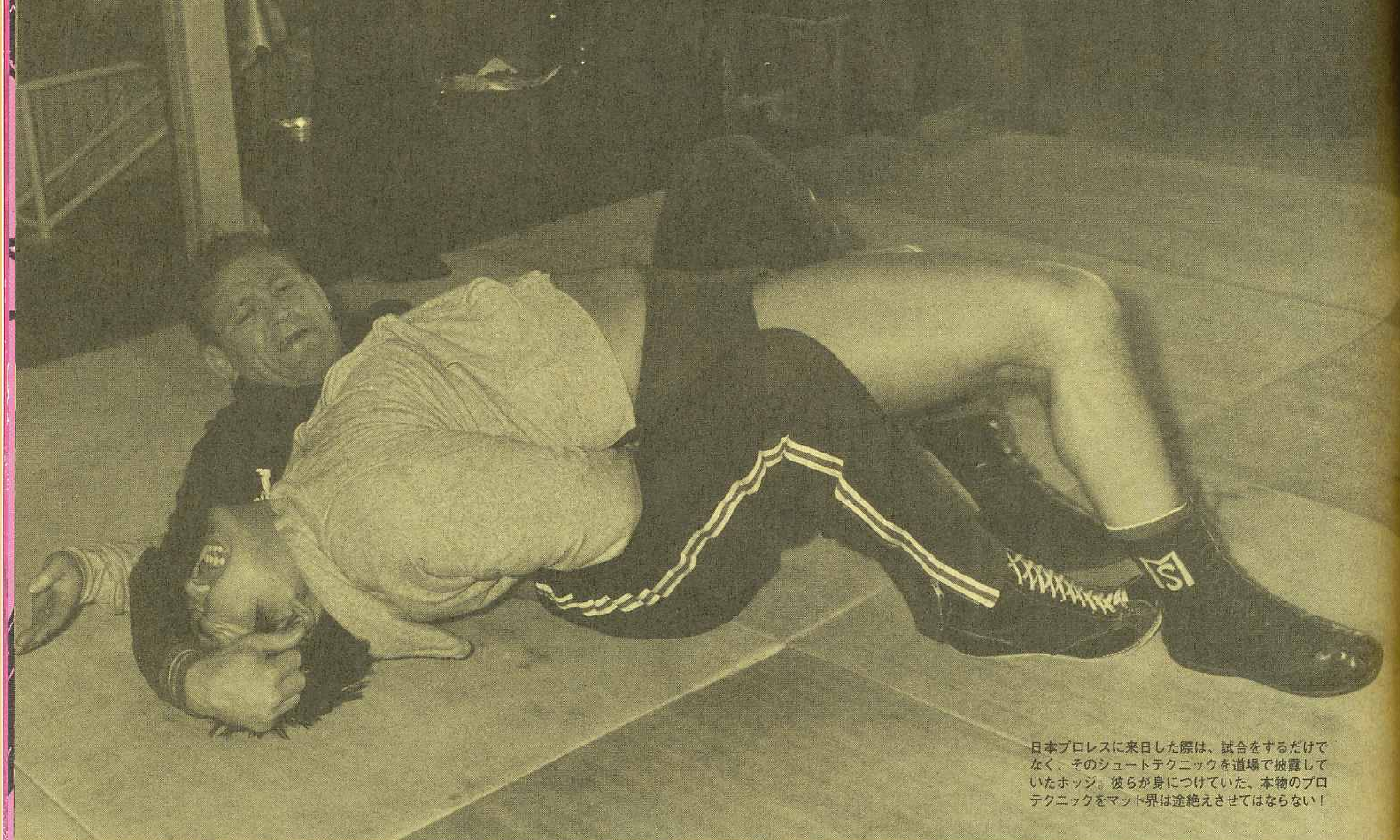
とは違うのは、誰が言わなくてもわかる

そんなに違和感がないものだったんです

リアルゲイ=RGから、小学生レスラーまで、ギネス級のおもしろさ!

イラスト◎師岡とおる





日本プロレスに来日した際は、試合をするだけでなく、そのシュートテクニックを道場で披露していたホッジ。彼らが身につけていた、本物のプロテクニックをマット界は途絶えさせてはならない！

とは違うのは、誰が言わなくてもわかると思う。私たちがプロレスリングを始めた頃というのは、エド・ストラングラー・ルイスが築いたものをルー・テーズがひとつレベルアップして作り上げてきたものであり、そのルーが作ったものを、我々が自分たちの手で、またもうワンランク上げようとしていた。そういったレスリングの向上を図ってきたはずなのに、いまWWEを見てみると、半分以上がインタビューやドラマだし、他のパートを見るとルチャリブレだけの試合もある。それらを見るにつけ、完全に違ったものになってしまったなぁという感傷を受けざるを得ないな。

――レスリングの継承がなされていないと。

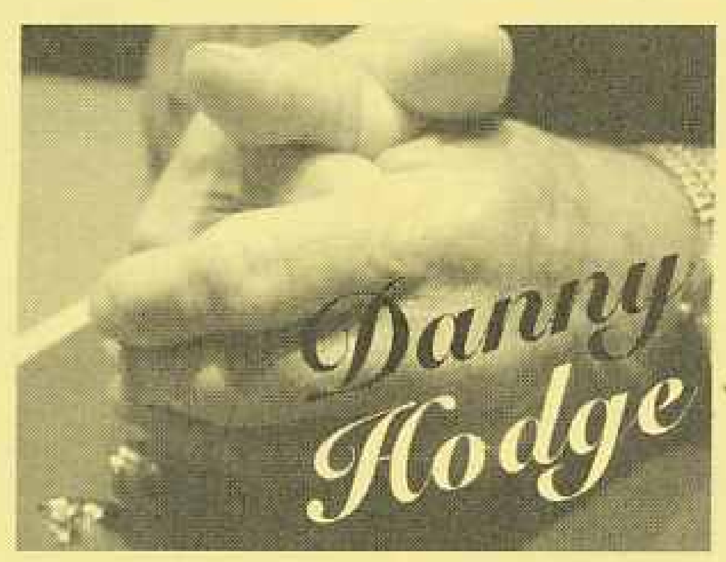
ホッジ　YES。ランディ・オートンというレスラーがいるだろう？　私はそいつの父親（〝カウボーイ〟ボブ・オートンJr.）とも闘ったし、お爺さん（〝ビッグ・オー〟ボブ・オートンSr.）とも闘っている。私は若い頃、2年半にわたってエド・ストラングラー・ルイスのマネージングのもとプロレスラーとして生活していたが、そのルイスとの2年半で自分が得たこと、マット上で相手の技から逃げること、そして相手の攻撃に入っていくこと、すべてを彼からその時期に学んだような気がする。それと同じことを、彼の親父も祖父もちゃんと教えているのかなぁ、と疑問を持たずにはいられないよ。

――ホッジさんはアマレスからプロレスに転向されたわけですけど、当時のプロレスというのは、アマから転向しても、そんなに違和感がないものだったんですか？

ホッジ　違和感がないというか、私の時代は純粋な意味での「アマチュア・レスリング」というのはじつはなかったんだ。

――アマレスがなかったんですか⁉

ホッジ　考えてみてほしい。エド・ストラングラー・ルイスやフランク・ゴッチ、スタニスラウス・ズビスコの時代にはじつはすべてのアマチュアと呼ばれる選手がプロと一緒に練習していた時代なんだ。つまりアマレスというのは、明らかにプロのあとにできたものなんだよ。だから自分としてはアマもプロもない、レスリングはレスリングだという環境で育ってきたので、いま君が言ったような感覚はなかったなぁ。そもそも私の師匠はプロレスラーのエド・ストラングラー・ルイスなのだから、アマからの〝転向〟という意識はなかったよ。



――では、ホッジさんがプロレスをやろうと思ったきっかけはなんだったんですか？

ホッジ　じつは私自身、プロレスリングというものを始めて見たのは、1949年10月、その年にオクラホマ州で初めてプロレス中継が始まったんだ。夜の10時半から11時半という1時間枠の番組だった。そのときに中学生の私が思ったことは、「この技からは逃げられるな。でも、この技からは逃げられないな」という、そういった印象だった。その当時、すでに私はアマチュアで相当の地位にいたから、そういう目で見られたのだと思う。その後、私はアマチュアレスリング

で二度オリンピックに行き、銀メダルを獲得した。そのあとボクシングではマジソン・スクエア・ガーデンでゴールデン・グローブの全米チャンピオンにもなった。そうやって自分自身を鍛えていき、最後にファーストラブであるプロレスに戻っていったという感じかな。

——アマレスやボクシングをやりながらも、プロレスをやりたい願望はもともとあったわけですね。でも、アマチュアレスリングとボクシングというのは、技術から使う筋肉までまったく違うと思うのですが、なぜボクシングをやろうと思ったのですか？

ホッジ なぜって、周りが勧めるんでね。オクラホマ大学時代、私がレスリング部に所属しているとき、同じ体育会系のボクシング部にいた人間が私のことをじっと見ていて、「なぜ、お前はボクシングをやらないんだ。お前がボクシングをやったら、すぐにトップになれるんじゃないか」とささやいた。私は「そうかな？」と思い、じつはそれまでグローブなどというものは一度も着けたことがなかったのだけれども、グローブを着けて少し練習を始めたら、たちまちボクシング部の人間全員を倒せることがわかってしまって、大学で一番強いと吹聴していた人間も倒してしまった。

——レスラーなのに、大学ナンバーワンのボクサーになっちゃいましたか（笑）。

ホッジ しかもその人間は州のチャンピオンだったので、私もあっという間に州王者になり、MSGのチャンピオンになってしまったというのが自分のボクシング人生だったなぁ。

——（絶句）……凄いですねぇ。どんだけ才能があるんですか!?

ホッジ レスリングにしたって、ヘルシンキ・オリンピックに出たときは、じつはアマレスの技なんてほとんど知らなかったんだよ。ヘルシンキのハイドレドホールで私が世界各国のレスラーを見たとき、「ほぉ、これがアマレスか」と思ったくらいだからね（笑）。

——そんな感じで出場しておきながら5位入賞ですか（笑）。ホントに格闘技の天才なんですねぇ。

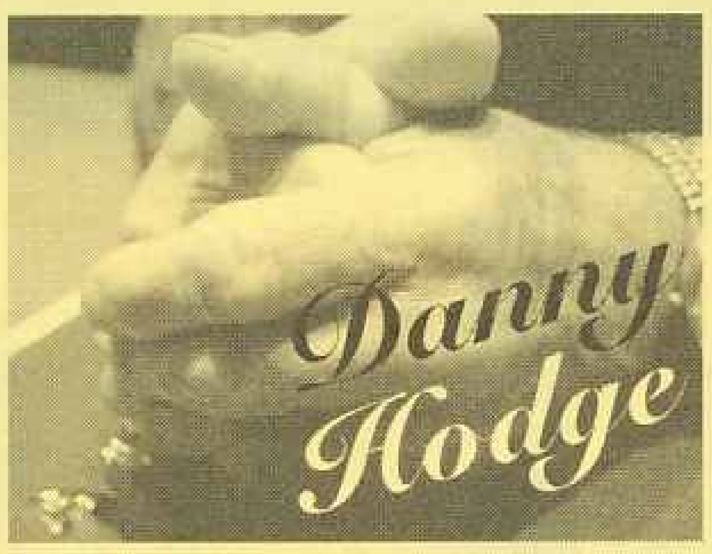
ホッジ 私は身体だけみたら大きくないから、一目見ただけでは「強いな」という印象をもっとも与えない人間だとは思う。それが利点に働いていたんじゃないかとも思うがね（笑）。まぁ、レスリングだけでなく、ボクシングでもチャンピオンになれたことで、自分はどんな格闘技でもできる自信がついたのは確かだよね。

——その後、プロレスラーに転向するわけですけど、プロレス特有のテクニックというのは、誰に習われたんですか？

ホッジ 自分としては特定の選手じゃないな。周りのレスラー全員を見て覚える。もしくは相手が仕掛けてきた技で、効いたなと思ったものを自分のものにする。その繰り返しだったな。

——でも、プロレスのコーチ、もしくは師匠と呼べる人はいたわけですよね？

ホッジ それはもちろんエド・ストラングラー・ルイスだよ。どこに行くにも私の側にいた。ポートランド・オレゴンに2ヵ月半という長い滞在、遠征をエドとした間に教会に行くにも公会堂に行くにも、どこに行くにも彼と一緒だったから、たくさん覚える時間はあったたし、私自身、彼とトレーニングすることによって、両方のバリューを高めていった。そういう経験はあるね。



エド・ストラングラー・ルイスから習ったプロの技術とは〝テコ〟だよ

——エド・ストラングラー・ルイスに習ったプロのテクニックでどんなものに感銘を受けましたか？

ホッジ いやぁ、たくさんあったなぁ。でも、技術のことだけで言えば、それは〝テコ〟だ。

——テコですか？

ホッジ そう。たとえばヘッドロックがそうだよ。ただのヘッドロックだよ。でも、テコを使えば、相手を屈服させるサブミッションホールドに変わるんだ。

——どんなふうに変わるんですか？

ホッジ それはやられてみないとわからないよ（笑）。ちょっとこっちに来てみなさい。

——は、はい（苦笑）。

ホッジ （聞き手にヘッドロックを極めながら）こうやって締めればただのヘッドロックだ。次に力を入れてみると……。

——イタタタタタ。

ホッジ これはタイトに絞めてるだけだから、痛くても我慢できるだろう？

——ま、まぁなんとか。

ホッジ でも、自分の手首をこう返すだけで……。

——ギャァァァァァ！（即タップ）

ホッジ ハハハハ、これがテコだよ。みんなこれを笑って見ているけれど、これがテコだよ。これがプロなんだよ。

——いやぁ……ホントに全然違いますねぇ。

ホッジ 次に両手で私の首を思いっきり絞めてみろ。

——え!? ホントに力を入れていいんですか？

ホッジ いいから絞めてみろ。君が首を絞めても、私が腕をこう（上げた）だけで……

——ウギィィィィィ！（タップすらできず）。

ホッジ これだけで、人間の腕は折れてしまう。すべてテコだよ。それでタップアウトさせたら、試合は終わりなのさ。これがプロレスリングだよ。

——（腕を押さえながら）イタタタ……つまり、これがプロの〝殺し〟なわけですね。

ホッジ テコの違いってわかっただろう？ これはもちろんアマチュアでは禁止技だよ。こういうことをプロとして身につけたよね。

——いやぁ、驚きました。

ホッジ 実際、見るだけならイージーに見えるだろう。体験しないとわからないんだよなぁ。（日本語で）イタイよね？

——イタイです！ もの凄くイタイです！（笑）。

ホッジ ハハハハ、今日はそれがわかっただけで来た甲斐があっただろう（笑）。

——こういうお話になると、どうしても

リアルゲイ=RGから、小学生レスラーまで、ギネス級のおもしろさ!

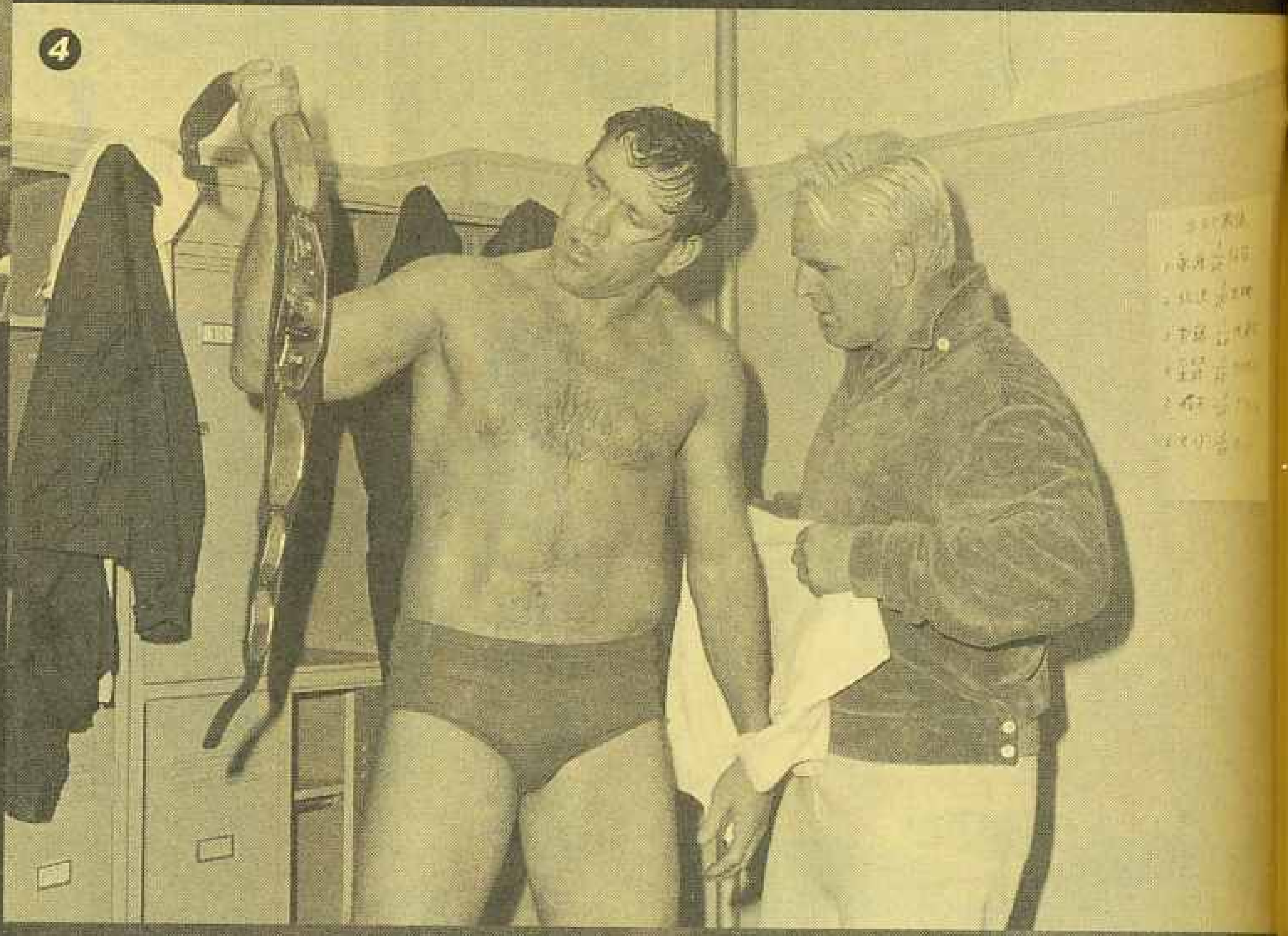
イラスト◎師岡とおる



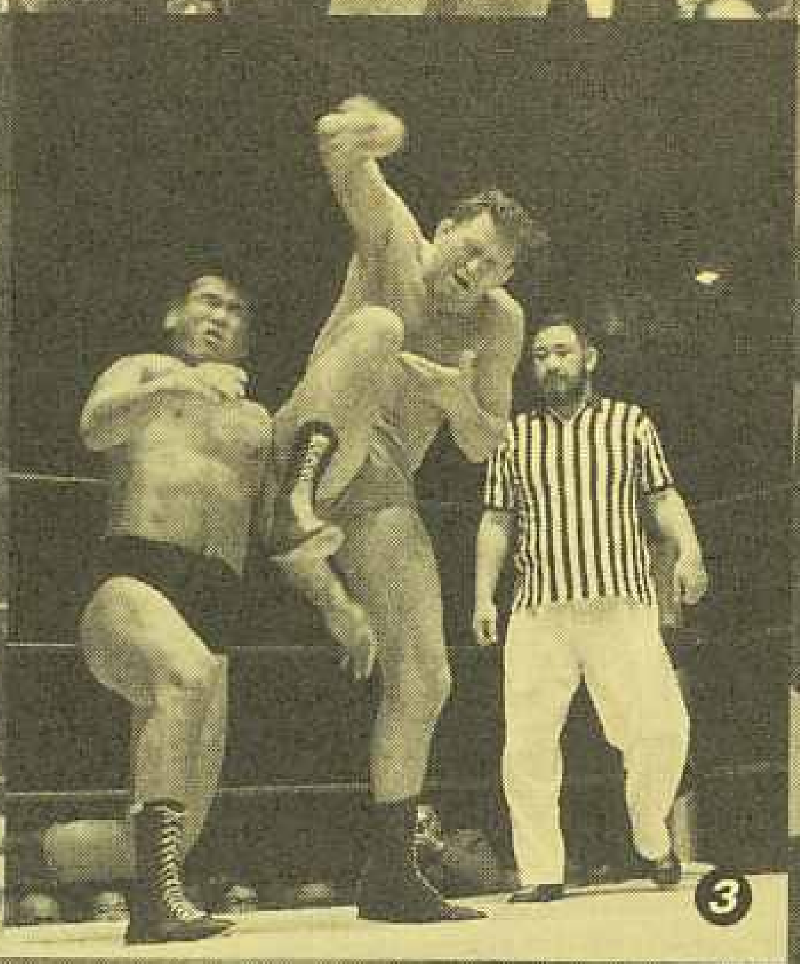


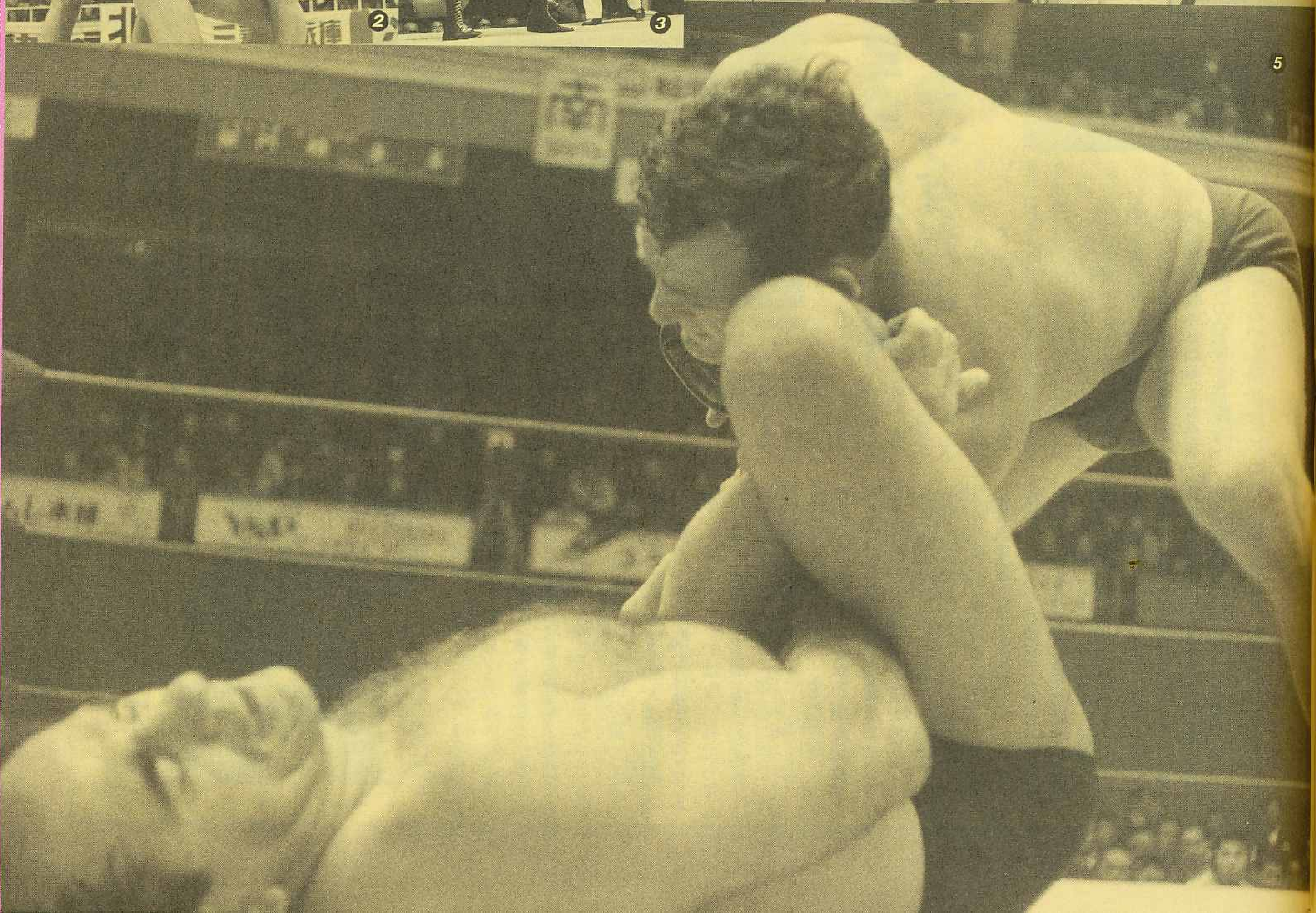
Danny Hodge History in Japan

【写真1、2】68年1月、4度目の来日を果たしたホッジはウィルバー・スナイダーと組んで、馬場&猪木が持つインタータッグ選手権に挑戦。見事、ＢＩ砲にタイトルマッチ初の黒星を付け、王座に輝いた。なお、インタータッグでＢＩ砲を破ったのはこの他にブルーザー&クラッシャーとザ・ファンクスしかいない。【写真3】67年1月、国際プロレス旗揚げ戦にNWA世界ジュニア王者として来日したホッジは、ヒロ・マツダの挑戦を受け、60分フルタイムの熱戦を演じた。【写真4】ホッジの後方に見える対戦カード表には猪木の名前も見える。国際プロレス旗揚げ戦は猪木も出場していたのだ。【写真5】68年1月、国際プロレスのリングでルー・テーズを破り、TWWA世界ヘビー級王座を獲得。この試合は日本初の外国人同士のタイトルマッチだった。





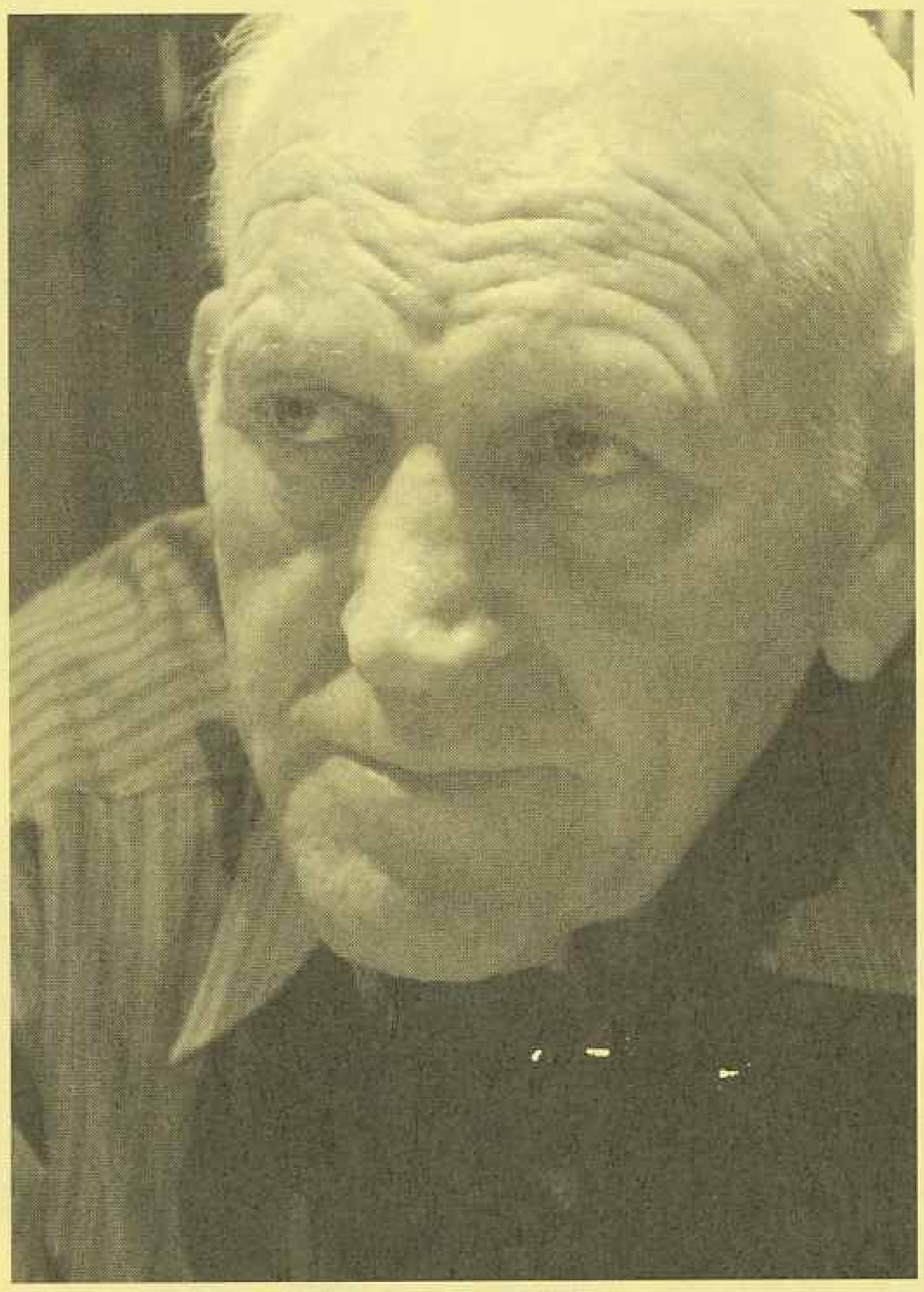




22 TUE.

みちのく■徳島・那賀町鷲敷体育館（19:00）

これまで闘ったレスラーで一番強かったのはヒロ・マツダだよ



1932年米・オクラホマ州出身。本名ダニエル・アレン・ホッジ。NWA世界ジュニア王座を通算12年間保持した、ジュニアヘビー級史上最強のプロレスラー。軽量ながらヘビー級のトップとも堂々と渡り合い、国際プロレスではルー・テーズを破りTWWA世界王者にも君臨。しかし、76年に運転していた車が運河に転落。首の骨を折り、NWA王者のまま引退。その後は地元オクラホマでコーチなどを努めている。

ファンが聞きたいのは、シュートで誰が強かったかということなんですよ。ビル・ロビンソンさんはルー・テーズ、カール・ゴッチ、そしてホッジさんをアメリカマット界の3大シューターと言っていましたが、ホッジさんはどう思いますか？

ホッジ まぁ、やっぱりその3人だろうなぁ。ただ、誰も危険だといえば危険なんだ。実際に全員と闘ったわけじゃないから、確実なことは自分で言えないけれども、私自身は本国で「世界中の偉大なスポーツマン・ベスト100」に選ばれたことも光栄に感じているし、ビリーにベスト3に入っていると言ってもらえたことも光栄だよね。過去、75年のプロレスラートップ12に選ばれたという事実についても光栄に感じる。

——ご自身が実際に肌を合わせてみて一番強かったのは誰ですか？

ホッジ そうだなぁ、やっぱりヒロ・マツダだと思うよ。

——ヒロ・マツダですか！

ホッジ アマでもプロでも彼は凄いレスラーだと思うよ。彼とは何度も闘ったけど、いつでもコンディションが抜群だった。彼は本来なら私の階級なのにヘビー級で闘い、ルー・テーズとも何度も試合していたよね。それは凄いことだよ。

——ホッジさんから見て、カール・ゴッチというレスラーのテクニックはどのように評価していますか？

ホッジ ゴッチとは昼食を共にしたこともあるし、彼がオクラホマに転戦したときは彼の試合も見たし、日本でも会っているが、じつは試合はしたことがないんだ。

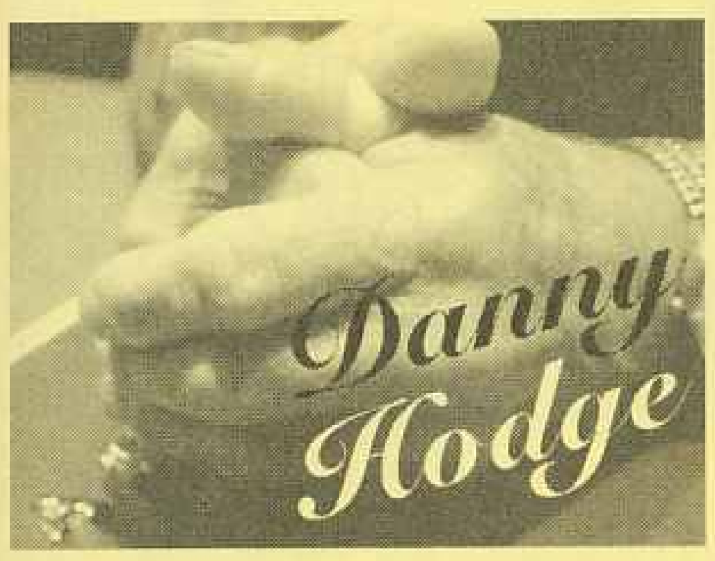
——あ、そうなんですか。

ホッジ だからこれは私が人から聞いたことや自分が見たことからしか言えないが、グレート・アスリートであることは間違いないよ。そしてトップクラスの一人であるとか言えないなぁ。

——ホッジさんにしても、ロビンソンさんにしても、ゴッチさんにしてもいまだにレスリングのトレーニングをしているわけですよね？ これはどうしてなんですか？

ホッジ たしかにレスリングの練習は欠かしてないよ。ただ、競技者としてではないがね（笑）。

——ダハハハ！ 現役目指してたらこわいですよ！（笑）。



ホッジ 他のレスラーはどうか知らないが、私は自分の孫や若い選手に「こんなジジイがこれだけやってるんだから、自分はもっとやらなきゃいかんな」と思ってもらうために毎日やってるんだよ（笑）。

——若い選手たちのためですか。

ホッジ そう。たとえば私が孫に技を教え、孫がその技で試合に勝つと「ボク、教えてもらった技で勝ったよ！」と私に言ってくる。それは私にとってなにより嬉しいことだし、先人のテクニックを受け継げるというのは、若い人たちにとっても幸せなことだと思うからね。

——では、いまのプロレスラーに伝えたいことがあればお願いします。

ホッジ そうだなぁ、一生懸命練習しろよ。しっかりコンディションを作れ。成功するには君自身を信じることだ。いろんなプロモーションで修行しないとダメだろう。そんなところかな。

——ホッジさんが考える、プロレスラーにとってもっとも重要なことはなんですか？

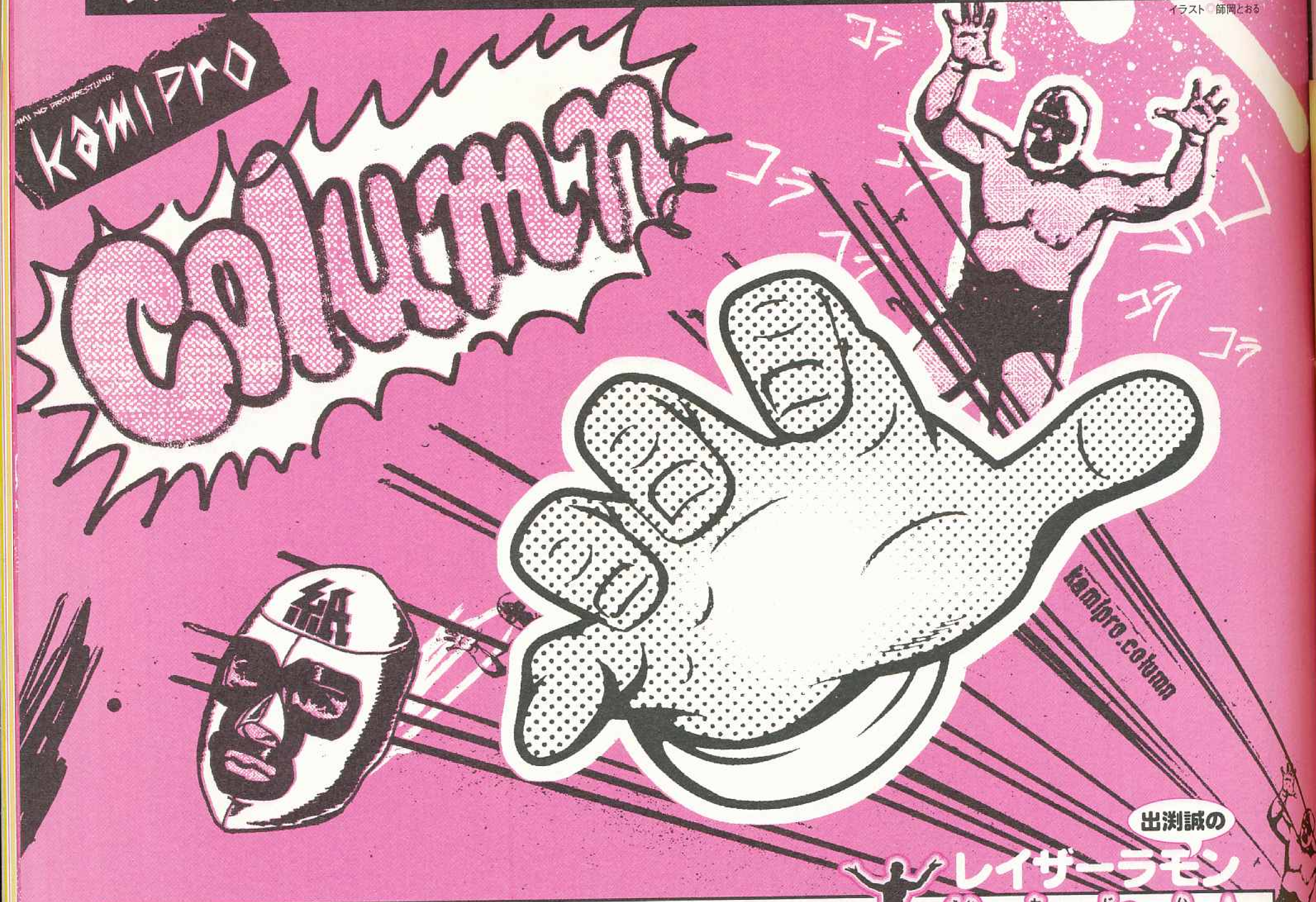
ホッジ どこにブッキングされたとしても、試合前にトレーニングする時間を見つけることだろうね。5マイル（8キロ）のところにブッキングされたら、私はそこまで走って行ったもんだよ。本当なら私のプロレスリングを伝えるもっともいい方法は、同じリングで90分闘ってみることなんだ。でも、もういまそれはできない。ただ、短時間の体感ならこうやって、プロレスラーではない君たちにも教えることができる。それを集積すれば、90分にも劣らないものが残せるのではないかという気もする。君も今日、私にかけられたヘッドロックの痛みをたぶん忘れないだろう。いま君はプロレスリングの〝レベル1〟についてわかってくれたと思う。なぜ、君はこんな老人の技から抜け出せないんだ？ それを見たみんなはそれを笑って見るだろう。でも、なぜ抜け出せないのかを、君自身はわかったはずだろう。体感しないとわからないんだよ。これが一番大事なことなんだ。

——ホントに今日は、ようやくプロレスリングの入口に立てたような気がします。非常に勉強になりました。ありがとうございました！

【05年10月16日／高円寺・AT CAFEにて収録】

リアルゲイ＝RGから、小学生レスラーまで、ギネス級のおもしろさ!

イラスト◎師岡とおる



出渕誠の
レイザーラモン 英知自慰（えいちじい）

第2回 レイザーラモンRGで、HGブームに便乗三昧!

イラスト◎出渕誠

どうもー！　HGの相方、出渕です！
締め切りの都合で今回は、HGが参戦したハッスル・マニアの感想は書けないんですが、自腹を切ってチケットを買ってますので、次号でたっぷりお届けします！

で、ここ最近の僕なんですが、じつはHGに対抗して、レイザーラモンRGという新キャラで売り出し中なんです。RGとはリアル・ゲイの略で、「ハードなゲイを超えるにはリアルなゲイしかない！」と始めた……んですが、案の定「ただの便乗じゃねーか！」「お前にプライドはねーのか！」など各方面から怒られまくる、つらい日々です。

しかし！　プロレス界にはこんな前例たくさんあるじゃないですか〜。タイガーマスクとブラックタイガー、グレート・ムタとグレート・ニタ、ブレット・ハートと元FMWの中川浩二……とかいっぱいあるでしょ。とにかく便乗ですよ。便乗！　便乗！　フォ、フォ、フォ、フォーッ！

映画だって「ジョーズ」（鮫）が当たれば「オルカ」（シャチ）に「グリズリー」（熊）、「子猫物語」が当たれば「REX・恐竜物語」……とショービズ界はワールドワイドに今も昔も便乗三昧。HGとRGの関係も「ショービズあるある」な範囲内なわけです。

しかし、今回RGを売り出して「キャラを成立させるのって大変だな」と思い知りました。HGですらブレイクまでの3年間、お客に気持ち悪がられてましたし、吉本の先輩、ケンドー・コバヤシさんの「お前はハードゲイか！」という啓示（ツッコミ）がなければあのHGは生まれなかった。コバヤシさんが相方の中のハードゲイ資質を鋭く見抜いたということでしょう。

WWEを見てください。かのS・オースチンは舞台裏でもビンス・マクマホンに毒づいてたトンパチ野郎だったし、JBLは株やって大儲けした本物の愛国者だし、キャラがその人の本質に近ければ近いほど、発言内容や軸がブレずにリアリティが増す。

なにより周囲も使いどころを間違えない。

そういう僕も「学生プロレス出身」という経歴以外、目立ったキャラがなく、身長も顔もごく普通の一般人。そんな僕なりに、いろんなキャラを試しました。「叫びまくって頭痛になるキャラ」「必ずクシで髪をとくキャラ」「蛭子能収さんに顔が似てるキャラ（レイザーラモンAB）」など……でもどれもしっくりこないんです。

しかしついに僕が一番「地」でやっていけるキャラが見えてきました！　それは「今、売れに売れまくってるHGの"売れてないほうの"地味な相方」というキャラです！　これはまぁ、僕のリアルな現状、そのままですね。悲しいことに、僕が笑わせようと考え抜いたフレーズより、「嫁と子供もいるのに月収は10分の1でーす！」と言うほうがウケるんです！　そう、誰も僕に面白いことを言ってほしいとは思ってないんですね……。

このようにRGというキャラは「HGに便乗しつつHGへの妬みやグチ、陰口や悪口を言うキャラ」に特化してます。いわばタイガーマスクに嚙み付く。虎ハンターならぬHGハンター、RG！

執拗にHGのサングラスを剥ぎ取ろうとするRG！　薄給に耐えるRG！　うーん、このアングル、ハッスルで使えませんかね？　DSEさんお願いしまーす！



Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
吉本興業のお笑いコンビ「レイザーラモン」の日刊スポーツの一面になったり、『笑っていいとも』に出演したりと大活躍中のHGの相方。

第2回

村田(卓美)くん おつかれさま

文庫『メカ★アフロくん』(幻冬舎)発売!
解説:水道橋博士★よろしく。

花くまゆうさく

リングの汁 ミニ

10月15日、東京国際ファンタスティック映画祭のオールナイトで『狂い咲きサンダーロード』上映するから、もちろん行きましたよ。サンダーロードTシャツも発売するって言うし。

そんで夜に新宿ミラノ座行ったら、オドロいた。村田(卓実)くんが、ひょっこりいたから!? 翌日の午前から試合(G-グラップリングトーナメント)出るのに、オールナイトで映画見て大丈夫なのか? 「寝ないで会場行きます」と、本人は涼しい顔で言っているから大丈夫なんだろう。徹夜は肉体的にはキツいけど、試合前に『狂い咲きサンダーロード』見るのは、テンション上がって精神的にはプラスかもしれないしね。私も昔々、会社辞める時になかなか辞めると言い出せなかったので、早朝にビデオで『狂い咲きサンダーロード』見て、テンションを上げて出社し、辞表を出したっけ。

石井聰亙監督が自ら音響して、爆音で大スクリーンで『狂い咲きサンダーロード』は上映され、「翼なき野郎」どもがリフレインで流れながら、早朝、家路についた。かなり眠いし、身体はダルく熱い。「やっぱりこんな状態で試合すんの無理出だぜ村田くん」と思いながらスヤスヤ寝た。起きたら大会終わってたみたい。見たかったなパラゴン柔術の二人。村田くんは3位だったようで、おつかれさま。

見たかったといえば:ヒクソンのブドーチャレンジ。世界中から選手を招集されていく展開は、アブダビのようなワクワク感でいっぱい。実際、強い選手はブラジル日本アメリカだけだったみたいだけど、これにロシアからトップサンビスト呼べば最高なんだけどなぁ。次回に期待したい。この大会、青木選手が優勝で凄いね。vs花井選手が見たいなぁ。

『PRIDE30』、ファブリシオvsハリトーノフは、ファブリシオの勝ちでないのかな。1Rは完全にファブリシオ、2~3Rはイーブンてことで。あとズール(父)のエガちゃんムーブ見たかったけど、やらなかったね残念。

DEEP、次は十段vsムエタイ、前田vsブラウンにしてほしいな。十段vsブラウンは、アウレリ口戦のようになりそうだからパスしてください佐伯社長。んで、決勝が極めて勝てば、僕的には大ハッピーエンドなんだが、そうなってほしいよね。





Hanakuma Yusaku
◎12月はいよいよ「東京ゾンビ」公開です。

イナズマKの

ハードコアドージョー

第2回 デスマッチ・ニュースクール! 伊東竜二

ハードコアなものなら何でも紹介していくこのコラム、第2回目にして、いきなり音楽イベントのレポートから入ります。10月15日、千葉の君津アクアマリンスタジオで、おこなわれた『RAW LIFE』です。

これがただのパーティと思ったら大間違い。90組(!)のライヴアクト&DJ達が、4つのフロアを使い、ほぼ24時間音を出しまくるというすさまじいもの。出演者は、ほぼメジャーなアーティストはゼロ。ハウスからハードコアパンクまで、インディペンデント、アンダーグランドの真の実力者が、もの凄い熱量で音楽を放ちまくる、近年まれに見るイベントだったのだ。

地元では、心霊スポットとして有名だった、元廃墟の会場を舞台に、商業ベースにのった普通のロックフェスでは太刀打ちできない、音楽の力だけで凄い空間を作り出せた奇跡の瞬間。真実というのはいつだって現場にあるもの。それを改めて感じさせてくれる『RAW LIFE』だったのです。

それって、まんまプロレスにもたとえられたりしますよね。メジャーのしっかりとした試合もいいけど、技の攻防だけじゃなく、プラス蛍光灯の破裂する音とか、雑然としながらも熱量たっぷりの空気感って現場じゃなきゃ伝わらないものだったり。

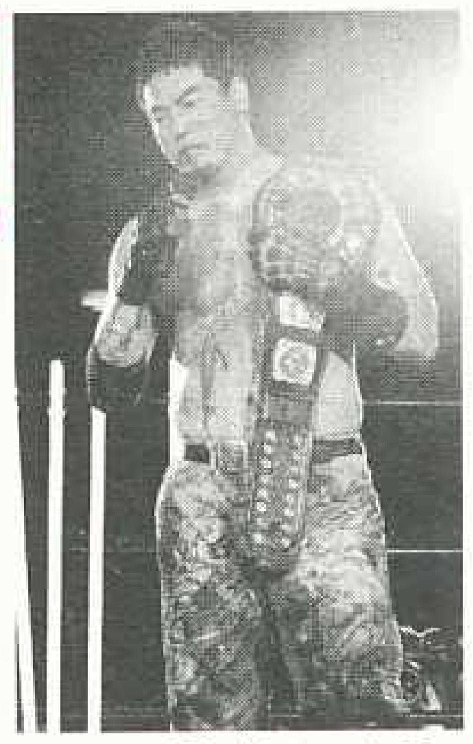
ということで今回は、もはや日本で唯一のデスマッチ団体となった、大日本プロレス、そのエース伊東竜二をピックアップ! 前回の松永光弘がデスマッチ・オールドスクール代表だとしたら、伊東は間違いなくデスマッチ・ニュースクール代表選手です。

山川、本間、WXといった選手がアメリカのハードコア軍団CZWのザンディグらと抗争を繰り広げ、大日本の人気が盛り上がっていたのが2000年頃。2001年12月の横浜アリーナ大会以降、CZW勢の撤退や、人気者、葛西純が去り、大日本も冬の時代をむかえていた。そこを地道に生き抜き、徐々に新世代が台頭。ここ1、2年は、完全復活といえるくらいのクオリティの高い試合を連発。最近では大きな団体でも苦戦する後楽園ホールを毎回満員にしているのだから凄い。その原動力となっているのがデスマッチドラゴン伊東竜二だ。

伊東は、ツラも良いしタッパもある、で、やたらと手が長い。その体を活かして(?)どんなとこからでもスプラッシュで飛んでいく。ビックリするくらい高いやぐらの上だろうと、下には相手選手だけでなく、蛍光灯、画鋲があろうと躊躇なし。金村キンタロー、BADBOY非道、アブドーラ小林、関本大介、佐々木貴、そして大日本に帰ってきた葛西純、さらには外人勢も、マッドマン・ポンドやネクロ・ブッチャーなどなど、対戦相手も増加中!!

そんな、一癖も二癖もある彼らと、蛍光灯、有刺鉄線、ファイヤーなどなど、自身で考案したデスマッチアイテムを駆使しながら、壮絶な試合を展開していく。蛍光灯300本デスマッチでは、最初から蛍光灯が並んでいるマットの上を、バリンバリン割りながらバンプ受けまくってる。でも、それが凄惨さにはならず、なんだか爽快なのが面白い。どんな凄いことやっても人柄っていうのは出るもんですね。

さあ、やっぱり、音楽もプロレスもライヴでしょ。キモの座った男達の、度胸と度胸の試し合いを、ぜひ生で体感すべし!


6月8日の「蛍光灯300本デスマッチ」を制した伊東の勇姿。

Inazuma K
◎『RAW LIFE』以降、体調激悪化。ただ今『LIFE FORCE』のミックスCDで体内浄化中!

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第2回

長州力が帰ってきた!!

長州が新日に戻ってきた。

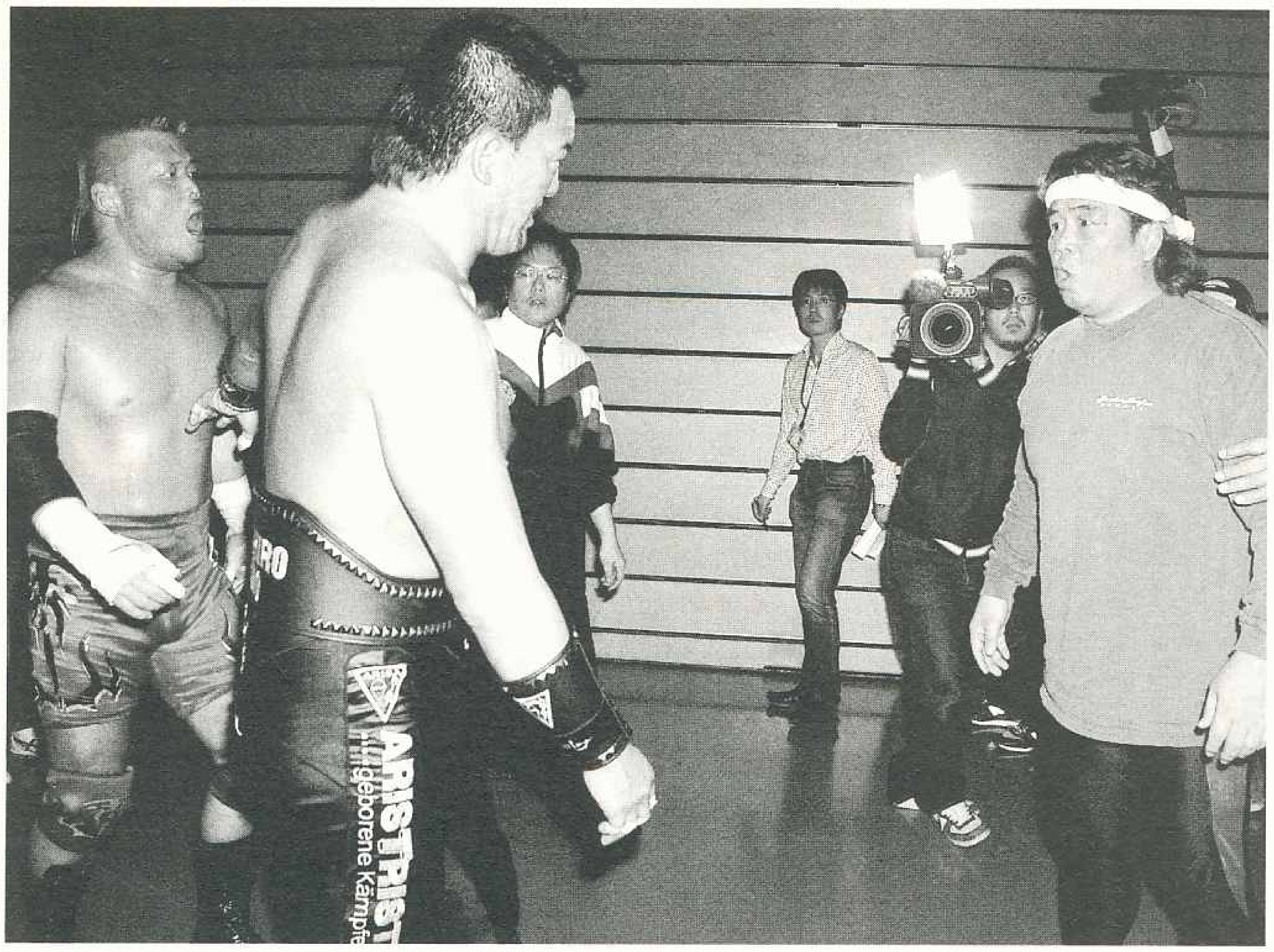
まさか長州が帰ってくるなんて思いもしなかった。「長州は帰ってこない、もう二度と会えない」と誰もが思っていたところに電撃的な復帰。まるで『ウソ800』飲んだかのようだ。「嬉しくない。これからまたずっと長州と一緒に暮らさない」という復帰に否定的な新日レスラーの発言も『ウソ800』飲んだとしたならその真意は逆であることになる。みんな長州が帰ってきて嬉しいんだね!

そんな話はさておき、その長州が現場監督に就任するや否や、強権を発動した。なんと現場責任者であった平田を突然解任したのである。つまり平田はリストラされたわけだ。現場責任者としての能力に問題ありとし、さらにはブラック・ストロングマシンとしての中途半端なファイトが引き金となったようだ。

これに対し平田は怒った。突然の解任だ、怒って当たり前だろう。しかし新聞の報道を見る限り、現場責任者解任よりもマスクマンの正体をばらされたことに関して激怒したようだ。

皆、「おいおい、そっちで怒るのか」と思い、平田の正体ばらしは新日本の伝統芸として定着していく予感を抱いたことだろう。

この、上野駅構内でワンカップ片手に些細なことから小競り合いをしている年配男性達のような騒動はこれで終わりではなかった。



長州は平田に続き、後藤もリストラしたのである。

後藤の怒りもまた半端ではなかった。「このままじゃ終わらないし、終わらせない」と捨て台詞を残し、乱入さえ辞さない態度を示したのだ。

こうしてリストラされてしまった二人だが、彼らに復帰のチャンスはあるのだろうか? 若手の壁として休憩前の試合でベテランならではのファイトを見せつける日々はまた戻ってくるのだろうか? 彼らの年齢や、新日本の現在の経営状況等を考えると、それは不可能ではないかと思われる。新日本の浮上と彼らの浮上は両立し得ないのだ、と。

だがここで奇跡が起きる。

浮上のきっかけを得たのはまず新日本の方だった。それは新日本の東京ドーム大会がギネス級の記録であるというニュースが発端だ。新日本が毎年恒例としている1月4日のドーム大会が来年15回目を迎えるという。どうやらそれが記録であるというのだ。

これをギネスに申請、そして認可されることにより、新日本の知名度が高まって人気回復につながり、浮上のきっかけとなるだろうと目論んでいるらしい。

これは同時に平田や後藤が再浮上するためのヒントともなった。二人がギネス級の記録を作ることにより、ギネスブックに載りたがっている新日本に貢献することになる。結果、両者が揃って浮上することになるのだ。

例えば、平田が爪を伸ばし続ける。何十センチというレベルではなく、何メートルというレベルにだ。または後藤がヒゲを伸ばし続ける。これもまた何メートルもだ。これらが世界記録となってギネスに載り、念願のギネスに新日本も大喜びというわけだ。

しかし、この作戦は少々時間がかかってしまうかもしれない。しかも後藤のヒゲはともかく、平田が爪を伸ばす理由はない。平田の爪に関するエピソードが何かあるならば話は別だが、そんな話聞いたこと無い。唐突過ぎる感は否めないだろう。

ならば違う記録に挑戦するしかない。平田の素潜り記録や後藤が円周率を10桁まで暗唱するなどが考えられる。また、平田や後藤くらいの体型のレスラーが電話ボックスの中に何人入れるかといった、みんなでワイワイ楽しめる記録でも良い。

もしくは自分の身体を張ったもの以外でも良いだろう。平田が長鳴きのニワトリを飼って記録を作るのも良いだろうし、二人で世界一長い流しそうめんをやるのも良いだろう。新日本の選手全員で力を合わせてドミノをやるのも良いかもしれない。せっかくドームを借りることでもあるし、ドミノにはうってつけだ。長州の前蹴りで最初のドミノを倒し、大成功すればいつの間にか新日本は一致団結しているはずだろう……。

とにかく手っ取り早いところで小林邦昭が新幹線の食堂車のメニューを全部食べたあたりのことを申請するのが良いのかもしれない、とまとめたところで終了。

補足のコーナー　仰天! 新日本が東京ドーム興行から撤退!



せき詩郎さん文中にある通り、「1月4日の東京ドーム興行のギネス記録申請中!」の新日本プロレスだが、突如「新日本が東京ドーム撤退!」という驚愕情報が入ってきた。『日刊スポーツ』11月8日号によると、サイモン社長が「観客動員の低迷状態が続けば、来年1月が最後になる」と衝撃コメント。来年、1月4日の興行を「ラストドーム」として行なう予定とか。……なんでもいいけど気になるのは「で、ギネスはどうなるの?」という単純で本質的な疑問だろう。(担当：真下)

Seki Shiro
◎単行本が出ますので、みなさんお買い求め頂けると嬉しいです。よろしくお願いします。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第2回

私だけが知っているハイアン&ヘンゾの男っぷり

時事通信やヤフーのトップトピックスで報道されて、ご存知の読者の方もいらっしゃると思いますが、今回はブラジルで誤って自分の左ヒザを銃で撃ってしまったハイアン・グレイシーのお話をしましょう。

事件が起きたのは10月23日。じつはこの事件が起きた1時間後にハイアンの兄であるヘンゾ・グレイシーと話をする機会があったんです。というのも、年末の『男祭り』にハイアンが出場するプランを進めていたので、ヘンゾとは連絡を取り合っていたんですね。

ヘンゾが事件を知ったのは、いつもヘンゾのセコンドにつく外科医の柔術家がいるんですけど、彼の病院にハイアンが運ばれてきたからなんですよ。銃弾が脚の動脈を貫通してしまって、そうとう出血していたので、もう少し病院に運び込まれが遅かったら命が危なかったと聞きました。

「時事通信で事件が報道された理由」

驚くことに、この事件が起こったのは、ちょうどブラジルで銃所持是非を問う国民選挙の当日だったんです。そんな日に銃の事件を起こせば、時事通信で報道されるわけですよね（笑）。

その選挙は、『PRIDE・30』のために来日していたブラジルの選手やセコンドたちのあいだでホットニュースだったんです。有名な話ですけど、ブラジルの一部の地域は本当に危険で、自分の身は自分で守るしかない。自己防衛のために銃を持つのは当たり前の感覚ではあるんですよね。セキュリティーがちゃんとしている高級住宅地でさえ、何が起こるかわからない世界ですから（ちなみに、昨年私たちが泊まったリオのホテルの隣の宝石店にも朝から強盗が入り警官と銃撃戦がありました）。

結局、その国民投票の結果、銃所持が認められることになったんですよね。もちろん登録者に限るという制限はあるんですけど、ハイアンの事件はブラジル国民に、「銃を持ってもいいけど、こういう事故もあるんで注意したほうがいいんじゃないか」といういい教訓になったかもしれないです（笑）。

冗談はともかく、先日NYに帰ってきたヘンゾと連絡を取り、ハイアンの手術は5時間近くかかったらしいですけど、選手生命にはまったく問題ないと聞いてほっとしました。

ハイアンは先月も警官と揉めたとか大袈裟に報道されましたけど、警官も逆にハイアンのファンで仲良くなって、実際はすぐ釈放だったんです。それはハイアンはカリスマ性があるというか、男っぽいところがあるからでしょう。じゃなかったら10ヵ所以上も道場を経営できないし、生徒だってついてこない。実際、面倒見もいいし、身体を張って弟子やファミリーを守るんですよ（彼の弟子たちも強い選手が多いです。ファビオ・レオポルドは総合2戦目で佐々木有生に勝ち、ガブリエル・ベラは初の総合で近藤有己に引き分け、エドワルド・パンプローナは初の総合で菊田選手に判定まで持ち込んだ）。

「ハイアンはどうしても許せないときだけ拳を握る」

そんなハイアンの有名なエピソードでいえば、一昨年の『男祭り』のときに、坂田亘選手との試合を右肩負傷で直前キャンセルしたのにもかかわらず、ホテルで某選手を左腕で殴った事件をありましたけど（笑）。

この件に関しては、昔からその某選手がもともとカーウソン・グレイシーの弟子にもかかわらず、グレイシーファミリーのことを良く言ってなかったことが伏線にあったんです。以前はダニエル・グレイシーとも揉めたこともあると聞いてました。ハイアンはただ暴れるわけじゃなくて、どうしても許せないときだけ拳を握るんですよ。あのときいろいろ尻拭いをしたボクからすると、本当にいい迷惑でしたけどね（笑）。

あと昨年の『武士道』で美濃輪選手との試合が決まった頃なんて、ヘンゾの道場の外で5人の若者がおばあさんをからかっていたのを見て、ハイアンが全員の相手をしたそうですから。

そのうえ、ちょうど柔術の世界チャンピオンだった某選手と喧嘩して、ブン殴ったうえに相手の車をボコボコにしちゃったんですよ（笑）。

よくよく事情を聞いたら、その某選手がハイアンの弟子がバイトしている駐車場に勝手に車を停めて、料金を払わなかったことが発端で。しかも、そいつは「俺はハイアンの弟子だ！」って傍若無人に振る舞ったそうなんですよ。相手が本物のハイアンの弟子とも知らずに（笑）。そこに弟子から連絡を受けたハイアンがすぐさま駆けつけて……もう大暴れしちゃったわけです。

しかし、その某選手は以前UFCのレフェリーから薦められて私も契約を持ってた選手で、それで某選手がそのレフェリーを通して日本に行「警察に訴えて日本に行けないようにしてやる！それがイヤなら俺とハイアンの試合をPRIDEで組め！」って脅しをかけてきたんですけど。それで困ってヘンゾに連絡をすると、ヘンゾは「俺に任せろ！すぐに解決するよ」と言ってくれて。すぐに某選手に電話を掛けて、「お前なんて、誰が日本で知ってるんだ!! もしも邪魔をするようなら……」と言ったら、相手は「僕はただPRIDEに出たいだけなんだ……」って泣いて謝ったみたいです。

ハイアンは力以外は信用しない男だから、そういうヘンゾだからこそ慕ってるんですよ。

「ハイアンのヘンゾ道場破り事件」

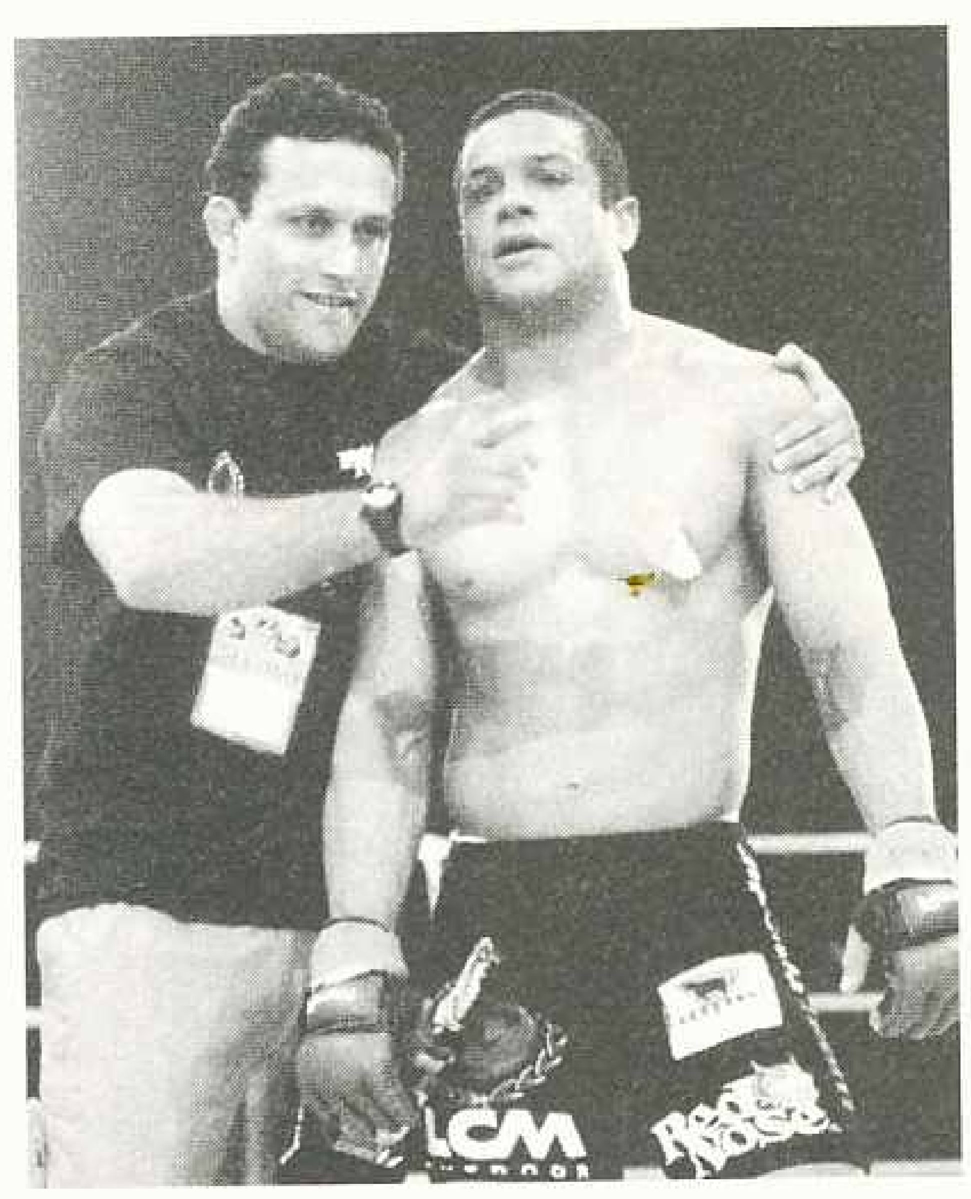
そうはいってもハイアンはあの性格だから、よくヘンゾと喧嘩をするんです。石沢（常光）選手との2回目の試合のことでも喧嘩したそうです。

あのときハイアンは試合前に右わき腹を怪我していたんですけど、試合中にそこを庇って逆に反対側のわき腹を痛めちゃったんです。そういう事情があっての負けだったんですが、怪我してようが何だろうが、あの負け方をヘンゾは許せなかった。なにしろヘンゾは桜庭選手との試合でヒジを脱臼しても痛い顔ひとつ見せず、試合後に「桜庭さん、あなたは日本のグレイシーです」と褒め称えるほどの男ですから。

でも、ハイアンはヘンゾにしかられたことに納得がいかなくて、なんとヘンゾの柔術セミナーに道場破りを仕掛けたんです！ セミナーがひと段落ついてヘンゾが休憩していたら、ハイアンがもうあからさまに「アニキ、喧嘩だ！」っていう顔で現われて。サブミッションの喧嘩マッチになったそうなんですけど、ヘンゾは「セミナーが終わったばかりでキツかったけど、ここだけは負けるわけにはいけない」ってことでなんとかハイアンから勝ちを奪ったそうですけど、それでもハイアンは納得ができなかったのか、もう一度挑んできたそうです（笑）。

でもまあ、喧嘩が終わったら、ハイアンがコップに水を汲んできて「アニキ、水でも飲めよ！」ってことで仲直り。よく喧嘩してるけど、ホント仲の良い兄弟なんですよ。

揉めごとは多いですけど、そこがまたファイターとしては魅力だと思います。ハイアンは本当に憎めない選手です。怪我が治ったらまた日本に呼びたいと思っていますが、ブッカーとしては、時事通信やヤフーのトップで報道された選手を『男祭り』に呼べないことが非常に残念なんですけどね（笑）。



Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

掟ポルシェの萌え萌え女々花



イラスト◎ゴローちゃん

さくらえみがプロデュースするいろんな意味で規格外な女子プロ団体・我闘姑嫁（がとうくーにゃん）。先月紹介した日本初の萌え萌え広報こと春日萌花のダメっ子ぶりも強烈すぎて、話を聞いてるだけで耳から血が出そうだったが、今月はさらに極北な存在・女子小学生プロレスラー（！）の3人が登場！　先日行なわれた板橋グリーンホールでの試合後、親が目を離した隙を狙ってササッと肉薄インタビュー！　究極の青田買いの全貌に迫る！

掟　（3人を見た途端目を血走らせ）かっわいいねぇ！　い、いや、他意はないですが……。じゃあ自己紹介をどうぞ！

あいか　あいかです。しょうがく6ねんせいです。とくいわざはじゃーまんです。

きのこ　きのこです。しょうがく5ねんせいです。とくいわざはきのこがため、きのこちょっぷです。

ひなた　ひなたです。しょうがく5ねんせいです。とくいわざはゆみやがためです。

掟　ボー・アンド・アロー！　猪木さんと同じだね！　今じゃダーッ！　のおじさんだと思われてるけど、猪木さんは強かったんだよ。今はね、ビンタ一発で10万円もらえるの（想像）。営業、だね。昔はボー・アンド・アロー一生懸命やって10万円。さぁ、どっちが得かな？

ひなた　びんた！

掟　ビンタだよねー。当然だねー。もうこうなっちゃったら新日の世話なんてバカバカしくてやってらんなくて、「どうせ潰すなら私に潰させてください」って真顔で言い切ったサイモンに面白半分で任せちゃうよねー。で、さっそくですが、皆さんはなんでプロレスを始めたんですか？

あいか　きかいたいそうをならってたんだけどー、そこでえみさんにぷろれすやってみない？っていわれて。

掟　えみさんって、○○○○？

きのこ　さくらえみさんだよ！（怒）。

掟　話題的に今が旬かなと思いまして……スンマセン。

あいか　あ、さいしょはー、うたをうたうとき、ばっくだんさーとしてやらないかってはなしだったんだけどー。

掟　ダマされたんですね！

あいか　あははは！　それがえすかれーとしちゃって、はい。

掟　随分過剰にエスカレートしましたねー。好きな食べ物は何ですか？

きのこ　（迷わず即答して）にく！

掟　肉！　やっぱステーキ最高だよね！　あのー、みんなはリベラ派？

きのこ　りべらってなに？

掟　プロレスラーはね、みんなリベラのステーキ食って強くなるんだよ。リベラ行かないレスラーはデンジャーステーキ派ね。全女出身選手とか外人はリベラ前で張ってれば大体捕まるよ。デンジャーステーキは、うーん、徳田とかポーゴが食いにくるんじゃない？（適当）。みんなも早くリベラやデンステ行けるようにがんばってね。

（3人揃って）はい。

掟　ところで、ヒョードルは誰が倒すと思いますか？

きのこ　？

ひなた　？

あいか　ひょーどるってなに？

掟　あー、難しい質問だったかな……。ヒョードルってなんだと思いますか？

ひなた　ひと？

掟　おっ、近い！　さて、ではヒョードルはどんな人ですか？

きのこ　（はりきった大声で）どいつじん！

掟　ドイツ人！　エアガイツだね！　エルガイツだと入江秀忠になっちゃうから気をつけようね。まぁ、ぶっちゃけて言うとヒョードルはPRIDEのチャンピオンなんだけど、誰なら勝てると思いますか？　3、2、1、ハイッ、答えをどうぞ！

あいか　あははは、おもしろーい。

掟　笑ってごまかされちゃったね……。そうだね、前田日明なら勝てるかもしれないね。前田にゴンタ顔でメンチ切られちゃったらヒョードルだって一発でションベンちびるからね！　前田最強！　じゃあ質問を変えます。前田日明とゾウが戦ったらどっちが強いと思いますか？

（3人揃って）　ぞう。

掟　いやいやいや、そこは前田だろ!!　昔前田はね、大山倍達先生に「キミねぇ〜、ゾウと闘いたまえ！　ゾウは強いよキミィ！」と言われて一瞬対戦を考えたそうだからね。並大抵のトンパチだったらそんなこと真に受けないからね、勝算はあったと俺は見ています！

（3人揃って呆れ顔で）　はぁ……。

掟　さくらえみさんとの試合では打撃ボコボコ入ってましたけど大丈夫ですか？

きのこ　（鎖骨の下あたりを見せて）ここ、ここ。まっかになっちゃいました。

あいか　うわー、これおふろはいったらしみるよ！

ひなた　しみるしみる！

掟　あまり打撃をもらいすぎると、たこ八郎みたいになっちゃうので気をつけて下さいね。

きのこ　えへへへへ、……あっ、はなみずでちゃった！

掟　誰かティッシュくださーい！　激しい試合の影響がこんなところにも出てます！　では最後にそれぞれ自己アピールをお願いします！

あいか　だれにもまけたくない！

掟　おっ、最強宣言！　打倒ヒョードルの日も遠くはないですね！　はい、きのこちゃんは？

きのこ　えー、じぶんのあぴーる？　ないね、そんなかんたんにいわれても。

掟　ごもっともです！　ではひなたちゃん。

ひなた　なかないようにする！

掟　小学生らしいナイスな回答！　た、たまりません！



（右）ひなたちゃん／1994年9月17日生まれ。O型。埼玉県出身。143cm、33kg。デビュー戦は2005年8月7日　北沢タウンホールのさくらえみ＆春日萌花戦（パートナーはひなた＆きのこ）。得意技は弓矢固め。最近、料理にハマり中。（中）きのこちゃん／1994年10月29日生まれ。B型。埼玉県出身。133cm、26kg。デビュー戦はひなたちゃんと同上。キノコ固め。最近、ハマってるお菓子はチョコベビー。（左）あいかちゃん／1993年5月31日生まれ。B型。埼玉県出身。143cm、34kg。デビュー戦はひなたちゃんと同上。得意技はジャーマンスープレックス。修学旅行では「ぶっちゃけ話」で盛り上がったとのこと。



ただの小学生と思って、あなどるなかれ！　難易度D級！　ドラゲートップ選手並みの超スピード空中殺法やプロレスセンスは抜群！　指導者の元川は小学生とは思えぬ、強烈なチョップ攻撃に会場に集まった萌え萌え男子をビビってたじろがせるド迫力ぶり！　HG、元彌、インリンの次は小学生で萌え萌え〜。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）ロマンポルシェ。ライブ情報！　12・16（金・深夜）@京都MOJO WEST（075−706−8869）、12・22（木・祝前日・深夜）@代官山UNIT（03−3464−1012）。その他諸々の出演情報などは掟ポルシェBLOGをご参

日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスのウワサを追いかける

アメプロ★ウワサル〜ン

vol.2

サルーン！（スペイン語で「乾杯！」の意味）。今月も日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスを語るコーナーが始まりました。テキーラ片手にアメリカンプロレスのウワサ話を肴にあれやこれやと雑談を繰り広げます！『RAW』の放送がUSAネットワークに移って、本格的に仕切り直しをした途端、またもいろんな出来事が発生している模様です！

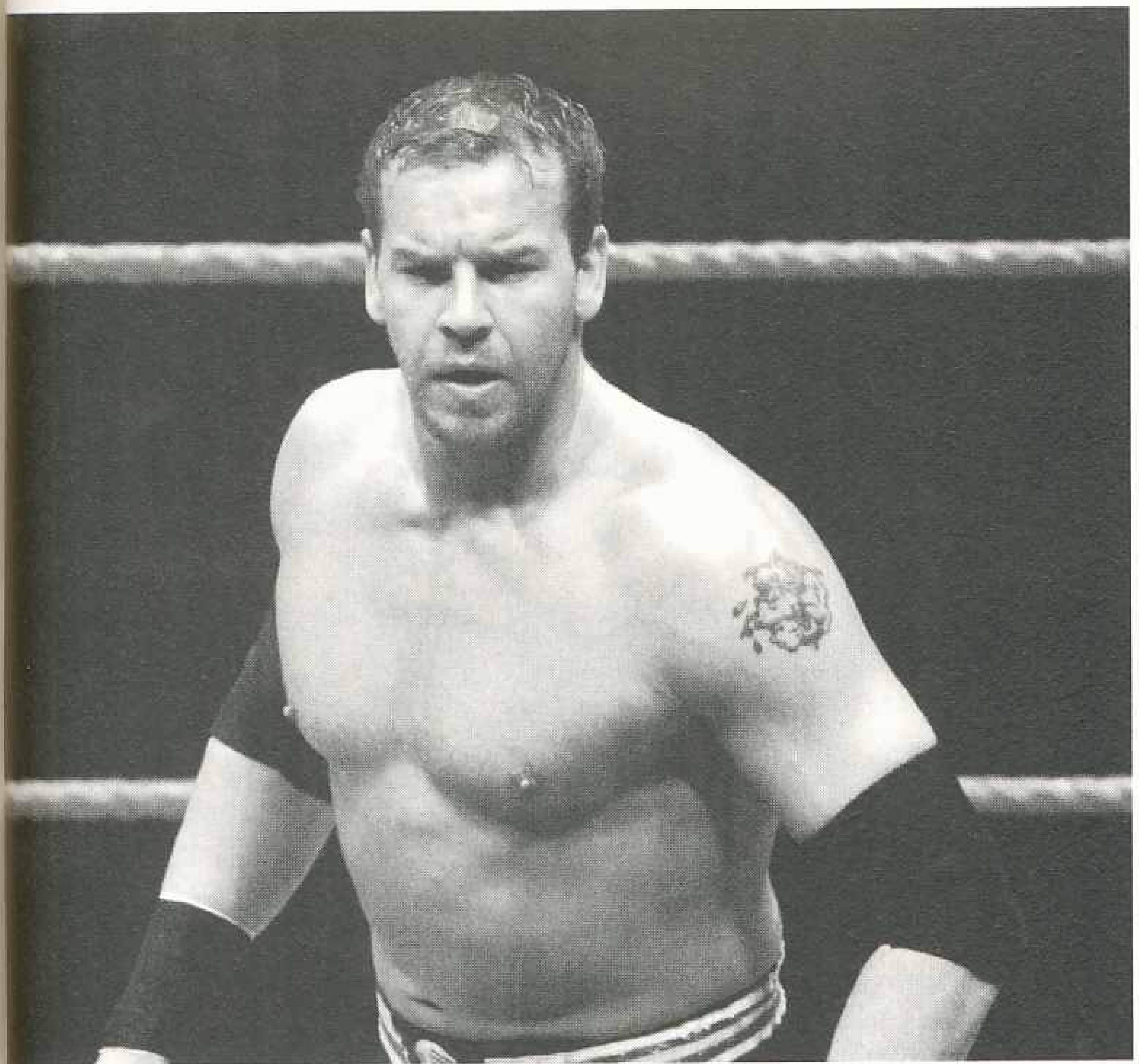
ホセ
口は悪いがプロレス魂を持つ熱い男。広い情報網を持ち、行動力もある。

ミゲル
プロレス業界内部と太いパイプがあるクールな男。最新情報をいちはやく握る。

パンチョ
他の二人の情報に「へぇ〜」とか「はぁ〜」とか言ってることが多い。



イラスト◎エロコエロオ　写真◎George Napolitano



経済的な余裕もあり自らの意志でWWEを離れる決意をしたクリスチャン

ストーンコールドがまた欠場した真相！

パンチョ　今月もWWEを退団した選手が出たみたいですね。

ホセ　ここ最近、そんな話ばっかりだな。でも、クリスチャンの離脱には本当に驚いたよ。辞めそうな気配がまったくなかったけど、契約を更改しなかったということだ。TNAに上がるんじゃないかと言われてるぞ。

パンチョ　一部スポーツ紙では「トーリー（・ウィルソン）退団」って大きく報じられてましたね。

ホセ　PPV『TABOO TUESDAY』をいきなり出場メンバーから外れたんで憶測が憶測を呼んだみたいだけど。

ミゲル　「家庭の事情だった」って、本人のコメントがWWEのHPに載ってたから大丈夫なんじゃないか？

パンチョ　ストーンコールドも退団騒動になってますよね？

ミゲル　「またか？」って感じだけどね。『TABOO TUESDAY』には姿を現わさなかった。

ホセ　WWEとしては「引っ越しをしてるときにタンスを担いで背中を痛めた」という見解を出しているらしいが……ちょっと冷静に考えてみろ。あんな世界的なスーパースターが、自分の引っ越しでタンス担ぐか？（笑）。

パンチョ　あり得ない！（笑）。

ミゲル　まあ、普通は業者に頼むよね。いくらプロレスラーが力持ちでも（笑）。

ホセ　一部ではシナリオライターに難癖をつけて辞めたんじゃないかという説もあるな。

パンチョ　ストーンコールドの伝家の宝刀となりつつありますね。

ミゲル　最近のWWEは昔の選手が続々と戻ってきてるよね。ベイダー、カマラ、ハクソー・ジム・ドゥガン、ジミー・スヌーカ……。

パンチョ　ここにきて突然のリバイバル路線ですね。

ホセ　なぜか〝故郷〟と銘打って東京ドーム大会を開催する新日本とWWEが不思議なシンクロをしてるんだよ。新日本が東京ドームで大苦戦した10月、WWEも『SMACKDOWN』のPPV『NO MERCY』があったんだ。会場にも9000人しか入らなかったようだ。

パンチョ　それってけっこう、多いんじゃないですか？

ホセ　とんでもない！　普通、PPVイベントなら1万8000〜2万人は動員してるからな。

ミゲル　……2月の『SMACKDOWN』日本ツアーも不安だな。バティスタもケガで3ヵ月欠場するっていうし、大丈夫かな。

ホセ　なぜか2月4日と5日の2日開催になってたろ？　チケット発売前から追加公演を発表する意図がわからん！　まともな日本戦略を何も考えてないってことはよくわかったけど。

ミゲル　こないだWWEのHPにある日本公演のページを見ようと思ってクリックしたら、どこか他の国の海外公演のページに飛んじゃったんだよ。たぶんリンクの貼り間違いだけど（笑）。どこの国か知らないけど、観客席がガラガラなのがモロにわかる写真ばっかりなんだよ。

パンチョ　世界的に苦戦してるんですね。

ホセ　やっぱり、ちゃんとスーパースターを生み出していないのが原因だろう。ジョン・シナもいまやどの会場でもマイクを握るたびにブーイングが出てるって話だから。本人はベビーフェイスのつもりでも、観客が認めていないんだよ。まあ、そんな状況なんだけど来年の『WRESTLE MANIA』のチケットは5分で完売したんだ。ただ、例年より会場は小さいらしいけどな。



JRの実況降板は親友であるストーンコールドの欠場にも影響を与えているとか。

ミゲル　とにかく日本の場合は放送環境をいま以上に充実させないと。地上波でやってない状況だから広がりようがない。「ぷらら」がWWEのビデオ・オン・デマンドを始めるから、少しずつはよくなってるけど。ネットを経由してテレビで見る「4th MEDIA」でやるみたい。

ホセ　ソフトがすごく充実してるからオレはぜひ見たい！

ミゲル　あ、そうだ。ユークスが撤退してストップしていた日本語版DVDの発売が年明けから仕切り直しで再開するぞ。発売は●●●らしいが。

パンチョ　おお、これは久々に明るいニュースです！

WWEが某老舗団体とシンクロし始めた!?

ホセ　97年のブレット・ハートvsショーン・マイケルズでレフェリーを務めたアール・ヘブナーが「スクリュー・ジョブを語る」というトークショーをオールドタイマーがたくさん出るイベントでやるみたいだな。

ミゲル　その3日前にはWWEのHPのネット中継にブレット・ハートが登場するんでしょ？

パンチョ　おお、ついにWWEとブレットが完全和解ですか!?

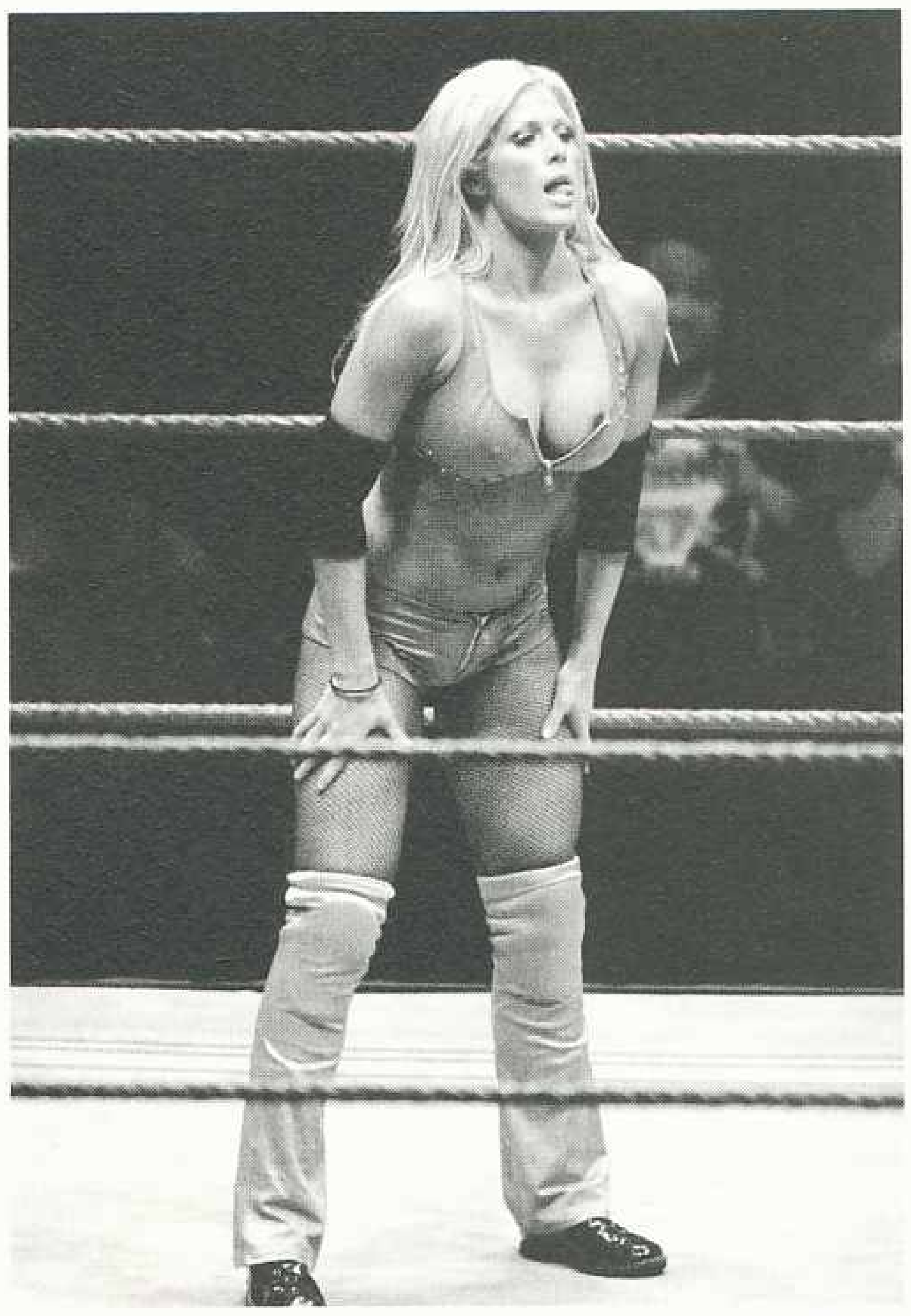
ホセ　慌てるな、ボケ！　その翌日にブレットのDVDが発売になるから、そのプロモーションだろうと言われてる。

パンチョ　な～んだ。

ホセ　いま、WWEからヘブナー一家が完全に消えたんだよ。アールの息子のブライアン・ヘブナーはバックステージでトランプに精を出しすぎて、エージェントのジョニー・エースに叱られてクビになったんだ。

パンチョ　そんな!?　APA時代のブラッドショーなんて毎日ポーカーやってたじゃないですか？

ホセ　あれはストーリーだよ！　現場に緊張感を持ち込もうという意図なんだろうけど、要するに、いまのジョニー・エースは、新日本プロレスにおける長州力的な存在なんだ。ここでもWWEと新日本は不思議なシンクロをしてるわけだよ。



オーストラリアツアーからアメリカに緊急帰国したトーリー。

パンチョ　要するに最近、WWE離脱者が多いのは「柱一本だけ残ってりゃいい」ということなんですね（笑）。

ホセ　そういうことだよ。エースは「バックステージではレスリングやプロモのミーティングをしっかりと持つべし！」という方針なんだ。最近では締め付けが厳しくなって、PSPみたいな携帯ゲーム機すらバックステージ持ち込み禁止になったし、大きなテレビでPS2のプロレスゲームをやるという余興も廃止されたみたいだな。規律が厳しくなって不満を募らせてる選手は多いと聞いてるぞ。

パンチョ　ドレスコード（服装の規律）が厳しくなったのはかなり前の話ですけど相変わらずなんですかね？

ホセ　いや、最近はさらに厳しいみたいだ。ジリアンって顔に大きな異物があるという設定のディーバが『SMACKDOWN』にいるんだけど、「プライベートでもそのままの姿でいるように」という指令が出たらしい。

ミゲル　……映像や写真を見たことある人ならわかると思うけど、けっこうムチャな注文だよな。

ホセ　アメリカのファンも「そりゃないぜ！」ってネット上で騒いでたぜ。それに関しちゃオレも同感だ。あとユージーンもドレスコードを解除するから、いつもあのスタジャンを着てろという指示が出たらしい。そこまでする必要があるのかどうか。

パンチョ　そこまでリアリティを突き詰めて、なにをやろうとしてるんですかね？

ホセ　「昔と一緒ですよ」ってことなんじゃないの？　やるか、やらないかだけですよ。

ミゲル　「何がやりたいんだ、コラ！」と言われないようにしてほしいけどね。

【05年11月某日／静岡県某所にて収録】

ホセPRESENT'S

はみだし情報局

ランディ、おめでとう!

ランディ・オートンが一部のマスコミに最近婚約したことを明かした。お相手のお名前はサマンサさん。やっぱりステイシーとの交際はアングルだった!?

シェーン・ダグラス派の第二回興行結果

11/5にフィラデルフィアで行なわれた第二回“ハードコアホームカミング”は、マット・ハイソン（元スパイク・ダッドリー）がCWアンダーソンに勝利。チーム3-Dはサブゥ&テリー・ファンク組に勝利。メインはジェリー・リンとジャスティン・クレディブルなどで大盛り上がりだったとのこと。

『SMACK　DOWN』の厳しい現状

観客数がかなり寒いだの、極めて低調だの言われている『SMACK　DOWN』だが、PPV『NO MERCY』の購買件数も、19万5000件とかなり低調だったという。本当に大丈夫なのか?

ハウスショーにファンが乱入!

カリフォルニア州ベーカーズフィールドで行なわれたスマックダウンハウスショーのメイン戦、バティスタ対エディ・ゲレロ対ランディの3ウェイ世界王座戦に、観客席からマスクを着けたファンが乱入した。エージェントらがリング上のファンを捕まえ、警察に引き渡し事なきを得た。地元のセキュリティは、ショーの一部だと勘違いし止めなかった模様。

スクール・オブ・ロックならぬ……

元WWEのシャノン・モーアがノースカロライナ州キャメロンでレスリング学校を開校させたとのこと。学校の名前は、スクール・オブ・パンク!パンク好きのシャノンらしい学校名だ!

あの男、銭ゲバにつき

PPV『TABOO TUESDAY』の実況席に着いたECWの名実況ジョーイ・スタイルズ。今後数週間ロウの実況を担当することになった。だが、これは完全にJRと交代するのではなく、あくまでも代役。言わばパートタイム雇用。なぜならジョーイ・スタイルズは『ONE NIGHT STAND』前もそうだったように交渉が一筋縄ではいかないガンコ者。金の話になると「オーマイ、ガーッ!」と雇用する側が叫びたくなるほどの仰天要求をしてくるという。

※読者プレゼントの応募方法はP154参照

Dimension 0
King of card game



練習終了後、子供たちと五味選手によるカードゲーム『ディメンション・ゼロ』（ブロッコリー）の対戦がスタート。勘のいい子どもたちには五味選手もたじたじ。

五味選手が木口道場の子どもたちに熱血コーチ！子どもたちはカードゲームを逆コーチ！

9月25日、『武士道・其の九』ライト級トーナメントを一、二回戦と勝ち抜いた五味隆典。歴史に残る大激闘をPRIDEに刻んだ男が、つかの間の休暇をはさんで、練習を再開！

その視線を大晦日の決勝戦（vs桜井"マッハ"速人）へと定めた。そんな最中、五味隆典選手の練習のベースキャンプとも言える、木口道場に現われ、少年レスリング部の子供たちにコーチング！　カードゲーム世代のチビッコたちとの交流をキャッチした。

五味隆典をはじめ、桜井"マッハ"速人、須藤元気、そして山本"KID"徳郁といった中軽量級のスーパースターたちを指導した名伯楽、木口宣昭氏。今回はその木口氏率いるアマレス名門道場、木口道場におじゃました。

木口道場では、毎週日曜日の午前に、未就学児と小学生を対象にした少年レスリングの部が開かれる。この日は、少年の部に五味選手が姿を現わし、コーチングを行なう日だ。

バイクに乗って颯爽と登場した五味選手。元気いっぱいのこどもたちが基礎練習をこなす輪の中で、体調を確かめるように木口先生と熱の入ったスパーリングを披露。ときに少年たちに目を走らせ、「もっと声だしてけ～！」と優しく声をかけ、黙々とアップする。

五味選手がキックミットを蹴りはじめるころ、子どもたちはコーチたちとスパーリングを開始。とくに小学生男子を中心としたスパーリングは大人のコーチによる厳しい指導と、懸命に食らいつく生徒という構図。この厳しさと愛情を備えた指導方法に、木口道場の強さの秘密をかいま見た思いだ。

そして五味選手によるコーチングでは、タックルの基本的な動きを理論的に解説、子どもたちも、その言葉に熱心に耳を傾けていた。

練習が終了し、五味選手がイメージキャラクターを務めるカードゲーム『ディメンション・ゼロ』を取り出すと、あっと言う間に子どもたちの輪ができた。カードを見ただけで、ゲームシステムを言い当てるカードゲーム直撃世代の子どもたちに、一転して五味選手はたじたじの様子。

道場のシート上ではじまったゲームでは子どもたちに逆コーチされる微笑ましい場面も。その一瞬、大晦日の『男祭り』の大一番に向かって走り出したスーパースターの顔に笑顔がこぼれた。


五味コーチによる特別コーチが実現！　タックルの入り方の基本を実践的に、理論的に解説していた。



すっかり『ディメンション・ゼロ』を気に入ったカードゲーム直撃世代の木口道場の子どもたちと、圧倒されまくりの五味選手。

新世代カードゲーム『ディメンション・ゼロ』の「東スポ」主催大会が実現！

五味隆典選手がイメージキャラを務める"知的総合格闘技"であり、かつてない真剣勝負（ガチンコバトル）をうたう、新世代の本格派カードゲーム『ディメンション・ゼロ』。

碁や将棋のように「プロ契約」や「高額な賞金制度」が準備されていたり、本製品発売前に先行発売となった第1弾ストラクチャーデッキ（ゲームに必要なカードやルールブック、マットなどがひとつになったセット）の売り切れ店が続出したり、カードゲームの常識を超えた、豊富な話題性で各方面から注目を浴びている。

この『ディメンション・ゼロ』に、格闘技ならおまかせ！　のスポーツ新聞界の老舗中の老舗、東京スポーツ新聞社がガッチリとタッグを組んだ、1DAYトーナメント開催が緊急決定！　東京スポーツはもちろんのこと、中京スポーツ、大阪スポーツ、そして九州スポーツの四紙の合同による大規模な1DAYトーナメントが実施されるのだ。

大会は2本先取の3本勝負で行なわれ、各地区の激戦を勝ち上がった優勝者は代表として大晦日に東京にご招待。そこで決勝が開催される段取りだ。

カードゲームの優勝者へは年末にふさわしいスペシャルな特典も用意されているとか。カードゲームトーナメントの概念を超えた、この『ディメンション・ゼロ　東スポグランプリ』。各地の腕自慢のカードゲーム選手たちよ、1DAYトーナメントに出てこいや～！



「Dimension0 ビフォア・センチュリー ストラクチャーデッキ2 ～0次元の胎動～」

【税込価格】1,000円【デッキ内容】カード40枚、プレリリースルールブック、プレイマット【カード種類数】全20種（各デッキの中身は同じです）【内容】「青の大陸」のカードと「緑の大陸」のカードをそれぞれ20枚ずつ含めた、構築済デッキです。

『ディメンション・ゼロ　東スポグランプリ』情報

「1DAYトーナメント」実施店

12月10日　ゲーマーズ名古屋店（中京スポーツ地区）
12月11日　カードキングダム練馬春日店（東京スポーツ地区）
イエローサブマリン博多店（九州スポーツ地区）

※大阪スポーツ地区は『ディメンション・ゼロ大阪選手権』にて優勝者が決定されます
※東スポグランプリではプロ賞金は発生しません

大会の詳細、参加要項は『ディメンション・ゼロ』ホームページで近日発表!
http://dimension-zero.com/

[問い合わせ]
株式会社 ブロッコリー内DPA　担当：上田
TEL 03-5946-2831
MAIL support@dimension-zero.com

"CXの火薬庫"
フジテレビ

佐藤大輔、吠える!

PRIDE番組ディレクター

「大晦日は今年も『PRIDE』が勝ちます!!」





超ド級のカードが次々と発表され、早くも加熱する大晦日格闘技戦争。この闘いは、TBSとフジテレビの視聴率戦争でもあるわけだが、視聴率といえば曙やボビーなど"飛び道具"を駆使するTBS優勢といった見方がこれまで強かった。そして3度目の対決となる今年、フジテレビはこの視聴率戦争をどう捉えているのか?　試合前の煽りビデオ制作者であり、「『Dynamite!!』と『PRIDE』はジャンルが違う!」といった過激発言でも知られるフジテレビ佐藤大輔ディレクターに、大晦日の展望をうかがってみた。

聞き手／堀江ガンツ　designed by hisa (Two Three)

去年もTBSに負けたとは思ってません。今年は瞬間最高視聴率を狙っています!

——いよいよ今年も大晦日格闘技大戦の季節がやってきたということで、今日は『Dynamite!!』と『PRIDE』は「ジャンルが違う」発言でおなじみ、フジテレビ佐藤大輔ディレクターにお話をうかがいたいと思います(笑)。

佐藤 よろしくお願いします(笑)。

——早速ですがTBSのほうは早くも『Dynamite!!』に向けて動き出したという感じがしますが。

佐藤 早くもジャンル違いの動きを始めてるみたいですね(笑)。

——ダハハハ! でも『男祭り』を煽る側である佐藤さんとしては、そのへん焦ったりとかはしてないですか?

佐藤 焦ったりはないですね。なんて言うか、いつも大晦日って視聴率の勝負として見られるじゃないですか。6ch vs 8ch、『K—1』vs『PRIDE』の勝負って感じで。でも、その二つは勝負してる土壌が始めから違うんですよね。

——ほう、土壌が違う?

佐藤 だってフジが6時間放送、TBSが2時間半放送だっていったら勝負しようがないじゃないですか。あちらも6時間放送すると言ったら、話は違いますけど。

——6時間と2時間半とでは視聴率の意味合いも全然違うでしょうからね。

佐藤 それを言うと「フジは逃げてる」なんて言われるかもしれないんですけど、そもそも土壌が違う。じゃあ僕らが2時間半、21時から放送して視聴率で勝てるかっていうと、それはやってみないとわからないんですけどね。で、これは非常に内向きで社内的な視点ですけど、格闘技をやる前ってフジテレビで大晦日に視聴率二桁いった番組がほとんどなかったんですよ、歴史的に。



去年の『男祭り』発表記者会見に選手とともに出席した佐藤ディレクターは、「『Dynamite!!』とはジャンルの違いすら感じる」「番組のクオリティはすでにフジテレビの圧勝だと思ってます」と、DSE榊原代表ばりの過激発言を連発! 今年の会見ではどんな爆弾発言が飛び出すか、期待してます!

——あ、そうなんですか。

佐藤 たとえば第1回『男祭り』の2年前は21時から23時が3・5%でした。

——たったそれだけ(笑)。

佐藤 だから6時間放送して、あれだけの視聴率を稼ぐっていうのは、十分満足できる数字というか、社内的にヒジョ〜〜に評価が高いんですよ。

——ファンは単純に『Dynamite!!』と数字の比較をしますけど、テレビ局の評価の仕方は違うと。

佐藤 実際はDSEに対しても、いい仕事をしていただいているという高い評価ですね。

——そもそも、どうして大晦日に6時間も『PRIDE』を放送しようとなったんでしょうか?

佐藤 せっかくやるんなら格闘技を全面的にやろうよと盛り上がったんですよ。テレビって、だいたい「この時期はこれとこれを放送しよう」って決まってるじゃないですか。でもその中で大晦日の番組だけはやや苦戦していた。そこでTBSの成功例を見て、「じゃ、これでいこう」という感じになったんだと思いますよ。

——しかも、格闘技の放送はフジが開拓していったものですもんね。

佐藤 だから、最初にTBSが大晦日に格闘技をやるって知ったときは逆に嬉しかったですね。しかも16%っていう凄い視聴率が出て。僕らがずーっとやってきたことが世間というフィルターを通しても成功してたんだなと思いましたし、これは僕らの勝

“CXの火薬庫”佐藤大輔、吠える!
「大晦日は今年も『PRIDE』が勝ちます!!」

利でもあるなって。僕らのライバルって、じつはTBSや『Dynamite!!』、『HERO'S』もそうですけど、社内のドラマだったりとか、バラエティだったりするんですよ。それらを押しのけていかに格闘技が素晴らしいか、視聴率が取れるかをアピールすることが大事なんで。そういう意味では凄く嬉しかったです。

——社内でプレゼンするときにも「TBSでこんだけ数字取ったんですよ!」って言ったら説得力ありますもんね。

佐藤 そうです。しかも「それは僕らがやってきたことですよ」って言えますもん。だから今年は〝ジャンル違い〟のことをウチもやるかもしれないですしね。

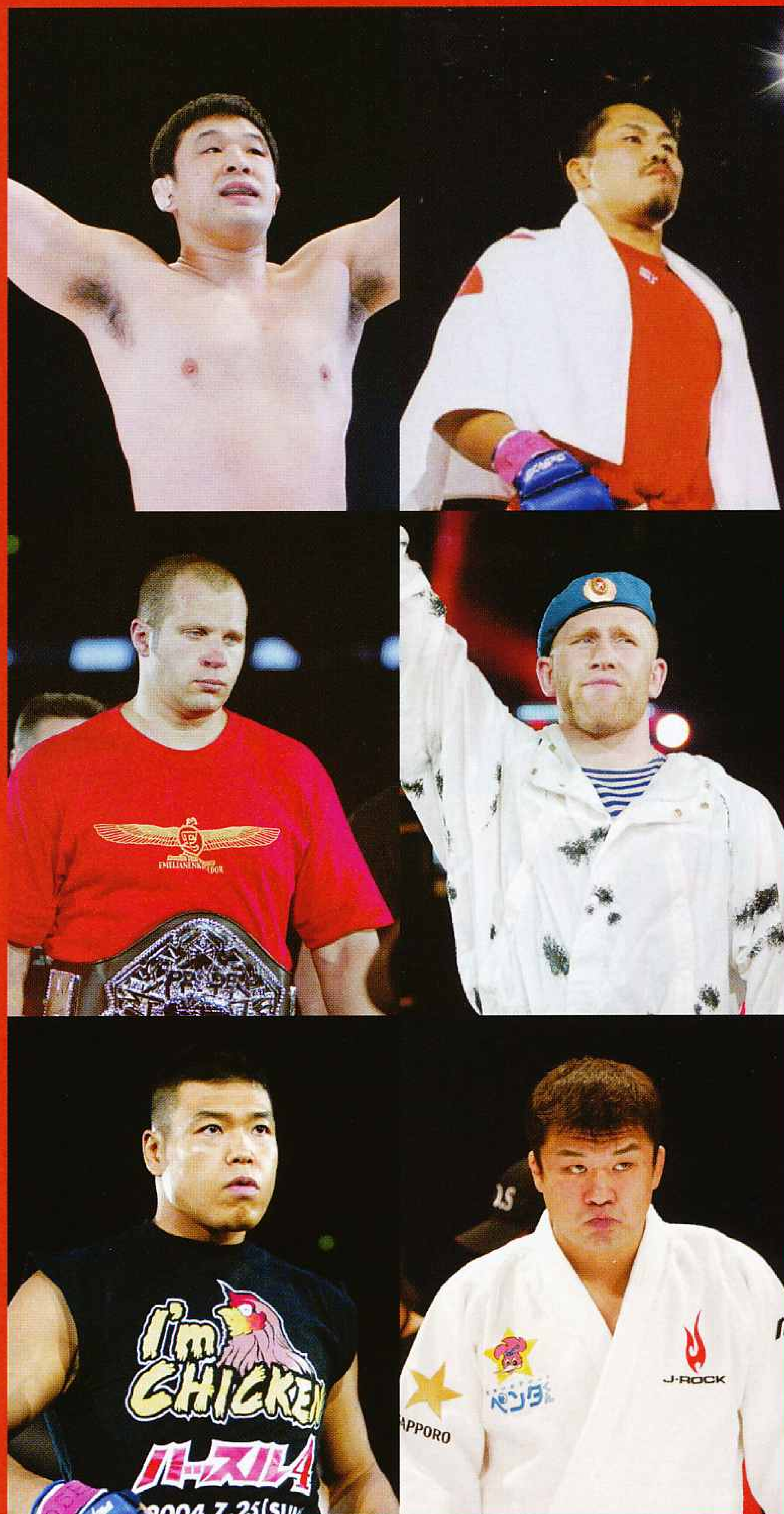
——え! でも、それって佐藤さん的にもフジテレビ的にもいままではNGだったわけじゃないですか。それは柔軟的になってきたってことですか?

佐藤 なんて言うんですかねぇ。要はバラエティの豊かさだと思うんですよ。で、『PRIDE』ってやっぱり凄いことやってるのに、一般視聴者には入りづらい部分があるじゃないですか。だから『PRIDE』のベースは崩さずに、面白いことをやっていけたらなとは思ってますね。でも、HGを『PRIDE』のリングに上げるとかじゃないですよ(笑)。

——じゃあ、『PRIDE』の世界を崩さずにボーナストラック的なものも入る可能性はあるということなんですね。

佐藤 〝真剣勝負の世界選手権〟的な価値観が逆に際立つようなカードが入ってくる可能性はありますね。「すげーな、やっぱここは」と思われるような。

――スイカに塩をかけるみたいな（笑）。
佐藤　うまい！
――でも、ファンからは「なんだ『PRIDE』もK―1と同じことやっちゃうんだ」という声が絶対に出てくるじゃないですか。それって『PRIDE』のイメージを崩しかねないと思うんですけど。
佐藤　う〜ん。でもファンはいろんなものを欲してるんだと思いますけどね。だって美濃輪育久選手とかギリギリでしょ（笑）。
――たしかに、「競技」という言葉の真逆にいる人ではありますね（笑）。
佐藤　でも、同じ「競技と真逆」でも、美濃輪選手の試合と曙vsボビーじゃ全然意味合いが違うじゃないですか。要はそういうことだと思うんですよ。そういう虚実ごちゃまぜみたいなイメージ作りはダメなんですよね。ミルコvsヒョードルにしてもそうですよね。ミルコに寄せて寄せて作り込んで、それなのにミルコが負けてしまうから心が「リアル」で動くわけじゃないですか。
――だからもし規格外の人が出てきたとしても、怖いぐらいリアルなものを作るだろうということですか。
佐藤　まあ、そういう人が出てきたとしても僕らが作るんだったら「コイツは本気で出てきたんだ」と思ってもらえるようなものにしますよ。〝コア〟とか〝マス〟って言い方はあんまりしたくないですけど、僕が思ってるような世界を実現するなら絶対にコアなファンが喜ぶような「これは見とかなきゃいけない」っていうようなのは、少なくとも5カードぐらいは必要ですよね。
――そのあたり、榊原代表は「今年はTBSに勝ちたいと思います」って高らかと宣言してましたけど。
佐藤　きっと勝算があるんでしょうね。
――あ、もしかしてすでに何か聞いてるんですか？
佐藤　まあ、そうですね。でも本当に何をもって勝ちなのか正直わかんないんですよ。僕たちは6時間なんで、三部構成という形でやってますから。『Dynamite!!』とかち合わない「一部」で瞬間最高を取ったら勝ちなのか、それともあくまで同時間帯で勝負するのかで違ってきますから。だから瞬間視聴率でNHKとTBSに勝つっていうのが一番わかりやすいんじゃないですかね。そこを狙ってる気がします。
――そうすると狙い目として、NHKがニュース、TBSがCMに入りそうな20時45分から21時までの時間に目玉カードが来るかもしれない（笑）。
佐藤　たとえば20時45分で誰か〝サプライズ〟が入場してきました。で、21時5分に番組視聴率トップにきたらそれは勝ったことになるんですかねぇ？
――ダハハハハ！　それはいいですね（笑）。
佐藤　勝ち負けってそういうよくわからないものですから、去年TBSに負けたという心境もまったくないんですよ。まぁ、なんだかんだで今回は3年目ですからうまくやりますよ。
――単に試合を流すだけじゃなく、何かテレビ的な仕掛けがあったりするんですか？
佐藤　いや、基本的にこちらが何かやろうって考えはあまりないですね。
――たとえば『PRIDE』ならではの選手のドラマ部分をもっと強めるっていう方向性はないんですか？



『kamipro』ケータイサイトユーザーが選ぶ、「『男祭り』で見たいカード」は、奇しくも同じような意味合いを持つ超因縁の3カードが並んだ。桜庭と田村はUインター、ヒョードルとハリトーノフはRTT、小川vs吉田は明大柔道部とすべて、同門の先輩後輩ながら、いまは袂を分かった宿命の関係。この究極のSADAMEカードは果たして実現するのか？

あなたが『男祭り』で見たいカードは？

※10月27日〜11月5日まで『紙プロHand』にて収録

1位	桜庭和志 vs 田村潔司	38票
2位	ヒョードル vs ハリトーノフ	21票
3位	吉田秀彦 vs 小川直也	19票
4位	ミルコ vs ハリトーノフ	18票
5位	永田裕志 vs ハリトーノフ	14票
6位	ミルコvs ハント	12票
	シウバ vs アローナ	12票
8位	ノゲイラ vs ファブリシオ	10票
9位	ヒョードル vs 吉田秀彦	8票
10位	ノゲイラ vs ミルコ	7票

『紙プロHand』ユーザーが選んだ『男祭り』で見たいカードは、“3度目の正直” 桜庭vs田村がブッチギリの1位。今年こそ実現してほしい！　吉田vs小川は3位に甘んじたが、これはファンが実現性に乏しいとの判断で投票しなかっただけで、潜在的なニーズは桜庭vs田村以上のものがありそうだ。それにしても、この錚々たるメンバーの中に登場する永田さんの大晦日人気はやっぱり凄い。

佐藤　それはひとつの案としてありますね。それを作れるだけのノウハウはあるし、凄いビッグマッチが出たらやるかもしれないですよ。たとえば、彼と彼の10年間とかいう感じで。

――二人の人生をプレイバックするVTRとかですよね。

佐藤　そのためにも、やっぱりDSEさんにそういうカードを組んでいただかないと。

――逆に、フジテレビ側から「こういうのをお願いします！」っていう提案はしたりするんですか？

佐藤　それはもう細かく相談させていただいてます。たとえば去年の話でしか言えないですけど、去年はとにかくノゲイラvsヒョードルを必ず実現させてくださいっていうことですよね。それは話し合いました。あとは金メダリストの瀧本誠選手。最初、DSEさんは「出るかもしれない」ということだったんですけど、そこを「出してください」と。それがテレビ局側の要求だったことは間違いないんじゃないですかね。

――じゃあ、今年もそんなサプライズを要求しているわけですね。

佐藤　そうですね、細かく細かく。美濃輪選手を出してくださいとか（笑）。

――やっぱり美濃輪選手は大晦日向きですか（笑）。

佐藤　あとは去年で言うとジャイアント・シルバみたいなおっきい選手とか。でも、どうなんだろう。シルバって。



9・25『武士道』のリングで揃った五味、マッハ、元気。これにKIDを加えた4人はいずれも木口道場と関係がある兄弟弟子のようなもの。このような関係から、五味vsマッハ、KIDvs元気は相互作用で、どちらの試合も盛り上がりそう。この大注目の舞台で誰が一番輝くのか？　それが、隠れたもうひとつの勝負だと言えるだろう。

視聴者には五味vsマッハ、KIDvs元気両方を見てもらって、誰が一番強いのか、みなさんに判断してもらいたいですね

――シルバの瞬間視聴率が良かったらしいですけど、たまたまのような気もするんですよね。

佐藤　僕もたまたまだと思います（笑）。

――シルバみたいなモンスターは、TBSでいくらでも見れますからね。佐藤さんから見て、『Dynamite!!』、『K―1 WORLD MAX』といったTBSの番組の作り方って、どう思いますか？

佐藤　うまいと思いますよ。凄く研究されてると思うし、VTRにしても無駄がなくてうまく引っ張りますからね。頭いいなと思いますよね。最近は格闘技に対する愛すら感じますから。当初はちょっと選手との感覚の違いのようなものがありましたけど、いまは全然いいと思います。

――たとえば、K―1って必ず選手の家族の映像が出てきますけど、そのへんはどう思います？

佐藤　僕らもミルコのお母さんとか出しますからね。でも、TBSの作りとは「ポリシー」が違うと思います。あれは「家族出しときゃいいだろ」でしょ？

――K―1 MAXの某選手のお母さんとか（笑）。

佐藤　一昨年の『Dynamite!!』で曙さんがデビューした試合で、曙さんが大の字になってる画とバックカットさせて奥さんが映りましたけど、あれは非常に釘付けになりますよね。テレビってそういうことなんです。あの映像はかなり練り上がったものだと思います。まー、でも僕はやんないかな（笑）。

――そこまで褒めておいてやらない（笑）。

佐藤　それってクリエイティブな作業とは思えない。だから選手のすべてを追っかけて、全部映して全部出すというやり方はしたくないですよ。それに僕としてはファイターを尊敬していたいし、何か期待していたいじゃないですか。美濃輪育久選手の場合も出口は期待感につなげたいんですよね。コイツが負けたら気持ちいいだろうなっていうのは絶対に作りたくない。

――ファイターを生け贄にはしたくないと。

佐藤　思いっきりいろんなものを背負わせて背負わせて「この人が勝ったら凄い涙が出るな！」というのにしたいんですよね。それはそれで負けてもドラマになるんですよ。

――ロッキーが勝ってないっていうのと同じですよね。

佐藤　そうそう。僕はTBSのみなさんがああいう作りをして本気で涙しているとは思えないんです。

――あと、僕たちからフジテレビの方にお願いしたいのは、やっぱり五味選手をなんとかスターにしてほしいってことですね。

佐藤　そうですよね！　だから今年の大晦日ってタイミング的に絶好のチャンスなんですよ。木口道場から4人の選手が出てき

大晦日の番宣はこれから十分巻き返せます
それぐらいの隠し球、秘策がありますから

たわけじゃないですか。僕らとしては、五味vsマッハ、KID vs元気の両方を見てもらって「誰が一番強いか、みなさんが判断してください」という問いかけにしたいんですよね。だって五味選手って絶対KIDや元気よりも強いと思いませんか？

——たしかにこれまでの『武士道』の実績と、あの五味vs川尻を見せられればそう思いますよね。

佐藤　だからなるべくその2試合はズラして放送したいんですよ。できれば連続で見られるような順番になってるとベストなんですけど。案外かぶりそうな予感もしますけど（笑）。

——フジテレビでは『武士道』をもっといい時間帯でやろうという話はないんですか？

佐藤　これぱっかりはフジテレビがやりたいって言っても各方面との権利関係もあるから簡単には決められないんですよね。

——『PRIDE』本戦がなかなか当日に地上波放送しなかったのも、そういう理由なんですよね。

佐藤　そうなんですよ。だから2日後のディレイ放送になったりするのは、『PRIDE』の評価が低いわけじゃなくて逆なんですよね。僕らは当日放送したいんですけど、『PRIDE』はスカパーさんが先に放送してたソフトですから。我々も先達であるスカパーさんに敬意を払う部分もあるし。そこが難しい。

——でも、火曜日の19時放送は勘弁してほしいですね。

佐藤　成年男子は家にいないですもんね。だから、いくらい試合やっても19時代は視聴率10%そこそこなんですよ。20時以降はガーッと伸びてはくるんですけどね。でもじゃあ2日後でも21時からやればいいじゃないかっていう話になると、たしかにスポーツ局的にはいいんですけど、21時に掛けるソフトは他にもたくさんあるっていうのが実情なんだと思います。

——なるほど。

佐藤　いいドラマとか、21時台に放送するライバルが局内にたくさんあるんです。そこが僕らの難しいところなんですよね。

——そこが、格闘技が局を挙げての目玉となってるTBSと違うと。

佐藤　でも、宣伝の力とか言いますけど、そういうことなんですよね。TBSは12月以降、それ（『Dynamite!!』の宣伝）一色になりますからね。

——秋になると『K−1 WORLD MAX』も『HERO'S』も大晦日の宣伝番組みたいな感じが少なからずありますもんね。大会自体がプロモーション材料というか。

佐藤　フジテレビの場合、去年の年末は年間視聴率三冠王が決まるか決まらないか、そんなような状況だったんですけど、今年の場合は昨年よりもいい状況らしいんですよ。

——三冠王ほぼ確定と。逆に視聴率三冠王みたいな勲章がないTBSとしては、「紅白に勝った」とか、そういう勲章がほしいわけですよね。

“CXの火薬庫”
佐藤大輔、吠える!
「大晦日は今年も『PRIDE』が勝ちます!!」

佐藤　そうでしょうね。まあでも、“紅白に勝つ”っていう勲章は我々もほしいですけどね。でも、たとえば同時間帯で『Dynamite!!』に視聴率で負けたところで、別に格闘技好きな人と『PRIDE』好きな人が全員『PRIDE』のことを見限るとは思えないんですよ。

——それはそうでしょうね。いろいろアンケートを取ると『PRIDE』はビデオに撮りながら、他のを見るパターンが多いみたいですから。

佐藤　それ、正直痛いですね〜（笑）。でも、一番面白いのはPPVをビデオに録って見ることっていいますからね。個人的な意見としてはそれもいいと思う（笑）。フジテレビスポーツ部がPPVも制作しているわけですから。

——そのへんの心境は複雑でしょうね。

佐藤　だから、こういうこと言うのもなんですけど、単に視聴率を比較するんじゃなくて、商売というか“収入”っていう意味でいうと、どちらの勝利なんでしょうかね。どっちのイベントも主催にそれぞれTBS、フジテレビが名を連ねてますけど、興行収益は『PRIDE』でしょ？　だから結局どこで勝ちどきを上げるかって話になるんですよね。大量に販売スポットCMが流れてるっていうのは、チケットをもっと売る必要があるからだと思うんですよ。

——販売スポットはともかく、大晦日の番組の煽りはフジテレビもバンバンやってほしいですけどね。

佐藤　やります。それは。

——フジテレビの場合、その前に『K−1 WORLD GP決勝』があるんで、それが終わるまでは難しいんでしょうけど。

佐藤　まぁ、それが終わってから煽っても、十分巻き返せると思いますけどね。ただ、『K−1 WORLD GP』のチャンピオンとアーネスト・ホーストが大晦日に『Dynamite!!』でやるとか言われるとスタッフ一同怒ると思いますけどね。

——なんか、そういうプランもあるみたいですけど。

佐藤　もし、そんなことやったら、フジテレビは怒ります。これだけは書いてもらったほうがいいですね。『K−1 WORLD GP決勝戦』がK−1ブランドの最高峰のはずですから。

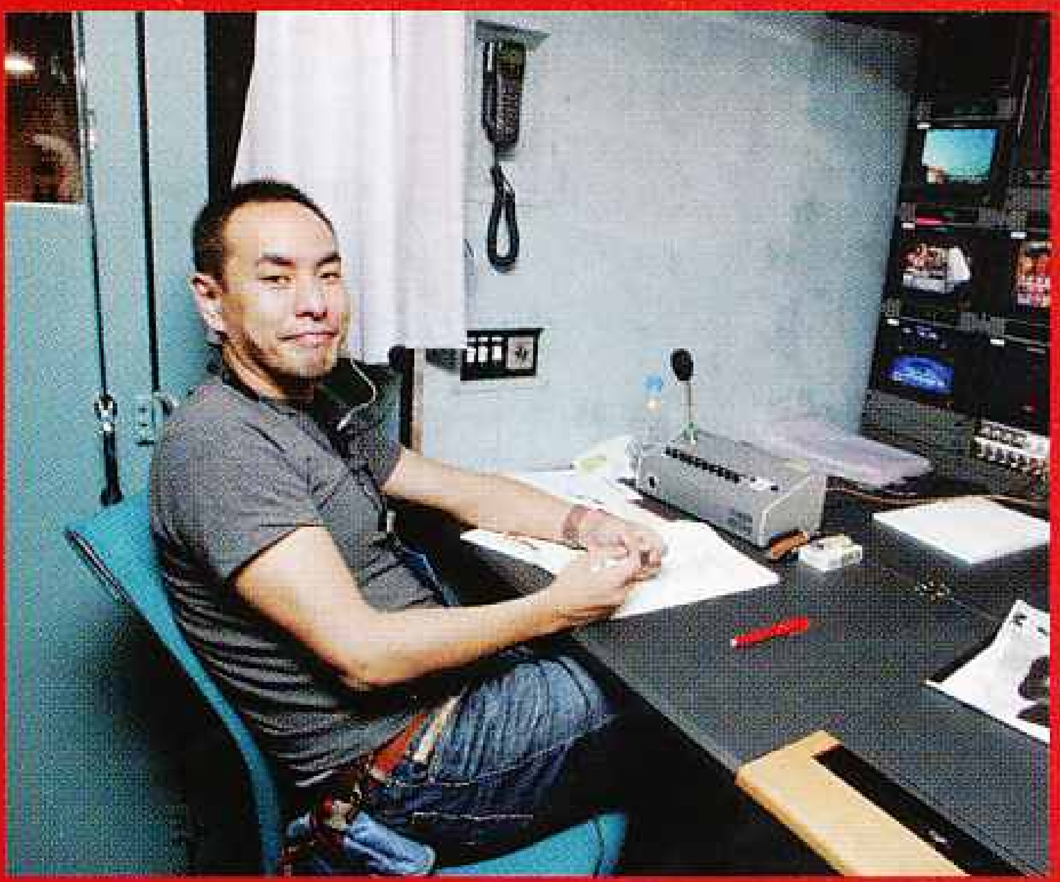
——まあでも、『K−1 GP』決勝が終わってからでも巻き返せるというのは、それぐらいの隠し球、秘策があるということですか？

佐藤　まぁ、そうですね。早く発表できたらと思います。

——オォ〜、では、今年も放送の内容含め、かなり期待してますんで頑張ってください！

佐藤　ありがとうございます。期待してください！

【11月6日／都内・某所にて収録】



さとう・だいすけ■1974年、東京都生まれ。慶応大学卒業後、97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』などの番組を手がけている。『PRIDE』選手紹介の煽りVTRは毎回絶品。記者会見での“熱血発言”でも有名。



冬先取り! 新作PRIDEウェア大収穫!!



桜庭 パーカー
[S･M･L･XL オレンジ／ネイビー]
¥10290(税込)



シウバ パーカー
[S･M･L･XL ホワイト／ブラック]
¥10290(税込)

新作パーカー勢揃い



BTT パーカー
[S･M･L･XL ブラック／グリーン]
¥10290(税込)



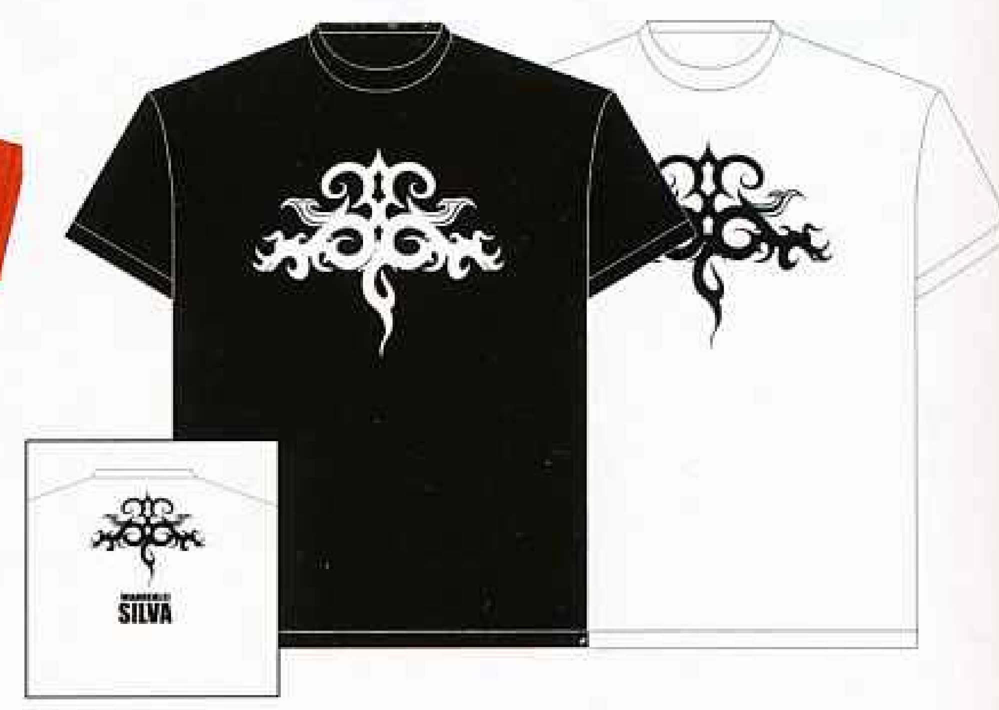
レッドデビル パーカー
[S･M･L･XL ブラック／レッド]
¥10290(税込)



レッドデビル チームTシャツ
[S･M･L･XL ブラック／レッド] ¥3990(税込)



レッドデビル ロゴTシャツ
[S･M･L･XL ブラック／レッド] ¥3990(税込)



シウバHEAD TATTO Tシャツ
[S･M･L･XL ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)



ブラジリアン･トップチーム･ロゴTシャツ
[S･M･L･XL ホワイト／ブラック] ¥4200(税込)



ブラジリアン･トップチームTシャツ
[S･M･L･XL グリーン／ブラック／ブラウン] ¥4200(税込)



桜庭 炎のコマTシャツ
[S･M･L･XL ホワイト] ¥3990(税込)



桜庭 モンゴリアンチョップTシャツ
[S･M･L･XL ホワイト] ¥3990(税込)



I♥BUSHIDO Tシャツ
[XS･S･M･L･XL ブラック／ホワイト／イエロー] ¥3990(税込)



美濃輪 OHI! Tシャツ
[S･M･L･XL ホワイト／レッド] ¥3990(税込)



桜庭ジャージ
[M･L･XL オレンジ] ¥9345(税込)

このページの商品はKamipro Handでも購入可能!! 詳細はP134下段を参照ください➡

目指すは平均視聴率30%超え!





「紅白を視聴率で上回るビッグ・サプライズあります!」

……発売日にどうなってるかわかんないですけど(苦笑)

――今回は発売日の関係もあって、ワールドGPを飛び越えて大晦日のお話をうかがえればなと思います。すでに2カードが決まって、プラス永田克彦選手の出場が決定と。早くもリードって感じですよね。

谷川 まあでも、去年も魔裟斗vsKIDは発表が早かったしね。

――あ、そういえばそうですよね。

谷川 ドンドンいけるときはいくって形で。選手もね、早め早めに決めてあげないと。調整とかもあるから。

――その他の出場予定選手も広告やサイトには出てますよね。やっぱり中心になるのはそのへんの選手なわけですか。

谷川 そうですね。サップ、ホンマン、あとはワールドGP出場組。ケガがなければですけど。ジェロム(レ・バンナ)やピーター・アーツとかね。それと、所くんが出るのは決まってます。あとは宇野選手とか、あの~、あれ、誰だっけほら。

――誰ですか?

谷川 あ、曙さんだ。

――ああ(笑)。サップ、曙、チェ・ホンマンは大晦日には欠かせないですよね(笑)。

谷川 それとホーストも出たいって言ってましたね。今年はケガで1試合もしてないから、治ったらやりたいと。だから今年のK―1チャンピオンにぶつけるとかね。

――ほぉ~。今年はGPの日程を早めたこともあって、そういうこともやりやすいわけですね。

谷川 それもあるし、やっぱりどっちも12月にやると、プロモーションがかぶっちゃうんですよね。ワールドGPのプロモーションを一生懸命やってる時期に「大晦日は誰が出るんですか?」って聞かれたりとか。そういう意味でもGPは早めにやって。大晦日のカード発表もね、11月はもう1、2カードくらい発表して、あとはGPが終わってからにしようかなと思って。

――最初に決まったのが須藤元気vs山本"KID"徳郁だったわけですけど、これはもうホントにいいカードですよねぇ。

谷川 いいカードになりましたねぇ。去年は魔裟斗vsKIDが瞬間最高視聴率を稼いだんですけど、あれに匹敵するか、もしくはそれ以上になるんじゃないかって期待感がありますよ。

――視聴率が取れそうであり、なおかつ勝負論も相当に厳しいものがありますよね。

谷川 厳しいですよ。勝ったほうはいいですけど、負けたほうは今後の格闘技人生に大きく影響するでしょう。

――須藤選手も総合で負けるわけにいかないですし、KID選手もK―1ルールで魔裟斗選手に負けるのとは意味が違いますからね。

谷川 重い一戦になると思いますよ。

――展開も予想がつかないですよね。

谷川 予想つかないですねぇ。他のインタビューで言ったんですけど、KIDが一撃必殺の"剣豪"タイプなんですよ。

――はいはい。

谷川 その"剣豪"と、須藤元気っていう"忍者"の対決ですよね。"剣豪"vs"忍者"の対決っていうのはねぇ、予想できないし、本当に楽しみ、うん。

――中量級が2年連続で最高視聴率を取ったら、それも快挙ですよね。

谷川 そうそう。最近はね、中量級でヘビー級を食うようないいカードを組めるようになってきたんで、年末(のカード編成)が非常に楽なんですよね。

――むしろヘビー級より期待感がありますよ。

谷川 ただ、魔裟斗選手に関しては微妙で



KIDvs元気、秋山vsホイスに続き、永田弟参戦、ボビーvs曙も決定! 大晦日格闘技戦争はDynamite!!が3歩リード!?

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

今年も毎年恒例、大晦日格闘技戦争が近づいてまいりました!
今年は『Dynamite!!』、そして『男祭り』ともに、KIDvs元気、五味vsマッハという
中軽量級の目玉カードがいち早く決定したが、その後は秋山vsホイス、永田克彦参戦、
そして今回のインタビューから5日後には曙vsボビー戦の発表と『男祭り』を2～3歩リードしている
『Dynamite!!』。さらなるビッグサプライズはあるのか? 谷川さんを直撃!

聞き手/橋本宗洋 構成/松澤チョロ 試合写真/乾晋也
designed by hisa (Two Three)

谷川貞治

すね。
—ケガがまだ治らないんですか？
谷川　骨がまだくっついてない状態なんでね。大晦日に関しては、これが一番の誤算。魔裟斗選手はね、試合するなら完璧に練習しておきたいタイプなんですよ。
—万全のコンディションにしないと、単にケガが治っただけでは強行出場はしないわけですね。
谷川　いつ、何時、誰とでも闘うのは嫌だと（笑）。だからちょっと難しいですねぇ。
—ただ魔裟斗選手以外でも、中量級のタマはメチャクチャいますもんね。所選手は誰と闘いそうですか？
谷川　まだ決まってはいないけど、誰とやっても面白そうでしょ。魔裟斗選手とやらせても面白いしね。魔裟斗選手は怒るかもしれないけど（笑）。
—魔裟斗vs所！　それはK—1ルールで、ですか。
谷川　そうですね。あと前田さんが怒るかもしれないけど所vsチェ・ホンマンとか。
—所選手本人も、一回「サップとやりたい」って言ってましたからね。しかし所選手は夢が広がりますねぇ（笑）。
谷川　で、誰とやっても視聴率取れると思いますよ。
—その可能性は高そうですよね。
谷川　もの凄く視聴率取ると思いますよ、ああいう選手は。
—谷川さんの中で、所選手のどういう部分が「ああいう」になるんですか？
谷川　やっぱりお子さまからお年寄りまでという部分で（笑）。お茶の間でウケるんですよ。こないだまでコンビニ弁当食べてた選手がK—1ドリームをつかんでっていうのもわかりやすいし。そういう選手は大晦日に向いてるんですよ。逆に●●●●・●●●●みたいな選手は大晦日にははいらないんだよねぇ。
—ダハハハ！　またそれですか（笑）。でも、出そうですけどね。
谷川　大晦日っていうのは、そこで格闘技を初めて見る人が多いんですよ。
—でしょうね。あとは年に一回、大晦日だけ格闘技を見るとか。
谷川　そういう人にも「あの試合、どうなるんだろう？」って思わせるわかりやすいカードがいいんですよね。
—中量級では、他にどんな試合が組まれそうですか。
谷川　魔裟斗選手しだいでしょうね。

ホイスはチェ・ホンマンともやりたいって言ってたんですよ



10・27の記者会見でホイス・グレイシーとの対戦が決まった秋山成勲は「ホイスは憧れの選手。彼と試合できる幸せを感じている」とコメント。グレイシー一族に柔道を教えた“コンデ・コマ”こと前田光世に憧れ、総合格闘技へ転向した男は、平成の“コンデ・コマ”になれるのか？

—魔裟斗選手が出るか出ないかによって組み合わせが変わってくると。
谷川　うん。それさえ決まればね、カードもカチャカチャとハマっていくと思います。
—魔裟斗vs所のK—1ルールはいいですねぇ。あと宇野選手もいますし。
谷川　魔裟斗vs所、魔裟斗vs宇野っていうのはいいですよね。
—魔裟斗選手は嫌がるけど、と（笑）。
谷川　こういうカードを一番嫌がりますからね。本人は出られるとしたら「アンディ・サワーとやりたい！」って言うでしょう。
—本人としてはそうでしょうね。でも、それは谷川さん的には大晦日向きじゃないんですよね。
谷川　まあねぇ。それはMAXでできることだから。
—魔裟斗vs所のほうが大晦日っぽいですよね。所vsチェ・ホンマンになったらさらに（笑）。
谷川　チェ・ホンマンはね、ホイスもやりたいって言ってたんですよ。
—へぇ〜。去年に続いて巨漢退治シリーズを。
谷川　去年よりさらに大きい相手にチャレンジしたいって（笑）。ただ、チェ・ホンマンが総合やってないからね。それにGPが終わるまで決められないっていうのもね。
—結果待ちになっちゃいますからね。で、ホイス選手は秋山選手と闘うことになったわけですけど、秋山選手とホイスって、勝負論的にはどうなりそうですか？　秋山選手って、デビュー以降圧勝か完敗のどっちかだったじゃないですか。だからまだ底が見えてないというか、測定できてない感じがするんですよ。
谷川　底は見えてないですね。だから想像がつかない、ちょっと。今回、初めて潜在能力が引き出されると思いますよ。いままでホイスと闘って印象に残ってるのって、凄く身体能力の高い吉田選手とか、あとは経験とかテクニック的な部分が凄い桜庭選手だったでしょ。秋山選手はね、あの二人と比べても自我の強さがもの凄いんですよ。
—自我の強さですか。
谷川　〝勝ちたい〟とか〝目立とう〟とかですね。そういう意識のレベルが高いんですよ。いい意味でのナルシストっていうか。吉田選手って、アスリート的な勝負のこだわり方をする人ですよね。
—はい。
谷川　で、桜庭選手はプロとしてのいい試

合、面白い試合をしたいってところに自我が出るんですけど。

――秋山選手は、そのどっちとも違う自我があるという感じですか。

谷川　「スターになりたい！」っていうね。その自我がホイス相手にどう出るか、楽しみなんですけどね。

――自我のあり方としては、角田さん的なんですかね？

谷川　そういう部分もあるし。こう「狙ってやろう！」っていうね。"秋山劇場"があるんですよ。それを大晦日に見せてくれるといいですけどね。

――あと永田選手の相手はどうですか？

谷川　永田選手はねぇ、一番難しいんですよ。デビュー戦にふさわしい名前のある選手とやらせたいんですけど、80キロでって考えるとあんまりいないんですよねぇ。あの階級で有名な選手っていうと、ホドリゴとかのグレイシー系か、あとはBJ（ペン）とかでしょ。

――ヘンゾとかですよね。

谷川　そういう選手になっちゃうんで。名前があって、なおかつ勝負論がある試合っていうと難しいんですよ。



レスリング五輪銀メダリスト・永田克彦の『Dynamite!!』参戦が自身の誕生日である10・31に発表された。永田は"闘魂"を意味する真っ赤なネクタイで登場すると、団体の旗を掲げ新日本の一員であることをアピール。プロ転向後も新日本所属で出場する永田だが、現在、寝技等を教わる上山龍紀と新たに「チーム・キングス」というユニットも結成。「組んだら倒せる自信はある」と試合への意気込みを語った。

――グレイシーとかBJでは渋すぎるというか。

谷川　その階級の実力者と、現時点での強さを測定するような試合はね、大晦日には通じにくいんで。

――強いからってマット・ヒューズじゃしょうがないわけですね。

谷川　そうそう。マット・リンドランドと銀メダル対決とかさ。そういうのをやるんだったら『HERO'S』のほうがいいじゃないですか。ホイスだったらいいんですけどねぇ。まあグレイシー、K-1ファイター含めてもう一回考えてみないといけないです。

――いま総合でもアスリート系っていうか、他競技で実績がある人が増えてるじゃないですか。その中で永田選手の魅力ってどんなところにあると思いますか？

谷川　やっぱりレスリングの、体育会系バリバリの人だなぁって。一本気なアマチュアのアスリートの匂いを凄く感じますよね。で、大晦日にいいデビューを飾れれば来年はあの階級でトーナメントをやりたいですね。

――85キロ級のトーナメントをって話は以前からありましたよね。

谷川　うん。永田選手がいて秋山選手がい

あなたが『Dynamite!!』で見たいカードは?

※10月27日～11月5日まで『紙プロHand』にて収録

1位	所英男 vs 佐藤ルミナ	11票
2位	ヒクソン・グレイシー vs 前田日明	7票
3位	永田裕志 vs ボビー・オロゴン	6票
4位	マイク・タイソン vs 清原和博	5票
5位	所英男 vs ホイラー・グレイシー	4票
	永田裕志 vs 曙	4票

その他

魔裟斗 vs アンディ・サワー	3票
魔裟斗 vs レミギウス・モリカビチュス	3票
魔裟斗 vs 佐藤嘉洋	3票
山本"KID"徳郁 vs 五味隆典	3票
宇野薫 vs 武田幸三（総合ルールで）	3票
宇野薫 vs レミギウス・モリカビチュス	3票
チェ・ホンマン vs モンターニャ・シウバ	3票
チェ・ホンマン vs ボブ・サップ（総合ルールで）	3票
前田日明 vs アントニオ猪木	3票
谷川貞治 vs レイザーラモンHG	3票

●この号の発売日までには、さらに追加カードが発表されているかもしれないが、アンケート時のランキングでは、『kamipro』でもお馴染みの所英男と、『Dynamite!!』はおろか、いまだ『HERO'S』、『武士道』にも出場していない修斗の大物・佐藤ルミナの一戦が2位を引き離して1位に輝いた。2位は、現実的ではないが、いまだに前田vsヒクソンを夢見るダイナマイッなファンが多いということか。そして、3位に輝いたのは、ご存知、永田裕志。集計後に曙戦が発表されてしまったがボビーだが、たしかに永田vsボビー戦は、いろんな意味で見たいぞ。他にも永田は5位に曙戦、5位以下でも永田さんの名前は出まくりで、あらためて、永田裕志は大晦日に欠かせない男としてファンの間でも浸透しているということだろう。弟の克彦に続いて、今年も電撃参戦はあるのか？　4位の清原vsタイソンも、実現したら視聴率も一気に跳ね上がるだろうが、現実的には期待薄。魔裟斗がらみのカードは票が割れてしまった形だが、はたして大晦日は間に合うのか？　少数意見ではI編集長好みのホンマンvsモンターニャ、さらには谷川さんvsレイザーラモンHGという、ある意味ゴールデンカードが票を集めた。この中から実現するカードはあるのか？　次なる発表を楽しみに待とう！　せ～の、ダイナマイッ!!

大晦日格闘技戦争に出てほしい有名人は?
（総合格闘家以外）

※10月27日～11月5日まで『紙プロHand』にて収録

1位	清原和博	20票
2位	レイザーラモンHG	18票
3位	なし	17票
	永田裕志	17票
5位	朝青龍	13票
6位	井上康生	12票
	小川直也	12票
	川田利明	12票
9位	室伏広治	9票
10位	草野仁	8票
11位	ブロック・レスナー	7票
12位	ボビー・オロゴン	6票
	なかやまきんに君	6票
14位	藤田和之	5票
	長州力	5票
16位	長州小力	4票
	小橋建太	4票
	佐々木健介	4票
	中邑真輔	4票
	安岡力也	4票
	ケイン・コスギ	4票
	インリン様	4票
	水玉れっぷう隊・アキ	4票
	谷亮子	4票

● 大晦日に出てほしい有名人は、やはりというか清原和博が1位！　昨年の『Dynamite!!』では秋山のセコンド、そしてゲスト解説と大活躍だった清原。はたして、今年の大晦日はどうなる？　そして2位は、『ハッスル』でも大ブレイクのレイザーラモンHG。プロレスだけではなくガチンコでも相当な実力を持っているというHGだけに総合参戦を望む声もうなずける。しかし、HG的には、ガチンコに出るなら『Dynamite!!』より"男"祭りを選択する可能性が高いだろう。3位には、我らが永田裕志さんが登場！　さすがとしか言いようがない。他にも小川、川田といった『ハッスル』で活躍するプロレスラーがランクイン。芸能界からは草野仁、なかやまきんに君、長州小力、安岡力也、水玉れっぷう隊のアキといったガチンコ幻想が高い人に票が集まった形だ。ちなみに、女性ではインリン様と"ヤワラちゃん"こと谷亮子が4票を獲得。ヤワラちゃんはともかく、『男祭り』のリングでインリン様のM十字固めが見たい！　もちろん、試合後はM字ビターンで年越しだ!!　3、2、1、モンスター!!

て、それからホイスやBJもいるし、菊田選手も入ると思うし。85キロか80キロか、その辺の日本人もたくさんいるでしょう。

――あとですね、ボビーvs曙っていうのも一部メディアに出ましたよね（※その後、11月8日に正式決定）。

谷川 ボビーは出ると思いますよ。いま交渉中ですから。去年の大晦日以降、凄く忙しくなってるじゃないですか。

――毎日のようにテレビ出てますからね。

谷川 だけど、ボクとしゃべってる限りだと試合をやりたがってるんですよ。こっちももう一回やってほしいって気持ちはありますし。曙戦も含めて、いま調整してるところです。

――練習はいまもけっこうしてるんですか？

谷川 普段はウェイトやって、あと時々GRABAKAに行ってるくらいだと思います。だからもし出るんだったら、2カ月くらい真剣に練習しないといけないでしょうね。だから早めに決めないと。11月、12月の仕事を入れるか入れないかも事務所的に問題になるでしょうし。

――これから年末年始の特番の収録がガーッとありますからね。

谷川 そうそう。それを断らなきゃいけなくなるから。

――曙さんはどうなりそうですか？　今年はプロレスのほうで大活躍だったわけですけど『Dynamite!!』的には……。

谷川 『Dynamite!!』に関して言えば、正直、曙さんのカードは難しくなってますよね。

――格闘技では、という。

谷川 というか、僕らとしてみれば、曙さんが出るだけの意味のある試合にはしたいと思ってますけど。

――いわゆる〝曙目線〟のカード作りが難しいという感じですか。ボビーvs曙にしても、完全にボビー目線ですもんね。

谷川 いや、そんなことはないんですけどね。でもやっぱり話題になるカードじゃないとダメなんで。

――ええ。

谷川 やっぱりK―1でかなりいろんな選手と闘ってきてますからね。そういう意味ではボブ・サップも一緒なんですよ。サップも相手が難しいんですよねぇ。

――それこそイメージがつきまくってますからねぇ（笑）。

谷川 だから曙、サップと、あと体重的に永田選手。この3人が難しいんですよ。ただ今年はね、一戦一戦が凄くいいカードになるし、これは視聴率が取れるなってカードになると思いますよ。

――放送でダイジェストになるのがもったいないくらいの。

谷川 そうそう。そういうカードが出てくるでしょうね。だって、まだ藤田選手もいるしね。一年ぶりの（カラム・）イブラヒムもいるし。

――いましたねぇ（笑）。

谷川 あと、忘れてるかもしれないけどヒース・ヒーリングとかね（笑）。ドン・フライもいるし。それと中尾（芳広）選手とか。ホント出場候補は多いんですよ。

和泉元彌さんとかもね、『男祭り』に出たら怖いですけど（笑）

これぞ、ダイナマイッ！ 曙vsボビー決定ッ!!



11・8、都内ホテルで記者会見が行われ、12・31大阪ドーム『Dynamite!!』でボビー・オロゴンと曙が対決することが正式に発表された。ボビーは〝史上最強の素人〟として、昨年の『Dynamite!!』に参戦。シリル・アビディと激突し見事勝利。今年で2度目の参戦となる。

会見に白いスーツとパナマ帽で登場したボビーは「すごく、かんちょうしています」と緊張した様子でコメント。「ほんものを見るとでかいから、ことわろうかなと思っています」と、アッサリ戦意喪失を宣言する場面もあったが、谷川プロデューサーに「もう決まりましたから」と引き留められていた。

一昨年のサップ戦、そして昨年のホイス戦、そして今年と3度目の『Dynamite!!』参戦となる曙は「『Dynamite!!』というものは、曙としての原点でもある大会。毎年、特別の思いで望んでいます。まだ白星をあげることができずに3回目を迎えましたが、今年はいい勝ち方ができるように練習していきたい」と意気込んだ。対戦相手については「初めて聞いたときは予想外で戸惑いましたが、格闘家・曙としては再出発するためにいい、ありがたい相手でもあると思う」と、一からの仕切り直しに挑む構えだ。

谷川プロデューサーは「ボビー選手自身から『曙さんとやってみたい』と、挑戦表明をいただいた。僕は二人にとって非常に旬ないいカードだと思いましたんで、ぜひ組もうと思いました。ある意味、2003年に衝撃のデビューを飾った曙vsサップ戦以上のカードだと思います。知名度のある二人が闘うことによって、今年最後の感動を全国に与えたい」と、カード決定までの経緯を語った。

さらに「横綱に初めてこの話をしたときは、だいぶ戸惑ってらっしゃった様子でしたが、横綱自身も『格闘家として頑張っていきたい』という気持ちでこの対戦を受けてくれた。横綱の重荷もとっぱらって、一格闘家としてケンカファイトをやりたいと。今回は横綱・曙ではなく、ハワイ時代のケンカ好きな悪ガキとして闘うと言ってくれた」と、曙が横綱の肩書きを越えた〝ケンカファイト〟を解禁するということも、曙に代わってコメント。「互いに負けられない、勝負論のある試合になると思う」と、対戦に期待を寄せていた。

なお、試合順についてボビーは「お客さんが入っていないうちにやらしてもらうとありがたい。人むしり（みしり？）がはげしくなるから」とコメント。谷川プロデューサーは「試合順は前日の発表になりますが、僕は『一から出直す』という意味で、第1試合とか第0試合という感覚があります」としており、正式な試合順は大会前日に発表される予定だ。どうなる、曙vsボビー!?

谷川貞治

──その組み合わせがどうなるのかっていうのも気になるんですけど、もう一つ気になるのはビッグ・サプライズがあるのかどうかという。
谷川　ビッグサプライズはねぇ……ムフフ（笑）。
──その表情からすると、何かあると（笑）。
谷川　これはねぇ、決まったら、たぶん（視聴率で）紅白を抜くと思いますね。
──ほぉ～！　それは、その人が出るってだけで、ですか。それともマッチメイクで？
谷川　両方含めてですね。瞬間では絶対に抜くと思うなぁ。
──そういうことがあるんで、会見でも「今年は平均視聴率30％」という発言があったわけですね。
谷川　ええ。紅白はね、今年は30％台半ばくらいだと思うんですよ。そうするとね、これは抜けるかなっていう。でも、そのビッグ・サプライズは発表は遅いと思いますよ。
──それは最後の一押しにしたいっていうことなんですか？
谷川　まあ、政治的なことも含めて（笑）。いろんな理由があってですね。
──『ファイト』のターザンさんとの対談中に某親方から電話がかかってきたりとかしてたみたいですけど、その件なわけですか？
谷川　あのときはね、ホントに某親方から電話がかかってきたんですけど。出てみたら「若翔洋を韓国大会に出してくれ」っていう（笑）。
──それはまた現実的な（笑）。
谷川　非常に現実的な話題でした（笑）。まあ、ビッグ・サプライズの件に関してはね、ちょっと楽しみにしててください。
──それといま、『ハッスル』がインリンだ和泉元彌だＨＧだって、芸能人で凄く盛り上がってますけど、そういった方面からっていうのも可能性がありそうですか？
谷川　それはもう、たぶんないですね。和泉元彌さんとかもね、『男祭り』に出たら怖いですけどね（笑）。
──ククククク！
谷川　でも、もしタレントを出すってことなら、今年はボビーだけですね。でもねぇ、『ハッスル』は年末にやったら怖いよ。
──大晦日らしいお祭りと



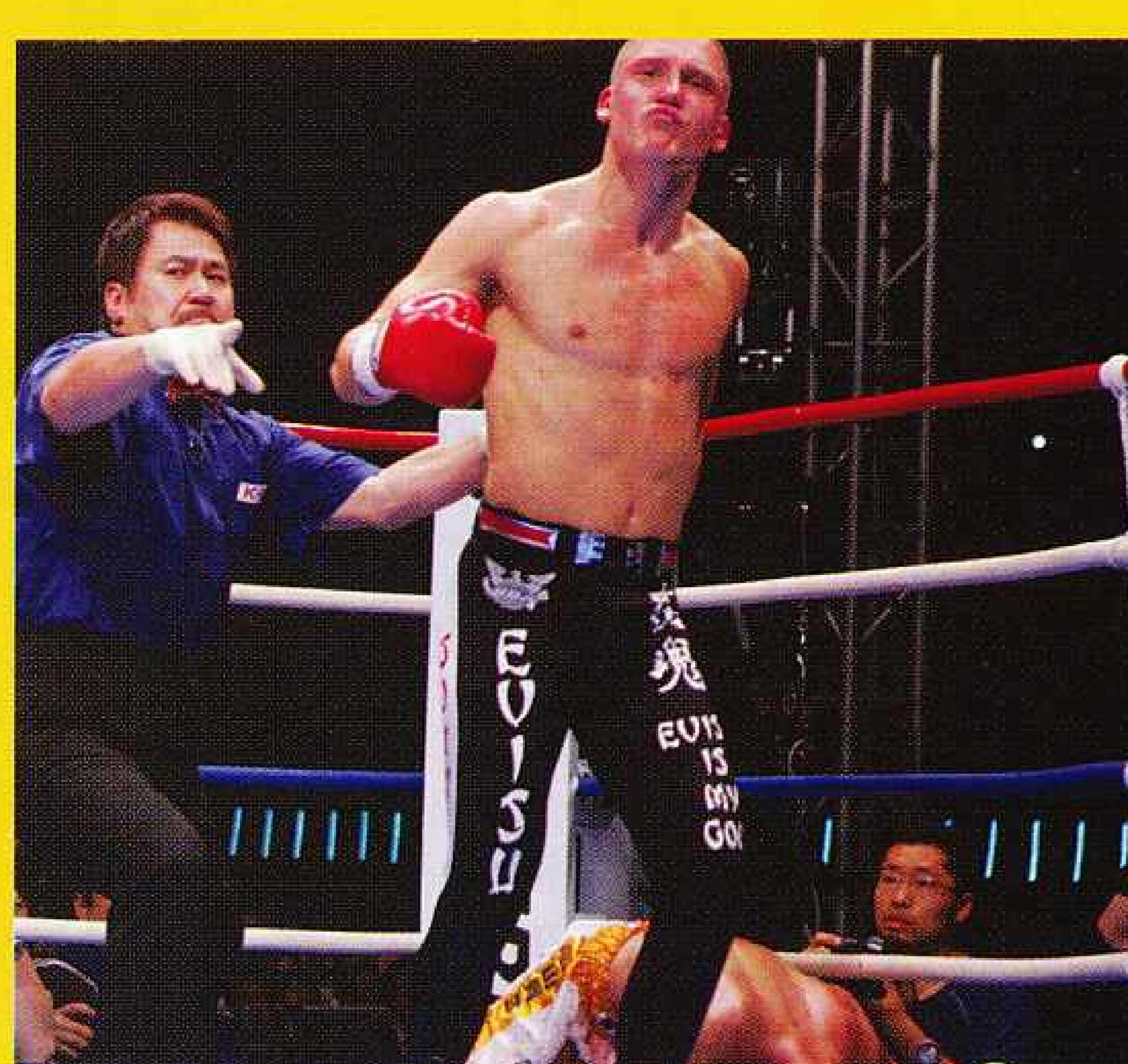
谷川氏も大晦日向きと高評価の所。11・23ZSTでのタイトルマッチを乗り切れば本人の目標でもあった『Dynamite!!』出場が実現する。アンケートではルミナ戦を望む声が多かったが、どうなる？



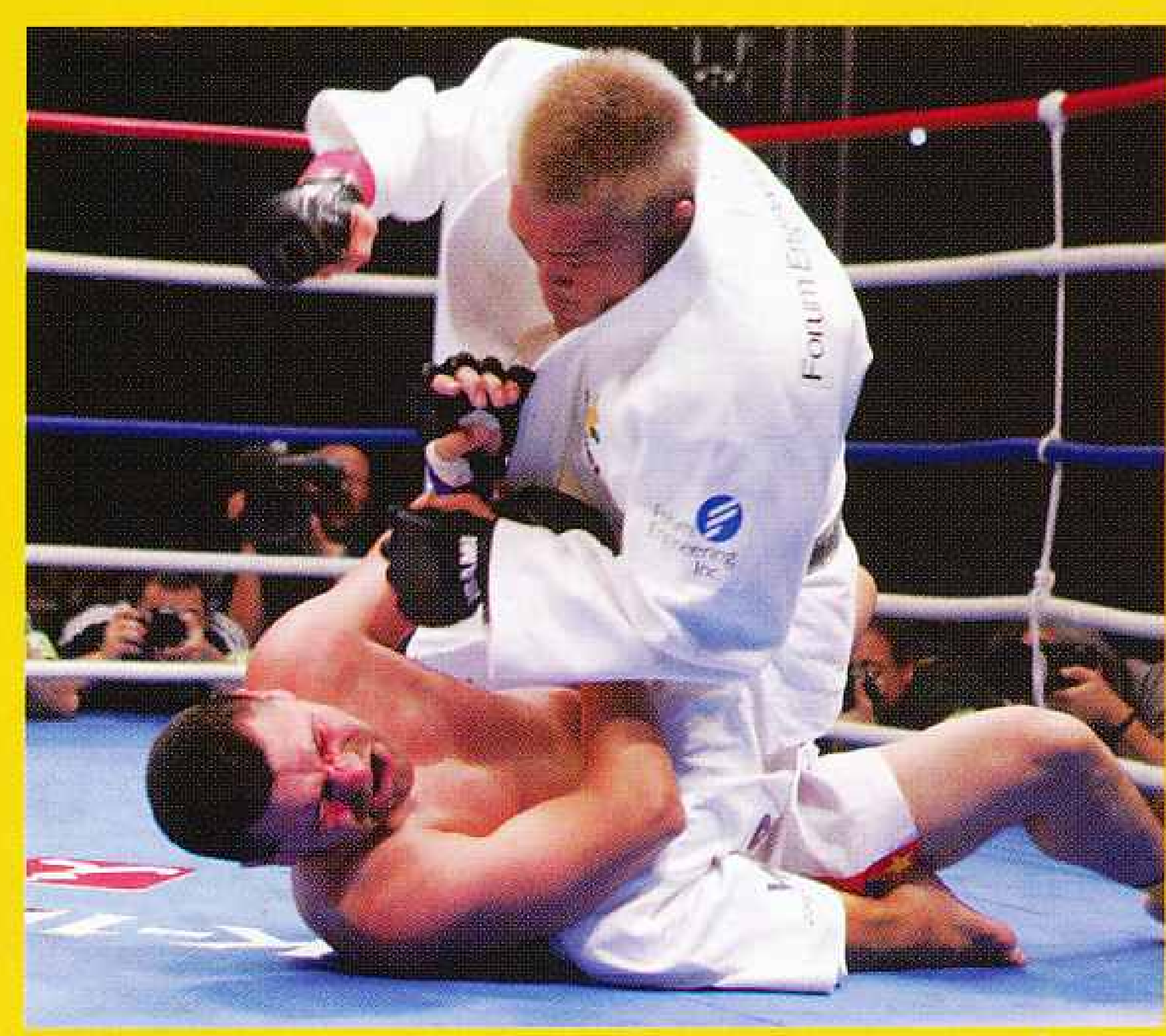
今号発売日の11・19K-1GP決勝トーナメントで2年連続王者のボンヤスキーと対戦するのがデビュー以来無敗街道まっしぐらのホンマン。大晦日の相手は誰だ？誰とやってもビッグカードだ！

【10・12 K－1 WORLD MAX／東京・代々木競技場第一体育館　観衆1万1800人（超満員札止め）】

『エステティックTBC K－1 WORLD MAX 2005 世界王者対抗戦』ダイジェスト



王者サワーに、武田のローがじわじわと効いていくが、2Rで前へ出た武田へサワーのラッシュが爆発。左を放とうとした武田に、サワーの強烈な左フックがカウンターでヒットし、武田が撃沈。敗れる結果となったが、武田の闘いに会場が大きく沸いた。



『Dynamite!!』参戦を狙う秋山が総合4戦目に挑戦。マイケル・ラーマへ組み付いて払い腰で投げるとグラウンドへ。マウントを奪取すると、あえて極めに移行せずパウンド。逃げられないラーマを殴りまくり、レフェリーストップ勝ちを手にした 。



ボクサーの象徴・ボクシングシューズを履いて登場の大東。クラウスも蹴りなしという条件とともにこれを了承。変な甲冑をやめたクラウスがローで3度のダウンを奪って勝利。鈴木と並んで、ボクシング王者二人がローキックで倒れる結果に。



小柳ゆきで入場、コールで投げキッスとウィンクを行なったボクシング王者・鈴木悟。K-1初参戦の鈴木に、ザンビディスの右がヒット。飛びヒザ、ボディに織り交ぜて放たれるローで続けてダウンを奪われ、立ち上がるも試合ストップとなった。



ダリウスの仇討ちに立ち上がったレミギウス、初のK－1参戦。強烈なフックとハイキックで、正道会館の安廣一哉から通算6回のダウンを奪う戦慄の内容を展開。ジャッジ3名が30-21と9ポイント差をつける大差の判定で、見事勝利した。



コツコツとローを放つ佐藤に対し、ヘビー級戦線で活躍のガオグライは右フック、ミドル。あくまでもロー、ヒザにこだわって闘った佐藤が判定勝利。感極まった佐藤がマイクを持ち、涙とともに観客へ礼。この試合が瞬間最高視聴率を記録した。

谷川貞治

しては『ハッスル』のほうが。

谷川　もちろん『PRIDE』さんも今年もいいカードがたくさん出てくると思うんだけど、この一連のワイドショーの流れを見るとねぇ。これは正直怖いですね。

——『ハッスル・マニア』にはマスコミが350社以上来てたみたいですからね。

谷川　話題になるって、そういうことですからね。いまはやっぱり『ハッスル』は凄いと思いますよ。

——ある意味『Dynamite!!』的な趣向というか（笑）。

谷川　非常に年末向きですよね。で、年末向きじゃないのが●●●●だと思いますけど（笑）。

——引っ張りますねぇ（笑）。あとはどうですか、去年は武蔵vs佐々木健介っていうカードが一瞬、浮上しましたけど（笑）。

谷川　あ、そうだ。あったねぇ。でもそれは鬼嫁さんをくどかないといけないからなぁ。武蔵選手には出てほしいと思ってますけどね、GPでケガさえなければ。

——KID絡みで美憂・聖子姉妹の参戦とか、他にもいろいろと思いつくところが『Dynamite!!』は面白いですよね。

谷川　あ〜、そういう手もあるなぁ。

——あるいはお父さんとか（笑）。

谷川　お父さんもいいねぇ。山本郁栄vsタイガー服部とか。

——タイガー服部（笑）。

谷川　昔、レスリングで対戦したことあるんだって。

——あ、そうなんですか!?

谷川　あとは木口先生もやったって。

——いいですねぇ、マスターズリーグ（笑）。

谷川　浜口さんもいいよねぇ。アニマル浜口さんとか。

——でも、そういうビッグ・サプライズではないと。去年も「交渉してるいいカードがある」って言ってましたけど、今年もそれの続きなんですか？

谷川　いや、続きではないですね。新しい人です。去年はね、途中で失敗しちゃって（笑）。

——今年のビッグ・サプライズはオリンピック系というか、アスリート系なんですか？

谷川　いや、あんまりしゃべると絞られてバレちゃうんで、このくらいで。まあ、決まればみんな驚くと思いますよ。

——そういう誰もが驚く人の出場が決まるか決まらないかっていうのは、どのへんがポイントになるんですか？

谷川　それはね、やっぱり本人のやる気ですよ。それが一番。あとは、その人が持ってる世界があるじゃないですか。

——背景というか。

谷川　それに対してのスタンスですよね。完全に一線を引くのか、それとも仲良くやっていけるのか。そのへんの関係性ですよね。曙さんのときもそうだったし。去年ダメだった人は、バックボーンになる世界に反対されて、それに負けましたね。やっぱりポイントはそこになると思います。

——そこをうまくクリアできれば、と。ではビッグ・サプライズに期待しつつ、カード発表を待っておりますので（笑）。

谷川　楽しみにしててください。……とか言って他の雑誌では「今年は何もないです」って言うかもしれないけど（笑）。

——数日で情勢が変わるかもしれないと（笑）。

谷川　「何かある！」というのは『kamipro』だけということで（笑）。

——わかりました（笑）。その成否も含め、またお話をお聞きしたいと思ってますんで、またよろしくお願いします。

【11月3日／韓国へ出発直前の羽田空港にて収録】



昨年の『Dynamite!!』には、秋山のセコンドとして清原和博、解説席には貴乃花の姿も。はたして、今年の『Dynamite!!』では清原、貴乃花級のファイター参戦というビッグサプライズはあるのか？　『kamipro Hand』での大晦日に参戦してほしい有名人でもブッチ斬りで１位に輝いた番長・清原のバーリトゥードはたしかに見たいぞ！　あと、大穴で藤原紀香の参戦にも期待!?

「今年は何かある!」って言ってるのは『kamipro』だけかもしれない（笑）

『Dynamaite!!』
大阪ドーム 2005年12月31日（土）試合開始16:00（予定）

［対戦カード］

須藤元気 vs 山本“KID”徳郁
ホイス・グレイシー vs 秋山成勲
曙 vs ボビー・オロゴン

［出場予定選手］
ボブ・サップ、ジェロム・レ・バンナ、ピーター・アーツ、所英男、チェ・ホンマン、永田克彦 ほか

［チケット料金　全席指定・消費税込み］
SRS席 ¥30.000 RS席 ¥20.000 SS席 ¥16.000 KID応援シート¥16.000（SS席・特典付き）
須藤元気応援シート ¥16.000（SS席・特典付き）S席 ¥10.000 A席¥6.000

［チケットに関する問い合わせ］キョードーチケットセンター 06-6233-8888
［大会に関する問い合わせ］FEG 03-3796-5060

『K-1 WORLD GP 2005 IN TOKYO 決勝戦』
東京ドーム 2005年12月31日（土）試合開始17:00（予定）

［対戦カード］

1.レミー・ボンヤスキー vs チェ・ホンマン
2.レイ・セフォー vs セーム・シュルト
3.ジェロム・レ・バンナ vs ピーターアーツ
4.武蔵 vs ルスラン・カラエフ
（準決勝は第1試合勝者vs第2試合勝者、第3試合勝者vs第4試合勝者）

［チケット料金　全席指定・消費税込み］
SRS席 ¥35.000（特典付き）RS席 ¥22.000（特典付き）SS席 ¥15.000
各選手応援シート¥15.000（SS席・特典付き）S席 ¥10.000 A席¥7.000 B席¥5.000
※アリーナ席（SRS、RS）購入の方全員に、秘蔵映像満載のオリジナルDVDプレゼント！

［チケットに関する問い合わせ］キョードー東京 03-3498-9999
［大会に関する問い合わせ］FEG 03-3796-5060



Pure i
もっと真剣に恋人を探したい!
最近、素敵な出会いが減ってきた!
こんな時は!
ピュアアイで恋人探そうよ!
家と会社の往復な毎日! 寂しいよ!
そろそろ結婚前提の恋がしたい!
吉岡美穂も皆さんの恋愛を応援します!!
エントリーしたお客様全員プレゼント!
Wプレゼント実施中!
タイトー名作iアプリ
アルカノイドプレゼント
TAITO
いつでも! 何回でも! 取り放題!
最新HIT着メロ ダウンロード放題
プレゼント期間・対応機種はホームページをご覧ください
会員数70万人突破!
国内最大級!恋のチャンスが始まります!
エントリーはとっても簡単!
下記URLにアクセス
無料エントリーをクリック
プロフィールの入力
エントリー完了!
お相手検索機能で、理想の異性を瞬時に探せる!
ケータイで検索
パソコンで検索
無料エントリーが完了するとメンバーTOPページに進めます。お相手検索で、理想の異性を瞬時に探すことができます。
パソコンTOPページから会員メニューにログインいただけます。お相手検索からメールの送受信まで行うことができます。
Pure-i Information 1
日本全国ピュアアイイベント続々開催!
ピュアアイでは会員様限定カップリングパーティー、映画試写会、ライブイベントなどを行っております。日程および会場はホームページで随時告知しておりますので、お気軽にご参加ください。
Pure-i Information 2
ピュアアイ・ライフMaster Card登場!
なんと年会費永久無料!ピュアアイ・ライフMasterCard登場! 詳しくはホームページをご覧ください!
入会費・年会費は永久無料! 特典満載!
無料エントリーはこちらから
iモード・ez-web・ボーダフォンライブ・パソコン対応
http://pure-i.net/aoqm
株式会社エーディーアンドディー 東京都渋谷区渋谷2-15-1 第二種電気通信事業 A-15-5933
18歳未満の方(高校生を含む)、既婚の方のご利用は固くお断りいたします
お問い合せセンター 03-5469-0291 受付時間10:00~19:00(年中無休)
ご利用料金のご説明…ピュアアイは入会費・月会費等は一切かかりません。さらにお相手のご紹介も無料です。料金はお相手とご連絡をとる際に、500円発生いたします。またご利用いただかない時に料金は発生いたしません。 ※女性のお客様はコンテンツ内すべて無料でご利用いただけます。

サラブレ12月号
特別価格780円（税込）
絶賛発売中!!





M・キネーンが
外国馬の
本当の実力を
教えてくれます!

特集 本当に勝負になる外国馬&日本馬

ジャパンC



□芝とダートの"英雄"ができるまで□

ディープインパクト

「金子真人さんの馬」相関図付き!

とカネヒキリ



ディープインパクト
菊花賞映像収録!

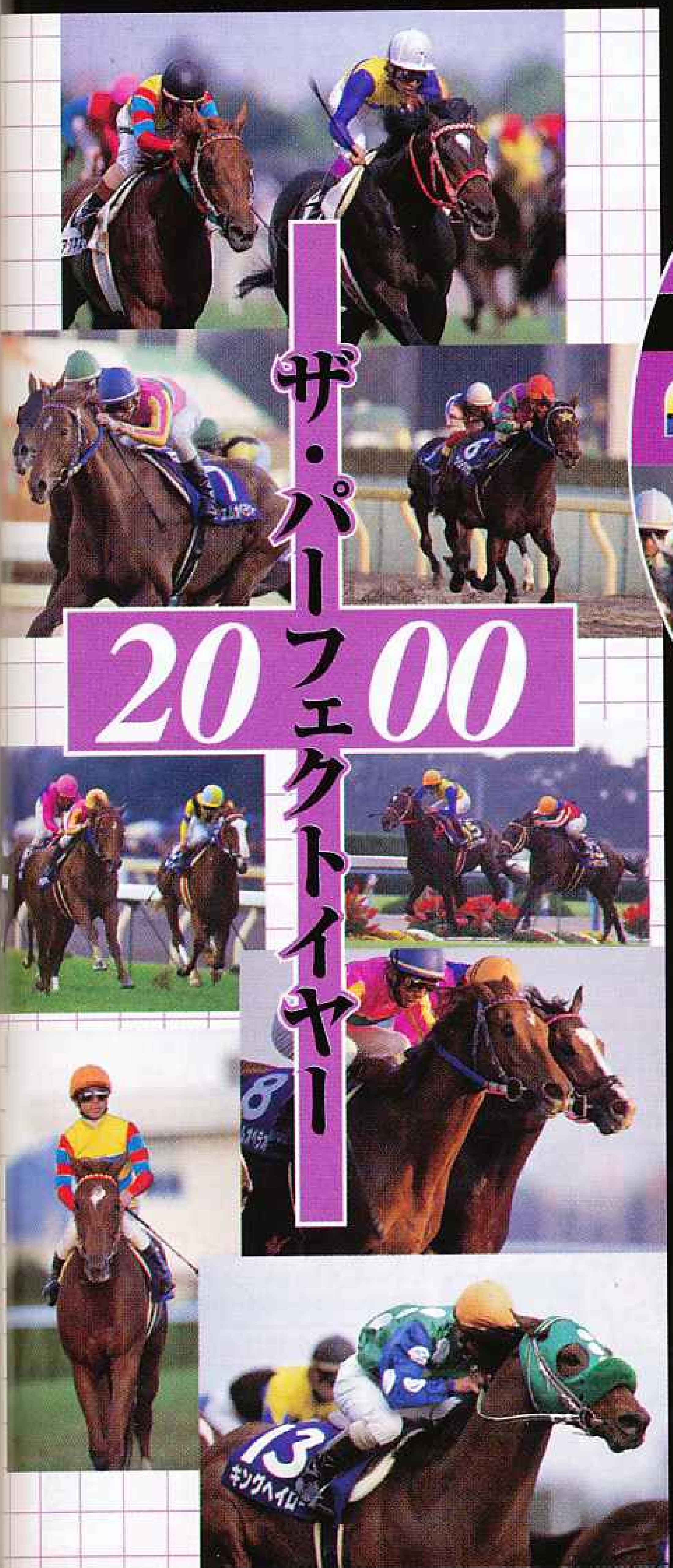
戦後から現代まで「記録と記憶に残る日本の名馬たち」

名馬クロニクル

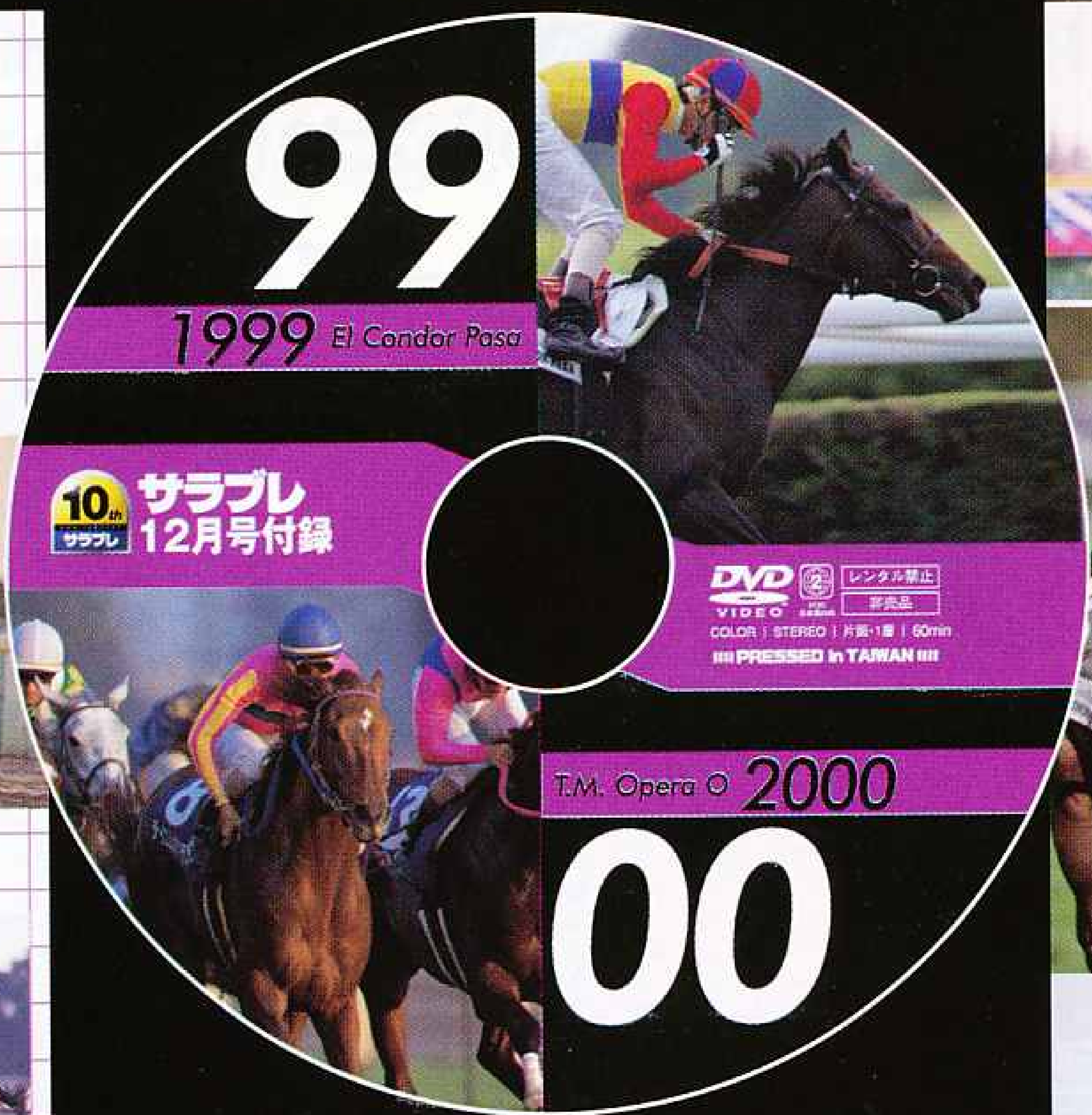
CHRONICLE

10周年記念事業

DVD「ターフの記憶 1995-2004」



ザ・パーフェクトイヤー
2000





世界のコンドルと国内頂上決戦
1999

国内の古馬王道路線ではスペシャルウィーク、グラスワンダーが歴史的名勝負を演じ、世界の舞台では欧州に飛翔したエルコンドルパサーが大活躍。3歳クラシック戦線でもアドマイヤベガ、テイエムオペラオー、ナリタトップロードが覇を争った、近年の日本競馬史における珠玉の年が1999年でした。

一方2000年は、テイエムオペラオーが8戦全勝GⅠ5勝という金字塔を打ち立て、そのほかにも河内元騎手のダービー制覇やキングヘイローの初GⅠ優勝など感動的なシーンが数多く生まれた年でした。

鳥肌モノ、そして感涙のレースが続く2年間をどうぞお楽しみに!

eb! enterbrain　株式会社エンターブレイン
〒102-8431　東京都千代田区三番町6-1　電話0570-060-555（代表）　http://www.enterbrain.co.jp/

ZST旗揚げ3周年記念特別企画　超人気者二人が揃い踏み!!

所英男、レミギウスのブレイクで注目度急上昇中のZST。しかし、会場人気ナンバーワンといえば、ZSTガール小野寺愛ちゃんに他ならない。選手の誰よりも声援を浴びる“ZST真の エース”が“世界の所さん”と共に『kamipro』登場！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森“モーリー”鷹博

design by さおとめの事務所



ZST“真のエース”がついにkamipro登場!!

ZSTのプリンス（GT－F王者）

所英男

HIDEO TOKORO

ZSTの女神（ZSTガール）

小野寺愛

AI ONODERA

——今日は〃世界の〃所さんと、ZSTガール小野寺愛ちゃんの〃超人気者対談〃として行なわせていただきます！

愛　〃世界の所さん〃って呼ばれてるんですか？（笑）。すごーい。

所　全然、世界じゃないんですけど……。

——そういう愛ちゃんも〃ZSTの女神〃と呼ばれてますからね。

愛　いえいえ、そんなぁ。

所　ホント、選手にとっては女神です！

——そんな〃女神〃であるZSTガールとの対談、昨年の尾藤ゆうちゃん（2代目ZSTガール）に続いて2年連続ですけど、いかがですか？

所　メチャクチャ嬉しいんですけど、小谷（直之）君の目がコワイな、と（笑）。

愛　え!?　なんで？

所　小谷君のブログのトップページに、僕と尾藤さんの対談が載った『紙プロ』に拳を突きつけた小谷君の写真が出てるんですよ（笑）。キラー小谷は怖いなと思って……。

愛　そうなんだ（笑）。

——でも、今日は所選手も薄々は感づいてると思いますけど、対談といいながら、主役は愛ちゃんですから（笑）。

愛　え!?　そうなんですか？

所　尾藤さんと対談したときも、ほとんど尾藤さんの写真ばっかりだったんで、そうだと思ってました（笑）。

上原（ZST広報）　愛ちゃんが有名になるための対談ですよね。

愛　すいません、なんだか……。

上原　だって、ガンツさんが今日持ってきた対談の資料も愛ちゃんのブログをプリントアウトしたものだけですもんね（笑）。

——はい。所選手の資料は何ひとつありません（笑）。

格闘技はちっちゃい頃から好きで、〃パイプ椅子〃とか見てたんですよ

ZSTガールはみんなキレイで毎回会場に行くのが楽しみです（笑）



愛　アハハハハ。

所　僕も聞きたいことがたくさんあるんで、いろいろ質問していいですか？

——ええ。もう、どんどん質問してください。今日は僕と所選手、ダブルの聞き手ということで（笑）。

愛　困る〜。

——ZSTファンもある意味、そっちを望んでいると思いますからね。だって、所選手はあらゆる雑誌にインタビュー出まくりで、正直、もう聞くことがなくなってきてますからね（笑）。

所　僕もしゃべることなくなってたんで、よかったです。

愛　アハハハハ。

——人気の面でも、ZSTの会場では選手を差し置いて一番人気。これは間違いないですよね？

所　いや、もう間違いないです！

愛　イヤ〜だぁ。私はそんなこと思ったこと、一度もない。

所　こういうところがまた……。

——こういう控えめなところが、たまらない？（笑）。

所　たまらないです（笑）。

——ZSTガールは、あの前田日明さんも絶賛してるんですよね？

上原　そうですね。「上原、お前あんなかわいい子、どこでみつけてきたんや」って言われましたからね。愛ちゃんのブログ見てるらしいですよ。

愛　ウソ〜！

上原、ホント、ホント。ウソじゃない。

所　それって凄いことじゃないですか！

——あの名前を覚えないことでは定評がある前田さんも、「小野寺愛」の名前はしっかりとインプットされてるわけですね（笑）。

愛　それは困ったな〜（笑）。私、へんなこと書けないですねぇ。

——まぁ、愛ちゃんなら大丈夫でしょうけど、へんなこと書くとホントに大変なことになりますからね（笑）。

所　ぷぷぷぷぷ（笑）。

——でも実際、愛ちゃんはあまりの大人気のため、ZSTガールって通常1年で交代なのに異例の2年連続になったんですよね。

上原　ファン、関係者、マスコミ皆さんに「続投させてくれ」って言われましたからね。

愛　応援してもらってホントに嬉しいです。もうZSTは仕事の一環じゃないみたいな感じ。自分のホームみたいっていうか、生活の一部になってますね。

——ブログでも、かなりZSTのことを書いてますけど、本当に格闘技が好きなんで



なぜか意味もなくリング上で小野寺愛ちゃんと吉田早希ちゃんの肩を抱いて記念撮影に収まる前田日明スーパーバイザー。ZSTガールの魅力は、こんな格闘技界の大物も虜にするほどなのだ



K-1 WORLD MAX～世界王者対抗戦～
10・12　国立代々木第一体育館
所英男 vs ガブリエル・リムレイ
（1R1分12秒、三角絞め）
魔裟斗、ＫＩＤ、元気が出場しないＭＡＸに“お茶の間の人気者”所英男が総合ルールで初参戦。総合を見慣れていない観客が多いため、試合中は会場が思いの他静かだったが、所がかつてリングスに一度出場（村浜武洋に敗退）したガブリエルを危なげな三角絞めでタップさせると爆発！　快勝で『Dynamite!!』出場を決定づけた。

すよね。
愛　大好き！
――それはいつから好きなんですか？
愛　ちっちゃい頃から。
所　え!?　ちっちゃい頃からなんですか？
愛　うん。私、男兄弟なんですけど、お兄ちゃんがよくテレビで見てたりして。それで一緒に見るようになってから、ずっと見てます。
所　どんな格闘技を見てたんですか？
愛　その頃は～、パイプ椅子とか。
――パイプ椅子！　格闘技にそんなジャンルはありませんよ！（笑）。
愛　あ、プロレスですよね（笑）。私が見たときって、そういう時代だった気がします。それからなんとなく、K－1とかやっているのをいろいろと見て……。
――〝パイプ椅子〟からK－1、そしてZSTにたどり着いたと（笑）。
愛　でも、〝パイプ椅子〟も凄く面白かったですよ。「アァ～！」とか言いながら見てましたから（笑）。
――誰か好きな選手とかいたんですか？
愛　誰だろう。とくに選手を気にして見てはいなかったですね。でも、ひとり挙げるとしたら、マーク・ハントとか（笑）。
――一番最初に出てくる名前がマーク・ハント（笑）。
愛　なんか凄く強かった時期ありますよね。どんなに打たれても倒れないとか。そういうところが凄く好きで。
――打たれ強い男が好きと。所選手って打たれ強くは……。
所　打たれ強くはないですけど、言葉で打たれるのはけっこう強いです（笑）。
――言葉のMですか（笑）。愛ちゃんはZSTガールになる前、ZSTのことは知ってたんですか？
愛　最初は知らなかったんです。でも、ラウンドガールの話があって、オーディションで決まったんですけど、私は「絶対受かる！」って思ってましたね。
――目に見えない縁というか、予感があったと。
愛　はい。周りにもいっぱいキレイな子がいたんですけど、なんか受かると思ってました。で、じつは業界で初めてのお仕事だったんで、凄く嬉しかったです。
所　最初は『ZST・GP』のときだったんですよね。
――さすが〝ZSTガールウォッチャー〟、よく覚えてますね（笑）。
所　あのときから（ZSTガールの）コスチュームも変わったんで、「キレイだなぁ～」って思ってた印象がありますね。ただ、大石（真丈）さんと闘う前だったんで、集中しなきゃいけないのに、目が行って困りましたけど（笑）。
――邪念が頭を支配してしまいそうでしたか（笑）。あれから2年近く経ちましたけど、最近はZSTもどんどん注目度が増してますよね。
愛　ですねぇ～。所選手が活躍してくれたから。
所　やっぱりレミギウスと小谷君のおかげで……。
――それ、もの凄く嫌味に聞こえますよ（笑）。
所　あ、じゃあレミギウスと一緒にZSTをアピールできたかな、と。
――愛ちゃんはラウンドガールの仕事があるZST本戦以外にも、ZSTの選手が出る大会は、けっこう観に行ってるんですよね？
愛　そうですね。行ける試合は。
――で、しっかり楽しんでる感じがするん

ですけど。

愛　メチャメチャ楽しんでます（笑）。もう声出して応援しちゃって。

―一番お気に入りの選手は誰でしょうか？

愛　ZSTの選手ですか？

―じゃなくてもいいですけど。

愛　所選手は、まだZSTの選手なんですよね？

―アハハハハ。どうなんですか、上原さん。

上原　まぁ、どうでしょうね？　いちおう、次の大会まではZSTの選手だと思いますけど。

愛　次の大会まで？（笑）。

所　いや、僕はもう、生涯『ZST』です！

愛　オオォ～。でも、ZSTでも大きな大会でも、どっちでも頑張ってもらいたいですね。

―で、愛ちゃんの好きな選手は？

愛　じつは私、ずっと小谷選手を応援してたんですよ。いまも頑張ってもらいたいって気持ちは変わらないですね。

―昔のZSTガールインタビューを読んだら、「私は強い選手が好きなので小谷選手を応援してます」という愛ちゃんの発言を発見したんですよ（笑）。

愛　そうなんですよね（笑）。

―その頃は所選手が弱く見えたと（笑）。

愛　そんなことないですよ～。強かったと思うんですけど、その頃、（ZSTガールの）みんながみんな、所選手が好きだったんですよ。

所　オオォ～。もっと早く言ってくれれば……。

ニューヒーローになって所選手はやっぱり顔が変わったと思う（愛）

愛　ホントにみんなそう言ってたんですよ。

―それであえて、小谷選手。

愛　そう。その頃、強いって言われてた小谷選手に、ハイ（笑）。

―と、愛ちゃんは言ってますけど、所選手は歴代ZSTガールで誰が好きなんですか？

所　いやぁ～、みんなキレイで。毎回、会場に行くのが楽しみです。

愛　アハハハハ、なんだソリャ？

―でも、そういう選手は多いと思いますよ。この前の『SWAT!』（ZSTのセカンドステージ）で出場選手と私服姿のZSTガールで集合写真撮ってましたけど、メチャクチャ楽しそうですもんね。あんなアットホームな雰囲気はZSTだけだと思いますよ。



昨年3月に行なわれたZSTのフェザー級グラップリング・トーナメント『GT－F』で、所は今成正和、若林太郎、大石真丈、松本天心ら軽量級の蒼々たるメンバーが揃う中、下馬評を覆し見事優勝！　その後の大ブレイクを予感させる活躍を見せた。なお11・23『ZST・8』はこの王座防衛戦が行なわれる。

HIDEO TOKORO

愛　嬉しいですね。

所　実際、そんな感じありました。大会当日にマネージャーの人が「（ZSTガール）みんな来るから」とか言ったら、選手がみんな「オォ～～！」ってテンション上がっちゃって（笑）。

愛　でも、ああいう選手みんなと写真撮ったのって、ホントに初めてだったんですよ。

―たまたまサービスです（笑）。

―でも、あの楽しそうな写真を愛ちゃんのブログで見て、「チクショ～、楽しそうにしやがって！」と思った人、多いと思いますよ。ボクもそうですけど（笑）。

愛　ウフフ。

所　ああいうのいいっすよねぇ。ZST出ていて良かったなぁ～って。

愛　アハハハハ。適当だなぁ～。

―いやぁ、なんか青春だな～っていうか、ZSTってある種、高校の部活みたいな感じあるじゃないですか。

所　ああ、そうっすね（笑）。

―だから最近、所選手とかレミギウスが『HERO'S』で活躍してるのって、なんか弱小だと思われてた高校の野球部が、あれよあれよと甲子園に出て強豪校倒しちゃったみたいな感じがして。

愛　うんうん。そうかもしれない。

―で、ZSTガールっていう、かわいい〝野球部のマネージャー〟がいるわけですからね。

所　素晴らしいですね。僕の実際の高校時代は甲子園にかすりもしなかったですけど（笑）。

愛　野球やってらしたんですか？

所　ええ。

上原　いま頃、そんなこと言ってる（笑）。

愛　アハハハ。

―所選手にはあまり興味がないのがよくわかりますね（笑）。

愛　いや、そんなことないです。岐阜出身っていうことは知ってますから。それと……あとは……う～ん（笑）。

所　いや、それだけ知っててもらえれば光栄です（笑）。

―だから、ZSTってそういう感じで、イベント自体がドラマの舞台になってるというか、選手たちの〝青春群像〟になってますよね。

愛　ああ～、いいこと言いますねぇ。

―ありがとうございます。

上原　ガンツさん、なんかメチャクチャ嬉しそうですよ（笑）。

―（無視して）で、その原動力となったのは、所選手だと思うんですけど。あの7月の『HERO'S』は愛ちゃんも会場に行ったんですよね？

愛　行きました。

―どうでしたか？

愛　メッチャ興奮しました。立ち上がりましたもん。「ワァ～！」とか言って。しかもそこの席の周り、誰も立ってないのに（笑）。こんなに声出したの初めてというくらいに、メチャメチャ応援しましたね。

―それこそ〝自分の学校の選手〟を応援するみたいに。

愛　ねぇ～。ただZSTで試合を観てるときって、あんまり「どっち応援しよう」と思っては観ないじゃないですか。

―そりゃそうですね。ラウンドガールが偏った応援してたら問題ですもんね（笑）。

愛　だから、そういう別のところに行って





AI ONODERA



応援する人がちゃんと決まったときには、やっぱり観てても凄く集中しますね。

——でも、所選手がこんなふうになると思ってました？

愛　全然思わなかったです。なんか、相手が凄く強い選手って聞いてたんですよ。だから「あ～あ」とか思って（笑）。

——それが大金星を挙げたわけですからね。

愛　ニューヒーロー！

所　いや、全然実力が追いついてないんで、そろそろヤバイなってていう気がするんですよね。もうボロが出てるんじゃないかと。

愛　そんなことないですよ。

——愛ちゃんから見て、ヒーローになってから所選手はちょっと変わったりしました？

愛　どうだろう。でもやっぱり顔は違うと思う。

——男は顔が変わると。女性はよく見てますね。

所　ああー。

——急に態度が大きくなったりとか、そういうのは？

愛　ない……と思います（笑）。

所　まぁ、あんまり普段接してないんで、わからないとは思うんですけど。

——素顔の所英男はあまり知らないと。

愛　ホントはどんなキャラなんですか？

所　聞かないほうがいいですよ（笑）。

愛　アハハハハ。そうなんですか？

——所選手の素顔は『紙プロ』バックナンバーをご覧ください（笑）。素顔はともかく、所選手が変わった姿を11月23日、ZSTのファンにぜひ見せてほしいですね。

所　はい。やっぱこないだ9月に初めてZSTを休んで、改めて「僕はZSTに出たい男なんだな」っていうのがわかったんで、頑張ります。

これからは好きなタレント欄に必ず「小野寺愛」って書きます！



次が最後のZSTガールかもしれないけど、これからもよろしくお願いします

HIDEO TOKORO

1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。本拠地であるZSTには旗揚げから参戦。そのグラウンド・テクニックと試合内容には定評があったが、7・6『HERO'S』での修斗世界王者ペケーニョ戦勝利で大ブレイク。大晦日の『Dynamite!!』では、大物選手との対戦が予定されている。170cm、65kg。

AI ONODERA

1984年8月31日、神奈川県出身。サイズ：T156 B83 W60 H82 S24。血液型O型。"ZSTの女神"として、ファン、選手、関係者から絶大な人気を誇るZSTガール。キュートな写真満載のブログは必見！
小野寺愛グログ
Purity http://blog.livedoor.jp/ai_onodera/

——やっぱり所選手がいるといないのじゃ、ちょっと違いますよね。

愛　違いますね、全然。

——しかも、今回はGT－F（ZSTのグラップリング王座）のタイトルマッチですからね。

所　もう生まれて初めてのタイトルマッチなんで、絶対勝ちたいです。

愛　タイトルマッチってなんですか？

——ズコッ！　タイトルマッチを知らない（笑）。

愛　ダメですね、こんなのがZSTガールやってちゃ（笑）。

——かわいければ、全然オッケーですよ！　ねぇ、所選手。

所　まったく問題ないです（笑）。

——ちなみにタイトルマッチっていうのは、チャンピオンベルトを懸けた闘いのことです。

愛　そうなんですかぁ。

——GT－Fっていうのは、所選手にとっても思い入れがあるんじゃないですか？

所　そうですね。去年のGT－Fトーナメント（3月開催）で今成さんと矢野さんがZSTからいなくなって、「これからは自分たちで頑張らなきゃ」っていうのが、結果的にいまにつながってると思うんで、はい。

——11・23はそういう意味でもZST3年間の集大成ですよね。ただ、当日はZSTの年内最終戦ですから、ZSTガールも今回で卒業なんじゃないかと心配してる声もあるんですけど、どうなんですか？

愛　まだわからないですね。どうなんだろう。

——じゃあ、もしかしたら、愛ちゃんの〝ラストZSTガール〟になる可能性もあると。

愛　そうですねぇ。

——これは愛ちゃんファンは絶対、見逃せない大会ですね！

上原　僕らとしても、まだまだ続けてほしいんですけど、愛ちゃんにはもっともっといろんな分野で活躍してほしいとも思ってますから。まぁ、売れてからも1回ぐらいはなんとかやってもらって。

愛　よろしくお願いします。

——いやぁ、愛ちゃんには所選手に続いて、ZSTが生んだ全国区のスターになってほしいですよね。

所　ホントそう思います。僕もこれからプロフィールの好きなタレントの欄、「佐藤江梨子」から「小野寺愛」に変えます！

上原　そうだよ。そうしよう！

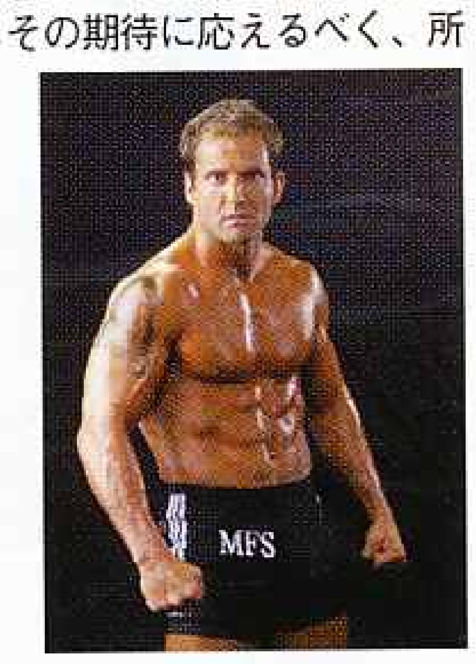
愛　アハハハ、そうしようって（笑）。

——では、所選手と愛ちゃんのさらなる飛躍を期待してます！

【05年10月25日／代々木上原・リバーサルジムにて収録】

チケット完売！　11・23『ZST・8』所の対戦相手はMMA14戦無敗の男！

所英男、大ブレイク後、初の"ZST凱旋マッチ"となる、11・23『ZST8　旗揚げ3周年記念大会』は、なんと前売りでチケット全席完売！"世界の所さん"の人気と期待の大きさがよくわかる現象だが、ZSTもその期待に応えるべく、所の持つグラップリング王座、GT－F選手権のタイトルマッチ開催を発表。注目の対戦相手はMMA14戦無敗を誇るジェイソン・ラインハート（写真）に決定した。



総合ではなくグラップリングの試合とはいえ、大晦日に大勝負を控える所としては、絶対に負けられない試合。"リトアニアの寝技王"所さんの華麗なグラウンド・テクニックに期待しよう！

ZST・8 旗揚げ3周年記念大会
Zepp Tokyo

11月23日（水・祝）　16：30開場　17：30開始

［決定カード］
GT－F王座防衛戦
所英男vsジェイソン・ラインハート

［問い合わせ］ZST事務局　03-5388-0808

さようなら『紙のプロレス RADICAL』記念福袋！

『紙のプロレス RADICAL』から『kamipro』へ……。時代の変遷を踏まえ、前向きなリニューアルを敢行中の本誌だが、同時に、旧『紙のプロレス』、そして『紙のプロレス RADICAL』に思い入れの強い読者からは、『紙のプロレス』の誌名を惜しむ声も寄せられている。そんな『紙プロ』好き世代へ、『紙のプロレス RADICAL』最後のオリジナルグッズの限定福袋販売が決定！ その内容は『紙のプロレス』のオリジナルラグランTシャツの復刻版！ そして『紙のプロレス RADICAL』のロゴやNo.01からNo.91までの「すべての表紙キャッチコピー」がデザインされた巨大特製バスタオルだ！ この2種のオリジナルグッズ（福袋での限定販売）が必ず入って、そこへ様々なグッズが加わった総額2万円相当！ 値段は送料込みでジャスト1万円！の豪華な“福袋”として販売決定！ Tシャツのサイズ（S、M、L、XL）に合わせ、各サイズ30袋のみ、限定120名のみの販売となる。プレミア化は間違いなしのこの限定商品！ 販売方法は電話での通販受付と携帯サイトの注文シートにて。この機会を逃したら二度と手に入らない最終かつ最大のグッズを君も手に入れよう！

（福袋での限定販売）

1 『紙のプロレス RADICAL』巨大特製バスタオル

『紙のプロレス RADICAL』ロゴマークと「リングおじさん」マークそして、なんと言ってもNo.01からNo.91までの「すべての表紙キャッチコピー」がバックにデザインされたプレミア商品だ。





＋

大人気をはくしたオリジナルラグランTシャツの復刻版がいよいよ登場！ おなじみ「リングおじさん」のマークが入った大人気商品の完全復刻版だ！ 販売時にはTシャツのサイズ（S、M、L、XL）指定をお忘れなく。



2 『紙のプロレス RADICAL』オリジナルラグランTシャツ

（福袋での限定販売）



＋

3

その他、福袋には衣料部プロデュースのあんな商品、こんな商品が満載！ 総額2万円以上!! 価格は1万円（送料込み）というオトクすぎる値段設定。これはもう注文するしかない！



“最後のオリジナルグッズ”が 福袋として 限定販売！ 限定120袋

なんと総額は2万円相当！ → 10,000円（送料込、税込）

別途代引手数料315円かかります

さらにTシャツのサイズ（S、M、L、XL）が指定可能！

各サイズ30袋のみ× 各サイズ4種 （全120袋限定）

※ 注文の締め切りは、12月10日（土）まで。 ※ 注文の発送は12月20日（火）以降になります。

通販のお問い合わせ
（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1795
受付時間：15時～22時
販売元：（株）ダブルクロス

アクセス方法						
DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶	紙のプロレス Hand ▶	紙プロ ショッピング
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶		
vodafone	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶		

12・5「藤原祭り」開催&『Kamipro』藤原敏男Tシャツ発売記念

日本キック界が生んだスーパースター、藤原敏男。ムエタイの歴史に真っ向から斬り込み、外国人初のラジャダムナンスタジアム王者に輝いた男は、現役時代から数々の伝説を残している。141戦126勝（99KO）13敗2分という驚異的な試合数をこなした後引退、現在は指導者として藤原スポーツジムを主宰。『Kamipro』では、指導者であり初代タイガーマスク・佐山サトル皇帝の親友として頻繁に登場している先生の伝説を、あらためて検証。藤原敏男を知らない格闘技ファンと、藤原敏男に心酔する信者たちにあらためて贈る〝伝説〟の数々。これを読めば、あなたも鉄柱が蹴りたくなる！



練習で泣いて試合で笑え！
蹴神降臨 藤原敏男伝説

designed by Tani-yan(Two Three)

構成／ささきぃ　写真協力／松永秀夫　協力／山田英司、全日本キックボクシング連盟

★1年に21試合闘ったことがある

1970年1月6日、デビュー5戦目となるフェニックス山口戦を皮切りに、この年ドトウの21戦をこなした藤原先生。結果は全戦全勝、判定はわずか5試合のみで残りはすべてKO！　スゴイ……。ちなみに、翌年は少し減って17戦。それでも多いよ。

★足の手術後、治っているかどうか確かめるために小山から東京まで走った

1975年5月の佐藤正信戦で左スネを痛めた藤原は、前脛骨筋の手術で1カ月半入院。病院を抜けだし、治っているかどうかを確認するために栃木県・小山から東京まで100キロを激走！「走れなかったら引退しようと思っていた（藤原）」。見事完走、10月にはタイ人と闘っている。

★1日8時間以上練習していた

「サラリーマンは1日8時間仕事してるわけだろ。キックボクサーはそれが仕事なんだから、1日8時間練習して当たり前」という、黒崎理論を実践。だが、8時間だけではなく残業も毎日、休日もなしという、どう考えても労働基準法を大きく逸脱した練習ぶり。「試合の日はランニングしなくていいんだから、本当に楽だった（藤原）」。試合翌日からまた練習スタート。足をケガしていたら鏡の前に座ってパンチの練習を行なう。

★ビルの外壁にロープをたらし、それを昇る練習をしていた

つい最近発覚した練習方法。サンドバッグが吊された丈夫な柱にロープをつなぎ、ビルの外壁（4F）に垂らしてそれを昇るらしい。「下にはビール瓶を割ったやつを撒いて、落ちないようにするんだよ（藤原）」。事実かどうか、当時の黒崎ジムを知っている数人の関係者に確認したところ「自分は初めて聞いたが、あのジムならやりかねない」という回答だったので、いちおう掲載。現在、ビルの5Fに所在する藤原ジムで実践されないことを祈る。

★キックだけで試合に勝ったことがある

「『今日は左足だけで勝て』とか、そういう指令が黒崎先生から来るんだよ。『どうやってですか？』って聞くと『バカ野郎、自分で考えろ』って。しょうがないから、ずっと右足だけで立つ練習やってから試合に出たよ（藤原）」。結果、本当に左足のキックだけで勝利。そして指令は続く。

★佐山サトルとメール交換をしている

楽しそう。けっこうマメらしい。

★鉄柱を蹴る練習をしていた

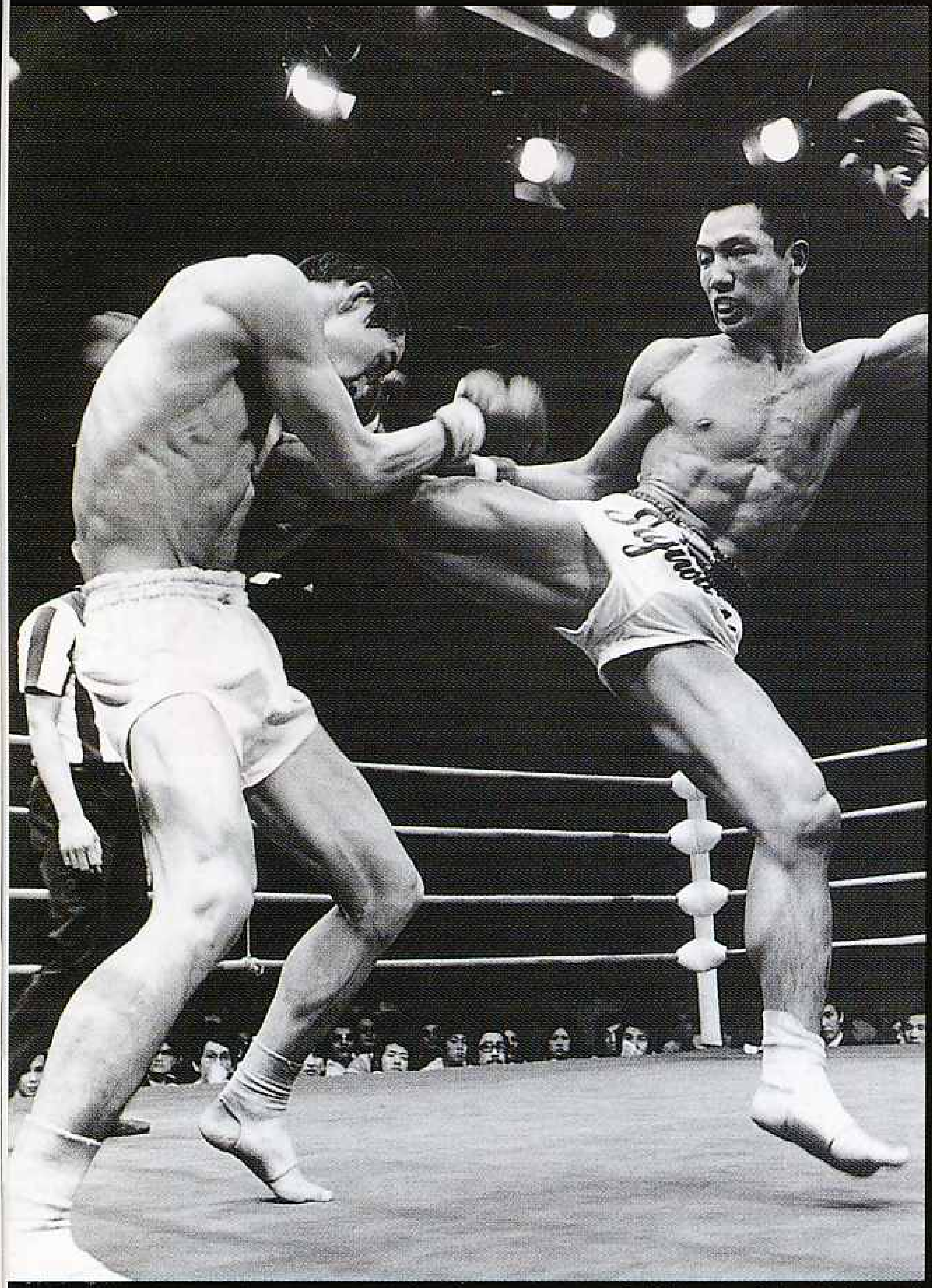
藤原敏男マニアにはいまさら言うまでもない、スネを鍛える鉄柱蹴り練習。最初は柔らかいタイヤ、乗用車のタイヤ、コーナーポストの鉄柱、最後は四角い鉄柱を蹴る。「5、6メートル離れたところから思い切り蹴り飛ばすんだよ。『鉄だろ、相手は』ってことを言いたいんだろ？　そう思ったら負けてるんだから。『よし』って思ったら十中八九、骨は折れないよ」。

★現在は痛風に悩まされている

「こないだ、ジムに行ったら先生が『走ってくる！』って言って、サウナスーツ着てランニングに出ていったんですよ。さすがだなぁって感心してたら、翌日、汗かいたって痛風の発作が出ちゃって。うふふふふ（佐山）」。痛がる先生の足に、わざとカバンを落としたりするのが楽しいらしい。

★風速45メートルの台風の中、ランニングを行なっていた

これも現役時代のエピソード。いかに黒崎先生の教えが絶対かということがわかる。「ぜんぜん前に進まない」らしい。ちなみに、風速25メートル程度の台風で屋根の瓦が飛ぶので、屋外に出るのは非常に危険。



写真は1974年7月26日、後楽園ホールで行われた中村省三戦。若くて無名だが実は強くて捨て身で向かってくるという、対抗戦で一番闘いたくないタイプをぶつけられた藤原敏男。藤原は強烈なミドルで徹底的に心を折り、5RKOで葬り去った。

★キックをやる前はテニスをやっていた

皇太子さまと美智子さまがテニスで愛を育てて結婚したのを見て「俺もテニスやるぞ！」と決意したという。ちょっと、意外。

★車を運転しているあいだもトレーニングを行っていた

前に車が走っていると「格闘技は前に出なきゃダメだ。追い抜け！」という黒崎先生のゲキが飛び、イッキに5台抜いたりしていた。その中にパトカーがいて捕まったこともあるが、そのときはさすがに「バカ野郎！」と怒られたという。

★酒を飲んだ翌日、見知らぬホテルの前で寝ていた

「18、19の頃は毎晩一升酒を飲んでいた」という藤原先生。キックを始めてからは酒を断ったが、引退後の大トラ伝説は「同窓会の翌日、気が付いたら見知らぬホテルの前で寝ていて、身体に刺し傷があった」「返り血らしき血にまみれたシャツを着ていた」「店のトイレを破壊した」「帰ろうとした佐山サトルの首筋をハイキックで一撃」など、数知れない。伝説を語り継いでいるのは、当然ながら佐山サトル皇帝。

★マンホールは踏まない

「『道場にいる時だけが稽古じゃない』って言われてたんだよ。ビルを出た瞬間に敵が上からブロックを投げるかもしれないから、出る瞬間にサッと上の気配を感じて、左右を瞬間に見て判断して、それから出るとか。ワナがあるかもしれないから、マンホールは踏むんじゃねぇ、とか、路地からサッと敵が出てきたらどうするんだとか、そんなことばっかりやってた（藤原）」。キックボクサーというより、ゴルゴ13の世界である。

★KO率7割！

141戦という驚異的な試合数を行なっていながら、KO率は7割！　藤原道場の〝修行僧〟前田尚紀がKO率5割を超えていることを誉められた際、藤原先生は「何言ってんだ、俺なんか7割だよ！」と、大人げなく言い返した。弟子が誉められてるのに……。

藤原敏男Tシャツ発売決定ーッ!!
藤原イズムを着用せよ!!



スーパースター・藤原敏男Tシャツを『Kamipro』が作成！　藤原敏男がタイ国・ラジャダムナン王者に輝いたときのポートレートと、1974年の名勝負・中村昌三戦の一戦で放った右ハイキックがプリントされた限定Tシャツ。中央には、ジムで弟子たちにゲキを飛ばす現在の藤原先生の姿（木刀つき）。虎は親友の佐山サトル皇帝＆猛獣さえも先生の前では従順な猫のようになってしまうという意味が込められている。

通販方法

★藤原敏男Tシャツ
ホワイト×ブラック
S・M・L・XL
¥3990（税込）
数量限定100枚!!　購入はお早めに!!

★『Kamipro』通販および、全日本キック会場のみの販売となります。会場では12月5日『藤原祭り』後楽園大会から発売開始!!
★『Kamipro』通販の方法はP111を参照！　携帯サイト『Kamipro Hand』でも購入できます!!

※通販の発送は12月初旬からになります。
販売元：(株)ダブルクロス

“蹴神”藤原敏男伝説はまだ終わらない！
12・5『藤原祭り』に参戦決定!!



10月26日に行われた記者会見で、藤原先生へ強引にタイガーマスクを贈呈する佐山サトル（右）。普段は仲良しな2人だが、敵対するとどんなファイトを見せるのか？

12/5（月）全日本キック
『Fujiwara Festival ～藤原祭り』

今年で3回目の開催となる『藤原祭り』に、“鉄人”藤原敏男がエキジビジョンで参戦！　昨年特別レフェリーを務めた藤原喜明組長と、合計113歳の藤原タッグを結成。佐山サトルのパートナーには、“世界一性格の悪い男”鈴木みのるの参戦が決定ーッ！　エキジビジョンの限界に挑戦しつづける『藤原祭り』だが、その他カードも注目。初参戦のTURBOが藤原の愛弟子・前田尚紀と激突、メインは小林聡が強豪タイ人を迎え撃つ！

会場　東京・後楽園ホール
試合開始　18:30

決定対戦カード

［スペシャル・エキシビジョンマッチ］
藤原敏男&藤原喜明 vs 初代タイガーマスク&鈴木みのる

［メインイベント／日本・タイ国際戦5R］
小林聡 vs タイ国強豪選手

［全日本スーパーフェザー級王座決定トーナメント・準決勝］
前田尚紀（藤原ジム） vs TURBO（FUTURE_TRIBE ver.OJ）

［出場予定選手］
桜木裕司（掣圏会館）、小松隆也（建武館）、大輝（JMC横浜GYM）、凱斗亮羽（S.V.G.）、上杉武信（藤原ジム）

［お問い合わせ］全日本キック 03-3365-1171

ヒマでモテない読者に捧ぐ!!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって変えさせていただきます（賞品は12月15日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦去年の大晦日はどのTV番組を中心に見ましたか？　今年は何を中心に見ますか？　⑧マット界にまつわる川柳を一句!!

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「DOKUPURE Axis」係まで
※締切は2005年12月15日（木）当日消印有効

kamipro 093 応募券
読み方は「アクシス」

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

PRIDE

各1名様

■HP***http://www.prideofficial.com/

"萌え～。"サイン



"キター（゜∀゜）ーッ!!"サイン





ジョシュ・バーネット

マット界を代表するオタク中のオタク、ジョシュ選手が『kamipro』読者だけに素敵なサインを書いてくれました。3、2、1、う～ジョッスル、ジョッスル! ジョシュ最高だー!!　【ジョシュ・バーネット提供】



ジョシュのサイン入り『電車男』



PRIDE.30記念バッジ

PRIDEナンバーシリーズ30回目を記念してDSEから『PRIDE.30』記念バッジをプレゼント!　これであなたも今日から"STARTING OVER"!!【DSE提供】

10名様

U-STYLE Axis

2名様

■U-FILE CAMP HP***http://www.u-filecamp.com/



田村潔司&イリューヒン・ミーシャ

田村&ミーシャのサイン色紙

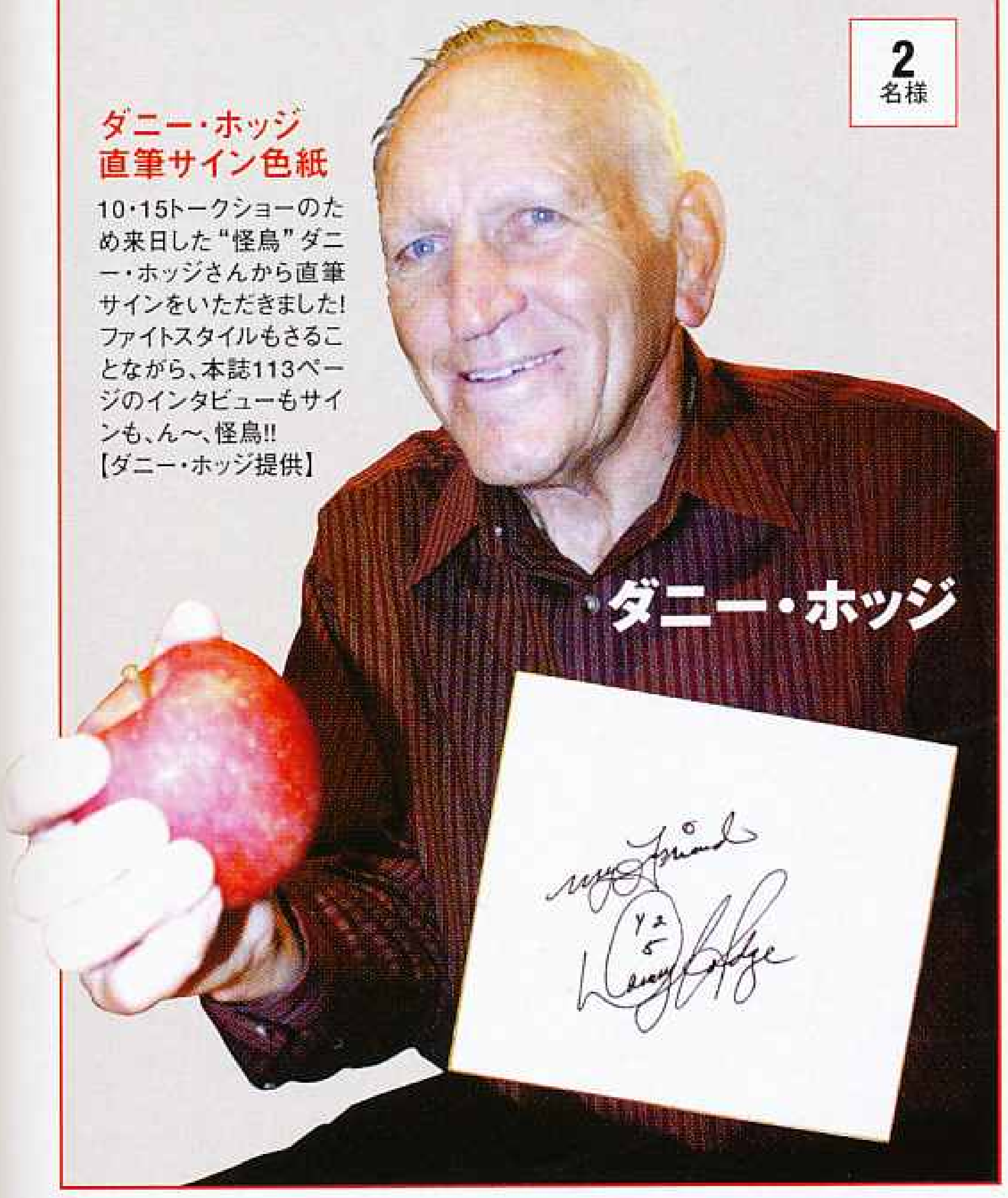
11・23『U-STYLE Axis』でリングに上がる田村選手&ミーシャ選手からコラボサインをゲッツ! ミーシャ選手の謎の「!!!」マークに合わせて、田村選手も「!!!」をプラス!　……なんだかわかんないけど、これは貴重だ!!【田村&ミーシャ提供】

DANNY HODGE

2名様

ダニー・ホッジ直筆サイン色紙

10・15トークショーのため来日した"怪鳥"ダニー・ホッジさんから直筆サインをいただきました! ファイトスタイルもさることながら、本誌113ページのインタビューもサインも、ん～、怪鳥!!【ダニー・ホッジ提供】



ダニー・ホッジ

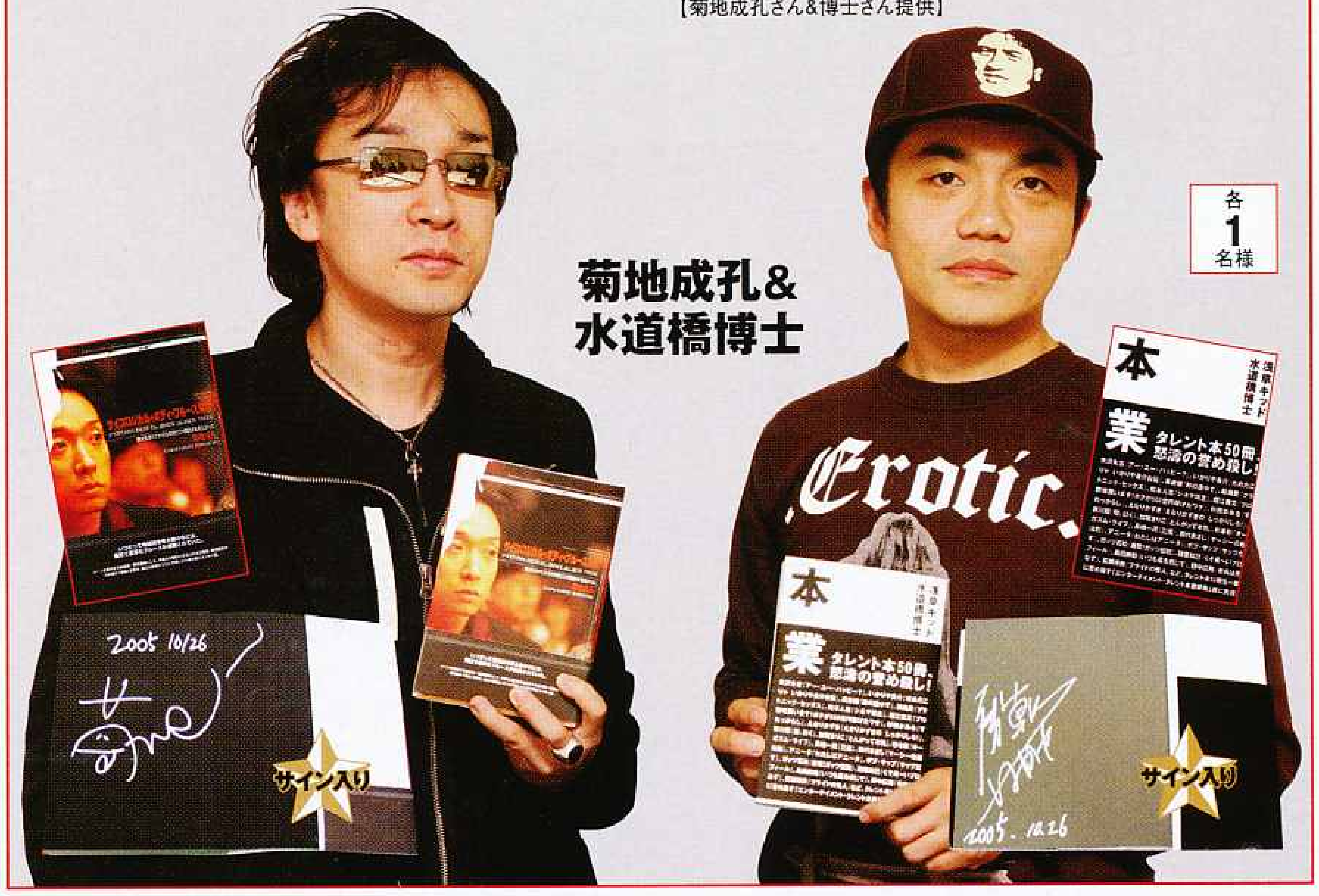
SIGN BOOKS

■菊地成孔HP***http://park10.wakwak.com/~kikuchic/
■浅草キッドHP***http://www.asakusakid.com/

菊地成孔著『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍 僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった』（左）
水道橋博士著『本業』（右）

41ページで夢の対談を実現した菊地成孔さん&水道橋博士さんが絶賛発売中の著書『サイコロジカル～』『本業』にそれぞれサインを入れてプレゼントしてくださいました!　この2冊にマット界&芸能界を読め!!
【菊地成孔さん&博士さん提供】

各1名様



菊地成孔&水道橋博士

CD

■HP***http://www.universal-music.co.jp/



3 名様

WRESTLE HITS ¥3,000（税込）

プロレス&格闘技ファン待望の一枚!! キャプチュードやサンダー・ストームなど、入場テーマ全40曲を収録した『WRESTLE HITS』（絶賛発売中）が登場だ! これはもう、聞きまくるしかない!!
【ユニバーサルミュージック提供】

OGAWA DOJO

小川道場　設立記念グッズ

■HP***http://www.ogawadojo.com/





まとめて 1 名様

タオル&バスタオル&袋&Tシャツ

オーちゃんが、このたび茅ヶ崎に道場を設立（開設は06年1月7日以降の予定）。その記念に小川道場ロゴ入りの升とオリジナルグッズをプレゼント。升はひとつだけオーちゃん直筆サイン入り。どれが当たるかはハガキの熱意次第だ!! 【小川直也提供】Tシャツサイズ:L



5 名様

小川道場 設立記念の升

AJ-KICK

各 1 名様

■全日本キックHP***http://www.aj-kick.com/
■石川直生のブログ***http://blog.livedoor.jp/soruto_nt/

山本優弥Tシャツ

［カラー］パープル×グレー、パープル×ピンク





全日本キックで大活躍中の石川直生選手&山本優弥選手の新作Tシャツをご提供いただきました! 山本優弥Tシャツはグレーとピンクの色違いを1名様ずつあげちゃうぞ、コラッ!!【全日本キック提供】Tシャツサイズ:L

石川直生Tシャツ

BOOKS

■東邦出版HP***http://www.toho-pub.com/
■ネコパブリッシングHP***
http://www.neko.co.jp/index.php

各 1 名様



『トップに立てるワル 下っ端で終わるサル』桂歌蔵 ¥1,365（税込）

プロボクシングのC級プロライセンスを持つ“闘う落語家”桂歌蔵が、13人の武道家&格闘家に、人生において「勝つ」ための心構えを訊いた、珠玉のインタビュー集!!
【東邦出版提供】



『幸福論』須藤元気
¥1,800（税込）

格闘家でありながら、俳優・モデルとして活躍する須藤元気がついに書下しエッセイを刊行。“闘う哲学者”のお遍路紀行を読め!! 【ネコパブリッシング提供】

FIGURE

1 名様



ジョナサン・コーチマンのフィギュア

なぜか『kamipro』編集部の真下さん弟からジョナサン・コーチマンのフィギュアをプレゼント。というか、真下さんへのハワイ旅行のお土産を無理やり奪いました。おらっ! もらいやがれ!!
【真下義之の弟さん提供】

DVD

2 名様

■ハッスルオフィシャルHP***http://www.hustlehustle.com//
■メディアファクトリーTEL***03−5469−4880
■メディアファクトリーHP***http://www.mediafactory.co.jp/



「ハッスル」注入DVD2
約200分／¥5,040（税込）

ハッスル注入DVD第2弾!! ハッスル・ハウスVol.2～ハッスル7までのダイジェストほか、未公開乱闘シーンまで収録された一本。これを見てハッスルしまくれ!!【メディアファクトリー提供】

LUTADOR

■HP***http://www.lutadorfight.com/



1 名様

ルタドールオリジナルパーカー&タオル

DVDやTシャツをはじめ、さまざまな格闘グッズを販売しているLUTADORさんからオリジナルトレーナー&タオルをご提供いただきました! セットで1名様にプレゼント!!【LUTADOR提供】トレーナーサイズ:M

GAME

■エレクトロニック・アーツTEL***03-6229-8800
■BEAT DOWN公式サイト***
http://www.capcom.co.jp/beatdown/

1 名様



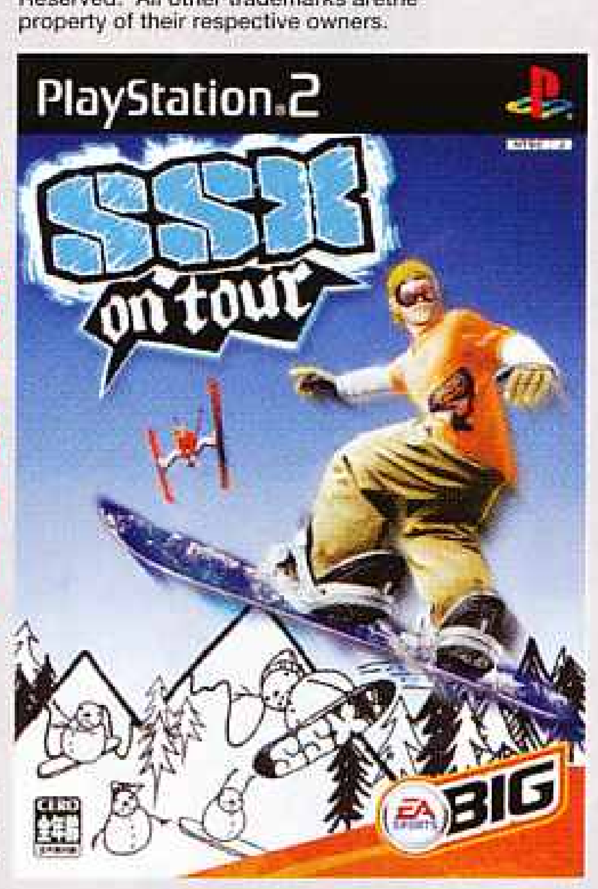
PS2『BEAT DOWN』
¥7140（税込）

2 名様

CAPCOMから現在好評発売中（11月2日発売）のアウトロー・リベンジ・アクションPS2『BEAT DOWN』をプレゼント!! Xboxも同時発売中! 【CAPCOM提供】

PS2『SSX On Tour』 ¥6090（税込）

11月24日に発売予定のPS2『SSX On Tour』をご提供いただきました。現実ではありえないハイレベルなトリックを誰でも簡単に繰り出せる、大興奮スポーツゲームだ!! 【エレクトロニック・アーツ提供】



MOVIE GOODS

1 名様

■HP***http://www.tokyo-zombie.com/



東京ゾンビ

浅野忠信、哀川翔をはじめとする豪華キャスト、花くま先生原作とあらば、も～う見るしかないっしょ!!

12月 シネセゾン渋谷、テアトル梅田ほかロードショー



東京ゾンビ オリジナル キーホルダー

『kamipro』でもおなじみの花くま先生原作の『東京ゾンビ』がついに映画化! 窓口で配られる宇宙百貨オリジナル☆フジオミツオキーホルダーを特別に『kamipro』読者にご提供いただきました!! 【トルネード・フィルム提供】

立ち技最強は……自分で決めろ!!

K-1 WORLD GP 2005

『K―1 PREMIUM 2004 Dynamite!!』や、『K―1 WORLD MAX 2005～世界王者への道～』など、K―1関連のゲームを数多く手掛けてきた株式会社ディースリー・パブリッシャーが、新たに『K―1 WORLD GP 2005』を発売！

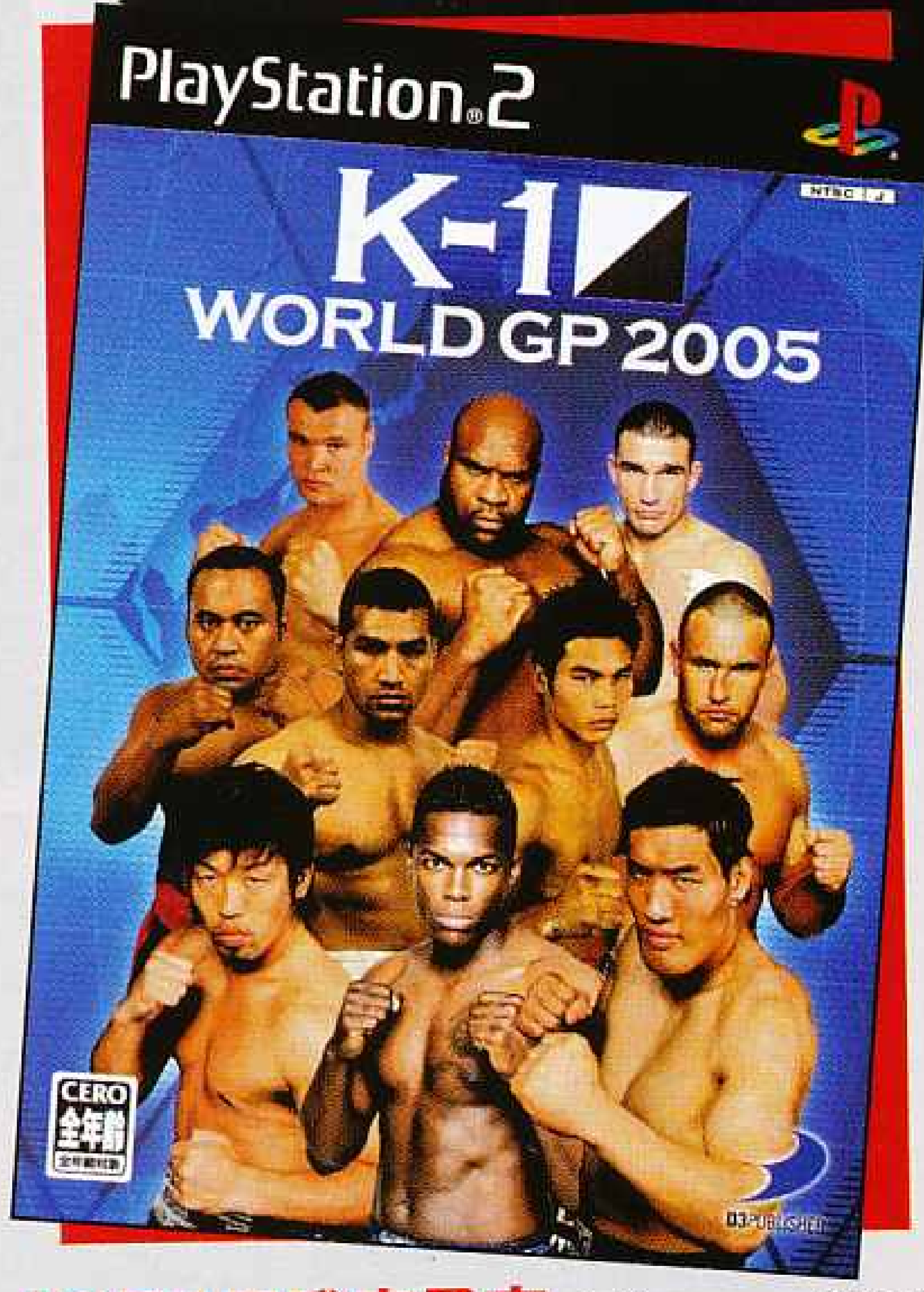
今号のkamipro発売日は11月19日と、まさに今年の『K―1 WORLD GP 2005』が東京ドームで開催される日でもある。一回戦からジェロム・レ・バンナvsピーター・アーツなど好カードが続出の今年のGPであるが、やはり一番の注目はデビュー以来負けナシの〝韓国の大巨人〟チェ・ホンマンの存在だろう。はたして今年のGP王者は誰になるのか？　そのへんはテレビや会場でチェックしてもらうとして、今回のゲーム版『K―1 WORLD GP 2005』のほうも、現実のK―1の世界に負けず劣らずの出来栄えなのだ。

もちろん、今年のK―1を席巻したホンマンも必要以上に忠実に再現。あまりのデカさに時折画面からはみ出しそうになるのはご愛敬。ヘビー級戦士に卓越したスピードとテクニックで渡り合ってきたガオグライ・ゲーンノラシンだって、マトリックス殺法をしっかり身に付け登場だ。他にも曙、サップ、武蔵といった人気K―1ファイターが実名で20数名登場するというから驚き！　今年の戦績や得意技、選手の動きなども、これまでのK―1関連ゲーム同様、忠実に再現されているところが、ディースリー・パブリッシャー流である。う～ん、憎いね、コノ！

それだけではない。今回から新システム「アドレナリン・ゲージ」と「オーバードライブ・アタック」を採用。このシステムを簡単に説明すると、積極的な攻撃やダメージを受けることにより、プレイヤーの「アドレナリン・ゲージ」が上昇。このゲージが満タンになると、特定のコマンドで選手ごとに用意された強力な必殺技「オーバードライブ・アタック」を繰り出すことができるのだ。ゲージが満タンの状態であれば、一撃KO級の攻撃を受けても回避することが可能。このシステムにより、よりアグレッシブかつ、実戦さながらの奥深い駆け引きを楽しむことができるという優れた機能だ。これまた、憎いね！

さらに、3人でチームを組んでの団体戦モード、自分好みの容姿のK―1ファイターを育成することができる「カスタマイズ・モード」など、見どころ満載、やりどころ満載の仕上がりぶり。

はたして、立ち技最強は一体誰なのか？　ゴチャゴチャ言わんと、自分で決めればいいんや！　そういうことです!!



12月1日発売予定 価格：¥7140（税込）

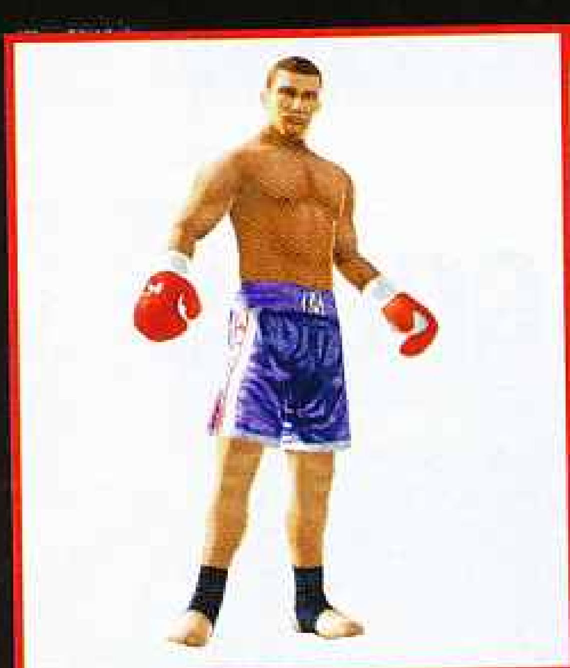
ボンヤスキーvs ホンマン、勝者はどっちだ？
（結果は各自調査）



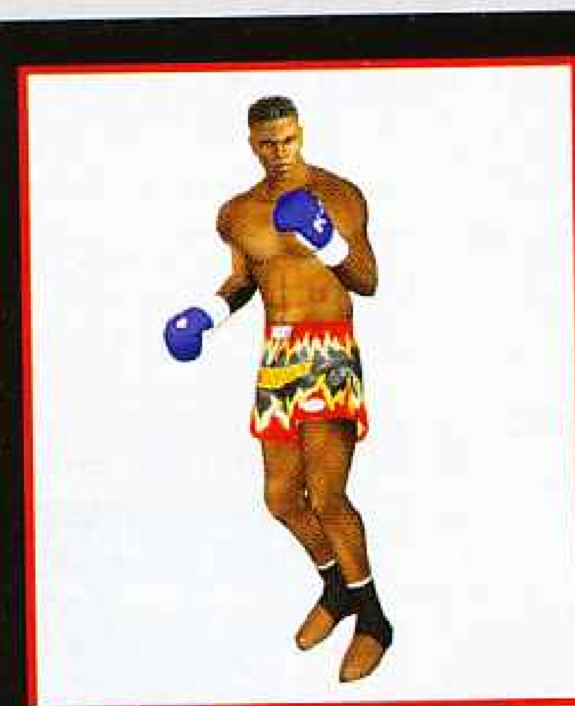
ーズ　が実名で20名も登場！

ジュロム・レ・バンナ


セーム・シュルト

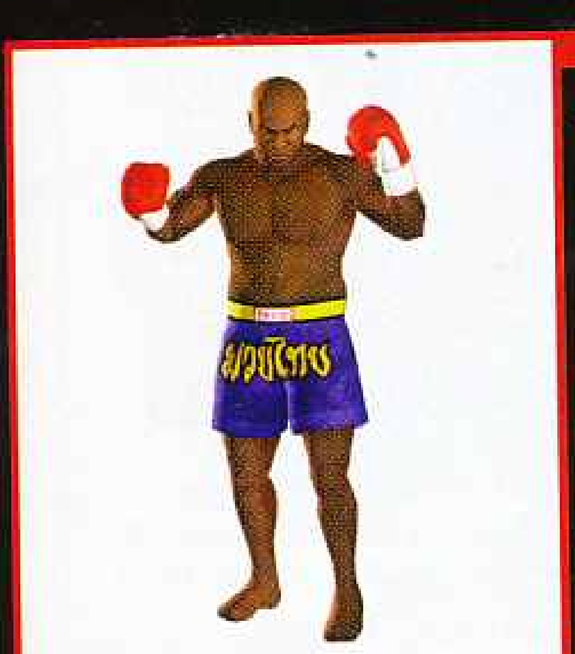

ピーター・アーツ

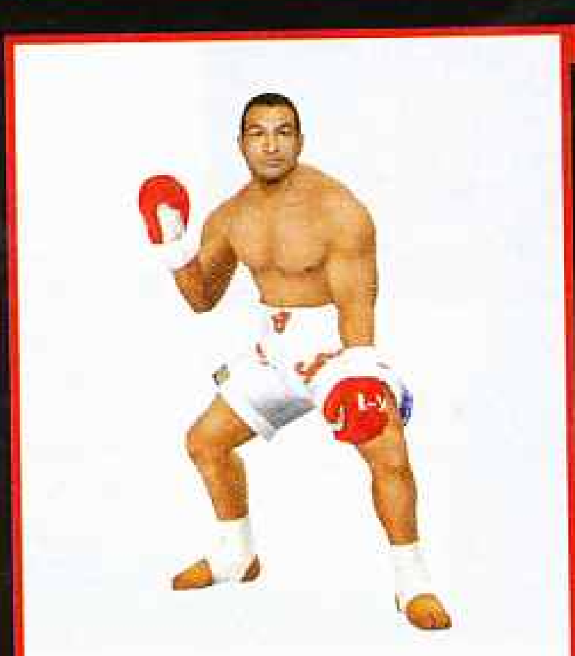

曙


レミー・ボンヤスキー

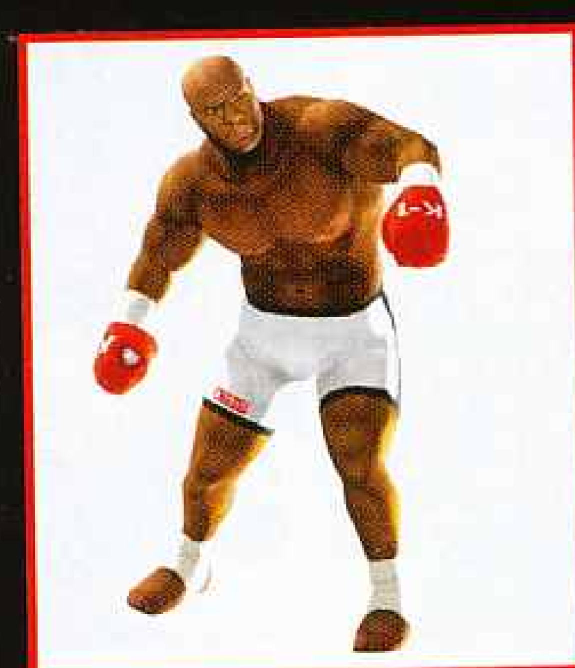

チェ・ホンマン

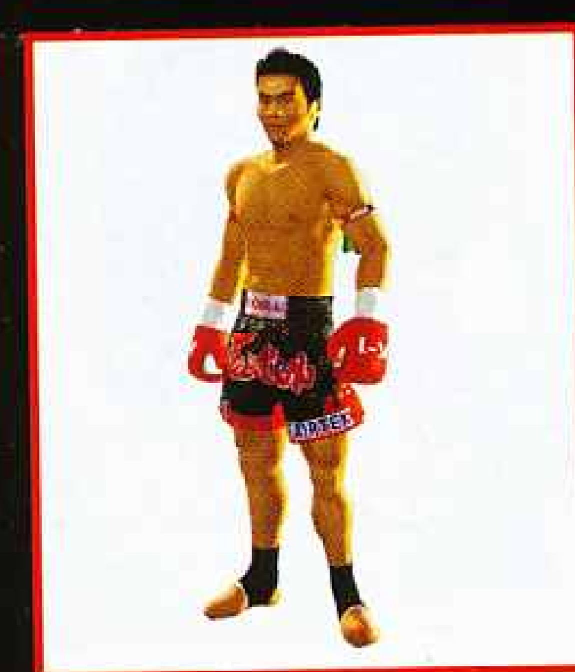
アレクセイ・イグナショフ


ゲーリー・グッドリッジ


レイ・セフォー


武蔵


ボブ・サップ


ガオグライ・ゲーンノラシン



見てみぃ、このよけっぷり！　今年のK―1シリーズで大活躍した“ムエタイ戦士”ガオグライ・ゲーンノラシンの秘技“マトリックスよけ”だって簡単にできちゃいます。相手のキックもパンチもガオグライになりきって、ヒョイヒョイよけまくろう！　当たり前の話ですが“マトリックスよけ”だけじゃ、試合には勝てませんよ！　残念!!

1 炸裂! オーバードライブアタック!!



武蔵が光る！　これが「アドレナリン・ゲージ」を溜めて溜めて「オーバードライブ・アタック」を出す瞬間の画面だ。必殺技が繰り出される場面では派手なエフェクトとリアルな質感表現によるド迫力画像が楽しめるぞ！



3 ガオグライのマトリックス殺法もお手のもの!

2 トーナメントはもちろん、チームバトルも可能!!

今作品では、トーナメント形式で闘う「ＷＯＲＬＤ ＧＰ」モード、次々に現われる相手を倒していく「アーケード」モード、自由に選手を選び対戦できる「スーパーファイト」モード、独自のオリジナル選手を作成する「カスタマイズ」モードの４つのモードが楽しめるぞ！

ここに注目! セールスポイント6連発!!



5 レフェリーも要チェック!?

選手はもちろんレフェリーだってリアルに再現！　どっからどう見ても岡林レフェリーですね。実況＆解説も谷川貞治イベントプロデューサーやフジテレビの三宅アナが実際の試合と変わらぬテンションでしゃべりまくりだ！

4 自分好みのファイターを作り、目指せK-1王者!





今年７月に発売された『K―１ＷＯＲＬＤ ＭＡＸ2005』のゲームでも好評を博したカスタマイズ・モードが、より選択肢が増え登場。バックボーンはムエタイのマッチョボディ、すだれ前髪に全身タトゥー、ヒョウ柄コスチュームにレゲエで入場と、何から何まで自分好みのK―１ファイターを作り出せるぞ！　もちろん狙うはK―１王者！

6 東京ドーム他好きな会場を選択!

東京ドームや、さいたまスーパーアリーナといった、お馴染みの会場はもちろん、ワールドワイドに開催されているK―１ＷＯＲＬＤ ＧＰらしく、ラスベガスなど海外会場でプレイできるのも、このゲームのウリの一つだ！



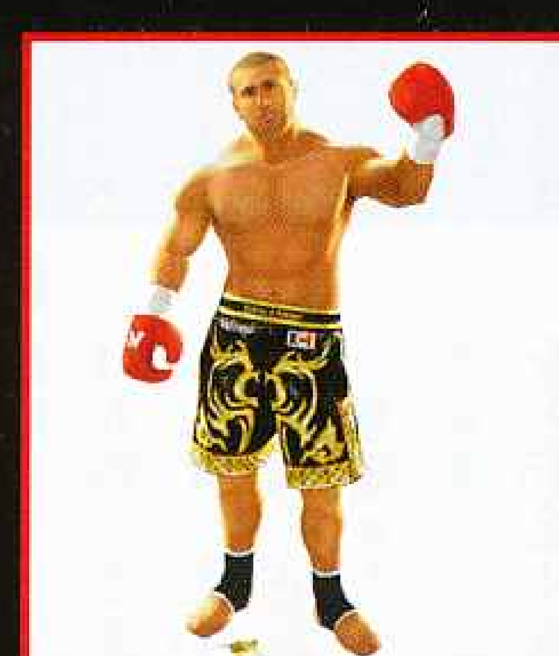
K-1のスーパースターズ

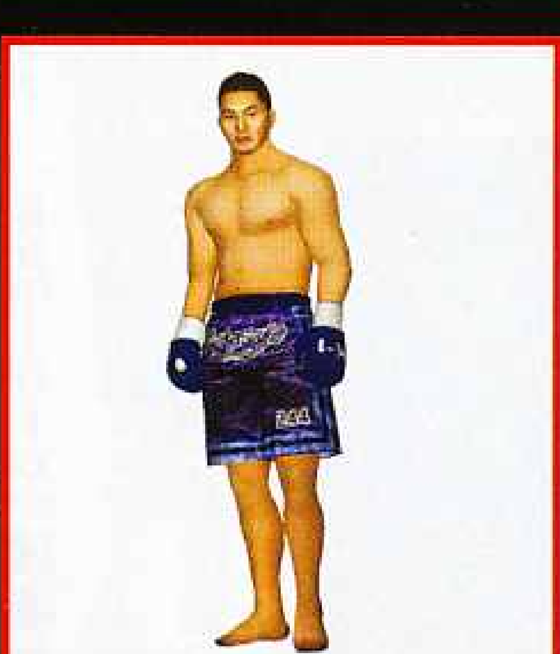

天田ヒロミ

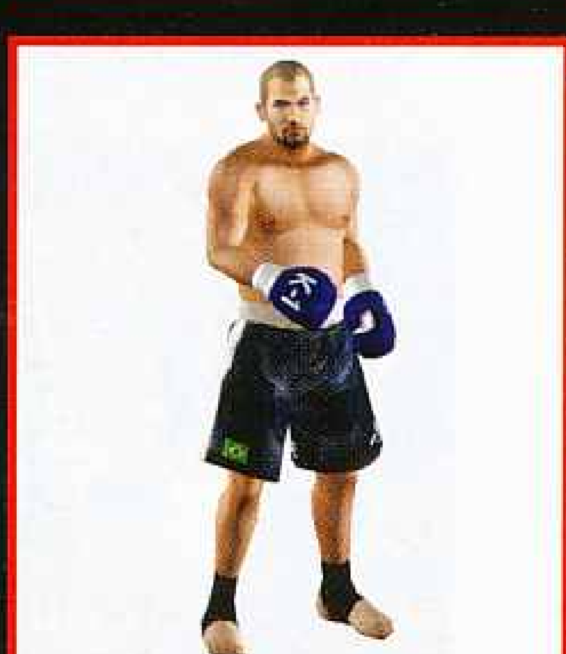

シリル・アビディ

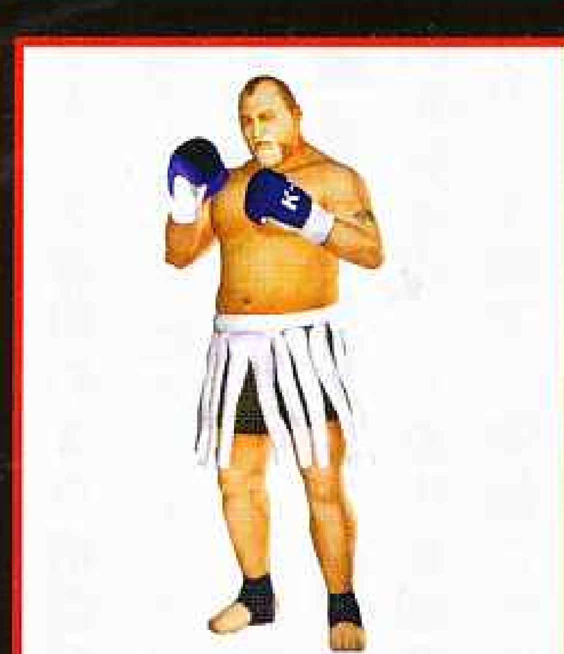

角田信朗

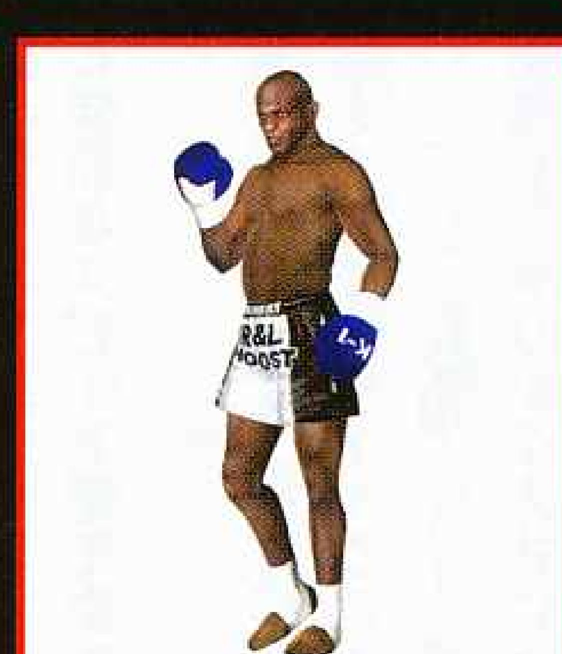

マイティー・モー

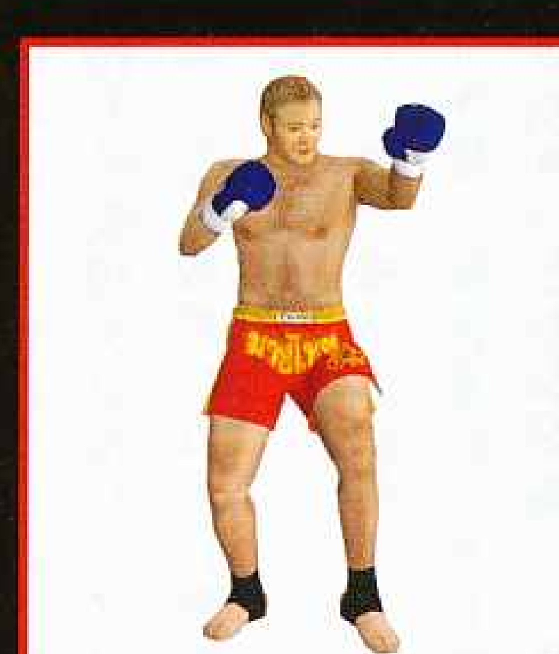

ジュロム・レ・バンナ


中迫剛


グラウベ・フェイトーザ


フランソワ・ボタ


アーネスト・ホースト


アレクセイ・イグナショフ

【お問い合わせ】株式会社ディースリー・パブリッシャー　[HP] http://www.d3p.co.jp
【カスタマーサポート】[東京] TEL.03-5428-3458　[名古屋] TEL.052-794-0638

GA-ROU-DEN

餓狼伝 Breakblow

衝撃！格闘マンガの最高峰、あの

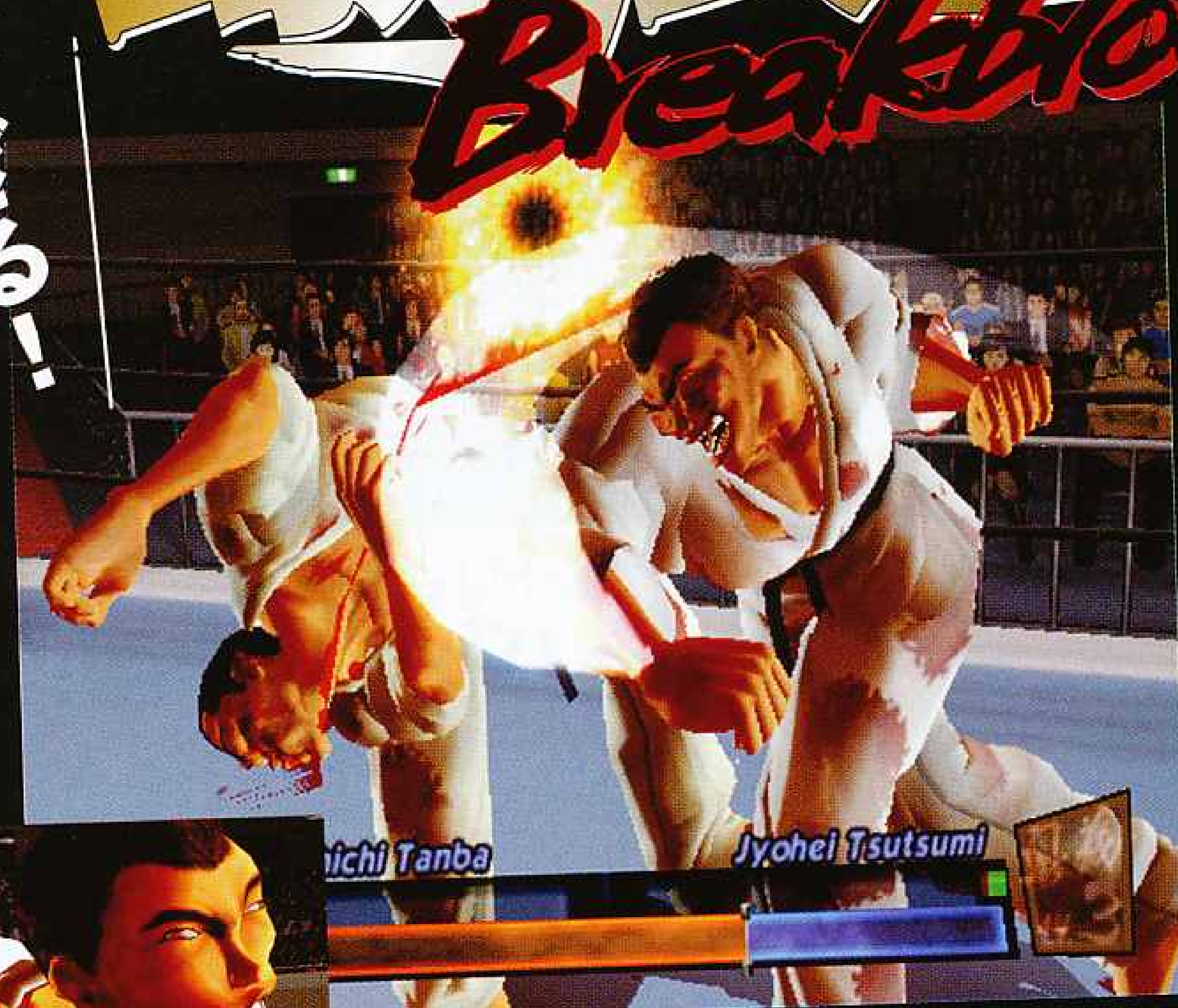
『餓狼伝』が完全ゲーム化！

原作者・夢枕獏氏と板垣恵介氏も太鼓判！の完成度

過激すぎる！リアルすぎる！

総勢25名のメインキャラクター＋αが総登場！『餓狼伝』の世界を忠実に再現！







原作の激闘も記憶に新しい主人公、丹羽文七と“北辰館の小さな巨人”堤城平の壮絶な試合、顔面を腫らすド突き合いも完全に再現！究極の奥義を炸裂させて、試合を制するのはどっちだ！



丹羽文七をはじめ、グレート巽、松尾象山から梶原年雄まで。総勢25名のメインキャラクターが準備され、ストーリーモードを進める使用キャラが増えてゆくシステムだ。



ゲームは全4種類。原作のストーリーに沿った「餓狼列伝モード」。二人で遊べる「対戦モード」。地獄の百人抜きの「百戦錬磨モード」。そして練習に集中できる「鍛錬モード」だ。

丹羽文七

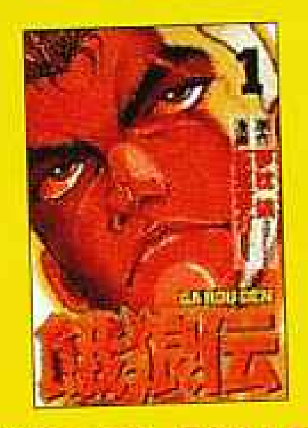
言わずと知れた『餓狼伝』の主役であり、闘いの輪の中心的人物。強さを激しく追求し、強くなるために放浪を続ける。時や場所を選ばず、誰にでも闘い、喧嘩を挑むノラ犬ファイター。

グレート巽

「闘いの燃えるカリスマ」としてプロレス界に君臨する大スター。華やかなスポットライトを浴びつつ、格闘家としても数多くの修羅場をくぐり抜けている。ＦＡＷの看板選手件、社長。

『餓狼伝』とは何か？

85年、自身も格闘技ファンである、夢枕獏氏による長編ハードアクション巨編として、『小説推理』で連載開始。本格派の格闘小説として話題を集め、谷口ジロー氏による漫画化、実写映画化も実現。96年から格闘マンガのカリスマ、板垣恵介氏の手による漫画化が実現。原作の魅力を増幅させた板垣版『餓狼伝』が加わり、さらに世界観は厚みを増し、熱狂的ファンを生み出した現在進行形の人気格闘シリーズ。



『餓狼伝. GA-ROU-DEN』
原作:夢枕獏、漫画:板垣恵介
(講談社、アッパーズKC)

最強とは何か？『kamipro』読者なら、誰もが夢見る究極のテーマを追求する、傑作格闘コミック『餓狼伝』の待望のゲーム化が実現！

『餓狼伝』とは“全身格闘小説家”こと夢枕獏氏のハードアクションン小説を、格闘マンガの第一人者、板垣恵介氏が渾身のタッチで漫画化、現在も『イブニング』（講談社）にて大人気連載中だ。こうして小説から漫画へと進化した『餓狼伝』は、今度はプレイステーション2専用の3D格闘ゲーム、『餓狼伝 ブレイクブロウ』というネクストステージに到達した。

「殴られながら蹴る、蹴られながら殴る」という、格闘技の本質を描いた原作を細部までなぞった、リアルな描写。激闘につれて変形してゆく顔面が、飛び散る血しぶきが、狂気が宿った残酷な結末が、鮮烈なグラフィック表現と強烈なスピード感で次々と展開する！

今回は、板垣恵介氏の特徴あるタッチ、肉体の厚みや質感を3Dグラフィックによって忠実に再現。とくに「板垣シェーダ」という新開発の特殊レンダリング方式によって、「板垣漫画がそのまま動く」ような醍醐味がたっぷり味わえる。骨がきしみ、肉体が咆える本格指向の表現を目指し、スタッフがこだわりぬいた完成度には原作者の夢枕獏、板垣恵介氏も太鼓判！

登場キャラクターは、主人公の丹波文七を筆頭に、グレート巽、松尾象山、姫川勉など25名＋αの人気キャラが総登場！また空手、プロレス、キックボクシング、柔



様々なバトルステージで、
究極の闘いが展開する！



喧嘩空手伝承の中枢部とも言える「北辰館」の空手道場もゲームに登場。姫川勉と松尾象山という夢の師弟対決ももちろん実現可能だ！



原作にも登場した堤城平と街のチンピラたちとの喧嘩シーンも忠実に再現！　ある意味、『餓狼伝』を象徴する壮絶な喧嘩場面であり、バトルモードでも闘える。



グレート巽自身が、己の後継者として認める唯一の男、鞍馬彦一ももちろん参戦。控え室でキメるジャイアントスイングはロッカーに激突！　相手の頭部に致命的ダメージだ。



闘い、そして喧嘩には場所を選ばないのが、『餓狼伝』ワールドの基本マナー。グレート巽と伝説の男、久我重明の異次元対決が、桜が舞う木の下でまさかの実現！



松尾象山

実戦を想定した喧嘩空手を伝える「北辰館」のリビングレジェンド的存在。50歳を超える肉体にも関わらず、丹羽文七の登場に刺激を受け、現役復帰。絶対的な強さを蘇らせた。

姫川勉

20代半ばの美青年的ルックスながら、松尾象山も認める「北辰館」の非常用殺戮兵器。象山の知的なブレーンとして、行動をともにする。

他の格闘ゲームとは、ここが違う！
一発逆転の「奥義」とは何なのか？



体力を示す「肉体ゲージ」





一撃必殺！
「奥義」アイコン。

『餓狼伝 ブレイクブロウ』が他のゲームと違う点、それは体力を示す「**肉体ゲージ**」、そして精神力を示す「**精神ゲージ**」と二つのゲージがある点。通常は体力を奪えば勝利が格闘ゲームの常道だが、『餓狼伝』は「心が折れなければ負けない」とばかりに、逆に肉体的に追い込まれた時こそ、逆転の必殺技＝「**奥義**」が使用できるのだ。



精神力を示す「精神ゲージ」



絶賛発売中!

ジャケットは板垣恵介氏の書き下ろしイラスト！『餓狼伝』ワールドにハマりまくれる究極のドつき合い格闘ゲームを今すぐ、体感しよう！

プレイステーション2用ゲームソフト
(株)エンターテインメント・ソフトウェア・パブリッシング
価格：7,140円(税込)

た空手、プロレス、キックボクシング、柔術、中国拳法まで多種多様な格闘技が13種類、技の種類は1000種の豊富なバリエーション。そして、空手道場やプロレス会場、野外や街頭など原作のストーリーラインを踏まえた「常在戦場」なバトルステージもチョイス可能だ。

さらに肉体と精神を削り合う闘いを表現するため、「心が折れなければ負けない」という原作の核のメッセージを盛り込んだゲームシステムを採用。追い込まれたファイターにこそ、最後に一発逆転の必殺技＝「奥義」のチャンスがあるため、最後の最後まで緊張感が途切れない、まさに真剣勝負の決闘が体感できるゲームに仕上がっている。

『餓狼伝 ブレイクブロウ』は痛みや血肉をともなった「格闘ゲームの中の格闘ゲーム」として、現在、絶賛発売中！　大晦日の格闘技大戦争を前に、この冬、お茶の間でダイナマイト級の興奮が味わえる、もうひとつの過激な男祭りに君も参戦しよう！

【お問い合わせ】株式会社エンターテイメント・ソフトウェア・パブリッシング　[HP] http://www.esp-web.co.jp/
【カスタマーサポート】[東京] TEL.03-5428-3458　[名古屋] TEL.052-794-0638

kamipro 紙のプロレス
No.93
2005年12月3日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斎藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎 (ホテルアバンティ逗留中のため非番)

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ
上杉ル・マン24h

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子HG

編集次長リローデッドPart.2
松林 貴

デザインカントク
出田さん(TwoThree)

デザインキャプテン
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき(以上、TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
黒田史夫
平工幸雄
森 騰博
山口比佐夫

お勘定&衣料部
林"GOKUTSUMA"一枝

体調
プリン体・入江(Two Three)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石"悪石"芳司

編集庶務兼トップブリーダー
高木由美子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00~17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

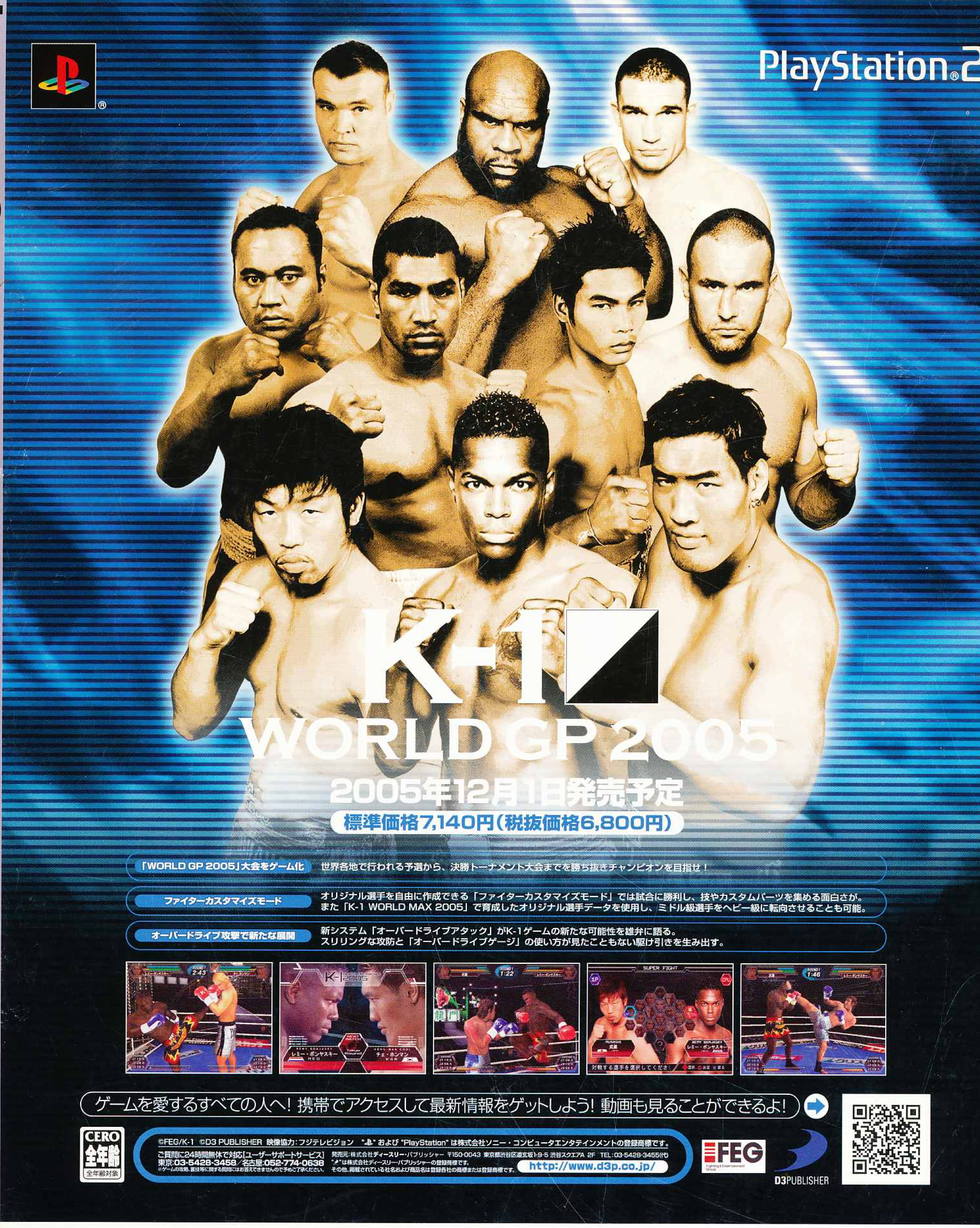



渾身の右!!
TCGに
トレーディングカードゲーム
爆裂放送中!
ディメンション・ゼロの
情報もわかる最強のラジオ番組
「Dimension 0 PRESENTS
五味隆典 天下無双」
放送日／毎週土曜日PM9:00～9:30
放送局／ニッポン放送（AM1242）
パーソナリティー
PRIDEファイター
五味 隆典
知的総合格闘技「Dimension-0」、遂に始動!!
トレーディングカードゲーム
ディメンション・ゼロ
Dimension 0
-King of card game-
www.dimension-zero.com
ディメンション・ゼロ
ファースト・センチュリー ベーシックパック
11.26[SAT]ON SALE
カード種類数:全200種 1パック10枚入 税込価格330円(税抜314円)
構築済デッキ同時発売!!
ストラクチャーデッキ～フレイム・アンド・シャドー～
BOX内容：カード40枚入、ルールブック、ゲームマット 税込価格1.300円(税抜1,238円)
ゲームデザイン／中村聡(遊宝洞) 協力／ニッポン放送、ドリームステージエンターテインメント、ゲームギャザ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント 発売元/株式会社ブロッコリー
ユーザーサポート係 TEL:03-5946-2812【月～金（祝日を除く）10:00～12:00／13:00～17:00】mail:support@dimension-zero.com ©BROCCOLI

Kamipro 2005 93

ついに大ブレーク、フォー！
ハッスル・マニア総力特集！

2005年12月3日発行
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社



定価：本体838円＋税
雑誌61953-70 Ⓗ2006.3
Printed in Japan 図書印刷

enterbrain

9784757725348
ISBN4-7577-2534-5
C9476 ¥838E
1929476008381